

久 下 前 遺 跡 VI

(C2・C3・C4・F2・F3地点)

— 本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10 —

2018

本 庄 市 教 育 委 員 会

序

埼玉県の北部に位置する本庄市は、県内で最古級の古墳として有名な鷲山古墳をはじめ、原始・古代の注目される遺跡が数多く所在しています。また、中世では鎌倉幕府の成立期に活躍した武蔵武士児玉党の本拠地であったことや、戦国時代の先駆けとなった享徳の乱で関東管領上杉氏側の重要拠点であった五十子陣が築かれた場所として知られています。そして、近世の江戸時代では和学講談所の設立や『群書類従』の編さんなどの偉大な業績を残した盲目の国学者埴保己一の生地としても、広く知られているところです。

本書は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴って発掘調査された久下前遺跡の調査の成果の一部を記録した報告書です。久下前遺跡は、北側に隣接する久下東遺跡とともに、市内に所在する遺跡の中では比較的広い範囲が調査されており、古墳時代から平安時代を中心とした当地域を代表する大規模な古代の集落跡の一つであったことが明らかになっています。

今回報告する久下前遺跡のC2・C3・C4・F2・F3地点の5地点では、古墳時代前期から平安時代前期までの120軒以上の住居跡が幾重にも重なった状態で検出され、これらの地点が集落の中でも中心的な居住場所であったことがうかがえます。また、溝によって区画された広い敷地をもつ中世以降の屋敷跡も検出されており、本地点が古代以降も人々の居住区域として長く利用されていたことが判明しています。

これらは、規模の大きな集落遺跡の一部ではありますが、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の一つになるものと思われます。

本書が、学術的な資料としてはもとより、郷土の歴史や遺跡を理解する一助として、多くの皆様に広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、様々なご協力やご教示を賜りました関係諸機関並びに地元関係者の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

平成30年2月

本庄市教育委員会
教育長 勝山 勉

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市北堀の旧1954番地(C 2地点・F 2地点)、旧1951・1952番地(C 3地点)、旧1969・1970番地(C 4地点)、旧1784番地(F 3地点)、(現在の早稲田の杜2丁目～4丁目)に所在した久下前遺跡のC 2・C 3・C 4 E・F 2・F 3地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う事前の記録保存を目的として、C 2・C 3地点が平成21年度に、C 4・F 2・F 3地点が平成22年度に調査を実施した。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が実施し、各地点の調査はC 2・C 3地点を松本完が、C 4・F 2・F 3地点を恋河内昭彦が担当した。また、各地点の調査には高林真人(株式会社測研)が調査員として現地で補佐した。
4. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1である。
5. 出土遺物の実測・トレース・写真撮影は、C 3地点出土遺物の一部を、有限会社毛野考古学研究所に委託し、その他の出土遺物の実測については恋河内が行った。
6. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。

A—法量(単位はcm、g、カッコは推定)、B—成形、C—整形・調整、D—胎土、材質、E—色調、F—残存度、G—備考、H—出土層位・位置
7. 本書に掲載した写真は、遺構を各調査担当者が、遺物の委託分は有限会社毛野考古学研究所が撮影した。なお、本書の写真図版に掲載した遺物写真は、縮尺不同である。
8. 遺構図のデジタルトレースとレイアウト編集は、株式会社測研に委託した。
9. 本書の執筆・編集は、第七章を株式会社パレオ・ラボが、それ以外を恋河内が行った。
12. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。

有山 経世、浅間 陽、池田 匡彦、伊藤 順一、井上 裕一、大谷 徹、大塚 昌彦、
小此木真理、金子 彰男、栗島 義明、車崎 正彦、昆 彭生、坂本 和俊、鈴木 徳雄、
関 美智子、高橋 清文、高林 真人、武井 燹太、中沢 良一、中村 岳彦、日沖 剛史、
丸山 修、丸山 陽一、
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、
早稲田大学考古資料館、

目 次

序

例言

第Ⅰ章	発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章	遺跡の立地と歴史的環境	5
第Ⅲ章	C 2地点の調査	7
第1節	C 2地点の概要	7
第2節	検出された遺構と遺物	8
1.	竪穴式住居跡	8
2.	井戸跡	12
3.	土坑	13
4.	C 2地点調査区内出土遺物	17
第Ⅳ章	C 3地点の調査	21
第1節	C 3地点の概要	21
第2節	検出された遺構と遺物	28
1.	竪穴式住居跡	28
2.	掘立柱建物跡	265
3.	井戸跡	282
4.	土坑	293
5.	柵列跡	354
6.	溝跡	356
7.	C 3地点調査区内出土遺物	365
第Ⅴ章	C 4地点の調査	368
第1節	C 4地点の概要	368
第2節	検出された遺構と遺物	368
1.	土坑	368
2.	溝跡	374
3.	井戸跡	385
第Ⅵ章	F 2・F 3地点の調査	406
第1節	F 2・F 3地点の概要	406
第2節	検出された遺構と遺物	408

1. 井戸跡	408
2. 土坑	409
3. 溝跡	411

第VII章 自然科学分析 414

第1節 久下前遺跡(C3・C4地点)から出土した哺乳類	414
第2節 久下前遺跡(C3地点)出土炭化材の樹種同定	416
第3節 久下前遺跡(C4地点)出土の大型植物遺体	418
第4節 古墳時代前期の非在地系甕・壺の胎土材料	423
第5節 C4地点の河川跡から出土した木材の ウィグルマッチング年代	434
第6節 久下前遺跡C4地点の花粉分析	441

第VIII章 女堀川流域の古墳時代前期遺跡の様相 一まとめにかえて一 447

第1節 女堀川流域の自然環境	447
第2節 弥生時代後期遺跡の様相	447
第3節 古墳時代前期遺跡の様相	451

<参考文献> 469

写真図版

抄 録

<挿 図 目 次>

第1図 遺跡の位置	XXII	第12図 第47号住居跡	12
第2図 北堀久下塚北・久下東・久下前・北堀新田・北堀新田前遺跡調査地点配置図	2	第13図 第9号井戸跡	13
第3図 久下前遺跡本報告地点位置図	3	第14図 第9号井戸跡出土遺物	13
第4図 周辺の主要遺跡	4	第15図 第C2地点土坑出土遺物	14
第5図 久下前遺跡C・F地点全体図	6	第16図 土坑	15
第6図 C2地点調査区全体図	7	第17図 C2地点調査区内「表土一括」出土遺物(1)	18
第7図 第43・44号住居跡	8	第18図 C2地点調査区内「表土一括」出土遺物(2)	19
第8図 第44号住居跡出土遺物	9	第19図 C3地点全体図	22
第9図 第45号住居跡	10	第20図 C3地点遺構配置図Ⅰ(住居・掘立柱建物・井戸・溝・柵列)	24
第10図 第46号住居跡	11	第21図 C3地点遺構配置図Ⅱ(土坑)	25
第11図 第46号住居跡出土遺物	11		

第22図	C 3 地点時期別遺構分布図 (1) ……	26	第59図	第69号住居跡出土遺物 ……	68
第23図	C 3 地点時期別遺構分布図 (2) ……	27	第60図	第70号住居跡出土遺物 ……	68
第24図	第48号住居跡 ……	28	第61図	第70・71号住居跡 ……	70
第25図	第48号住居跡出土遺物 ……	29	第62図	第71号住居跡出土遺物 ……	71
第26図	第49号住居跡 ……	30	第63図	第72号住居跡 ……	72
第27図	第49号住居跡出土遺物 ……	32	第64図	第72号住居跡出土遺物 ……	72
第28図	第50号住居跡 ……	34	第65図	第73号住居跡出土遺物 ……	73
第29図	第50号住居跡出土遺物 ……	35	第66図	第73・74号住居跡 ……	74
第30図	第51号住居跡 ……	36	第67図	第74号住居跡出土遺物 ……	75
第31図	第51号住居跡出土遺物 ……	37	第68図	第75号住居跡 ……	77
第32図	第52号住居跡 ……	38	第69図	第75号住居跡出土遺物 ……	78
第33図	第53号住居跡 ……	39	第70図	第76号住居跡 ……	79
第34図	第53号住居跡カマド・貯蔵穴 ……	40	第71図	第76号住居跡出土遺物 (1) ……	81
第35図	第53号住居跡出土遺物 ……	41	第72図	第76号住居跡出土遺物 (2) ……	82
第36図	第54号住居跡 ……	42	第73図	第76号住居跡出土遺物 (3) ……	83
第37図	第54号住居跡出土遺物 ……	43	第74図	第77号住居跡出土遺物 ……	85
第38図	第57号住居跡出土遺物 ……	45	第75図	第77号住居跡 ……	86
第39図	第57・61号住居跡 ……	46	第76図	第78号住居跡 ……	87
第40図	第58・59号住居跡 ……	48	第77図	第78号住居跡出土遺物 ……	89
第41図	第59号住居跡出土遺物 ……	49	第78図	第79号住居跡出土遺物 ……	90
第42図	第60号住居跡 ……	50	第79図	第80号住居跡 ……	91
第43図	第60号住居跡出土遺物 ……	51	第80図	第80号住居跡出土遺物 ……	92
第44図	第61号住居跡出土遺物 ……	52	第81図	第81・82号住居跡 ……	93
第45図	第62・65号住居跡 ……	53	第82図	第81号住居跡出土遺物 ……	93
第46図	第62号住居跡カマド ……	54	第83図	第82号住居跡出土遺物 ……	95
第47図	第62号住居跡出土遺物 ……	55	第84図	第83号住居跡 ……	96
第48図	第63号住居跡 ……	57	第85図	第83号住居跡出土遺物 (1) ……	97
第49図	第63号住居跡出土遺物 ……	58	第86図	第83号住居跡出土遺物 (2) ……	98
第50図	第64号住居跡 ……	59	第87図	第84号住居跡出土遺物 ……	100
第51図	第64号住居跡出土遺物 ……	59	第88図	第84・85号住居跡 ……	102
第52図	第65号住居跡出土遺物 ……	60	第89図	第85号住居跡跡好 ……	103
第53図	第66号住居跡出土遺物 ……	61	第90図	第85号住居跡出土遺物 (1) ……	104
第54図	第66・67号住居跡 ……	62	第91図	第85号住居跡出土遺物 (2) ……	105
第55図	第67号住居跡出土遺物 ……	63	第92図	第86号住居跡 ……	107
第56図	第68・79号住居跡 ……	64	第93図	第86号住居跡出土遺物 ……	109
第57図	第68号住居跡出土遺物 ……	66	第94図	第88号住居跡 ……	111
第58図	第69号住居跡 ……	67	第95図	第89号住居跡 ……	111

第96図	第89号住居跡出土遺物	112	第133図	第109号住居跡	150
第97図	第90号住居跡	113	第134図	第109号住居跡出土遺物(1)	152
第98図	第90号住居跡出土遺物	114	第135図	第109号住居跡出土遺物(2)	153
第99図	第91号住居跡	115	第136図	第110号住居跡	154
第100図	第91号住居跡出土遺物	115	第137図	第110号住居跡出土遺物	154
第101図	第92号住居跡出土遺物	116	第138図	第111号住居跡	155
第102図	第93号住居跡出土遺物	117	第139図	第111号住居跡出土遺物	156
第103図	第92・93号住居跡	118	第140図	第112号住居跡	156
第104図	第94号住居跡	120	第141図	第112号住居跡出土遺物	156
第105図	第94号住居跡出土遺物(1)	121	第142図	第113・114号住居跡	157
第106図	第94号住居跡出土遺物(2)	122	第143図	第113号住居跡出土遺物	158
第107図	第95・98号住居跡	125	第144図	第114号住居跡出土遺物	159
第108図	第95号住居跡出土遺物	126	第145図	第115号住居跡出土遺物	159
第109図	第96号住居跡	127	第146図	第116・122号住居跡	160
第110図	第96号住居跡出土遺物	128	第147図	第116号住居跡出土遺物	161
第111図	第97・99号住居跡	129	第148図	第115・117・118号住居跡	163
第112図	第97号住居跡出土遺物	130	第149図	第118号住居跡カマド	164
第113図	第98号住居跡出土遺物	130	第150図	第118号住居跡出土遺物(1)	165
第114図	第99号住居跡出土遺物	131	第151図	第118号住居跡出土遺物(2)	166
第115図	第100号住居跡	133	第152図	第119号住居跡出土遺物	168
第116図	第100号住居跡カマド	134	第153図	第87・119号住居跡	169
第117図	第100号住居跡出土遺物(1)	135	第154図	第119号住居跡カマド	170
第118図	第100号住居跡出土遺物(2)	136	第155図	第120号住居跡出土遺物	171
第119図	第101号住居跡	138	第156図	第120号住居跡	172
第120図	第101号住居跡出土遺物	138	第157図	第121号住居跡	174
第121図	第102号住居跡	139	第158図	第121号住居跡出土遺物	175
第122図	第102号住居跡出土遺物	139	第159図	第122号住居跡出土遺物	176
第123図	第103・104号住居跡	140	第160図	第123・124号住居跡	177
第124図	第103号住居跡出土遺物	141	第161図	第123号住居跡出土遺物	178
第125図	第104号住居跡出土遺物	142	第162図	第125・126号住居跡	180
第126図	第105号住居跡	143	第163図	第126号住居跡出土遺物	181
第127図	第105号住居跡出土遺物	144	第164図	第127号住居跡	182
第128図	第106号住居跡出土遺物	145	第165図	第127号住居跡出土遺物	183
第129図	第106号住居跡	146	第166図	第128号住居跡	184
第130図	第107号住居跡出土遺物	147	第167図	第128号住居跡出土遺物	185
第131図	第107・108号住居跡	148	第168図	第129号住居跡	186
第132図	第108号住居跡出土遺物	149	第169図	第129号住居跡出土遺物	187

第170図	第130号住居跡	188	第207図	第152号住居跡出土遺物	227
第171図	第130号住居跡出土遺物	189	第208図	第150・151・152号住居跡	228
第172図	第131号住居跡出土遺物	190	第209図	第153号住居跡	230
第173図	第132号住居跡出土遺物	190	第210図	第153号住居跡出土遺物(1)	232
第174図	第131・132・134号住居跡	191	第211図	第153号住居跡出土遺物(2)	233
第175図	第133号住居跡	193	第212図	第154号住居跡	233
第176図	第133号住居跡出土遺物	194	第213図	第154号住居跡出土遺物	233
第177図	第134号住居跡出土遺物	195	第214図	第155号住居跡出土遺物	234
第178図	第135・136号住居跡	196	第215図	第157号住居跡出土遺物	235
第179図	第136号住居跡出土遺物(1)	199	第216図	第155・158・162号住居跡	236
第180図	第136号住居跡出土遺物(2)	200	第217図	第158号住居跡出土遺物	237
第181図	第137号住居跡	201	第218図	第156・157・159号住居跡	239
第182図	第137号住居跡カマド	202	第219図	第157・159号住居跡カマド	240
第183図	第137号住居跡出土遺物	203	第220図	第159号住居跡出土遺物	241
第184図	第138号住居跡	205	第221図	第160号住居跡出土遺物	242
第185図	第138号住居跡出土遺物	205	第222図	第160・161号住居跡	243
第186図	第139号住居跡	207	第223図	第161号住居跡出土遺物(1)	245
第187図	第139号住居跡出土遺物	208	第224図	第161号住居跡出土遺物(2)	246
第188図	第140・141号住居跡	209	第225図	第162号住居跡出土遺物	248
第189図	第140号住居跡出土遺物	210	第226図	第163号住居跡	249
第190図	第141号住居跡出土遺物	211	第227図	第163号住居跡カマド	250
第191図	第142号住居跡	212	第228図	第163号住居跡出土遺物(1)	252
第192図	第143号住居跡	212	第229図	第163号住居跡出土遺物(2)	253
第193図	第144号住居跡出土遺物	213	第230図	第164・167号住居跡	254
第194図	第144・145号住居跡	215	第231図	第164号住居跡出土遺物	255
第195図	第144・145号住居跡カマド	216	第232図	第165号住居跡	256
第196図	第145号住居跡出土遺物	218	第233図	第165号住居跡出土遺物	257
第197図	第146号住居跡出土遺物	219	第234図	第166号住居跡	257
第198図	第146号住居跡	220	第235図	第166号住居跡出土遺物	258
第199図	第147号住居跡	221	第236図	第167号住居跡出土遺物	260
第200図	第147号住居跡出土遺物	222	第237図	第168号住居跡	261
第201図	第148号住居跡	223	第238図	第168号住居跡出土遺物	261
第202図	第148号住居跡出土遺物	223	第239図	第169号住居跡	262
第203図	第149号住居跡	224	第240図	第169号住居跡出土遺物	263
第204図	第149号住居跡出土遺物	225	第241図	第170号住居跡	264
第205図	第150号住居跡出土遺物	226	第242図	第170号住居跡出土遺物	265
第206図	第151号住居跡出土遺物	226	第243図	第2号掘立柱建物跡	265

第244图	第3号掘立柱建物跡	266	第281图	土坑(12)	312
第245图	第4号掘立柱建物跡	267	第282图	土坑(13)	313
第246图	第5号掘立柱建物跡	268	第283图	土坑(14)	314
第247图	第6号掘立柱建物跡	269	第284图	土坑(15)	315
第248图	第7号掘立柱建物跡	270	第285图	土坑(16)	316
第249图	第8号掘立柱建物跡	271	第286图	土坑(17)	317
第250图	第8号掘立柱建物跡出土遺物	272	第287图	土坑出土遺物(1)	344
第251图	第9号掘立柱建物跡	273	第288图	土坑出土遺物(2)	345
第252图	第9号掘立柱建物跡出土遺物	274	第289图	土坑出土遺物(3)	346
第253图	第10号掘立柱建物跡跡	275	第290图	土坑出土遺物(4)	347
第254图	第10号掘立柱建物跡出土遺物	275	第291图	土坑出土遺物(5)	348
第255图	第11号掘立柱建物跡	276	第292图	土坑出土遺物(6)	349
第256图	第11号掘立柱建物跡出土遺物	277	第293图	土坑出土遺物(7)	350
第257图	第12号掘立柱建物跡	278	第294图	第1号柵列跡	355
第258图	第13号掘立柱建物跡	279	第295图	第2号柵列跡	356
第259图	第14号掘立柱建物跡	280	第296图	第7号溝跡	356
第260图	第15号掘立柱建物跡	282	第297图	第13号溝跡出土遺物	357
第261图	第11号井戸跡出土遺物	283	第298图	第13·16号溝跡	358
第262图	第12号井戸跡出土遺物	284	第299图	第14号溝跡	360
第263图	井戸跡(1)	286	第300图	第14号溝跡出土遺物	361
第264图	第13号井戸跡出土遺物	288	第301图	第15号溝跡	362
第265图	第14号井戸跡出土遺物	289	第302图	第15号溝跡出土遺物	362
第266图	第15号井戸跡出土遺物	290	第303图	第16号溝跡出土遺物	363
第267图	第16号井戸跡出土遺物	290	第304图	第17·18·19号溝跡	364
第268图	井戸跡(2)	291	第305图	C3地点調査区内出土遺物	366
第269图	第17号井戸跡出土遺物	292	第306图	C4地点全体图	369
第270图	土坑(1)	301	第307图	土坑	370
第271图	土坑(2)	302	第308图	C4地点土坑出土遺物(1)	372
第272图	土坑(3)	303	第309图	C4地点土坑出土遺物(2)	373
第273图	土坑(4)	304	第310图	第4号溝跡	375
第274图	土坑(5)	305	第311图	第4号溝跡土層断面	376
第275图	土坑(6)	306	第312图	第4号溝跡出土遺物(1)	377
第276图	土坑(7)	307	第313图	第4号溝跡出土遺物(2)	378
第277图	土坑(8)	308	第314图	第4号溝跡出土遺物(3)	379
第278图	土坑(9)	309	第315图	第4号溝跡出土遺物(4)	380
第279图	土坑(10)	310	第316图	第4号溝跡出土遺物(5)	381
第280图	土坑(11)	311	第317图	第6号溝跡	385

第318図	河川跡	386	第344図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (バレス文様系壺)	453
第319図	河川跡断面	387	第345図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (バレス文様系壺)	454
第320図	河川跡出土遺物(1)	390	第346図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (畿内系)	454
第321図	河川跡出土遺物(2)	391	第347図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (大塚式系大形壺)	455
第322図	河川跡出土遺物(3)	392	第348図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (北陸・山陰系)	455
第323図	河川跡出土遺物(4)	393	第349図	女堀川流域の特徴的な外来系土器 (南関東系)	455
第324図	河川跡出土遺物(5)	394	第350図	漆の可能性のある棒状塊	457
第325図	河川跡出土遺物(6)	395	第351図	児玉地方の前方後方形の周溝墓・ 古墳と出土遺物(1)	460
第326図	河川跡出土遺物(7)	396	第352図	児玉地方の前方後方形の周溝墓・ 古墳と出土遺物(2)	461
第327図	河川跡出土遺物(8)	397	第353図	女堀川流域の樽式系土器と伴出 土器	463
第328図	河川跡出土遺物(9)	398	第354図	女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と 伴出土器(1)	463
第329図	久下前遺跡F地点全体図	406	第355図	女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と 伴出土器(2)	464
第330図	F2・F3地点全体図	407	第356図	女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と 伴出土器(3)	465
第331図	第25号井戸跡	408	第357図	女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と 伴出土器(4)	466
第332図	第25号井戸跡出土遺物	409			
第333図	土坑	410			
第334図	土坑出土遺物	410			
第335図	第39・40号溝跡	412			
第336図	胎土分析試料	424			
第337図	久下前遺跡および周辺の地質	430			
第338図	駿河湾周辺の地質	431			
第339図	各流木のウィグルマッチング図	438			
第340図	各流木のマルチプロット図	439			
第341図	久下前遺跡(C4地点)における 花粉ダイアグラム	443			
第342図	周辺の既発掘調査遺跡	446			
第343図	女堀川流域の古墳時代前期の 遺跡	448・449			

<表 目 次>

第1表	第44号住居跡出土遺物観察表	9	第7表	第48号住居跡出土遺物観察表	29
第2表	第46号住居跡出土遺物観察表	11	第8表	第49号住居跡出土遺物観察表	31
第3表	第9号井戸跡出土遺物観察表	13	第9表	第50号住居跡出土遺物観察表	33
第4表	C2地点土坑一覧表	13	第10表	第51号住居跡出土遺物観察表	37
第5表	C2地点土坑出土遺物観察表	14	第11表	第53号住居跡出土遺物観察表	41
第6表	C2地点調査区内出土遺物観察表	17	第12表	第54号住居跡出土遺物観察表	44

第13表	第57号住居跡出土遺物觀察表	46	第50表	第97号住居跡出土遺物觀察表	130
第14表	第59号住居跡出土遺物觀察表	49	第51表	第98号住居跡出土遺物觀察表	131
第15表	第60号住居跡出土遺物觀察表	50	第52表	第99号住居跡出土遺物觀察表	131
第16表	第61号住居跡出土遺物觀察表	52	第53表	第100号住居跡出土遺物觀察表	132
第17表	第62号住居跡出土遺物觀察表	56	第54表	第101号住居跡出土遺物觀察表	138
第18表	第63号住居跡出土遺物觀察表	58	第55表	第102号住居跡出土遺物觀察表	139
第19表	第64号住居跡出土遺物觀察表	59	第56表	第103号住居跡出土遺物觀察表	140
第20表	第65号住居跡出土遺物觀察表	60	第57表	第104号住居跡出土遺物觀察表	142
第21表	第66号住居跡出土遺物觀察表	61	第58表	第105号住居跡出土遺物觀察表	144
第22表	第67号住居跡出土遺物觀察表	63	第59表	第106号住居跡出土遺物觀察表	146
第23表	第68号住居跡出土遺物觀察表	65	第60表	第107号住居跡出土遺物觀察表	147
第24表	第69号住居跡出土遺物觀察表	68	第61表	第108号住居跡出土遺物觀察表	149
第25表	第70号住居跡出土遺物觀察表	69	第62表	第109号住居跡出土遺物觀察表	151
第26表	第71号住居跡出土遺物觀察表	71	第63表	第110号住居跡出土遺物觀察表	154
第27表	第72号住居跡出土遺物觀察表	72	第64表	第111号住居跡出土遺物觀察表	155
第28表	第73号住居跡出土遺物觀察表	73	第65表	第112号住居跡出土遺物觀察表	156
第29表	第74号住居跡出土遺物觀察表	75	第66表	第113号住居跡出土遺物觀察表	158
第30表	第75号住居跡出土遺物觀察表	76	第67表	第114号住居跡出土遺物觀察表	159
第31表	第76号住居跡出土遺物觀察表	83	第68表	第115号住居跡出土遺物觀察表	159
第32表	第77号住居跡出土遺物觀察表	85	第69表	第116号住居跡出土遺物觀察表	161
第33表	第78号住居跡出土遺物觀察表	88	第70表	第118号住居跡出土遺物觀察表	162
第34表	第79号住居跡出土遺物觀察表	90	第71表	第119号住居跡出土遺物觀察表	168
第35表	第80号住居跡出土遺物觀察表	92	第72表	第120号住居跡出土遺物觀察表	173
第36表	第81号住居跡出土遺物觀察表	94	第73表	第121号住居跡出土遺物觀察表	175
第37表	第82号住居跡出土遺物觀察表	94	第74表	第122号住居跡出土遺物觀察表	176
第38表	第83号住居跡出土遺物觀察表	96	第75表	第123号住居跡出土遺物觀察表	176
第39表	第84号住居跡出土遺物觀察表	100	第76表	第126号住居跡出土遺物觀察表	182
第40表	第85号住居跡出土遺物觀察表	101	第77表	第127号住居跡出土遺物觀察表	183
第41表	第86号住居跡出土遺物觀察表	108	第78表	第128号住居跡出土遺物觀察表	185
第42表	第89号住居跡出土遺物觀察表	112	第79表	第129号住居跡出土遺物觀察表	187
第43表	第90号住居跡出土遺物觀察表	114	第80表	第130号住居跡出土遺物觀察表	189
第44表	第91号住居跡出土遺物觀察表	114	第81表	第131号住居跡出土遺物觀察表	190
第45表	第92号住居跡出土遺物觀察表	116	第82表	第132号住居跡出土遺物觀察表	192
第46表	第93号住居跡出土遺物觀察表	117	第83表	第133号住居跡出土遺物觀察表	192
第47表	第94号住居跡出土遺物觀察表	123	第84表	第134号住居跡出土遺物觀察表	195
第48表	第95号住居跡出土遺物觀察表	124	第85表	第136号住居跡出土遺物觀察表	198
第49表	第96号住居跡出土遺物觀察表	126	第86表	第137号住居跡出土遺物觀察表	203

第87表	第138号住居跡出土遺物觀察表……………	205	第124表	第14号井戸跡出土遺物觀察表……………	289
第88表	第139号住居跡出土遺物觀察表……………	206	第125表	第15号井戸跡出土遺物觀察表……………	290
第89表	第140号住居跡出土遺物觀察表……………	211	第126表	第16号井戸跡出土遺物觀察表……………	291
第90表	第141号住居跡出土遺物觀察表……………	211	第127表	第17号井戸跡出土遺物觀察表……………	293
第91表	第144号住居跡出土遺物觀察表……………	214	第128表	C 3地点土坑一覽表……………	293
第92表	第145号住居跡出土遺物觀察表……………	217	第129表	第85号土坑出土遺物觀察表……………	343
第93表	第146号住居跡出土遺物觀察表……………	219	第130表	第86号土坑出土遺物觀察表……………	343
第94表	第147号住居跡出土遺物觀察表……………	222	第131表	第87号土坑出土遺物觀察表……………	343
第95表	第148号住居跡出土遺物觀察表……………	223	第132表	第89号土坑出土遺物觀察表……………	343
第96表	第149号住居跡出土遺物觀察表……………	223	第133表	第90号土坑出土遺物觀察表……………	350
第97表	第150号住居跡出土遺物觀察表……………	226	第134表	第117号土坑出土遺物觀察表……………	350
第98表	第151号住居跡出土遺物觀察表……………	227	第135表	第121号土坑出土遺物觀察表……………	350
第99表	第152号住居跡出土遺物觀察表……………	229	第136表	第131号土坑出土遺物觀察表……………	350
第100表	第153号住居跡出土遺物觀察表……………	231	第137表	第133号土坑出土遺物觀察表……………	350
第101表	第154号住居跡出土遺物觀察表……………	234	第138表	第138号土坑出土遺物觀察表……………	351
第102表	第155号住居跡出土遺物觀察表……………	234	第139表	第145号土坑出土遺物觀察表……………	351
第103表	第157号住居跡出土遺物觀察表……………	235	第140表	第151号土坑出土遺物觀察表……………	351
第104表	第158号住居跡出土遺物觀察表……………	237	第141表	第159号土坑出土遺物觀察表……………	351
第105表	第159号住居跡出土遺物觀察表……………	238	第142表	第171号土坑出土遺物觀察表……………	351
第106表	第160号住居跡出土遺物觀察表……………	242	第143表	第172号土坑出土遺物觀察表……………	351
第107表	第161号住居跡出土遺物觀察表……………	244	第144表	第173号土坑出土遺物觀察表……………	351
第108表	第162号住居跡出土遺物觀察表……………	247	第145表	第174号土坑出土遺物觀察表……………	351
第109表	第163号住居跡出土遺物觀察表……………	251	第146表	第178号土坑出土遺物觀察表……………	352
第110表	第164号住居跡出土遺物觀察表……………	254	第147表	第179号土坑出土遺物觀察表……………	352
第111表	第165号住居跡出土遺物觀察表……………	255	第148表	第191号土坑出土遺物觀察表……………	352
第112表	第166号住居跡出土遺物觀察表……………	258	第149表	第207号土坑出土遺物觀察表……………	352
第113表	第167号住居跡出土遺物觀察表……………	259	第150表	第209号土坑出土遺物觀察表……………	352
第114表	第168号住居跡出土遺物觀察表……………	261	第151表	第214号土坑出土遺物觀察表……………	352
第115表	第169号住居跡出土遺物觀察表……………	263	第152表	第217号土坑出土遺物觀察表……………	353
第116表	第170号住居跡出土遺物觀察表……………	264	第153表	第222号土坑出土遺物觀察表……………	353
第117表	第8号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…	272	第154表	第233号土坑出土遺物觀察表……………	353
第118表	第9号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…	272	第155表	第242号土坑出土遺物觀察表……………	353
第119表	第10号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…	275	第156表	第262号土坑出土遺物觀察表……………	353
第120表	第11号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…	277	第157表	第278号土坑出土遺物觀察表……………	253
第121表	第11号井戸跡出土遺物觀察表……………	283	第158表	第304号土坑出土遺物觀察表……………	353
第122表	第12号井戸跡出土遺物觀察表……………	285	第159表	第306号土坑出土遺物觀察表……………	353
第123表	第13号井戸跡出土遺物觀察表……………	288	第160表	第308号土坑出土遺物觀察表……………	353

第161表	第312号土坑出土遺物観察表	353	第188表	久下前遺跡(C4地点)大型植物遺体表	419
第162表	第320号土坑出土遺物観察表	353	第189表	モモ核の大きさ	419
第163表	第341号土坑出土遺物観察表	354	第190表	エゴノキ核の大きさ	420
第164表	第342号土坑出土遺物観察表	354	第191表	胎土分析試料一覧表	424
第165表	第349号土坑出土遺物観察表	354	第192表	土器胎土中の微化石類と砂粒物の特徴	427
第166表	第365号土坑出土遺物観察表	354	第193表	土器胎土中の粘土・砂粒の概略と分類	427
第167表	第368号土坑出土遺物観察表	354	第194表	岩石群の起源と組合せ	428
第168表	第13号溝跡出土遺物観察表	357	第195表	ウィグルマッチング測定試料および処理	435
第169表	第14号溝跡出土遺物観察表	361	第196表	流木NoAの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	436
第170表	第15号溝跡出土遺物観察表	363	第197表	流木NoBの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	436
第171表	第16号溝跡出土遺物観察表	363	第198表	流木NoDの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	436
第172表	C3地点調査区出土遺物観察表	365	第199表	流木NoGの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	436
第173表	C4地点土坑一覧表	371	第200表	流木NoHの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	437
第174表	第372号土坑出土遺物観察表	371	第201表	流木NoIの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	437
第175表	第374号土坑出土遺物観察表	371	第202表	流木NoKの放射性炭素年代測定、暦年 校正、ウィグルマッチングの結果	437
第176表	第375号土坑出土遺物観察表	371	第203表	産出花粉化石一覧表	442
第177表	第376号土坑出土遺物観察表	371	第204表	女堀川流域周辺の前遺跡時代前期遺跡	450
第178表	第377号土坑出土遺物観察表	373			
第179表	第378号土坑出土遺物観察表	373			
第180表	第379号土坑出土遺物観察表	373			
第181表	第380号土坑出土遺物観察表	373			
第182表	第4号溝跡出土遺物観察表	374			
第183表	河川跡出土遺物観察表	389			
第184表	第25号井戸跡出土遺物観察表	409			
第185表	F2・F3地点土坑出土遺物観察表	411			
第186表	久下前遺跡C3・C4地点出土骨一覧表	415			
第187表	樹種同定結果	418			

<写真図版目次>

図版1	久下前遺跡C2・C3地点遠景 久下前遺跡C2・C3地点全景(東から)
図版2	久下前遺跡C2地点全景(真上から) C2地点全景(東から)
図版3	C2地点全景(南から) 第43号住居跡

	第44号住居跡
	第46号住居跡
	第46号住居跡カマド・貯蔵穴
図版4	第46号住居跡カマド
	第46号住居跡遺物出土状態
	第40号土坑

- 第41号土坑
 第42・43号土坑
 第44号土坑
 第45号土坑
 第47号土坑
図版 5 第48号土坑
 第49号土坑
 第50号土坑
 第51号土坑
 第52号土坑
 第53号土坑
 第54号土坑
 第55・56号土坑
図版 6 久下前遺跡C 3地点全景（真上から）
 C 3地点調査区東側（真上から）
図版 7 C 3地点調査区中央付近（真上から）
 C 3地点調査区西側（真上から）
図版 8 第48号住居跡
 第48号住居跡カマド
 第49号住居跡
 第49号住居跡カマド
 第49号住居跡遺物出土状態（1）
 第49号住居跡遺物出土状態（2）
 第50号住居跡
 第50号住居跡カマド
図版 9 第51号住居跡カマド
 第51号住居跡遺物出土状態
 第53号住居跡
 第53号住居跡カマド
 第54号住居跡
 第54号住居跡カマド
 第54号住居跡遺物出土状態
 第54号住居跡石製紡錘車出土状態
図版10 第57号住居跡
 第57号住居跡遺物出土状態
 第58号住居跡
 第58・59号住居跡（1）
 第58・59号住居跡（2）
 第59号住居跡カマド
 第60号住居跡
 第60号住居跡遺物出土状態
図版11 第61号住居跡
 第62号住居跡
 第62号住居跡カマド
 第62号住居跡貯蔵穴
 第62号住居跡遺物出土状態（1）
 第62号住居跡遺物出土状態（2）
 第63号住居跡
 第63号住居跡カマド
図版12 第64号住居跡カマド
 第65号住居跡
 第65号住居跡カマド
 第65号住居跡遺物出土状態
 第66号住居跡
 第66号住居跡遺物出土状態
 第67号住居跡
 第67号住居跡カマド
図版13 第68号住居跡
 第68号住居跡遺物出土状態（1）
 第68号住居跡遺物出土状態（2）
 第68号住居跡遺物出土状態（3）
 第69号住居跡
 第70号住居跡
 第70号住居跡遺物出土状態
 第71号住居跡
図版14 第72号住居跡
 第74号住居跡
 第75号住居跡
 第75号住居跡カマド
 第76号住居跡
 第76号住居跡カマド
 第76号住居跡遺物出土状態
 第76号住居跡床下土坑
図版15 第77号住居跡

第77号住居跡跡
第78号住居跡
第78号住居跡カマド
第78号住居跡カマド袖補強喪
第80号住居跡
第81号住居跡
第81号住居跡遺物出土状態
図版16 第82号住居跡
第82号住居跡遺物出土状態
第83号住居跡
第83号住居跡遺物出土状態
第84号住居跡
第85号住居跡
第85号住居跡跡
第85号住居跡遺物出土状態
図版17 第86号住居跡
第86号住居跡カマド
第87号住居跡
第88号住居跡
第89号住居跡
第90号住居跡
第90号住居跡カマド
第91号住居跡
図版18 第91号住居跡カマド
第92号住居跡
第92号住居跡カマド
第92号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
第93号住居跡
第93号住居跡カマド
第94号住居跡
第94号住居跡カマド
図版19 第94号住居跡遺物出土状態（1）
第94号住居跡遺物出土状態（2）
第95号住居跡
第96号住居跡
第96号住居跡カマド
第96号住居跡遺物出土状態

第99号住居跡
第100号住居跡
図版20 第100号住居跡カマド
第100号住居跡貯蔵穴
第100号住居跡遺物出土状態
第100号住居跡編物石出土状態
第101号住居跡
第102号住居跡
第103号住居跡
第103号住居跡跡
図版21 第104号住居跡
第105号住居跡
第106号住居跡
第106号住居跡遺物出土状態
第107・108号住居跡
第107号住居跡カマド
第109号住居跡
第109号住居跡カマド
図版22 第109号住居跡遺物出土状態（1）
第109号住居跡遺物出土状態（2）
第110号住居跡
第110号住居跡カマド
第111号住居跡
第112号住居跡
第113号住居跡
第113号住居跡カマド
図版23 第114号住居跡
第115号住居跡
第118号住居跡
第118号住居跡カマド
第119号住居跡
第119号住居跡カマド
第120号住居跡
第120号住居跡カマド
図版24 第121号住居跡
第121号住居跡カマド
第123号住居跡

- 第123号住居跡遺物出土状態
第124号住居跡カマド
第125・126号住居跡
第125号住居跡カマド
第126号住居跡カマド
- 図版25** 第127号住居跡
第127号住居跡カマド
第128号住居跡
第128号住居跡カマド
第129号住居跡
第129号住居跡カマド
第130号住居跡
第132号住居跡カマド
- 図版26** 第133号住居跡
第133号住居跡遺物出土状態
第134号住居跡
第134号住居跡遺物出土状態
第136号住居跡
第136号住居跡カマド
第136号住居跡遺物出土状態（1）
第136号住居跡遺物出土状態（2）
- 図版27** 第137号住居跡
第137号住居跡カマド
第137号住居跡遺物出土状態
第137号住居跡床下土坑
第138号住居跡
第138号住居跡カマド
第139号住居跡
第139号住居跡カマド
- 図版28** 第140号住居跡
第140号住居跡遺物出土状態
第141号住居跡
第141号住居跡遺物出土状態
第142号住居跡
第143号住居跡
第144号住居跡
第144号住居跡カマド
- 図版29** 第145号住居跡
第145号住居跡カマド
第145号住居跡遺物出土状態（1）
第145号住居跡遺物出土状態（2）
第146号住居跡
第146号住居跡カマド
第147号住居跡
第147号住居跡カマド
- 図版30** 第148号住居跡
第149号住居跡
第149号住居跡遺物出土状態（1）
第149号住居跡遺物出土状態（2）
第150号住居跡
第151号住居跡
第152号住居跡
第152号住居跡カマド
- 図版31** 第153号住居跡
第153号住居跡カマド
第153号住居跡遺物出土状態（1）
第153号住居跡遺物出土状態（2）
第154号住居跡
第155号住居跡
第156号住居跡
第157号住居跡
- 図版32** 第157号住居跡カマド
第158号住居跡
第159号住居跡
第159号住居跡カマド
第159号住居跡床下土坑1
第159号住居跡床下土坑1 土層断面
第159号住居跡床下土坑2
第159号住居跡床下土坑2 土層断面
- 図版33** 第160号住居跡
第161号住居跡
第161号住居跡カマド
第161号住居跡遺物出土状態
第162号住居跡

- 第162号住居跡カマド
第163号住居跡
第163号住居跡カマド
- 図版34** 第163号住居跡遺物出土状態
第163号住居跡床下土坑 1
第164号住居跡
第165号住居跡
第165号住居跡カマド
第165号住居跡遺物出土状態
第166号住居跡
第166号住居跡遺物出土状態
- 図版35** 第167号住居跡
第168号住居跡
第169号住居跡
第169号住居跡カマド
第170号住居跡
第170号住居跡カマド
第2・3号掘立柱建物跡
第10号掘立柱建物跡
- 図版36** 第11号掘立柱建物跡
第12号掘立柱建物跡
第13号掘立柱建物跡
第14号掘立柱建物跡
第15号掘立柱建物跡
第10号井戸跡
第11号井戸跡
第12号井戸跡
- 図版37** 第13号井戸跡
第13号井戸跡上層遺物出土状態
第14号井戸跡
第15号井戸跡
第16号井戸跡
第17号井戸跡
第58号土坑
第59号土坑
- 図版38** 第60号土坑
第65号土坑
- 第68号土坑
第69・70号土坑
第71号土坑
第72～75号土坑
- 図版39** 第73号土坑
第76号土坑
第77号土坑
第82号土坑
第83号土坑
第85号土坑
第86号土坑
第87・88号土坑
- 図版40** 第89号土坑
第91号土坑
第92・93号土坑
第97号土坑
第98号土坑
第100号土坑
第101号土坑
第102号土坑
- 図版41** 第103号土坑
第111号土坑
第114号土坑
第116号土坑
第120・121号土坑
第125号土坑
第126号土坑
第127号土坑
- 図版42** 第128号土坑
第129号土坑
第131号土坑
第132号土坑
第133号土坑
第134号土坑
第138・139号土坑
第140号土坑
- 図版43** 第141号土坑

第143号土坑
第144号土坑
第145号土坑
第147号土坑
第151号土坑
第152号土坑
第153号土坑
图版44 第154号土坑
第155号土坑
第156号土坑
第157号土坑
第158号土坑
第159号土坑
第160号土坑
第161号土坑
图版45 第162号土坑
第163号土坑
第170号土坑
第171号土坑
第172号土坑
第173号土坑
第175号土坑
第177号土坑
图版46 第178·179号土坑
第183号土坑
第184号土坑
第185号土坑
第186号土坑
第188号土坑
第189号土坑
第190号土坑
图版47 第191号土坑
第192号土坑
第193号土坑
第196号土坑
第198号土坑
第199号土坑

第200号土坑
第201号土坑
图版48 第202·203号土坑
第204号土坑
第205号土坑
第206号土坑
第207号土坑
第209号土坑
第210号土坑
第211号土坑
图版49 第213号土坑
第214号土坑
第215号土坑
第216号土坑
第217号土坑
第218号土坑
第219号土坑
第221号土坑
图版50 第222号土坑
第223号土坑
第227号土坑
第233号土坑
第236号土坑
第237号土坑
第239号土坑
第240号土坑
图版51 第241号土坑
第242号土坑
第244号土坑
第245号土坑
第246号土坑
第247号土坑
第248号土坑
第250号土坑
图版52 第252号土坑
第254号土坑
第255号土坑

- 第256号土坑
第257号土坑
第258号土坑
第259号土坑
第260号土坑
图版53 第261号土坑
第262号土坑
第262号土坑遗物出土状态
第267号土坑
第268号土坑
第269号土坑
第270号土坑
第271号土坑
图版54 第272号土坑
第273号土坑
第274号土坑
第276号土坑
第278号土坑
第279号土坑
第281号土坑
第282号土坑
图版55 第285·287号土坑
第286号土坑
第288~290号土坑
第292号土坑
第293号土坑
第294号土坑
第295号土坑
第296号土坑
图版56 第297号土坑
第298号土坑
第299号土坑
第301号土坑
第302号土坑
第303号土坑
第304号土坑
第309·310号土坑
图版57 第311号土坑
第313~316号土坑
第317号土坑
第318号土坑
第320号土坑
第321号土坑
第322号土坑
第325~327号土坑
图版58 第331号土坑
第333号土坑
第335号土坑
第337号土坑
第338号土坑
第340号土坑
第341号土坑
第342号土坑
图版59 第343号土坑
第346·347号土坑
第348号土坑
第349号土坑
第350号土坑
第351号土坑
第352号土坑
第353号土坑
图版60 第354号土坑
第355号土坑
第356号土坑
第357号土坑
第358号土坑
第361号土坑
第362号土坑
第363号土坑
图版61 第364号土坑
第365号土坑
第366号土坑
第367号土坑
第368号土坑

- 第369号土坑
第370号土坑
第371号土坑
- 図版62** 久下前遺跡C 4地点遠景(南から)
久下前遺跡C 4地点遠景(北から)
- 図版63** C 4地点東側調査区土坑群(南から)
C 4地点東側調査区土坑群(西から)
- 図版64** 第372号土坑
第373号土坑
第374号土坑
第375号土坑
第376号土坑
第377号土坑
第378号土坑
第380号土坑
- 図版65** 第4号溝跡全景(北東から)
第4号溝跡(西側調査区)
第4号溝跡(東側調査区)
第4号溝跡遺物出土状態(東側調査区)
第6号溝跡(東側調査区)
- 図版66** 河川跡全景(北東から)
河川跡全景(真上から)
- 図版67** 河川跡西側調査区全景(真上から)
河川跡西側調査区全景(西から)
- 図版68** 河川跡西側調査区土層断面
河川跡西側調査区遺物出土状態(1)
河川跡西側調査区遺物出土状態(2)
河川跡西側調査区流木(K)出土状態(1)
河川跡西側調査区流木(K)出土状態(2)
- 図版69** 河川跡東側調査区全景(真上から)
河川跡東側調査区流木(A~J)出土状態
- 図版70** 河川跡東側調査区土層断面(東端)
河川跡東側調査区土層断面(西端)
- 図版71** 河川跡東側調査区遺物出土状態(1)
河川跡東側調査区遺物出土状態(2)
河川跡東側調査区遺物出土状態(3)
河川跡東側調査区遺物出土状態(4)
- 河川跡東側調査区遺物出土状態(5)
河川跡東側調査区遺物出土状態(6)
河川跡西側調査区水没状況
河川跡東側調査区水没状況
- 図版72** F 2地点調査区全景(西から)
第135号土坑
第39号溝跡(東から)
第39号溝跡(西から)
F 2地点調査風景
- 図版73** F 3地点調査区全景(北から)
第25号井戸跡
第444号土坑
第445号土坑
第446号土坑
- 図版74** C 2地点住居跡・井戸跡・土坑・表土一括
出土遺物
- 図版75** C 2地点表土一括・C 3地点住居跡出土遺物
- 図版76** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版77** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版78** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版79** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版80** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版81** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版82** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版83** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版84** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版85** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版86** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版87** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版88** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版89** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版90** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版91** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版92** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版93** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版94** C 3地点住居跡出土遺物
- 図版95** C 3地点住居跡出土遺物

- 図版96 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版97 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版98 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版99 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版100 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版101 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版102 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版103 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版104 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版105 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版106 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版107 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版108 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版109 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版110 C 3 地点住居跡出土遺物
 図版111 C 3 地点住居跡・掘立出土遺物
 図版112 C 3 地点掘立・井戸跡出土遺物
 図版113 C 3 地点井戸跡・土坑出土遺物

- 図版114 C 3 地点土坑出土遺物
 図版115 C 3 地点土坑出土遺物
 図版116 C 3 地点土坑出土遺物
 図版117 C 3 地点土坑・溝・調査区内出土遺物
 図版118 C 3 地点調査区内出土遺物
 図版119 C 4 地点土坑・溝出土遺物
 図版120 C 4 地点溝出土遺物
 図版121 C 4 地点溝出土遺物
 図版122 C 4 地点溝・河川出土遺物
 図版123 C 4 地点河川出土遺物
 図版124 C 4 地点河川出土遺物
 図版125 C 4 地点河川出土遺物
 図版126 C 4 地点河川出土遺物
 図版127 C 4 地点河川出土遺物
 図版128 C 4 地点河川出土遺物
 図版129 C 4 地点河川出土遺物
 図版130 C 4 地点河川出土遺物
 図版131 C 4 地点河川・F 3 井戸・土坑出土遺物

発掘調査組織

<平成21年度>

主体者	本庄市教育委員会	
教 育 長	茂木	孝彦
事務局	事務局 長	腰塚 修
	文化財保護課 長	磯田 英夫
	課 長 補 佐	鈴木 徳雄
	埋蔵文化財係 長	太田 博之
	主 査	恋河内昭彦
	主 任	大熊 季広
	主 任	松澤 浩一
	主 事	松本 完(調査担当)
	臨時職員	の野 善行
	調 査 員	高林 真人(㊟測研)

<平成22年度>

主体者	本庄市教育委員会	
教 育 長	茂木	孝彦
事務局	事務局 長	腰塚 修
	文化財保護課 長	金井 孝夫
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
	埋蔵文化財係 長	太田 博之
	主 査	恋河内昭彦(調査担当)
	主 査	大熊 季広
	主 任	松澤 浩一
	主 任	松本 完
	臨時職員	の野 善行
	調 査 員	高林 真人(㊟測研)

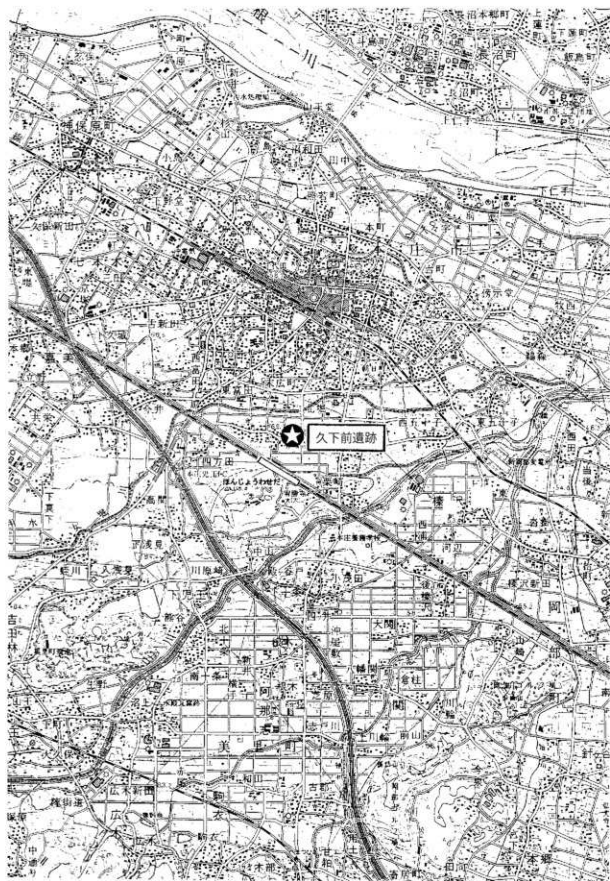
整理・報告書刊行組織

<平成28年度>

主体者	本庄市教育委員会	
教 育 長	勝山	勉
事務局	事務局 長	稲田 幸也
	次 長	山田 由幸
	文化財保護課 長	杉原 初
	課 長 補 佐 兼	
	埋蔵文化財係 長	太田 博之
	主 査	恋河内昭彦(整理担当)
	主 査	松本 完
	主 査	徳山 寿樹
	主 任	の野 善行
	臨時職員	中嶋 淳子

<平成29年度>

主体者	本庄市教育委員会	
教 育 長	勝山	勉
事務局	事務局 長	稲田 幸也
	文化財保護課 長	杉原 初
	課 長 補 佐 兼	
	埋蔵文化財係 長	恋河内昭彦(整理担当)
	主 査	松本 完
	主 査	堀原 浩
	主 査	徳山 寿樹
	主 任	の野 善行
	臨時職員	中嶋 淳子



第1図 遺跡の位置

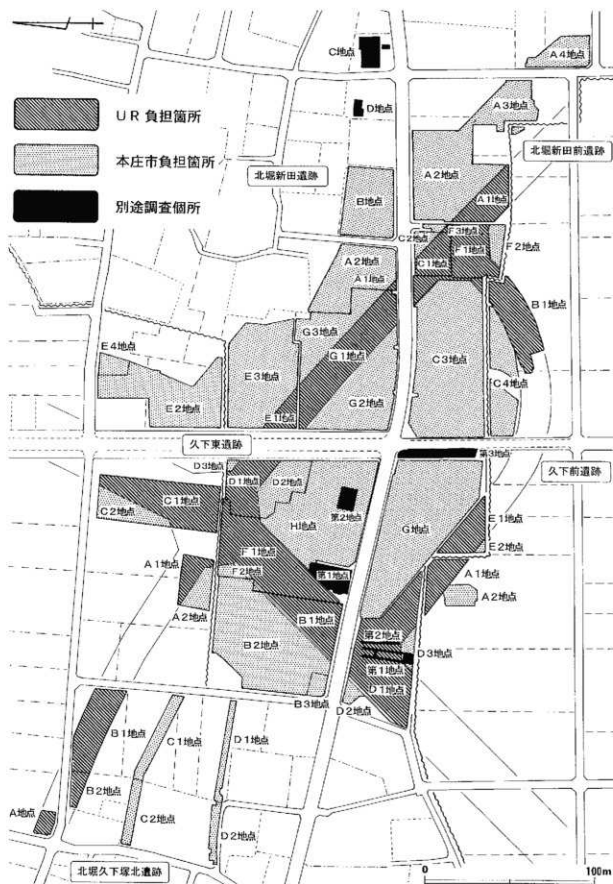
第I章 発掘調査に至る経緯

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成18年9月に事業認可を受けて、同年11月10日に独立行政法人都市再生機構(UR)本庄都市開発事務所・本庄市・埼玉県教育委員会・本庄市教育委員会の4者によって締結された「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」に基づいて、同年12月より本庄市教育委員会が実施している。

事業地内の発掘調査は、その費用負担の違いにより、機構(UR)側の費用負担箇所である都市計画道路の建設区域と、本庄市の費用負担箇所であるそれ以外の区域(沿道サービス用地・産業業務用地・商業業務用地など)に、それぞれ地点を分けている(第2図)。これらの発掘調査予定区域は、工事計画との関係から都市計画道路建設区域を優先しながら、調査が可能になった部分から遺跡(埋蔵文化財包蔵地)毎にアルファベットによる地点名を付けて、随時調査を実施している。そのため、調査地点は調査対象区域内で細かく錯乱したような配置になっているが、年度毎に発掘調査を実施した地点は、以下のとおりである。

- | | | |
|----------|--------|---|
| <平成18年度> | 機構負担区域 | — 七色塚遺跡B1地点、北堀新田前遺跡A1地点 |
| | 市負担区域 | — 七色塚遺跡B2地点、北堀新田前遺跡A2～A4地点 |
| <平成19年度> | 機構負担区域 | — 浅見山I遺跡A1・A2地点、久下東遺跡A1・B1地点、北堀久下塚北遺跡A地点 |
| | 市負担区域 | — 浅見山I遺跡B1・B2地点、久下東遺跡A2・B2地点 |
| <平成20年度> | 機構負担区域 | — 久下東遺跡C1・D1・E1地点、久下前遺跡A1・B1地点、北堀久下塚北遺跡B地点 |
| | 市負担区域 | — 久下東遺跡B3・C2・D2・D3・E2・E3地点、北堀久下塚北遺跡C1・D1地点 |
| <平成21年度> | 機構負担区域 | — 久下前遺跡C1地点、北堀新田遺跡A1地点、宥勝寺北裏遺跡A1・B1地点 |
| | 市負担区域 | — 久下前遺跡C2・C3地点、北堀新田遺跡A2地点(南側)、北堀久下塚北遺跡C2・D2地点、宥勝寺北裏遺跡A2・B2地点 |
| <平成22年度> | 機構負担区域 | — 久下東遺跡F1・G1地点、久下前遺跡D1・E1・F1地点 |
| | 市負担区域 | — 久下東遺跡E4・F2地点、久下前遺跡A2・C4・D2・D3・E2・F2・F3地点、北堀新田遺跡A2地点(北側)・B地点 |
| <平成23年度> | 市負担区域 | — 久下東G2・G3地点・H地点、久下前遺跡G地点 |
| <平成24年度> | 機構負担区域 | — 宥勝寺北裏遺跡C地点 |

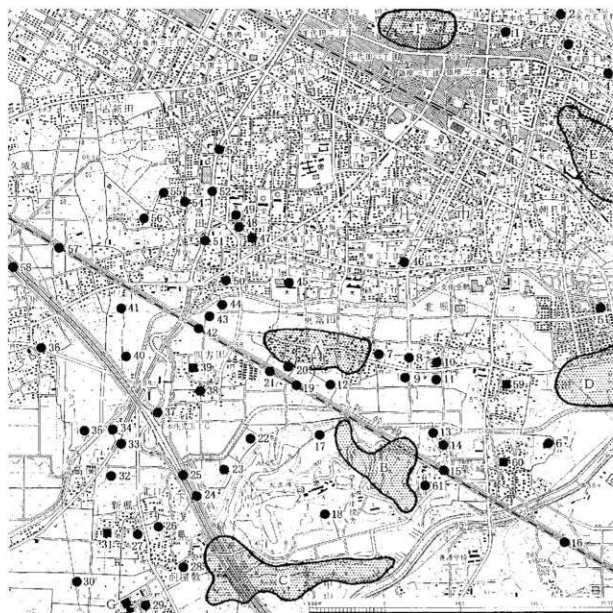
今回報告するのは、市負担区域として平成21年度に調査した久下前遺跡のC2・C3地点、平成22年度に調査した久下前遺跡C4・F2・F3地点の計5地点分である。



第2図 北堀久下塚北・久下東・久下前・北堀新田・北堀新田前遺跡調査地点配置図



第3図 久下前遺跡本報告地点位置図



第4図 周辺の主要遺跡

- 1.城山遺跡 2.天神林遺跡 3.天神林Ⅱ遺跡 4.薬師堂遺跡 5.田端屋敷遺跡 6.東本庄遺跡 7.北堀久下塚北遺跡 8.久下東遺跡 9.久下前遺跡 10.北堀新田遺跡 11.北堀新田前遺跡 12.七色塚遺跡 13.有勝寺裏壇輪空跡 14.有勝寺北裏遺跡 15.東谷遺跡 16.古川端遺跡 17.浅見山Ⅰ遺跡 18.大久保山遺跡 19.下田遺跡 20.元富遺跡 21.東富田観音塚遺跡 22.山根遺跡 23.根田遺跡 24.雷電下遺跡 25.飯玉東遺跡 26.中畑遺跡 27.天神耕地遺跡 28.南ノ前遺跡 29.鷺山南遺跡 30.浅見境北遺跡 31.関根氏館跡 32.東牧西分遺跡 33.梅沢遺跡 34.川越田遺跡 35.今井川越田遺跡 36.北廓遺跡 37.後張遺跡 38.四方田遺跡 39.四方田氏館跡 40.今井条里遺跡 41.地神・塔頭遺跡 42.九反田遺跡 43.西富田前田遺跡 44.西富田・四方田条里遺跡 45.越塚遺跡 46.笠ヶ谷戸遺跡 47.南大通り線内遺跡 48.薬師元屋鋪遺跡 49.薬師遺跡 50.西富田本郷遺跡 51.社具路遺跡 52.夏目遺跡 53.二本松遺跡 54.夏目西遺跡 55.弥藤次遺跡 56.西富田新田遺跡 57.諏訪遺跡 58.九城前遺跡 59.北堀本田館跡 60.栗崎館跡 61.大久保山寺院跡 A.東富田古墳群 B.大久保山古墳群 C.塚本山古墳群 D.西五十子遺跡群 E.塚古墳群 F.北原古墳群 G.鷺山古墳

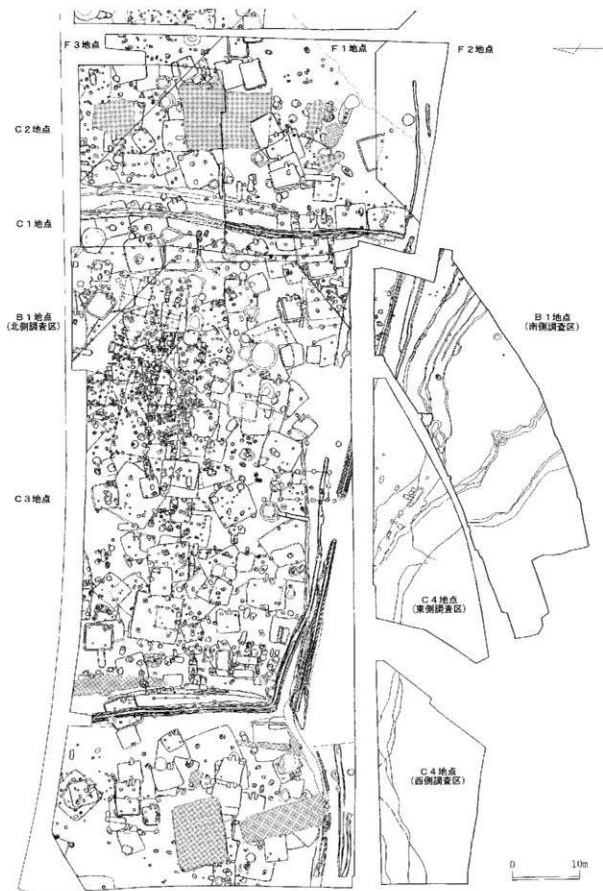
第二章 遺跡の立地と歴史的環境

今回報告する久下東遺跡C2・C3・C4・F2・F3の5地点は、上越新幹線本庄早稲田駅の北側に位置する(第4図)。遺跡の周辺は、埼玉県と群馬県の県境をなす神流川によって形成された神流川扇状地の東端部にあたり、秩父山地の北縁にあたる上武山地内の湧水を水源とする金鑽川や旧赤根川などの小河川を集めて北東方向に流れる現在の女堀川の downstream にあたる。久下東遺跡は、この女堀川低地の女堀川と児玉町高閑地内で同河川から分岐する男堀川に挟まれた標高59~63mを測る東西方向に帯状に延びる微高地上に立地し、北側には、女堀川を挟んで水田部とあまり比高差がない低平で広大な本庄台地が、南側には男堀川を挟んで児玉丘陵から列状に並ぶ残丘性独立丘陵の大久保山が対峙している。

本遺跡周辺の女堀川下流域の各時代の集落遺跡は、低地内の自然堤防や微高地上、低地周縁の本庄台地の南側縁辺部、大久保山残丘上やその残丘斜面下の低台地上の主に3ヶ所に立地している。また、低地内の水田部には、現代の土地改良事業によるほ場整備が実施される以前までは、一町四方の方格地割りが連続する条里形地割り(児玉条里遺跡)が連続して認められた。

当地域では、古くは旧石器時代から遺跡の存在が認められるが、古墳時代になって遺跡数が爆発的に増加し、特に前時代の丘陵部を集落立地の主体とした弥生時代後期と異なり、古墳時代前期より低地内への集落の進出が顕著に認められる。これらの低地内に進出した集落は、弥生時代からの伝統的な在地系土器ではなく、東海・畿内・北陸・南関東地方などの系譜をもつ外来系土器を主体としており、おそらく当地域の弥生時代までの水田経営とは技術的系譜を異にした集団によって、在来集団を取り込んだ労働力の再編成と、灌漑水路の掘削による低地内の開発が積極的に行われていったものと思われる。この当地域における低地開発の成功は、その後の中・後期の集落遺跡の安定的な増加からも窺え、当地域でも地域社会の再編成の象徴として、前期後葉には大久保山残丘上に前方後円墳とされる前山1号墳、中期前葉には方墳とされる前山2号墳(松本・町田2002)、中期中葉には低地内の微高地上に大形円墳の公卿塚古墳(増田・坂本他1986)などの首長墓級の古墳が築造され、後期には多数の小円墳を主体とする東富田古墳群、大久保山古墳群、西五十子古墳群(太田2007)などの群集墳が形成される。当地域周辺では、7世紀後半の白鳳時代になると、流域の低地全域にみられる条里形地割り(児玉条里)の施工と呼応してか、低地内の集落は低地周辺部に移動する傾向が見られる。しかしながら、下流域では本遺跡をはじめ、古墳時代後期から継続的に立地する集落が多く、古墳時代前期から平安時代中期まで、集落の立地傾向にあまり大きな変化は見られないようである。

中世の遺跡は、本遺跡周辺の下流域では比較的多く確認されているが、その性格を明らかにできたものは非常に少ない。児玉地方は、平安時代末から鎌倉時代初期にかけて活躍した武蔵七党の児玉党の本貫地であり、当地域は地名から児玉党久下塚氏との関係が深い地域と考えられる。中世後期の15世紀後半には、関東内乱の象徴でもある古河公方と敵対した関東管領上杉氏側の一大防衛線の拠点である五十子陣が、本遺跡の東側約1.5kmの女堀川と身馴川(現小山川)の合流地点に築かれており、それに関する遺跡も当地域には多く存在するものと思われる。また、本遺跡周辺では中世の屋敷や村落の一部と考えられる遺構も多く検出されているが、南側の大久保山残丘を中心にして、鎌倉永福寺の創建期瓦など、中世初期からの瓦の出土が比較的多く見られる傾向がある(本庄市教委2016)。



第5図 久下前遺跡C・F地点全体図

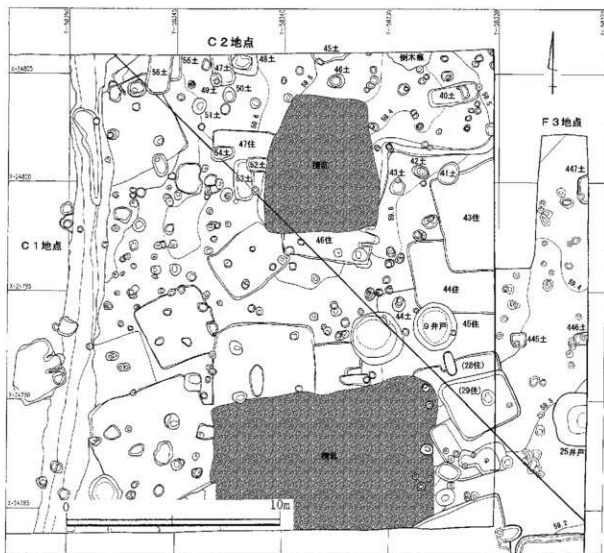
第三章 C2地点の調査

第1節 C2地点の概要

C2地点は、西側に都市再生機構(U R)の発掘調査経費負担箇所である都市計画道路建設部分のC1地点(松本・的野2010)が隣接し、東側には本庄市の発掘調査経費負担箇所である市道建設部分のF3地点(本報告)が隣接している。

調査区内で検出された遺構は、竪穴式住居跡5軒・井戸跡1基・土坑17基である。C2地点でも遺構の一部が検出されている第28・29・36号住居跡や第6号井戸跡については、隣接するC1地点の報告書(松本・的野2010)に記載されているため、そちらを参照されたい。

住居跡は、古墳時代後期前半以前1軒、白鳳時代1軒、平安時代前期3軒であるが、遺構の遺存状態が悪いため明確ではない。また、これらの中には、住居と認定する根拠が不明確なものも多い。井戸跡は、中世のもので、おそらく屋敷に伴うものと思われる。土坑は、主に隅丸長方形と楕円形を呈するものがあるが、時期や性格が明確なものはない。



第6図 C2地点調査区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

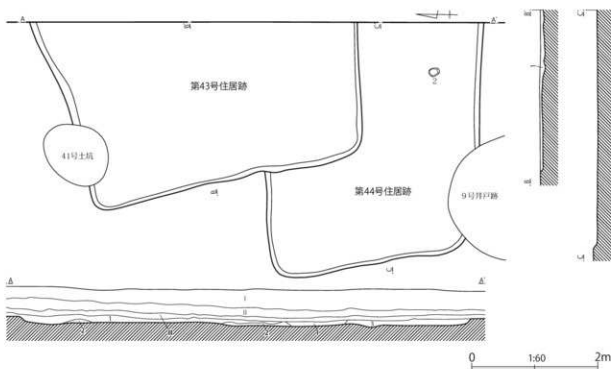
1. 竪穴式住居跡

第43号住居跡（第7図、図版3）

C2地点の調査区東端に位置する。重複する第41号土坑に切られ、第44号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側半分だけであり、東側に隣接するF3地点では本住居跡が検出されていないため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、北側壁が湾曲しながらかなり開いているが、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を基本にするものと思われる。規模は、南北方向が4.82m、東西方向は3.15mまで測れる。住居跡の西側壁は、 $N-14^{\circ}-W$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高10cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。調査区内で検出された部分からは、ビット等の住居内施設はまったく見られなかった。

遺物は、図示できるようなものはなく、覆土中から古墳時代前期から平安時代前期までの土師器や須恵器の小破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から平安時代前期(9世紀)後半頃と思われる。



第7図 第43・44号住居跡

第43・44号住居跡土層説明

第1層：表土

第II層：暗褐色土層

第III層：暗褐色土層

第1層：暗褐色土層（径1cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

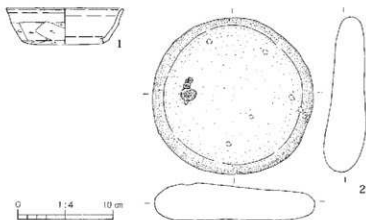
第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第44号住居跡（第7図、図版3）

C2地点の調査区東端に位置する。重複する第43号住居跡と第9号井戸跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側半分だけであり、東側に隣接するF3地点では本住居跡の痕跡が確認されていないため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部の丸みが強く、やや平行四辺形状に歪んだ長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が3.36m、東西方向は4.00mまで測れる。住居跡の西側壁は、N-11°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高9cmある。調査区内で検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗茶褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。調査区内で検出された部分からは、ピット等の住居内施設はまったく見られなかった。

遺物は、住居南側周辺部の床面上から、直径17cmの円形で扁平な台石が1点出土している。この台石は、表裏面ともよく擦れており、砥石としても利用されていた可能性があるが、側面には煤の付着が顕著で、一部被熱による変色が見られることから、調理にも使用されていたことが窺える。この他では、覆土中から土器の小破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と推測される。



第8図 第44号住居跡出土遺物

第1表 第44号住居跡出土遺物観察表

1	環	A.口縁部径(12.4)、推定高(3.3)。B.粘土精積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	台石	A.直径16.5~17.0、厚さ3.0~4.1。重さ1853g。D.閃緑岩。F.壳形。G.表裏面とも良く擦れている。側面は煤が付着し、一部変色している。H.床面直上。

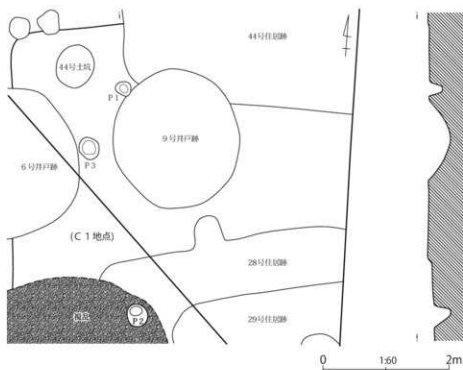
第45号住居跡（第9図）

C2地点の調査区南端に位置する。重複する第28号住居跡(松本・的野2010)と第44号住居跡や、第6号井戸跡(松本・的野2010)と第9号井戸跡、及び第44号土坑に切られている。

本遺構は、その掘り方の痕跡から住居跡と推測されたものであるが、東側に隣接するF3地点では本住居跡の痕跡は確認されていないため、その全容は不明である。

平面形は、調査区内で推測された範囲は、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が4.00mまで、東西方向は5.40mまで測れる。住居跡の西側壁は、N-4°-Wを向いている。ピットは、3カ所検出されている。P1とP2は、その位置から住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の一部と推測される。長さ25cm~35cmの楕円形ぎみの形態で、確認面からの深さは20cm~30cm程度ある。P3は、直径35cm程度の円形を呈し、確認面からの深さは20cmある。

遺物は、何も出土しなかった。本住居跡の時期は、重複する平安時代前期(9世紀)中頃の第44号住居跡(本報告)や、カマドの形態から古墳時代後期(6世紀)後半以降と推測される第28号住居跡(松本・的野2010)に切られていることから、古墳時代後期(6世紀)前半以前と推測される。



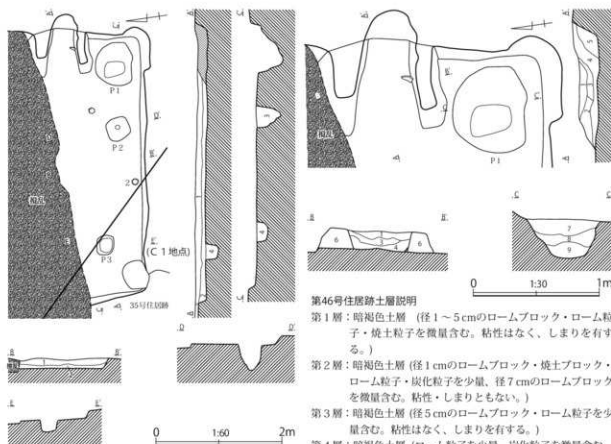
第9図 第45号住居跡

第46号住居跡 (第10図、図版3・4)

C2地点の調査区中央部東端に位置する。東側のC1地点で、重複する第35号住居跡(松本・的野2010)を切っている。住居跡の北側半分を掘削によって破壊されているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が4.28m、南北方向は2.00mまで測れる。住居跡の主軸方向は、N-91°-Eを向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、3カ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。形態は、68cm×56cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは36cmある。P2は、南側壁際の中央部に位置する。形態は、36cm×35cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは40cmある。P3は、その位置から住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の一部を構成する可能性がある。形態は、28cm×26cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは17cmある。

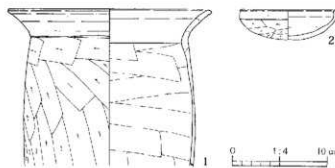
カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長98cm、最大幅95cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦であり、奥壁は斜めに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、



第10図 第46号住居跡

第46号住居跡カマド・P1貯蔵六土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色粘土層（焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：暗褐色土層（径3cmの焼土ブロック・黄褐色粘土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：カマド袖。
 第7層：黒褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第11図 第46号住居跡出土遺物

第2表 第46号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A.口縁部径(21.4)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面貫ナデ。 D.赤色粒。白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.上半1/4。G.口縁部と胴部は直接接合しない。器形は図上復元。H.貯蔵穴内。
2	坏	A.口縁部径10.0。器高3.1。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面丁座ナデ。D.黒色粒。白色粒。E.内外一茶褐色。F.完形。H.覆土中。

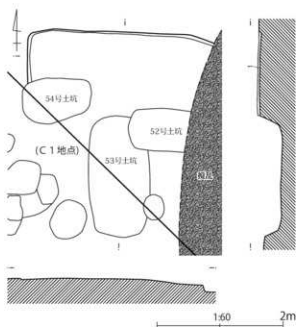
暗灰色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残っていないかった。

遺物は、カマドや貯蔵穴(P1)内及び覆土中から、古墳時代前期から白鳳時代までの土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)と考えられる。

第47号住居跡 (第12図)

C2地点の調査区中央部北西側に位置する。住居跡の東側攪乱に破壊され、住居内を第52・53・54号土坑に切られている。すでに、住居の床面付近まで削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形が長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.20mまで、東西方向が2.96mまで測れる。住居跡の北側壁は、N—93°—Eを向いている。壁は、ほとんど残存していないが、緩やかに立ち上がるようで、確認面からの深さは4cm程度ある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。カマドやピット等の住居内施設はまったく見られなかった。



第12図 第47号住居跡

第47号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層 (径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

遺物は、住居の覆土中より平安時代前期(9世紀)中頃を主体とする土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や遺構の重複関係から、平安時代前期(9世紀)中頃と考えられる。

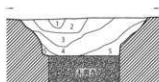
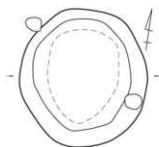
2. 井戸跡

第9号井戸跡 (第13図)

C2地点の調査区南端に位置し、重複する第44号住居跡を切っている。西側には、C1地点の近世以前と推測されている第6号井戸跡(松本・的野2010)が近接している。本井戸跡は、掘り方の上面部分しか調査していないため、遺構の全容は不明である。

井戸掘り方の平面形は、南北方向が若干長い円形を呈し、規模は南北方向が2.16m、東西方向が2.03mを測る。壁は、上半は緩やかに傾斜し、下半は楕円形の筒状になって垂直直みに落ち込んでいるようで、断面の形態がいわゆる「漏斗状」を呈すると思われる。

遺物は、調査した覆土上層から、古墳時代前期～平安時代前期の土師器や須恵器の小破片や、古墳



第13図 第9号井戸跡

時代の埴輪の小破片(No3・4)と、中世の常滑窯系甕の破片(No1)が少量出土しているが、これらはいずれも覆土埋没過程中に周辺から混入したものである。本井戸跡の時期は、遺構の上面しか調査していないため明確なことは解らないが、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、中世以降と推測される。

第9号井戸跡土層説明

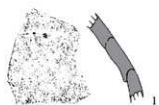
第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



第14図 第9号井戸跡出土遺物

第3表 第9号井戸跡出土遺物観察表

1	常滑窯系甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部内外面歪ナデ。D.白色粒。E.外-暗緑茶褐色、内-暗茶褐色。F.胴部破片。G.外面に降灰による淡緑色の自然軸がかかる。H.覆土中。
2	須恵器壺	B.粘土組織み上げ後ロ口整形。C.頸部内外面回転ナデ。D.長石、白色粒。E.内外-黒灰色。F.頸部破片。H.覆土中。
3	埴輪	B.粘土組織み上げ。C.外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒、雲母粒。E.内外-淡茶褐色。F.破片。H.覆土中。
4	埴輪	B.粘土組織み上げ。C.内外面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.外-明褐色、内-暗茶褐色。F.破片。H.覆土中。

3. 土 坑

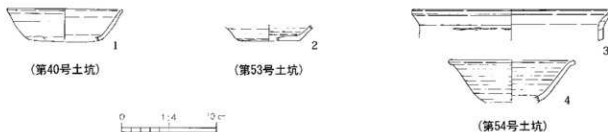
C2地点の調査区内からは、17基の土坑が検出されているが、性格や時期の詳細が分かるものはほとんどない(第16図、図版4～5)。形態は、隅丸長方形と楕円形を呈するものが主体で、それぞれ形態毎にまとまって群在する傾向が見られる。この中で隅丸長方形の土坑は、他地点のものと同じく、その長軸方向を南北方向と東西方向に向けるものがあり、その配置には規則性が窺える。個々の土坑の詳細は、以下のとおりである。

第4表 C2地点土坑一覧表

(単位はcm)

番号	平面形	規模	深さ	時代	出土遺物	備考
40	隅丸長方形	225×92	35	平安前期以降	土師器・須恵器破片多量。	
41	楕円形	110×89	10	平安前期以降	土師器破片少量。	43住を切る。
42	楕円形	80×52	37	平安前期以降	土師器破片少量。	

43	不整円形	77×70	35	平安前期以降	土師器破片1片。	
44	円形	65×69	56	古墳前期以降	土師器破片少量。	
45	不明	(178)×(54)	30	不明	なし。	
46	楕円形	80×62	52	不明	なし。	
47	(隅丸長方形)	(150)×93	20	平安前期以降	土師器・須恵器破片少量。	48土坑に切られる。
48	(隅丸長方形)	(95)×119	30	平安前期以降	土師器・須恵器破片少量。	47土坑を切る。
49	楕円形	62×51	38	不明	なし。	47土坑と重複。
50	楕円形	70×57	24	平安前期以降	土師器・須恵器破片少量。	
51	楕円形	74×60	62	不明	なし。	
52	(隅丸長方形)	(97)×68	20	平安前期以降	なし。	47住を切り、53土坑に切られる。
53	隅丸長方形	186×95	37	中世以降	かわらけ、土師器破片。	47住を切り、52土坑を切る。
54	隅丸長方形	108×70	30	平安前期後半以降	土師器、須恵器破片。	47住を切る。
55	(隅丸長方形)	(117)×(50)	27	不明	なし。	56土坑に切られる。
56	(隅丸長方形)	(182)×106	34	不明	なし。	55土坑を切る。



第15図 C2地点土坑出土遺物

第5表 C2地点土坑出土遺物観察表

1	環	A.口縁部径(12.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.器表面は荒れている。H.第40号土坑出土。
2	かわらけ	A.底部径(6.4)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部1/2弱。H.第53号土坑出土。
3	甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一明茶褐色。F.口縁部1/2破片。G.器表面は荒れている。H.第54号土坑出土。
4	高台付環	A.口縁部径(13.4)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡赤茶褐色。F.口縁部1/3。G.酸化焙焼成。H.第54号土坑出土。

第40号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径5～7cmのロームブロックを多量に、径1cm～径10cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第41号土坑土層説明

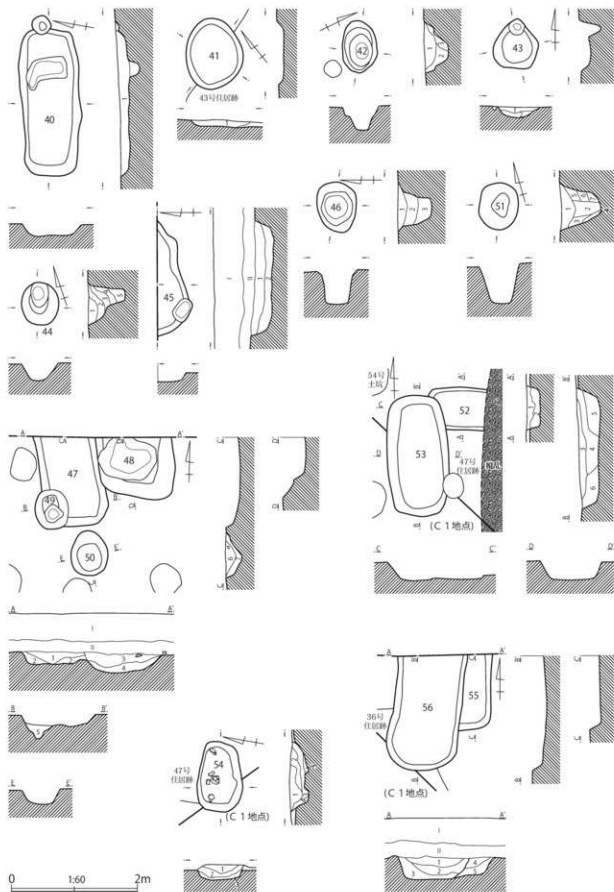
第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第42号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）



第16图 土坑

第43号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・炭化粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第44号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径5cm・径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第45号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径7cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第46号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第47・48・49・50号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第51号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（径7cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第52・53号土壌層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量、径7cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、径10cmのロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径7cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第54号土壌層説明

第1層：黒褐色土層（焼土粒子を多量、径3cmのロームブロック・径5cmの焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子を多量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第55・56号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、径5～7cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径10cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、径7cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

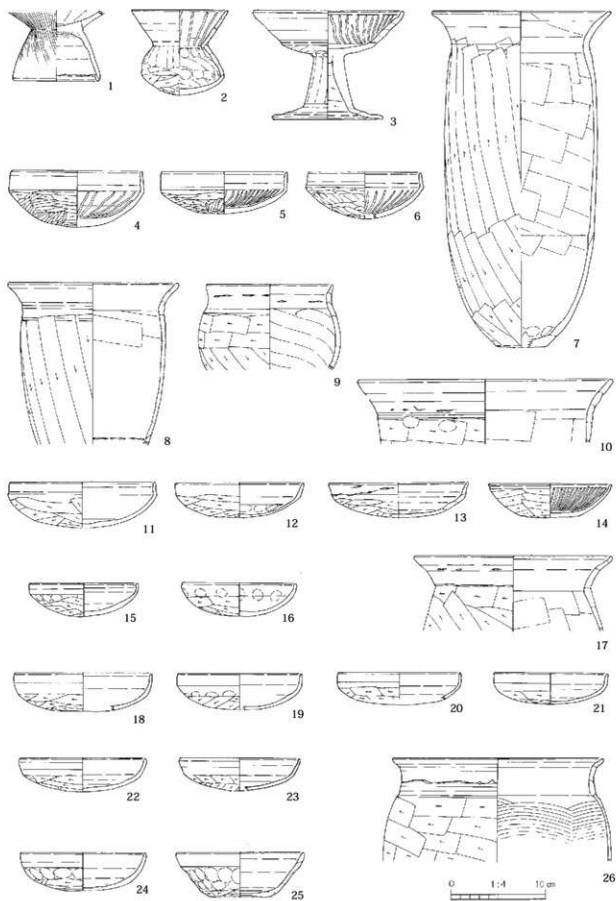
4. C2地点調査区内出土遺物

C2地点の調査では、調査区内出土遺物として、「表土一括」と記された土器が中型コンテナ4箱分あり、同地点の出土遺物の中では最も多い。これらの土器は、風化したものが見られず、完形に近いものや、破片が接合して器形が判明するものが多いことから、古くから耕作等によって表土層に紛れ込んだものではないと思われる。調査区内で検出された住居跡等の遺構の削平が強いことからすると、表土剥ぎ作業かその後の事故等によって、その帰属する遺構が不明になってしまった土器群と推測される。

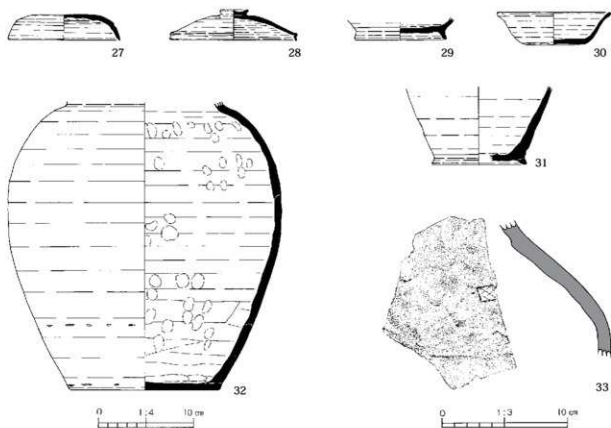
この「表土一括」土器(第17・18図)の時期は、古墳時代前期(No1)・中期前半(No2)・後期初頭(No3～6)・後期後葉(No7～10・27)、白鳳時代(No11～16)、奈良時代(No17～24・28・29)、平安時代前期(No25・26・30～32)、中世(No33)である。

第6表 C2地点調査区内出土遺物観察表

1	S字状口縁 台付甕	A.台端部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一暗灰褐色。F.台部のみ。G.台部内面頂部に砂を多量に含む粘土をナデ付け。H.表土一括。
2	小形直口壺	A.底部径(10.2)、器高9.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部外面ナデの後下半分ケズリ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3欠損。H.表土一括。
3	高 環	A.口縁部径(16.0)、器高11.5、脚端部径11.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。環部外面丁寧ナデ。脚柱部外面丁寧ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。H.表土一括。
4	模 倣 環	A.口縁部径13.8、器高6.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.4/5。H.表土一括。
5	模 倣 環	A.口縁部径13.4、器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後雑なミガキ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.4/5。H.表土一括。
6	模 倣 環	A.口縁部径(12.0)、器高(4.9)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4強。H.表土一括。
7	長 胴 甕	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明橙茶褐色、内一淡灰褐色。F.2/3。H.表土一括。
8	長 胴 甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.1/3。H.表土一括。
9	鉢	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒茶褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/3。H.表土一括。
10	大 形 甕	A.口縁部径(27.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.表土一括。
11	模 倣 環	A.口縁部径(15.4)、器高4.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.1/2強。H.表土一括。



第17図 C2地点調査区内「表土一括」出土遺物(1)



第18図 C2地点調査区内「表土一括」出土遺物(2)

12	模倣 坏	A.口縁部径13.6、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.表土一括。
13	模倣 坏	A.口縁部径14.8、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.4/5。H.表土一括。
14	暗文 坏	A.口縁部径(13.0)、器高3.5、底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.2/3弱。H.表土一括。
15	坏	A.口縁部径11.4、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4強。G.体部外面上半に指頭圧痕を残す。H.表土一括。
16	坏	A.口縁部径(12.2)、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一明黄茶褐色。F.1/2弱。H.表土一括。
17	長 胴 甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.表土一括。
18	坏	A.口縁部径14.6、器高(4.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.表土一括。
19	坏	A.口縁部径(13.2)、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.表土一括。
20	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。H.表土一括。
21	坏	A.口縁部径12.0、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一淡茶褐色。F.1/2。G.体部外面に黒痕あり。H.表土一括。
22	坏	A.口縁部径13.4、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗灰褐色、内一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.坏部外面に黒痕あり。H.表土一括。
23	坏	A.口縁部径(12.8)、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2弱。H.表土一括。
24	坏	A.口縁部径13.2、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。H.表土一括。

25	環	A.口縁部径(13.6)、器高4.7、底部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ、底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡粒白色、内一淡粒褐色。F.1/2弱。G.外面に黒斑あり。H.表土一括。
26	甕	A.口縁部径(22.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.表土一括。
27	須恵器 蓋	A.口縁部径11.8、器高2.7。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面一定方向のナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.1/2。H.表土一括。
28	須恵器 蓋	A.口縁部径(13.4)、器高3.2。B.ロクロ成形。揃み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ。D.褐色粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.1/3。H.表土一括。
29	須恵器 高台付埴	A.高台部径9.8。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.高台部1/2。H.表土一括。
30	須恵器 環	A.口縁部径(12.0)、器高3.5、底部径(6.8)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外一淡灰色。F.口縁部1/4。H.表土一括。
31	須恵器 壺	A.高台部径(10.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。高台部貼り付け。C.胴部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.小石(長石)、白色粒。E.内外一暗灰色。F.底部1/4。G.未野産。H.表土一括。
32	須恵器 壺	A.残存高31.3、底部径(16.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.胴部外面回転ナデの後下半ナデ、内面回転ナデの後回転ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.1/4。H.表土一括。
33	常滑窯系 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.外一緑茶褐色、内一暗茶褐色。F.胴部破片。G.外面に降灰による淡緑色の自然釉がかかる。外面に押印文あり。H.表土一括。



C2地点全景(東より)

第IV章 C3地点の調査

第1節 C3地点の概要

C3地点は、第III章で述べたC2地点と都市再生機構(U R)の発掘調査経費負担箇所である都市計画道路建設部分のC1地点(松本・的野2010)を挟んでその西側に位置している。C3地点の南側には第V章で述べるC4地点が隣接し、東側には都市再生機構(U R)の発掘調査経費負担箇所である都市計画道路建設部分のF1地点(松本・的野2010)を挟んで、第VI章で述べるF2地点とF3地点が位置している(第5図)。調査区は、標高が調査区北端で59.6m、調査区南端で59.0mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜する地形であるが、調査区南側の第7・14・15・17号溝跡の南側は、後世の水田開発によって削平され、一段低くなっている。

調査区内で検出された遺構は、竪穴式住居跡120軒、掘立柱建物跡14棟、井戸跡8基、土坑301基、柵列跡2、溝跡8条である。これらの遺構は、古墳時代前期～江戸時代後期頃までのもので、調査区内での分布密度が非常に高く、ほぼ全域から激しく重複して検出されている(第19図)。

古墳時代の遺構は、竪穴式住居跡67軒(前期29・中期10・後期28)、土坑10基(前期2・中期1・後期7)である。前期の住居跡は、前期中葉から末までのものがあるが、主体は末頃のものである(第22図)。これらの中には、住居内施設をもたず、厳密には住居と言えないものもある。住居跡は、調査区の東側、中央部、西側の3カ所に分布のまとまりが見られ、いずれも同時期同士の住居跡の重複が顕著である。注目されるものとしては、第103号住居跡・第130号住居跡・第172号土坑から、畿内地方を故地とする布留式の甕の破片が出土している。布留式の甕は、この他にC4地点の河川跡からも出土しているが、これらは胎土材料の観察から、搬入品ではなく、本遺跡の周辺で製作されたものと推測されている(第VII章第4節参照)。また、当地域では小型精製土器三種の中の有段口縁鉢がほとんど見られないことが地域の特徴であるが、第222号土坑からはこの有段口縁鉢の破片が出土している。

中期の住居跡は、調査区の中央部に分布のまとまりが見られ、同時期同士の住居跡の重複が顕著である(第22図)。該期の住居跡には、炬をもつものとカマドをもつものがあるが、相互の重複関係では後者が前者を切っており、時間差が認められる。注目されるものとしては、前者の炬をもつ第85号住居跡の床面付近から、鉄製の曲刃鎌が1点出土している。

後期の住居跡は、調査区のほぼ全域に見られる(第22図)。後期初頭(5世紀末)から末(7世紀前半)頃までであるが、6世紀前葉頃の時期のものはほとんど見られないようである。カマドは、住居の北か東に付設されるものが大半で、住居の向きに画一性が見られるようになる。注目されるものとしては、本遺跡では埴輪の破片が比較的多く出土している。これは、北側に隣接する久下東遺跡も同様で、おそらく西側に隣接する東富田古墳群との密接な関係性によるものと思われる。また、第119号住居跡からは、群馬県北部から東北部地方の影響と思われる内面を黒色処理した高坏の破片が出土し、第90号土坑からは、本遺跡のC1地点第42号住居跡から出土した土製品(松本・的野2010)と形態や文様がほぼ同一の、鏡形土製品の破片が出土している。

白鳳時代の遺構は、竪穴式住居跡21軒、掘立柱建物跡2棟、土坑1基である(第22図)。住居跡は、調査区のほぼ全域に分布している。大半の住居跡は、カマドが住居の東側に付設され、地形の等高線に並行する東西方向に向くものが主体である。掘立柱建物跡は、2間×3間の長方形の側柱式建物



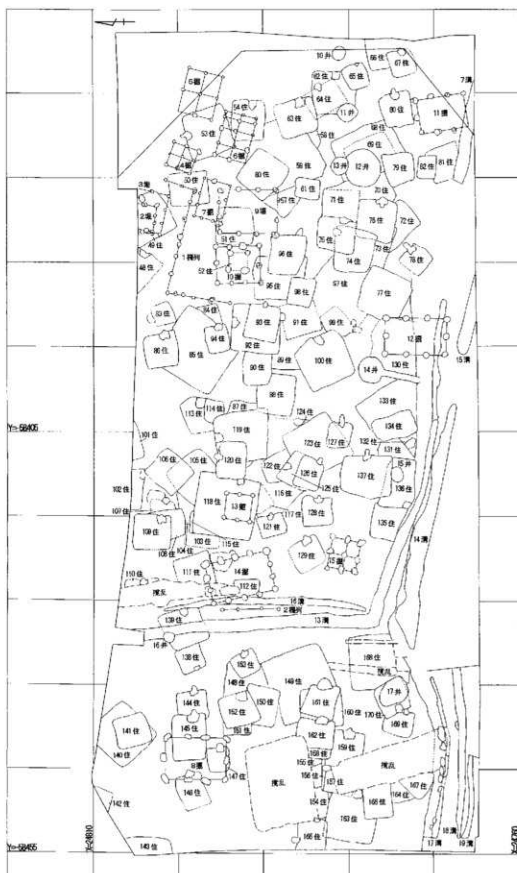
第19图 C3地点全体图

(第11号掘立柱建物跡)と、2間×2間の方形の総柱式建物(第15号掘立柱建物跡)であり、いずれも近隣の住居跡と建物の向きを揃えている。後者の総柱式建物は、住居跡とやや距離を置いた配置をとっていることから、倉庫の可能性も考えられる。

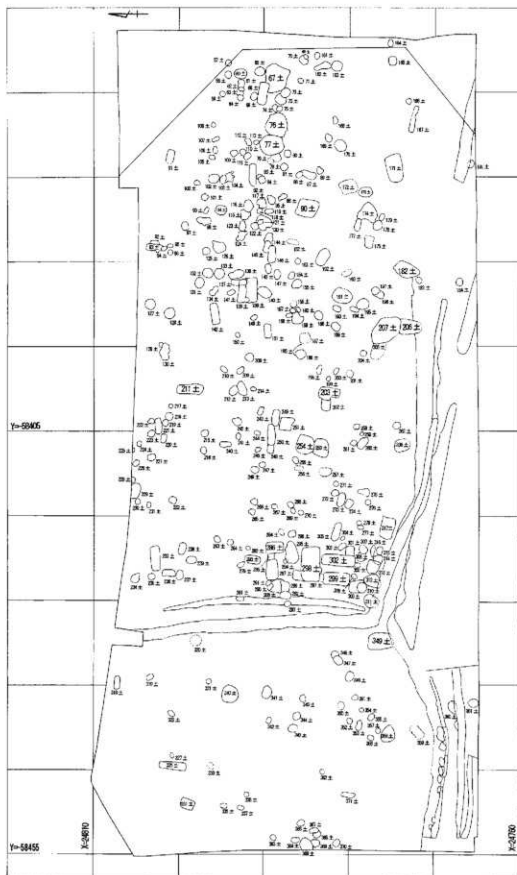
奈良時代の遺構は、竪穴式住居跡19軒、掘立柱建物跡5棟、井戸跡1基、土坑11基である(第23図)。住居跡は、調査区の東側、中央部、西側の3カ所にまとまって分布しており、それぞれ同時期同士の住居跡の重複頻度が高い。カマドはすべて住居の東側に付設され、ほとんどが東西方向に向いている。掘立柱建物跡は、3間×4間、3間×3間、2間×3間の長方形の側柱式建物と、1間×2間の方形の側柱式建物である。調査区西側に位置する第8号掘立柱建物跡は、柱穴掘り方が隅丸長方形で、コーナー部の柱穴掘り方が45°傾いており、他の建物跡の柱穴掘り方は形態が異なっている。遺物として注目されるものは、鈎帯金具の巡方(第76号住居跡)と丸柄(第89号住居跡)が出土している。

平安時代の遺構は、竪穴式住居跡11軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡5基、土坑21基である(第23図)。時期は、前期から中期初頭頃までのものが見られるが、主体は前期のものである。住居跡は、奈良時代と同様に、調査区の東側、中央部、西側の3カ所に別れて分布しているが、前時代に比べて同時期同士の住居跡の重複頻度は低いようである。カマドは、白鳳時代～奈良時代の住居跡と同じく、すべて住居の東側に付設され、ほとんどが東西方向に向いている。掘立柱建物跡は、2間×3間の長方形の側柱式建物(第10号掘立柱建物跡)で、白鳳時代や奈良時代の建物跡と同じく、建物の長軸方向を南北に向けている。井戸跡は、調査区南側寄りの東西方向に走る標高60m付近の等高線上に、間隔をもって並ぶような配置をとっている。この中の大形の第14号井戸跡は、南側の低地に向かって等高線に直交する流路をとる直線的な溝を伴っていることから、いわゆる溜井と考えられる灌漑施設で、おそらく他の井戸も同じような目的で掘削された可能性が高いと思われる。注目されるものでは、第54号住居跡の覆土中から、被熱痕のある八稜鏡の破片が出土している。

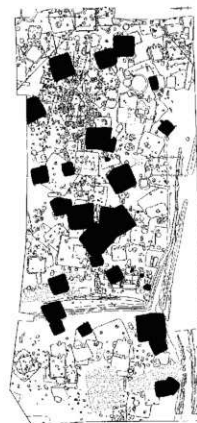
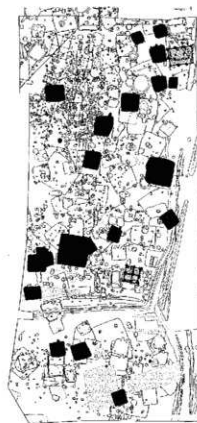
中世後半～近世前半の遺構は、掘立柱建物跡6棟、柵列跡1、井戸跡1、火葬墓2基、土坑6基、溝跡4条である(第23図)。これらの遺構は、相互に関係して、溝によって区画された屋敷地を構成していたと考えられる。屋敷地の区画は、第7号溝跡と第13号溝跡による区画と、第14号溝跡と第15号溝跡による区画の2時期が考えられる。この区画は、調査区北側に隣接する久下東遺跡のG1地点(松本2013)・G2地点(未報告)・G3地点(松本他2015)や北堀新田遺跡A2地点(松本他2015)、調査区東側に隣接する久下前遺跡のC1地点(松本・約野2010)・F1地点(松本2013)に及んでおり、当初の段階は東西・南北方向に向いた一辺75m～80mの不整四角形の形態であったようである。この屋敷地を圍繞する区画溝の中で、当調査地点の第7号溝跡と第13号溝跡、第14号溝跡と第15号溝跡の間には、それぞれに溝が途切れた部分があることから、屋敷地の南側に入口があったことが窺える。掘立柱建物跡は、調査区の北東側にまとまって検出されている。一部に建物の重複が見られるが、比較的整然と並んだ配置をとっている。いずれも建物の長軸方向を東西に向けており、その向きが南側の区画溝(第7・13・14・15号溝跡)の方向と一致していることから、屋敷地の区画形態に規制された建物配置であることが窺える。また、これらの建物群の内、西側の第2・3号建物跡と第4号建物跡の間と、第2・3号建物跡と第7号建物跡の間には、建物の方向に合わせた連続するクランク状の第1号柵列跡がある。火葬墓2基(第239・240号土坑)は、建物群のない屋敷地の西側に位置している。いずれも南北方向に長い楕円形や隅丸長方形を呈している。炭化材と骨片のみで副葬品は見られない。



第20図 C3地点遺構配置図I (住居・掘立柱建物・井戸・溝・柵列)

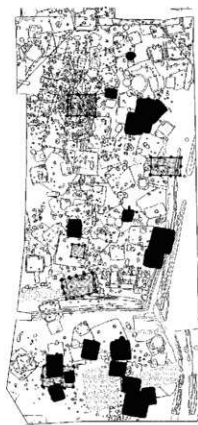


第21図 C3地点遺構配置図II(土坑)

古墳時代
(前期)古墳時代
(中期)古墳時代
(後期)

白鳳時代

第22図 C3地点時期別遺構分布図(1)



奈良時代



平安時代
(前期)



平安時代
(中期)



中世以降

第23図 C3地点時期別遺構分布図(2)

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第48号住居跡（第24図、図版8）

C3地点の調査区東側の北端に位置する。東側には第49号住居跡が近接している。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。本住居跡の上には、強く掘平を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

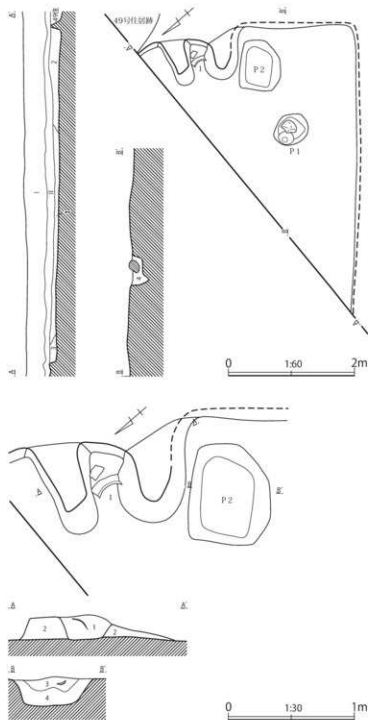
平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南東から北西方向が4.70mまで、南西から北東方向が3.56mまで測れる。住居跡の主軸方向は、 $N-131^{\circ}-E$ を向いている。壁は、大半が削平されているため不明であるが、調査区壁面の土層観察では、直線的に若干傾斜して立ち上が

第48号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第48号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：カマド袖。
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・径5cmの灰白色粘土ブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

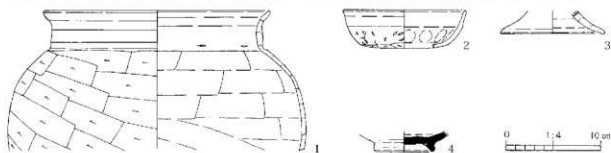


第24図 第48号住居跡

っており、確認面からの深さは最高17cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、2ヶ所検出されている。P1は、その位置から住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の可能性が考えられる。形態は、58cm×50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。ピット内からは、長さ20cm程度の角状の川原石が1個出土しており、地域の古代竪穴式住居跡にはあまり例がないが、柱の根固めに使用された可能性もある。P2は、カマド右側に近接して位置しており、一応貯蔵穴と思われる。81cm×68cmのやや不整の長方形ぎみの形態で、床面からの深さは23cmある。

カマドは、住居南東側壁に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長75cm、最大幅140cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、古墳時代的なカマドの形態を呈している。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。袖は、暗灰色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに掘平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や貯蔵穴と推測されるP2内から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と考えられる。



第25図 第48号住居跡出土遺物

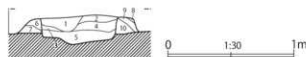
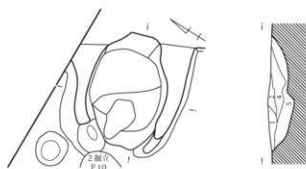
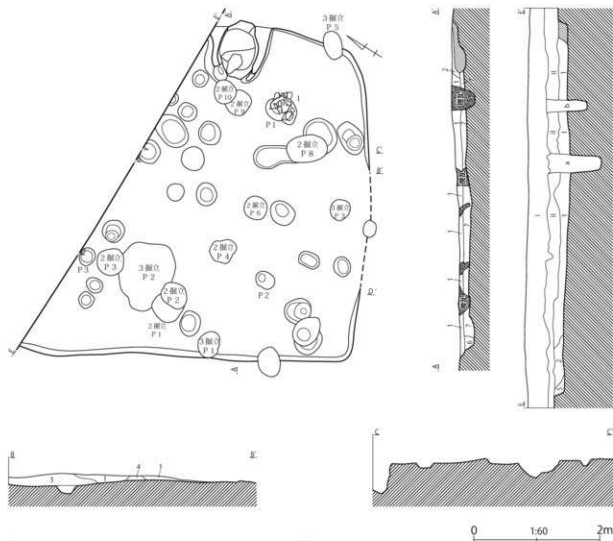
第7表 第48号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。H.カマド内。
2	杯	A.口縁部径(13.0)。器高4.1、底部径(9.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。G.環部内面に指頭圧痕を残す。F.1/4。H.カマド内。
3	小形台付甕	A.台端部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.台部1/4。H.カマド内。
4	須恵器 高台付塊	A.高台部径6.4。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.高台部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.高台部のみ。H.貯蔵穴(P2)内。

第49号住居跡(第26図、図版8)

C3地点の調査区東側の北端に位置する。西側には第48号住居跡が近接している。第2号掘立柱建物跡や第3号掘立柱建物跡と重複し、それらによって切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が5.27m、北西～南東方向は5.32mまで測れる。住居跡の主軸方向は、N-64°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高17cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色



第49号住居跡土層説明

第Ⅰ層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ローム粒子を微量含む。）

第Ⅱ層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

第a層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第b層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。）

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、径0.5cmのロームブロックを微量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径0.5～5cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化粒子を少量含む。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmの炭化物を微量含む。）

第6層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第7層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第26図 第49号住居跡

第49号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を多量含む。）
 第2層：赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化粒子を少量含む。）
 第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を含む。しまりを有する。）
 第7層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・粘質ロームの混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第10層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

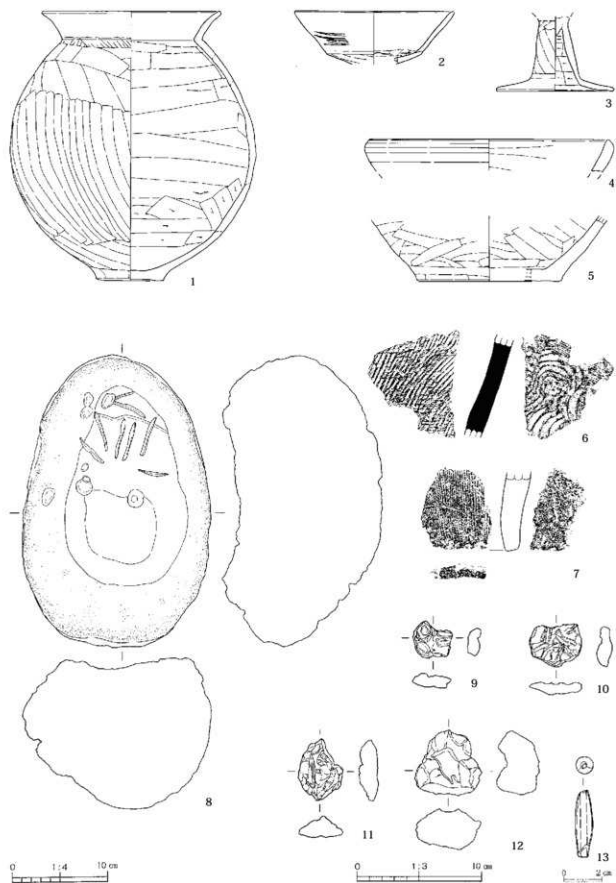
土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、その多くは中世以降のもので、確実に本住居跡に伴うものは明確ではない。このうちP1～P3は、住居のほぼ対角線上に配置されていると思われることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴を構成する可能性が高い。形態は、長さ30cm～50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは14cm～27cmある。P1の上面からは、No1の甕が破片になって出土している。

カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長98cm、最大幅101cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗灰色粘土ブロックとロームブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、覆土中から古墳時代後期初頭頃の土器が少量出土している。土器以外では、土鍾（No13）のほか、焼成された小さな不定形の粘土塊（No9～12）が数点出土している。また、覆土中から混在して出土している中世の在産片口鉢の破片（No4・5）や角閃石安山岩の窪み石（No8）は、重複する中世の第2号掘立柱建物跡や第3号掘立柱建物跡に関係するものと思われる。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭（5世紀末）頃と考えられる。

第8表 第49号住居跡出土遺物観察表

1	胴 張 甕	A.口縁部径18.9。器高28.6。底部径7.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデ。内面篋ナデの後下半ケズリ。底部外面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡黄褐色。F.3/4。H.P1上。
2	高 坏	A.口縁部径16.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.坏部1/8。H.覆土中。
3	高 坏	A.脚端部径12.4。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面篋ナデ。内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一橙褐色。F.脚部3/4。H.覆土中。
4	在 地 産 片 口 鉢	A.口縁部径26.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。内面篋ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
5	在 地 産 片 口 鉢	A.底部径15.3。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。底部外面回転系切り後篋ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.底部1/4。H.覆土中。
6	須 恵 器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き（平行叩き目）、内面当道具痕（青海波文）を残す。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一黄灰色、内一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
7	埴 輪	B.粘土組織み上げ。C.外面ハケの後下端叩き、内面当ナデの後下端ケズリ。D.片岩粒、石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.基部破片。H.覆土中。
8	窪 み 石	A.長さ31.0。最大幅20.0。最大厚16.5。重さ6350g。B.自然石を利用。C.表面に凹穴を伴う。D.角閃石安山岩。F.完形。H.第3号掘立柱建物跡P1内。
9	粘 土 塊	A.長さ2.9。最大幅3.1。最大厚1.2。重さ7.0g。B.手握ね。C.未調整。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色。F.破片。H.覆土中。



第27图 第49号住居跡出土遺物

10	粘土塊	A.長さ3.4、最大幅4.1、最大厚1.2、重さ10.71g。B.手捏ね。C.未調整。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡橙褐色。F.破片。H.覆土中。
11	粘土塊	A.長さ4.9、最大幅3.6、最大厚1.7、重さ15.44g。B.手捏ね。C.未調整。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡黄褐色。F.破片。H.覆土中。
12	粘土塊	A.長さ5.2、最大幅5.3、最大厚3.3、重さ61.88g。B.手捏ね。C.未調整。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡橙褐色。F.破片。H.覆土中。
13	土 錘	A.長さ3.6、最大径0.9、重さ2.74g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。

第50号住居跡（第28図、図版8）

C3地点の調査区東側の北寄りに位置している。第4号掘立柱建物跡・第7号掘立柱建物跡・第100号土坑・第101号土坑と重複し、それらによって切られている。本住居跡の上面はかなり強く削平され、また住居跡内を多くのピットに切られているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った隅丸長方形を呈している。規模は、南北方向が4.56m、東西方向が3.78mある。住居跡の主軸方位は、炉の位置から見てN-82°-Eの方向を向くと思われる。壁は、遺存状態が悪いため明確ではないが、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは7cm程度ある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。ピットは、P1～P4が住居のほぼ対角線上に位置していることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と想定される。形態は、長さが30cm～46cmの楕円形を呈し、床面からの深さは15cm～47cmある。柱穴覆土の土層観察の結果では、一部の主柱穴の覆土中に柱痕が見られる。

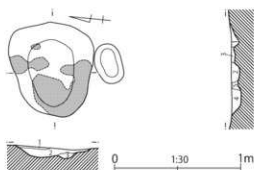
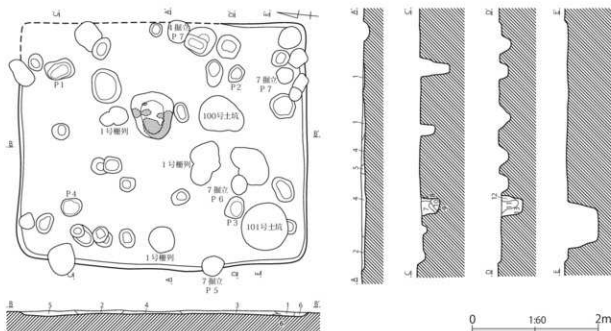
炉は、床面を皿状に掘り窪めた地皿炉で、住居中央のやや東側寄りに位置する。平面形は、72cm×69cmの不整形形を呈し、床面からの深さは8cmある。住居の中央部側に近い炉の西側半分が良く焼けて赤色化している。炉内及び周辺には、炉の付帯施設は見られなかった。住居跡にカマドを伴う時期であるが、カマドの付設は確認できなかったようである。

遺物は、古墳時代前期～中世にわたる土器の破片が、住居の覆土中から多く混在して出土しているが、主体は白鳳時代のもの(No1・2・4・5・6)である。No3とNo7は、平安時代のものであるが、この内のNo7の片口鉢は10世紀末～11世紀初頭頃の土釜と作りや胎土が類似するものである。No8とNo9のかわらけは、その色調や精選された胎土の特徴から、中世前半の13世紀後半～14世紀前半頃のものと思われる。土器以外では、古墳時代後期の形象埴輪の破片(No11)や、時期不明の小形の土錘(No14)、管玉のような装飾品の一部と思われる土製品(No15)、鉄滓(No13)が1点ずつ出土している。また、No12の須恵器大甕の胴部破片は、破片上下の割れ口断面に二次調整を加えて平坦にし、内面の青海波文の当道具痕を擦り目にした、卸し板として再利用したものである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代頃と推測される。

本住居跡は、該期の一般的な住居跡と異なって、カマドを持たずに住居中央に炉を伴っている。建物の具体的な性格を示すような遺物は特定できないが、カマドを伴わないとすると、一般的な居住施設ではなく工房的な性格の建物ではないかと思われる。

第9表 第50号住居跡出土遺物観察表

1	長 割 甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明茶褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
---	-------	--



第50号住居跡炉跡土層説明

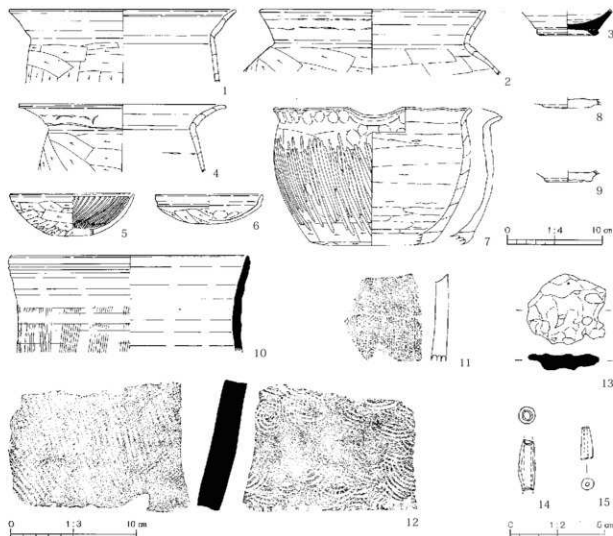
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第3層：赤褐色土層（被熱赤化した焼土。）
 第4層：褐色土層（暗褐色土・黒褐色土とロームの斑状の混合土。）
 第5層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームブロックを少量含む。）

第28図 第50号住居跡

第50号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、0.5～5cmのロームブロックを微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～4cmのロームブロックを微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第9層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土ブロック・ローム粒子を含む。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1～8cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）

2	羽 張 費	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 覆土中。
3	須 患 器 高台付 坏	A. 高台部径6.6。B. ロック成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
4	長 羽 費	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡褐色、内一明茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。



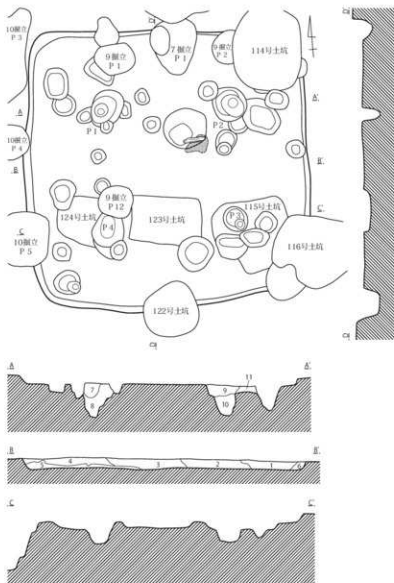
第29図 第50号住居跡出土遺物

5	暗文環	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後下端ミガキ、内面ナデの後斜行暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
6	模倣環	A.口縁部径11.4、器高3.1。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
7	片口鉢	A.口縁部径(21.0)、器高14.4、底部径(13.0)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部外面指押さえの後ナデ、内面ナデ。胴部外面ナデ・下端ケズリの後複雑なミガキ、内面上半荒ナデ・下半指ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
8	かわらけ	A.底部径(5.0)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部1/2。H.覆土中。
9	かわらけ	A.底部径(4.9)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
10	須恵器大甕	A.口縁部径(25.4)。B.粘土組積み上げ後叩き。C.口縁部外面回転ナデの後ハケ、内面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡灰白色。F.口縁部1/6弱。H.覆土中。
11	形象埴輪	B.ロクロ成形。C.外面ハケ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一明黄褐色。F.破片。H.覆土中。
12	須恵器大甕	B.粘土組積み上げ後叩き。C.外面平行叩き目、内面当て道具痕(青海波文)。D.白色粒。E.外一黒灰色、内一暗灰色。F.破片。G.破片の上下断面は、二次調整を加えて平坦化している。内面はよく擦れて磨滅しており、卸し板に転用された可能性が高い。H.覆土中。
13	鉄滓	A.長さ5.7、最大幅6.2、厚さ1.3、重さ67.1g。F.完形。H.覆土中。
14	土錘	A.残存長さ2.6、最大径0.9。B.手捏ね。C.表面ナデ。D.白色粒。E.外一暗褐色。F.両端部欠損。H.覆土中。
15	土製品	A.長さ1.7、最大幅0.6。B.手捏ね。C.表面ナデ。D.白色粒。E.外一茶褐色。F.完形。H.覆土中。

第51号住居跡（第30図、図版9）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置している。第7・9・10号掘立柱建物跡や第115・116・122～124号土坑と重複し、それらによって切られている。本住居跡の上面はかなり強く削平され、また住居跡内を多くのピットに切られているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部の丸みが強い隅丸方形を呈している。規模は、南北方向が4.54m、東西方向が4.65mある。住居跡の主軸方位は、炉の位置から見て $N-1^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cm程度ある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。ピットは、P1～P4が住居のほぼ対角線上に位置していることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と想定される。形態は、長さが45cm～64cmの楕円形を呈し、床面からの深さは34cm～55cmある。P1とP3の柱穴底面には、小ピット状の柱痕が見られる。



第51号住居跡土層説明

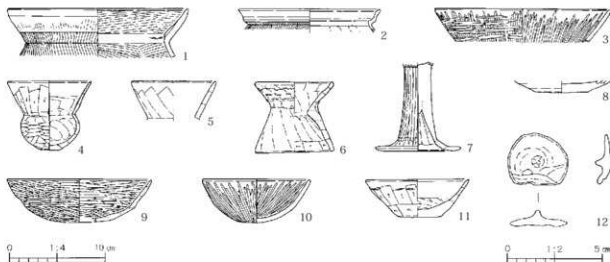
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～10cmのロームブロックを含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
- 第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第9層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
- 第10層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

0 1.60 2m

第30図 第51号住居跡

炉は、主柱穴P1・P2間の住居中央部に位置する。住居の床面を若干掘り窪めた地皿炉で、70cm×68cmの円形を呈している。炉の住居中央部側には、長さ40cm×幅7cm程度の棒状の炉石が設置されており、その周辺は焼けて赤色化している。

遺物は、住居周辺部の床面上や住居跡の覆土中から、古墳時代前期を主体とする土器が出土している。土器以外では、中央に突起か摘みの付いた、鏡か蓋のミニチュアと推測される円形の小形土製品が、覆土中から1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第31図 第51号住居跡出土遺物

第10表 第51号住居跡出土遺物観察表

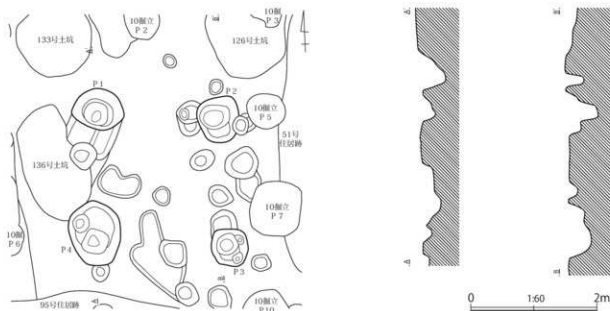
1	甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部内外面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(15.0)。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
3	高 杯	A.口縁部径(18.6)。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部外面ケズリの後雑なミガキ、内面ナデの後ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	小形直口壺	A.口縁部径8.8、器高7.3、底部径2.0。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後ケズリ、内面ナデの後上半分ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.完形。H.床面直上。
5	小形直口壺	A.口縁部径9.0。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後外面ナデ。D.白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	器 台	A.口縁部径8.4、器高7.5、台端部径8.3。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ナデ。台部外面ナデ、内面指ナデの後下端ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-淡褐色。F.完形。H.床面直上。
7	高 杯	A.残存高9.4、脚端部径(9.0)。B.粘土粗積みみ上げ。C.脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外-黒茶褐色。F.脚部のみ。H.覆土中。
8	かわらけ	A.底部径5.6。B.口コウ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外-淡褐色。F.底部のみ。H.ビツ内。
9	小形浅鉢	A.口縁部径15.2、器高4.5。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ミガキ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
10	碗	A.口縁部径(11.4)。器高4.6、底部径2.5。B.粘土粗積みみ上げ。C.内外面ナデの後ミガキ。底部外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡橙褐色、内-淡褐色。F.完形。H.床面付近。
11	杯	A.口縁部径11.0、器高4.0、底部径4.6。B.粘土粗積みみ上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
12	ミニチュア土製品	A.最大径3.2、高さ0.8。B.手摺ね、突起(摘み)貼り付け。C.表裏面ともナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.完形。G.鏡あるいは蓋のミニチュアか?。H.覆土中。

第52号住居跡（第32図）

C3地点の調査区東側の中央付近に位置する。ほぼ2m間隔の方形の配置をとるピットのP1～P4が、住居の4本主柱の柱穴の可能性が高いと考えられたことから、住居跡の存在が推測されたもので、住居跡の壁やピット以外の住居施設は見られないようである。4本主柱の柱穴と推測されるP1～P4は、長さ60cm～105cmの楕円形や隅丸長方形を呈しており、確認面からの深さは30cm～50cmある。

遺物は、柱穴覆土中から、古墳時代前期～平安時代前期の土器の小破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡に伴うと断定できる遺物がないため不明であるが、柱穴覆土中に混入して出土した土器破片の様相から、平安時代前期以降と推測される。

本住居跡は、方形の配置をとる4本主柱の柱穴だけ残存していると考えられているが、1間×1間の掘立柱建物跡や物見台などの建造物の可能性も考慮する必要がある。

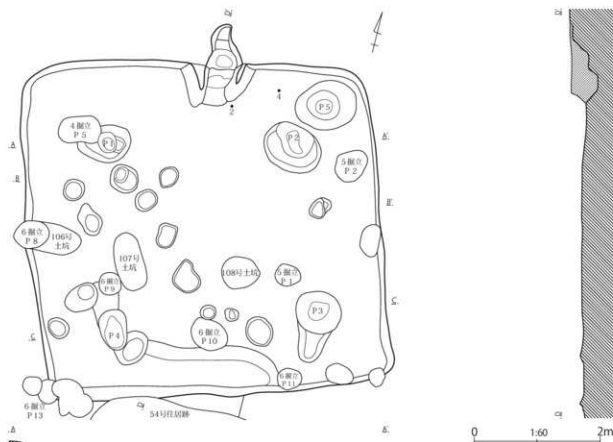


第32図 第52号住居跡

第53号住居跡（第33図、図版9）

C3地点の調査区東側の東端に位置している。第4・5・6号掘立柱建物跡や第106・107・108号土坑と重複し、それらによって切られている。本住居跡の上面はかなり強く削平され、また住居跡内を多くのピットに切られているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ平行四辺形状に歪んだ方形を呈している。規模は、南北方向が5.35m、東西方向が5.60mある。住居跡の主軸方位は、N-18°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で21cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、P1～P4が住居のほぼ対角線上に位置することから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。形態は、長さが64cm～95cmの楕円形を呈し、床面からの深さは35cm～54cmある。P1とP2の柱穴覆土は、いずれも土層堆積の状況が



第53号住居跡土層説明

第1層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第2層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）

第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）

第5層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）

第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第8層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。）

第10層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第11層：黄褐色土層（径0.5～7cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第12層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・炭化粒子を多量含む。）

第15層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、炭化粒子を微量含む。）

第16層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）

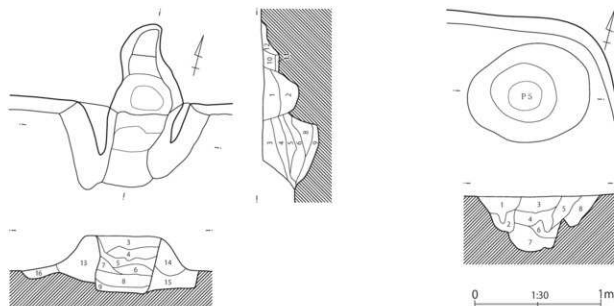
第17層：褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第18層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

第19層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）

第20層：暗褐色土層（径2cmのロームブロックを微量含む。）

第33図 第53号住居跡



第34図 第53号住居跡カマド・貯蔵穴

第53号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、炭化粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。ローム粒子を多量、径0.5cmの炭化物・焼土粒子を少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化粒子を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（焼土ブロックを多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土ブロックを微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第11層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第12層：暗褐色土層（径1.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第13層：暗褐色土層（粘質土を主に、ロームブロック・ローム粒子・ローム粒子を多量、炭化粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（粘質土を多量含む。しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（径0.5～3.5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

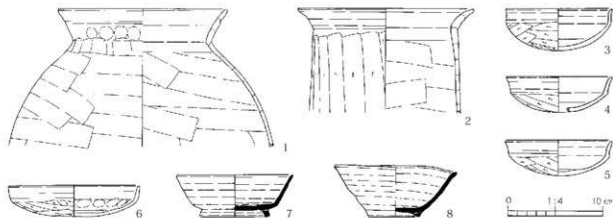
第53号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径4～5cmのロームブロックを含む。しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量含む。）

自然堆積を示すことから、おそらく住居廃絶後に柱は抜き取られた可能性が高いと思われる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置している。110cm×80cmの楕円形を呈し、床面からの深さは46cmある。

カマドは、住居北側壁のほぼ中央付近に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長140cm、最大幅122cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼部奥壁と煙道部の境付近を、後世のピットに切られている。燃焼部は、住居の床面よりも一段低く、奥壁はやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、緩やかに傾斜して壁外に延び、先端部は削平されている。

遺物は、カマド内や住居の床面付近から古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃の土器(No1~5)、住居跡の覆土中から奈良時代(8世紀)後半頃(No6・7)と、平安時代前期(9世紀)末頃(No8)の土器が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃と考えられる。



第35図 第53号住居跡出土遺物

第11表 第53号住居跡出土遺物観察表

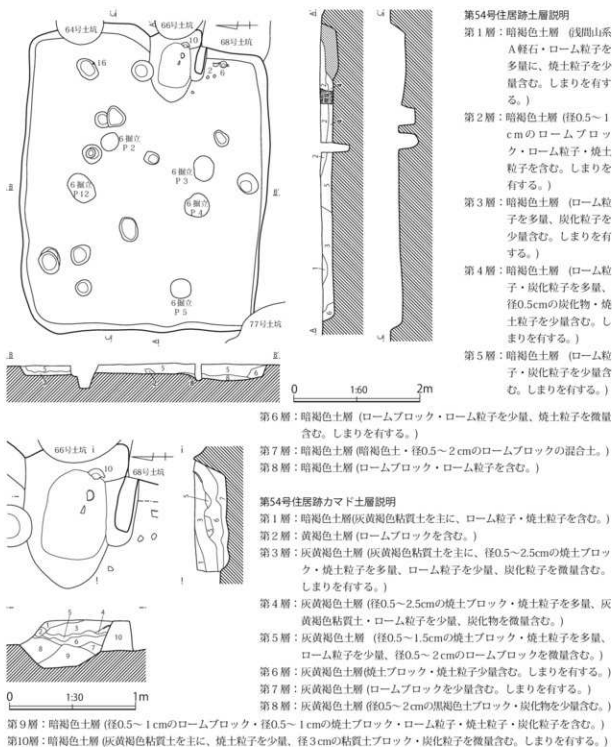
1	胴張甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外—淡黄橙褐色、内—淡茶褐色。F.上半1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
2	長胴甕	A.口縁部径(18.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.床面付近。
3	模倣坏	A.口縁部径(11.2)。器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—明橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
4	模倣坏	A.口縁部径(11.2)。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡橙褐色。F.口縁部1/2弱。H.床面付近。
5	模倣坏	A.口縁部径(11.2)。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(13.8)。器高3.2。B.曲げ成形。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.2/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
7	須恵器高台付埴	A.口縁部径(12.4)。器高4.4。高台部径(7.4)。B.ロコロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D.黒色粒。E.外—暗灰色、内—灰白色。F.1/4。H.覆土中。
8	須恵器高台付坏	A.口縁部径13.0。器高5.4。高台部径(5.5)。B.ロコロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外—暗灰色。F.1/2。H.覆土中。

第54号住居跡(第36図、図版9)

C3地点の調査区東側の東端に位置している。第6号掘立柱建物跡・第64・66・68・77号土坑と重複し、それらによって切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.88cm、南北方向

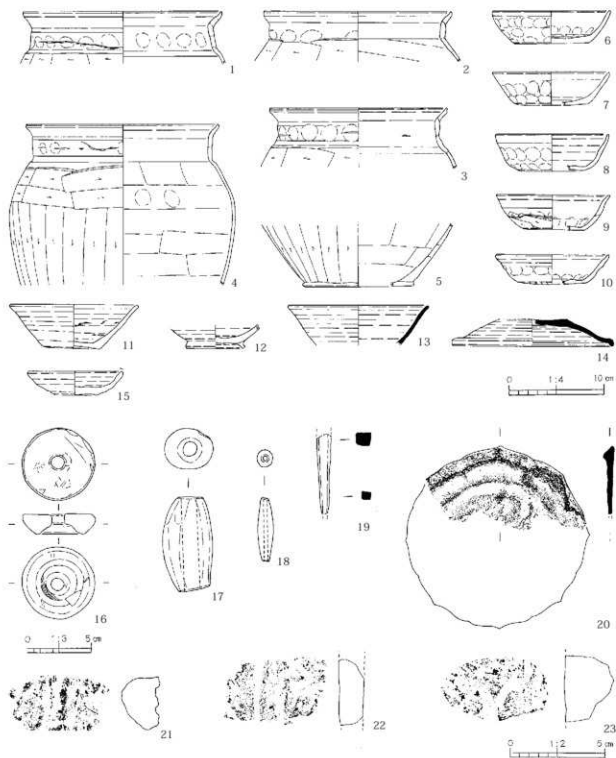
が3.95cmある。住居の主軸方位は、N-92°-Eを向いている。壁は、傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。住居東側壁は、カマドの左右で壁の位置が若干異っており、いわゆる段違い壁のようにになっている。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、本住居跡に伴うものは



第36図 第54号住居跡

明確ではない。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、残存長117cm、残存幅90cmある。燃焼部は、住居の壁を若干掘り込んでいるが、大半は住居内にある。壁面は、あまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く、ほぼ水



第37図 第54号住居跡出土遺物

平に作られている。奥壁はやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、右側袖だけが残存しており、暗褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、第66号土坑に切られ、残存していなかった。本住居跡のカマドは、燃焼部の大半が住居壁内にあり、袖が住居の壁に直接貼り付けて構築しているなど、その形態や構築技法がいわゆる古墳時代的な古いカマドの構造的特徴が見られる。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、平安時代前期(9世紀)後半を主体とする土器の破片が多く出土している。土器以外では、土製品の土製紡錘車(No16)・土鍾(No17・18)・粘土塊(No21~23)、金属製品の鉄釘(No19)や銅製の八稜鏡の破片(No20)が出土している。この八稜鏡の破片は、住居跡内での出土位置が不明であるが、被熱による変形や表面に発泡が見られることから、他所から本住居跡の覆土中に混入したものと推測される。また、住居跡の覆土中から、中世前半頃のかかわりの破片(No15)も1点出土している。本住居跡の時期は、カマドの形態に古墳時代的な古い特徴が見られるものの、出土遺物の様相からは平安時代前期(9世紀)後半と考えられる。

第12表 第54号住居跡出土遺物観察表

1	糞	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部内外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
2	糞	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	糞	A.口縁部径(18.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4強。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
4	糞	A.口縁部径20.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一明褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/2。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
5	糞	A.底部径11.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗褐色。内一淡茶褐色。F.胴部下半1/2。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径12.6。器高3.6。底部径(7.7)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(12.4)。器高3.5。底部径(7.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
8	坏	A.口縁部径(12.0)。器高4.0。底部径(6.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面未調整。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径12.0。器高3.7。底部径6.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	坏	A.口縁部径(12.0)。器高3.2。底部径(7.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
11	坏	A.口縁部径(10.0)。器高2.5。底部径5.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.雲母粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。G.還元不良。H.覆土中。
12	高台付坏	A.高台部径6.2。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一淡茶褐色。F.高台部1/2 G.還元不良。H.覆土中。
13	須恵器 碗	A.口縁部径(15.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一淡茶褐色。F.口縁部1/4強。H.カマド内。
14	須恵器 蓋	A.口縁部径13.6。器高4.7。底部径6.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一灰茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
15	かわらけ	A.口縁部径(10.0)。器高2.5。底部径5.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.雲母粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。H.覆土中。
16	土製紡錘車	A.上面径5.8。下面径3.9。高さ1.6。重さ53.4g。B.手捏ね。C.ケズリの後ナデ。D.白色粒。E.外一灰褐色。F.完形。H.床面直上。
17	土 鍾	A.長さ5.0。最大幅2.6。重さ27.1g。B.手捏ね。C.ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。F.完形。H.覆土中。
18	土 鍾	A.長さ3.4。最大幅0.9。重さ1.8g。B.手捏ね。C.ナデ。D.黒色粒。E.外一淡茶褐色。F.完形。H.覆土中。
19	鉄 釘 ?	A.残存長4.2。最大幅0.8。重さ3.6g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。G.断面方形。釘の下半と思われる。H.覆土中。
20	八 稜 鏡	A.残存長3.9。残存幅8.9。最大厚0.5。重さ38.6g。B.鑄造。C.外区・中区の文様は不明。D.銅製。F.破片。G.被熱によりやや波打ち、縁は一部凸む。背面に加熱による発泡が見られる。H.覆土中。

21	不明粘土塊	A.残存長3.1、残存幅4.4。B.手捏ね。C.未調整。D.赤色粒、白色粒。E.外一明橙褐色。F.破片。H.覆土中、
22	板状粘土塊	A.残存長3.9、残存幅5.3。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡黄橙褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
23	土壁状粘土塊	A.残存長3.6、残存幅5.7。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。

第55号住居跡（欠番）

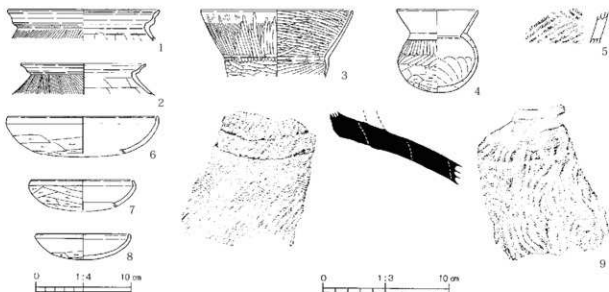
第56号住居跡（欠番）

第57号住居跡（第39図、図版10）

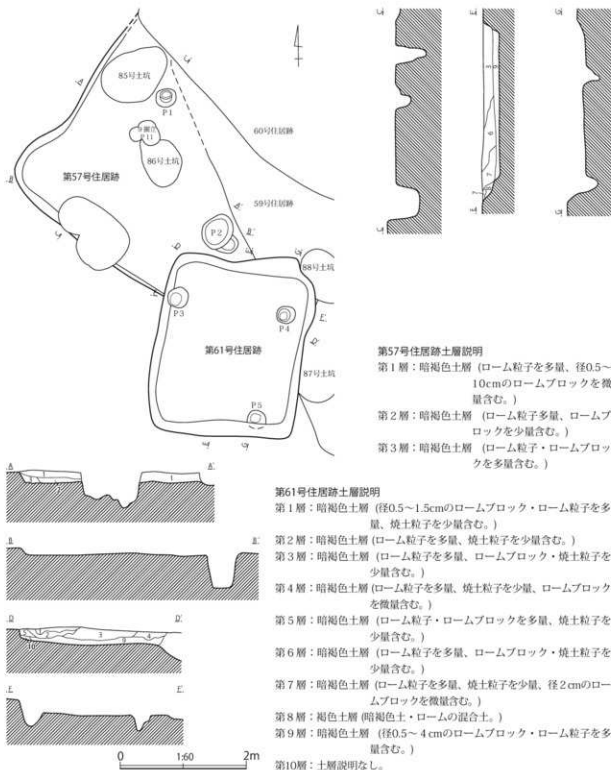
C3地点の調査区東側の中央付近に位置している。第59・60・61号住居跡や第85・86号土坑と重複し、それらによって住居跡の大半を切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向は3.90mまで、南西～北東方向は3.15mまで測れる。住居の北西側壁は、N-57°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高18cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、2カ所検出されている。P1は、住居中央部から北西側壁に寄った位置にある。長さ34cmの楕円形を呈し、床面からの深さは49cmある。P2は、住居周辺部の南西側壁に寄った位置にある。長さ57cmの楕円形を呈し、床面からの深さは53cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期(No1～4)と白鳳時代(No6～9)の土師器や須恵器の破片が、混在して少量出土しているが、主体は古墳時代前期の土器である。また、この他では搬入品と思われる弥生時代後期の二軒屋式土器の破片(No5)も出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と思われる。



第38図 第57号住居跡出土遺物



第39図 第57・61号住居跡

第13表 第57号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(13.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ワナデ。D.白色粒。E.内外—暗褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。

3	小形浅鉢	A.口縁部径(16.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後置なミガキ、内面ミガキ。体部外面ケズリの後置なミガキ、内面ミガキ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一暗赤褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	小形直口壺	A.口縁部径8.6。器高8.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ミガキ、下半ケズリの後一部霞ナデ。胴部内面上半ナデ、下半指ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
5	甕	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面縄文(付加条)を羽状に施文、内面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一淡褐色。F.胴部破片。G.弥生時代後期二軒屋式。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
8	坏	A.口縁部径(10.0)。器高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.1/2。H.覆土中。
9	須恵器 大甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)の後柳掻状文(6本歯)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.胴部破片。H.覆土中。

第58号住居跡 (第40図、図版10)

C3地点の調査区東側の中央付近に位置している。住居跡の大半を重複する第59号住居跡と第63号住居跡に切られており、住居の南西側コーナー部付近の一部が残存しているだけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が2.20mまで、南北方向が1.25mまで測れる。壁は、傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。残存する各壁下からは、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

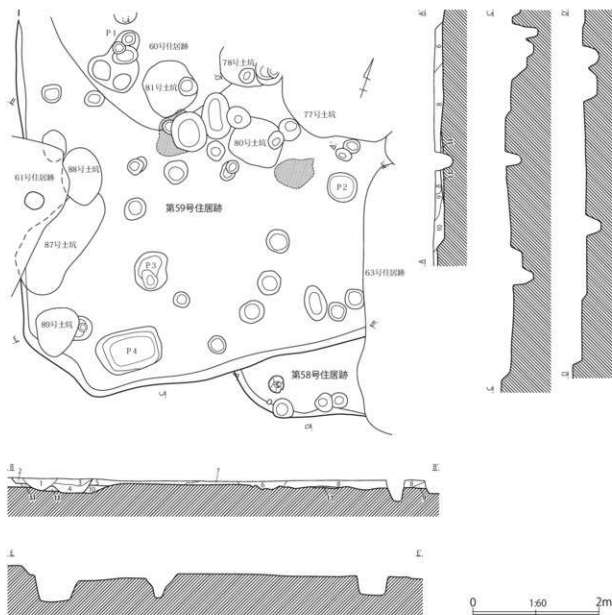
遺物は、図示できるものはないが、床面上や覆土中から古代の土器片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代前期以前と考えられる。

第59号住居跡 (第38図、図版10)

C3地点の調査区東側の中央付近に位置している。重複する第60・61・63号住居跡と第77・78・80・87～89号土坑に切られ、第58号住居跡を切っている。住居跡の南側半分が残存しているだけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存している部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形長方形を呈していたと思われるが、若干歪んでいたようである。規模は、東西方向が5.86mまで、南北方向が6.10mまで測れる。住居跡の西側壁は、N-22°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内で多数検出されているが、この中のP1とP3は、住居のほぼ対角線上に位置すると思われることから、住居の上屋を支える4本主柱の一部を構成する柱穴の可能性が高い。形態は、長さ40cmと63cmの楕円形を呈し、床面からの深さは50cmと33cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の南西側コーナー部に位置する。104cm×65cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは45cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

炬は、住居中央部のやや南側寄りに位置する。60cm×46cmの楕円形を呈し、床面を若干掘り窪めた地皿炬である。その西側には、床面が焼けて不整形形状に赤色化した部分が見られ、地床炬の可



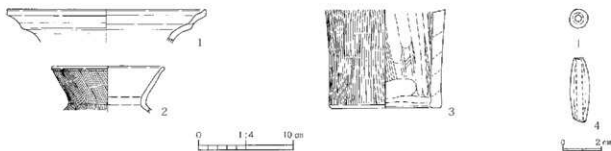
第40図 第58・59号住居跡

第58・59号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径4cmの粘質土ブロック・2×4cmの炭化物・ローム粒子を含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを多量含む。）
 第9層：黄褐色土層（暗褐色土とロームの混合土。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第11層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）

能性がある。

遺物は、住居跡の覆土中から、古代の土師器や須恵器の破片などが少量出土しているが、主体は古墳時代前期の土器破片である。土器以外では、埴輪の破片(No 3)や土鍾(No 4)が覆土中に混入して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期の可能性が高いと思われる。



第41図 第59号住居跡出土遺物

第14表 第59号住居跡出土遺物観察表

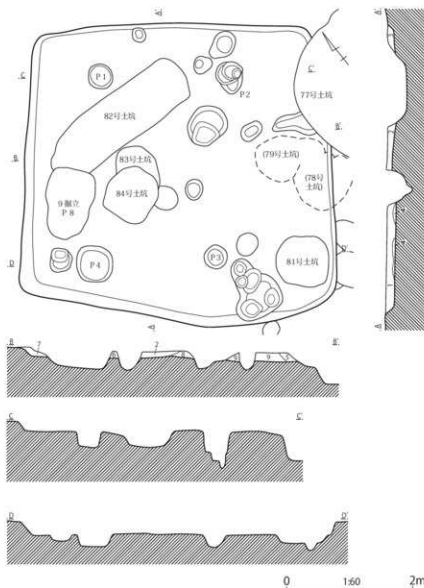
1	二重口縁壺	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	壺	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケ、内面ヨコナデの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明橙茶褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	埴輪	A.底部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.基部外面ハケ、内面ハケの後指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.基部1/4。H.覆土中。
4	土鍾	A.長さ3.4、最大径1.0、重さ3.0g。B.手摺ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色。F.壳形。H.覆土中。

第60号住居跡 (第42図、図版10)

C3地点の調査区東側の中央付近に位置している。重複する第9号掘立柱建物跡や第77・81～84号土坑に切られ、第78・79号土坑を切っている。遺構上面は強く削平を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、南西側壁が他の壁に比べてかなり弓状に張っている。規模は、北東～南西方向が4.85m、北西～南東方向が5.14mを測る。住居跡の北西側壁は、N-35°-Eの方向に向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高11cmある。住居跡の各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多数検出されている。このうちのP1～P4は、調査時に本住居跡の4本主柱の柱穴と推測されているが、一般的な住居跡と異なって、住居の対角線上からややずれた位置に柱穴が配置されている。形態は、径35cm～46cmの円形を呈し、床面からの深さは17cm～56cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。炉は、確認できなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しているが、主体は古墳時代前期の土器片である。土器以外では、円筒埴輪の破片(No 6)や土鍾(No 8・9)が覆土中に混入して出土している。また、焼成された小さな煎餅状の土製品(No 7)が1点出土しているが、本住居跡に伴うものか明確ではない。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代前期と思われる。



第60号住居跡土層説明

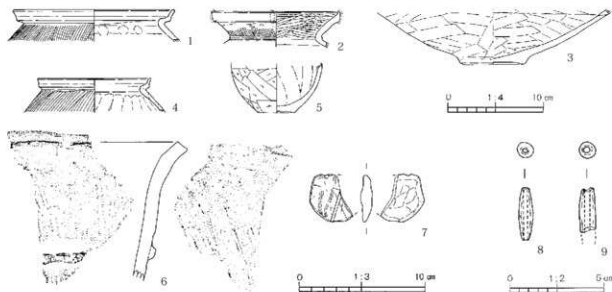
- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第4層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第42図 第60号住居跡

第15表 第60号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰白色、内一淡白褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	広口壺	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口唇部外面ヨコナデ。口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。胴部内外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一赤茶褐色。F.口縁部1/6。G.口唇部外面に棒状浮文(本数不明)を貼り付け。口縁部内外面に赤彩を施す。H.覆土中。
3	壺	A.底部径6.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後ナデ、内面窪ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部1/2弱。H.覆土中。
4	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	小形壺	A.底部径3.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一淡褐色。F.胴下半1/2。H.覆土中。
6	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ。凸帯貼り付け。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ハケ。凸帯上ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
7	煎餅状土製品	A.長さ3.8、残存幅3.5、厚さ1.0。B.手捏ね。C.片面ナデ。片面植物繊維状の圧痕。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.2/3。H.覆土中。
8	土鏝	A.長さ2.8、最大径0.8、重さ1.4g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.黒色粒。E.外一淡褐色。F.完形。H.覆土中。

9	土 鏝	A. 残存長2.4、最大径0.9、重さ1.7g。B. 手摺ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
---	-----	---



第43図 第60号住居跡出土遺物

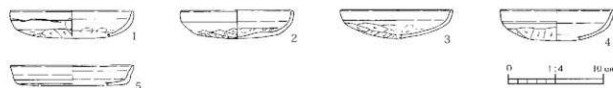
第61号住居跡 (第39図、図版11)

C3地点の調査区東側の中央付近に位置している。第57・59号住居跡や第87・88号土坑と重複し、それらを切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が2.85m、東西方向が2.35mを測る。住居の長軸方向は、N-7°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高20cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、P3～P5の3カ所が検出されている。いずれも直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは20cm～26cmある。これらはその配置から、4本主柱を構成する柱穴の可能性もあるが、P3とP5は住居の壁を一部切っており、その性格は明確ではない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を部分的に埋め戻した貼床式のようなものである。カマドは検出されなかった。

遺物は、古墳時代～奈良時代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代(8世紀)後半頃と推測される。

本住居跡は、カマドが付設されておらず、該期の一般的な住居跡とは様相が異なっている。竪穴規模が比較的小形であることから、一般の住居跡とは性格が異なる遺構と考えられる。



第44図 第61号住居跡出土遺物

第16表 第61号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.0)、残存高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(12.0)、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(12.0)、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(12.0)、残存高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内面斑点状剥落顕著。H.覆土中。
5	皿	A.口縁部径(13.0)、器高2.1、底部径(11.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。

第62号住居跡 (第45図、図版11)

C3地点の調査区東側の東寄りに位置している。第63・65号住居跡や第11号井戸跡及び第163号土坑と重複し、それらに切られている。

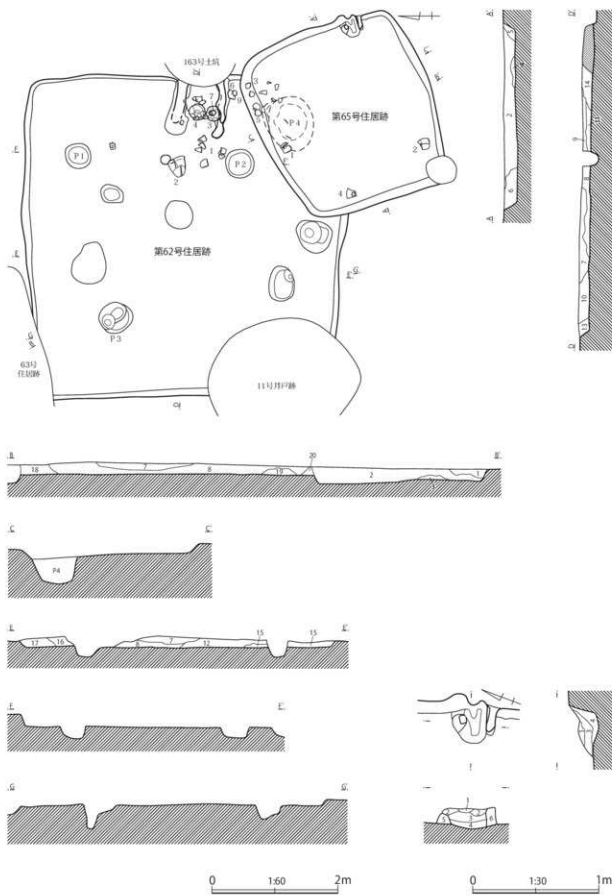
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が5.26m、東西方向が5.14mを測る。住居の主軸方向は、N-92°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高17cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から多く検出されている。P1からP3は、住居の上屋を支える主柱の柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。径43cm～55cmの円形を呈し、床面からの深さは17cm～40cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。78cm×88cmの楕円形を呈し、床面からの深さは47cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長102cm、最大幅91cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあり、壁面はよく焼けて赤色化している。燃烧面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、ほぼ水平に作られている。燃烧部の中央からは、No3とNo4の甕が横に2個並んで出土しており、本カマドの土器の掛け方が2個並置式であったことがわかる。当地域の土器の掛け方が2個並置式のカマドでは、向かって左側の甕の下だけに支脚が設置される場合が多いが、本カマドの場合は支脚の設置については不明である。また、カマドに掛けられた右側の甕の中からは、No7の壺が出土している。袖は、灰黄褐色粘土を住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、第163号土坑に切られているため不明である。

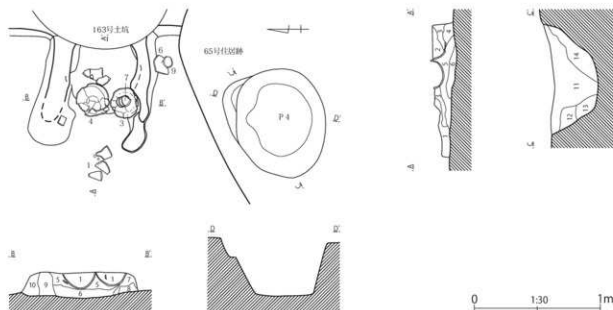
遺物は、カマド内や住居の床面付近及び覆土中から、甕(No3・4・5)、大形甕(No1・2)、中形直口壺(No6)、壺(No7)、坏(No8～10)などの土器が出土している。土器以外では、自然石を利用した小形の丸い磨石(No12)が1点覆土中から出土しているが、本住居跡に伴うものか不明である。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

第62・65号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。)
- 第2層：暗褐色土層(径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。)
- 第3層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。)
- 第4層：暗褐色土層(径2～4cmのロームブロックを多量含む。しまりはない。)
- 第5層：暗褐色土層(ロームブロックを多量含む。しまりはない。)
- 第6層：暗褐色土層(ロームブロックを少量含む。)
- 第7層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、粘土ブロックを微量含む。)



第45图 第62・65号住居跡



第46図 第62号住居跡カマド

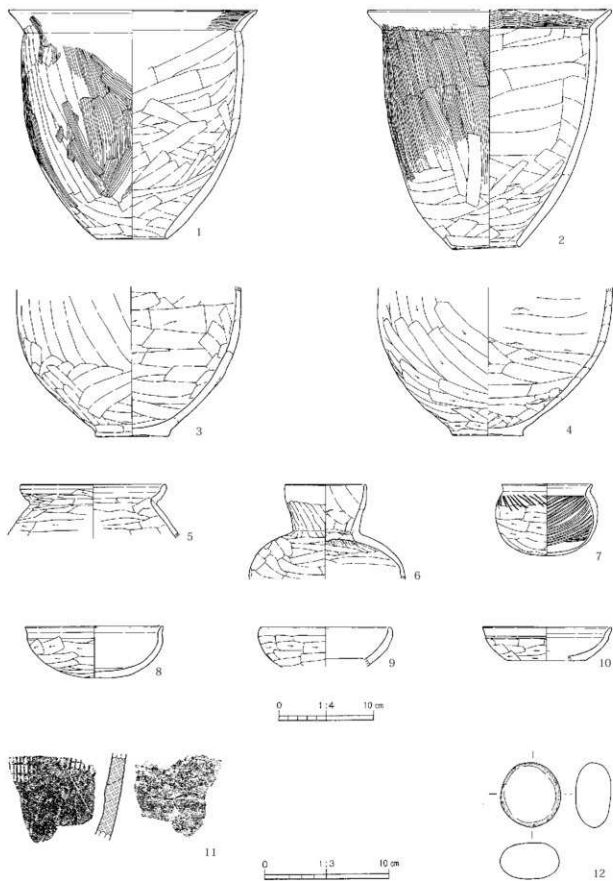
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒・焼土粒子を少量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第13層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。）
 第15層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。）
 第17層：暗褐色土層（0.5～1cmのロームブロックを多量含む。）
 第18層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）
 第19層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第20層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第62号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第2層：褐色土層（褐色粘質土を主に、焼土ブロック・焼土粒子を含む。）
 第3層：赤褐色土層（粘質土を主に、ロームブロックを含む。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第7層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土と暗褐色土をベースに、焼土粒子を少量含む。）
 第8層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主に、ロームブロックを含む。）
 第9層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主に、焼土ブロック・焼土粒子を含む。）
 第10層：灰黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第11層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第12層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第13層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第14層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりはない。）

第65号住居跡カマド土層説明

- 第1層：赤褐色土層（焼土ブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第6層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）



第47图 第62号住居跡出土遺物

第17表 第62号住居跡出土遺物観察表

1	大形甌	A.口縁部径(26.2)、器高24.2、底部径(7.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面鑑ナデの後複雑なハケ、内面鑑ナデ。D.白色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/2。H.床面付近。
2	大形甌	A.口縁部径25.8、器高25.3、底部径7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後下半鑑ナデ、内面鑑ナデ。D.雲母、石英、黒色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.3/4。H.床面直上。
3	甌	A.底部径7.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面鑑ナデ。底部外面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.下半のみ。H.カマド内。
4	甌	A.底部径7.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面鑑ナデ。底部外面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一灰黄褐色、内一淡褐色。F.下半のみ。H.カマド内。
5	甌	A.口縁部径(15.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面鑑ナデの後ケズリ、内面鑑ナデ。D.石英、チャート、石英、黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
6	中形直口甌	A.口縁部径8.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後下半鑑ナデ、内面鑑ナデ。胴部内外面鑑ナデ。D.雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.上半のみ。G.頸部内面に絞り目を残す。H.床面直上。
7	埴	A.口縁部径9.5、器高7.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半斜方向の暗文、内面鑑ナデの後斜方向の暗文。D.石英、黒色粒、赤色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.カマド下糞(No3)内。
8	坏	A.口縁部径14.5、器高7.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.雲母、白色粒。E.内外一淡赤褐色。F.ほぼ完形。H.カマド内。
9	坏	A.口縁部径(13.9)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面鑑ナデ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一暗赤褐色。F.口縁1/3。H.床面直上。
10	坏	A.口縁部径(13.6)、器高3.6、底部(8.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.外一淡赤褐色、内一明赤褐色。F.1/3。H.覆土中。
11	常滑窯系 甌	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面鑑ナデの後格子目状の押印文を施す。内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
12	磨石	A.長さ7.1、最大幅4.7、最大厚2.8、重さ99.64g。B.自然石を利用。C.表面はよく擦れて磨滅している。D.安山岩。F.完形。H.覆土中。

第63号住居跡(第48図、図版11)

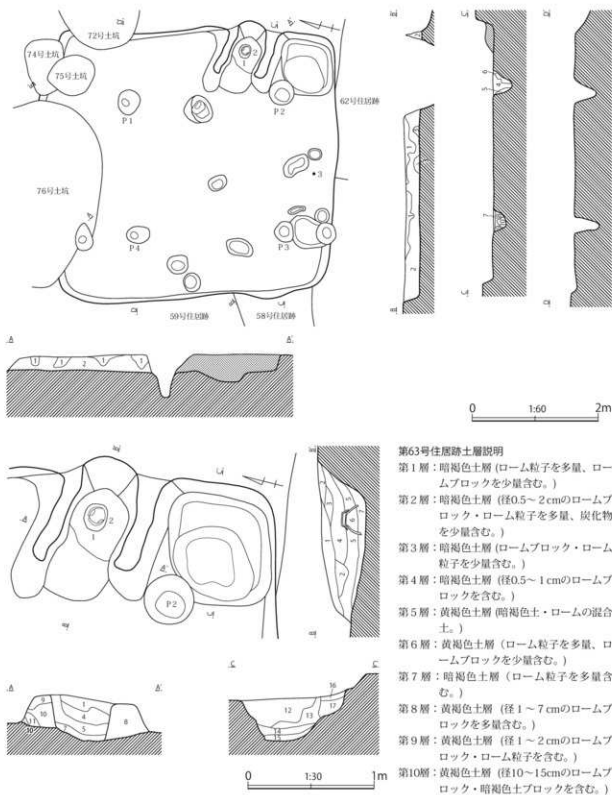
C3地点の調査区東側の東寄りに位置している。第57・58・62号住居跡を切り、第72・74～76号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が4.85m、東西方向が4.34mを測る。住居の主軸方向は、N-72°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高25cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から多く検出されている。このうちのP1からP4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。32cm～41cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは20cm～41cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。87cm×89cmの隅丸方形を呈し、床面からの深さは35cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のやや南東コーナー部寄りに位置し、壁に対してやや斜めに向いて付設されている。規模は、全長120cm、最大幅106cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面より若干皿状に低くなっており、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。燃焼部のほぼ中央には、カマド第7層を埋め戻した上にNo1の鉢を伏せ、その上にNo2の模倣坏を伏せて重ねた土器転用支脚が据えられている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、古墳時代から平安時代までの土器が、カマド内や住居跡の覆土中から混在して少量出土し

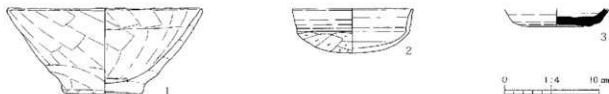
ただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。



第48図 第63号住居跡

第63号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第2層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第3層：赤褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを含む。）
 第4層：赤褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。）
 第5層：赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。）
 第6層：赤褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）
 第7層：赤褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロックを少量含む。）
 第8層：褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第10層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを含む。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第13層：暗褐色土層（径0.5～2.5cmのロームブロックを多量含む。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第15層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第16層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第17層：褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）



第49図 第63号住居跡出土遺物

第18表 第63号住居跡出土遺物観察表

1	鉢	A.口縁部径20.6、器高9.1、底部径8.1。B.粘土組織み上げ。C.体部内外面笠ナデ。底部外面は木葉痕を残す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.4/5。G.外面は小さな亀裂が多数見られる。カマド支脚に転用。H.カマド内。
2	模倣環	A.口縁部径12.8、器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.カマド支脚に転用。H.カマド内。
3	須恵器 環	A.底部径7.4。B.口クロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.底部のみ。H.覆土中。

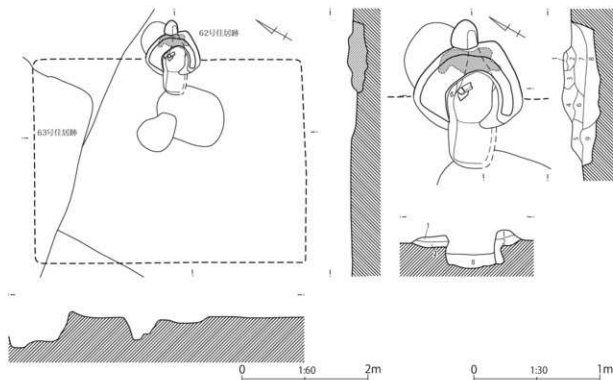
第64号住居跡（第50図、図版12）

C3地点の調査区東側の東寄りに位置し、重複する第62号住居跡を切っているようである。住居のカマドの痕跡が確認されただけであるため、本住居跡の全容は不明である。

住居跡の形態や規模は不明で、床面もすでに大半が削平されていたようであるが、カマド南西側の広い範囲で、焼土粒子や炭化粒子の面的な分布が見られる。

カマドは、その向きから住居の北東側壁に付設されていたと考えられる。規模は、全長118cm、最大幅88cmある。燃焼部は、袖の形態から半分が住居の壁外にあるようである。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く、ほぼ水平に作られていたようである。袖は、ローム粒子を含む暗褐色粘質土を、焚口から奥壁までU字状に廻していたものと推測される。

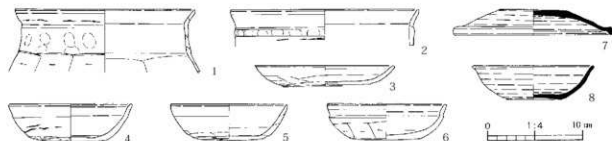
遺物は、カマド内やその周辺から、平安時代前期(9世紀)を主体とする土師器や須恵器が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、カマドの形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と推測される。



第50図 第64号住居跡

第64号住居跡カマド土層説明

- 第1層：赤褐色土層（焼土ブロックを含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・粘土粒子を少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子少量、焼土粒子を微量含む。）



第51図 第64号住居跡出土遺物

第19表 第64号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面詫ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4。G.口部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	皿	A.口縁部径14.8、器高2.2、底部径9.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一淡茶褐色。F.2/3。H.覆土中。

4	坏	A.口縁部径13.0、器高3.5、底部径8.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(12.4)、器高3.8、底部径7.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/3。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(12.5)、器高3.7、底部径7.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/3。H.カマド内。
7	須恵器 蓋	A.口縁部径16.8、器高2.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転系切り。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一灰色、内一暗灰色。F.2/3。H.覆土中。
8	須恵器 坏	A.口縁部径12.8、器高3.5、底部径5.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一灰色。F.2/3。H.覆土中。

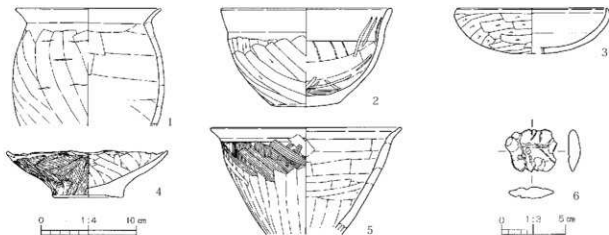
第65号住居跡 (第45図、図版12)

C3地点の調査区東側の東寄りに位置している。第62号住居跡と重複し、それを切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.00m、北西～南東方向が2.84mを測る。住居の主軸方向は、N-64°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高26cmある。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。

カマドは、住居北東側壁の中央やや東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長30cm、最大幅36cmで、かなり小形のカマドである。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面より若干低く、皿状に窪んでいる。袖は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を、壁に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代～白鳳時代の土器の破片が少量出土している。土器以外では、焼成された小形で板状の粘土塊(No6)が1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代と考えられる。



第52図 第65号住居跡出土遺物

第20表 第65号住居跡出土遺物観察表

1	小形甕	A.口縁部径15.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄橙褐色。F.上半のみ。H.床面直上。
2	大形鉢	A.口縁部径(18.2)、器高10.3、底部径7.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面縦ナデの後壁なミガキ。底部外面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一淡褐色。F.1/2。H.床面付近。

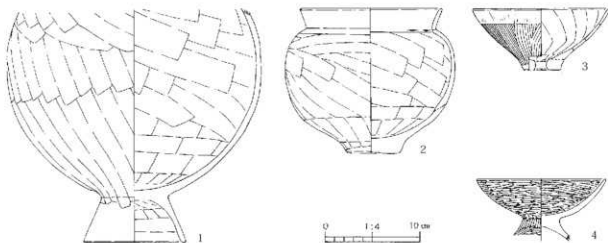
3	坏	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/5。H.覆土中。
4	鉢	A.口縁部径(17.0)。器高4.9、底部径7.6。B.粘土組積み上げ。C.外面ハケ、内面篋ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.2/3。H.覆土中。
5	鉢	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケの後篋ナデ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.1/3。H.覆土中。
6	粘土塊	A.長さ2.8、最大幅4.0、最大厚0.9、重さ9.87g。B.手捏ね。C.未調整。D.黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色。F.完形。H.覆土中。

第66号住居跡 (第54図、図版12)

C3地点の調査区東側の東南端に位置している。第21・67号住居跡や第13・164・165号土坑と重複し、それらによって切られている。住居跡の東側はすでに削平されているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は4.74mまで、東西方向は3.83mまで測れる。住居跡の北側壁は、N-101°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で4cm程度ある。残存する各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、P5~P7の3ヵ所が検出されている。これらのピットは、住居のほぼ対角線上に配置されていると思われることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴と推測されている。いずれも径34cm~44cmの円形を呈し、床面からの深さは13cm~27cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

遺物は、住居北側壁際の床面上から土器が、西側壁際の床面付近から細長い板状の自然石が1個出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

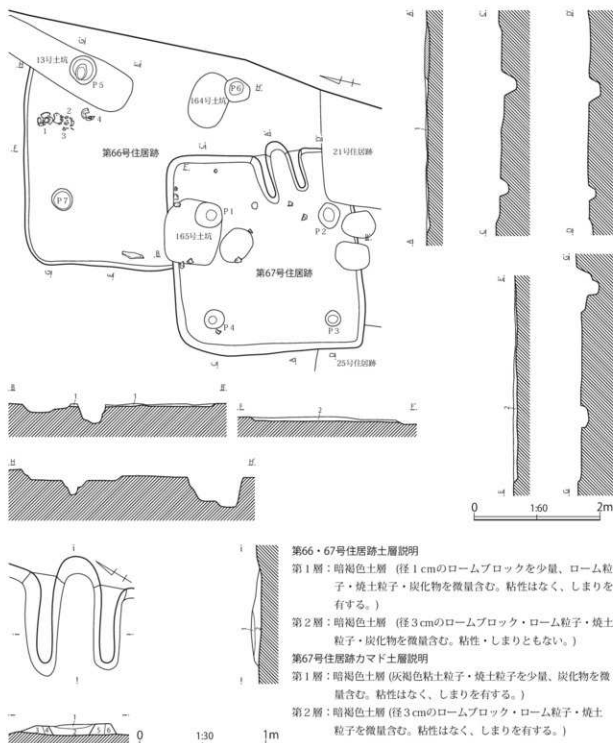


第53図 第66号住居跡出土遺物

第21表 第66号住居跡出土遺物観察表

1	台付甕	A.残存高(24.6)、台端部径10.8。B.粘土組積み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。台部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一明褐色。F.胴部下1/4、台部完形。H.床面付近。
2	平底甕	A.口縁部径15.0。器高15.3、底部径5.8。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡茶褐色。F.4/5。H.床面付近。
3	小形甕	A.口縁部径14.4。器高6.5、底部径3.9。B.粘土組積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ハケ、内面篋ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。

4	高 坏	A.口縁部径13.6、残存高6.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部・坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.脚部欠損。H.床面付近。
---	-----	--



第54図 第66・67号住居跡

第67号住居跡（第54図、図版12）

C3地点の調査区東南側の東端に位置している。重複する第21号住居跡(恋河内・的野2010)と第165号土坑に切られ、第25号住居跡と第66号住居跡(恋河内・的野2010)に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.19m、南北方向が3.00mある。住居の主軸方位は、N-75°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは4cmある。各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、P1～P4の4カ所が検出されている。これらのピットは、住居の対角線上に近い位置に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の可能性が高い。いずれも径25cm～43cmの円形を呈し、床面からの深さは10cm～25cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対して斜めに付設されている。規模は、全長96cm、最大幅82cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面は、あまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面と同じ高さで平坦な作りで、奥壁は緩やかに傾斜している。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む灰褐色粘土を、住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、住居床面付近から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)と考えられる。



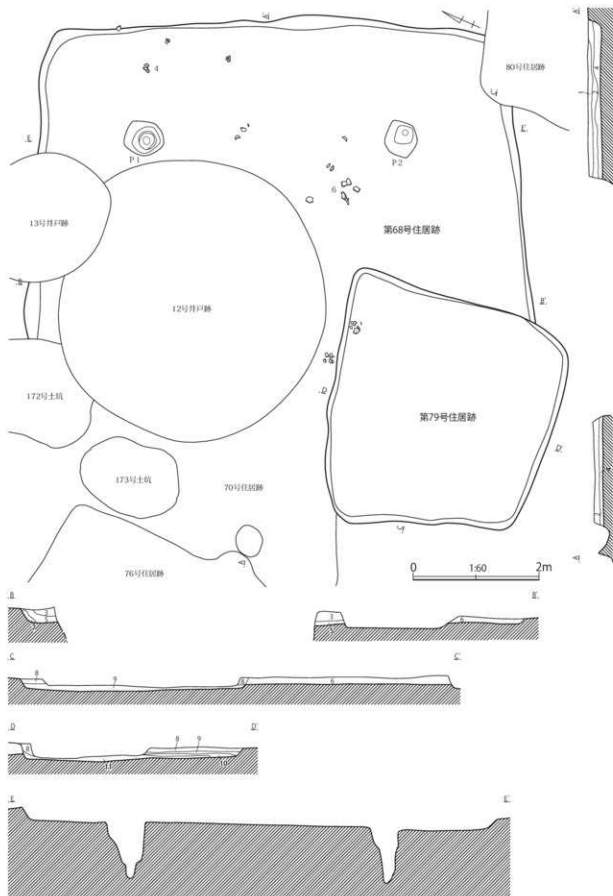
第55図 第67号住居跡出土遺物

第22表 第67号住居跡出土遺物観察表

1	長頸甕	A.口縁部径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗茶褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(10.8)。器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗橙褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(11.0)。器高2.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
5	暗文坏	A.口縁部径(13.0)。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデの後斜行暗文を施す。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

第68号住居跡（第56図、図版13）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。重複する第79・80号住居跡や第12・13号井戸跡に切られている。第70号住居跡とも重複しているようであるが、両者の新旧関係は不明である。本住居跡は、住居下の第69号住居跡と入れ子状に重複していることから、第69号住居跡の同一場所で建て替えられた拡張住居と考えられる。



第56图 第68·79号住居跡

第68・79号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、白色粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（黄褐色粘質土を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、黄褐色粘質土・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

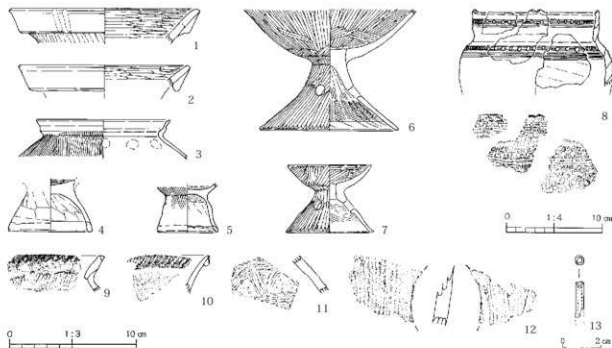
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が8.30m、東西方向は5.00mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-23°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、P1とP2の2カ所が検出されている。これらのピットは、住居のほぼ対角線上に配置されていると考えられることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部と思われる。いずれも径55cm～65cmの円形を呈し、床面からの深さはいずれも90cmあり、柱穴底面には小ピット状の柱痕が見られる。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。住居跡の残存する範囲内からは、炉は検出されなかった。

遺物は、住居跡の中央部や東側壁際の覆土中から、古墳時代前期を主体とする土器の破片が少量出土している。土器以外では、覆土中から緑色凝灰岩製の管玉の破片(No13)が1点出土している。また、本住居跡に伴うものではないが、当地域ではあまり出土例がない縄文時代晩期中葉頃の土器片(No8)や、古墳時代後期の円筒埴輪の破片(No12)が、覆土中に混入して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

第23表 第68号住居跡出土土物観察表

1	複合口縁壺	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。頸部外面弱いミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6破片。G.口縁部外面に2個1組の棒状浮文の刺離痕あり。H.覆土中。
2	複合口縁壺	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6破片。H.覆土中。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/3。G.頸部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	台付甕	A.台端部径8.8。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデ、内面指ナデの後下半甕ナデ。底部内面ハケ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部2/3。H.覆土中。
5	S字状口縁台付甕	A.台端部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後部分的にハケ、内面指ナデ。底部内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.台部のみ。G.底部内外面に砂を多く含む粘土をナデ付けている。H.覆土中。
6	高坏	A.残存高12.8、脚端部径(14.8)。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデの後下半ハケ。脚端部内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4。G.脚部穿孔は3カ所。H.覆土中。
7	器台	A.口縁部径8.8、器高7.2、脚端部径(9.2)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ミガキ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.脚部穿孔は3カ所。H.覆土中。
8	広口壺	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.外面弱いミガキ、内面ナデ。文様は、口縁部と胴部に4条の窪溝状線と、その上2条の間に連続刺突文を施す。口唇部に小突起をもつ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一黒褐色。F.破片。G.縄文時代晩期中葉(大洞C1式平行期)。H.覆土中。

9	甕	B.粘土組織み上げ。C.口唇部外面ハケ状工具によるキザミ。口縁部外面ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一暗茶褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
10	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ナデ。複合口縁部外面に櫛歯状工具による連続刺突文を施す。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
11	パレス文様壺	B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面ナデ。胴部文様は櫛歯横線文間に櫛歯波状文を施す。D.白色粒。E.外一淡白褐色、内一暗灰褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
12	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ。C.内外面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.破片。G.破片右端に円形の透かし孔を伴う。H.覆土中。
13	罎 玉	A.残存長1.9、径0.5、重さ0.6g。C.外面研磨。D.緑色凝灰岩。F.3/4。H.覆土中。



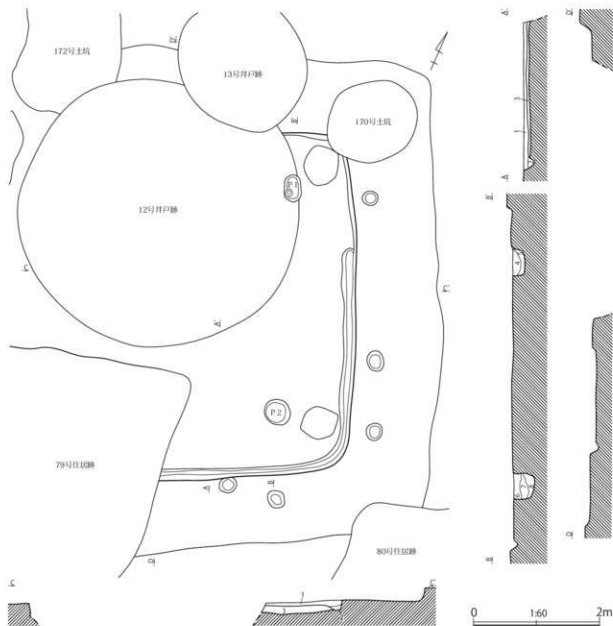
第57図 第68号住居跡出土遺物

第69号住居跡 (第58図、図版13)

C3地点の調査区東側の南側寄りに位置している。重複する第79号住居跡や第12号井戸跡に切られている。本住居跡は、住居跡上面の第68号住居跡と入れ子状に重複していることから、第68号住居跡の建て替え前の住居跡と考えられる。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が5.55m、東西方向は3.32mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-25°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する東側壁から南側壁の壁下には、幅20cm・床面からの深さ6cm程度の壁溝が巡っている。ピットは、P1とP2の2カ所が検出されている。これらのピットは、住居のほぼ対角線上に配置されていると考えられることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴と思われる。いずれも径45cm程度の円形を呈し、床面からの深さは20cmと35cmある。柱穴覆土の観察では、土層堆積の状態は自然堆積を示すことから、住居の建て替えに伴って主柱は抜き去られたと考えられる。ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。炉は、住居跡の残存する範囲内からは、検出されなかった。

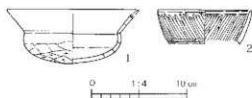
遺物は、住居の床面付近から、古墳時代前期を主体とする土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第58図 第69号住居跡

第69号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）



第59図 第69号住居跡出土遺物

第24表 第69号住居跡出土遺物観察表

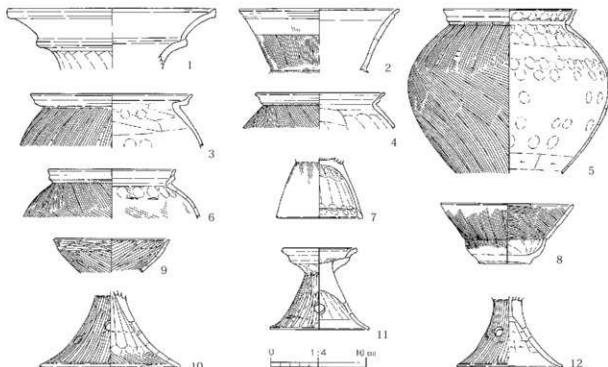
1	小形浅鉢	A.残存高5.2。B.粘土層積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.体部1/3。G.体部外面に黒斑あり。H.覆土中。
2	小形浅鉢	A.口縁部径(10.0)。B.粘土層積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

第70号住居跡 (第61図、図版13)

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。重複する第76・79号住居跡や第12号井戸跡及び第172・173号土坑に切られている。北側の第71号住居跡とも重複関係にあると思われるが、相互の新旧関係は明確にされていない。

平面形や規模等は不明で、住居の南側コーナー部と考えられる部分が一部検出されているだけである。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。壁溝は見られない。ピットは、1カ所検出されている。P1は、南側コーナー部寄りに位置する。長さ50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは45cmある。ピット内からは、S字状口縁付甕(No5)が出土している。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居中央部付近の床面上には、楕円形状の白色粘土塊の分布が2カ所見られる。

遺物は、住居の床面上やその付近から、古墳時代前期の土器の破片が散在して出土している。図示できなかったが、これらの土器の中には、淡白色の外側ハケ、内側ケズリ調整の布留式甕の胴部破片も作出している。また、土器以外では、覆土中から性格不明の炭化材の小片が出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第60図 第70号住居跡出土遺物

第25表 第70号住居跡出土遺物観察表

1	二重口鉢	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。頸部外面隈ナデ。内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/6破片。H.床面付近。
2	壺	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後上半ヨコナデ。内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/6破片。H.床面付近。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ。内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡灰白色。F.口縁部1/4。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
4	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(13.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ。内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	S字状口縁台付甕	A.口縁部径14.0。残存高17.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ。内面ナデ。D.淡褐色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.上半1/2。G.胴部外面煤付著顕著。G.内面に指頭圧痕を多数残す。H. P 1内。
6	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ。内面ハケの後ナデ。D.片岩粒。白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/4弱。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
7	S字状口縁台付甕	A.台端部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後部分的にハケ。内面指ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部のみ。G.底部内外面に砂を多く含む粘土を薄くナデ付けている。H.床面付近。
8	小形浅鉢	A.口縁部径14.0。器高6.3。底部径(5.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ハケ。胴部外面ナデの後上半ハケ。内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.外一茶褐色。内一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
9	高 環	A.口縁部径(12.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.白色粒。E.内外一淡白褐色。F.口縁部1/3。H.床面付近。
10	高 環	A.脚端部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ。内面上半ケズリ。下半ナデの後ハケ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚部1/3。G.脚部穿孔(焼成前)は千鳥状に6カ所。脚部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
11	器 台	A.口縁部径(8.0)。器高8.6。脚端部径(10.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ。内面ナデの後下端ヨコナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.脚部穿孔(焼成前)数は不明。器受部内面中央は穿孔されていない。H.床面付近。
12	器 台	A.脚端部径11.2。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ。内面上半ケズリ。下半ヨコナデ。D.片岩粒。白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚部のみ。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.床面付近。

第71号住居跡(第61図、図版13)

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。重複する第75・76号住居跡に切れ、第172号土坑を切っている。南側の第70号住居跡とも重複関係にあると思われるが、相互の新旧関係は明確にされていないため、住居跡の形態も不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は4.25mまで、東西方向は3.30mまで測れる。住居の北側壁は、N—O°—Eの方向を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。壁下には、幅20cm、床面からの深さが10cm程度の壁溝が巡っている。ピットは2カ所検出されているが、本住居跡と関係するものか明確ではない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居中央部付近の床面上には、楕円形状の比較的大きな暗灰色粘土の塊が2カ所見られるが、その性格は不明である。

カマドは、残存する部分からは検出されなかった。

遺物は、古墳時代前期から平安時代(9世紀)前期までの土器片が、覆土中から混在して出土しているが、主体は白鳳時代(7世紀後半)のものである。土器以外では、覆土中から土製紡錘車の破片(No 6)や石製の白玉(No 7)が1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)と考えられる。



第61図 第70・71号住居跡

第71号住居跡土層説明

第1層：褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

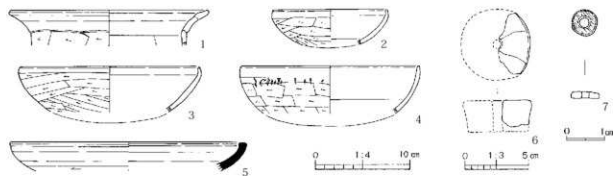
第2層：褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・白色粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色粘質土層（ローム粒子・白色粘土粒子を少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色粘質土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第62図 第71号住居跡出土遺物

第26表 第71号住居跡出土遺物観察表

1	長 副 甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ツナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(12.2)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(19.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一淡橙褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(19.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
5	須 恵 器	A.口縁部径(25.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。体部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/8。G.還元不良。H.覆土中。
6	土製紡錘車	A.上面径(5.5)、残存高2.1、重さ25.9g。B.手捏ね。C.上面・側面ともミガキ。D.白色粒。E.外一暗茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
7	石製白玉	A.直径0.7、高さ0.18、重さ0.2g。C.表裏面及び側面とも研磨。D.粘板岩?。F.完形。H.覆土中。

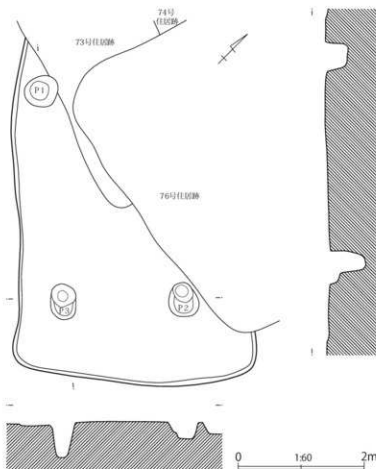
第72号住居跡 (第63図、図版14)

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。第73・74・76号住居跡と重複し、それらによって切られている。本住居跡は、住居の床面近くまで強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

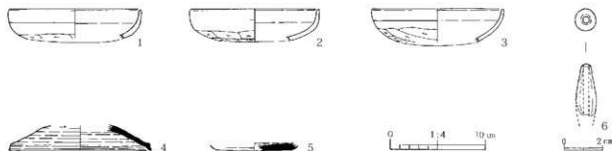
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向が3.95m、北西～南東方向は5.17mまで測れる。住居の南西側壁は、N-43°-Wの方向を向いている。壁は、遺存状態が悪いため明確ではないが、緩やかに立ち上がるようであり、確認面からの深さは3cm程度ある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、P1～P3の3カ所が検出されている。この中でP2とP3は、住居の対角線上に配置されていると考えられることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部の可能性が高いと思われる。形態は、長さ55cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは30cmと55cmある。P1は、住居南西側壁の壁際に位置する。長軸が55cmの楕円形を呈し、床面からの深さは35cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居跡の残存する範囲内からは検出されなかった。

遺物は、古墳時代前期から平安時代前期までの土師器や須恵器の破片が、覆土中から混在して少量出土している。本住居跡の時期は、新しい時期の土器片も覆土中から混在して出土しているが、遺構の重複関係からは、奈良時代頃と推測される。



第63図 第72号住居跡



第64図 第72号住居跡出土遺物

第27表 第72号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面のナデ後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面のナデ後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面のナデ後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
4	須恵器 蓋	A.口縁部径(15.0)。B.ロクロ成形。C.天井部外面回転ケズリ。口縁部内外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
5	須恵器 坏	A.底部径(7.8)。B.ロクロ成形。C.底部外面回転系切り後外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.底部1/4。H.覆土中。
6	土 鏝	A.残存長2.8、最大径1.1、重さ3.1g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰褐色。F.1/2。H.覆土中。

第73号住居跡（第66図）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。住居跡の大半を重複する第74・76・77号住居跡に切られており、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が5.40m、南北方向は1.88mまで測れる。住居跡の南側壁は、N-106°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは7cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

遺物は、古墳時代前期から平安時代前期までの土師器や須恵器の破片が、覆土中から混在して少量出土している。図示できたものは、いずれも平安時代のものであるが、これらの土器はすべて住居廃絶後の覆土埋没過程に混入したものである。本住居跡の時期は、新しい時期の土器片が覆土中から混在して出土しているものの、遺構の重複関係からは、奈良時代後半以前と推測される。



第65図 第73号住居跡出土遺物

第28表 第73号住居跡出土遺物観察表

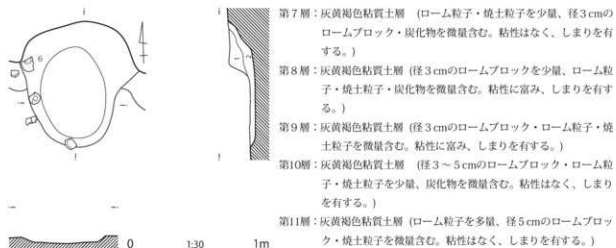
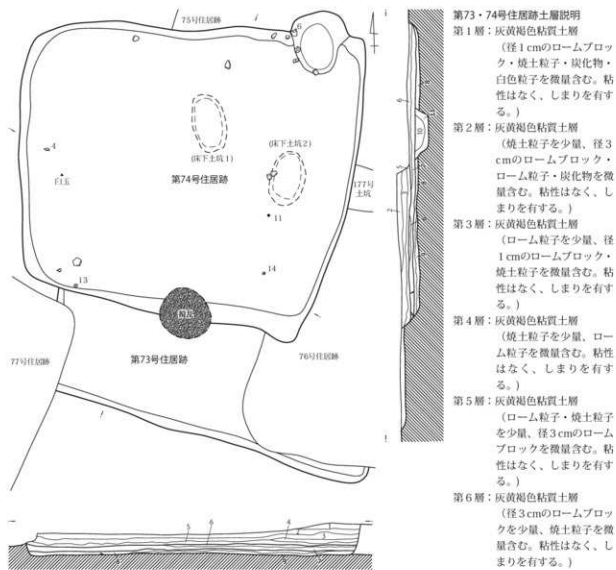
1	坏	A.口縁部径(12.8)、器高3.7、底部径(8.8)。B.粘土粗組み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に指節圧痕を残す。H.覆土中。
2	須恵器	A.口縁部径(12.4)、器高4.2、底部径(7.0)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外一増灰色。F.底部1/4。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.0)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.口縁部1/4。G.還元不良。H.覆土中。

第74号住居跡（第66図、図版14）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。重複する第75号住居跡に切れ、第73・76号住居跡と第177号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い台形状に歪んだ長方形を呈している。規模は、東西方向が5.55m、南北方向が4.74mある。住居跡の主軸方位は、N-6°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で49cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部と東側の周辺部では、90cm×55cm程度の楕円形を呈する類似した形態の床下土坑が2基検出されている。

カマドは、住居北側壁の北東側コーナー部にかなり寄った位置に付設されている。規模は、全長101cm、最大幅97cmある。燃焼部は、住居の壁をやや掘り込んで、その半分程度は住居の壁外にある。燃焼部壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりもやや低く平坦に作られており、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。



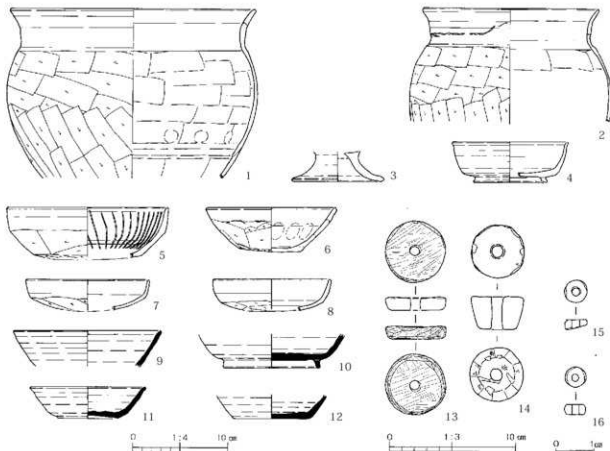
第66図 第73・74号住居跡

第74号住居跡カマド土層説明

第1層：灰黄褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：灰黄褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

遺物は、カマド内や住居周辺部の床面付近や覆土中から、奈良時代後半頃を主体とする土師器や須恵器の破片が出土している。土器以外では、覆土中から石製紡錘車や白玉が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代後半頃と考えられる。



第67図 第74号住居跡出土遺物

第29表 第74号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(26.0)、B. 粘土粗積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面籠ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一暗茶褐色、F. 口縁部1/4、G. 胴部内面に指頭圧痕を残す、H. 覆土中。
2	長胴甕	A. 口縁部径(18.6)、B. 粘土粗積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面籠ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 外一暗橙褐色、内一淡褐色、F. 口縁部1/3、H. 覆土中。
3	小形台付甕	A. 脚端部径9.8、B. 粘土粗積み上げ、C. 台部内外面ヨコナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一淡褐色、F. 台部のみ、H. 覆土中。
4	高台付埴	A. 口縁部径(12.2)、器高4.3、高台部径7.8、B. ロコロ成形、高台部貼り付け、C. 内外面回転ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一暗褐色、F. 1/3、G. 口縁部内面に一部に煤付着、体部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
5	暗文環	A. 口縁部径(17.0)、残存高5.3、底部径(11.1)、B. 粘土粗積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す、底部外面ケズリ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一淡茶褐色、F. 口縁部1/4強、H. 覆土中。
6	杯	A. 口縁部径13.8、器高4.7、底部径6.6、B. 粘土粗積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ、底部外面ケズリ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一茶褐色、F. 完形、G. 体部内面に指頭圧痕を残す、H. 覆土中。

7	環	A.口縁部径(13.0)、残存高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡褐色、内—明褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に黒斑あり。H.床面直上。
8	環	A.口縁部径(12.4)、残存高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
9	須恵器 埴	A.口縁部径(15.6)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外—暗灰色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
10	須恵器 高台付埴	A.高台部径(10.2)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外—灰色。F.高台部1/2。H.覆土中。
11	須恵器 環	A.口縁部径(12.2)、器高3.3、底部径6.4。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外—暗灰色。F.1/3。H.覆土中。
12	須恵器 環	A.底部径8.0。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後周辺回転系ケズリ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.内外—暗灰色。F.底部1/2。H.覆土中。
13	石製紡錘車	A.直径4.8、高さ1.0、重さ36.1g。B.打ち欠きによる成形。C.全面研磨。D.安山岩。F.完形。G.両面穿孔。H.覆土中。
14	石製紡錘車	A.上面径4.2、下面径3.0、高さ2.6、重さ60.7g。B.削りにより成形。C.全面研磨。D.凝灰岩。F.完形。G.両面穿孔。H.覆土中。
15	石製白玉	A.直径0.6、高さ0.3、重さ0.14g。B.管玉状の形態から切断？。C.全面研磨。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。
16	石製白玉	A.直径0.6、高さ0.3、重さ0.13g。B.管玉状の形態から切断？。C.全面研磨。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。

第75号住居跡（第68図、図版14）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置する。重複する第177号土坑に切られ、第71・74号住居跡を切っている。

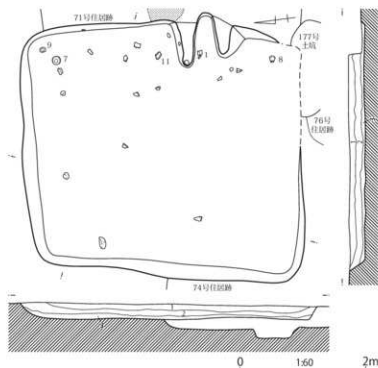
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は東西方向が3.90m、南北方向が4.36mを測る。住居跡の主軸方位は、N-96°-Eを向いている。壁は、緩やか傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。貯蔵穴や柱穴などの施設は、住居跡内からはまったく検出されていない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

カマドは、住居の東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長80cm、最大幅120cmある。燃焼部は、住居の壁を15cm程度掘り込んでいるが、その大半は住居内にあり、形態的には古墳時代的な古いカマドの形態を呈している。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く皿状を呈し、奥壁は緩やかに立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を住居の壁に貼り付けて構築している。左側袖は住居の壁に直接貼り付けているのに対して、右側袖は住居の壁を斜めに掘り込んで貼り付けている。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の床面付近や覆土中から、古墳時代後期から平安時代の土器が出土している。土器以外では、覆土中から鉄製品(No13)や土錘の破片(No12)が出土し、住居西側壁際の北西コーナー部寄りの位置から、被熱により一部が赤色化した川原石が1個出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

第30表 第75号住居跡出土遺物観察表

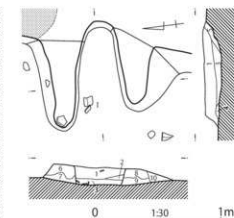
1	甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡褐色。F.口縁部1/3。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(18.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。



第3層：暗褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第75号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（炭化物を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径3cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：黒褐色土層（炭化物を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗黄褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗黄褐色粘質土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



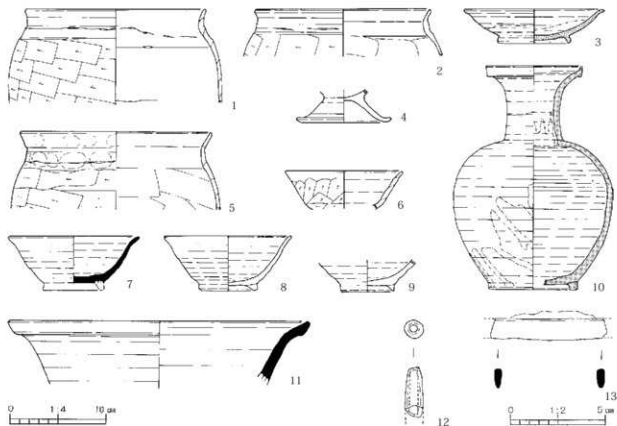
第75号住居跡土層説明

- 第1層：灰黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第68図 第75号住居跡

3	灰輪陶器 皿	A.口縁部径(14.6)、器高3.6、高台部径(7.4)、B.ロクロ成形、高台部貼り付け。C.内外面回転ナデの後、体部内外面施軸。D.白色粒。E.内外一淡灰白色。F.1/3。G.軸は漬け塗り。H.覆土中。
4	小形台付甕	A.台端部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.台部1/3。H.覆土中。
5	甕	A.口縁部径(20.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
6	坏	A.口縁部径12.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒茶褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
7	須恵器 高台付坏	A.口縁部径13.8、残存高5.0。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外一淡灰色。F.坏部のみ(高台部剥落)。H.覆土中。
8	高台付坏	A.口縁部径(13.4)。器高5.8、高台部径6.2。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.1/3。G.還元不良。H.床面付近。
9	高台付坏	A.高台部径(5.6)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.高台部のみ。G.還元不良。H.覆土中。
10	灰輪陶器 長頸壺	A.口縁部径(10.2)、器高23.7、高台部径9.4。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデの後、外面施軸。底部外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一淡灰白色。F.1/2。G.口縁部内外面と胴部外面に淡緑色釉を施す。H.覆土中。

11	須恵器	A.口縁部径(32.0), B.粘土層積み上げ後口縁整形, C.口縁部内外面回転ナデ, D.白色粒, E.外一黒灰色、内一暗灰色, F.口縁部1/6, H.覆土中。
12	土 錘	A.残存長2.6, 最大径1.0, 重さ2.3g, B.手捏ね, C.外面ナデ, D.白色粒, E.内外一黒褐色, F.1/2, H.覆土中。
13	鉄製品	A.残存長6.1, 幅1.1, 厚さ0.45 重さ8.6g, B.鍛造, D.鉄製, F.1/3, G.刀子の刃部の一部か?, H.覆土中。

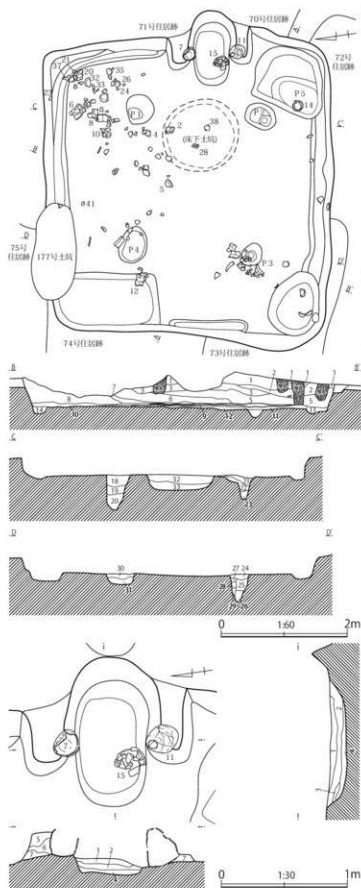


第69図 第75号住居跡出土遺物

第76号住居跡 (第70図、図版14)

C3地点の調査区東側の南寄りに位置する。重複する第74号住居跡と第177号土坑に切られ、第70～73号住居跡と第175号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は東西方向が5.07m、南北方向が4.68mを測る。住居跡の主軸方位は、N-100°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で45cmある。各壁の壁下には、幅15cm～30cm、床面からの深さが10cm程度の壁溝が巡っているが、東西両側壁では途切れている。ピットは、5箇所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。長軸40cm～60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは17cm～56cmある。これらの主柱穴の覆土の観察では、P3以外では柱痕が見られず、土層堆積の状態で自然堆積を示していることから、本住居の主柱は住居廃絶時に、おそらく抜き取られたと考えられる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の南東側コーナー部に位置している。平面形は、117cm×95cmの丸みをもつ台形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは18cmある。覆土は、焼土ブロックや焼土粒子を微量含む灰黄褐色土を主体にしている。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に



第70図 第76号住居跡

第76号住居跡土層説明

第1層：灰黄褐色粘質土層

(径1cmの焼土ブロックを少量、径1cmの炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第2層：灰黄褐色粘質土層

(焼土粒子を少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第3層：灰黄褐色粘質土層

(焼土粒子を少量、炭化物・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第4層：灰黄褐色粘質土層

(焼土粒子を少量、径1~5cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの炭化物・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)

第5層：灰黄褐色粘質土層 (径1cmのロームブロック・焼土粒子・径1cmの明黄褐色粘土ブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第6層：灰黄褐色粘質土層 (焼土粒子を少量、黄褐色粘土粒子・浅黄色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層：灰黄褐色粘質土層 (炭化物を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第7層：灰白色粘質土 (焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第8層：灰黄褐色粘質土層 (炭化物を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第9層：灰黄褐色粘質土層 (径3cmのロームブロックを多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第10層：灰黄褐色粘質土層 (ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第11層：灰黄褐色粘質土層 (径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第12層：灰黄褐色粘質土層 (焼土粒子を少量、ローム粒子・径3cmの炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

- 第13層：黒褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第15層：灰黄褐色粘質土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第16層：灰黄褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第17層：灰黄褐色粘質土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第18層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第19層：暗褐色粘質土層（径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第20層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第21層：暗褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第22層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第23層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第24層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第25層：暗褐色粘質土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第26層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第27層：黄褐色粘質土層（炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第28層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第29層：黄褐色粘質土層（炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第30層：暗褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第31層：黄褐色粘質土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第32層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを少量、径3cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第33層：暗褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

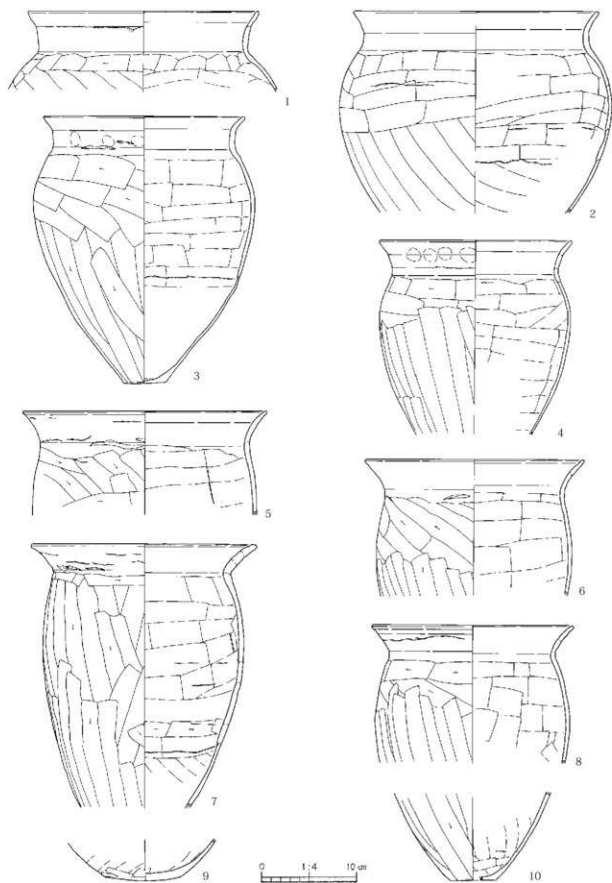
第76号住居跡カマド土層説明

- 第1層：灰黄褐色粘質土層（灰を多量、焼土粒子を少量、ローム粒子・径3cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黄褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロックを少量、焼土粒子・灰を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色粘質土層（灰を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：黄褐色粘質土層（焼土粒子・灰を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色粘質土層（白色粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

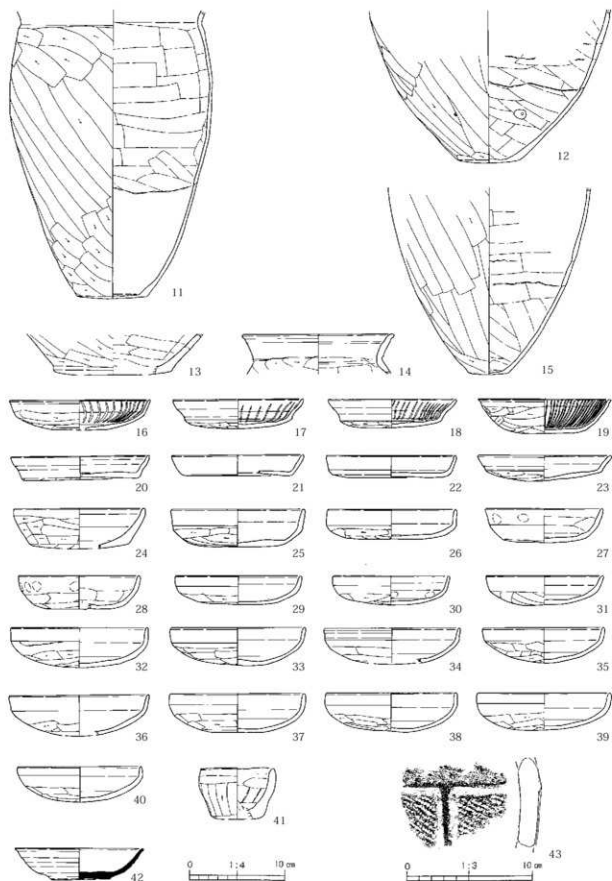
埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。カマド焚口前の住居中央部の床下から、115cm×125cmの円形を呈し、ロームブロックや焼土ブロックを含む暗褐色粘質土で埋められた床下土坑が1基検出されている。

カマドは、住居の東側壁中央の若干南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長122cm、最大幅150cmある。燃焼部は、住居の壁を35cm程度掘り込んでいるが、その大半は住居内にある。燃焼部の壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも14cm程度低く水平をなしている。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘土を、住居の壁を若干斜めに掘り込んだ面に貼り付けて構築しており、その両袖の先端には長胴甕を伏せて補強にしている。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、奈良時代後半頃を主体とする土器が多数出土している。このうち、住居跡の北東側コーナー部付近の覆土中からまとまって出土した土器は、その出土状態が



第71图 第76号住居跡出土遺物(1)



第72图 第76号住居跡出土遺物(2)



第73図 第76号住居跡出土遺物(3)

ら見て、本住居跡で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程中に周辺から一括投棄されたものである。土器以外では、覆土中から銅製鍔帯金具の巡方(No44)や、刀子の破片の可能性が考えられる鉄製品(No45・46)が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、奈良時代(8世紀)後半頃と考えられる。

第31表 第76号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(24.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(26.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.上半1/2。H.覆土中。
3	甕	A.口縁部径(21.2)。器高28.3、底部径4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/2。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	甕	A.口縁部径(20.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	甕	A.口縁部径(25.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	甕	A.口縁部径(23.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一明赤褐色。F.上半1/2。H.覆土中。
7	甕	A.口縁部径23.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、石英、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.4/5。H.カマド左側袖先端。
8	甕	A.口縁部径(21.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一橙褐色。F.上半1/5。H.覆土中。
9	甕	A.底部径8.1。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。底部外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
10	甕	A.底部径(4.8)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.底部1/3。H.覆土中。
11	甕	A.底部径7.3。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部欠損。H.カマド右側袖先端。
12	甕	A.底部径6.5。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡黄褐色。F.下半1/2。H.床面付近。
13	甕	A.底部径(12.4)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一明赤褐色。F.底部1/3。H.覆土中。
14	小形甕	A.口縁部径16.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F.口縁部のみ。H.貯蔵穴(P5)内。
15	甕	A.底部径4.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.下半1/2。H.カマド内。
16	暗文環	A.口縁部径14.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.雲母、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
17	暗文環	A.口縁部径13.8。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
18	暗文環	A.口縁部径13.6。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。

19	暗文環	A.口縁部径14.0、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
20	皿	A.口縁部径14.6、器高2.6、底部径12.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
21	皿	A.口縁部径(14.0)、器高2.2、底部径11.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
22	皿	A.口縁部径13.8、器高2.3、底部径12.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
23	皿	A.口縁部径14.1、器高2.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
24	杯	A.口縁部径(14.0)、器高4.2、底部径(10.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一黒褐色。F.1/2。H.覆土中。
25	杯	A.口縁部径(14.2)、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
26	杯	A.口縁部径13.7、器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
27	杯	A.口縁部径12.4、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
28	杯	A.口縁部径12.8、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
29	杯	A.口縁部径13.4、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
30	杯	A.口縁部径12.4、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
31	杯	A.口縁部径12.4、器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
32	杯	A.口縁部径14.5、器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
33	杯	A.口縁部径14.3、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
34	杯	A.口縁部径14.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
35	杯	A.口縁部径12.8、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
36	杯	A.口縁部径14.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一明赤褐色。F.1/3。H.覆土中。
37	杯	A.口縁部径14.4、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
38	杯	A.口縁部径14.0、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
39	杯	A.口縁部径14.2、器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
40	杯	A.口縁部径13.1、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一明赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
41	小形土器	A.口縁部径(7.8)、器高5.4、底部径(5.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
42	須恵器杯	A.口縁部径13.6、器高3.3、底部径6.0。B.ロウク形。C.内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.外一灰黄色、内一黄灰色。F.2/3。G.還元不良。H.覆土中。
43	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデ。胴部外面隆部貼り付け後繩文(丸)を縦転がし。内面ナデ。D.片岩粒、石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡黄橙褐色、内一黄橙褐色。F.胴部破片。G.縄文中期後半(加曾利EⅢa)。H.覆土中。
44	鈎帯金具	A.長さ2.5、幅2.5、厚さ0.9、重さ8.0g。B.鋳造。D.銅製。F.ほぼ完形。G.遙方。銅地金貼り。H.覆土中。
45	鉄製品	A.残存長3.2、幅1.1、厚さ0.4、重さ5.62g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。G.刀子か？。H.覆土中。
46	鉄製品	A.残存長6.9、幅0.9、厚さ0.2、重さ8.38g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。G.刀子の柄か？。H.覆土中。
47	鉄製品	A.残存長4.0、幅0.7、厚さ0.6、重さ3.98g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。H.覆土中。

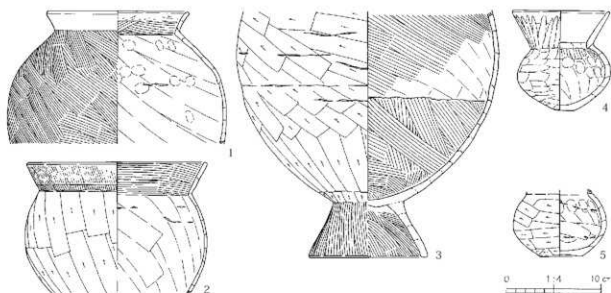
第77号住居跡（第75図、図版15）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置する。重複する第12号掘立柱建物跡と第182・195～197・207号土坑に切られ、第73号住居跡と第175号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が5.84m、北西～南東方向が5.80mを測る。住居跡の主軸方位は、N-23°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から多く検出されている。P1～P3は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部と考えられる。形態は、長軸が35cm～46cmの楕円形を呈し、床面からの深さは23cm～69cmある。これらの主柱穴の覆土の観察では、土層堆積の状態が自然堆積を示していることから、本住居の主柱は住居廃絶後に抜き取られたと考えられる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

炉は、住居中央部の北東側寄りと北西側寄りの2カ所にある。いずれも床面が焼けて赤色化しただけの地床炉で、その規模から前者の北東側寄りのものが主炉と思われる。

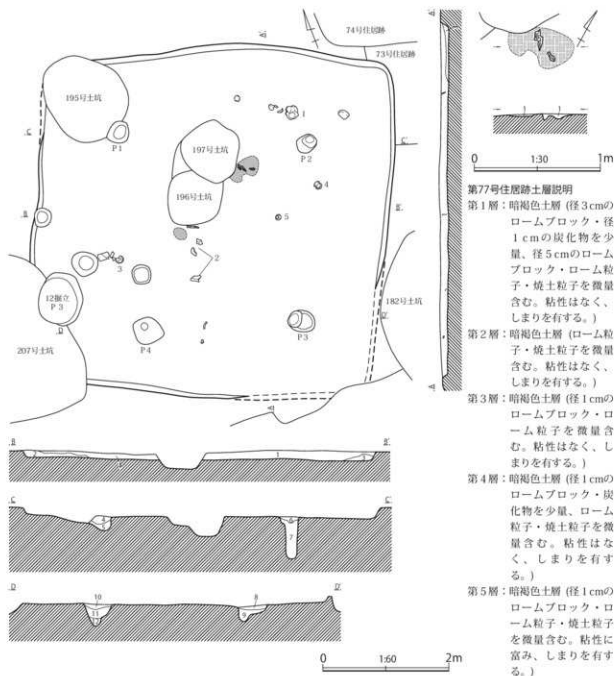
遺物は、住居の床面付近から、古墳時代前期末～中期初頭頃を主体とする土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代前期末～中期初頭頃と考えられる。



第74図 第77号住居跡出土遺物

第32表 第77号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径15.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-茶褐色。F. 上半1/2。G. 外面に煤付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径19.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケ。胴部外面ケズリ、内面挽ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-明橙褐色。F. 上半2/3。G. 外面に煤付着。H. 床面直上。



- 第6層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第77号住居跡炉跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmの炭化物を多量、ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第75図 第77号住居跡

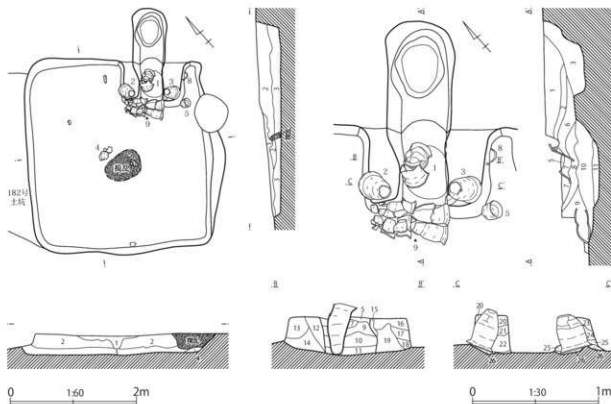
3	台付甕	A. 残存高25.9、台端部径(12.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデの後ハケ。台部内外面ハケ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一淡褐色。F. 下半1/2。H. 床面付近。
4	小形直口壺	A. 口縁部径10.2、器高10.5、底部径2.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ナデ付け、内面ヨコナデ、胴部外面ミガキ様のナデ付け、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 1/2。G. 胴部内面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。
5	小形直口壺	A. 残存高7.1、底部径4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。低部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 胴部のみ。G. 胴部外面に黒斑あり。胴部内面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。

第78号住居跡 (第76図、図版15)

C3地点の調査区東側の南寄りに位置する。重複する第122号土坑に、住居跡北西側の上面を切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.10m、北西～南東方向が2.99mを測る。住居跡の主軸方位は、N-38°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは36cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く縮まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居北東側壁の東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長160cm、最大幅113cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面は、一部よく焼けて赤色化している。中央部からは、長胴甕が1個出土しており、本カマドの甕の掛け方が1個掛けであった可能性が高い。支脚は見られなかったようである。奥壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖は、ローム粒子やロームブロックを含む黄褐色粘土を、住居の壁に直接貼り付け



第76図 第78号住居跡

第78号住居跡土層説明

- 第1層：灰黄褐色砂質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（径5cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第78号住居跡カマド土層説明

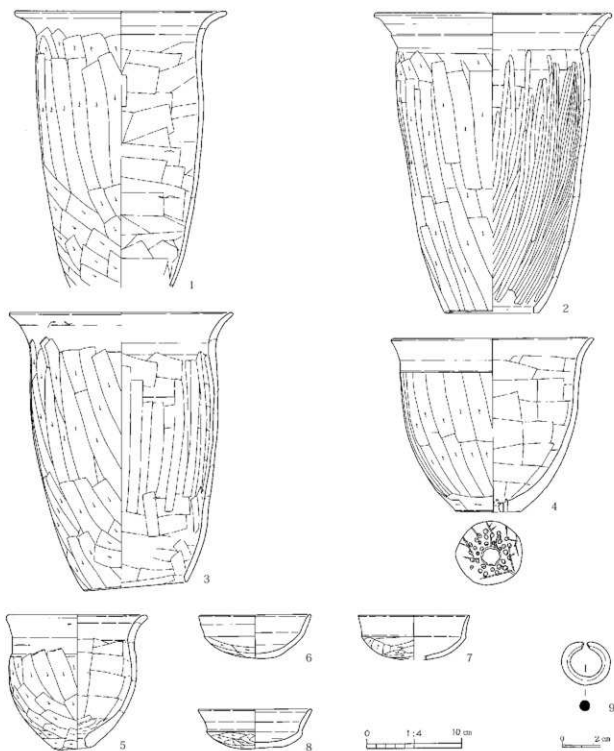
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（黄褐色粘質土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（黄褐色粘質土粒子を多量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（炭化物を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第12層：黄褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：黄褐色粘質土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：赤褐色土層（焼熱による酸化部分。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：黄褐色粘質土層（ローム粒子・炭化物・白色粒を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第22層：褐色粘質土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第23層：褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第24層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第25層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第26層：黄褐色粘質土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

て構築している。両袖の先端付近には、大形甕を伏せて補強している。焚口部からは、2個の甕が入れ子状に連結された状態で出土しており、袖補強大形甕の上に乘せられて焚口部天井の補強に使用されていたものと思われる。煙道部は、住居の壁外に85cmほど水平に延びて上方に向かっている。

遺物は、カマド内やその周辺から土器が多く出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。

第33表 第78号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径22.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.角四石、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.上半のみ。G.カマド左側袖の補強に利用。H.カマド内。
2	大形甕	A.口縁部径25.0。器高31.7。底部径10.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデの後ミガキ。D.角四石、赤色粒、白色粒。E.外一淡赤褐色、内一橙褐色。F.ほぼ完形。H.カマド左側袖補強。
3	大形甕	A.口縁部径23.5。器高29.3。底部径11.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.角四石、赤色粒、白色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.ほぼ完形。G.カマド右側袖の補強に利用。H.カマド右側袖補強。
4	多孔甕	A.口縁部径21.3。器高18.3。底部径7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.白色粒。E.外一橙褐色、内一淡褐色。F.2/3。H.覆土中。



第77図 第78号住居跡出土遺物

5	小形甕	A.口縁部径14.8、器高14.2、底部径4.3。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面逆ナデ。D.雲母、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡橙褐色。F.ほぼ完成。H.床面直上。
6	模倣杯	A.口縁部径11.8、器高4.6。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
7	模倣杯	A.口縁部径(11.7)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。

8	模倣坏	A.口縁部径11.9、器高4.2。B.粘土縮積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一褐色、内一黒色。F.ほぼ完形。H.カマド右袖内。
9	耳環	A.長さ2.3、最大幅2.6、厚さ0.5、重さ6.3g。B.中実。D.割裂。F.完形。G.銅地金貼り？。H.覆土中。

第79号住居跡（第56図）

C3地点の調査区東側の南寄りに位置している。第68号住居跡や第70号住居跡と重複し、それらを切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ台形ぎみの不整形を呈している。規模は、南北方向が3.60m、東西方向が4.02mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は良く分からないが、平坦に作られている。

遺物は、覆土中から古墳時代前期～白鳳時代の土器の破片が少量混在して出土している。本住居跡の時期は、明確ではないが遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期末～白鳳時代頃と思われる。

本住居跡は、住居内施設が全く検出されておらず、一般の住居跡とは様相が異なっている。竪穴規模が比較的小形で形態も整っていないことから、一般の竪穴住居とは性格が異なる遺構ではないかと思われる。



第78図 第79号住居跡
出土遺物

第34表 第79号住居跡出土遺物観察表

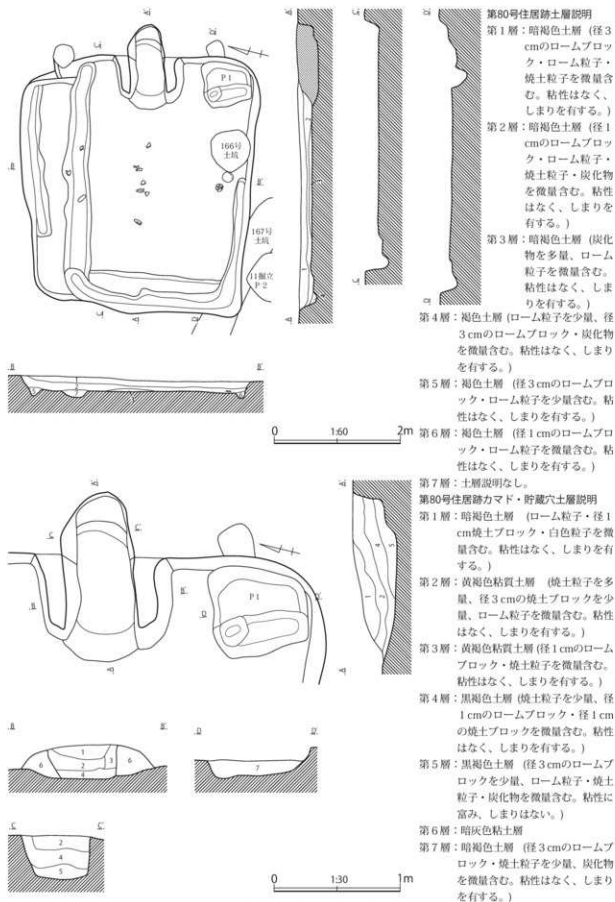
1	有段口縁坏	A.口縁部径(11.2)、残存高3.5。B.粘土縮積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
---	-------	---

第80号住居跡（第79図、図版15）

C3地点の調査区東側の南東寄りに位置している。重複する第166・167号土坑に切られ、第68号住居跡を切っている。

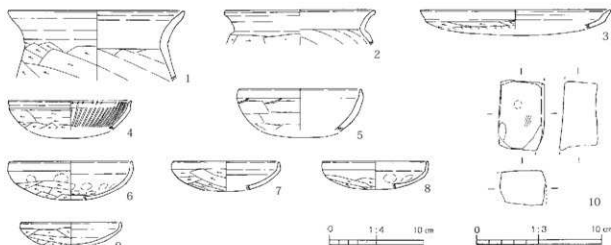
平面形は、コーナー部が丸みを持つ長方形を呈している。規模は東西方向が4.21m、南北方向が3.95mを測る。住居跡の主軸方位は、N-75°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。壁溝は、カマドのある住居東側壁以外の壁の壁下に見られる。また、北側壁の内側70cmの所に、北側壁と平行して旧壁溝が巡っていることから、本住居跡の北側は拡張されたものと考えられる。ピットは1カ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。76cm×80cmの丸みをもつ台形ぎみの形態で、床面からの深さは26cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長140cm、最大幅117cmある。燃焼部は、住居の壁を55cm程度掘り込んでいる。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く、皿状に窪んでいる。奥壁は、直線的に立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、暗灰色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、既に削平されて存在していなかった。



第79図 第80号住居跡

遺物は、住居の床面付近や覆土中から、白鳳時代（7世紀後半）を主体とする土器や砥石の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代（7世紀後半）と考えられる。



第80図 第80号住居跡出土遺物

第35表 第80号住居跡出土遺物観察表

1	長頸甕	A.口縁部径(18.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外—淡茶褐色、内—淡褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
3	皿	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/8破片。H.覆土中。
4	暗文 坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.外—淡茶褐色、内—暗褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(13.0)。残存高4.0。B.粘土組織み上げ。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外—淡褐色、内—淡茶褐色。F.1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。体部外面に黒斑点あり。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(11.4)。残存高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
8	坏	A.口縁部径(11.2)。残存高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外—暗褐色。F.口縁部1/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径(10.6)。器高2.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外—茶褐色、内—淡茶褐色。F.1/2。G.体部外面に黒斑点あり。H.覆土中。
10	柱状砥石	A.残存長5.7、残存幅3.7、厚さ3.1、重さ97.0g。B.切り出し。C.表面研磨。D.凝灰岩。F.破片。H.覆土中。

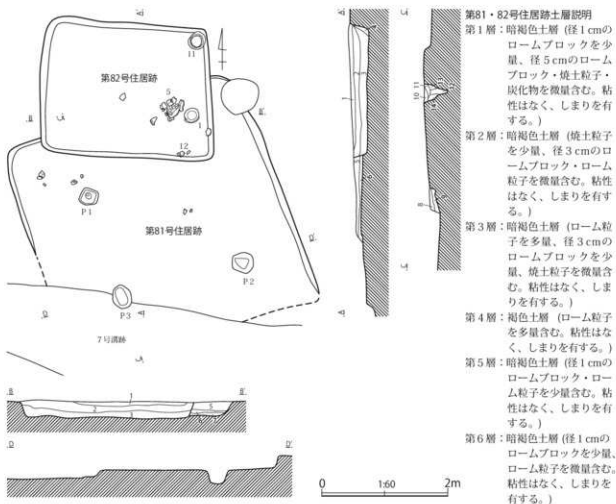
第81号住居跡（第81図、図版15）

C3地点の調査区東側の南端に位置する。第82号住居跡や第7号溝跡と重複し、それらによって切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が4.17m、北西～南東方向は4.00mまで測れる。住居跡の北東側壁は、N-21°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。残存する各壁下からは、壁溝は見ら

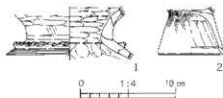
れなかった。ピットは、3カ所検出されている。P1～P3は、ほぼ住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴を構成すると考えられる。形態は、長さ30cm～40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは10cm～40cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。炉は、検出されなかった。

遺物は、住居の床面上や覆土中から、古墳時代前期の土器片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第81図 第81・82号住居跡

- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：灰黄褐色砂質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりもない。）
- 第9層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第13層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第82図 第81号住居跡出土遺物

第36表 第81号住居跡出土遺物観察表

1	パレス壺	A. 頸部径(9.0)。B. 粘土組織み上げ。凸帯貼り付け。C. 頸部外面ヨコナデの後上半ナデ、内面ミガキの後赤彩を施す。胴部外面帯状工具による横線文、内面笠ナデ。凸帯上にはキザミを施し、キザミ内は赤彩されている。D. 白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一淡褐色。F. 頸部1/2。G. 頸部内面に指頭瓦を残す。H. 覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A. 台端部径(7.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 台部1/2。H. 覆土中。

第82号住居跡 (第81図、図版16)

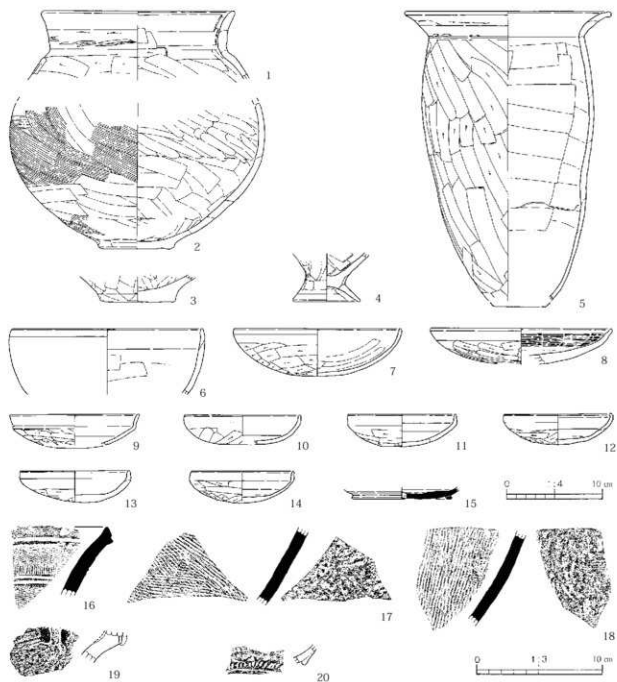
C3地点の調査区東側の南端に位置する。第81号住居跡と重複し、それらによって切られている。平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が2.80m、南北方向が2.21mある。住居跡の長軸方位は、N-93°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。住居内施設は、全く検出されなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のものである。

遺物は、住居の床面上や覆土中から、白鳳時代(7世紀後半)を主体とする土器が比較的多く出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)と考えられる。

本遺構は、床面の構造は貼床式のものであるが、住居内施設が全く見られないことから、住居跡とするには疑問であり、一般的な竪穴住居とは性格の異なる遺構の可能性が高いのではないと思われる。

第37表 第82号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A. 口縁部径(20.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後笠ナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、赤色粒、白色粒。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部のみ。H. 床面直上。
2	壺	A. 底部径(8.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ハケの後笠ナデ、内面笠ナデの後上半ナデ。底部外面外周ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 外一橙褐色、内一淡褐色。F. 胴部下4/5。H. 覆土中。
3	壺	A. 底部径(7.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面笠ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
4	小形台付甕	A. 台端径(7.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面笠ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 石英、長石、片岩粒、黒色粒。E. 外一明赤褐色、内一赤褐色。F. 台部のみ。H. 覆土中。
5	長胴甕	A. 口縁部径21.8。残存高30.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、赤色粒、白色粒。E. 外一淡橙褐色、内一淡褐色。F. 底部欠損。H. 覆土中。
6	鉢	A. 口縁部径(20.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部1/5。H. 覆土中。
7	鉢	A. 口縁部径(17.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、長石、角閃石、黒色粒、赤色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
8	皿	A. 口縁部径19.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後ハケ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、赤色粒。E. 内外一橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
9	模倣坏	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径12.4。器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 外一淡橙褐色、内一橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径11.5。器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、片岩粒。E. 外一淡橙褐色、内一橙褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
12	坏	A. 口縁部径11.4。器高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、長石、赤色粒。E. 内外一橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径(11.6)。器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、角閃石、赤色粒。E. 外一淡褐色、内一橙褐色。F. 2/3。G. 内面は荒れている。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径11.0。器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英。E. 内外一橙褐色。F. 3/4。H. No4。
15	須恵器高台付坏	A. 高台部径(10.6)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け?。C. 高台部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 石英、長石、白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部1/4。H. 覆土中。



第83図 第82号住居跡出土遺物

16	須恵器	B.粘土組織み上げ後ロク口整形。C.口縁部内外面回転ナデの後外面ハケ。外面は櫛描波状文を施す。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部破片。H.覆土中。
17	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
18	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D.石英、白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
19	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.石英、片岩粒、黒色粒。E.外一明赤褐色、内一淡黄褐色。F.口縁部破片。G.口縁部外面に棒状浮文貼り付け。H.覆土中。
20	壺	B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ミガキ。口縁部下端にキザミを施す。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。

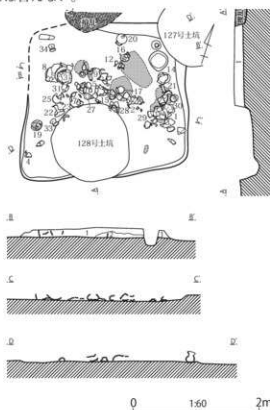
第83号住居跡 (第84図、図版16)

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第127・128号土坑に切られている。遺構上面は強く削平を受けており、遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部の丸みが強い歪んだ方形の形態を呈している。規模は、南北方向が2.50m、東西方向が2.70mを測る。住居跡の南側壁は、N-66°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに立ち上がり確認面からの深さは7cmある。住居跡内からは、炬や柱穴などの住居内施設は、まったく検出されなかった。床面は、地山をそのまま掘り窪めて平坦にした直床式のものである。床面上には炭化粒子の分布が比較的広い範囲に顕著に見られることから、床の上には何か敷かれていたのかもしれない。

遺物は、床面直上より古墳時代前期末の完形に近い土器が多数密集して出土しており、良好な一括資料と言える。また、土器以外では、覆土中から白玉1点と、炭化したモモ核が1点出土している。これらの土器は、多くの器種が見られ、その出土状態から祭祀等に関係して集積されたものと思われる。

本遺構は、住居内施設が全く見られないことから、住居跡とするのは疑問である。底面上に炭化粒子が多量に分布していることや、炭化したモモ核が出土していることから遺構内での火の使用が窺え、出土した多量の土器を使用した祭祀跡の可能性が高いのではないかとと思われる。



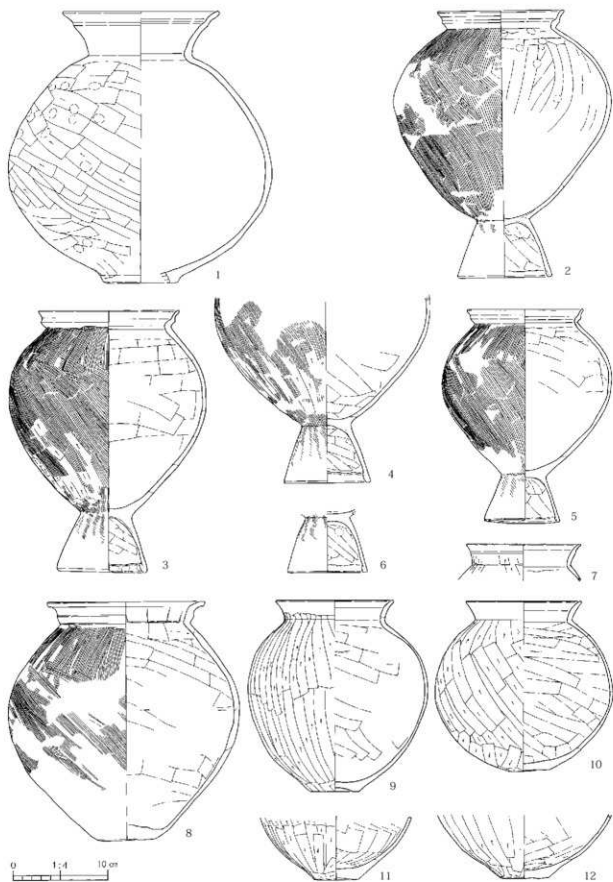
第84図 第83号住居跡

第83号住居跡土層説明

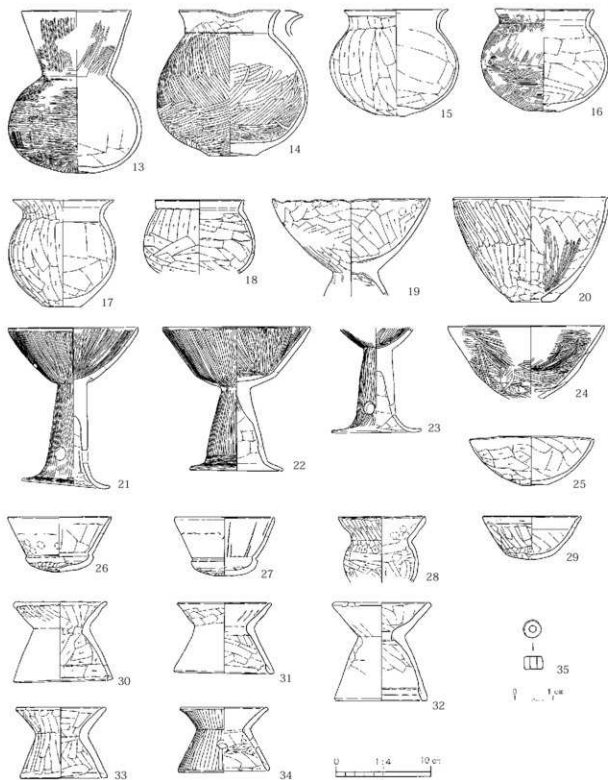
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を少量、埴土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を多量含む。しまりを有する。）

第38表 第83号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径16.7、器高28.8、底部径7.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。D.石英、角閃石、チャート、赤色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一明黄褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径13.4、器高28.2、台端部径10.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。台部外面ナデの後部分的なハケ、内面篋ナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.2/3。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径14.9、器高27.7、台端部径8.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。台部外面ナデの後部分的なハケ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒、褐色粒。E.内外一淡黄褐色。F.3/4。H.床面直上。
4	S字状口縁台付甕	A.台端部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。台部外面ナデの後部分的なハケ、内面篋ナデ。D.白色粒。E.外一黄褐色、内一淡黄褐色。F.4/5。H.床面直上。
5	S字状口縁台付甕	A.口縁部径12.2、器高22.6、台端部径7.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。台部外面ナデの後部分的なハケ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒、赤色粒。E.外一淡黄褐色、内一灰褐色。F.4/5。H.床面直上。
6	S字状口縁台付甕	A.台端部径8.5。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後部分的なハケ、内面篋ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.内外一明褐色。F.台部2/3。H.No21。
7	甕	A.口縁部径12.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.黒色粒、白色粒、赤色粒、角閃石、雲母。E.内外一赤褐色。F.口縁部1/2。H.No30。



第85图 第83号住居跡出土遺物(1)



第86図 第83号住居跡出土遺物(2)

8	甕	A.口縁部径16.8、器高25.4、底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面髹ナデ。底部外面髹ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.外一灰褐色、内一淡赤褐色。F.3/5。H.床面直上。
9	甕	A.口縁部径(12.5)、器高20.2、底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髹ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石、石英。E.外一褐色、内一明赤褐色。F.3/5。H.床面直上。

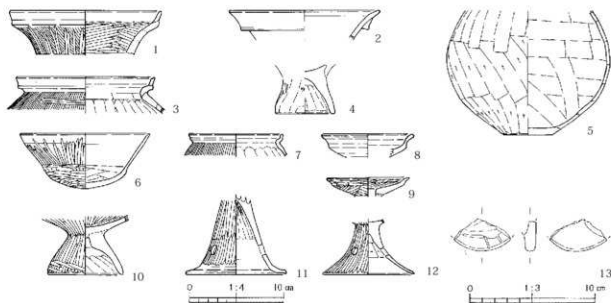
10	甕	A.口縁部径12.2、器高18.0、底部径4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.外一褐色、内一淡褐色。F.1/2。H.床面直上。
11	甕	A.底部径4.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面笠ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一褐色。F.1/3。H.床面直上。
12	甕	A.底部径5.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.外一褐色、内一淡褐色。F.2/3。H.床面直上。
13	中形直口甕	A.口縁部径11.6、器高17.2、底部径2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面笠ナデ。底部外面ミガキ。D.角閃石、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.4/5。H.床面直上。
14	広口甕	A.口縁部径10.7、器高15.4、底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデの後下半ミガキ。底部外面ナデ、内面ミガキ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、石英。E.内外一淡赤褐色。F.ほぼ完形。G.口縁部は片口をもつ。H.床面直上。
15	鉢	A.口縁部径11.0、器高11.3、底部径3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.3/5。H.床面直上。
16	鉢	A.口縁部径11.4、器高10.8、底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面笠ナデ。底部外面笠ナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一褐色、内一淡赤褐色。F.4/5。H.床面直上。
17	小形甕	A.口縁部径10.6、器高11.3、底部径4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母、石英。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
18	鉢	A.口縁部径9.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、角閃石雲母、石英。E.内外一褐色。F.口縁1/3。H.覆土中。
19	台付鉢	A.口縁部径16.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面指押さの後ナデ。胴部外面笠ナデの後ケズリ、内面ケズリ。台ナデの後部分的なハケ、内面ケズリ。D.白色粒、チャート。E.外一灰褐色、内一褐色。F.4/5。H.床面直上。
20	小形甕	A.口縁部径16.6、器高11.0、底部径4.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデ、内面笠ナデの後一部ミガキ。底部外面笠ナデ。D.角閃石、白色粒、赤色粒、石英。E.外一褐色、内一明赤褐色。F.完形。H.床面直上。
21	高坏	A.口縁部径13.7、器高17.0、脚端部径9.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴柱部外面ミガキ、内面上半較り目下半笠ナデ。脚端部外面ミガキ、内面笠ナデ。D.雲母、白色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。G.脚部穿孔は3カ所。H.床面直上。
22	高坏	A.口縁部径15.7、器高15.3、脚端部径9.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴柱部外面ミガキ、内面笠ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.4/5。H.床面直上。
23	高坏	A.脚端部径9.5。B.粘土組織み上げ。C.坏部内外面ミガキ。胴柱部外面ミガキ、内面笠ナデ。脚端部内外面ナデ。D.雲母、褐色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.4/5。G.脚部穿孔は3カ所。H.床面直上。
24	高坏	A.口縁部径16.5。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。D.雲母、褐色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.坏部1/3。H.床面直上。
25	鉢	A.口縁部径13.1、器高5.2、底径2.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後下半ナデ、内面笠ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
26	小形浅鉢	A.口縁部径10.8、器高5.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、角閃石、黒色粒、赤色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.3/5。H.床面直上。
27	小形浅鉢	A.口縁部径10.6、器高6.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面笠ナデの後ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、角閃石、黒色粒、赤色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.完形。H.床面直上。
28	小形直口甕	A.口縁部径9.3。B.粘土組織み上げ。C.外面ケズリ、内面笠ナデ。D.角閃石、白色粒。E.外一淡黄褐色、内一黄褐色。F.胴部下欠損。H.床面直上。
29	鉢	A.口縁部径10.4、器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒。E.外一明褐色、内一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
30	器台	A.口縁部径9.9、器高8.5、脚端部径10.4。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面笠ナデ。脚部外面ナデ、内面笠ナデ。D.雲母、黒色粒、白色粒。E.外一明黄褐色、内一淡褐色。F.完形。H.床面直上。
31	器台	A.口縁部径10.0、器高7.5、脚端部径10.6。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ヨコナデの後笠ナデ。脚部外面ナデ、内面笠ナデ。D.雲母、角閃石、白色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
32	器台	A.口縁部径10.6、器高10.4、脚端部径9.8。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面笠ナデ。脚部内外面笠ナデ。D.角閃石、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一褐色。F.1/3。H.覆土中。
33	器台	A.口縁部径9.5、器高7.5、脚端部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.内外面笠ナデ。D.角閃石、白色粒。E.外一明褐色、内一淡赤褐色。F.完形。G.口縁部外面に指押圧痕を残す。H.床面直上。
34	器台	A.口縁部径9.3、器高6.9、脚端部径9.6。B.粘土組織み上げ。C.器受部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ナデ。台部外面ミガキ、内面笠ナデの後ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、石英。E.内外一明赤褐色。F.完形。H.床面直上。
35	白玉	A.長さ0.5、幅0.5、厚さ0.3、重さ0.14g。C.側面研磨。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。

第84号住居跡（第88図、図版16）

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。第85・94号住居跡や第142号土坑と重複し、それらによって切られている。残存しているのは、住居跡の南東側コーナ部付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナ部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向は2.60mまで、南北方向は2.55mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-10°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは13cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、本住居跡と関係するものとして、P5の1カ所が検出されている。P5は、住居東側コーナ部に位置し、その形態から貯蔵穴と考えられる。形態は、78cm×60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは40cm程度ある。中からは、No12の高坏脚部や長さ15cm程度の棒状の自然石が1個出土している。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の床面付近や覆土中から、古墳時代前期の土器片が散在したような状態で出土している。土器以外では、覆土中から土製品の破片(No13)が1点出土している。これは、その形態が円盤状になる可能性があり、片面の中央付近が盛り上がっていた痕跡が見られることから、摘みのような突起をもつ小形の蓋かあるいは鏡の模造品のようなものとも考えられる。類似した形状の土製品の破片は、古墳時代前期の第103号住居跡でも出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第87図 第84号住居跡出土遺物

第39表 第84号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。頸部内外面ハケの後ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	複合口縁壺	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。頸部内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(14.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.床面直上。

4	台付甕	A.台端部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ハケの後ナデ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.台部のみ。H.覆土中。
5	平底甕	A.残存高13.2、底部径5.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一明茶褐色。F.胴部下1/4。H.床面付近。
6	小形浅鉢	A.口縁部径13.6、器高5.8。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外ヨコナデ。口縁部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.床面付近。
7	S字状口縁小形鉢	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
8	器台	A.口縁部径(9.8)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.器受部1/4。H.覆土中。
9	器台	A.口縁部径(8.8)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.器受部1/4。H.覆土中。
10	高坏	A.脚端部径(8.0)。B.粘土組織み上げ。C.坏部内外面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.脚部1/2。H.床面付近。
11	高坏	A.脚端部径(10.6)。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面上半粒目・下半ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚部1/3。G.脚部穿孔(焼成前は3カ所)。H.覆土中。
12	高坏	A.脚端部径9.8。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面上半ケズリ・下半ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.脚部のみ。G.脚部穿孔(焼成前は3カ所)。H.P5内。
13	不 土 明 製 品	A.残存長2.6、残存幅4.6、厚さ1.0。B.手捏ね。C.表裏面ともナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.破片。G.片面側に割離痕あり。H.覆土中。

第85号住居跡(第88図、図版16)

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第86・92・94号住居跡や第142・210・211号土坑に切られ、第84号住居跡を切っている。

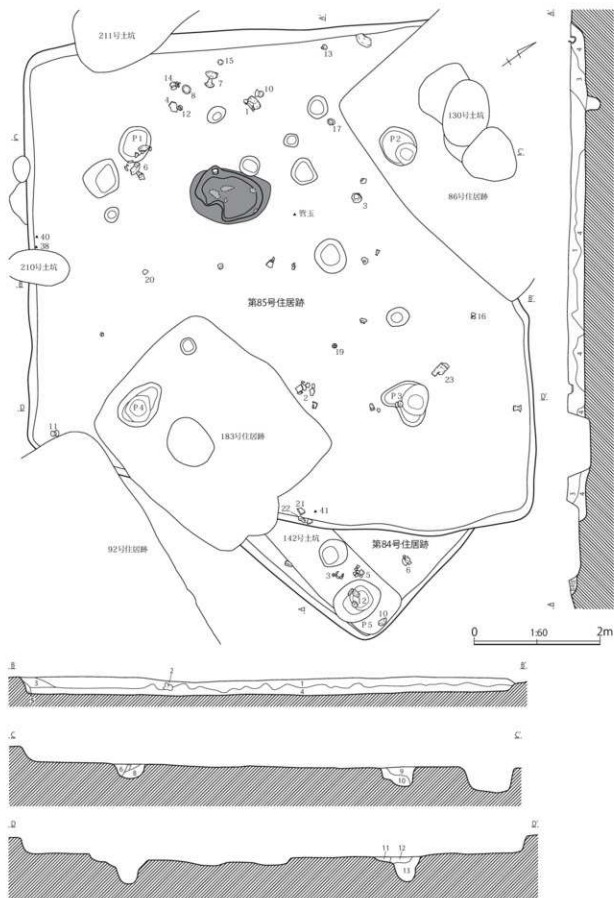
平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、南東側壁はかなり歪んで台形に近い形態になっている。規模は、北西→南東方向が最長8.00m、北東→南西方向が7.98mを測る。住居跡の主軸方位は、N-55°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡から多数検出されている。この中で、P1～P4は、概ね住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の可能性が高いと思われる。形態は、長軸が60cm～80cmの楕円形を呈し、床面からの深さは22cm～43cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

炉は、住居中央部の北東側寄りに位置する。住居の床面を掘り込まない地床炉であるが、あまり焼けていない。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代中期前半を主体とする土器が比較的多く出土している。これらの土器は、その出土状態から見て本住居で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程で周囲から投棄されたものと考えられる。土器以外では、南西側壁際の床面上から鉄製の曲刃鎌(No38)が出土しており注目される。その他、床面上から扁平な形態の石製紡錘車(No40)や勾玉(No41)が、覆土中から円盤状石製品(No42)が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係及びその形態や出土遺物の様相から、古墳時代中期前半頃と考えられる。

第40表 第85号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径16.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面指ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明褐色。F.上半2/3。H.覆土中。
2	大形鉢	A.口縁部径26.7、器高12.0、底径7.8。B.粘土組織み上げ。C.体部内外面指ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英、赤色粒。E.内外一赤褐色。F.1/2。H.覆土中。
3	高坏	A.口縁部径18.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文。坏部外面ヨコナデ、坏部内面指ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一暗褐色。F.坏部3/4。H.覆土中。



第88图 第84·85号住居跡

第84・85号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第8層：黄褐色土層（径0.5～7cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

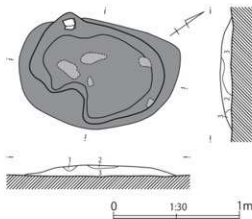
第9層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：黄褐色土層（径0.5～7cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第89図 第85号住居跡炉

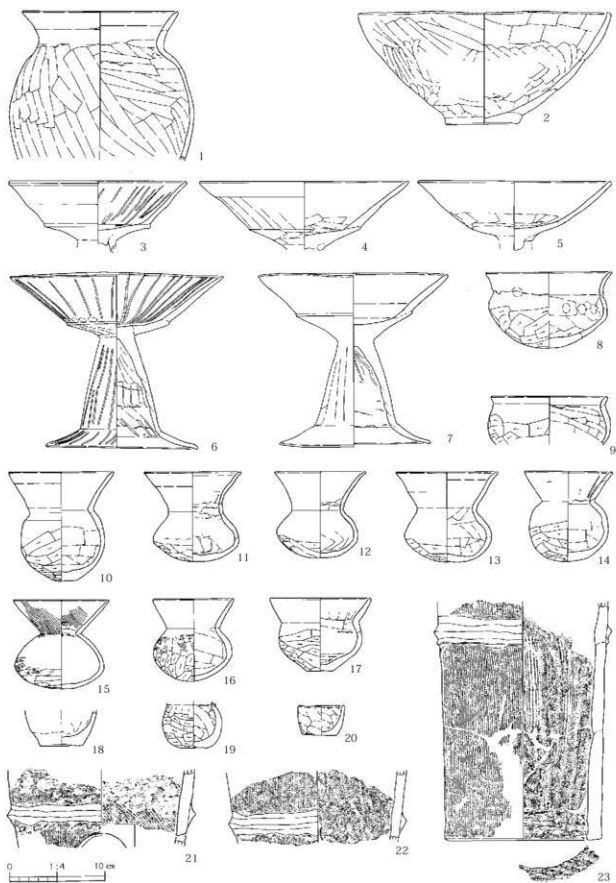
第85号住居跡炉土層説明

第1層：赤褐色土層（焼土ブロック。）

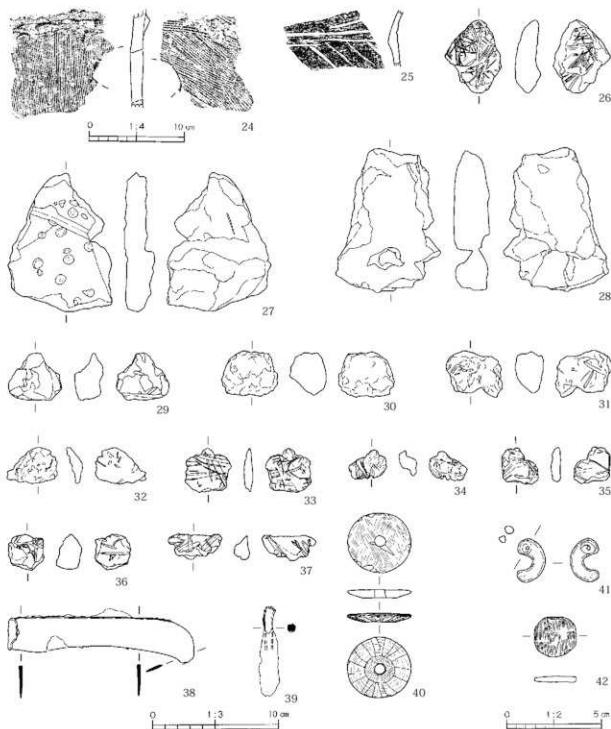
第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～6cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

4	高 環	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。環部内外面笠ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.環部1/4。H.床面付近。
5	高 環	A.口縁部径20.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。環部内外面笠ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母、礫。E.内外一橙褐色。F.環部3/4。H.覆土中。
6	高 環	A.口縁部径22.4。器高18.6。脚端部径16.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後放射状暗文。環部外面ナデの後ミガキ。内面上半指ナデ・下半ナデ。脚端部外面ヨコナデの後放射状暗文、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
7	高 環	A.口縁部径20.0。器高18.3。脚端部径15.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。環部内外面ナデ。脚柱部外面笠ナデ、内面上半較り目・下半ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、赤色粒。E.内外一橙褐色。F.5/6。G.外面に煤付着。H.床面付近。
8	小形鉢	A.口縁部径13.3。器高8.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡赤褐色。F.ほぼ完形。G.内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	環	A.口縁部径(12.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、褐色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
10	小形直口壺	A.口縁部径11.0。器高11.5。底部径2.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、石英、角閃石。E.外一淡赤褐色、内一赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
11	小形直口壺	A.口縁部径10.2。器高9.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
12	小形直口壺	A.口縁部径9.6。器高9.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、雲母。E.内外一淡赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
13	小形直口壺	A.口縁部径(10.8)。器高9.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒。外一橙褐色、内一明赤褐色。F.1/2。H.覆土中。
14	小形直口壺	A.口縁部径9.2。器高9.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデの後ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一灰褐色。F.完形。H.覆土中。
15	小形直口壺	A.口縁部径10.0。器高9.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケ。胴部外面上位ナデ・下位ハケ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.3/4。H.床面付近。
16	小形直口壺	A.口縁部径8.6。器高8.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一赤褐色。F.口縁部1/2欠損。H.覆土中。



第90图 第85号住居跡出土遺物(1)



第91図 第85号住居跡出土遺物(2)

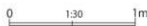
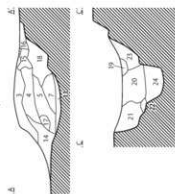
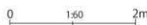
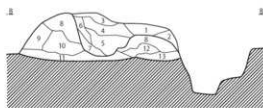
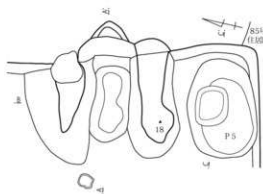
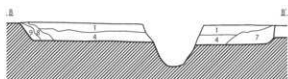
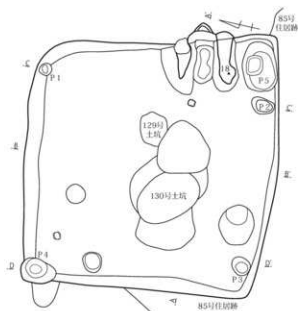
17	小形鉢	A.口縁部径10.7、器高7.7、底部径2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
18	小形土器	A.底部径4.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ナデ、内面指ナデ、底部外面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.外一明赤褐色、内一橙褐色。F.胴部下半1/3。H.覆土中。
19	小形直口壺	A.底部径2.9。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面笠ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒。E.外一淡褐色、内一橙褐色。F.口縁部欠損。H.覆土中。
20	小形土器	A.口縁部径4.9、器高3.2、底部径3.5。B.粘土組織み上げ。C.内外面指ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.完形。H.床面付近。

21	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ、凸帯貼り付け。C.外面タテハケ(10本/2cm)、凸帯ヨコナデ。内面ナメハケ(8本/2cm)。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.破片。H.覆土中。
22	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ、凸帯貼り付け。C.外面タテハケ(10本/2cm)、凸帯ヨコナデ。内面縦・斜方向のナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡黄褐色。F.破片。H.覆土中。
23	円筒埴輪	A.底部径(16.7)。B.粘土組織み上げ、凸帯貼り付け。C.外面タテハケ(10本/2cm)、凸帯ヨコナデ。内面指ナデの後タテハケ(6～11本/2cm)、下端部横方向の窪ナデ。底部外面に棒状圧痕。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外一橙褐色。F.基部1/6。H.覆土中。
24	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ、凸帯貼り付け。C.外面タテハケ(11～12本/2cm)、凸帯ヨコナデ。内面ナメハケ(8本/2cm)。D.石英、角閃石、白色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.破片。H.覆土中。
25	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は沈線による文様を施す。内面横方向のナデ。D.石英、黒色粒。E.内外一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代後期加賀式B式。H.覆土中。
26	粘土地	A.長さ5.7、最大幅4.4、最大厚2.0、重さ28.2g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、雲母。E.外一明赤褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
27	粘土地	A.長さ10.9、最大幅8.2、最大厚2.35、重さ173.0g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.外一黄褐色。F.破片。H.覆土中。
28	粘土地	A.長さ11.3、最大幅8.2、最大厚2.8、重さ183.6g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.外一淡褐色。F.破片。H.覆土中。
29	粘土地	A.長さ3.7、最大幅4.1、最大厚2.2、重さ23.3g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一にぶい褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
30	粘土地	A.長さ3.5、最大幅4.4、最大厚1.8、重さ40.0g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.外一明褐色。F.破片。H.2区上層。
31	粘土地	A.長さ3.7、最大幅4.4、最大厚2.2、重さ25.8g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.外一明赤褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
32	粘土地	A.長さ2.85、最大幅3.9、最大厚1.3、重さ8.4g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.外一黒色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
33	粘土地	A.長さ3.5、最大幅3.6、最大厚0.7、重さ6.7g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一にぶい褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
34	粘土地	A.長さ2.3、最大幅2.95、最大厚1.4、重さ4.9g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一橙褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
35	粘土地	A.長さ2.9、最大幅2.8、最大厚0.8、重さ5.5g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一橙褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.注記不明。
36	粘土地	A.長さ2.8、最大幅2.8、最大厚2.0、重さ11.2g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一にぶい黄褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
37	粘土地	A.長さ2.0、最大幅4.2、最大厚1.2、重さ6.4g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一黒色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を複数残す。H.覆土中。
38	曲刃鎌	A.長さ14.7、幅3.6、厚さ0.2、重さ36.32g。B.鍛造。D.鉄製。F.ほぼ完形。H.床面付近。
39	鉄釘?	A.長さ7.0、幅0.6、厚さ0.5、重さ17.12g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片(先端部欠損)。G.角釘。H.覆土中。
40	石製紡錘車	A.長さ4.7、幅5.0、厚さ0.7、重さ22.5g。C.上下面研磨。側面ケズリ。D.粘板岩。F.完形。H.床面付近。
41	石製勾玉	A.長さ2.3、幅1.5、厚さ0.5、重さ2.4g。C.研磨。D.滑石。F.完形。G.両面穿孔。H.覆土中。
42	円盤状石製品	A.長さ2.2、最大幅2.1、厚さ0.3、重さ27.0g。C.側面に粗い研磨痕が見られる。D.石材。F.完形。G.円板。H.覆土中。

第86号住居跡(第92図、図版17)

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第129・130号土坑に切られ、第85号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、南側壁と西側壁はやや歪んでいる。規模は、東西方向が4.20m、南北方向が4.08mを測る。住居跡の主軸方位は、N-78°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居に関係するものとして、5カ所検出されている。P1～P4は、調査時においていずれも住居跡のコーナー部近くあるいは壁際に位置していることから、住居の上屋を支え



第86号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1.5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、灰白色粘土ブロックを少量含む。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量含む。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）

第86号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土層（粘質ロームを多量、焼土ブロック・焼土粒子・黒褐色土ブロックを少量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりはない。）

第3層：暗褐色土層（暗褐色土・粘質ロームを主に、焼土粒子を少量含む。）

第92図 第86号住居跡

- 第4層：暗褐色土層（粘質ローム・焼土ブロック・焼土粒子を含む。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を多量含む。）
 第6層：褐色土層（粘質ローム・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第8層：褐色土層（暗褐色土・粘質ロームを主に、焼土ブロックを多量含む。）
 第9層：褐色土層（暗褐色土・粘質ロームを主に、径0.5～2cmの黒褐色土ブロックを多量、焼土粒子を少量含む。）
 第10層：褐色土層（粘質土質ローム・黒褐色土ブロックを含む。）
 第11層：褐色土層（暗褐色土・粘質ローム・ローム粒子を含む。）
 第12層：褐色土層（暗褐色土・粘質ロームを主に、径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。）
 第13層：褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。）
 第15層：赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを主に、ローム粒子を含む。）
 第16層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を微量含む。）
 第17層：黒褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を多量含む。）
 第18層：暗褐色土層（焼土ブロックを多量含む。）
 第19層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）
 第21層：褐色土層（ロームを主に、暗褐色土を含む。しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。しまりを有する。）
 第23層：褐色土層（粘質ロームを主に、暗褐色土を含む。しまりを有する。）
 第24層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

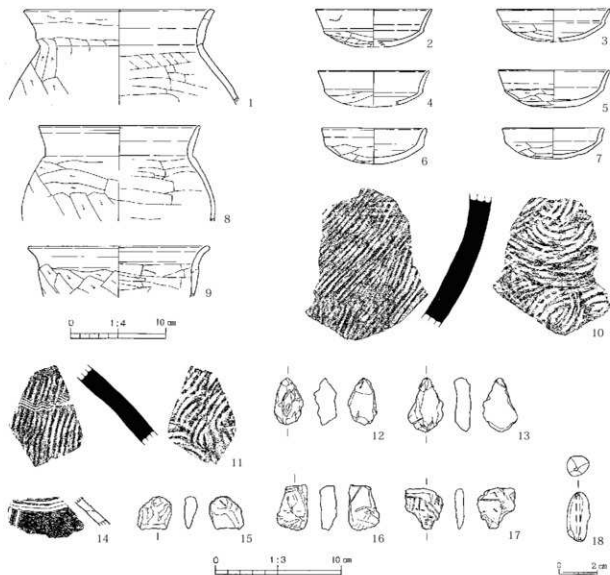
る4本主柱の柱穴と推測されているが、形態や位置に規格外がなく明確ではない。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、住居の南東側コーナー部に位置している。形態は、80cm×56cmの楕円形を呈し、床面からの深さは42cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長115cm、最大幅122cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面は、あまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖は、粘質ロームを主体とする褐色粘土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、住居壁外に12cmほど残存し、その先は削平されている。

遺物は、住居の床面上や覆土中から、古墳時代後期後葉頃を主体とする土器が少量出土している。土器以外では、焼成された小粘土塊(No12～17)や土鍾(No18)が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係及びその形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。

第41表 第86号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径(20.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蓋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
2	模倣坏	A.口縁部径(12.4)。器高(4.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
3	模倣坏	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面蓋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/5。H.覆土中。
4	模倣坏	A.口縁部径(11.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面蓋ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色、内一淡黄橙褐色。F.1/6。H.覆土中。
5	模倣坏	A.口縁部径11.8。器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.内外一淡橙褐色。F.完形。H.覆土中。
6	模倣坏	A.口縁部径11.2。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面蓋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/4欠損。H.覆土中。
7	模倣坏	A.口縁部径10.7。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。



第93図 第86号住居跡出土遺物

8	胴張甕	A.口縁部径(17.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外—淡黄橙褐色、内—褐灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
9	大形鉢	A.口縁部径(19.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外—淡褐色、内—灰褐色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
10	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外—灰黄色、内—灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
11	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)の後、4条1単位の櫛歯状工具による波状文、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外—灰黄色、内—灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
12	粘土塊	A.長さ3.7、最大幅2.3、最大厚1.8、重さ10.38g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外—明赤褐色。F.破片。H.覆土中。
13	粘土塊	A.長さ4.3、最大幅2.7、最大厚1.3、重さ10.17g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外—暗灰黄色。F.破片。H.覆土中。
14	甕	B.粘土組織み上げ。C.外面半截竹管状工具による3条の横位沈線、縦位沈線2条。内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外—淡黄橙褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
15	粘土塊	A.長さ2.6、最大幅2.7、最大厚1.0、重さ6.06g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外—淡橙褐色。F.破片。H.覆土中。

16	粘 土 塊	A.長さ3.6、最大幅2.4、最大厚1.3、重さ9.94g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色。F.破片。H.覆土中。
17	粘 土 塊	A.長さ3.2、最大幅3.0、最大厚0.7、重さ5.84g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色。F.破片。H.覆土中。
18	土 錘	A.長さ2.6、最大幅1.2、重さ2.97g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一黄褐色。F.完形。H.覆土中。

第87号住居跡（第153図、図版17）

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第88号住居跡と第119号住居跡によって、住居跡の大半を切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は3.28mまで、東西方向は1.75mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-5°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られない。床面の構造は不明であるが、ほぼ平坦に作られている。住居跡の残存する部分からは、ピット・炉・カマドなどの住居内施設は検出されなかった。

遺物は、図示できるものはないが、古墳時代前期から奈良時代頃までの土師器や須恵器の破片が、覆土中から混在して少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代前期頃と思われる。

第88号住居跡（第94図、図版17）

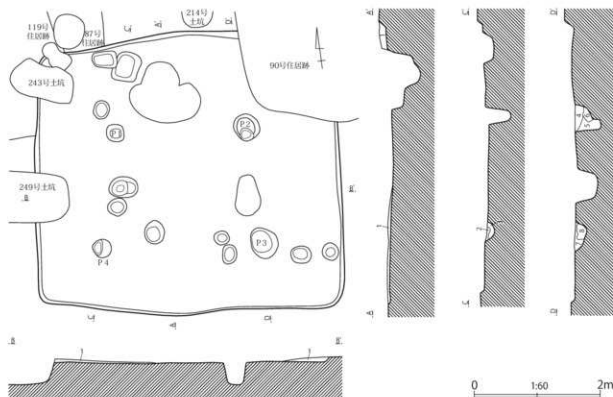
C3地点の調査区中央部の北寄りに位置している。重複する第90・119号住居跡や第243・249号土坑に切れ、第87号住居跡を切っている。本住居跡の上面はかなり強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ隅丸方形を呈している。規模は、南北方向が4.45m、東西方向が4.82mある。住居跡の南北両側の壁は、N-97°-Eの方向を向いている。壁は、遺存状態が悪いため明確ではないが、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cm程度ある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多く検出されている。この中のP1～P4は、住居のほぼ対角線上に位置していることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と想定される。形態は、径28cm～52cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは14cm～43cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。炉やカマドは検出されなかった。

遺物は、図示できるものはないが、古墳時代前期末から奈良時代までの土器の破片が、覆土中から少量混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代中期後半以前と思われる。

第89号住居跡（第95図、図版17）

C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置している。重複する第90・91・92・100号住居跡や第185・187号土坑に切られている。残存しているのは、住居跡の西側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。



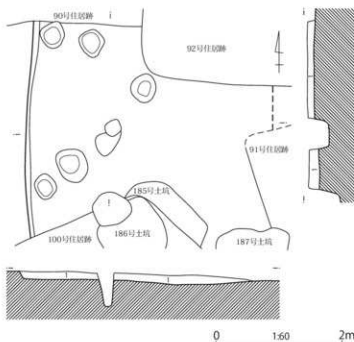
第94図 第88号住居跡

第88号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第3層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。）
 第8層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土・径0.5～5cmのロームブロックを含む。）

第89号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を少量含む。）

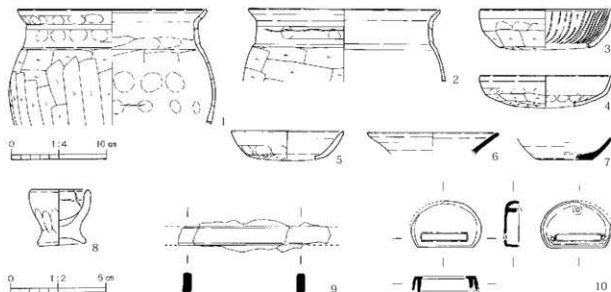


第95図 第89号住居跡

平面形は、不明である。規模は、東西方向は推定で3.94m程度、南北方向は3.50mまで測れる。住居跡の西側の壁は、 $N-2^{\circ}-E$ の方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、比較的多く

検出されているが、本住居跡との関係は不明である。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式の様である。炉やカマドは検出されなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、奈良時代から平安時代前期を主体とする土器の破片が出土している。土器以外では、覆土中から銅製鈿帯金具の丸轆(No10)や棒状の鉄製品(No9)の破片が出土している。本住居跡の時期は、古墳時代中期後半の第91号住居跡と第92号住居跡に切られていることから、遺構の重複関係からは古墳時代中期以前と考えられ、覆土中から出土した土器の時期とは整合していない。



第96図 第89号住居跡出土遺物

第42表 第89号住居跡出土遺物観察表

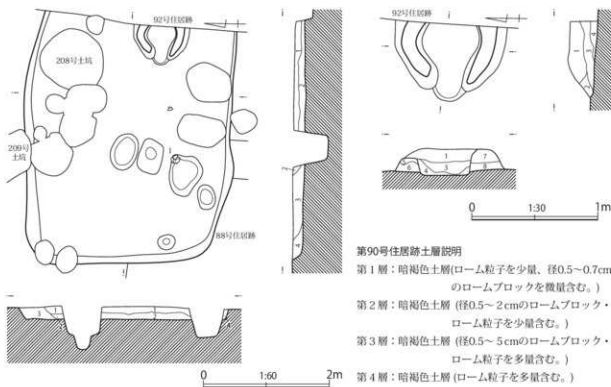
1	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面と胴部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(20.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	暗文 坏	A.口縁部径(14.0)。残存高4.1。底部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
6	須恵器 皿	A.口縁部径(14.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
7	須恵器 坏	A.底部径(6.0)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.底部1/3。G.未野産。H.覆土中。
8	小形土器	A.口縁部径3.2。器高3.0。台端部径2.6。B.粘土組織み上げ後内面に粘土を充填する。C.内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ正圆形。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	棒状鉄製品	A.残存長8.1、幅1.0、厚さ0.4、重さ15.4g。B.鍛造。C.断面は長方形を呈する。D.鉄製。E.破片。H.覆土中。
10	鈿帯金具	A.長さ2.5、最大幅3.8、高さ0.8、重さ7.7g。B.鑄造。C.下端に長方形の孔を持つ。内面の足金具は3本。D.銅製。F.一部欠損。G.丸轆。H.覆土中。

第90号住居跡 (第97図、図版17)

C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置する。重複する第92号住居跡や第208・209号土坑に切られ、第88号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.29m、東西方向は3.92mまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-95°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から複数検出されているが、本住居跡との関係は不明である。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、その東側半分を重複する第92号住居跡に切られているため、その全容は不明であるが、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、住居の壁に対してほぼ直角に付設されていたと思われる。



第90号住居跡土層説明

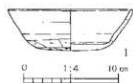
- 第1層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、径0.5~0.7cmのロームブロックを微量含む。)
- 第2層：暗褐色土層(径0.5~2cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。)
- 第3層：暗褐色土層(径0.5~5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。)
- 第4層：暗褐色土層(ローム粒子を多量含む。)

第97図 第90号住居跡

第90号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層(暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。ロームブロック・ローム粒子・径0.5~1cmの焼土ブロック・炭化物を含む。しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土粒子少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土粒子を含む。しまりを有する。)
- 第4層：黄褐色土層(ロームブロックを多量含む。しまりを有する。)
- 第5層：暗褐色土層(暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層(粘質ロームを多量含む。しまりを有する。)
- 第7層：暗褐色土層(焼土粒子を多量、径0.5~1cmの粘質ロームブロックを少量含む。しまりを有する。)
- 第8層：暗褐色土層(粘質ロームを多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

規模は、残存長が61cm、最大幅は89cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに、その大半が住居内にあったと思われる。壁面はあまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも若干低くなっている。袖は、粘質ロームやロームブロックを含む暗褐色土を盛り上げて構築している。



第98図 第90号住居跡出土遺物

遺物は、古墳時代前期～平安時代前期頃までの土器の破片が、覆土中から混在して出土している。本住居跡の時期は、古墳時代中期後半の第92号住居跡に切られていることから、それ以前と考えられる。

第43表 第90号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径13.2、器高4.2、底部径7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面下端・底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
---	---	---

第91号住居跡（第99図、図版17・18）

C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置する。重複する第93・98号住居跡や第157～160・188号土坑に切られている。本住居跡は、住居の床面近くまで削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

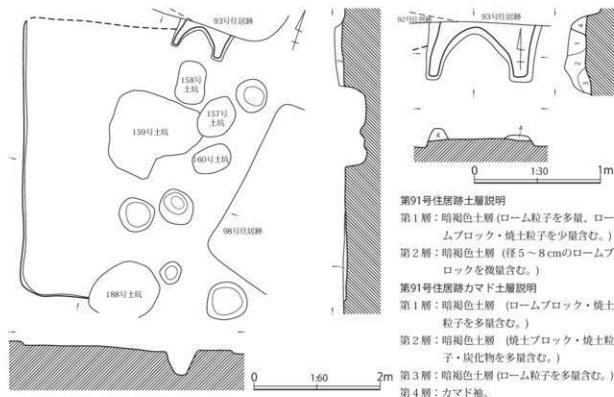
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が推定で4.37m、東西方向は不明である。住居跡の主軸方位は、N-17°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは6cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から複数検出されているが、本住居跡との関係は不明である。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。

カマドは、その北側を重複する第93号住居跡に切られているため、その全容は不明であるが、住居の北側壁に、住居の壁に対してやや斜めに付設されていたと思われる。規模は、残存長が45cm、最大幅は91cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに、その大半が住居内にあったと思われる。壁面はあまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さである。袖は、ロームブロックを含む暗褐色土を、燃焼部奥壁まで廻して構築している。

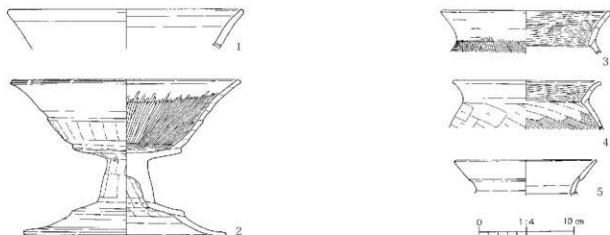
遺物は、古墳時代前期～後期の土器や須恵器の破片が、覆土中から混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や住居跡の形態及び出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第44表 第91号住居跡出土遺物観察表

1	有段高坏	A.口縁部径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
2	有段高坏	A.口縁部径24.4、器高16.5、脚端部径21.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面腕ナデ、内面ミガキ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデの後下端ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
3	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	甕	A.口縁部径(15.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後上端ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	複合口縁壺	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一暗茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。



第99図 第91号住居跡



第100図 第91号住居跡出土遺物

第92号住居跡 (第103図、図版18)

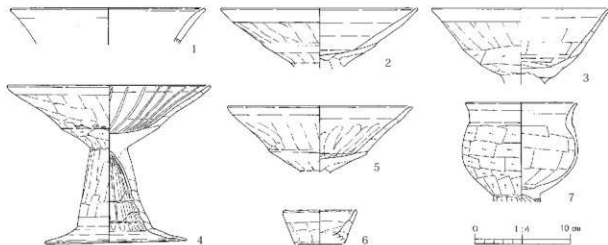
C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置する。重複する第93号住居跡と第150号土坑に切られ、第85号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が5.95m、東西方向が5.71mを測る。住居跡の主軸方位は、 $N-4^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、5カ所検出されている。P1～P4は、ほぼ住居の対角

線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。形態は、長さ40cm～70cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは25cm～38cmある。これらの柱穴覆土の土層観察の結果では、柱痕らしきものが見られるものもあるが、多くは自然堆積を示していることから、本住居跡の主柱の多くは、住居廃絶後に抜き取られたと思われる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド左側の住居北西コーナー部付近に位置する。形態は、38cm×38cmの隅丸方形を呈し、床面からの深さは44cmある。貯蔵穴内からは、高環などの土器が多く出土している。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居北側壁の中央やや東側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長96cm、最大幅134cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面は焼けて赤色化している。燃烧面は、住居の床面より若干低く平坦である。奥壁は、直線的にやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、貯蔵穴(P5)内から、高環を主体とする古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器がまとまって出土している。No7の小形台付甕は、本住居跡のカマド内から出土したとされているが、他の土器群とは明らかに時期が異なる奈良時代(8世紀)後半頃のものであることから、本住居跡に伴わない混入品と考えられる。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。



第101図 第92号住居跡出土遺物

第45表 第92号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径20.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2弱。H.貯蔵穴(P5)内。
2	高環	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデの後ヨコナデ。環部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.環部1/4。H.貯蔵穴(P5)内。
3	高環	A.口縁部径19.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後下半部ナデ。環部外面ナデの後ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明黄褐色、内一暗赤褐色。F.環部のみ。G.器表面は荒れている。H.貯蔵穴(P5)内。
4	高環	A.口縁部径21.4。器高16.8。脚端部径14.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。環部外面ケズリ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。H.貯蔵穴(P5)内。

5	高 坏	A.口縁部径19.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後下半指ナデ。坏部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.坏部のみ。H.貯蔵穴(P5)内。
6	小 形 坏	A.口縁部径7.8、器高3.6、底部径(5.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部3/4。H.貯蔵穴(P5)内。
7	小形台付甕	A.口縁部径11.8、残存高10.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。台部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部欠損。G.外面は二次焼成により荒れている。胴部外面及び口縁部内面に煤付着。H.カマド内。

第93号住居跡（第103図、図版18）

C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置する。重複する第148・151号土坑に切られ、第92号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.40m、南北方向が3.91mを測る。住居跡の主軸方位は、N-100°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。各壁の壁下には、溝溝は見られない。ピットは、住居跡内から複数検出されているが、本住居跡との関係は不明である。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長70cm、最大幅55cmある。燃焼部は、住居の壁を50cmほど掘り込んで、燃焼部の半分程度は住居の壁外にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面より一段低く平坦に作られている。奥壁は、直線的にやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗褐色粘土を住居の壁を斜めに掘り込んで、燃焼部奥壁付近から廻して構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古代の土器の破片が少量出土している。

本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代（7世紀後半）頃と考えられる。



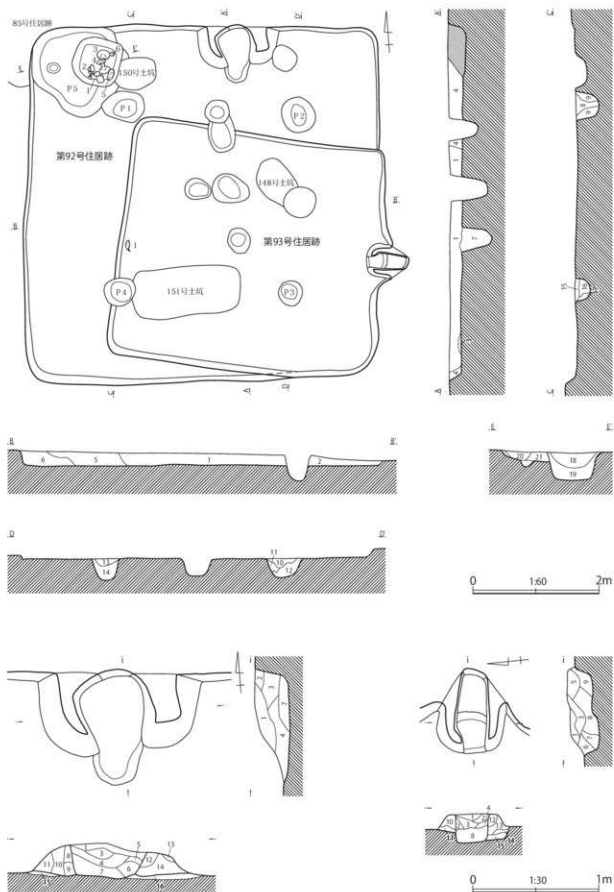
第102図 第93号住居跡
出土遺物

第46表 第93号住居跡出土遺物観察表

1	皿	A.口縁部径(15.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/3。H.床面付近。
---	---	---

第92・93号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～6cmのロームブロックを微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～6cmのロームブロックを多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロックを多量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第11層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）
 第12層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、黒褐色土を少量含む。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～2cmのロームブロックを含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第103图 第92·93号住居跡

- 第15層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～8cmのロームブロックを含む。）
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。）
 第17層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第18層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性に富む。）
 第19層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性に富む。）
 第20層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第21層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第92号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。部分的に粘質土化。）
 第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～3cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～3cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第6層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第8層：赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を主に、暗褐色土を含む。）
 第9層：暗褐色土層（焼土粒子を含む。）
 第10層：赤褐色土層（全体に赤化した壁。暗褐色土を含む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第12層：赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を主に、暗褐色土を含む。）
 第13層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第15層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～1cmのロームブロックを含む。）
 第16層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第93号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第11層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子・径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）
 第14層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～0.8cmの焼土ブロックを微量含む。）
 第15層：ローム土。

第94号住居跡（第104図、図版18・19）

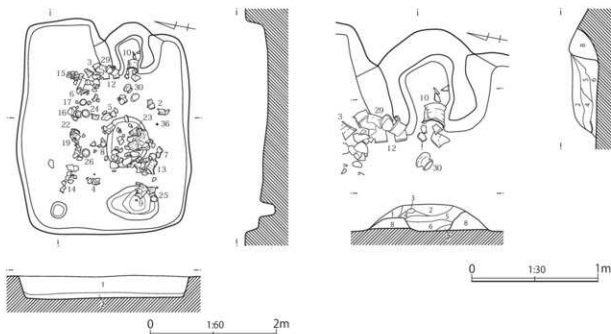
C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第142号土坑に切られ、第84・85号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。住居の東側壁は、カマドの左側と右側で壁の位置が異なり、いわゆる段違い壁になっている。規模は、東西方向が最長3.50m、南北方向が2.80mを測る。住居跡の主軸方位は、N-88°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは36cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居西側の壁際から2カ所検出されているが、住居と関係するものか不明である。床面は、ロームブロッ

クを多量含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体に堅く締まっている。住居中央部の土坑状の掘り込みは、床下土坑であった可能性が高いと思われる。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、住居の壁に対して直角に付設されている。規模は、全長84cm、最大幅112cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに、住居内にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は直線的にやや傾斜して煙道部に向かっている。燃焼部の焚口部に寄った位置から、長胴甕が1個体横転した状態で出土しており、本カマドの土器の掛け方が、1個掛けであったことが推測される。袖は、灰黄褐色粘土を燃焼部奥壁まで逆「U」字状に廻して構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の中央部覆土中から、古墳時代後期後葉頃の時期を主体とする土器が多く出土している。このうち、住居跡の中央部覆土中からまとまって出土した土器は、その出土状態から見て、住居廃絶後に周囲から投げ込まれたもので、本住居跡で使用されていたものではないと考えられる。土器以外では、覆土中から焼成された小さな粘土塊(No32~35)や、小形の勾玉(No36)が1



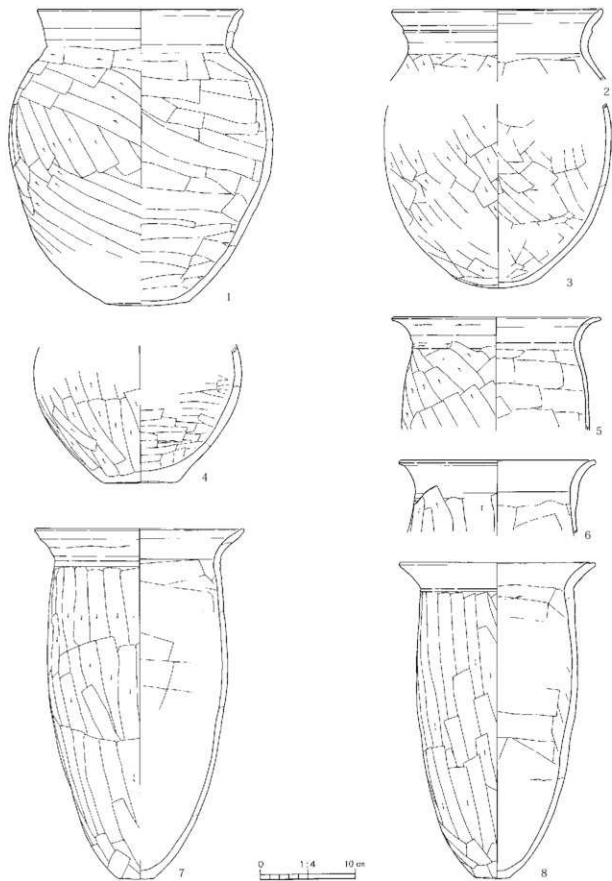
第104図 第94号住居跡

第94号住居跡土層説明

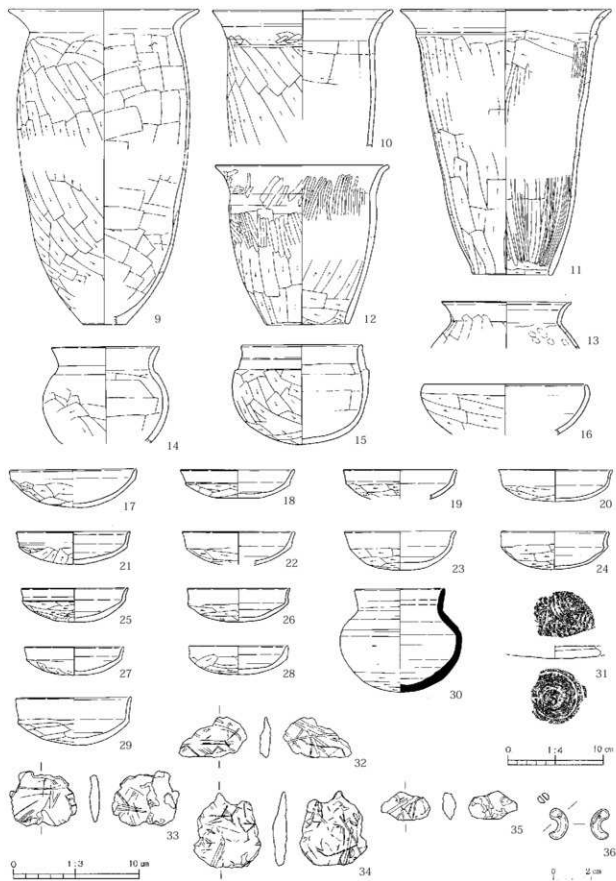
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～8cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第94号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質ロームを多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）
 第3層：赤褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、灰黄褐色粘質ロームを少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子・径0.5～1cmの炭化物を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質ローム・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第8層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘土を主体とし、径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）



第105图 第94号住居跡出土遺物(1)



第106图 第94号住居跡出土遺物(2)

点出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係やその形態及び出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。

第47表 第94号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径217、器高31.3、底径8.5。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母、礫。E.内外一橙褐色。F.5/6。H.覆土中。
2	胴張甕	A.口縁部径22.4。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部2/3。H.覆土中。
3	胴張甕	A.底径9.0。B.粘土細積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒。E.外一淡褐色、内一橙褐色。F.胴部下半2/3。H.覆土中。
4	胴張甕	A.底径7.6。B.粘土細積み上げ。C.胴部外面ケズリ、下端部ナデ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒、片岩粒。E.外一明褐色、内一明赤褐色。F.胴部下半1/3。H.覆土中。
5	長胴甕	A.口縁部径22.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部3/4。H.覆土中。
6	長胴甕	A.口縁部径20.8。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部4/5。H.覆土中。
7	長胴甕	A.口縁部径22.0、器高37.1、底径3.6。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。胴部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、雲母。E.内外一明赤褐色。F.8/10。H.床面付近。
8	長胴甕	A.口縁部径20.7、器高33.4、底径3.4。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、角閃石。E.外一明赤褐色、内一淡褐色。F.1/2。H.床面付近。
9	長胴甕	A.口縁部径20.1、底径(4.5)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。底部外面に木炭粒を残す。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.外一淡褐色、内一灰黄褐色。F.2/3。H.覆土中。
10	長胴甕	A.口縁部径19.2。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、角閃石、雲母。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.上半4/5。H.カマド内。
11	大形甕	A.口縁部径22.3、器高28.1、底径8.3。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後ミガキ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
12	甕	A.口縁部径18.4、器高16.9、底径8.8。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半匱ナデ、内面上半位ミガキ・下半ケズリ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、雲母。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
13	小形甕	A.口縁部径13.7。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匱ナデ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/2。G.内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
14	小形甕	A.口縁部径11.4。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一淡褐色、内一淡赤褐色。F.上半2/5。H.覆土中。
15	鉢	A.口縁部径12.9、器高10.5。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面匱ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.外一淡黄橙褐色、内一赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
16	坏	A.口縁部径17.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石、石英。E.外一明赤褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径13.4、器高4.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、雲母。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
18	模倣坏	A.口縁部径12.1、器高3.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.褐色粒、角閃石、礫。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
19	模倣坏	A.口縁部径12.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部～体部3/4。H.No24。
20	模倣坏	A.口縁部径12.0、器高3.4。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面不明。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.覆土中。
21	模倣坏	A.口縁部径(12.0)、器高3.4。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、雲母。E.内外一明赤褐色。F.1/5。H.覆土中。
22	模倣坏	A.口縁部径11.9。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
23	模倣坏	A.口縁部径11.8、器高4.1。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
24	模倣坏	A.口縁部径11.4、器高4.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
25	模倣坏	A.口縁部径11.3、器高3.6。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。

26	模倣坏	A.口縁部径10.9、器高3.5。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
27	模倣坏	A.口縁部径10.5、器高3.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
28	模倣坏	A.口縁部径10.5、器高3.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、褐色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
29	模倣坏	A.口縁部径12.2、器高5.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.4/5。H.覆土中。
30	須恵器 広口壺	A.口縁部径9.5。B.ロクロ成形。C.外面回転ナデの後下回転ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
31	須恵器 盤	B.ロクロ成形。C.底部外面回転ケズリ、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.石英、白色粒、黒色粒、礫。E.内外一明赤褐色。F.底部破片。G.還元不良。H.覆土中。
32	粘土塊	A.長さ8.2、最大幅5.4、最大厚1.35、重さ9.3g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
33	粘土塊	A.長さ4.4、最大幅5.3、最大厚0.8、重さ14.3g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
34	粘土塊	A.長さ5.9、最大幅5.3、最大厚1.1、重さ28.9g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
35	粘土塊	A.長さ2.3、最大幅3.9、最大厚1.1、重さ7.4g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.破片。G.外面は植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
36	石製勾玉	A.長さ1.6、幅1.0、厚さ0.45、重さ0.9g。C.研磨。D.緑色岩類。F.完形。G.片面穿孔?。H.覆土中。

第95号住居跡（第107図、図版19）

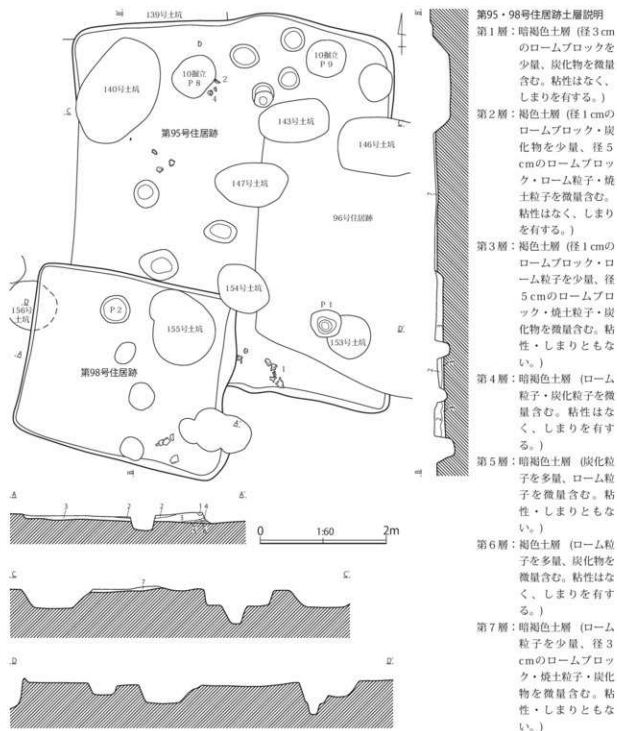
C3地点の調査区東側の中央西寄りに位置する。重複する第96・98号住居跡、第10号掘立柱建物跡、第140・143・146・147・154号土坑に切られている。遺構上面は強く掘平を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、南側壁はやや歪んでいる。規模は、南北方向が6.20m、東西方向が5.18mを測る。住居跡の長軸方向は、N-1°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは6cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多数検出されている。この中のP1とP2は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部と推測されている。いずれも径50cm程度の円形を呈し、床面からの深さはP1が60cm、P2が25cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的強く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

遺物は、古墳時代前期から平安時代前期までの土師器と須恵器の破片や埴輪やかかわらけの破片が、覆土中から混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代後期初頭（5世紀末）以前と思われる。

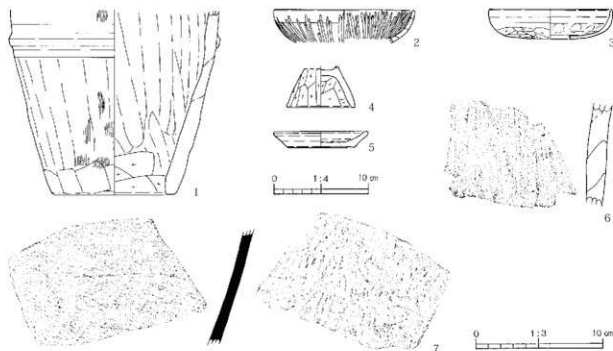
第48表 第95号住居跡出土遺物観察表

1	円筒埴輪	A.基部径(13.2)。B.粘土細積み上げ。凸帯貼り付け。C.外面ハケの後ナデ・下端突き、内面指ナデの後下端ケズリ。凸帯ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.基部のみ。H.覆土中。
2	高坏	A.口縁部径(15.0)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.床面直上。
3	坏	A.口縁部径(13.0)、器高3.1。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	台付甕	A.台端部径7.2。B.粘土細積み上げ。C.台部内外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部のみ。H.床面直上。



第107図 第95・98号住居跡

5	かわらけ	A.口縁部径(10.0)、器高1.7、底部径(7.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	埴輪	B.粘土鋸積み上げ。C.外面ハケ、内面指ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.破片。H.覆土中。
7	須恵器	B.粘土鋸積み上げ後叩き。C.外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外一暗灰褐色。内一暗茶褐色。F.胴部破片。H.覆土中。



第108図 第95号住居跡出土遺物

第96号住居跡（第109図、図版19）

C3地点の調査区東側の中央西寄りに位置する。重複する第9号掘立柱建物跡や第143・146・147・153・154号土坑に切られ、第95号住居跡や第144・152号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、住居の南側壁はかなり歪んでいる。規模は、東西方向が4.83m、南北方向が最長4.22mを測る。住居跡の長軸方向は、N-94°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、1カ所検出されている。P1は、住居の北東側コーナー部寄りに位置する。形態は、長軸35cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは34cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。

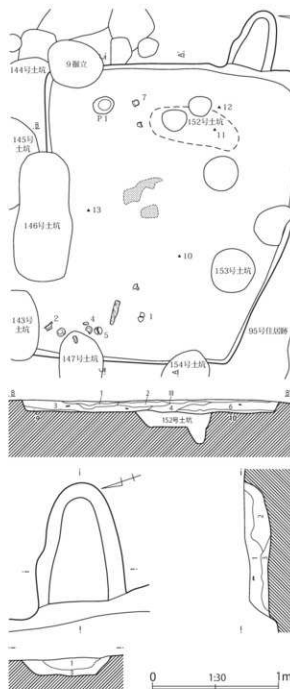
カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りに位置している。残存しているのは、カマドの煙道部だけで、壁外95cmに延びている。

遺物は、住居北西側の床面直上から、白鳳時代の土師器の坏がまとめて出土している。土器以外では、覆土中から埴輪(No8)や土製紡錘車の破片(No10)及び土錘3点(No11~13)が出土し、鉄製の刃先の破片(No14)、煤の付着した自然石や大形砥石の破片(No9)なども出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代（7世紀後半）と考えられる。

本住居跡は、床面上に炭化材の分布が見られ、出土した土器の破片や石にも煤が付着していることから、火災によって焼失した可能性も考えられる。

第49表 第96号住居跡出土遺物観察表

1	鉢	A.口縁部径(20.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面丁寧ナデ。D.白色粒。E.外-淡茶褐色、内-黒褐色。F.口縁部1/4。G.内面及び破片割れ口断面に煤付着。H.床面付近。
---	---	--



第109図 第96号住居跡

- 第13層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第96号住居跡カマド土層説明**
- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径3cmのロームブロック・径5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・灰白色粘土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第96号住居跡土層説明

- 第1層：黄褐色土層（ローム粒子多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（炭化物を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：褐色土層（焼土粒子・炭化物を少量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

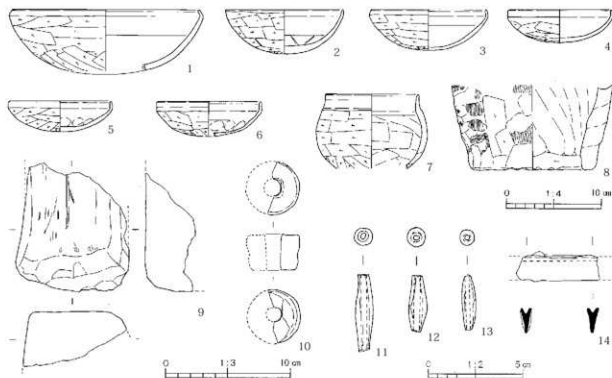
第8層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第12層：黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第110図 第96号住居跡出土遺物

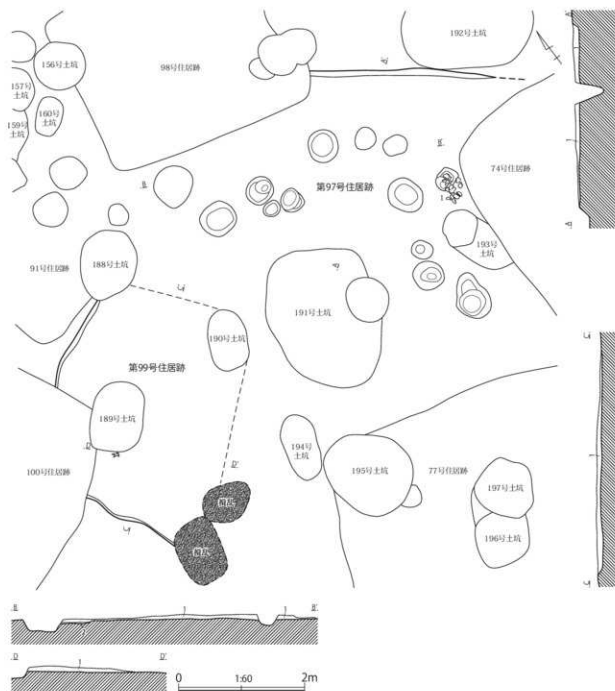
2	環	A.口縁部径12.6、器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
3	環	A.口縁部径(12.4)、器高4.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色。内一淡褐色。F.1/4。H.覆土中。
4	環	A.口縁部径11.0、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
5	環	A.口縁部径(11.0)、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.完形。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
6	環	A.口縁部径(11.2)、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一黒灰褐色。F.口縁部1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
7	小形鉢	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色。内一暗茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
8	円筒埴輪	A.基部径13.0。B.粘土組織み上げ。C.外面ハケの後ナデ・下端叩き、内面指ナデの後下端ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.基部1/2。H.カマド内。
9	砥石	A.残存長10.3、残存幅9.0、残存厚4.0、重さ373.5g。B.柱状に加工。C.残存する面は良く研磨されている。D.砂岩。F.破片。G.表面及び側面には刃物による擦痕を多く残す。H.覆土中。
10	土製紡錘車	A.上面径4.3、下面径(3.8)、高さ2.9、重さ24.7g。B.手捏ね。C.上下面・側面ともナデ。D.赤色粒、白色粒。E.黒褐色。F.1/2。H.床面直上。
11	土 鉢	A.長さ4.1、最大径1.0、重さ3.2g。B.手捏ね。C.ナデ。D.白色粒。E.黒褐色。F.完形。H.覆土中。
12	土 鉢	A.長さ3.0、最大径1.0、重さ2.4g。B.手捏ね。C.ナデ。D.白色粒。E.暗茶褐色。F.完形。H.床面直上。
13	土 鉢	A.長さ3.9、最大径0.8、重さ1.6g。B.手捏ね。C.ナデ。D.白色粒。E.黒褐色。F.完形。H.床面直上。
14	鉄製品	A.残存長4.4、幅1.3、厚さ0.6、重さ8.0g。B.鍛造。C.下端に直線的な刃部をもち、上端はY字状になっている。D.鉄銹。F.破片。H.覆土中。

第97号住居跡 (第111図)

C3地点の調査区東側の中央西寄りに位置する。重複する第74・77・98・99号住居跡や第188～195号土坑に切られている。残存しているのは、住居跡の北東側壁だけであるため、住居跡の全容は

不明である。本住居跡は、床面付近まで強く削平されているため、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形や規模は、不明である。住居跡の北東側壁は、 $N-52^{\circ}-W$ の方向を向いている。残存す



第111図 第97・99号住居跡

第97・99号住居跡土層説明

<第97号住居跡>

第1層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

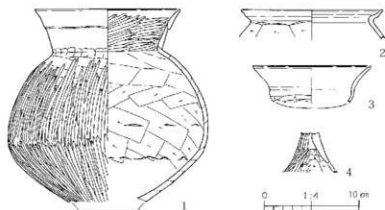
第2層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する）

<第99号住居跡>

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

る住居跡の北東側壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。壁溝は見られなかった。床面の構造は良く分からないが、平坦に作られているようである。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、住居との関係は不明である。炉は、残存する部分からは検出されなかった。

遺物は、古墳時代前期末を主体とする土器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期末頃と考えられる。



第112図 第97号住居跡出土遺物

第50表 第97号住居跡出土遺物観察表

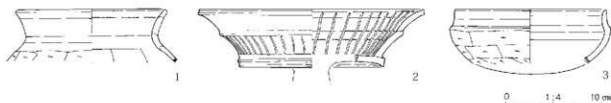
1	複合口縁壺	A.口縁部径15.4、残存高20.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面ミガキ。胴部外面ナデの後ミガキ、内面下位ナデ・中位ケズリ・上位段ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一暗茶褐色。F.口縁部2/3。H.覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(12.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	小形浅鉢	A.口縁部径(12.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内一暗褐色。F.体部1/4。H.覆土中。
4	器台	A.残存高4.2。B.粘土紐積み上げ。C.脚柱部外面ミガキ、内面ケズリ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.脚柱部のみ。G.脚柱部穿孔は3カ所。H.覆土中。

第98号住居跡 (第107図)

C3地点の調査区東側の中央西寄りに位置する。重複する第154・155号土坑に切られ、第95号住居跡と第156号土坑を切っている。遺構上面は強く掘平を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が3.52m、南北方向が2.98mを測る。住居跡の長軸方向は、N-100°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面の構造は不明であるが、平坦に作られている。

遺物は、住居の床面付近や覆土中から、古墳時代を主体とする土器の破片が少量出土しただけであ



第113図 第98号住居跡出土遺物

る。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

本住居跡は、カマドが付設されておらず、一般の住居跡とは様相が異なっている。竪穴規模が比較的小形であることから、一般の住居跡とは性格が異なる遺構の可能性が高いと思われる。

第51表 第98号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	有段高坏	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後放射状暗文を施す。坏部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	模倣坏	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後護りナデ、内面丁寧なナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

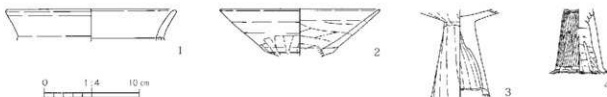
第99号住居跡(第111図、図版19)

C3地点の調査区中央の南側寄りに位置する。重複する第100号住居跡や第188～190号土坑に切られている。残存しているのは、住居跡の北西側壁と南西側壁の一部だけであるため、住居跡の全容は不明で、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形は、整然としない歪んだ長方形ぎみの形態と推測されている。規模は良く分からないが、北東～南西方向が3.60m程度、北西～南東方向が2.90m程度と考えられている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cmある。壁溝は見られない。住居内施設は、まったく検出されなかった。床面の構造は良く分からないが、平坦に作られているようである。

遺物は、住居の床面付近や覆土中から、古墳時代前期末頃の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期末頃と考えられる。

本住居跡は、炉やピットなどの住居内施設が全く検出されておらず、一般の住居跡とは様相が異なっている。住居跡の形態が不明瞭であることや竪穴規模が比較的小形であることから、一般の住居跡とは性格が異なる遺構の可能性が高いと思われる。



第114図 第99号住居跡出土遺物

第52表 第99号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6破片。H.覆土中。
2	高坏	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色、内一茶褐色。F.口縁部1/5破片。H.覆土中。
3	高坏	A.残存高9.3。B.粘土組織み上げ。C.坏部内外面ナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.脚柱部のみ。H.床面付近。
4	高坏	A.残存高6.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ミガキ、内面ケズリ。脚部外面ミガキ、内面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.脚柱部のみ。H.覆土中。

第100号住居跡（第115図、図版19・20）

C3地点の調査区中央部の中央東寄りに位置する。重複する第186・189・198～200号土坑に切られ、第185・187・201号土坑を切っている。

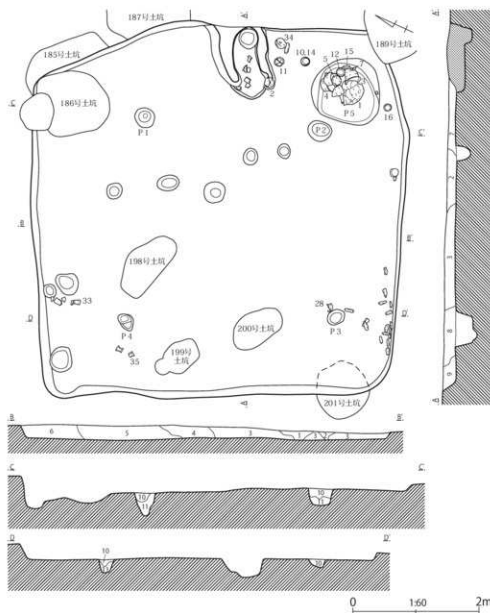
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、住居の東側壁と南側壁はかなり歪んでいる。規模は、東西方向が6.05m、南北方向が6.10mを測る。住居跡の主軸方位は、N-69°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは住居跡内から多数検出されている。この中のP1～P4は、住居の対角線上に近い位置に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と推測されている。形態は、長さ28m～40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは14cm～36cmある。これらの柱穴覆土の土層観察の結果では、いずれも自然堆積を示していることから、本住居跡の主柱は住居廃絶後に抜き取られたと考えられる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居南東側コーナー部付近に位置する。111cm×106cmの不整形円形を呈し、住居の床面からの深さは52cmある。P5内からは、甕や坏などの多くの土器がまとまって出土している。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央から若干南側に寄った位置に、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長120cm、最大幅92cmある。燃焼部は、住居の床面よりも一段低く平坦に作られ、奥壁は垂直ぎみに立ち上がっている。袖は、ロームブロックを主体とする暗黄褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。両袖の先端には甕を用いて補強している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内やP5の貯蔵穴内及びその周辺から、古墳時代後期後半を主体とする土器が多く出土している。また、本住居跡出土とされる土器の中には、平安時代前期の甕や須恵器が見られるが、これらは当初本住居跡の貯蔵穴と推測されていた第186号土坑内やその周辺から出土したものである。土器以外では、角閃石安山岩の自然石を利用した砥石(No34)や鉄鏝の破片(No36)が、覆土中から出土している。また、その他には住居南側壁西寄りの壁際床面付近から、長さ10cm～15cm程度の扁平な自然石が16個出土している。これらの自然石は、集積されたような状況ではないが、いわゆる編物石と呼ばれているものと類似している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、古墳時代後期後半と考えられる。

第53表 第100号住居跡出土遺物観察表

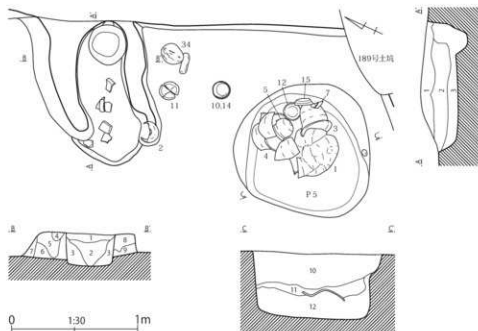
1	胴張甕	A.口縁部径21.9、器高35.9、底部径7.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.7/8。H.貯蔵穴P5内。
2	長胴甕	A.口縁部径19.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、雲母。E.内外一淡橙褐色。F.上半3/5。H.カマド右袖先端。
3	大形甕	A.口縁部径15.9、器高15.2、底部径10.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、褐色粒、片岩粒、雲母、礫。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.貯蔵穴P5内。
4	胴張甕	A.口縁部径21.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、赤色粒、片岩粒、礫。E.内外一淡黄褐色。F.上半5/6。H.貯蔵穴P5内。
5	小形甕	A.口縁部径15.2、器高15.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.貯蔵穴P5内。
6	有段口縁坏	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.外一黒褐色、内一褐色。F.1/5。H.覆土中。



第115図 第100号住居跡

第100号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径2～4cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第11層：褐色土層（暗褐色土・ローム粒子・径0.5～3cmのロームブロックの混合土。）



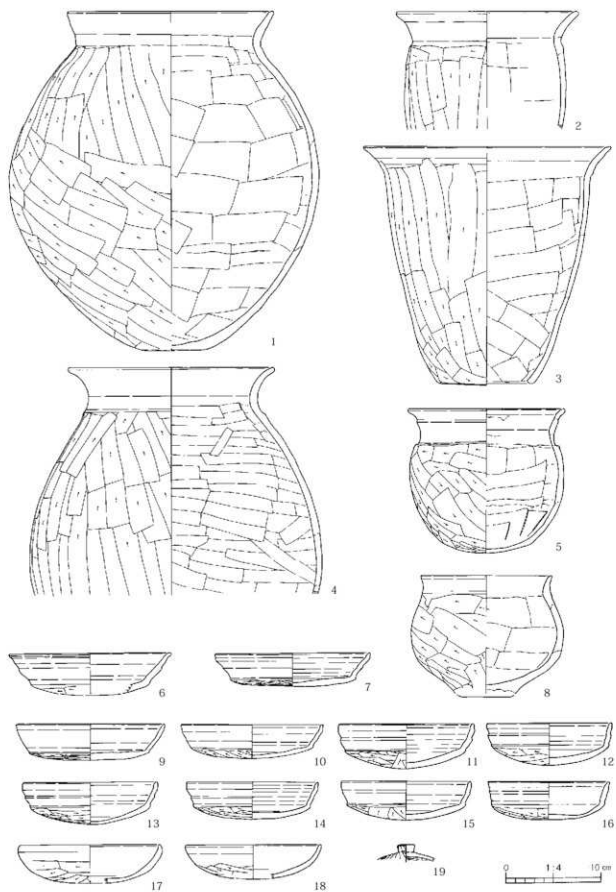
第116図 第100号住居跡カマド

第100号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

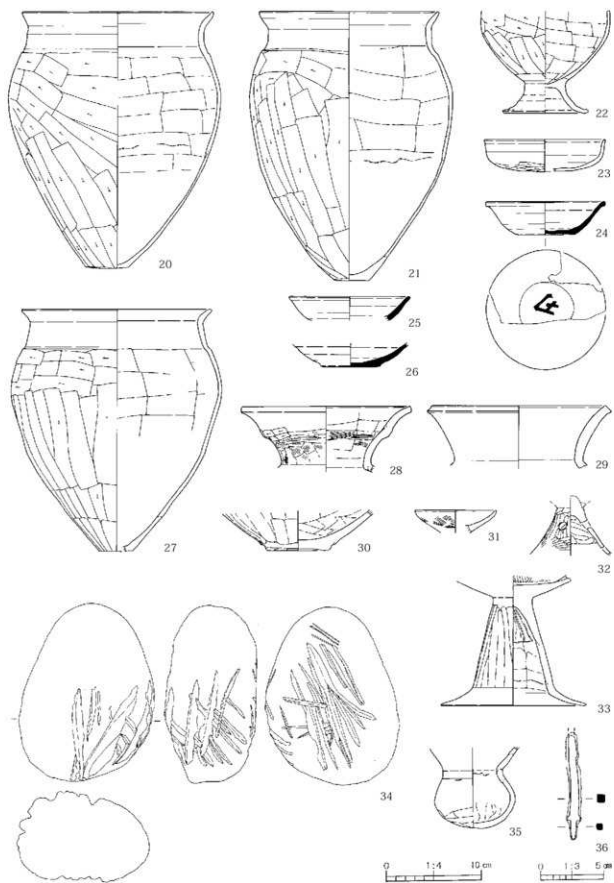
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。）

- 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。しまりを有する。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを主に、斑状に暗褐色土を含む。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。ロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。）
- 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロックを主に、暗褐色土を含む。焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子・黒褐色土ブロック・黒褐色土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第11層：灰黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第12層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりはない。）

7	有段口縁環	A.口縁部径16.4、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母、礫。E.外一褐色、内一淡褐色。F.1/2。H.貯蔵穴P5内。
8	鉢	A.口縁部径13.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面瓊ナデ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母、礫。E.内外一淡褐色。F.1/2。H.瓊土中。
9	杯	A.口縁部径15.6、器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.2/3。H.瓊土中。
10	有段口縁環	A.口縁部径15.0、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.外一淡褐色、内一褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
11	有段口縁環	A.口縁部径14.4、器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、角閃石。E.外一褐色、内一淡褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
12	有段口縁環	A.口縁部径13.2、器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、雲母。E.外一淡褐色、内一淡赤褐色。F.4/5。H.貯蔵穴P5内。
13	有段口縁環	A.口縁部径14.3、器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一灰褐色。F.口縁部一部欠損。H.第186号土坑内。
14	有段口縁環	A.口縁部径14.0、器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.完形。H.床面直上。
15	有段口縁環	A.口縁部径13.8、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.貯蔵穴P5内。
16	有段口縁環	A.口縁部径12.8、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.外一灰褐色、内一淡赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。



第117图 第100号住居跡出土遺物(1)



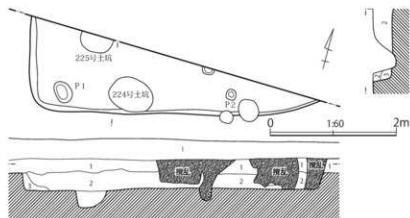
第118图 第100号住居跡出土遺物(2)

17	坏	A.口縁部径(15.2)、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡赤褐色。F.1/6。H.1区。
18	坏	A.口縁部径(14.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一淡赤褐色、内一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
19	蓋	A.揃み部径1.8。B.粘土組織み上げ。C.天井部内外面ミガキ。揃み部ミガキ。D.白色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.天井部1/3。H.覆土中。
20	甕	A.口縁部径20.1、器高27.0、底部径4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、雲母、礫。E.内外一褐色。F.4/5。H.覆土中。
21	甕	A.口縁部径19.0、器高28.4、底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.外一淡褐色、内一褐色。F.ほぼ完形。H.第186号土坑内。
22	小形台付甕	A.台端部径9.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。台部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石、雲母。E.内外一淡褐色。F.台部1/3。H.覆土中。
23	坏	A.口縁部径12.8、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.1/4。H.覆土中。
24	須恵器 坏	A.口縁部径(12.6)、器高3.5、底部径5.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外一灰色。F.1/3。G.底部外面に墨書あり。H.覆土中。
25	須恵器 坏	A.口縁部径(12.8)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
26	須恵器 坏	A.底部径6.3。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.外一灰黄褐色、内一黄灰色。F.底部1/3。H.覆土中。
27	甕	A.口縁部径20.0、器高25.5、底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒。E.外一淡赤褐色、内一淡褐色。F.1/2。H.第186号土坑内。
28	二重口縁壺	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面篋ナデ。頸部内外面篋ナデ。D.白色粒、雲母、礫。E.内外一褐色。F.口縁部1/4。H.床面付近。
29	壺	A.口縁部径(19.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.外一褐色、内一淡赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
30	壺	A.底部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。底部外面篋ナデ。D.白色粒、石英、雲母。E.外一淡赤褐色、内一淡褐色。F.底部1/2。H.覆土中。
31	器台	A.口縁部径(8.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリ後ミガキ、内面ミガキ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
32	高坏	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面篋ナデの後下半ミガキ、内面篋ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.脚部4/5。G.脚部穿孔(燒成前)縦2個1組で3カ所。H.覆土中。
33	高坏	A.脚端部径(15.3)。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ナデ、内面ミガキ。脚柱部外面篋ナデ、内面上半較り目・下半篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.脚部1/3。H.覆土中。
34	砥石	A.長さ18.8、最大幅13.9、最大厚9.5、重さ1395.0g。B.自然石を利用。D.角閃石安山岩。F.完形。G.砥面には刃物による砥ぎ痕が多数見られる。H.床面付近。
35	小形直口壺	A.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、褐色粒、赤褐色、雲母。E.内外一褐色。F.口脛部欠損。H.床面直上。
36	鉄鏝	A.長さ8.45、最大幅0.6、最大厚0.6、重さ12.4g。B.鍛造。F.基部破片。G.錆の進行著しい。H.覆土中。

第101号住居跡(第119図、図版20)

C3地点の調査区中央部の北端に位置する。第224号土坑と第225号土坑と重複し、第224号土坑に切れ、第225号土坑を切っている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南端の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向は4.70mまで、南北方向は1.50mまで測れる。住居跡の南側壁は、N-74°-Eの方向を向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。検出された各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは2カ所検出されている。P1は、住居南西側コーナー部に位置する。長さ33cmの楕円形を呈し、床面からの深さは



第119図 第101号住居跡

第101号住居跡土層説明

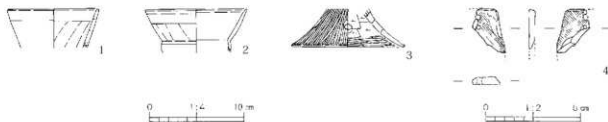
第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第2層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。暗褐色土ブロック・暗褐色土粒子・ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

17cmある。P2は、径13cmの円形を呈し、床面からの深さは13cmある。床面は、ロームブロックを多量を含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。土器以外では、石製模造品の破片が1点覆土中に混入して出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と推測される。



第120図 第101号住居跡出土遺物

第54表 第101号住居跡出土遺物観察表

1	小形直口壺	A.口縁部径(9.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/2破片。H.覆土中。
2	小形浅鉢	A.口縁部径(10.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面寛ナデ。体部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/5破片。H.覆土中。
3	高 杯	A.脚端部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面ケズリの後下半ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一淡褐色。F.脚部1/4破片。G.脚部穿孔(焼成前は、推定4カ所)。H.覆土中。
4	石製模造品	A.残存長2.3、残存幅1.3、厚さ0.3、重さ2.0g。C.表裏面・側面とも研磨。D.片岩粒。F.破片。G.穿孔は縦2個。剣形模造品か？。H.覆土中。

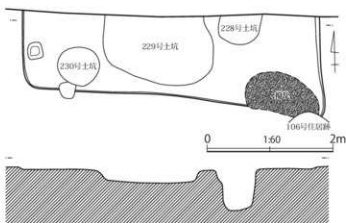
第102号住居跡（第121図、図版20）

C3地点の調査区中央部の北端に位置する。第106号住居跡や第228・229・230号土坑と重複し、それらによって切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南端の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が4.85m、南北方向は1.60mまで測れる。住居跡の南

側壁は、N-100°-Eの方向を向いて緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは4cm程度ある。検出された各壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは1カ所検出されている。P1は、住居西側の壁際に位置する。長さ25cmの隅丸方形を呈し、床面からの深さは32cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期を主体とする土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期頃と推測される。



第121図 第102号住居跡



第122図 第102号住居跡出土遺物

第55表 第102号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.外-暗褐色、内-暗茶褐色。F.口縁部1/4破片。G.口縁部外面に覆付着。口縁部外面及び頸部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	壺	A.底部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ヨミガキ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.外-明茶褐色、内-淡褐色。F.底部1/4破片。H.覆土中。

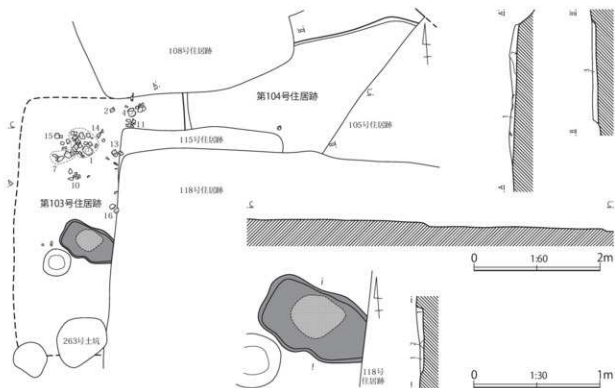
第103号住居跡 (第123図、図版20)

C3地点の調査区中央部の北端付近に位置する。重複する第108・115・118号住居跡や第263号土坑に切られている。第104号住居跡とも重複しているが、両者の新旧関係は不明である。本住居跡は、すでに床面まで削平されているため、遺構の遺存状態は劣悪で、その全容は不明である。

住居跡の形態や規模は不明であるが、その掘り方の範囲からおおよその形態を想定できる。ピットは、炬の南西側で1カ所検出されているが、本住居跡との関係は不明である。径45cm程度の円形を呈し、床面からの深さは31cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。

住居跡の中央付近から炬が検出されている。平面形が100cm×56cm程度の隅丸長方形のような形態を呈し、床面を5cm程度掘り窪めた地皿炬で、底面は焼けて赤色化している。

遺物は、炬北側の床面付近から、古墳時代前期の土器が多く破片になって出土している。これらの土器は、甕や小形浅鉢が比較的多く、器種に偏りが見られる。甕は、S字状口縁台付甕が主体であるが、この中に当地方ではあまり出土例のない布留式の甕が見られ注目される。この布留式の甕は、胎土材料の観察の結果、搬入品ではなく、本遺跡周辺で作られたものと考えられている(第七章第4節)。土器以外では、覆土中から、第84号住居跡No13と形態が類似した土製品の破片が1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。



第123図 第103・104号住居跡

第103・104号住居跡土層説明

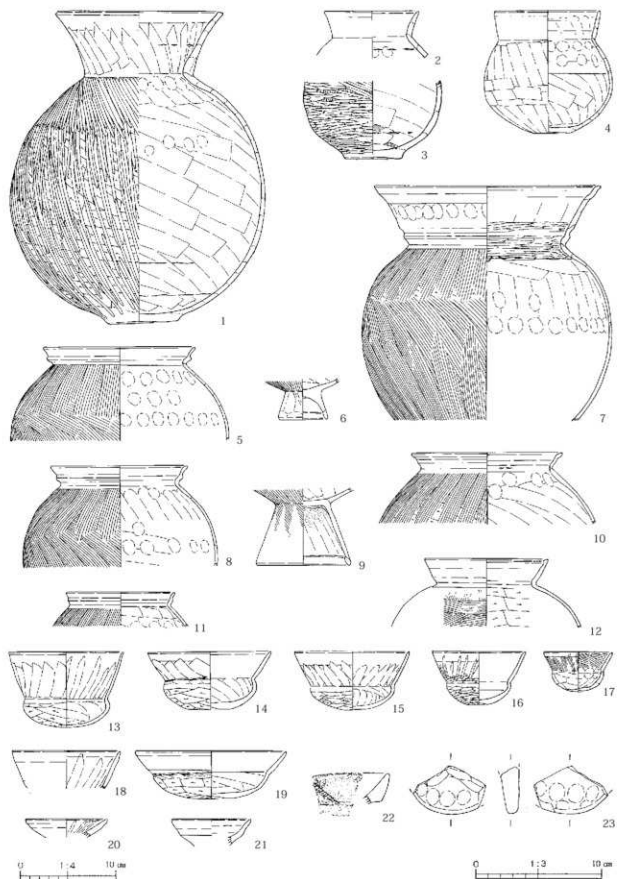
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第103号住居跡炉跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第2層：赤褐色土層（焼土ブロック。）

第56表 第103号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.口縁部径17.6、器高33.1、底部径7.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ナデ。胴部外面ケズリの後雑なミガキ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4破片。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
2	広口壺	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4破片。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
3	壺	A.底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面上半ハケの後ミガキ・下半ケズリの後ミガキ、内面笠ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.下半1/2。H.覆土中。
4	平底甕	A.口縁部径(11.1)、器高13.0、底部径4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.2/3。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
5	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒灰褐色。F.口縁部1/4破片。G.胴部外面に煤付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
6	台付甕	A.台端部径5.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ハケ、内面ナデ。台部外面ナデ、内面指ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.台のみ、H.覆土中。
7	台付甕	A.口縁部径24.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面ミガキ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗褐色、内一明褐色。F.口縁部3/4。G.外面に煤付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
8	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(14.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/2割。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。



第124图 第103号住居跡出土遺物

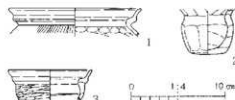
9	S字状口縁台付甕	A.台端部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ハケ、内面澁ナデ。台部外面ナデの後部分的にハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部1/2破片。G.台部内面頂部に砂を多く含む粘土をナデ付け。H.覆土中。
10	S字状口縁台付甕	A.口縁部径16.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/2。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
11	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(11.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面澁ナデ。D.白色粒。E.外一暗茶褐色、内一茶褐色。F.口縁部1/3破片。G.外面に埋付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
12	甕	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/3。G.布留式。H.覆土中。
13	小形浅鉢	A.口縁部径(12.0)。器高8.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後澁ナデ。体部外面ケズリの後下平ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2弱。G.底部外面に黒斑あり。H.床面付近。
14	小形浅鉢	A.口縁部径(13.0)。器高6.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後澁ナデ、内面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2弱。G.底部外面に黒斑あり。H.覆土中。
15	小形浅鉢	A.口縁部径(12.0)。器高6.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後澁ナデ。体部外面下平ケズリの後ナデかミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/3。H.床面付近。
16	小形浅鉢	A.口縁部径9.8。器高5.6。底部径1.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後澁ナデ、内面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.2/3。G.底部外面に黒斑あり。H.床面付近。
17	小形浅鉢	A.口縁部径(7.2)。器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2。G.頸部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
18	小形浅鉢	A.口縁部径(11.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後澁ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2弱。H.覆土中。
19	小形浅鉢	A.口縁部径(16.0)。器高5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
20	器台	A.口縁部径(8.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.器受部1/2弱。H.覆土中。
21	器台	A.口縁部径(8.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部下内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.器受部1/4破片。H.覆土中。
22	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデの後、櫛歯状工具の刺突による鋸歯文を施す。内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一暗茶褐色。F.口縁部破片。G.ハバシ文様壺。H.覆土中。
23	不明土製品	A.残存長3.8。残存幅5.8。厚さ1.5。B.手捏ね。C.表裏面ともナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.破片。G.表裏面の縁に指頭圧痕を残す。H.覆土中。

第104号住居跡(第123図、図版21)

C3地点の調査区中央部の北端付近に位置する。重複する第108・115・118号住居跡に切れられ、第103号住居跡を切っているようである。第103号住居跡や第105号住居跡とも重複しているが、両者の切合関係は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が1.80mまで、東西方向が4.00mまで測れる。住居跡の北側壁は、N-80°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面の構造は良く分からないが、ほぼ平坦に作られている。

遺物は、住居の床面付近や覆土中から、古墳時代前期～後期の土器の破片が、少量混在して出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代前期と考えられる。



第125図 第104号住居跡出土遺物

第57表 第104号住居跡出土遺物観察表

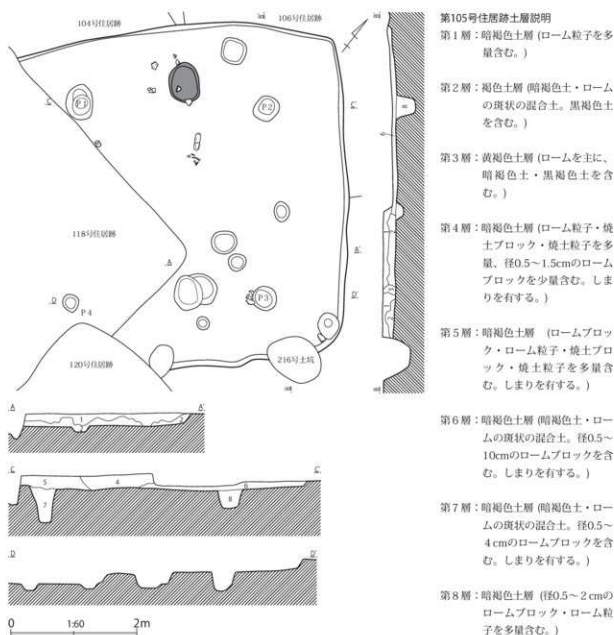
1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/5破片。G.頸部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	----------	---

2	小形土器	A.残存高4.8、底部径3.8。B.粘土細積み上げ。C.胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。 E.外一淡茶褐色。内一茶褐色。F.口縁部欠損。H.床面付近。
3	小形鉢	A.口縁部径(8.8)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。 E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4破片。H.覆土中。

第105号住居跡 (第126図、図版21)

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第106・118・120号住居跡や第216号土坑に切れられ、第104号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形に近い形態を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向が5.42m、北東～南西方向が5.05mまで測れる。住居跡の主

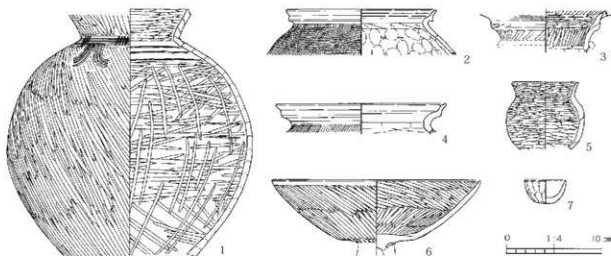


第126図 第105号住居跡

軸方位は、N-38°-Wを向いている。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から多数検出されている。この中のP1~P4は、住居の対角線上に近い所に配置されていると推測されることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の可能性が高いと思われる。形態は、長さ26cm~57cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは32cm~55cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。

炉は、主柱穴P1とP4間の外側の、住居北西側壁にかなり寄った位置にある。形態は、64cm×47cmの楕円形を呈し、床面を6cm程度掘り窪めた地皿炉で、炉石等の付帯施設は見られない。炉の底面はあまり良く焼けていないが、炉の覆土中に焼土ブロックを多く含んでいる。このような、住居主軸線上の主柱穴間外側の壁に近い位置に炉を配置する住居跡は、当地域の古墳時代前期後半以降の住居跡ではあまり見られるものではなく、むしろ弥生時代後期後半以降の樽式の住居跡に多く見られることから、副炉の存在は不明であるが、それらの系譜を引いた住居跡の可能性が高いと思われる。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期~中期前半頃の土器の破片が、少量混在して出土しているが、主体は前期の土器である。この中のNo1の櫛描文の壺は、頸部簾状文の下に「ハ」の字状の懸垂文が施文されている。このような懸垂文は、基本的には後期後半以降の樽式の文様構成にはあまり見られないものであり注目されよう。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられるが、住居跡の系譜や出土土器の様相から見て、本遺跡の前期集落の中でも古い段階に位置づけられる住居跡と考えられる。



第127図 第105号住居跡出土遺物

第58表 第105号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 頸部径10.4、残存高26.1。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデの後複雑なミガキ。頸部外面に多連止(3~4連止)櫛描簾状文(5本歯)を右回りに施文し、その後簾状文下に同一工具による「ハ」の字状のやや短い懸垂文を推定4カ所に施文すると思われる。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 胴部1/3。H. 覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 口縁部1/4破片。G. 胴部内面に指頭圧痕を多数残す。H. 覆土中。
3	二重口縁壺	A. 口縁部径(9.0)。B. 粘土組積み上げ。頸部凸帯貼り付け。C. 口縁部外面ハケ、内面ナデの後ミガキ。頸部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ナデの後ミガキ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 胴部1/3。G. 頸部凸帯剥落。H. 覆土中。

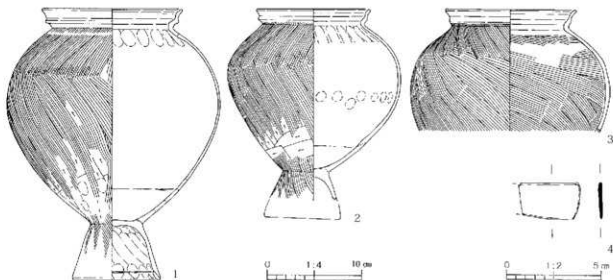
4	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/6破片。H.覆土中。
5	小形広口壺	A.口縁部径(7.0)。B.粘土紐積み上げ。C.内外面ミガキ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2。G.胴部外面には煤付着。H.覆土中。
6	高 坏	A.口縁部径(22.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部・坏部内外面ケズリの後ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.坏部1/6破片。H.覆土中。
7	小形土器	A.口縁部径4.4。器高2.5。底部径1.7。B.手握ね。C.体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。H.覆土中。

第106号住居跡（第129図、図版21）

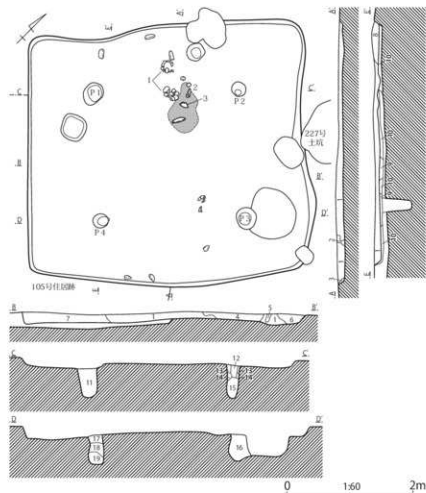
C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第105号住居跡を切り、第227号土坑に切られている。住居跡の上面は強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北西～南東方向が4.15m、北東～南西方向が4.63mある。住居の主軸方位は、N-45°-Wを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居内から4カ所が検出されている。P1～P4は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。形態は、径22cm～30cmの円形を呈し、確認面からの深さは43cm～55cmある。これらの柱穴覆土の土層観察の結果では、多くは自然堆積を示していることから、本住居跡の主柱の多くは、住居廃絶時に抜き取られたと思われる。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

炉は、住居中央部北西側寄りの主柱穴P1とP2の間に位置する。住居の床面が80cm×50cmの楕円形状に若干掘り窪めた地皿炉で、炉の住居中央部側寄りの位置に、長さ20cm程度の炉石が付設されている。炉内からは、No2とNo3の法量差のある大小のS字状口縁台付甕が出土しており、その傍らからもNo1のS字状口縁台付甕が置かれていたような状態で出土している。



第128図 第106号住居跡出土遺物



第129図 第106号住居跡

- 第11層：褐色土層（ロームを主に、暗褐色土を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第12層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土を含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第15層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性に富み、しまりはない。）
 第16層：褐色土層（径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第17層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径8cmのロームブロックを微量含む。）
 第18層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を現状に含む。粘性に富む。）
 第19層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性に富む。）

遺物は、炉内や住居周辺部の床面付近から、古墳時代前期の土器が出土している。土器以外では、覆土中から板状の鉄製品の破片が1点出土し、住居壁際の床面付近や覆土中から、長さ10cm～15cmの長細い自然石が6個出土している。これらの自然石は、集石状態ではなく分散しており、石材は片岩・安山岩・砂岩・閃緑岩など多様である。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

第59表 第106号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径14.8、器高28.6、台端部径(9.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリその後ハケ、内面丁寧ナデ。台部外面ナデの後部部分的なハケ、内面指ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.1/2。G.胴部外面に煤付着。H.床面直上。
---	----------	--

第106号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径10cmのロームブロックを微量含む。）
 第2層：黄褐色土層（ロームブロックを含む。）
 第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの現状の混合土。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、黒褐色土ブロックを少量含む。）
 第5層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第6層：褐色土層（暗褐色土・黒褐色土・ロームの混合土。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径2cmのロームブロックを少量含む。）
 第9層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。）
 第10層：暗褐色土層（径0.5～8cmのロームブロックを多量含む。）

2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径12.0、残存高20.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。上部外面ナデの後部分的なハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡褐色。F.2/3。G.胴部外面に煤付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.カマ内。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径13.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデの後ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.口縁部2/3。H.カマ内。
4	板状鉄製品	A.残存長3.2、最大幅1.9、厚さ0.15、重さ3.1g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。H.覆土中。

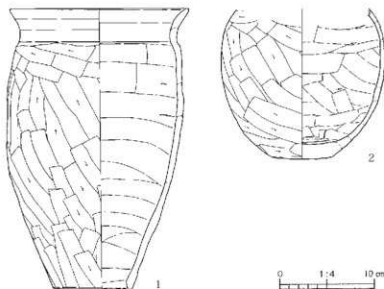
第107号住居跡（第131図、図版21）

C3地点の調査区中央部の北端付近に位置する。住居跡の西側半分を第108号住居跡に、東側壁と北側壁の一部を第231・232号土坑や攪乱によって切られているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、台形もしくは平行四辺形状に歪んだ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は推定で2.90mまで、東西方向は1.22mまで測れる。住居の主軸方位は、N—45°—Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、1カ所が検出されている。P2は、住居の南東側コーナー部付近に位置する。形態は、径25cmの円形を呈し、確認面からの深さは31cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対してほぼ直角に付設されていると思われる。規模は、全長86cm、最大幅84cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、そのほぼ半分は壁外に位置している。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、若干傾斜して作られている。奥壁は、直線的に傾斜して煙道部に向かっている。袖は、黄褐色粘質土をカマド燃焼部奥壁まで圍繞させて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。カマド内からは、No2の甕が1点出土している。

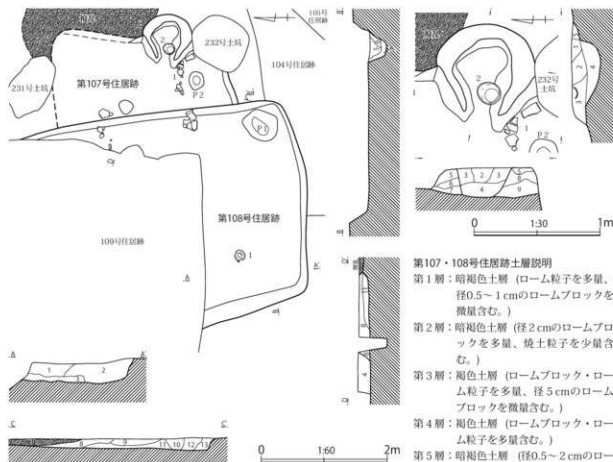
遺物は、カマド内やカマド周辺部の床面付近及び覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、カマドの燃焼部が住居の壁を掘り込んで、袖の黄褐色粘質土をカマド燃焼部奥壁まで圍繞させた形態であることから、白鳳時代頃と考えられる。



第130図 第107号住居跡出土遺物

第60表 第107号住居跡出土遺物観察表

1	大形甕	A.口縁部径18.8、器高29.8、底部径8.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外—橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
2	甕	A.底部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外—橙褐色、内—淡橙褐色。F.下半のみ。H.カマド内。



第131図 第107・108号住居跡

第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第7層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土を含む。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、径0.5～3cmのロームブロックを微量含む。）

第10層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）

第11層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第13層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第107号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合物。焼土粒子を少量含む。）

第2層：赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。）

第5層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土粒子・暗褐色土ブロックを多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第7層：黄褐色土層（暗褐色土を主に、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）

第8層：褐色土層（暗褐色土を主に、ローム粒子を多量、暗褐色土ブロックを少量含む。しまりを有する。）

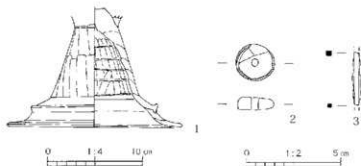
第9層：褐色土層（径0.5～1cmの暗褐色土ブロックを多量含む。しまりを有する。）

第108号住居跡（第131図、図版21）

C3地点の調査区中央部の北端付近に位置する。重複する第109号住居跡に切れ、第107号住居跡を切っている。本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が3.50m、南北方向は4.50mまで測れる。住居の長軸方向は、N-9°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、1カ所が検出されている。P1は、住居の南東側コーナー部付近に位置する。形態は、長さ55cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは27cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。カマドは残存する部分からは検出されなかった。

遺物は、住居の床面付近から古墳時代中期（5世紀）の有段高坏の脚部（第130図No1）が出上しているが、住居跡の切り合い関係からすると、本住居跡に伴う物ではなく、混入品と考えられる。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係から、白鳳時代以降と考えられる。



第132図 第108号住居跡出土遺物

第61表 第108号住居跡出土遺物観察表

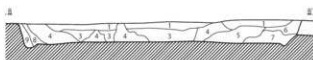
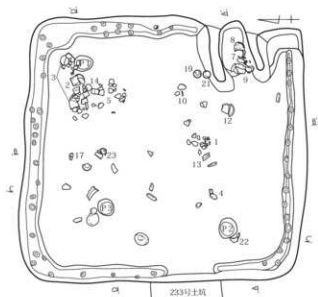
1	有段高坏	A. 脚端部径18.4。B. 脚柱部粘土紐巻き上げ。C. 脚端部外面鬚ナデ、内面指ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 脚部のみ。H. 覆土中。
2	白玉	A. 直径2.0、高さ0.7、重さ3.9g。B. 碧玉状の形態から判断か？。C. 表裏面未調整。側面研磨。D. 滑石。F. 完形。H. 覆土中。
3	鉄鉄	A. 残存長2.8、幅0.25。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 基部破片。G. 断面は方形。H. 覆土中。

第109号住居跡（第133図、図版21・22）

C3地点の調査区中央部の北端に位置する。重複する第233号土坑に切られ、第108号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.40m、南北方向が4.66mを測る。住居の主軸方位は、N-90°-Eを向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは40cmある。壁下には、幅10cm~30cm、床面からの深さ10cm程度の壁溝が巡っている。壁溝内には、住居壁面の保護施設と思われる径10cm程度の小ピットが多数見られる。ピットは、3カ所が検出されている。P1~P3は、いずれも住居のコーナー部近くに位置することから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の一部の可能性もあるが明確ではない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式であり、全体的に硬く締まっている。

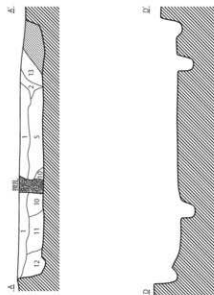
カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部にかなり寄った場所に位置し、住居の壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長110cm、最大幅112cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに、住居内にある。燃焼面は、住居の床面より若干低く、皿状に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。カマド内からは、燃焼部中央



0 1:50 2m



第133図 第109号住居跡



第109号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層 (径0.3~0.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。)

第2層：暗褐色土層 (径0.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。)

第3層：暗褐色土層 (ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。)

第4層：暗褐色土層 (径0.5~3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。)

第5層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を少量含む。)

第6層：暗褐色土層 (ロームブロックを斑状に含む。)

第7層：暗褐色土層 (径2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。)

第8層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。)

第9層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。)

第10層：暗褐色土層 (径0.5~7cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。)

第11層：暗褐色土層 (径0.5~7cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。)

第12層：暗褐色土層 (径0.5~1cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。)

第13層：暗褐色土層 (焼土粒子を多量含む。)

第14層：褐色土層 (暗褐色土・ロームの混合土。径0.5~2cmのロームブロックを含む。)

第15層：黄褐色土層 (ロームを主に、暗褐色土を含む。)

第16層：暗褐色土層 (径0.5~1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。)

第17層：黄褐色土層 (ロームを主に、暗褐色土を全体に含む。)

第18層：褐色土層 (暗褐色土を主に、ロームブロック・ローム粒子を多量含む。)

第109号住居跡カマド土層説明

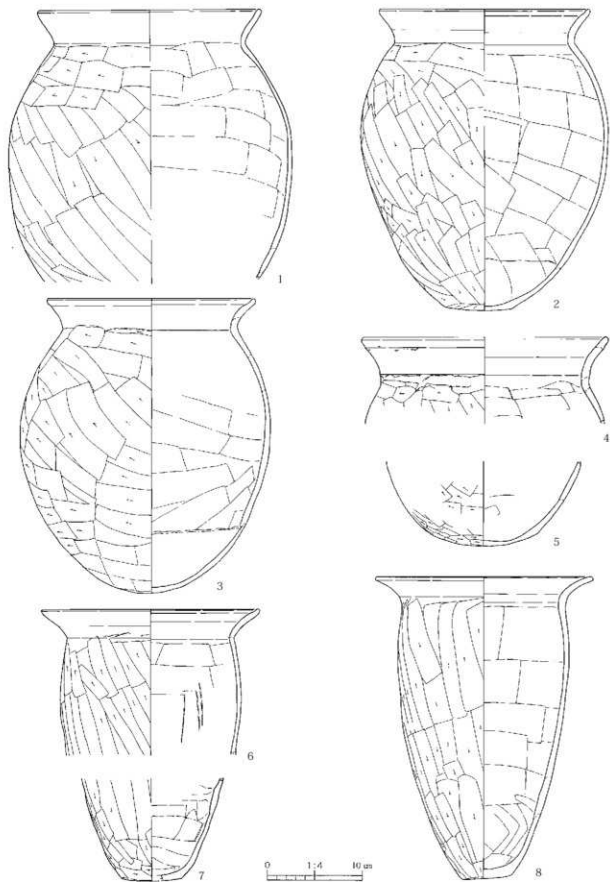
- 第1層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質ローム・暗褐色土の混合土。ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第2層：暗褐色土層（暗褐色土ブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、径0.5～0.8cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。）
 第9層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第10層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロックを含む。）
 第11層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームを主に、焼土粒子を含む。カマド側の一部は赤化している。）
 第12層：褐色土層（ロームを固めた土。）

の右側寄りの位置と焚口部付近から甕が2個体出土しており、本カマドの土器の掛け方が2個並置式であったことが窺える。

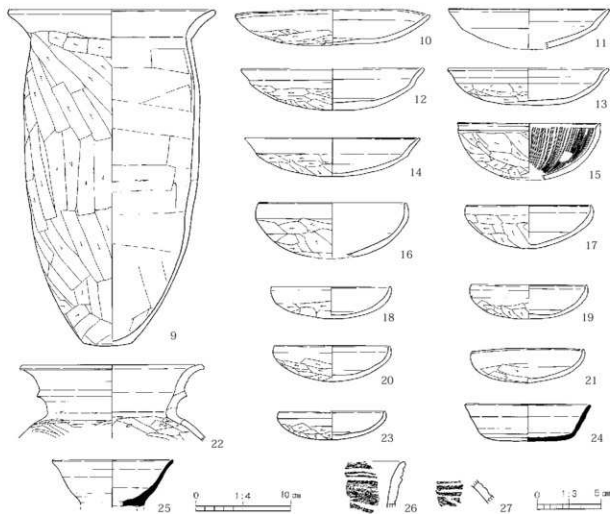
遺物は、カマド内や住居の床面付近及び覆土中から、土器が多く出土している。これらの土器の中には、弥生時代中期前半頃と思われる土器片(No26・27)のほか、古墳時代中期後半の土器(No15・22)や、平安時代前期(No25)などの土器が混在して見られるが、主体となるのは白鳳時代のものである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代と考えられる。

第62表 第109号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径23.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石、礫。E.内外一橙褐色。F.上半1/3。H.覆土中。
2	胴張甕	A.口縁部径22.3。器高31.9。底部径7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、角閃石。E.外一橙褐色、内一灰黄褐色。F.1/3。H.覆土中。
3	胴張甕	A.口縁部径(22.0)。器高31.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.3/4。H.覆土中。
4	胴張甕	A.口縁部径(26.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母、礫。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.床面付近。
5	胴張甕	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.外一淡橙褐色、内一灰褐色。F.胴部下半1/2。H.床面付近。
6	長胴甕	A.口縁部径23.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/5。H.カマド内。
7	長胴甕	A.底部径(6.2)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.内外一淡赤褐色。F.胴部下半1/2。H.カマド内。
8	長胴甕	A.口縁部径23.0。器高32.0。底部径5.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡橙褐色。F.1/4。H.カマド内。
9	長胴甕	A.口縁部径(22.0)。器高35.6。底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面饅ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒。E.外一淡橙褐色、内一褐色。F.1/3。H.カマド内。
10	皿	A.口縁部径20.7。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.床面上直上。
11	皿	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
12	皿	A.口縁部径19.5。器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
13	皿	A.口縁部径(17.0)。器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.1/2。H.覆土中。
14	皿	A.口縁部径18.6。器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英、角閃石、礫。E.内外一淡橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
15	暗文環	A.口縁部径15.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。D.白色粒、黒色粒、石英、角閃石、礫。E.内外一淡橙褐色。F.1/2。H.覆土中。



第134图 第109号住居跡出土遺物(1)



第135図 第109号住居跡出土遺物(2)

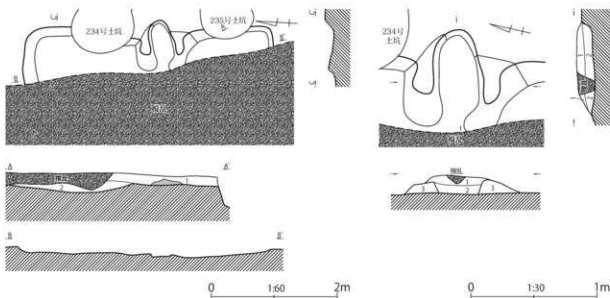
16	坏	A.口縁部径(15.7)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一椀褐色。F.1/4。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径13.0、器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.完形。H.覆土中。
18	坏	A.口縁部径12.8、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒。E.内外一椀褐色。F.3/4。H.覆土中。
19	坏	A.口縁部径12.2、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
20	坏	A.口縁部径12.0、器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英、角閃石、礫。E.内外一椀褐色。F.1/2。H.覆土中。
21	坏	A.口縁部径11.7、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
22	二重口縁壺	A.口縁部径19.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一椀褐色。F.口縁部～胴部上位一部残存。H.覆土中。
23	坏	A.口縁部径11.3、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一椀褐色。F.2/3。H.覆土中。
24	須恵器 高台付坏	A.口縁部径12.2、器高3.8、底部径10.1。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.内外一灰白色。F.2/5。H.覆土中。
25	須恵器 高台付坏	A.口縁部径12.2、器高3.8、底部径10.1。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.内外一灰白色。F.2/5。H.覆土中。
26	甕	B.粘土組織み上げ。C.外面2条の横位沈線→無文帯→横位沈線。内面笠ナデ。D.片岩粒、白色粒、黒色粒。E.内外一椀褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。

27	壺	B.粘土積層み上げ。C.外面沈線文。内面麗ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外-淡赤褐色、内-赤褐色。F.肩部破片。H.覆土中。
----	---	--

第110号住居跡 (第136図、図版22)

C3地点の調査区中央部の北端付近に位置する。第234・235号土坑と重複し、それらによって切られている。本住居跡は、その西側の大半を攪乱によって切られているため、遺構の遺存状態は劣悪で、住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が4.00m、東西方向は83cmまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-83°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。



第136図 第110号住居跡

第110号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第110号住居跡カマド土層説明

第1層：褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗灰色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第137図 第110号住居跡
出土遺物

第63表 第110号住居跡出土遺物観察表

1	土 鏟	A.長さ5.3、最大径1.9、重さ15.55g。B.手握ね。C.ナデ。D.チャート、黒色粒。E.外-淡黄褐色。F.ほぼ完形。G.一部筋状の窪みが見られる。H.覆土中。
---	-----	---

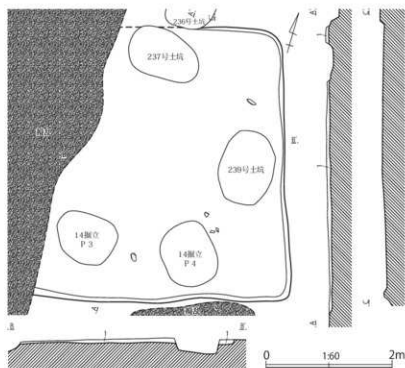
カマドは、住居東側壁の中央の位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長83cm、最大幅は100cmある。燃烧部は、住居の壁を25cmほど掘り込んで、燃烧部の半分程度は壁外にある。壁面はあまり焼けていない。燃烧面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、平坦に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗灰色粘土をカマドの奥壁に近い部分から廻して構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から土器が少量出土している。土器以外では、覆土中から土鍾が1点出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物から白鳳時代頃と考えられる。

第111号住居跡（第138図、図版22）

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。第14号掘立柱建物跡や第236・237・239号土坑と重複し、それらによって切られている。本住居跡は、その西側の半分を掘乱によって切られているため、遺構の遺存状態は悪く、住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が4.37m、東西方向は4.16mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-19°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは7cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に



第138図 第111号住居跡

埋め戻した貼床式で、全体にやや軟弱である。住居内の施設は検出されなかった。

遺物は、住居の床面付近から土器の破片が少量出土しただけである。この他、覆土中からNo3の常滑窯系の甕の胴部破片も出土しているが、混入品であろう。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃と考えられる。

第111号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。）

第64表 第111号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
2	須 恵 器 甕	B.粘土紐積み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕を残す。D.白色粒。E.外—黒灰色、内—暗灰色。F.胴部破片。H.覆土中。

3	常滑窯系 甕	B.粘土研積み上げ後叩き。C.胴部内外面ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一黒灰色。F.胴部破片。 G.外面胴部に押印文を施す。H.覆土中。
---	-----------	--

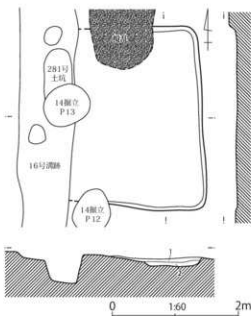


第139図 第111号住居跡出土遺物

第112号住居跡 (第140図、図版22)

C3地点の調査区中央部に位置する。第16号溝跡や第14号掘立柱建物跡などと重複し、それらによって切られている。本住居跡は、その東側の半分が残存しているだけであるため、住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が2.94m、東西方向は2.20mまで測れる。住居跡の東側壁は、N-3°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は良く分からないが、ほぼ平坦に作られているようである。住居内の施設は、まったく検出されなかった。



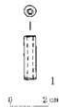
第140図 第112号住居跡

第112号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代中期（5世紀）後半～後期初頭（5世紀末）頃の小形甕の小破片が1片と、石製管玉（No 1）が出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代中期（5世紀）後半～後期初頭（5世紀末）頃と思われる。



第141図 第112号住居跡出土遺物

第65表 第112号住居跡出土遺物観察表

1	石製管玉	A.長さ2.35、直径0.7、重さ1.45g。C.研磨による整形。D.滑石。E.内外一淡褐色。F.完形。G.両面穿孔。H.覆土中。
---	------	---

第113号住居跡（第142図、図版22）

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。第114・119号住居跡や第215号土坑と重複し、それらに切られている。本住居跡は、遺構上面を強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ不整の五角形のような形態を呈している。規模は、東西方向が

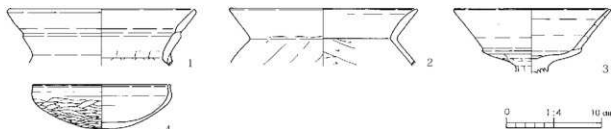


第142図 第113・114号住居跡

最長4.40m、南北方向は4.47mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは7cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から2カ所検出されているが、住居と関係するものか明確ではない。P1は、長軸が37cmの楕円形を呈し、床面からの深さは53cmある。P2は、径30cmの円形を呈し、床面からの深さは48cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。

カマドは、住居の東側壁の中央付近に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長126cm、最大幅122cmある。燃焼部は住居内にあるが、奥壁は住居の壁よりかなり内側で、当地域の古墳時代中期に見られる初期カマドの類型の一つのような形態である。燃焼面は、住居の床面と同じ高さで平坦に造られており、中央部にはNo3の高環を伏せて支脚に転用している。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む褐色土を、住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居の床面付近から、古墳時代前期～後期の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭（5世紀末）頃と考えられる。



第143図 第113号住居跡出土遺物

第66表 第113号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.口縁部径(20.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	高環	A.口縁部径(16.6)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坯部内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.坯部1/2弱。G.器表面は二次焼成により荒れている。坯部内面斑点状剥落顕著。H.カマド支脚。
4	模倣環	A.口縁部径(14.6)。器高4.7。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ。内面丁寧なナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。H.カマド内。

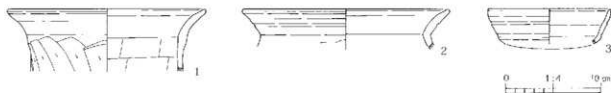
第114号住居跡（第142図、図版23）

C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第119号住居跡に切られ、第113号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつやや歪んだ長方形を呈している。規模は、東西方向が2.78m、南北方向が2.43mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内からP3の1カ所が検出されている。P3は、98cm×68cmの隅丸長方形のような形態で、床面からの深さは40cmあるが、住居と関係するものか明確ではない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。カマドは検出されなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期から後期の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や出土物の様相から、古墳時代後期後半(6世紀末～7世紀初頭)頃と考えられる。

本住居跡は、カマドが付設されておらず、一般の住居跡とは様相が異なっている。竪穴規模が比較的小形であることから、一般の住居跡とは性格が異なる遺構の可能性が高いと思われる。



第144図 第114号住居跡出土遺物

第67表 第114号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	長 胴 甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ?、内面ナデ。D.白色粒。E.外-暗褐色、内-淡褐色。F.口縁部1/4割。H.覆土中。
3	有段口縁杯	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ?、内面ナデ。D.白色粒。E.外-淡い茶褐色、内-暗褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。

第115号住居跡 (第148図、図版23)

C3地点の調査区中央の北寄りに位置する。重複する第103・104号住居跡を切っている。本住居跡は、その大半を第118号住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が2.55m、南北方向は0.70mまで測れる。住居の北側壁は、N-97°-Eの方向を向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式ようである。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代～平安時代の土器の破片が少量出土しているが、主体は古墳時代前期の土器片である。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土物の様相から、古墳時代前期と思われる。



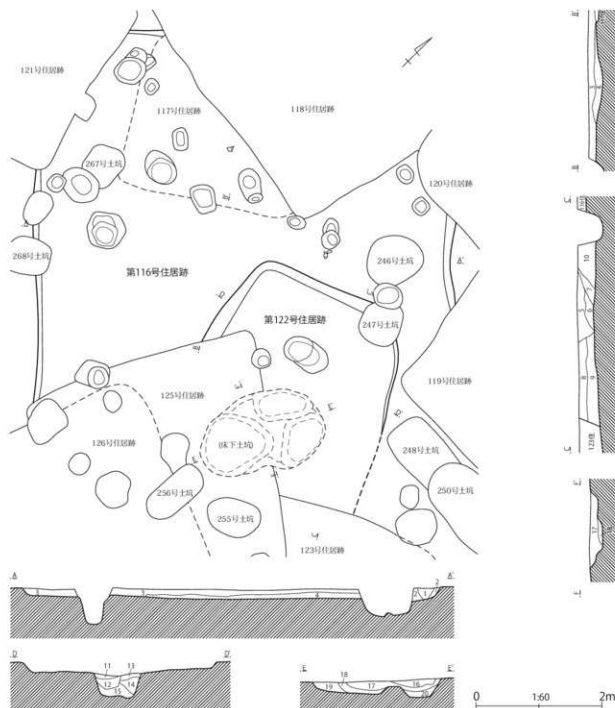
第145図 第115号住居跡出土遺物

第68表 第115号住居跡出土遺物観察表

1	小形浅鉢	A.口縁部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ?内面ナデ。D.白色粒。E.外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F.口縁部1/3破片。H.覆土中。
2	S字状口縁台付甕	A.台端部径(9.0)。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.台部1/4破片。H.覆土中。

第116号住居跡 (第146図)

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第118・119・120・121・122・125号



第146図 第116・122号住居跡

第116・122号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：黄褐色土層（ロームを主に、暗褐色土を含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロックを含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第6層：赤褐色土層（赤褐色土・焼土の混合土。ロームブロック・径0.5～3cmの焼土ブロックを多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）

- 第10層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを微量含む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：暗褐色土層（白色粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

住居跡や第246・247・248・250・267・268号土坑に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、北西～南東方向に長い長方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向が6.94m、北西～南東方向は6.10mまで測れる。住居跡の南西側壁は、N—45°—Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多数検出されているが、本住居跡に伴うものは明確ではない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。カマドは、住居跡の残存する部分からは検出されなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代中期～後期初頭頃の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭（5世紀末）頃と思われる。



第147図 第116号住居跡出土遺物

第69表 第116号住居跡出土遺物観察表

1	二重口縁壺	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外—暗褐色、内—明茶褐色。F.口縁部1/6破片。H.覆土中。
2	中形直口壺	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/4破片。H.覆土中。
3	高 杯	A.脚端部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—明茶褐色。F.脚部1/2。G.器表面は荒れている。H.覆土中。
4	ミニチュア	A.口縁部径(6.7)。器高3.5。脚端部径5.2。B.手捏ね。C.杯部外面ケズリ、内面笠ナデ。脚柱部及び脚端部外面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.2/3。G.脚端部外面に黒斑点あり。H.覆土中。

第117号住居跡（第148図）

C3地点の調査区中央の北寄りに位置する。本住居跡の北側半分は第118号住居跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。

る。規模は、南西～北東方向は2.85mまで、南東～北西方向は2.45mまで測れる。住居の南東側壁は、N-57°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは4cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面の構造は不明であるが、平坦に作られている。ピットは、3ヵ所検出されているが、本住居跡との関係は不明である。

遺物は、図示できるものはないが、住居跡の覆土中から、古墳時代前期～奈良時代頃の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、白鳳時代以前と考えられる。

第118号住居跡（第148図、図版23）

C3地点の調査区中央の北寄りに位置する。重複する第120号住居跡や第13号掘立柱建物跡及び第263・265・266号土坑に切られ、第103・104・115号住居跡に切られている。

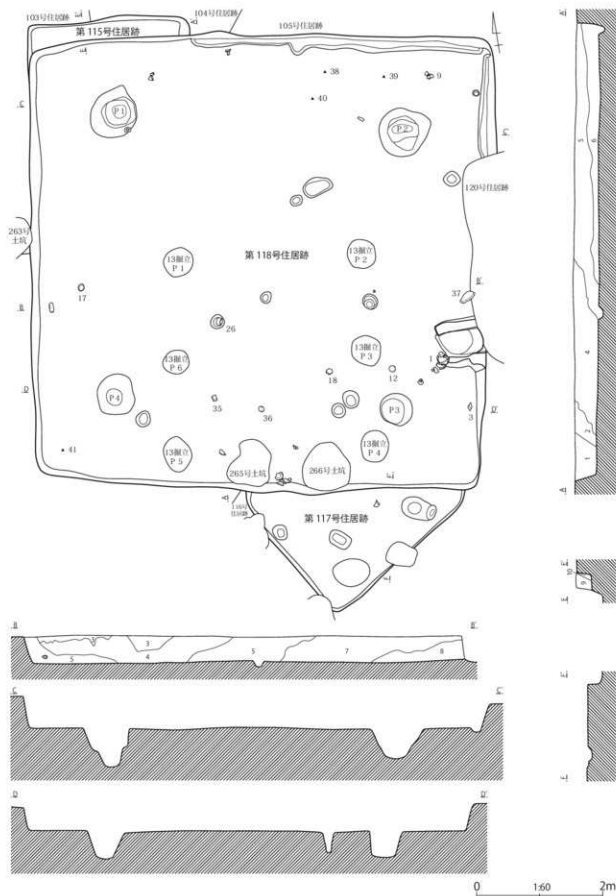
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が7.33m、南北方向が7.25mを測る。住居跡の主軸方位は、N-100°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは42cmある。住居東側壁の北側から北側壁の東側にかけて、幅12cm～22cm、床面からの深さ10cm程度の壁溝が見られる。ピットは、住居跡内から多く検出されている。この中のP1～P4は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本支柱の柱穴と考えられる。形態は、径50cm～76cmの円形を呈し、床面からの深さは40cm～60cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。

カマドは、住居東側壁の中央から南側に寄った位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長80cm、最大幅92cmある。燃焼部は、東端を第120号住居跡に切られているため明確ではないが、住居の壁を掘り込まず住居内にあると思われる。燃焼面は、住居の床面と同じ高さのカマド掘り方第5層を埋め戻した上面と考えられる。袖は、ロームブロックを含む褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築しており、右側袖の先端には甕を伏せて補強している。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、白鳳時代を主体とする土器が多く出土している。土器以外では、住居北東側壁際や南西側コーナー部の覆土中から、滑石製の白玉(No38～41)が4点出土している。また、覆土中から焼成された小粘土塊(No33・34)や、砥石(No35・37)・磨石(No36)なども出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、白鳳時代と考えられる。

第70表 第118号住居跡出土遺物観察表

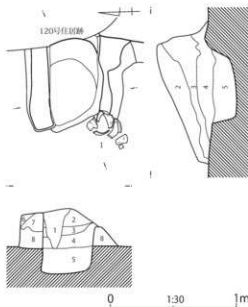
1	長 胴 甕	A.口縁部径22.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド右袖先端。
2	長 胴 甕	A.口縁部径(21.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一橙褐色、内一淡橙褐色。F.口縁部1/4。H.カマド内。
3	長 胴 甕	A.口縁部径(18.7)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	胴 張 甕	A.底部径(8.2)。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面甕ナデ。底部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
5	小 形 甕	A.口縁部径(18.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径14.7。器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。



第148图 第115・117・118号住居跡

第115・117・118号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、暗褐色土ブロックを微量含む。）
 第3層：暗褐色土層（規岡山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～6cmのロームブロック・ローム粒子を多量、暗褐色土ブロックを微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、暗褐色土ブロックを微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.8～1cmのロームブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

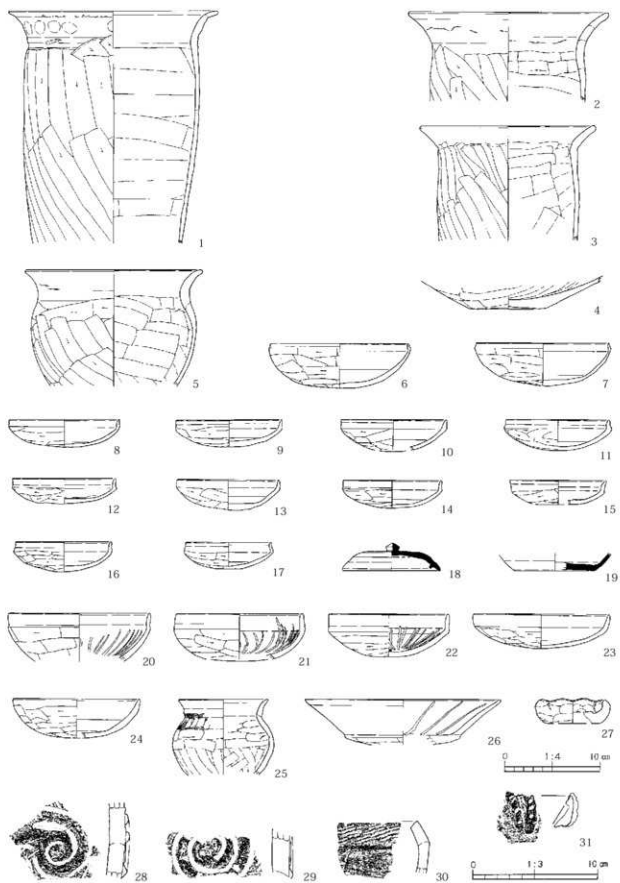


第118号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、赤褐色土ブロック・焼土粒子を少量含む。）
 第2層：灰黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第4層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第5層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性に富む。）
 第6層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（暗褐色土を主に、径0.5～2cmのロームブロックを含む。）
 第8層：褐色土層（径0.5～1.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、黒褐色土・径0.5cmの炭化物を少量含む。）

第149図 第118号住居跡カマド

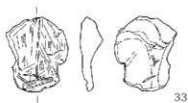
7	環	A.口縁部径14.0、器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
8	模倣環	A.口縁部径(11.6)、器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
9	模倣環	A.口縁部径11.3、器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
10	模倣環	A.口縁部径(11.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
11	模倣環	A.口縁部径(11.0)、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
12	模倣環	A.口縁部径10.9、器高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
13	環	A.口縁部径10.9、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
14	模倣環	A.口縁部径10.5、器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.完形。H.覆土中。
15	模倣環	A.口縁部径10.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
16	模倣環	A.口縁部径10.2、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
17	模倣環	A.口縁部径9.1、器高2.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。



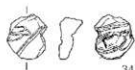
第150图 第118号住居跡出土遺物(1)



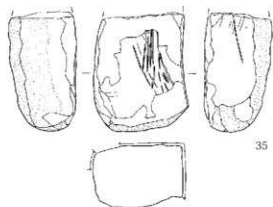
32



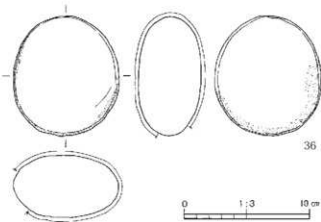
33



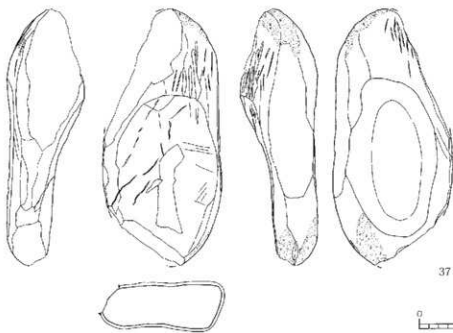
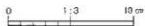
34



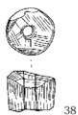
35



36



37



38



39



40



41



第151图 第118号住居跡出土遺物(2)

18	須恵器	A.口縁部径(10.4)、器高2.9。B.ロクロ成形。撫み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.1/2。H.覆土中。
19	須恵器 杯	A.底部径(8.4)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.外一黄褐色、内一淡褐色。F.底部1/3。G.やや還元不良。H.覆土中。
20	模倣杯	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。D.石英、白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
21	模倣杯	A.口縁部径(13.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.白色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
22	模倣杯	A.口縁部径(12.8)。器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.覆土中。
23	模倣杯	A.口縁部径14.4、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
24	杯	A.口縁部径(13.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
25	小形甕	A.口縁部径(9.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
26	高杯	A.口縁部径(20.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。杯部外面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一褐色。F.杯部1/4。H.覆土中。
27	小形土器	A.口縁部径(7.0)。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一褐色。F.1/7。H.覆土中。
28	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は満巻き状の隆帯貼付後、棒状工具による沈陥を施す。隆帯脇には同様の工具によるナデを施す。内面ナデ。D.片岩粒、石英、黒色鉱物、褐色粒。E.外一明赤褐色、内一明黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代中期。H.覆土中。
29	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は満巻き状の隆帯貼付後、棒状工具による沈陥を施す。隆帯脇には同様の工具によるナデを施す。内面ナデ。D.片岩粒、チャート、褐色粒。E.内外一褐色。F.胴部破片。G.縄文時代中期。H.覆土中。
30	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面はミガキを施す。屈曲した口縁部を文様帯とし、無節を施す。内面は指頭圧痕の後ナデ。D.褐色粒、片岩粒、黒色粒。E.外一褐色、内一淡黄褐色。F.口縁部破片。G.縄文時代中期。H.覆土中。
31	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.外面はヨコナデの後棒状浮文貼り付け、棒状浮文上には刻みを施す。内面ナデ。D.褐色粒、石英、黒色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
32	棒状土製品	A.残存長4.4、最大幅1.1、最大厚1.0、重さ6.96g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.石裂、白色粒、黒色粒。E.外一褐色。F.両端欠損。H.覆土中。
33	粘土塊	A.長さ5.9、最大幅4.9、最大厚1.8、重さ24.15g。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.白色粒。F.破片。E.内外一淡褐色。G.外面に植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
34	粘土塊	A.長さ3.6、最大幅3.2、最大厚1.8、重さ10.54g。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.白色粒。F.破片。E.内外一褐色。G.内外面に植物の茎のような圧痕を残す。H.覆土中。
35	砥石	A.残存長9.4、最大幅7.5、最大厚5.0、重さ534.87g。B.自然石を利用。C.表面及び側面はよく擦れている。表面に擦痕が残る。D.流紋岩。F.端部欠損。H.覆土中。
36	磨石	A.長さ9.5、最大幅8.3、最大厚5.0、重さ542.08g。B.自然石を利用。C.表面および側面はよく磨けて磨滅している。D.安山岩。F.完形。H.覆土中。
37	砥石	A.残存長27.1、最大幅12.7、最大厚4.7、重さ2715.76g。C.表面および側面はよく擦れている。表面に擦痕が残る。D.砂岩。F.一部欠損。H.覆土中。
38	白玉	A.直径1.3、厚さ1.1、重さ2.55g。C.研磨による整形。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。
39	白玉	A.直径1.3、厚さ0.6、重さ1.20g。C.研磨による整形。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。
40	白玉	A.直径1.3、厚さ0.6、重さ0.94g。C.研磨による整形。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。
41	白玉	A.直径1.1、厚さ0.6、重さ0.72g。C.研磨による整形。D.滑石。F.一部欠損。G.片面穿孔。H.覆土中。

第119号住居跡(第153図、図版23)

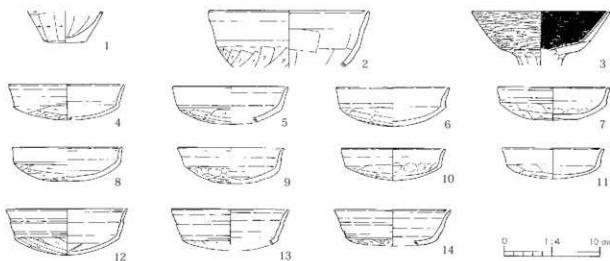
C3地点の調査区中央部の北寄りに位置する。重複する第120号住居跡や第241・242・244・245号土坑に切られ、第87・88・113・114・116号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、住居南側壁が開いて台形状になっている。規模は、南北方向が最長6.62m、東西方向が6.10mを測る。住居跡の主軸方位は、N-8°-Wを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは33cmある。残存する各

壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から多数検出されている。この中のP1～P4は、住居跡の平面形と相似的ではなく若干ずれているが、住居の対角線上に近い位置に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と推測される。形態は、長さ37cm～66cmの楕円形を呈し、床面からの深さは22cm～50cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居北側壁のほぼ中央の位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長102cm、最大幅120cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にあるが、燃焼部奥壁は住居の壁まで達していない。燃焼面は、住居の床面より一段低くなっている。奥壁は、直線的に傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗黄褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部の痕跡は見られず、その構造は不明である。

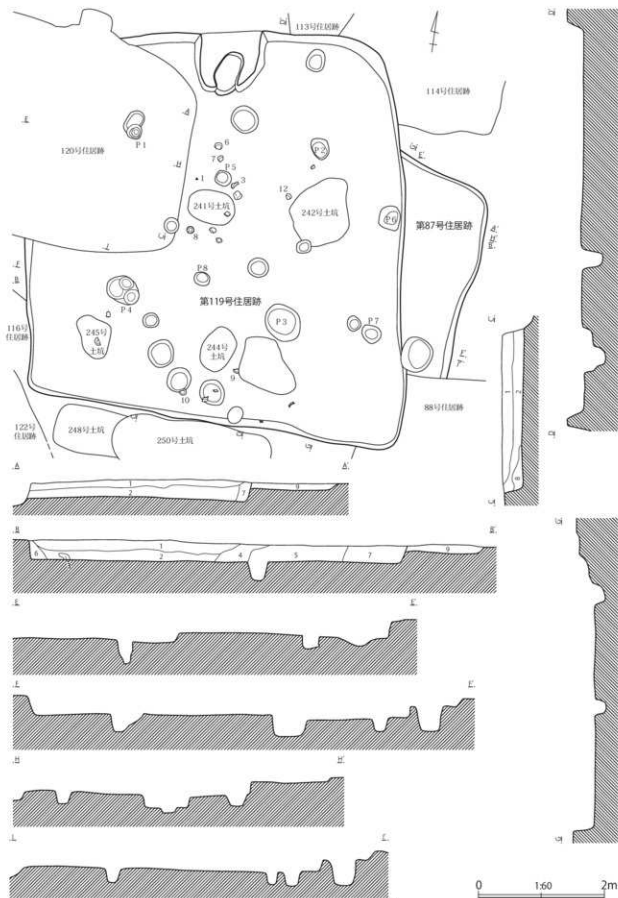
遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代後期後葉を主体とする土器の破片が多く出土している。この中のNo3の高坏は、坏部内面に黒色処理を施したもので、北関東から東北南部地方の土器の影響を受けたものと思われる。このような該期の土器の内面に黒色処理を施した土器は、隣接する久下東遺跡第E3地点の第165号住居跡（恋河内2016）で高坏が、同じ女堀川水系の塚島遺跡C地点の第8号住居跡（恋河内2012）で鉢や坏などが出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉（7世紀初頭頃）と考えられる。



第152図 第119号住居跡出土遺物

第71表 第119号住居跡出土遺物観察表

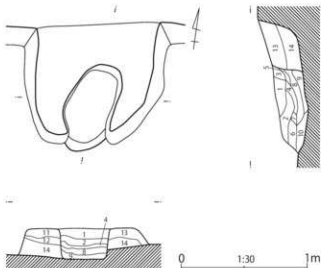
1	長 胴 甕	A.底部径4.4. B.粘土粗積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
2	鉢	A.口縁部径(17.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面甕ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4破片。H.覆土中。
3	高 坏	A.口縁部径(14.6)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。要部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色。内一黒色。F.坏部1/2。G.口縁部内面黒色処理。H.覆土中。
4	模 倣 坏	A.口縁部径(12.2)。器高3.8。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡明褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に黒斑点あり。H.覆土中。
5	模 倣 坏	A.口縁部径(12.2)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。



第153图 第87·119号住居跡

第87・119号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの塊状の混合土。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～3cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第9層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～4cmのロームブロックを含む。）



第154図 第119号住居跡カマド

第119号住居跡カマド土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（粘質ロームを少量、径0.5～2cmの焼土ブロックを微量含む。しまりを有する。）
 第2層：赤褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第3層：灰黄褐色土層（粘質ローム・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第5層：灰黄褐色土層（粘質ロームを多量、焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。ロームブロック・焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。）

- 第8層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。）
 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。炭化物を多量含む。）
 第10層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第11層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質ロームの混合土。焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第12層：赤褐色土層（灰黄褐色粘質ローム・焼土ブロック・焼土粒子を含む。しまりを有する。）
 第13層：灰黄褐色土層（暗褐色土を多量含む。しまりを有する。）
 第14層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質ロームを主に、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）

6	模倣環	A.口縁部径12.0、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
7	模倣環	A.口縁部径(11.8)、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
8	模倣環	A.口縁部径11.6、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.4/5。G.体部外面は荒れている。H.覆土中。
9	模倣環	A.口縁部径11.2、器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.4/5。G.体部外面上半に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	模倣環	A.口縁部径11.0、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.3/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
11	模倣環	A.口縁部径10.8、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.1/2。H.覆土中。
12	有段口縁環	A.口縁部径(12.8)、器高4.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一暗茶褐色。F.1/4。G.口縁部外面にタール状の黒色付着物あり。体部外面に黒斑あり。H.覆土中。
13	有段口縁環	A.口縁部径(12.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。

14	有段口縁坏	A.口縁部径(12.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
----	-------	---

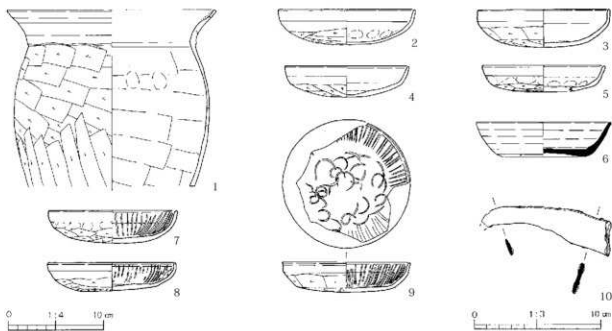
第120号住居跡 (第156図、図版23)

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。第105・116・118・119号住居跡と重複し、それらを切っている。

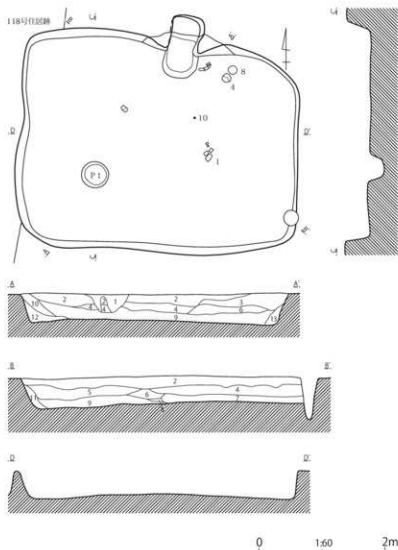
平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈している。規模は、南北方向が3.63m、東西方向が4.66mを測る。住居跡の主軸方位は、 $N-1^{\circ}-E$ を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは48cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、1カ所検出されている。P1は、径45cmの円形を呈し、床面からの深さは25cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁に対して若干斜めに付設されている。規模は、全長106cm・最大幅155cmある。燃烧部は、住居の壁を40cm程度掘り込んでいる。壁面は、あまりよく焼けていない。燃烧面は、住居の床面よりも若干低く、皿状に窪んでいる。奥壁は、垂直ぎみに立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、暗灰褐色粘土を住居の壁をやや斜めに掘り込んだ面に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドの内外や住居中央部の床面上から、奈良時代後半を主体とする土器が多く出土している。土器以外では、覆土中から鉄製の曲刃鎌(No10)が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、奈良時代後半頃と考えられる。



第155図 第120号住居跡出土遺物

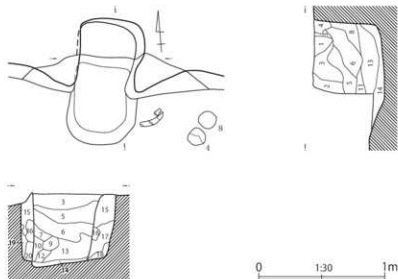


第120号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（黒褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（黒褐色土ブロックを多量、径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック・径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第7層：暗褐色土層（黒褐色土を主体に、ロームブロックを多量含む。）
- 第8層：暗褐色土層（暗褐色土・黒褐色土・ロームの混合土。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
- 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）
- 第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第12層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第13層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。）

第120号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
- 第2層：灰黄褐色土層（白色バミスを多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）
- 第3層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。径3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）
- 第4層：灰黄褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。）
- 第5層：灰黄褐色土層（黒褐色土・粘質土の混合土。焼土粒子・炭化物を多量含む。しまりを有する。）
- 第6層：灰黄褐色土層（黒褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）



第156図 第120号住居跡

- 第7層：赤褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第8層：赤褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。径0.5～3cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第9層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土ブロックを含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（黒褐色土・ロームの混合土。径0.5～0.8cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：褐色土層（黒褐色土・ロームの塊状の混合土。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：黒褐色土層（径0.5～1.5cmの焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：褐色土層（黒褐色土・ロームの混合土。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15～20層（土層説明なし。）

第72表 第120号住居跡出土遺物観察表

1	長 鬚 甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.上半1/4。H.床面付近。
2	坏	A.口縁部径(14.6)。器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(14.0)。器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径13.2。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。H.床面付近。
5	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
6	須 恵 器 坏	A.口縁部径(14.2)。器高3.7。底部径8.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後周辺回転篋ケズリ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.1/2。H.覆土中。
7	暗 文 坏	A.口縁部径13.6。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.底部内面には不明瞭ながら螺旋状暗文が施されていると思われる。体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
8	暗 文 坏	A.口縁部径13.6。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.体部外面に黒斑あり。H.床面付近。
9	暗 文 坏	A.口縁部径(13.6)。器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ、内面ナデの後螺旋状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
10	鉄 鎌	A.長さ10.2。幅2.5。厚さ0.3。重さ19.7g。B.鍛造。D.鉄製。F.ほぼ完形。H.覆土中。

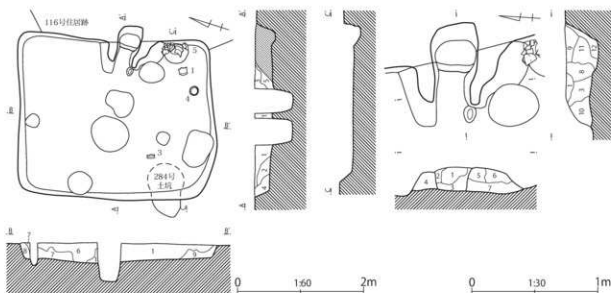
第121号住居跡（第157図、図版24）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第116号住居跡に切られ、第284号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が2.58m、南北方向が3.23mを測る。住居跡の主軸方位は、N-72°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。本住居跡に関するピットは、1カ所検出されている。P1は、カマド右側の壁際に位置する。形態は、40cm×33cmの楕円形を呈し、床面からの深さは12cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して若干斜めに付設されている。規模は、全長84cm・最大幅106cmある。燃焼部は、住居の壁を27cm程度掘り込んでいる。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、緩やかに立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、ローム土を主体とする暗褐色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、P1上面や住居南東側コーナー部の床面上から、古墳時代後期中葉から後葉（6世紀末～7世紀初頭）頃を主体とする土器が出土している。このうち、No2とNo3の甕は、古墳時代中期（5世紀）後半頃のもので、重複する第116号住居跡からの混入品と考えられる。No4の小形甕は、胴部下半を欠くもので、口縁部を床面に付けた状態で出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、古墳時代後期中葉から後葉（6世紀末～7世紀初頭）頃と考えられる。



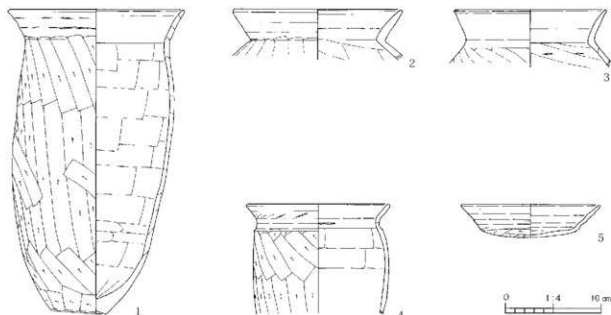
第157図 第121号住居跡

第121号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑点状の混合土。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、径0.5～7cmのロームブロックを少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、径0.5～2cmのロームブロックを含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径15cmのロームブロックを含む。）

第121号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土層（崩落ハードロームブロック、下部に被熱赤化。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第3層：黒褐色土層（炭化物を多量含む。）
 第4層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ロームを主体に、黒褐色土を含む。しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を含む。しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を含む。しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）
 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を多量含む。）
 第10層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第11層：暗褐色土層（黒褐色土・ロームの混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第12層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）



第158図 第121号住居跡出土遺物

第73表 第121号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A.口縁部径18.6、器高32.2、底部径5.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面木炭痕を残す。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。G.胴部外面下半は二次焼成を受けて荒れている。F.2/3。H.P 1上面。
2	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D.白色粒。E.外—明褐色、内—淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	甕	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外—茶褐色、内—淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	小形甕	A.口縁部径15.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡褐色。F.上半のみ。H.床面直上。
5	有段口縁杯	A.口縁部径14.6、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外—暗茶褐色。F.3/4。H.床面付近。

第122号住居跡 (第146図)

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第123・125号住居跡や第247号土坑に切れ、第116号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が3.30m、南北方向は3.45mまで測れる。住居跡の長軸方向は、N-22°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は良く分からないが、ほぼ平坦に作られている。住居の中央部からは、重複する床下土坑が検出されている。住居跡の残存する部分には、カマドや炉の痕跡は見られなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期～後期の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀初頭頃)と思われる。



第159図 第122号住居跡出土遺物

第74表 第122号住居跡出土遺物観察表

1	模倣杯	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	模倣杯	A.口縁部径(11.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	壺	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面櫛歯状工具による連続刺突文と、その下に同一工具による横線文を施す。内面ナデ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一黒褐色。F.胴部破片。G.ハレス文様の横線間の鋸歯文が連続刺突文に置換された文様構成と思われる。H.覆土中。

第123号住居跡（第160図、図版24）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第125～127・137号住居跡や第253・254号土坑に切られ、第122・124号住居跡を切っている。

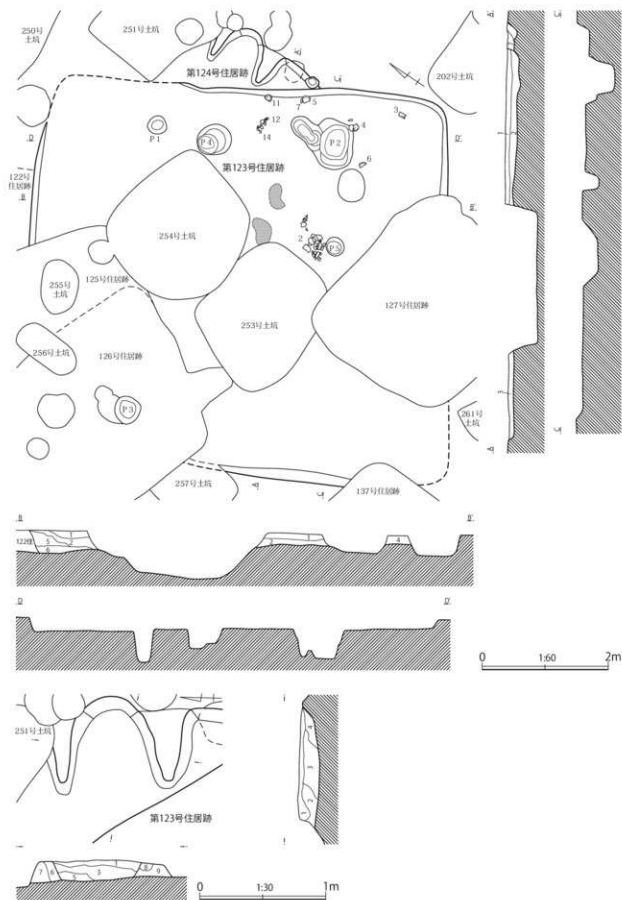
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈していたと思われる。規模は、北東～南西方向が6.33m、北西～南東方向が6.65mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは36cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、5カ所検出されているが、その性格等が分かるものはない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部には、床面が焼けて楕円形状に赤色化した部分が2カ所検出されているが、炉として機能していたものか不明である。

本住居跡は、その出土遺物の時期から見て、カマドを伴っていたと考えられることから、おそらくカマドは第127号住居跡に切られている住居の南東側壁に付設されていたのではないかと推測される。

遺物は、住居中央部や壁際の覆土中から、古墳時代後期中葉（6世紀）末頃と平安時代前期（9世紀）中頃の土器が混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代後期中葉（6世紀）末頃と思われる。

第75表 第123号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A.口縁部径(20.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
2	長胴甕	A.口縁部径(18.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
3	胴張甕	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	鉢	A.口縁部径(12.4)。器高11.3。底部径(8.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。低部外面不明。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2弱。G.胴部外面下半に幅1.5cm程度の帯状の黒色付着物あり。H.床面直上。
5	有段口縁杯	A.口縁部径14.8。器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F.3/4。H.覆土中。



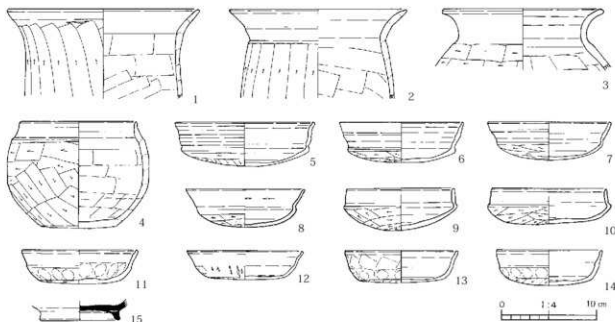
第160图 第123·124号住居跡

第123・124号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量、上部に浅間山系A軽石を含む。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～8cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第124号住居跡カマド土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径0.3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。下部に灰黄褐色粘質土・焼土ブロックが遺集。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、灰黄褐色粘質土を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を塊状に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmの灰黄褐色粘質土ブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（暗褐色土・ロームの塊状の混合土。）



第161図 第123号住居跡出土遺物

6	有段口縁杯	A.口縁部径13.2、器高4.3。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。 D.白色粒。E.内外一黒色。F.1/2。H.覆土中。
7	有段口縁杯	A.口縁部径13.0、器高4.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。 D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.体部内面に斑点状剥落顕著。H.覆土中。
8	模倣杯	A.口縁部径12.6、器高4.1。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。 D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
9	模倣杯	A.口縁部径11.4、器高4.5。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。 D.白色粒。E.外一茶褐色、内一黒褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
10	模倣杯	A.口縁部径12.2、器高3.8。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。 D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.4/5。H.覆土中。

11	環	A.口縁部径12.2、器高3.6、底部径8.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.外一暗茶褐色、内一暗褐色。F.2/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
12	環	A.口縁部径(12.6)、器高3.0、底部径7.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.1/3。H.床面直上。
13	環	A.口縁部径12.0、器高3.4、底部径8.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後壁ナデ、内面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
14	環	A.口縁部径(11.2)、器高3.7、底部径(9.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
15	須 高 台 付 壺	A.高台部径8.4。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.高台部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.底部のみ。H.覆土中。

第124号住居跡（第160図、図版24）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第123号住居跡や第251号土坑に切られている。残存しているのは、住居のカマド付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居跡の主軸方位は、概ねN-89°-Eを向いていたと思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。残存する住居東側壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は良く分からないが、ほぼ平坦に作られている。

カマドは、住居の東側壁に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長78cm、最大幅116cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず、住居内にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面と同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

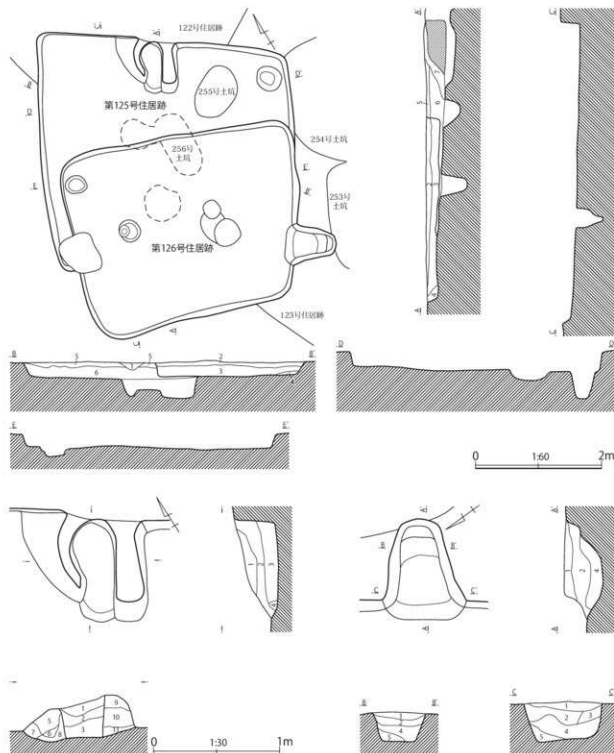
遺物は、古墳時代前期から平安時代前期までの土器の破片が、覆土中から混在して少量出土している。本住居跡の時期は、新しい時期の土器の破片も見られるものの、遺構の重複関係からは、古墳時代後期以前と考えられる。

第125号住居跡（第162図、図版24）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第126号住居跡や第255号土坑に切れ、第122・123号住居跡や第254・256号土坑を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、北東側壁はやや歪んでいる。規模は、北東～南西方向が3.92m、北西～南東方向が4.16mを測る。住居跡の主軸方位は、N-33°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から1ヵ所検出されているが、住居と関係するものか明確ではない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居北西側壁中央やや北西寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長86cm、最大幅102cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く平坦に作られている。奥壁は、垂直ぎみに立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を住居の壁に直接貼り



第162図 第125・126号住居跡

第125・126号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5cm～10cmのロームブロックを微量含む。）

第125号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）

第3層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。）

第4層：黄褐色土層（ロームブロックを主体。）

第5層：暗褐色土層（暗褐色土とロームの混合土。径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（暗褐色土とロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第126号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）

第3層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）

第4層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土ロームの混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

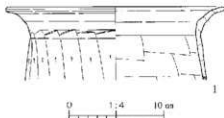
遺物は、図示できるようなものはないが、古墳時代前期から奈良時代までの土師器や須恵器の破片が、住居跡の覆土中から混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や住居跡の形態から、古墳時代後期頃と思われる。

第126号住居跡（第162図、図版24）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。第123・125号住居跡や第253・256号土坑と重複し、それらを切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、住居の東側壁はやや歪んでいる。規模は、東西方向が最長3.90m、南北方向が3.13mを測る。住居跡の主軸方位は、N-112°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは23cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から複数検出されているが、住居と関係するものか明確ではない。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長84cm・最大幅70cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、その大半が住居壁外にある。壁面は、部分的に焼けて赤色化している。燃焼面は、住居の床面よりも深く皿状をしている。奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は見られない。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。



第163図 第126号住居跡出土遺物

遺物は、古墳時代前期から白鳳時代頃までの土器の破片が、住居跡の覆土中から混在して出土しているが、主体は古墳時代後期後葉から白鳳時代頃のものである。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、白鳳時代と思われる。

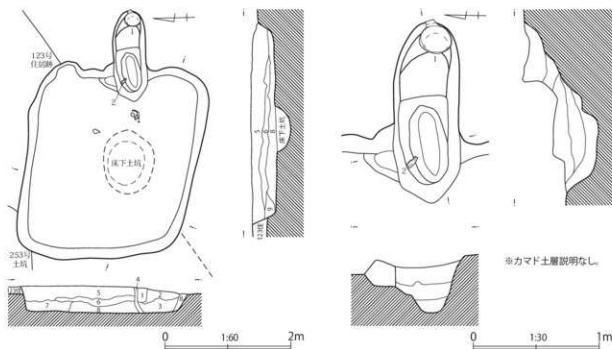
第76表 第126号住居跡出土遺物観察表

1	長 副 喪	A.口縁部径(23.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面荒ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡い黄白色、内-淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	-------	---

第127号住居跡（第164図、図版25）

C3地点の調査区中央部の中央付近に位置する。重複する第253号土坑に切れ、第123号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強いやや平行四辺形に歪んだ長方形を呈している。規模は、東西方向が3.10m、南北方向が2.85mを測る。住居跡の主軸方位は、N-98°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは40cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部



第164図 第127号住居跡

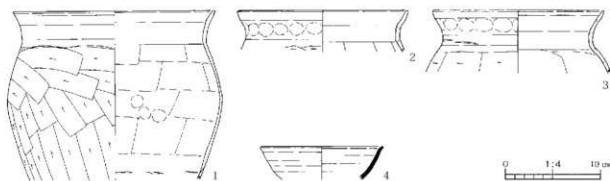
第127号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを微量含む。）
 第4層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色粒子・黄褐色ローム粒子を含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～2cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～4cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～7cmのロームブロックを斑状に含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部の床下には、100cm×80cmの楕円形を呈する床下土坑が1基検出されている。

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長143cm・最大幅77cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでその大半は住居の壁外にある。壁面は、あまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に至っている。袖は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、奈良時代末～平安時代初頭頃の土器が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や住居の形態及び出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）末～平安時代（9世紀）初頭頃と考えられる。



第165図 第127号住居跡出土遺物

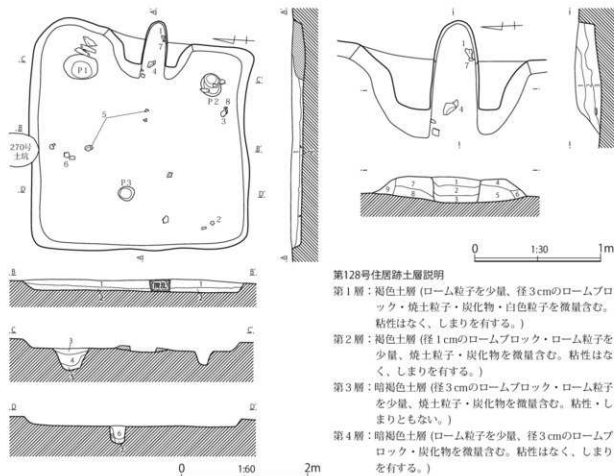
第77表 第127号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径21.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半1/2。H.カマド煙道部。
2	甕	A.口縁部径18.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
3	甕	A.口縁部径18.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
4	須恵器 坏	A.口縁部径13.0。B.口縁成形。C.体部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

第128号住居跡（第166図、図版25）

C3地点の調査区中央部の中央に位置する。第270号土坑と重複し、それによって切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、東側壁がやや開いて歪んでいる。規模は、東西方向が最長3.75m、南北方向が3.60mを測る。住居跡の主軸方位は、N-87°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは17cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、3カ所検出されている。P1とP2は、住居の北東側と南東側コーナー部付近に位置することから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部の可能性が高いと思われる。形態は、P1が長軸56cm、P2が長軸38cmの楕円形を呈し、床面からの深さはそれぞれ36cmと23cmある。P3は、住居中央部西側寄りに位置する。形態は、径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さは30cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した



第128号住居跡土層説明

第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第128号住居跡カマド土層説明

第1層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：灰褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロックを少量、白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・白色粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

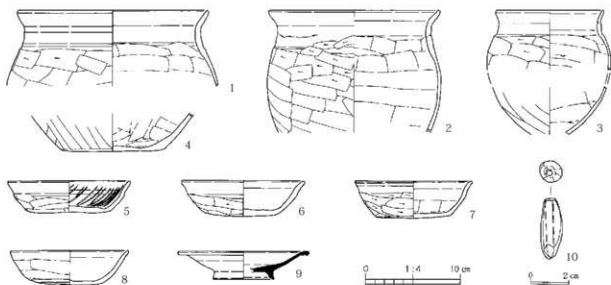
第166図 第128号住居跡

貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長94cm・最大幅148cmある。燃焼部は、住居の壁を35cm程度掘り込んでいる。壁面は、あまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、垂直的に立ち

上がり、煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、平安時代前期（9世紀）の土器が出土している。土器以外では、覆土中から土鍾(No10)が1点出土している。また、住居北東側コーナー部の覆土中から、絹雲母片岩が3個並んで出土しているが、これらは本住居跡で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程中に並べて置かれたものと思われる。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、平安時代前期（9世紀）と考えられる。



第167図 第128号住居跡出土遺物

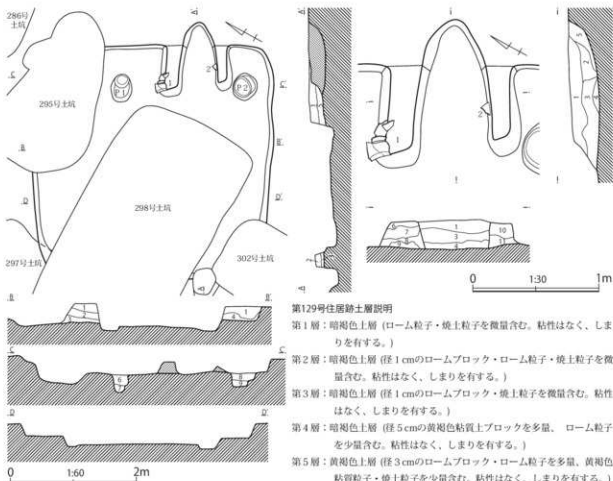
第78表 第128号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(18.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.片岩粒、石英、白色粒、黒色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
3	小形台付甕	A.口縁部径11.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.上半3/4、下半1/3。H.覆土中。
4	甕	A.底部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.底部1/4。H.カマド内。
5	暗文環	A.口縁部径(12.9)、器高3.3、底部径(9.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一橙褐色、内一淡橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
6	環	A.口縁部径13.1、器高3.8、底部径7.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3欠損。H.覆土中。
7	環	A.口縁部径12.4、器高3.9、底部径7.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部一部欠損。H.カマド内。
8	環	A.口縁部径(12.4)、器高3.6、底部径7.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
9	須恵器高台付皿	A.口縁部径(14.0)、器高3.0、高台部径(6.5)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外一灰色。F.1/4。H.覆土中。
10	土鍾	A.長さ3.2、最大幅1.2、重さ3.45g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.黒色粒。E.外一淡黄褐色。F.完形。H.覆土中。

第129号住居跡 (第168図、図版25)

C3地点の調査区中央部の中央西寄りに位置する。重複する第295・298・302号土坑に切られ、第297号土坑を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナ部が丸みをもつ方形を呈していたと思われる。



第129号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径5cmの黄褐色粘質土ブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、黄褐色粘質粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第129号住居跡カマド土層説明

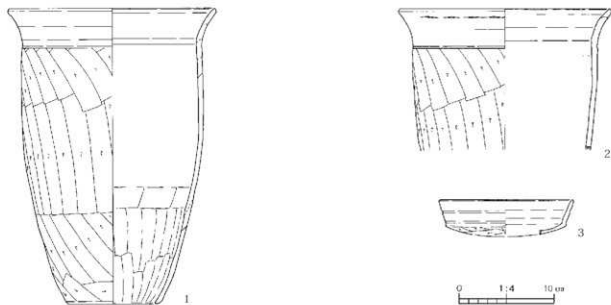
- 第1層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色粘質土層（径5cmの焼土ブロックを少量、径1～5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径1cmの黄褐色粘質土ブロック・焼土粒子を少量、径3cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（黄褐色粘質土粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第168図 第129号住居跡

規模は、北東～南西方向が3.74m、北西～南東方向が3.85mを測る。住居跡の主軸方位は、N-61°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、2カ所検出されている。P1は、カマド左側の住居北東側壁際に位置する。形態は、長軸45cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。P2は、長軸41cmの楕円形を呈し、床面からの深さは21cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居北東側壁の中央やや東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長115cm・最大幅116cmある。燃焼部は、住居の壁を35cm程度掘り込んでいる。壁面は、あまり良く焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。左袖の先端付近からは、No1の大形甕を縦に割った破片が出土しており、その破片を袖先端の補強にしていたのかもしれない。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、古墳時代後期を主体とする土器が少量出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。



第169図 第129号住居跡出土遺物

第79表 第129号住居跡出土遺物観察表

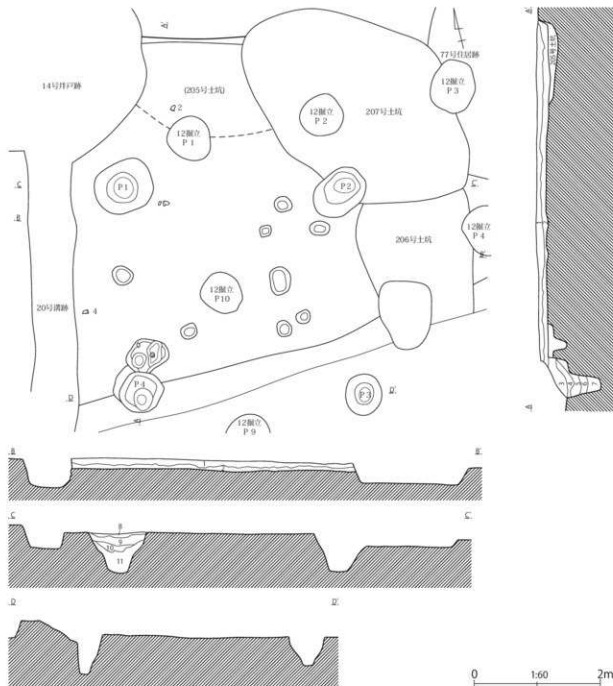
1	大形甕	A.口縁部径(22.0)、器高31.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面上半丁寧なナデ下半逆ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-暗茶褐色。F.1/4。H.カマド袖先端。
2	大形甕	A.口縁部径(22.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧なナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-暗褐色。F.口縁部1/3。G.胴部外面に黒斑あり。H.カマド内。
3	有段口縁坏	A.口縁部径(14.2)、残存高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.カマド内。

第130号住居跡（第170図、図版25）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。第12号掘立柱建跡・第14号井戸跡・第206・207号土坑・第20号溝跡に切られ、第205号土坑を切っている。住居跡の南側は、後世の耕作により削

平されているため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、住居跡の北壁以外の壁を他の遺構に切られているため不明である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは17cmある。残存する北側壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多く検出されている。この中で、他に比べて規模の大きなP1～P4は、その配置から住居の上屋を支える4本支柱の柱穴と考えられる。形態は、長軸が66cm～95cmの楕円形を呈し、床面からの深さは60cm～90cmある。一部の支柱穴の覆土の観察では、土層の堆積状態が自然堆積を示すことから、本住居の支柱の多くは住居の廃絶後に抜き取られた可能性が



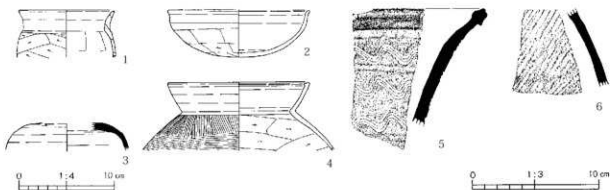
第170図 第130号住居跡

第130号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1～3cmの焼土ブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを斑状に多量、径1cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを少量、径10cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、径7cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

高いと思われる。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期～平安時代頃までの土器の破片が少量混在して出土している。この中のNo4の甕は、当地方ではあまり出土例のない古墳時代前期の畿内地方に分布する淡白色の布留式甕の破片である。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代～奈良時代頃と推測される。



第171図 第130号住居跡出土遺物

第80表 第130号住居跡出土遺物観察表

1	小形台付甕	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面葎ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(15.0)。器高5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	須恵器 坏	B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転葎ケズリ、内面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.天井部1/4。H.覆土中。
4	甕	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデの後ケズリ。口脣部に深い沈線を施す。D.茶褐色粒、黒色粒。E.内外一淡白色。F.口縁部1/6。G.布留式。H.覆土中。
5	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。口縁部外面に3本歯の櫛描波状文を3段以上施す。D.白色粒。E.内外一暗灰褐色、肉一淡褐色。F.口縁部破片。G.還元不良。H.覆土中。
6	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面平行叩き目、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色、肉一淡灰色。F.胴部破片。H.覆土中。

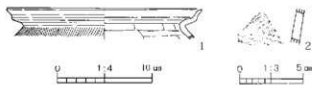
第131号住居跡（第174図）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。第132・134・136・137号住居跡や第336号土坑と重複し、それらによって住居跡の大半を切られている。残存しているのは、住居跡の北側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居跡の北側壁は、概ねN-102°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期を主体とする土器の破片が少量出土しただけである。

また、この他には弥生時代後期の二軒屋式土器の破片(No2)も1片出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と推測される。



第172図 第131号住居跡出土遺物

第81表 第131号住居跡出土遺物観察表

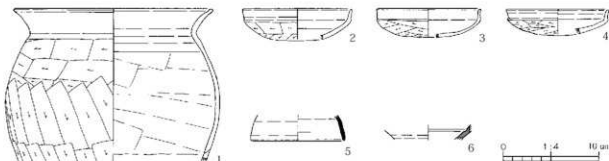
1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(20.6)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	甕	B.粘土組積み上げ。C.胴部外面は縄文(付加糸?)を羽状に施文、内面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一暗褐色。F.胴部破片。G.弥生時代後期二軒屋式。H.覆土中。

第132号住居跡（第174図、図版25）

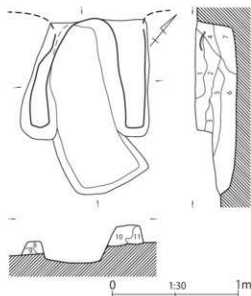
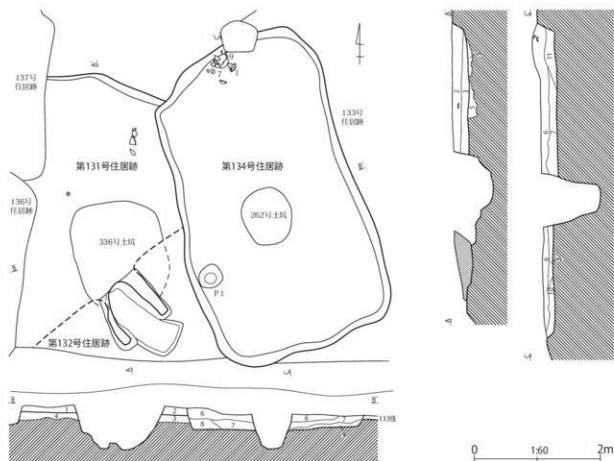
C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。重複する第131・134号住居跡や第336号土坑を切っている。住居跡の南側の大半を後世の耕作によって削平されている。残存しているのは、住居跡のカマド付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

カマドは、住居の北西側壁に付設されている。規模は、全長140cm、最大幅103cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面より一段低く平坦に作られている。奥壁は、垂直気味に立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘質土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代頃（7世紀中頃）と考えられる。



第173図 第132号住居跡出土遺物



第174図 第131・132・134号住居跡

第131・132・134号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を帯状に少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：黄褐色土層（径5cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第132号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混成土。径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第2層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土。径0.5～1.5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：茶褐色土層（焼土と灰黄褐色粘質土の混合土。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、焼土を含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（焼土と灰黄褐色粘質土の混合土。黒褐色土を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：灰黄褐色粘質土層（赤化した灰黄褐色粘質土を主体。）
 第9層：暗褐色土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土。焼土粒子を多量含む。）
 第10層：灰黄褐色粘質土層（暗褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第11層：暗褐色土層（暗褐色土と粘質土の混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）

第82表 第132号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髹ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—茶褐色。F.口縁部1/4。H.カマド内。
2	模倣坏	A.口縁部径(11.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
3	模倣坏	A.口縁部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	模倣坏	A.口縁部径(10.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
5	須恵器蓋	A.口縁部径(10.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.外—灰色、内—淡灰白色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
6	磁器埴	B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデの後、内面施軸。D.白色粒。E.内外—淡白灰色。F.破片。G.体部内面に沈線を施す。H.覆土中。

第133号住居跡（第175図、図版26）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。重複する第134号住居跡や第20号溝跡に切られている。住居跡の南側は、後世の耕作によって掘平されているため、遺構の全容は不明である。

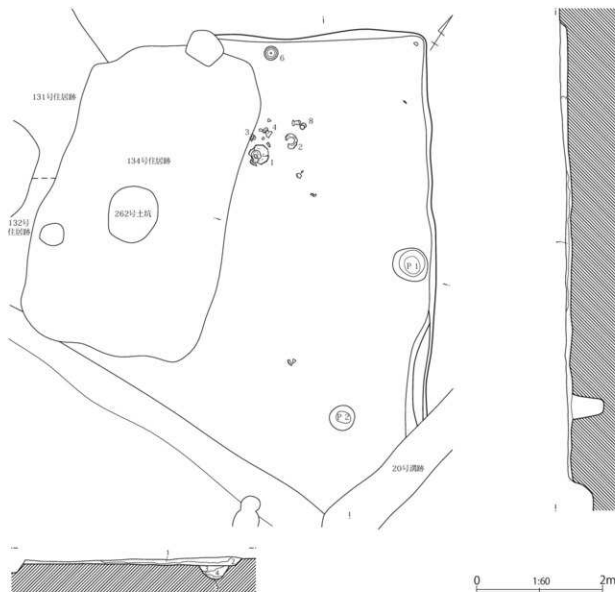
平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向は7.68mまで、北東～南西方向は6.00mまで測れる。住居跡の北東側壁は、N—33°—Wの方向を向いている。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、2カ所検出されている。P1は、住居北東側壁際に位置する。径60cmの円形を呈し、床面からの深さは26cmある。P2は、住居東側の周辺部に位置する。径42cmの円形を呈し、床面からの深さは52cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

炬やカマドは、残存する範囲内からは検出されなかった。

遺物は、住居中央部や壁際の床面上から土器が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代中期（5世紀）前半頃と考えられる。

第83表 第133号住居跡出土遺物観察表

1	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.頸部内外面髹ナデの後ヨコナデ。胴部内外面髹ナデ。D.石英、角閃石、黒色粒、灰色粒。E.内外—明茶褐色。F.1/2。H.床面付近。
2	複合口縁壺	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。口縁部内外面ハケの後間隔の粗い暗文を施す。D.石英、灰色粒、片岩粒、黒色粒、白色粒。E.内外—橙褐色。F.口縁部のみ。H.床面付近。
3	甕	A.口縁部径19.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面髹ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外—橙褐色。F.上半1/5。H.床面付近。

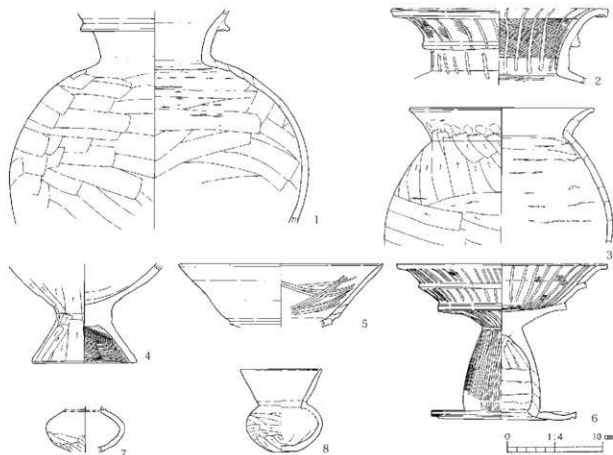


第175図 第133号住居跡

第133号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

4	台付甕	A.台端部径11.1。B.粘土組積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面蓋ナデ。台部外面ナデの後ケズリ、内面ハケ。D.石英、片岩粒、黒色粒、赤色粒。E.外一明黄褐色、内一淡褐色。F.下半のみ。H.床面付近。
5	高 环	A.口縁部径(21.7)。B.粘土組積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後ミガキ。D.石英、赤色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.环部1/4。H.覆土中。
6	有段高环	A.口縁部径22.2、器高16.5、脚端部径15.4。B.粘土組積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後放射状暗文を施す。脚柱部外面ミガキ、内面指ナデ脚端部内外面ヨコナデ。D.石英、雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.脚部一部欠損。H.床面直上。



第176図 第133号住居跡出土遺物

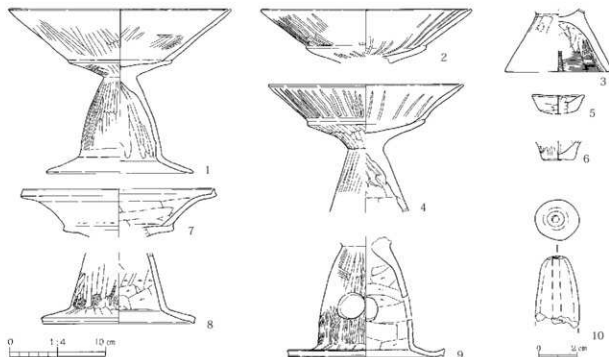
7	小形直口壺	B.粘土細積み上げ。C.胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡褐色色、内一淡褐色。F.胴部1/3。H.覆土中。
8	小形直口壺	A.口縁部径8.6、器高8.7、底部径2.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面指ナデ。D.石英、黒色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。

第134号住居跡（第174図、図版26）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。重複する第132号住居跡に切られ、第131・133号住居跡と第262号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈しているが、北西側壁は弓状に張っている。規模は、北西～南東方向が5.05m、北東～南西方向が3.05mを測る。住居跡の長軸方向は、N-18°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは26cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、1カ所検出されている。P1は、住居南西側壁際に位置する。径38cmの円形を呈し、床面からの深さは22cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。炉やカマドは、検出されなかった。

遺物は、住居北西側壁の壁際中央部の覆土中から、No1・4・7・9の古墳時代中期前半頃の高坏がまとまって出土している。土器以外では、覆土中から土鍾の破片(No10)が1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土物の様相から、古墳時代中期（5世紀）前半頃と考えられる。



第177図 第134号住居跡出土遺物

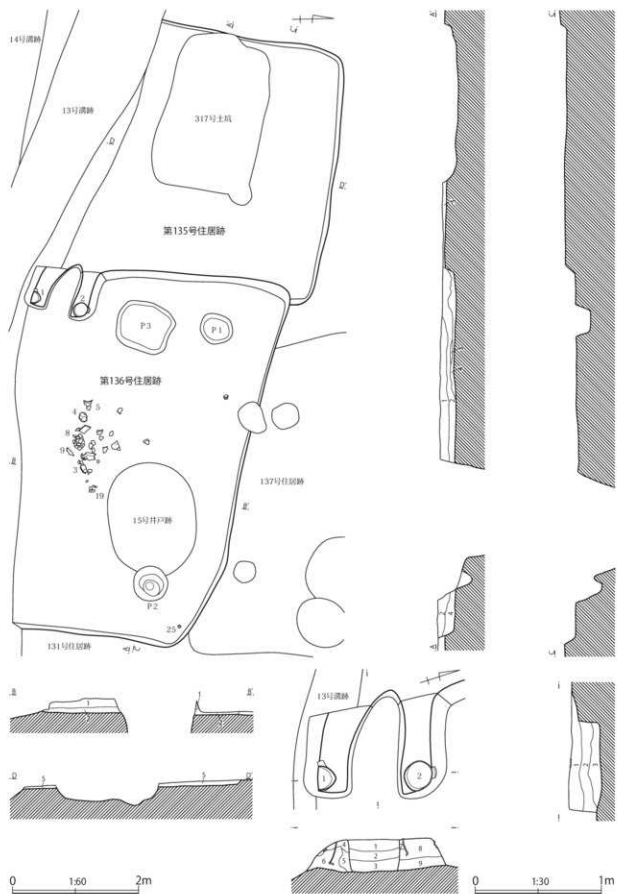
第84表 第134号住居跡出土遺物観察表

1	高 環	A.口縁部径23.5、器高17.4、脚端部径15.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後ミガキ、内面ミガキ。脚柱部外面ミガキ、内面上半絞り目・下半髷ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一赤褐色。F.1/2。H.覆土中。
2	高 環	A.口縁部径(22.4)。B.粘土組織み上げ。C.環部内外面ミガキ。D.白色粒、黒色粒、石英。E.内外一淡赤褐色。F.環部1/4。H.覆土中。
3	台 付 甕	A.台端部径11.2。B.粘土組織み上げ。C.台部外面髷ナデの後ナデ、内面ハケの後上半髷ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外一明褐色。F.台部のみ。H.覆土中。
4	高 環	A.口縁部径20.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。環部外面髷ナデ、内面ナデ。脚柱部外面髷ナデ、内面上半絞り目・下半髷ナデ。D.白色粒、雲母、礫。E.外一橙褐色、内一明赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
5	小形土器	A.口縁部径(5.5)、底部径(4.0)。B.粘土組織み上げ。C.内外面ナデ。D.白色粒、雲母。E.外一淡褐色、内一橙褐色。F.1/6。H.覆土中。
6	小形土器	A.底部径(3.2)。B.粘土組織み上げ。C.体部外面ハケ、内面髷ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.内外一淡黄褐色。F.底部1/3。H.覆土中。
7	有段高環	A.口縁部径(20.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後髷ナデ。環部内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一赤褐色。F.環部1/3。H.覆土中。
8	有段高環	A.脚端部径16.1。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ハケの後髷ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.脚部1/4。H.覆土中。
9	有段高環	A.脚端部径16.7。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ミガキ、内面ケズリの後下半髷ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.脚部1/2。H.覆土中。
10	土 鉢	A.残存長3.8、最大幅2.3、重さ15.5g。D.白色粒、角閃石。E.外一淡赤褐色。F.1/2。H.覆土中。

第135号住居跡 (第178図)

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。第136号住居跡や第317号土坑及び第13号溝跡と重複し、それらによって切られている。住居跡の南側は、後世の耕作によって削平されているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思



第178图 第135・136号住居跡

第135・136号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（炭化物を多量、焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、径3cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第136号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化物を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：灰褐色土層（焼土粒子・白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：灰褐色土層（白色粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

われる。規模は、東西方向が4.03m、南北方向は4.00mまで測れる。住居の北側壁は、N-78°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは7cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は不明であるが、平坦に作られているようである。

遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代以前と考えられる。

第136号住居跡（第178図、図版26）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。重複する第137号住居跡や第13号溝跡及び第15号井戸跡に切られ、第131・135号住居跡を切っている。住居跡の南側は、後世の耕作によって削平されているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が5.85m、南北方向は4.14mまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-77°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、3カ所検出されている。P1とP2は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴と考えられる。形態は、径50cm～60cmの円形を呈し、確認面からの深さは24cmと40cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の壁際に位置している。形態は、90cm×78cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは10cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

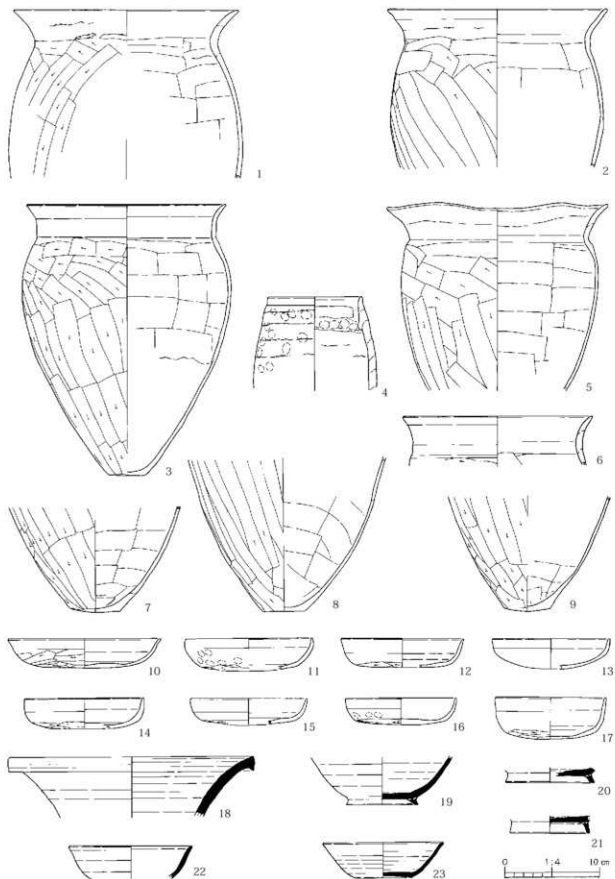
カマドは、住居の西側壁に位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長87cm、

最大幅108cmある。燃焼部は、住居の壁を10cm程度掘り込んでいるが、そのほとんどが住居内にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面と同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、ほぼ垂直に立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む灰褐色土や暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。両袖の先端には、甕を伏せて補強している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

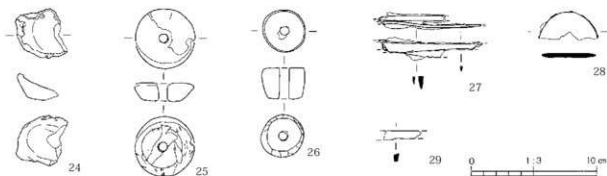
遺物は、住居跡中央部の覆土中から、奈良時代末～平安時代前期初頭頃の土器の破片が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代末頃と考えられる。

第85表 第136号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(23.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一橙褐色、内一淡橙褐色。F.口縁部1/5。H.カマド左袖先端。
2	長 胴 甕	A.口縁部径23.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.カマド右袖先端。
3	長 胴 甕	A.口縁部径21.0。器高28.5。底部径3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、角閃石。E.内外一淡赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
4	筒形土器	A.口縁部径10.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英。E.外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F.上半のみ。G.内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	長 胴 甕	A.口縁部径23.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一橙褐色。F.口縁部～胴部中心1/2。H.覆土中。
6	長 胴 甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.内外一淡赤褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
7	長 胴 甕	A.底部径5.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.外一にぶい橙褐色、内一橙褐色。F.底部1/2。H.覆土中。
8	長 胴 甕	A.底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、石英、角閃石。E.外一橙褐色、内一淡赤褐色。F.底部2/3。H.覆土中。
9	長 胴 甕	A.底部径4.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.外一淡赤褐色、内一明赤褐色。F.底部1/3。H.覆土中。
10	皿	A.口縁部径16.0。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.カマド内。
11	坏	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
12	坏	A.口縁部径13.0。器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
13	坏	A.口縁部径(12.4)。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英、角閃石。E.内外一淡橙褐色。F.2/5。H.カマド内。
14	坏	A.口縁部径(12.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
15	坏	A.口縁部径(12.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
16	坏	A.口縁部径11.8。器高2.8。底部径9.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.褐色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.1/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径(11.7)。器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外一淡橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
18	須 恵 器	A.口縁部径(26.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一褐灰色。F.口縁部破片。H.覆土中。
19	須 恵 器 高台付 椀	A.高台部径(7.6)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.黒色粒。E.外一灰褐色、内一黄灰色。F.体部上位～高台部2/5。G.還元焙焼成。H.覆土中。
20	須 恵 器 高台付 椀	A.高台部径(9.4)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒、黒色粒。E.外一浅黄色、内一灰黄色。F.底部～高台部1/4。G.還元焙焼成。H.北側一括。
21	須 恵 器 高台付 椀	A.高台部径(8.4)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。D.白色粒、礫。E.内外一黒色。F.底部～高台部2/5。H.覆土中。



第179图 第136号住居跡出土遺物(1)



第180図 第136号住居跡出土遺物(2)

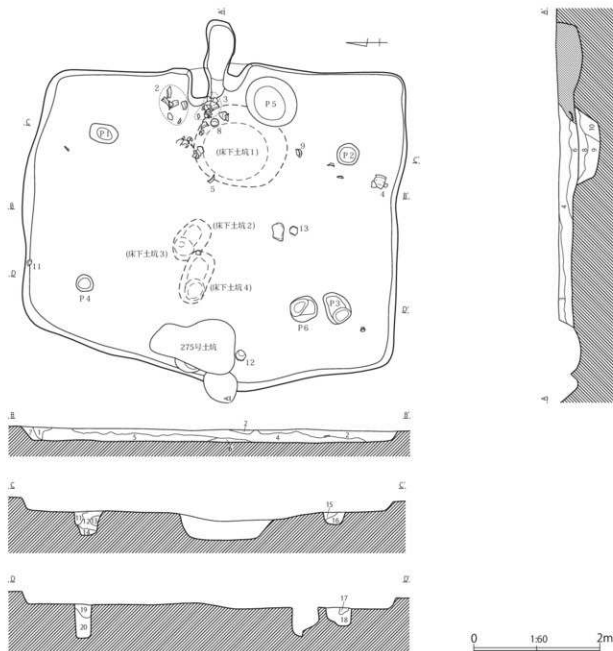
22	須恵器 環	A.口縁部径(13.0)。B.口口形成。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
23	須恵器 環	A.口縁部径(12.8)。器高3.7。底部径(6.0)。B.口口形成。C.体部内外面回転ナデ。底部外面転系切り。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.1/4。H.覆土中。
24	小粘土塊	A.長さ3.9。最大幅4.1。最大厚2.1。重さ18.2g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.白色粒。角閃石。E.外一淡褐色。F.破片。H.覆土中。
25	石製紡錘車	A.上面径4.65。下面径3.3。厚さ1.4。重さ41.3g。C.上下面ともに丁寧な研磨。D.滑石。F.2/3。H.覆土中。
26	土製紡錘車	A.上面径3.4。下面径2.7。厚さ2.5。重さ33.8g。B.手握ね。C.ケズリの後ナデ。D.白色粒。雲母。E.外一淡赤褐色。F.完形。H.覆土中。
27	鉄製刀子	A.残存長8.2。最大幅1.0。最大厚0.4。重さ11.6g。B.鍛造。D.鉄製。F.柄部~刃部の破片。G.刀子2点が融着している。H.覆土中。
28	鉄製円板	A.直径4.3。厚さ0.3。重さ8.2g。B.鍛造。D.鉄製。F.1/2。H.覆土中。
29	鉄製刀子	A.残存長2.95。最大幅0.7。最大厚0.35。重さ1.7g。B.鍛造。D.鉄製。F.柄部の破片。H.覆土中。

第137号住居跡(第181図、図版27)

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。重複する第275号土坑に切られ、第123・131・136号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、住居西側壁がやや張っている。規模は、東西方向が最長5.26m、南北方向が6.20mを測る。住居跡の主軸方位は、 $N-92^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは22cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、6カ所検出されている。この中のP1~P4は、概ね住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。形態は、長さ30cm~55cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは20cm~55cmある。これらの主柱穴の覆土の観察では、いずれも土層の堆積状態が自然堆積を示すことから、本住居の主柱は住居の廃絶後に抜き取られたと考えられる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の壁際に位置する。90cm×75cmの楕円形を呈し、床面からの深さは30cmある。P6は、P3の北側に位置する。45cm×40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは50cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居の東側壁の中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長143cm、最大幅110cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、その大半は住居壁外にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面より一段低く平坦に作られている。奥壁は、直線的にやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む灰黄褐色粘質土を、住居の

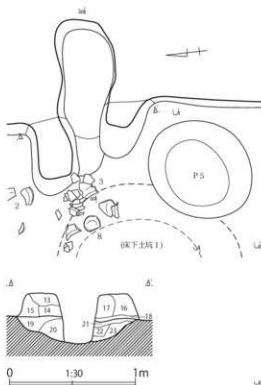


第181図 第137号住居跡

第137号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～5 cmのロームブロック・ローム粒子を斑点状に多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、浅間山系A軽石を上層に含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。）
 第9層：暗褐色土層（径0.5 cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）
 第10層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。）

- 第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロック・ローム粒子を斑点状に多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5cm～5cmのロームブロックを斑状に少量含む。しまりを有する。）
 第17層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第18層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～5cmのロームブロックを少量含む。）
 第19層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第20層：褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを斑点状に少量含む。しまりを有する。）



第182図 第137号住居跡カマド

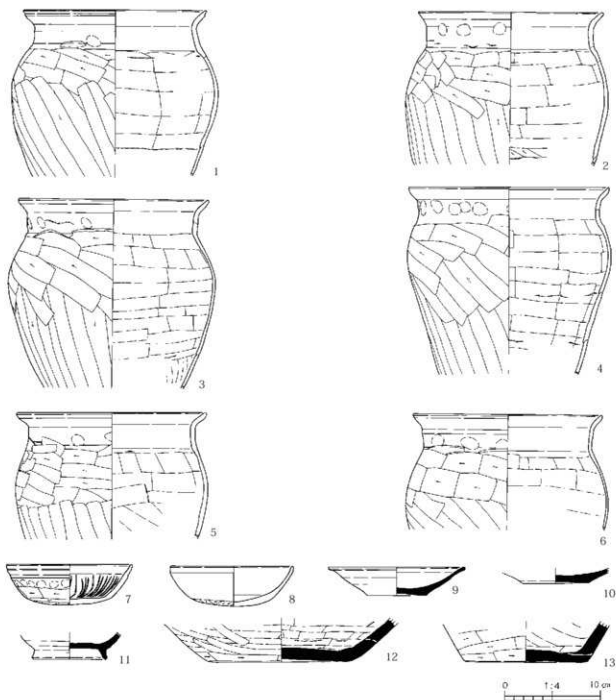
第137号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（暗褐色土・粘質土ロームの混合土。径0.5～2cmの焼土ブロック・焼土粒子を含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（径0.5～7cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～7cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）
 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。炭化物を多量含む。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を多量含む。）

- 第12層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。しまりを有する。）
 第15層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土ロームの混合土。ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第16層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土ロームを主体。）
 第17層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。）
 第18層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、ローム粒子を少量含む。）
 第19層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第20層：黄褐色土層（暗褐色土・径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第21層：暗褐色土層（炭化物を多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
 第22層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を含む。）
 第23層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第24層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・径0.5～8cmの焼土ブロックを多量含む。しまりを有する。）
 第25層：暗褐色土層（径0.5～7cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第26層：暗褐色土層（径0.5～2.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。しまりを有する。）
 第27層：褐色土層（ロームを主体に、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）

壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡中央部の覆土中から、平安時代前期中頃の土師器や須恵器の破片が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代前期中頃と考えられる。



第183図 第137号住居跡出土遺物

第86表 第137号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(19.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面捷ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一燈褐色。F.口縁部1/2。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	---	---

2	甕	A.口縁部径(19.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	甕	A.口縁部径20.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部～胴部3/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
4	甕	A.口縁部径(21.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部～胴部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	甕	A.口縁部径(20.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
6	甕	A.口縁部径(20.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡褐色、内一橙褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床下。
7	坏	A.口縁部径13.3、器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ヨコナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.床下。
8	坏	A.口縁部径13.0、器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.石英、白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.3/4。H.床面付近。
9	須恵器皿	A.口縁部径(14.5)、器高3.1、底部径(6.2)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡赤褐色、内一灰色。F.口縁部1/2欠損。H.覆土中。
10	須恵器皿	A.底部径(7.0)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.石英、白色粒。E.内外一灰色。F.底部1/2。H.床下土坑1。
11	須恵器高台付椀	A.高台部径(7.8)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.片岩粒、白色粒、黒色粒。E.外一灰色、内一灰白色。F.高台部1/3。H.床面付近。
12	須恵器甕	A.底部径(15.2)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面篋ナデの後下端部ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒。E.内外一灰黄色。F.底部2/3。H.覆土中。
13	須恵器甕	A.底部径(13.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.底部2/3。H.覆土中。

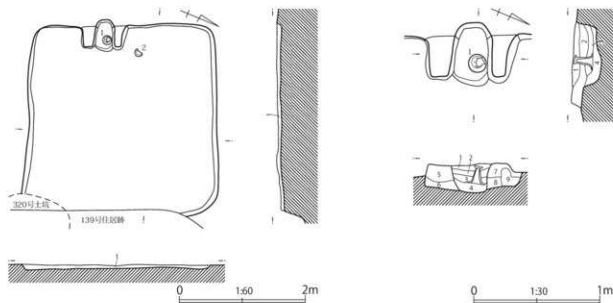
第138号住居跡(第184図、図版27)

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。重複する第139号住居跡に切られ、第320号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸み強い方形を呈している。規模は、東西方向が3.15m、南北方向が3.20mを測る。住居の主軸方位は、N-114°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。残存する各壁下からは、壁溝は見られなかった。ピットは、住居内から全く検出されていない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居西側壁の中央やや南西側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対して直角に付設されている。規模は、全長52cm、最大幅77cmある。燃焼部は、住居の壁を10cmほど掘り込んでいるが、その大半は住居内にある。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は若干傾斜して直線的に煙道部に移行している。燃焼部内には、No1の長脚高環の脚部を転用した支脚が正位に据えられている。この転用支脚の位置が、燃焼部中央のやや右側寄りであることからすると、本カマドの土器の掛け方は2個並置式であった可能性もある。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘土や暗黄褐色粘土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内やカマド周辺の床面上及び住居跡の覆土中から、古墳時代前期～後期中葉(6世紀末)頃の土器が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期中葉(6世紀末)頃と考えられる。



第184図 第138号住居跡

第138号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第138号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子・焼土粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

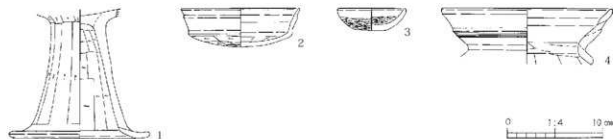
第5層：暗褐色粘土層（焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗黄褐色粘土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗黄褐色粘土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第185図 第138号住居跡出土遺物

第87表 第138号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A 脚端部径14.8。B 粘土組織み上げ。C 脚柱部内外面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D 片岩粒、赤色粒、白色粒。E 内外一淡茶褐色。F 脚部のみ。G カマド支脚に転用。H カマド内。
2	有段口縁坏	A 口縁部径12.6。器高4.0。B 粘土組織み上げ。C 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D 白色粒。E 内外一暗茶褐色。F 1/2。H 床面付近。

3	小形土器	A.口縁部径7.2、器高2.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ミガキ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。
4	複合口縁壺	A.口縁部径(18.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

第139号住居跡(第186図、図版27)

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。重複する第16号井戸跡や第13・16号溝跡に切られ、第138号住居跡や第320号土坑を切っている。

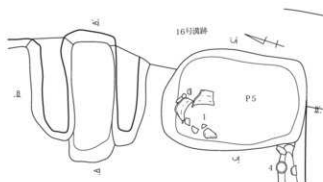
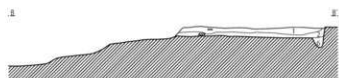
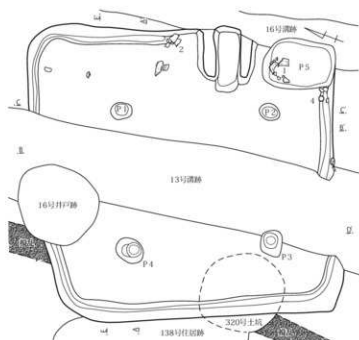
平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、住居の北側壁は歪んで東に開いている。規模は、東西方向が4.83m、南北方向が5.05mを測る。住居の主軸方位は、N-70°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。各壁の壁下には、幅20cm、床面からの深さ10cm程度の壁溝が巡っている。ピットは、住居内から5箇所検出されている。P1~P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。いずれも長さ35cm~50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは6cm~63cmある。これらの中で、P3とP4の柱穴底面には小ピット状の柱痕が見られるが、覆土の観察では土層の堆積状態が自然堆積を示すものが見られることから、本住居の主柱は住居廃絶後に抜き取られた可能性が高いと思われる。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。120cm×84cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは30cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対して直角に付設されている。規模は、全長108cm、最大幅98cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖は、褐色粘土を住居の壁に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドや貯蔵穴周辺の床面上及び住居跡の覆土中から、古墳時代後期の土器片が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期中葉から後葉頃と考えられる。

第88表 第139号住居跡出土遺物観察表

1	大形甕	A.口縁部径(25.3)、底部径(12.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡黄色、内一灰黄色。F.上半2/3、下半1/3。H.貯蔵穴内。
2	長胴甕	A.口縁部径(21.7)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡黄褐色、内一淡橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	模倣坏	A.口縁部径(13.6)、器高3.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色、内一淡黄褐色。F.1/3。H.覆土中。
4	模倣坏	A.口縁部径12.3、器高4.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.床面付近。
5	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は口縁部に弧状の隆帯貼付後、沈線を施す。胴部縦位の条線か。内面ナデ。D.黒色粒、褐色粒。E.外一淡黄色、内一明黄褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
6	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は口縁部直下に横位の浅い沈線を施す。胴部は斜位の沈線を施す。内面は横位のミガキを施す。D.黒色粒、褐色粒。E.外一淡黄色、内一淡黄褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
7	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は弧状の隆帯貼付後、隆帯幅に沈線を施す。隆帯による区画内には細い棒状工具による沈線を施す。内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、片岩粒。E.外一淡黄褐色、内一橙褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
8	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は縦位の条線施文後、縦位の隆帯を貼付する。内面ナデ。D.チャート、片岩粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
9	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は斜位の沈線を施す。内面ミガキ。D.チャート、黒色粒、片岩粒。E.外一淡黄褐色、内一灰黄色。F.胴部破片。H.覆土中。



0 1:60 2m



0 1:30 1m

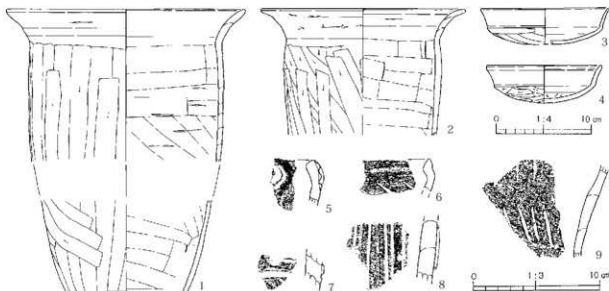
第186图 第139号住居跡

第139号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第6層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第11層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第12層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第139号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色粘質土層（カマド袖。）
 第7層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黄褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

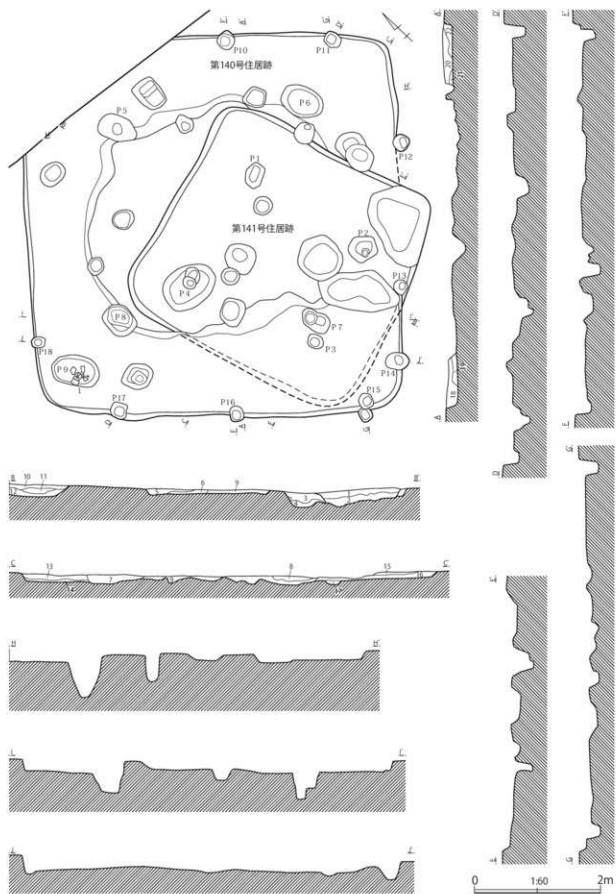


第187図 第139号住居跡出土遺物

第140号住居跡（第188図、図版28）

C3地点の調査区西側の北端に位置する。第141号住居跡と重複し、それに切られている。本住居跡は、すでに住居の床面下まで削平されており、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、北東～南西方向が6.05m、北西～南東方向が5.86mある。壁は、既に削平されているため不明であるが、各壁下には壁溝は見られ

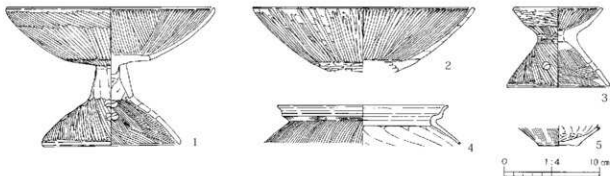


第188图 第140・141号住居跡

第140・141号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・灰黄褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第17層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第19層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第20層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第22層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

ないようである。ピットは、住居跡内から多数検出されている。このうちP5～P8は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。いずれも長さ35cm～64cmの楕円形を呈し、掘り方底面からの深さは、44cm～59cmある。P9は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居西側コーナー部に位置する。75cm×48cmの楕円形さびみの形態を呈し、掘り方底面からの深さは30cmある。P9上面からは、No1の高環が出土している。P10～P18は、いずれも径20cm程度の円形を呈し、確認面からの深さは30cm程度の小規模なもので、ほぼ2mの間隔をもって住居壁面を切って巡っている。住居の北東側壁と南西側壁は3カ所ずつで相互に対応しているが、南東側壁と北西側壁は良く分からない。掘り方は、住居の壁際が周溝状に深くなる形態である。



第189図 第140号住居跡出土遺物

遺物は、貯蔵穴（P9）上面や掘り方埋土中から、古墳時代前期の土器が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態及び遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

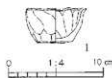
第89表 第140号住居跡出土遺物観察表

1	高 環	A.口縁部径22.0、器高14.7、脚端部径14.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部・坏部内外面ミガキ。胴柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部外面ハケの後ミガキ、内面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.脚部穿孔(焼成前)は縦2個1組で4カ所。H.P9上面。
2	高 環	A.口縁部径(23.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部・坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡黄褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/3。H.掘り方埋土。
3	器 台	A.口縁部径(9.5)、器高8.4、脚端部径11.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ナデの後ハケ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.掘り方埋土。
4	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.掘り方埋土。
5	小形鉢	A.底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ナデの後ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.底部のみ。G. S字状口縁小形鉢の底部と思われる。H.掘り方埋土。

第141号住居跡（第188図、図版28）

C3地点の調査区西側の北端に位置する。第140号住居跡と重複し、それを切っている。本住居跡は、すでに住居の床面下まで削平されており、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈している。規模は、南北方向が4.00m、東西方向が3.72mある。壁は、既に削平されているため不明であるが、各壁下には壁溝は見られないようである。ピットは、住居跡内から多数検出されている。このうちP1～P4は、住居のほぼ対角線上に



第190図 第141号住居跡出土遺物

配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と想定されている。いずれも長さ16cm～45cmの楕円形を呈し、掘り方底面からの深さは、20cm～34cmある。

遺物は、掘り方の埋土中から土器の破片が少量出土しただけである。

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代中期後半～後期頃と考えられる。

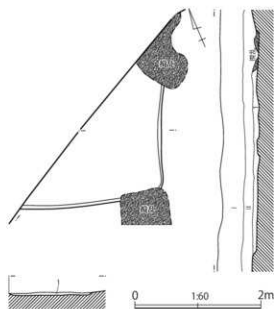
第90表 第141号住居跡出土遺物観察表

1	小形土器	A.口縁部径6.2、器高3.7、底部径3.6。B.手捏ね。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒斑あり。H.掘り方上面。
---	------	--

第142号住居跡（第191図、図版28）

C3地点の調査区西側の北西端に位置する。住居跡の上面は強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好ではない。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側コーナー部付近だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北東～南西方向は2.20mまで、北西～南東方向は2.32mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。検出された各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。



第191図 第142号住居跡

遺物は、住居跡の覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の遺存状態が良好でないため不明である。

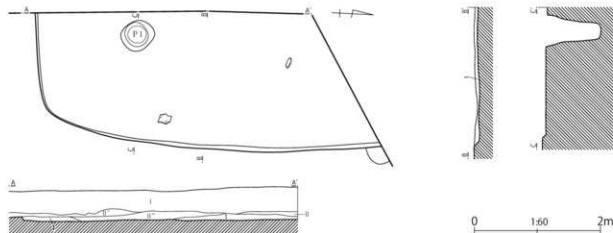
第142(S1137)号住居跡土層説明

- 第Ⅰ層：褐色土層（表土。径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅱ層：暗褐色土層（盛土層。砕石を多量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅲ層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第143号住居跡（第192図、図版28）

C3地点の調査区西側の北西端に位置する。住居跡の上面は強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好ではない。調査区内で検出されたのは、住居跡の東側の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向は5.50mまで、東西方向は2.24mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上



第192図 第143号住居跡

第143号住居跡土層説明

- 第Ⅰ層：褐色土層（表土。径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅱ層：暗褐色土層（盛土層。砕石を多量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅲ層：褐灰色砂礫層（盛土層。砕石を多量、径1cmの礫を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅳ層：明黄褐色砂礫層（砂粒を多量、径1cmの礫を少量、径5cmの礫を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第Ⅴ層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

がり、確認面からの深さは5cmある。検出された各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、1カ所検出されている。P1は、その位置から住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴と推測される。形態は、径45cmの円形を呈し、床面からの深さは82cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の遺存状態が良好でないため不明である。

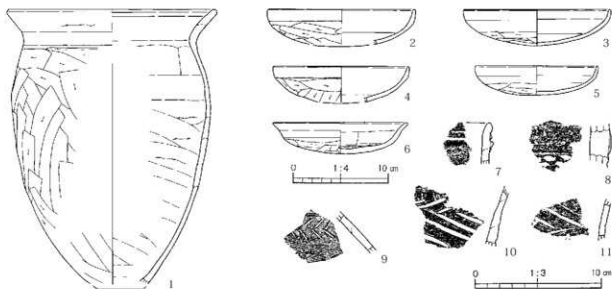
第144号住居跡（第194図、図版28）

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。第145号住居跡と重複し、それによって住居跡の西側壁を切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が3.55m、南北方向が3.69mを測る。住居跡の主軸方位は、N-84°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、まったく検出されなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長115cm、最大幅100cmある。燃焼部は、住居の壁を60cmほど掘り込んでいる。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも一段深く皿状に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む暗褐色粘土や暗黄褐色粘土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、白鳳時代を主体とする土器が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や住居跡の形態及び出土遺物の様相から、白鳳時代と推測される。



第193図 第144号住居跡出土遺物

第91表 第144号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(22.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.片岩粒、石英、白色粒、黒色粒、褐色粒。E.外一淡褐色。F.口縁部～胴部1/2。H.カマド内。
2	坏	A.口縁部径(15.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(15.7)。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半けずり、内面ヨコナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.1/5。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(14.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径13.1。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.2/3。H.カマド内。
6	皿	A.口縁部径14.4。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.1/2。H.覆土中。
7	深 鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は口縁部直下に横位隆帯を貼付後、隆帯上に棒状工具による2条の横位沈線を施す。内面ナデ。D.黒色粒、褐色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部破片。G.縄文土器。H.覆土中。
8	深 鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は隆帯を貼付して区画を施した後、区画内に棒状工具による刺突を施す。内面ナデ。D.黒色粒、片岩粒、石英、褐色粒、白色粒。E.外一褐色、内一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代中期後半。H.覆土中。
9	壺	B.粘土組織み上げ。C.外面ハケの後、板状工具による矢羽根状刺突を横位施し、内面ナデ。D.片岩粒、石英、褐色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代後期加曾利B式。No.11と同一個体か。H.覆土中。
10	深 鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は棒状工具による矢羽根状沈線を施す。内面ナデ。D.片岩粒、石英、褐色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代後期加曾利B式。No.11と同一個体か。H.覆土中。
11	深 鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は棒状工具による矢羽根状沈線を施す。内面ナデ。D.石英、褐色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代後期加曾利B式。No.10と同一個体か。H.覆土中。

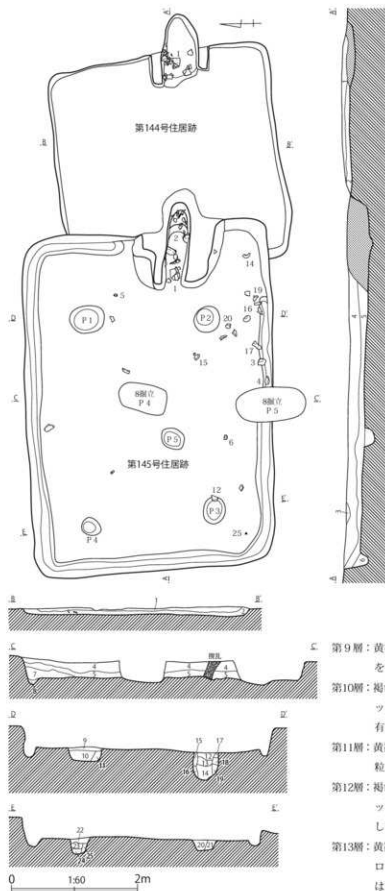
第145号住居跡 (第194図、図版29)

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。重複する第16号掘立柱建物跡に切れ、第144号住居跡を切っている。

平面形は、コーナ一部が丸みをもつ比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が5.57m、南北方向が4.10mを測る。住居跡の主軸方位は、N-90°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。各壁の壁下には、幅20cm×25cm・床面からの深さ13cmの壁溝が巡っているが、カマド右側の住居南東側コーナ部の壁下には見られない。ピットは、5カ所検出されている。P1～P4は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と考えられる。形態は、長軸34cm×59cmの楕円形を呈し、床面からの深さは17cm～45cmある。それぞれの柱穴覆土の土層観察では、柱が埋まっていた痕跡が見られる。P5は、住居中央部に位置する。長軸40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは16cmある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長158cm、最大幅148cmある。燃焼部は、住居の壁を60cmほど掘り込んでいる。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、暗黄褐色粘土を燃焼部奥壁から廻して構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、奈良時代後半頃を主体とする土器が出土している。土器以外では、鉄製刀子(No25)や土錘(No27)が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や住居跡の形態及び出土遺物の様相から、奈良時代後半と推測される。

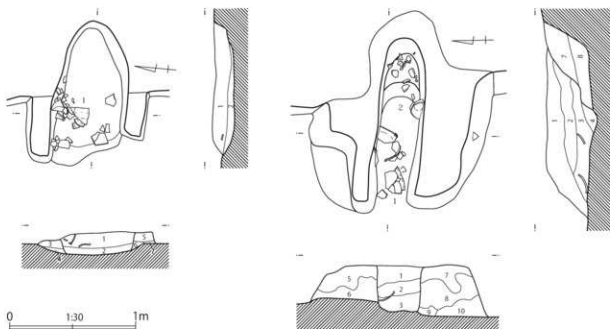


第194図 第144・145号住居跡

第144・145号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを少量、径5cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（径7cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：黄褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第14層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第15層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの炭化ブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第17層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第24層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第25層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第195図 第144・145号住居跡カマド

第144号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色粘質土層（ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：褐色粘質土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

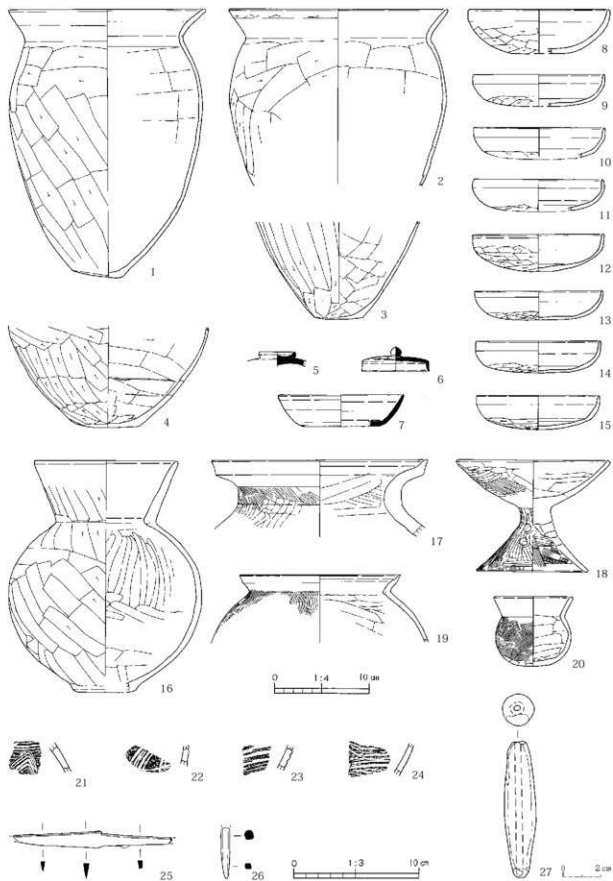
第145号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色粘質土層（褐色土粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色粘質土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色粘質土層（焼土粒子を多量、径3cmのロームブロック・黄褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（黄褐色粘質土粒子・白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・径3cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第6層：黄褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（焼土粒子・黄褐色粘質土粒子を少量、ローム粒子・径3cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（黄褐色粘質土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・黄褐色粘質土粒子を少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第92表 第145号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径20.7、器高28.3、底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、雲母、礫。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ正形。H.カマド内。
2	長 胴 甕	A.口縁部径23.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、礫。E.内外一淡赤褐色。F.口縁部1/3。H.カマド内。
3	長 胴 甕	A.底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.外一褐色、内一淡褐色。F.底部3/4。H.覆土中。
4	胴 張 甕	A.底部径7.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.外一灰褐色、内一淡褐色。F.胴部下半2/3。H.覆土中。
5	須 恵 器 蓋	B.ロクロ成形。摘み部貼り付け。C.摘み部回転ナデ、天井部外面回転篋ケズリ。内面回転ナデ。D.黒色粒。E.内外一黄灰色。F.天井部4/5。H.床面付近。
6	須 恵 器 短 頸 壺 蓋	A.口縁部径(7.2)、器高2.6。B.ロクロ成形。摘み部貼り付け。C.内外面回転ナデ。摘み部回転ナデ。天井部外面回転篋ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一灰白色。F.2/3。H.床面直上。
7	須 恵 器 坏	A.口縁部径(13.4)、底径(8.0)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
8	坏	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、石英。E.内外一淡褐色。F.2/5。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径13.9、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫、雲母。E.内外一褐色。F.1/2。H.覆土中。
10	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
11	坏	A.口縁部径(16.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、雲母、角閃石。E.内外一褐色。F.1/4。H.覆土中。
12	坏	A.口縁部径(14.0)、器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、雲母、石英。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.1/3。G.内面底部に圧痕(布目か組み物)あり。H.覆土中。
13	坏	A.口縁部径13.6。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.1/2。H.覆土中。
14	坏	A.口縁部径13.3、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.4/5。H.覆土中。
15	坏	A.口縁部径13.1、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、褐色粒。E.内外一褐色。F.1/2。H.床面付近。
16	中形直口壺	A.口縁部径(15.0)、底部径(6.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ。D.角閃石、礫。E.外一明赤褐色、内一褐色。F.1/3。H.覆土中。
17	広 口 壺	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部~胴部上位外面ハケの後篋ナデ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
18	高 坏	A.口縁部径(16.2)、器高11.8、脚端部径11.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリの後ミガキ、内面ヨコナデの後下半篋ナデ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面上位ナデの後下半ハケ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.3/4。H.覆土中。
19	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(17.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面篋ナデ。D.黒色粒、褐色粒。E.内外一淡赤褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
20	小形直口壺	A.口縁部径(8.3)、器高7.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面篋ナデ。底部外面ハケの後ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.2/5。H.覆土中。
21	壺	B.粘土組織み上げ。C.外面は櫛歯状工具による横位施文の後、波状紋を施文する。内面は指頭圧痕の後ナデを施す。D.褐色粒、白色粒、石英。E.内外一赤褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
22	壺	B.粘土組織み上げ。C.外面は櫛歯状工具で施文後、その両端を棒状工具による沈線で区画する。その後棒状工具による沈線を施文する。内面は指頭圧痕後ナデを施す。D.黒色粒、褐色粒、石英。E.内外一褐色。F.胴部破片。H.覆土中。



第196图 第145号住居跡出土遺物

23	壺・甕	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面条痕、内面は指頭圧痕の後ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.外一明茶褐色、内一橙褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
24	壺・甕	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面条痕、内面ナデ。D.片岩粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.胴部破片。H.覆土中。
25	鉄製刀子	A.残存長12.5、最大幅1.25、最大厚0.4、重さ13.0g。D.鉄製。F.両端部欠損。H.覆土中。
26	鉄製釘	A.残存長4.0、最大幅0.7、最大厚0.7、重さ3.4g。D.鉄製。F.頭部側欠損。H.覆土中。
27	土 鍾	A.長さ7.2、最大幅1.7、重さ19.4g。C.外面ナデ。D.白色粒、雲母。E.外一黒褐色。F.完形。H.覆土中。

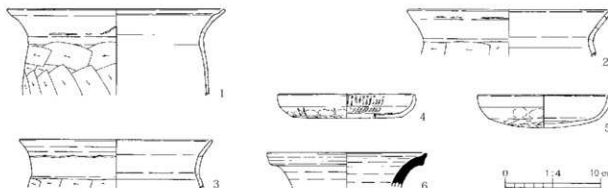
第146号住居跡（第198図、図版29）

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。第331号土坑と重複し、それによって切られている。第8号掘立柱建物跡とも重複しているが、相互の新旧関係は明確ではない。本住居跡の南側半分は、床面下まで削平されており、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が4.08mを測り、南北方向は3.05mと推測される。住居の主軸方位は、N-69°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cmある。各壁下からは、壁溝は見られなかった。ピットは、住居内から全く検出されていない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居西側壁の中央やや南西側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対して直角に付設されている。規模は、全長100cm、最大幅123cmある。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで、大半が壁外にある。燃烧面は、住居の床面よりも一段低く平坦に作られている。袖は、ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色粘土を、住居の壁に貼り付けて構築し、両袖の先端付近にはNo1やNo2の甕を伏せて補強している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

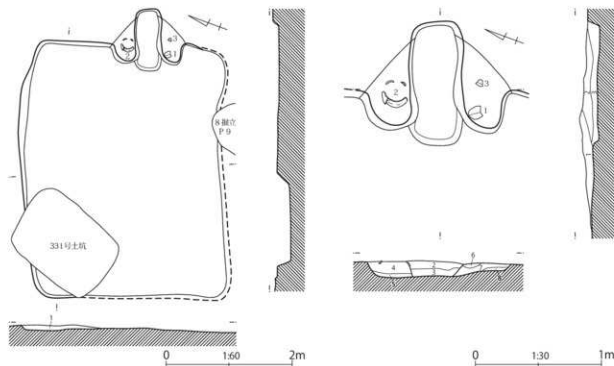
遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、奈良時代（8世紀）後半頃の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）後半頃と考えられる。



第197図 第146号住居跡出土遺物

第93表 第146号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径23.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.カマド袖の補強に転用。H.カマド右袖内。
2	長 胴 甕	A.口縁部径21.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部3/4。G.カマド袖の補強に転用。H.カマド左袖内。



第198図 第146号住居跡

第146号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第146号住居跡カマド土層説明

第1層：黄褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

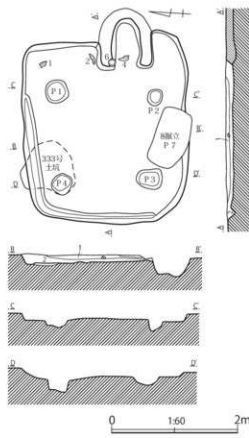
第8層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

3	長割費	A.口縁部径(21.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/6破片。H.カマド内。
4	暗文環	A.口縁部径(14.6)。器高2.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2弱。G.体部内面に放射状暗文の痕跡あり。体部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
5	環	A.口縁部径(14.0)。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗褐色、内一淡茶褐色。F.1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
6	須恵器壺	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ後口ロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/6。G.内外面に降灰による自然輪が掛かる。H.覆土中。

第147号住居跡（第199図、図版29）

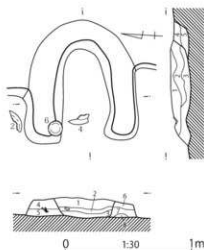
C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。重複する第8号掘立柱建物跡の柱穴に切られ、第333号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈しているが、東側壁はカマドの左右で位置が異なり、



第199図 第147号住居跡

- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（褐色粘質土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：褐色粘質土層（粘質土ブロック。）



第147号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

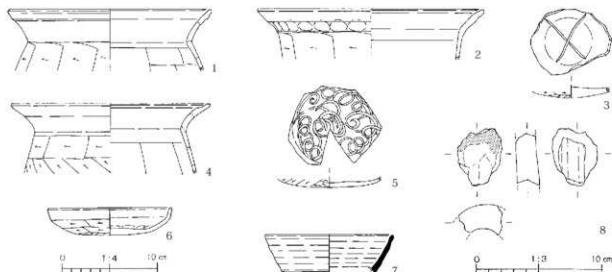
第147号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径1cmの褐色粘質土ブロックを多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

段違いになっている。規模は、東西方向が3.05m、南北方向が2.68mを測る。住居の主軸方位は、N-85°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高14cmある。北側と西側の壁下には、幅10cm～17cm、床面からの深さ4cm程度の壁溝がある。ピットは、4カ所検出されている。P1～P4は、ほぼ住居の対角線上に配置されていることから、本住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴と推測されている。形態は、長さ27cm～47cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは13cm～18cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、住居の壁に対して直角に付設されている。規模は、全長96cm、最大幅91cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、そのほぼ半分は壁外に位置している。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。袖は、暗褐色粘土をカマド掘り方の内側に貼り付けて、燃焼部奥壁まで囲繞させて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内やカマド周辺の床面付近及び覆土中から、奈良時代（8世紀）を主体とする土器の破片が少量出土している。土器以外では、覆土中から羽口の破片が1点出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）と考えられる。



第200図 第147号住居跡出土遺物

第94表 第147号住居跡出土遺物観察表

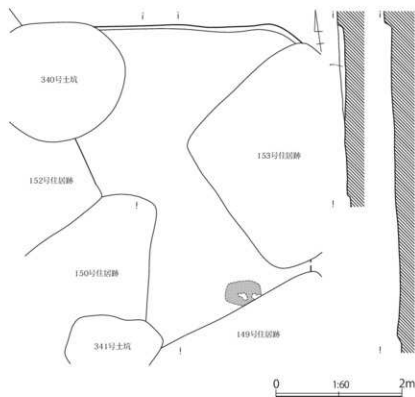
1	長頸甕	A.口縁部径(21.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面詫ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面下半に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
3	鉢	B.粘土組織み上げ。C.底部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡茶褐色。F.底部破片。G.底部内面に焼成前の「×」字状の篋記号あり。H.覆土中。
4	長頸甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面詫ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。H.カマド内。
5	暗文付坏	B.粘土組織み上げ。C.底部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.底部破片。G.底部内面に螺旋状暗文を施す。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径13.0。器高2.8。B.曲げ成形。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.カマド桶上。
7	須恵器坏	A.口縁部径(13.6)。器高(4.2)。底部径(10.0)。B.ロウロ成形。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面回転轆ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/6。G.南比企窯産。H.覆土中。
8	羽口	A.残存長4.5。残側幅3.5。厚さ2.0。B.手握ね。C.内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一淡褐色。F.破片。G.上端は被熱により黒灰色に変色。H.覆土中。

第148号住居跡 (第201図、図版30)

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第149・150・152・153号住居跡や第340・341号土坑に切られている。本住居跡は、床面付近まで強く削平されており、残存しているのは住居跡の北側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居跡の北側壁は、N-91°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは13cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居東側周辺部の床面上には、一部焼土が分布する箇所が見られる。

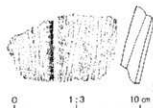
遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期頃と思われる。



第201図 第148号住居跡

第148号住居跡土層説明

第1層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第202図 第148号住居跡
出土遺物第95表 第148号住居跡出土遺物
観察表

1	深鉢	B.粘土組織み上げ。 C.外面地文条線、 隙帯貼り付けによる 懸垂文。内面ナデ。 D.片岩粒、赤色粒、 白色粒。E.外-明黄 茶褐色。F.胴部破 片。G.加曾利EⅢ 期。H.床面上。
---	----	---

第149号住居跡（第203図、図版30）

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第150・160・161・162号住居跡や第341・344号土坑に切られ、第148号住居跡を切っている。

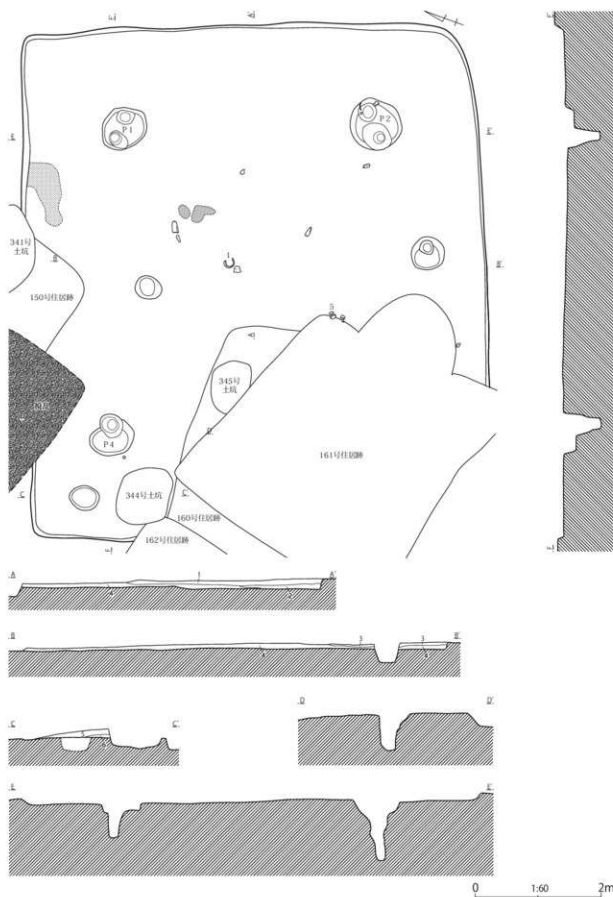
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、南北方向が7.42m、東西方向が8.17mを測る。住居跡の主軸方位は、N-20°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、6カ所検出される。この中で、P1～P3は、住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の一部と考えられる。形態は、長軸75cm～85cmの楕円形を呈し、床面からの深さは55cm～100cmある。これらの主柱穴内には、小ピット状の柱痕が見られる。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

炬は、住居中央部のやや北東側のP1方向に寄った場所に位置する。形態は、床面を若干掘り窪めた地皿形で、底面は部分的に焼けて赤色化している。炬の北側には、長さ20cm程度の棒状の自然石が住居北側壁と平行して置かれており、炬石の可能性もある。

遺物は、住居中央部の床面上や覆土中から、古墳時代前期の土器が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

第96表 第149号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケ。胴部外面ハケの後中位ケズリ。内面下半ナデ。中位箇ナデ。上半箇ナデ。D.白色粒。E.外-暗茶褐色。内-明茶褐色。F.上半1/2。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.床面上。
---	---	--



第203图 第149号住居跡

第149号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・白色粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

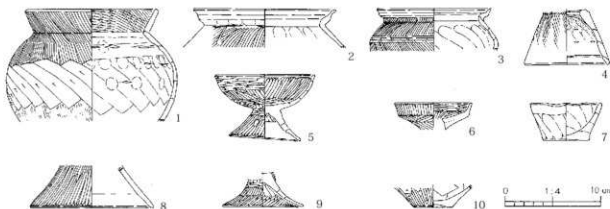
第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・炭化物を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・径0.5cmの炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第204図 第149号住居跡出土遺物

2	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒、小石(長石)。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	S字状口縁小形鉢	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	S字状口縁台付甕	A.台端部径9.0。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部1/2。G.底部内外面に砂を多量含む粘土をナデ付け。H.覆土中。
5	高 杯	A.口縁部径10.6。器高7.0。脚端部径7.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明橙褐色。F.完形。G.脚部穿孔は3ヵ所。H.床面直上。
6	器 台	A.口縁部径(8.2)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.器受部1/4強。H.覆土中。
7	小 形 杯	A.口縁部径(7.6)。器高3.9。底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面指ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
8	高 杯	A.脚端部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面丁寧なナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色、内一暗褐色。F.脚部1/4。H.覆土中。
9	高 杯	A.脚端部径8.6。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後下半ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚部2/3。G.脚部穿孔は4ヵ所。H.覆土中。
10	小 形 鉢	A.底部径4.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後ミガキ内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.底部のみ。H.床面付近。

第150号住居跡（第207図、図版30）

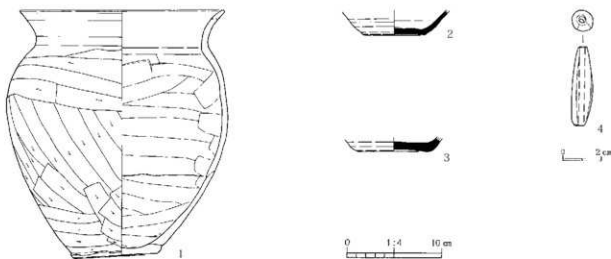
C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第148・149・151・152号住居跡を切り、第342号土坑に切られている。本住居跡は、床面近くまで削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.75m、南北方向が4.05mを測る。住居跡の長軸方位は、N-100°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち

上がり、確認面からの深さは5cm程度ある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、残存する住居跡内からは検出されなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

住居東側壁中央付近の壁際には、楕円形を呈する土坑状の掘り込みと粘土の分布が見られ、これらがカマドの掘り方と崩壊土の可能性が高いのではないと思われる。

遺物は、住居跡の覆土中から、奈良時代末から平安時代前期の土器が出土している。土器以外では、覆土中から土錘が1個と馬の歯が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代末頃と考えられる。



第205図 第150号住居跡出土遺物

第97表 第150号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(21.6)、器高26.3、底部径9.2。B.粘土箱積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、チャート、角閃石。E.外-橙褐色、内-明赤褐色。F.1/3。H.床面直上。
2	須恵器 杯	A.底部径6.6。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.片岩粒、雲母。E.内外-灰白色。F.底部3/4。H.覆土中。
3	須恵器 杯	A.底部径(7.7)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.内外-淡褐色。F.底部1/3。G.還元不良。H.覆土中。
4	土錘	A.長さ4.2、最大幅1.1、重さ4.42g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外-灰褐色。F.完形。H.覆土中。

第151号住居跡 (第207図、図版30)

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第150・152号住居跡に切られている。住居跡の上面は強く削平されており、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.42m、東西方向は1.84mまで測れる。住居跡の西側壁は、N-2°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。住居の北側壁と西側壁の壁下には幅15cm・床面からの深さが8cm程度の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。



第206図 第151号住居跡出土遺物

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代前期と考えられる。

第98表 第151号住居跡出土遺物観察表

1	S字状口縁 台付 費	A.口縁部径(17.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	---------------	--

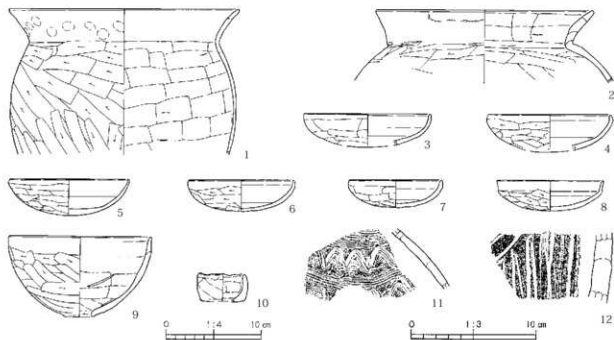
第152号住居跡（第208図、図版30）

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第150号住居跡と第340号土坑に切られ、第148・151号住居跡を切っている。

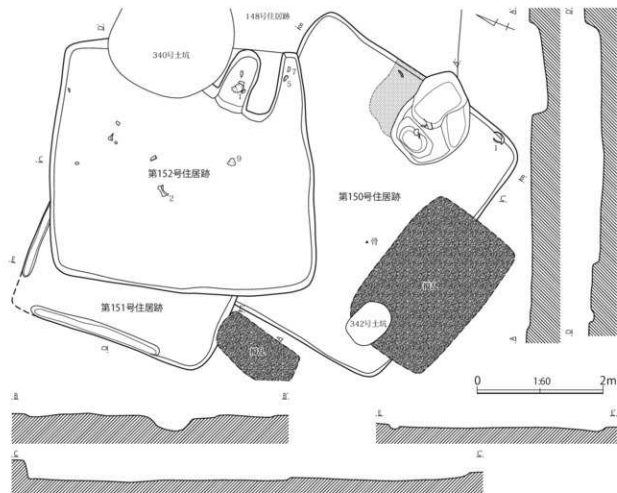
平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.97m、南北方向が4.30mを測る。住居跡の主軸方位は、N-70°-Eを向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長116cm、残存幅120cmある。燃燒部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃燒面は、住居の床面よりも一段低く、ほぼ平坦に作られている。奥壁は、直線的にやや傾斜して煙道部に向かっている。袖は、褐色粘質土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居中央部の床面付近やカマド内から、白鳳時代を主体とする土器が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代と考えられる。



第207図 第152号住居跡出土遺物



第152号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（炭化粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（焼土粒子・径1cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径3cmの焼土ブロック・炭化物・暗褐色土粒子を斑状に微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

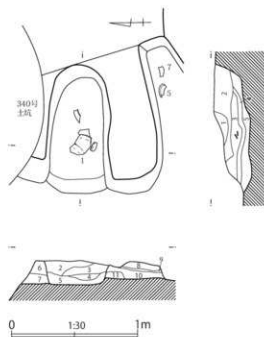
第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：褐色粘質土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色粘質土層（炭化物を帯状に少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：黄褐色土層（径5cmの暗褐色土ブロックを含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第208図 第150・151・152号住居跡

第99表 第152号住居跡出土遺物観察表

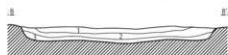
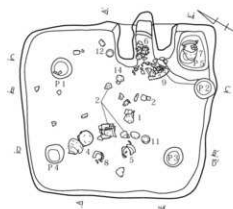
1	長 胴 甕	A.口縁部径(24.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部～胴部上半1/3。G.口縁部外面に指頭瓦痕を残す。H.カマド内。
2	胴 張 甕	A.口縁部径(23.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.片岩粒、石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.床面付近。
3	坏	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中
5	坏	A.口縁部径12.6。器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.床面直上。
6	坏	A.口縁部径(11.2)。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(10.0)。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/3。H.床面付近。
8	模 倣 坏	A.口縁部径(11.4)。器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.外一明褐色、内一黄褐色。F.1/3。H.覆土中。
9	小 形 甕	A.口縁部径(15.2)。器高8.5。底部径(3.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.片岩粒、白色粒、黒色粒、褐色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/4。H.床面付近。
10	小形土器	A.口縁部径(5.0)。器高3.0。底部径(4.8)。B.粘土組織み上げ。C.内外面ナデ。D.石英、白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
11	壺	B.粘土組織み上げ。C.外面は6本歯の櫛歯状工具による横線文の後、区画内に同一工具による波状紋を右回りに施す。内面ナデ。D.白色粒、褐色粒、黒色粒。E.外一黄褐色、内一暗灰黄色。F.胴部破片。H.覆土中。
12	深 鉢	B.粘土組織み上げ。C.外面は弧状の隆帯貼付後、覆位の条線・棒状工具による沈線を施文する。隆帯脇には棒状工具によるナデを施す。内面ナデ。D.片岩粒、チャート、褐色粒。E.外一明赤褐色、内一淡黄褐色。F.胴部破片。G.縄文時代中期後半。H.覆土中。

第153号住居跡 (第209図、図版31)

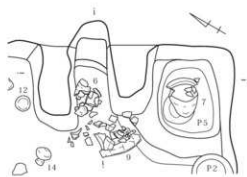
C3地点の調査区西側の中央東寄りに位置する。第148号住居跡と重複し、それによって切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が2.80m、南北方向が3.16mを測る。住居跡の主軸方位は、N-58° - Eを向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、5カ所検出されている。P1・P3・P4は、住居の対角線付近に位置することから、住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の一部と思われる。形態は、径30cm～35cmの円形を呈し、床面からの深さは15cm～20cmある。P2は、住居南側壁を切っており、本住居跡に伴うものか明確ではない。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。形態は、65cm×50cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは26cmある。このP5の上面からは、No7の長胴甕が半分落ち込んだような状態で出土している。P5の西側には、カマド右袖の先端から南側壁にかけて、幅25cm～30cmの土堤が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長90cm、残存幅106cmある。燃焼部は、住居の壁を30cm程度掘り込んでいるが、その大半は住居内にある。壁面は、あまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面よりも低く、奥壁に向かって傾斜しているが、中ほどで段をもって立ち上がっている。燃焼部内からは、No6の長胴甕が1個体



0 1:50 2m



0 1:30 1m

第209図 第153号住居跡



第153号住居跡土層説明

第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径0.5cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第8層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第153号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

第1層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（炭化粒子を多量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（焼土粒子・黄褐色粘質土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・黄褐色粘質土粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（黄褐色粘質土粒子を多量、焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

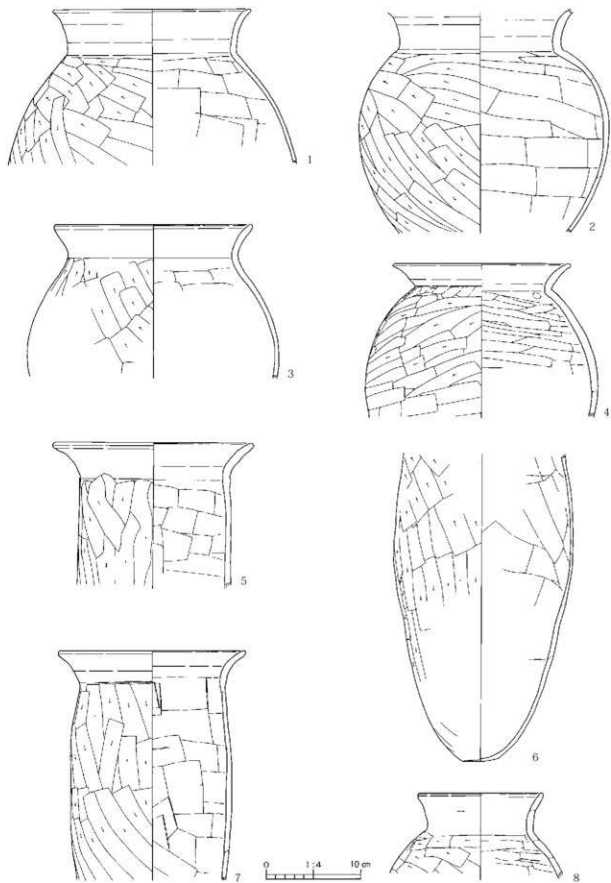
- 第8層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物・径1cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物・黄褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子・径1cmの黄褐色粘質土粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

出土しているが、甕の掛け方は不明である。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックを含む褐色粘質土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

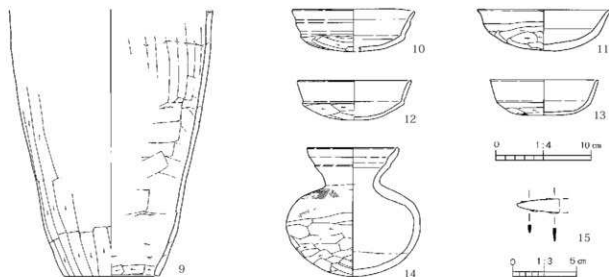
遺物は、カマド内やカマド焚口付近と貯蔵穴内、及び住居中央部の床面付近から覆土中より、古墳時代後期後葉頃を主体とする土器が多く出土している。これらの土器の中で、No4とNo14の土器は、他の土器よりも時期が古い5世紀代のものであることから、混入品と考えられる。また、住居中央部の床面上から覆土中にかけて見られる土器群は、その出土状態から見て、おそらく本住居跡で使用されていたものではなく、住居の廃絶とさほど時間差なく周辺から投げ込まれて遺棄されたものではないかと思われる。土器以外では、覆土中からNo15の鉄製刀子の破片が1片出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉頃と考えられる。

第100表 第153号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径21.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母、礫。E.外一黄褐色、内一褐色。F.口縁部1/3。H.床面付近。
2	胴張甕	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.白色粒、赤色粒、礫。E.外一明黄褐色、内一淡褐色。F.3/4（口縁部欠損）。H.床面付近。
3	胴張甕	A.口縁部径21.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.黒色粒、白色粒、角四石、礫。E.内外一褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	胴張甕	A.口縁部径18.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.雲母、白色粒。E.外一淡赤褐色、内一淡褐色。C.内面に指頭圧痕を残す。F.口縁部3/5。G.混入品の可能性が高い。H.床面付近。
5	長胴甕	A.口縁部径21.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.角四石、褐色粒。E.外一淡褐色、内一淡黄褐色。F.口縁部2/3。H.覆土中。
6	長胴甕	A.底部径3.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。底部内外面窪ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角四石、礫。E.外一明赤褐色、内一淡褐色。F.胴部一底部2/3。H.カマド内。
7	長胴甕	A.口縁部径19.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.白色粒、角四石。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部～胴部中位5/6。H.貯蔵穴P5内。
8	小形甕	A.口縁部径13.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一褐色。F.口縁部～胴部中位2/3。H.覆土中。
9	大形甕	A.底部径10.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。下部部ケズリ。D.白色粒、赤色粒、黒色粒、石英、角四石。E.外一褐色、内一淡褐色。F.胴部上位～底部1/4。H.床面付近。
10	有段口縁杯	A.口縁部径13.0。器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角四石、石英、礫。E.内外一褐色。F.3/4。H.カマド内。
11	模倣杯	A.口縁部径14.0。器高4.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
12	模倣杯	A.口縁部径11.8。器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一褐色。F.充形。H.床面直上。
13	模倣杯	A.口縁部径11.3。器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒、赤色粒、礫。E.内外一褐色。F.2/5。H.覆土中。
14	中形直口甕	A.口縁部径19.8。器高13.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。外面、胴部上半ハケの後上半ナデ・下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、黒色粒、石英。E.内外一明赤褐色。F.口唇部1/3欠損。G.混入品の可能性が高い。H.床面付近。
15	鉄製刀子	A.残存長3.35、最大幅1.1、最大厚0.2、重さ3.2g。B.鍛造。D.鉄製。F.刃部先端部残存。H.覆土中。



第210图 第153号住居跡出土遺物(1)



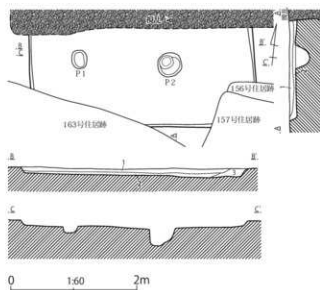
第211図 第153号住居跡出土遺物(2)

第154号住居跡(第212図、図版31)

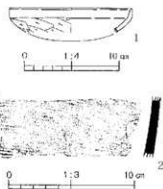
C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。第156・157・163号住居跡と重複し、それらによって切られている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈しているが、東側壁はカマドの左右で位置が異なり段違いになっている。規模は、東西方向が3.72m、南北方向は1.61mまで測れる。住居の東西壁は、N-85°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高13cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、2カ所検出されている。P1~P2は、その位置から住居の上屋を支える4本主柱を構成する柱穴の可能性も考えられる。形態は、長さ30cm~38cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは10cm~25cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。



第212図 第154号住居跡



第213図 第154号住居跡出土遺物

本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代末頃と考えられる。

第154号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第101表 第154号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	須 惠 器 費	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一淡灰色。F.胴部破片。H.覆土中。

第155号住居跡（第216図、図版31）

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。第156・158号住居跡と重複し、それらによって切られている。住居跡の北側は攪乱によって削平されており、残存しているのは住居の西側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居の西側壁は、N-22°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは14cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代前期と平安時代前期の土器の破片が少量混在して出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係から、古墳時代前期と思われる。



第214図 第155号住居跡出土遺物

第102表 第155号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A.口縁部径(20.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.坏部1/4。H.覆土中。
2	器 台	A.口縁部径(8.0)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ヨコナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.上半1/4。G.脚部穿孔(焼成前は推定4カ所)。H.覆土中。

第156号住居跡（第218図、図版31）

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。重複する第157・158号住居跡に切れ、第154・155号住居跡を切っている。残存しているのは、住居の北側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向は3.70mまで、南北方向は43cmまで測れる。住居の北側壁は、N-90°-Eの方向を向いている。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度ある。残存する北壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面の構造は不明であるが、平坦に作られているようである。

遺物は、住居跡の覆土中から奈良時代～平安時代の土器の小破片が数片出土しただけであり、図示

できるようなものはなかった。本住居跡の時期は、不明である。

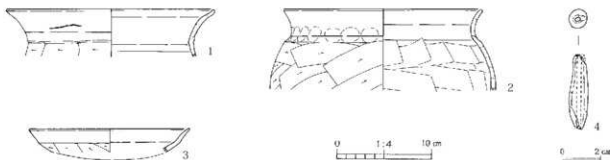
第157号住居跡（第218図、図版31）

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。重複する第158・159号住居跡や第371号土坑に切られ、第154・156号住居跡を切っている。住居跡の大半を攪乱によって削平されており、残存しているのは住居跡の北側壁と西側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は4.10mまで、東西方向は3.40mまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-6°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居北側壁に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長108cm、最大幅82cmある。燃焼部は、住居の壁を40cmほど掘り込んでおり、その半分程度は住居の壁外にある。壁面は、部分的に焼けて赤色化している。燃焼面は、住居の床面よりも一段低く皿状になっている。奥壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色土をカマド掘り方の壁面に貼り付け、焚口から奥壁まで廻して構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

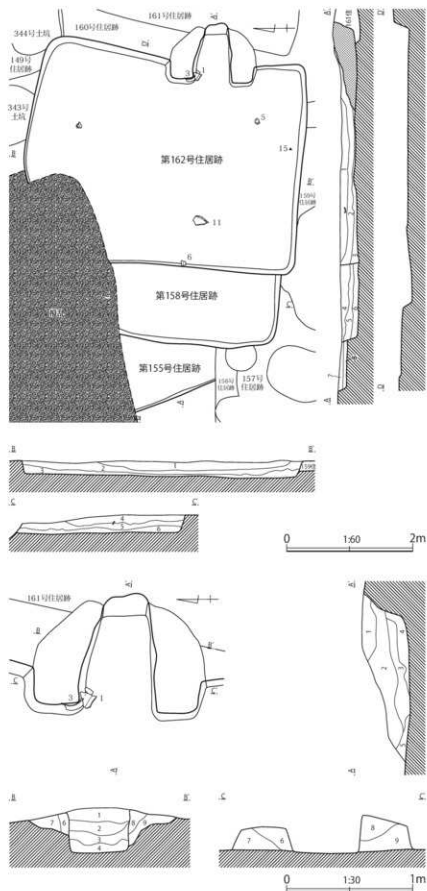
遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土している。土器以外では、覆土中から土錘が1点出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代末～（7世紀末頃）と考えられる。



第215図 第157号住居跡出土遺物

第103表 第157号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一黒褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	胴 張 甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土粗積み上げ。C.器受部内外面ヨコナデ。脚部外面ケズリ、内面覆ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。G.頸部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	皿	A.口縁部径(17.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
4	土 錘	A.長さ4.0、最大径1.0、重さ4.2g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。



第216図 第155・158・162号住居跡

第162号住居跡カマド土層説明

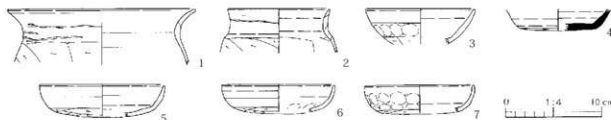
- 第1層：暗褐色粘質土層（褐色粘質土粒子を少量、焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色粘質土層（焼土粒子・白色粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物・黄褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色粘質土層（径3cmの焼土ブロック・炭化粒子を少量、焼土粒子・褐色粘質土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色粘質土層（径5cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：淡赤褐色粘土層（径5cmの焼土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：灰黄褐色粘土層（暗褐色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（径3cmの焼土ブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：灰黄褐色粘土層（径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第158号住居跡（第216図、図版32）

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。重複する第162号住居跡に切られ、第155～157号住居跡を切っている。住居跡の北側は攪乱によって削平されており、残存しているのは住居の西側壁と南側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居の西側壁は、N-4°-Wの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式のようなものである。残存する部分が壁際だけであるため、全体にやや軟弱である。

遺物は、住居跡の覆土中から、奈良時代末頃の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代末頃と考えられる。



第217図 第158号住居跡出土遺物

第104表 第158号住居跡出土遺物観察表

1	長頸甕	A.口縁部径(19.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
2	小形台付甕	A.口縁部径10.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部2/3。G.胴部外面に煤付着。H.覆土中。
3	杯	A.口縁部径(11.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	須恵器杯	A.底部径(8.0)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転笠ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一灰色。F.底部1/4。G.南比企産。H.覆土中。
5	杯	A.口縁部径(13.2)。残存高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	杯	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
7	杯	A.口縁部径(11.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。

第159号住居跡（第218図、図版32）

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。第157・158・162号住居跡と重複し、それらに切られている。住居跡の西側は、攪乱によって削平されているため、遺構の全容は不明である。

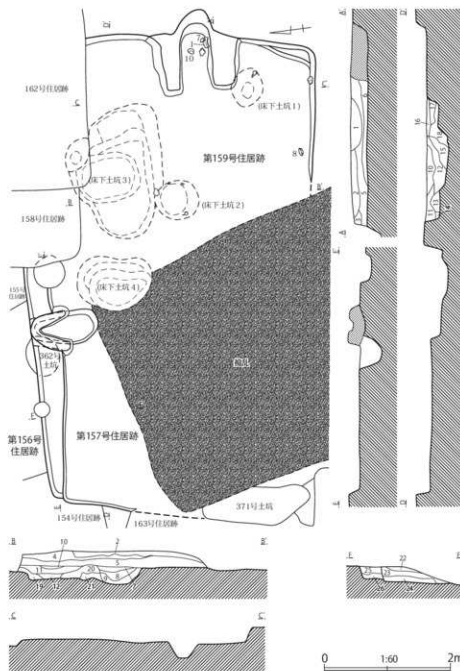
平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向は3.80mまで、南北方向は3.72mまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-99°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居中央部や壁際の床下から、床下土坑が4カ所検出されている。これらの床下土坑は、やや大きなロームブロックを均一に含む暗褐色土で埋められており、埋土中から土師器や須恵器の破片が少量出土している。

カマドは、住居東側壁に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長135cm、最大幅155cmある。燃焼部は、住居の壁を35cm程度掘り込んでいるが、その大半は住居内にある。壁面は、よく焼けて赤色化している。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁に向かって若干傾斜している。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かって傾斜している。袖は、褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘質土を、燃焼部奥壁から廻して構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、カマドや床下土坑内及び住居跡の覆土中から、平安時代を主体とする土器が多く出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代前期（9世紀）後半頃と考えられる。

第105表 第159号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径19.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/2。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(20.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床下土坑内。
3	甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.上半1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
4	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.胴部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	甕	A.底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一暗茶褐色。F.底部のみ。H.カマド内。
6	甕	A.底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明橙茶褐色。F.底部のみ。H.床下土坑内。
7	坏	A.口縁部径(12.8)。器高3.3。底部径(7.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。
8	坏	A.口縁部径12.2。器高3.2。底部径8.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2。G.口縁部内外面に煤付着。体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径(11.6)。器高3.2。底部径(7.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2強。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	坏	A.口縁部径(12.4)。器高3.0。底部径(8.7)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.カマド内。



第218図 第156・157・159号住居跡

第6層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロックを少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：黒褐色土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第8層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：黒褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径10cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を不規則に多量、炭化物を少量含む。）

第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。）

第12層：暗褐色土層（焼土粒子・径0.5~1.5cmの炭化物を多量含む。）

第13層：黄褐色土層（径0.5~2cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を斑状に含む。）

第14層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）

第156・157・159号住居跡

土層説明

第1層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

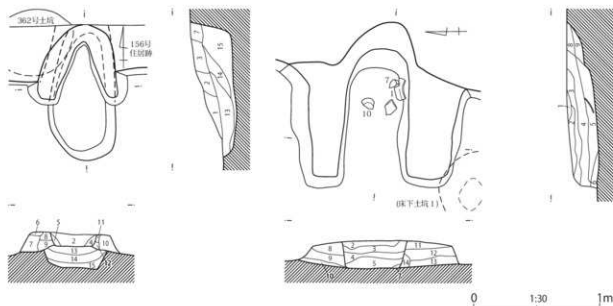
第2層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・径0.5cmの炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・径0.5cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

- 第15層：暗褐色土層（ロームを均一に、焼土粒子を多量含む。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。）
 第17層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第18層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。焼土粒子を少量含む。）
 第19層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第20層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第21層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第24層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第25層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第26層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第219図 第157・159号住居跡カマド

第157号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色粘土層（暗褐色土を少量、径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土ブロックを少量、炭化物・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色粘土層（径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、径5cmの焼土ブロック・炭化物・暗褐色土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、黄褐色粘土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：黄褐色粘土層（焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmの黄褐色粘土ブロック・径3cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（径3cmの焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色土層（焼土粒子・径1cmの褐色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色土層（焼土粒子・褐色粘質土粒子を少量、径1cmの褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第14層：暗褐色土層（径3～5cmの焼土ブロックを少量、径1cmの褐色粘質土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第15層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第159号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を少量、径3cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色粘質土層（ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを少量、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黄褐色粘質土層（焼土粒子・暗褐色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色粘質土層（炭化物を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：黒褐色粘質土層（炭化粒子を多量、焼土粒子・暗褐色粘質土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第8層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、暗褐色土・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）

第9層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、暗褐色土・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを多量、炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

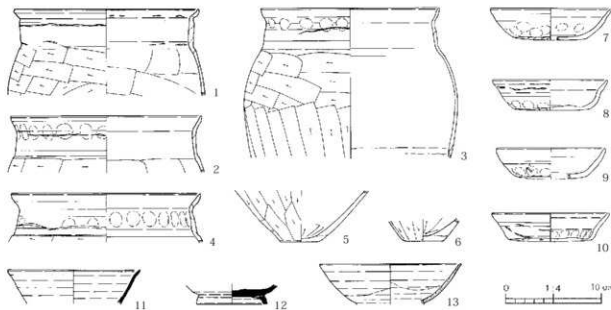
第10層：暗褐色土層（ローム・炭化物の混合土。しまりを有する。）

第11層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、暗褐色土・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）

第12層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、暗褐色土・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを多量、炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（ローム・炭化物を含む。しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）



第220図 第159号住居跡出土遺物

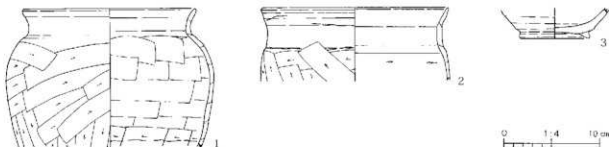
11	須恵器 埴	A.口縁部径(14.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/6。H.床下土坑内。
12	須恵器 高台付埴	A.高台部径(7.4)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.高台部1/2。H.床面付近。
13	灰輪陶器 埴	A.口縁部径(15.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデの後施軸。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/6。G.施軸は漬け塗り。H.覆土中。

第160号住居跡（第222図、図版33）

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第161・162号住居跡や第345号土坑に切られ、第149号住居跡や第350号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.70m、南北方向が4.82mを測る。住居跡の南側壁は、 $N-94^{\circ}-E$ の方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代から平安時代の土器の破片が出土している。図示できたのは、いずれも平安時代のものであるが、これらは住居跡絶後の覆土中への土坑等の掘り込みに紛れて混入したものと推測される。本住居跡の時期は、奈良時代（8世紀）後半の第161号住居跡に切られていることから、それ以前と考えられる。



第221図 第160号住居跡出土遺物

第106表 第160号住居跡出土遺物観察表

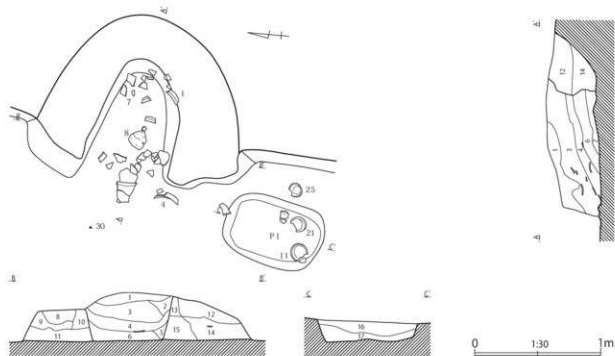
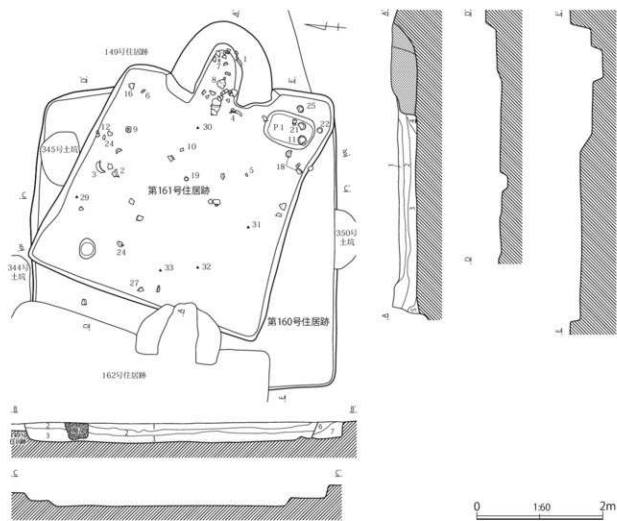
1	甕	A.口縁部径(18.4)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデの後中位ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡黄褐色、内一淡褐色。F.上半1/4。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	高台付壇	A.高台部径7.4。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.高台部のみ。G.酸化焙焼成。H.覆土中。

第161号住居跡（第222図、図版33）

C3地点の調査区西側の中央付近に位置する。重複する第162号住居跡と第345号土坑に切られ、第149・160号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈しているが、平行四辺形状にやや歪んでいる。規模は、南東～北西方向が3.98m、北東～南西方向が3.86mを測る。住居跡の主軸方位は、 $N-104^{\circ}-E$ をむいている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは2カ所検出されている。この中のP1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。形態は、78cm×53cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは18cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

カマドは、住居南東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長



第222图 第160·161号住居跡

第160・161号住居跡土層説明

- 第1層：褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・白色粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを少量、焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒子・径1cmの灰黄褐色粘土ブロック・灰黄褐色粘土粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：黒褐色土層（炭化粒子を多量、焼土粒子を少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第161号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

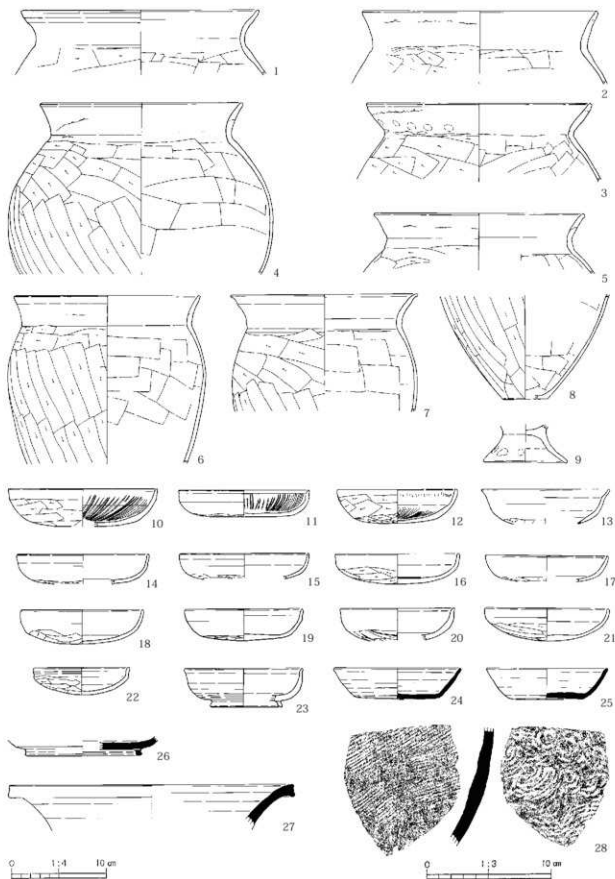
- 第1層：暗褐色砂質土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（黄褐色粘土粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色粘土層（暗褐色土粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを多量、径5cmの焼土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（黄褐色粘土粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（焼土粒子・黄褐色粘土粒子を径1cmの塊状に少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。径0.5～1.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
- 第11層：黄褐色土層（ロームを主体に、焼土粒子・暗褐色土を塊状に含む。しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロックを微量含む。しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。径0.5～1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第15層：黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、暗褐色土を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第17層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

133cm、最大幅182cmある。燃焼部は、住居の壁を1m程度掘り込んで、その大半は住居壁外にある。壁面は、比較的良く焼けて赤色化している。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで、平坦に作られている。奥壁は、垂直直みに立ち上がり、煙道部に向かっている。袖は、灰黄褐色粘土を含む暗褐色土を奥壁から廻して構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

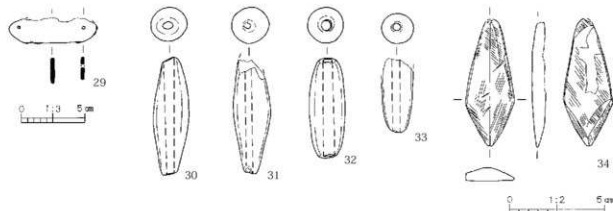
遺物は、カマド内や住居周辺部の床面付近から、土器が多く出土している。土器以外では、土錘が4個と鉄製品が1個出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）後半頃と考えられる。

第107表 第161号住居跡出土遺物観察表

1	胴張費	A.口縁部径(25.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.角四石、チャート、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/8。H.カマド内。
2	胴張費	A.口縁部径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、雲母、角四石。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/6。H.床面付近。



第223图 第161号住居跡出土遺物(1)



第224図 第161号住居跡出土遺物(2)

3	胴張甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
4	胴張甕	A.口縁部径(21.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母、角閃石、礫。E.外一淡赤褐色、内一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.床面付近
5	胴張甕	A.口縁部径(22.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	長胴甕	A.口縁部径19.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.外一淡赤褐色、内一明赤褐色。F.口縁部1/5。H.床面付近。
7	長胴甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/5。H.カマド内。
8	長胴甕	A.底部径(4.6)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、雲母、礫。E.内外一明赤褐色。F.胴部下半1/4。H.カマド内。
9	小形台付甕	A.台端部径8.9。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.台部のみ。G.台部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	暗文環	A.口縁部径(15.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
11	暗文環	A.口縁部径(14.0)。器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.雲母、礫。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H. P 1貯蔵穴上面。
12	暗文環	A.口縁部径12.8。器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデの後放射状暗文を施す。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
13	環	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
14	環	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
15	環	A.口縁部径13.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
16	環	A.口縁部径13.3。器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
17	環	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一橙褐色。F.1/6。H.覆土中。
18	環	A.口縁部径13.0。器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一明赤褐色。F.7/8。H.床面付近。
19	環	A.口縁部径12.6。器高3.2。底部径9.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.2/3。H.覆土中。
20	環	A.口縁部径12.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.雲母、褐色粒。E.内外一淡赤褐色。F.1/5。H.覆土中。
21	環	A.口縁部径13.2。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H. P 1貯蔵穴上面。
22	環	A.口縁部径10.2。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、石英。E.内外一橙褐色。F.完形。H.床面直上。
23	高台付環	A.口縁部径(12.6)。器高4.1。高台部径(7.7)。B.ロケウ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一明赤褐色。F.2/6。H.覆土中。

24	須恵器 坏	A.口縁部径(13.6)、器高3.2、底部径7.9。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転置ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一灰色。F.3/5。H.床面直上。
25	須恵器 坏	A.口縁部径12.8、器高3.3、底部径7.7。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。底部回転糸切りの後、外周回転置ケズリ。D.白色粒、海綿骨針、礫。E.外一灰色、内一黄灰色。F.ほぼ完形。G.南北企壺造。H.覆土中。
26	須恵器 高台付坏	A.高台部径(12.4)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一灰黄色。F.高台部1/8。H.覆土中。
27	須恵器	A.口縁部径(30.2)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.礫、白色粒。E.外一褐灰色、内一黄灰色。F.口縁部破片。H.床面付近。
28	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面で道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外一灰黄色、内一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
29	火打金	A.長さ7.0、残存幅2.1、残存厚2.0、重さ12.5g。B.鍛造。D.鉄製。F.一部欠損。H.覆土中。
30	土 鉢	A.長さ6.2、最大幅1.8、重さ19.0g。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一淡橙褐色。F.完形。H.覆土中。
31	土 鉢	A.長さ6.0、最大幅2.0、重さ19.0g。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.外一黒褐色。F.4/5。H.覆土中。
32	土 鉢	A.長さ5.25、最大幅1.9、重さ15.8g。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一ふい橙褐色。F.完形。H.覆土中。
33	土 鉢	A.残存長3.9、残存幅1.7、重さ9.2g。C.外面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一赤褐色。F.2/3。H.覆土中。
34	石製模造品	A.長さ6.75、最大幅2.6、最大厚0.7、重さ15.6g。C.表裏面とも丁寧な研磨。D.蛇紋岩。F.ほぼ完形。G.剣形。H.覆土中。

第162号住居跡 (第216図、図版33)

C3地点の調査区西側の中央西寄りに位置する。重複する第149・158・159・160・161号住居跡や第343・344号土坑を切っている。住居跡の北西側コーナー部は、掘乱によって削平されている。

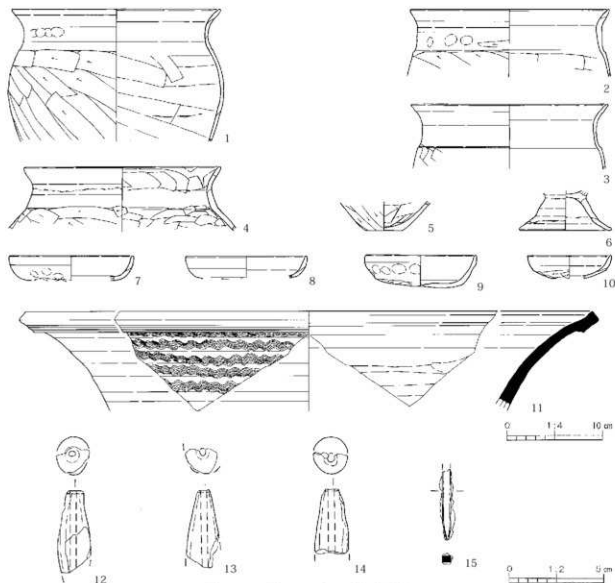
平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、東側壁はやや歪んでいる。規模は、東西方向が3.40m、南北方向が4.45mを測る。住居跡の主軸方位は、N-94°-Eをむいている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長95cm、最大幅147cmある。燃焼部は、住居の壁を75cm程度掘り込んで、その大半が住居外にある。壁面は、よく焼けて赤色化している。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、緩やかに傾斜して立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、灰黄褐色粘土を奥壁近くから廻して構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、平安時代前期と考えられる。

第108表 第162号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(22.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、角閃石、赤色粒、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/5。G.口縁部外面に指頭瓦痕を残す。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(21.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、金雲母、片岩粒、黒色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭瓦痕を残す。H.覆土中。
3	甕	A.口縁部径(20.9)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後笠ナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、雲母、角閃石、赤色粒、白色粒。E.外一淡赤褐色、内一橙褐色。F.口縁部1/4。H.カマド左袖内。
4	甕	A.口縁部径(20.9)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.カマド内。
5	甕	A.底部径3.9。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一橙褐色、内一明赤褐色。F.底部のみ。H.覆土中。



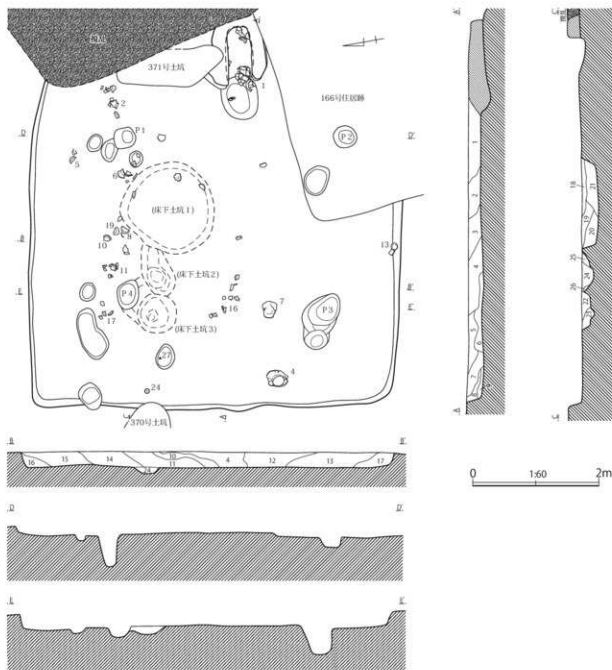
第225図 第162号住居跡出土遺物

6	小形台付甕	A. 台端部径(9.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 台部内外面ヨコナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒。E. 外一橙褐色、内一明赤褐色。F. 台部1/2。H. 覆土中。
7	環	A. 口縁部径(13.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部片。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
8	環	A. 口縁部径(12.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙褐色。F. 口縁部片。H. 覆土中。
9	環	A. 口縁部径(11.9)。器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D. 石英、赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/3。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
10	環	A. 口縁部径(8.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 石英、赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
11	須恵器 大 甕	A. 粘土組織み上げ後叩き。B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 口縁部外面回転ナデの後櫛描波状文、内面回転ナデ。D. 石英、チャート、白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
12	土 鍬	A. 残存長4.3、残存幅1.7、重さ6.49g。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一淡褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
13	土 鍬	A. 残存長4.1、残存幅1.7、重さ6.67g。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 石英、赤色粒、黒色粒。E. 外一灰黄褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
14	土 鍬	A. 残存長3.4、残存幅2.8、重さ6.22g。B. 手握ね。C. 外面ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一黒褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
15	鉄 製 釘	A. 残存長56、基部幅0.6、厚さ0.5、重さ7.61g。B. 鍛造。C. 断面は四角形。D. 鉄製。F. 基部先端。H. 覆土中。

第163号住居跡（第226図、図版34）

C3地点の調査区西側の南西寄りに位置する。重複する第166号住居跡や第370・371号土坑に切られている。住居跡の北西側コーナー部は、攪乱によって削平されている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が6.00m、東西方向は6.30mまで測れる。住居跡の主軸方位は、N-98°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは25cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、住居跡内から多く検出されている。この中のP1~P4は、住居の+各線付近に位置することから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴と推測され



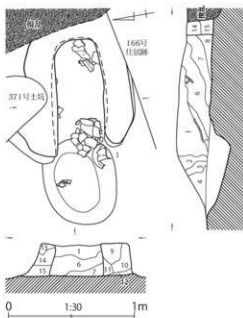
第226図 第163号住居跡

第163号住居跡土層説明

- 第1層：褐色土層（褐色粘質土を主体に、ローム粒子・焼土粒子・暗褐色土ブロックを含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・径0.5～2cmの褐色粘質土ブロックを斑状に多量、炭化物を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。径0.5～3cmのロームブロックを多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第10層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量に斑状に含む。しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。しまりを有する。）
- 第16層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。しまりを有する。）
- 第17層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第18層：灰黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第19層：灰黄褐色土層（灰白色粘質土を多量、焼土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第20層：灰黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・黄褐色ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第21層：灰黄褐色土層（灰黄色粘質土を主体に、灰黄褐色土・径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第22層：灰黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第23層：灰黄褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmの粘質土ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第24層：灰黄褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第25層：灰黄褐色土層（黄褐色ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第26層：灰黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第163号住居跡カマド土層説明

- 第1層：灰黄褐色粘質土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）
- 第3層：灰黄褐色粘質土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物・白色粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）
- 第5層：灰黄褐色粘質土層（焼土ブロックを多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。しまりを有する。）
- 第6層：灰黄褐色粘質土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を少量含む。しまりを有する。）
- 第7層：灰黄褐色粘質土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、暗褐色土を少量含む。しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、灰黄褐色粘質土を斑状に少量含む。しまりを有する。）
- 第9層：赤褐色土層（径0.5～3cmの赤褐色焼土ブロックを主体に、灰黄褐色粘質土を含む。しまりを有する。）
- 第10層：灰黄褐色粘質土層（暗褐色土を部分的に含む。しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。径0.5～1cmの焼土ブロックを含む。しまりを有する。）



第227図 第163号住居跡カマド

第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、灰黄褐色粘質土を少量含む。しまりを有する。）

第15層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）

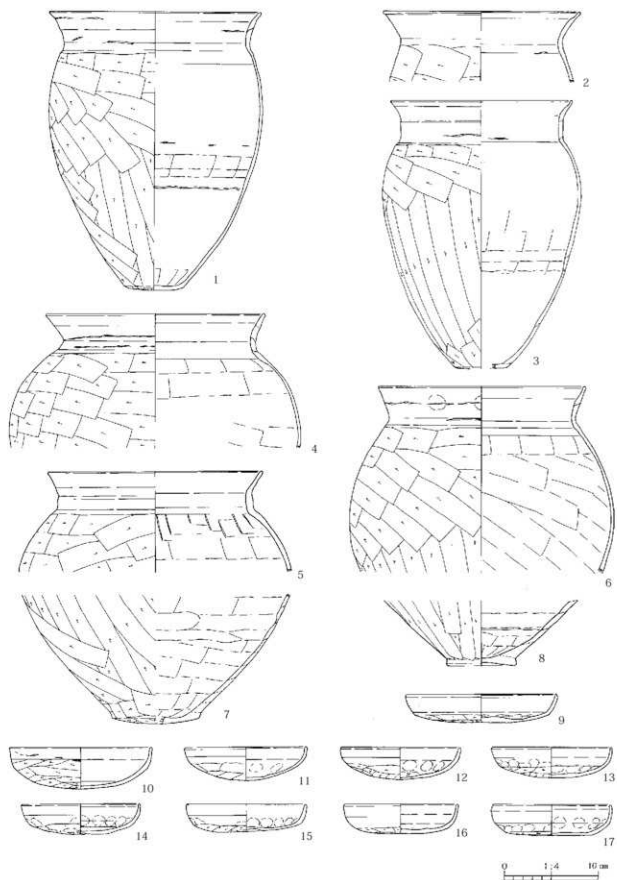
る。形態は、径37cmの円形～長軸75cmの楕円形を呈し、床面からの深さは24cm～53cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されていると思われる。規模は、残存長115cm、残存幅90cmある。燃焼部は、住居の壁をいくらか掘り込んだ形態と思われる。壁面は、焼けて部分的に赤色化している。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで平坦に作られている。奥壁は、垂直気味に立ち上がって煙道部に向かっている。袖は、ロームブロックや灰黄褐色粘土含む暗褐色土を奥壁から廻して構築している。

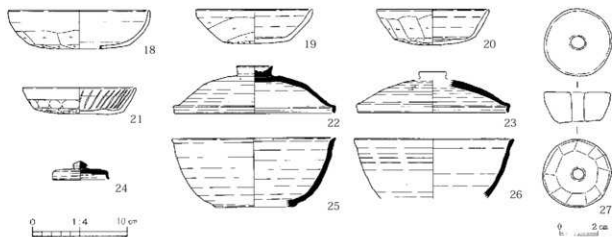
遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、奈良時代（8世紀）～平安時代前期（9世紀）初頭頃の土器が、混在して多く出土している。土器以外では、土製紡錘車(No27)と鉄滓が1点ずつ覆土中から出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）後半頃と考えられる。

第109表 第163号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径22.4、器高29.5、底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.カマド内。
2	長 胴 甕	A.口縁部径21.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/2強。H.覆土中。
3	長 胴 甕	A.口縁部径19.8、器高28.4、底部径(5.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明茶褐色。F.1/4。H.カマド内。
4	胴 張 甕	A.口縁部径23.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.上半3/4。H.床面付近。
5	胴 張 甕	A.口縁部径(22.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/3強。H.覆土中。
6	胴 張 甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.上半1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
7	胴 張 甕	A.底部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一赤茶褐色。F.下半1/2。H.覆土中。
8	胴 張 甕	A.底部径7.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.下半1/3。H.床面付近。
9	皿	A.口縁部径(16.2)、器高3.0、底部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。G.底部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	杯	A.口縁部径(15.0)、器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/4強。H.覆土中。
11	杯	A.口縁部径(13.0)、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
12	杯	A.口縁部径12.8、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
13	杯	A.口縁部径12.8、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
14	杯	A.口縁部径12.6、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.2/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。



第228图 第163号住居跡出土遺物(1)



第229図 第163号住居跡出土遺物(2)

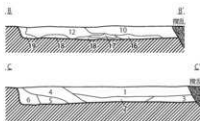
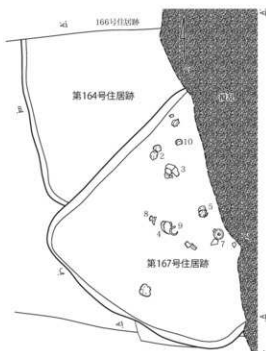
15	坏	A.口縁部径12.8、器高3.0、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
16	坏	A.口縁部径12.2、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径(12.6)、器高3.3、底部径9.8、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2弱。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
18	坏	A.口縁部径(15.0)、器高4.1、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
19	坏	A.口縁部径12.4、器高3.6、底部径7.2、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.床面付近。
20	坏	A.口縁部径12.0、器高3.8、底部径8.5、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
21	暗文坏	A.口縁部径12.0、器高2.8、底部径9.1、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
22	須恵器蓋	A.口縁部径(17.0)、器高5.0、B.ロクロ成形。握み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、握み部外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.1/3。H.覆土中。
23	須恵器蓋	A.口縁部径(16.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
24	須恵器蓋	A.口縁部径6.0、器高2.0、B.ロクロ成形。握み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、握み部外面回転ナデ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.完形。G.南北企堂産。H.床面付近。
25	須恵器埴	A.口縁部径(17.4)、器高7.3、底部径8.6、B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D.白色針状、白色粒。E.内外一淡灰色。F.1/4。G.南北企堂産。H.覆土中。
26	須恵器埴	A.口縁部径(17.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
27	土製紡錘車	A.上面径5.4、板面径3.4、高さ2.5、重さ80.0g。B.手握ね。C.上下面及び側面ともケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.茶褐色。F.完形。H.ビット内。

第164号住居跡(第230図、図版34)

C3地点の調査区西側の南西寄りに位置する。第166・167号住居跡と重複し、それらによって住居跡の北側と南側を切られている。住居跡の東側は、攪乱によって切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は2.77mまで、東西方向は2.58mまで測れる。住居跡の西側壁は、N-

8°—Wの方向を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。住居跡の残存する部分からは、ビット・炉・カマドなどの住居内施設は、まったく検出されていない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色



0 1.50 2m

- 第16層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第17層：灰黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを主体に、暗褐色土を含む。）
 第18層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）
 第19層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。径0.5～2cmのロームブロックを含む。）

第230図 第164・167号住居跡

土を平坦に埋め戻した貼床式のように、全体的にやや軟弱である。

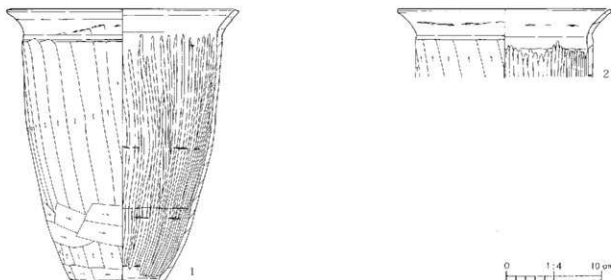
遺物は、住居跡の覆土中から古墳時代前期～後期の土器の破片が少量出土している。また、出土状態はよく分からないが、No 1の完形に近い大形甕が出土している。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土物の様相から、古墳時代後期（6世紀）後半頃と考えられる。

第110表 第164号住居跡出土遺物観察表

1	大形甕	A.口縁部径24.6、器高28.8、底部径10.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデの後難なミガキ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外—淡茶褐色、内—茶褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
---	-----	---

- 第164・167号住居跡土層説明
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量、浅間山系A軽石を上層に含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径4cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、径1.5cmのロームブロックを上層に含む。粘性・しまりともない。）
 第11層：黄褐色土層（暗褐色土・白色粘質土の混合土。径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を少量含む。粘性・しまりともない。）
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロックを不規則に少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

2	大形甕	A.口縁部径(22.6)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後縁なミガキ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外—淡茶褐色、内—淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	-----	--



第231図 第164号住居跡出土遺物

第165号住居跡 (第232図、図版34)

C3地点の調査区西側の西端に位置する。重複する第364～369号土坑に切られ、第163号住居跡を切っている。住居跡の西側は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

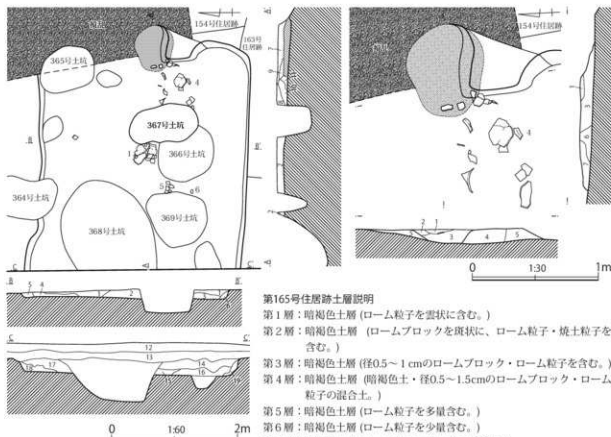
平面形は、残存する部分から推測するとコーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.40m、東西方向は3.55mまで測れる。住居跡の主軸方位は、 $N-92^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。残存する壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的硬く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央付近に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、残存長が57cm、残存幅が115cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、その半分は住居壁外にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居床面よりも若干低く平坦に作られている。袖は、ロームブロックを主体とする暗黄褐色粘土を住居の壁を斜めに掘り込んだ面に貼り付けて構築している。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居中央部の床面付近から、古墳時代前期～平安時代前期の土器が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の重複関係や形態及び出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)初頭頃と考えられる。

第111表 第165号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.上半1/3。H.覆土中。
2	長胴甕	A.口縁部径(22.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外—暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(12.0)。器高2.9。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外—淡茶褐色。F.1/4。H.覆土中。



第165号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を雲状に含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを斑状に、ローム粒子・焼土粒子を含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子の混合土。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を含む。）

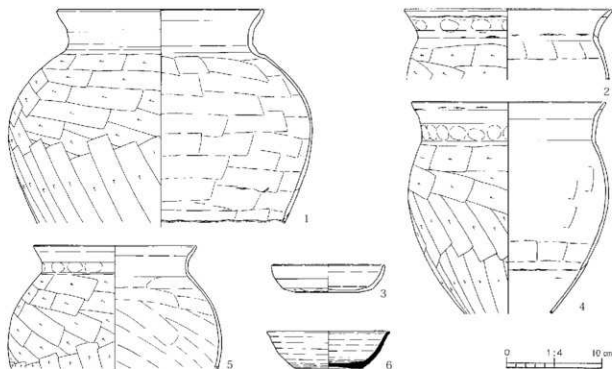
- 第8層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土を斑状に多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土を不規則に、炭化物を含む。）
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粘質土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・白色粘質土粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第12層：灰黄褐色土層（現表土。）
 第13層：暗褐色土層（旧表土。浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第14層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。）
 第15層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第16層：暗褐色土層（ロームブロック少量、ローム粒子を微量含む。）
 第17層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。）
 第18層：黄褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を斑状に含む。）
 第19層：黄褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を含む。）

第165号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（暗褐色土・黄褐色ロームの混合土。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土・ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第7層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第232図 第165号住居跡

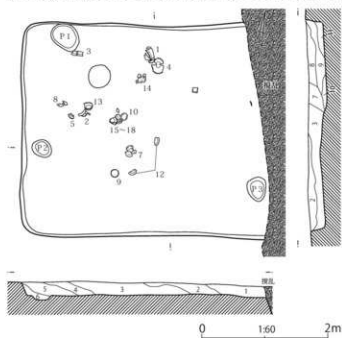
4	長 鬚 甕	A.口縁部径(20.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笹ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
5	胴 張 甕	A.口縁部径17.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笹ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.上半1/2。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.床面付近。
6	須 恵 器 坏	A.口縁部径(13.0)。器高4.0。底部径7.2。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶灰色。F.1/2。G.還元不良。H.床面付近。



第233図 第165号住居跡出土遺物

第166号住居跡 (第234図、図版34)

C3地点の調査区西側の南西寄りに位置する。重複する第163・164号住居跡を切っている。住居跡の東側を掘乱によって切られているため、遺構の全容は不明である。



第166号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1 cmのロームブロックを斑状に少量、浅間山系A軽石を上部に含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2 cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～4 cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、径0.5～1 cmのロームブロックを微量含む。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第6層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第7層：暗褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、粘質土を上部に含む。しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（焼土粒子・粘質土を多量含む。しまりを有する。）

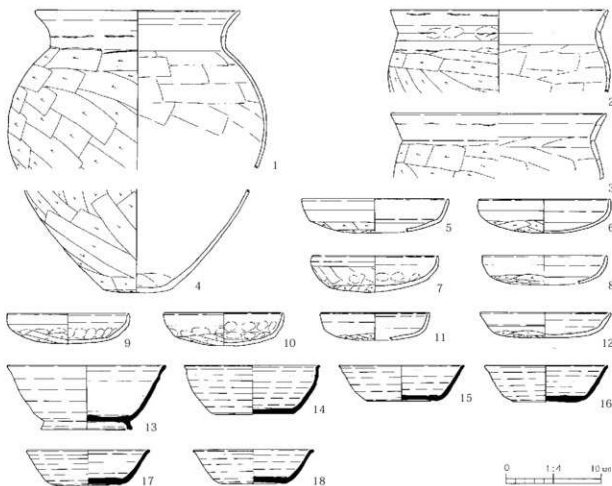
第10層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、粘質土を少量含む。しまりを有する。）

第11層：（土層説明なし）

第234図 第166号住居跡

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.50m、東西方向は4.05mまで測れる。住居跡の長軸方向は、N-85°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。ピットは、3カ所検出されている。長軸30cm~45cmの楕円形を呈し、床面からの深さは5cm~27cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。

遺物は、奈良時代後半頃の土師器や須恵器が多く出土している。この中で、住居跡中央部から出土した土器群は、ほとんどが覆土中より出土していることから、住居廃絶後の覆土埋没過程に周辺から投げ込まれたものと考えられる。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）後半頃と考えられる。



第235図 第166号住居跡出土遺物

第112表 第166号住居跡出土遺物観察表

1	胴張甕	A.口縁部径(21.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.上半1/3。H.床面直上。
2	長胴甕	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
3	長胴甕	A.口縁部径22.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部3/4。H.床面付近。

4	胴張甕	A.底径7.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一淡橙褐色。F.下半のみ。H.床面直上。
5	坏	A.口縁部径(15.6)。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(14.0)。器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径13.4。器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ方形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.床面直上。
8	坏	A.口縁部径(13.2)。器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/2弱。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径13.0。器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
10	坏	A.口縁部径12.8。器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ方形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
11	坏	A.口縁部径(11.6)。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
12	坏	A.口縁部径13.8。器高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ方形。H.覆土中。
13	須恵器 高台付埴	A.口縁部径(16.8)。器高6.8。高台部径9.6。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部・高台部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.1/2。H.覆土中。
14	須恵器 坏	A.口縁部径14.4。器高5.2。底部径7.9。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.ほぼ方形。H.覆土中。
15	須恵器 坏	A.口縁部径13.2。器高3.8。底部径7.1。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.3/4。G.南北比企産。H.覆土中。
16	須恵器 坏	A.口縁部径13.0。器高3.8。底部径6.9。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.3/4。G.南北比企産。H.覆土中。
17	須恵器 坏	A.口縁部径13.0。器高3.8。底部径6.6。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.3/4。G.南北比企産。H.覆土中。
18	須恵器 坏	A.口縁部径12.8。器高3.6。底部径7.1。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転ケズリ。D.白色針状、白色粒。E.内外一暗灰色。F.ほぼ方形。G.南北比企産。H.覆土中。

第167号住居跡(第230図、図版35)

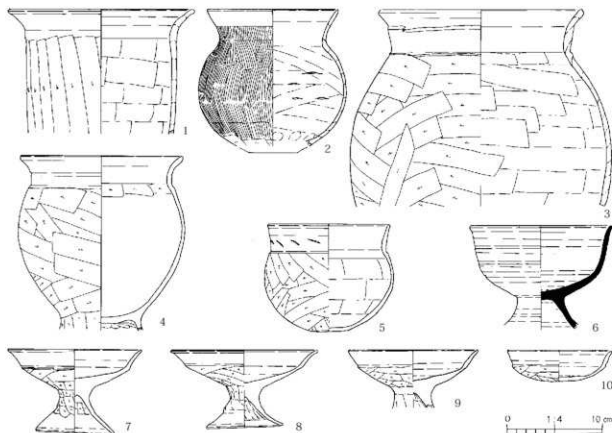
C3地点の調査区西側の南西寄りに位置する。第164号住居跡と重複し、それを切っている。住居跡の東側半分を掘削によって切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸み強い長方形を呈していたと思われる。規模は、北西～南東方向が3.50m、北東～南西方向は3.40mまで測れる。住居跡の北西側壁は、N-45°-Eの方向を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

遺物は、住居中央部の床面付近から覆土中にかけて、古墳時代後期後葉を主体とする土器がまとめて出土している。これらの土器の多くは、その出土状態から見て、住居廃絶後の覆土埋没過程に周辺から投棄されたものと推測されるが、この中のNo2の甕は、古墳時代前期のもので、他の土器とは明らかに時期の異なる混入品である。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)と考えられる。

第113表 第167号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A.口縁部径19.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
---	-----	---

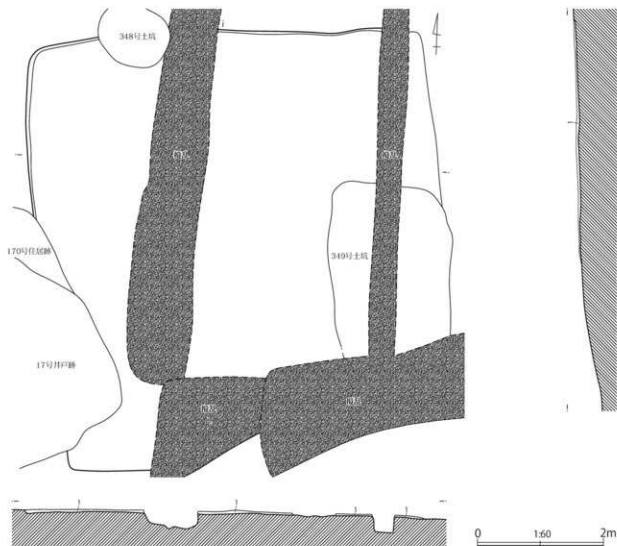


第236図 第167号住居跡出土遺物

2	甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ハケの後下端ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
3	胴張甕	A.口縁部径(21.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一淡褐色。F.上半1/4。H.床面付近。
4	台付甕	A.口縁部径(17.2)、残存高18.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデの後丁寧なナデ。台部外面ケズリ、内面指ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
5	小形鉢	A.口縁部径13.0、器高11.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.3/4。H.覆土中。
6	須恵器台付壺	A.口縁部径(15.0)、残存高11.0。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一白灰色。F.壺部1/3、台端部欠損。H.覆土中。
7	高坏	A.口縁部径14.2、器高9.0、脚端部径8.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部内外面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
8	高坏	A.口縁部径15.6、器高8.3、脚端部径8.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリ、内面指ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.坏部1/4欠損。H.床面付近。
9	高坏	A.口縁部径13.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.坏部のみ。H.覆土中。
10	模倣坏	A.口縁部径11.0、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。

第168号住居跡（第237図、図版35）

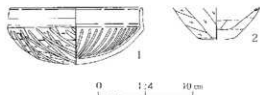
C3地点の調査区西側の南寄りに位置する。重複する第170号住居跡や第17号井戸跡と第348・349号土坑に切られている。住居跡の上面は床面近くまで強く削平されているため、遺存状態はあま



第237図 第168号住居跡

第168号住居跡土層説明

第1層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）



第238図 第168号住居跡出土遺物

第114表 第168号住居跡出土遺物観察表

1	模倣環	A.口縁径14.2、器高6.0。B.粘土細積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後難なミガキ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
2	甕	A.底径3.8。B.粘土細積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.外一茶褐色、内一暗茶褐色。F.底部1/2破片。H.覆土中。

り良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、南北方向が6.90m、東西方向が6.50mを測る。住居跡の北側壁は、N-84°-Eの方向を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立

ち上がり、確認面からの深さは6cm程度ある。各壁の壁下には、壁溝は見られなかった。柱穴・炉・カマドなどの住居内施設は、まったく検出されていない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式ようである。カマドの痕跡は、見られなかった。

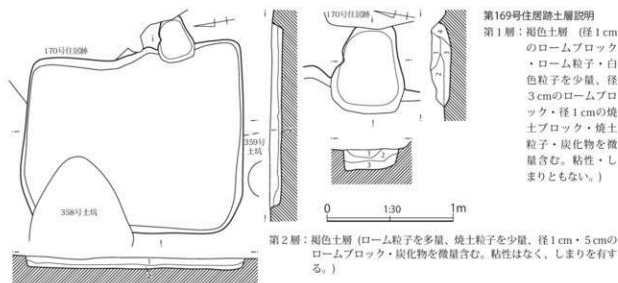
遺物は、住居跡の覆土中から、土器が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭（5世紀末）頃と考えられる。

第169号住居跡（第239図、図版35）

C3地点の調査区西側の南寄りに位置する。重複する第358号土坑に切れ、第170号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈しているが、やや東側壁が歪んで台形状になっている。規模は、南北方向が3.52m、東西方向が3.10mを測る。住居跡の主軸方位は、N-98°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長73cm、最大幅60cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで、その大半が住居壁外にある。壁面はあまり焼けていない。燃焼面は、住居床面よりも一段低く平坦で、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。



第169号住居跡土層説明

第1層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・白色粒子を少量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、径1cm・5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第169号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

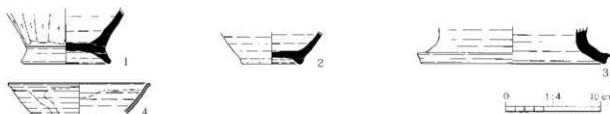
第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径0.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（炭化粒子を少量、径1cmの黄褐色粘土ブロック・径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第239図 第169号住居跡

遺物は、住居跡の覆土中から、平安時代を主体とする土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代中期（10世紀）前半頃と考えられる。



第240図 第169号住居跡出土遺物

第115表 第169号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付	A.高台部径9.4。B.粘土細積み上げ後ロクロ整形。高台部貼り付け。C.胴部外面ケズリ。内面回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.高台部1/2。H.覆土中。
2	須恵器 高台付 環	A.高台部径(15.0)。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.高台部1/2。H.覆土中。
3	須恵器 大形 甕	A.底部径(19.6)。B.粘土細積み上げ後ロクロ整形。C.内外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.底部1/4弱。H.覆土中。
4	灰輪陶器 埴	A.口縁部径(15.0)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/6。G.内外面の施輪は浸け塗りと思われるが、ほとんど剥落している。H.覆土中。

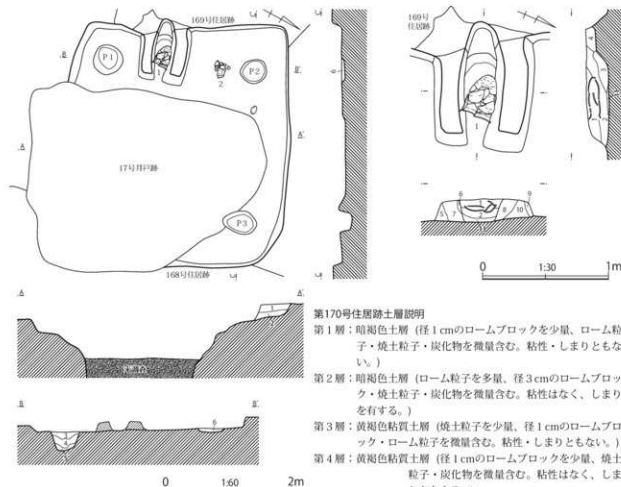
第170号住居跡（第241図、図版35）

C3地点の調査区西側の南寄りに位置する。重複する第169号住居跡と第17号住居跡に切られ、第168号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈していたと思われる。規模は、南西～北東方向が3.82m、南東から北西方向が3.56mを測る。住居跡の主軸方位は、N-117°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝は見られない。ピットは、3カ所検出されている。P1～P3は、ほぼ住居の対角線上に配置されていることから、住居の上屋を支える4本主柱の柱穴の可能性が高いが、一般の住居跡に見られる4本主柱穴の配置に比べて、コーナー部の壁際にかなり寄った位置にある。形態は、長さ45cm～56cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは7cm～29cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居の南西側壁の中央やや南側コーナー部寄りの位置に、壁に対して若干斜めに付設されている。規模は、全長91cm、最大幅84cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。壁面はあまりよく焼けていない。燃焼面は、住居の床面とほぼ同じ高さで平坦である。奥壁は、緩やかに傾斜して煙道部に向かっている。燃焼部の中央部からは、No1の長胴甕が横転した状態で出土しており、本カマドの甕の掛け方が1個掛けであったことがわかる。煙道部は、既に削平されて残存していなかった。

遺物は、カマド内や住居の床面上から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃の土器が少量出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃と考えられる。



第170号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色粘質土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黄褐色粘質土層（径3cmの褐色粘土ブロック・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色粘質土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第170号住居跡カマド土層説明

第1層：黄褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を少量、径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黄褐色粘質土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを多量、径3cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を少量、径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmの黄褐色粘質土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

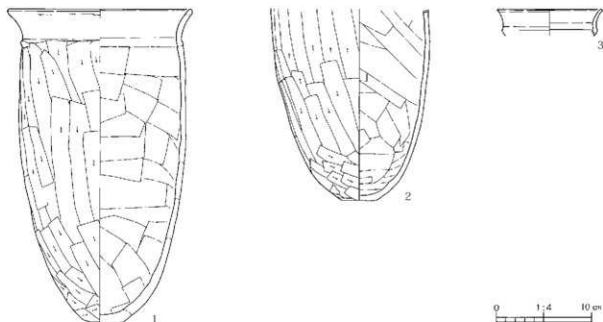
第10層：黄褐色粘質土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第241図 第170号住居跡

第116表 第170号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 壺	A.口縁部径19.5、器高33.3、底部径3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面踵ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡黄橙褐色、内一淡橙褐色。F.ほぼ完成。H.カマド内。
---	-------	---



第242図 第170号住居跡出土遺物

2	長胴甕	A.底径3.7。B.粘土粗積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。底部外面ケズリ。D.雲母、黒色粒、白色粒、小石。E.内外—褐色。F.胴部下半3/4。H.床面直上。
3	模倣坏	A.口縁部径11.0。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒。E.内外—橙褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。

2. 掘立柱建物跡

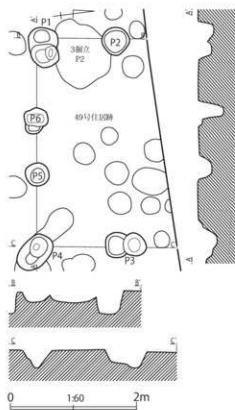
第2号掘立柱建物跡 (第243図、図版35)

C3地点の調査区東側の北端に位置する。重複する第49号住居跡を切っている。第3号掘立柱建物跡とも重複しているが、相互の新旧関係は不明である。建物跡の北側は調査区外にあるため、本建物跡の全容は不明である。

建物の形態は、東西方向が3間、南北方向が1間以上の方形か長方形を呈した側柱式建物と思われる。規模は、東西方向が3.40m、南北方向は2.30mまで測れる。建物跡の長軸方向は不明であるが、南側の側柱穴列の向きは、N—98°—Eの方向を向いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、ほぼ直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向は南端のP1～P2とP3～P4間の1間は概ね1.25mであるが、東西方向の3間は等間隔ではなく、東端と西端のP4～P5とP1～P6間の1間が概ね1.25m、真ん中のP5～P6間の1間が概ね0.90mである。

柱穴は、長さ38cm～66cmの楕円形や円形を呈し、確



第243図 第2号掘立柱建物跡

認面からの深さは23cm～43cmあるが、南側側柱穴の真ん中のP5～P6は、他の柱穴に比べてやや規模が小さい。P1とP2内からは、礎石と思われるやや大形の自然石が1個出土している。

遺物は、図示できるようなものはないが、古墳時代前期～奈良・平安時代の土師器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、南側の第1号柵列跡と建物の向きが概ね一致していることから、中世以降の可能性が高いのではないと思われる。

第3号掘立柱建物跡（第244図、図版35）

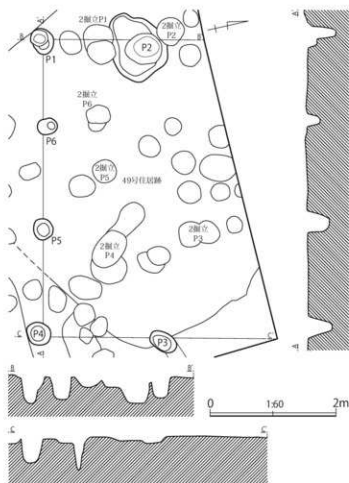
C3地点の調査区東側の北端に位置する。重複する第49号住居跡を切っている。第2号掘立柱建物跡とも重複しているが、相互の新旧関係は不明である。建物跡の北側は調査区外にあるため、本建物跡の全容は不明である。

建物の形態は、東西方向が3間、南北方向が1間以上の方形か長方形を呈した側柱式建物と思われる。規模は、東西方向が4.80m、南北方向は3.80mまで測れる。建物跡の長軸方向は不明であるが、南側の側柱穴列の向きは、N-100°-Eの方向を向いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、ほぼ直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向は南端のP1～P2とP3～P4間の1間が概ね1.80mであるが、東西方向の3間は等間隔ではなく、東側のP4～P5間が1.80m、P5～P6間とP6～P1間が概ね1.50mである。1間×1の平面形は、建物の東西方向の東端の1間が1.80m×1.80mの正方形で、真ん中と西端の1間はいずれも1.50m×1.80mの長方形を呈している。

柱穴は、長さ32cm～60cmの楕円形や円形を呈し、確認面からの深さは10cm～43cmある。

遺物は、図示できるようなものはないが、古墳時代前期～平安時代の土師器や須恵器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、南側の第1号柵列跡と建物の長軸方向の向きが一致していることから、中世以降と思われる。



第244図 第3号掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡（第245図）

C3地点の調査区東側の北寄りに位置する。重複する第53号住居跡や第91号土坑を切っている。

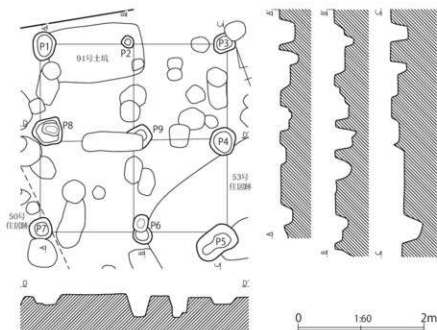
建物の形態は、東西方向2間、南北方向2間の方形を呈し、建物の真ん中に東柱をもつ総柱式建物である。規模は、東西・南北方向ともが3.00mを測る。建物の南北方向は、N-21°-Eの方向を向いている。

柱通りは、東西・南北方向の柱穴列とも比較的良く、いずれもほぼ直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北方向とも1間が1.50mの等間隔

で、1間×1間の平面形は正方形を呈している。

柱穴は、東西両側の側柱穴列であるP3・P4・P5とP7・P8・P1が、長さ35cm～68cmの楕円形や不整形円形を呈し、床面からの深さは13cm～35cmある。南北両側の側柱穴の真ん中に位置するP2とP6は、他の側柱穴や東柱の柱穴に比べて規模が小さく、径20cmと30cmの円形を呈し、確認面からの深さは30cmと14cmある。

遺物は、図示できるようなものはないが、古墳時代前期～奈良・平安時代の土師器や須恵器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、西側の第1号柵列跡と建物の向きが一致していることから、中世以降と考えられる。



第245図 第4号掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡（第246図）

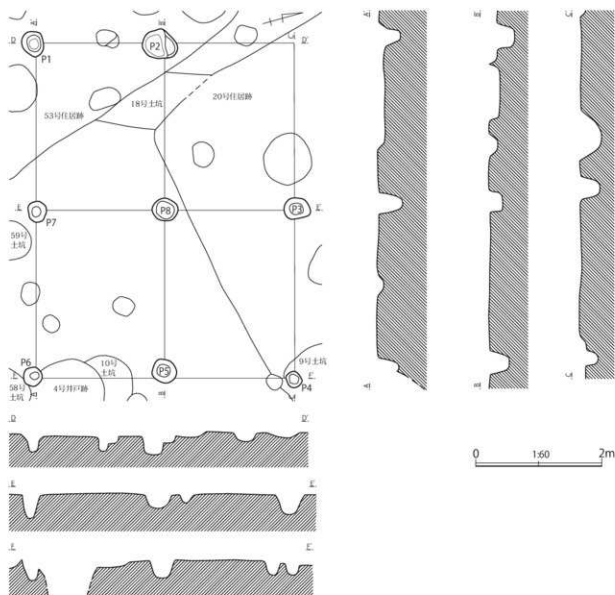
C3地点の調査区東側の北東端に位置する。重複するB1地点(恋河内・的野2010)の第20号住居跡や第4号井戸跡、本地点の第53号住居跡を切っている。

建物の形態は、東西方向2間、南北方向2間の東西方向に長い長方形を呈し、建物の真ん中に東柱をもつ総柱式建物である。規模は、東西方向が5.20m、南北方向が4.00mを測る。建物の長軸方位は、N-73°-Wを向いている。

柱通りは、東西・南北方向の柱穴列とも比較的良く、いずれもほぼ直線上に並んでいる。柱心間は、東西方向が1間2.6mの等間隔、南北方向が1間2.00mの等間隔で、1間×1間の平面形は東西方向に長い長方形を呈している。

柱穴は、長さ25cm～55cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは20cm～37cmあるが、東柱のP8は他に比べて若干浅くなっている。

遺物は、図示できるようなものはないが、柱穴覆土中から古代の土師器の破片が数片出土しただけである。本建物跡の時期は、西側の第1号柵列跡と建物の南側柱穴列の方向が概ね一致し、近隣の第



第246図 第5号掘立柱建物跡

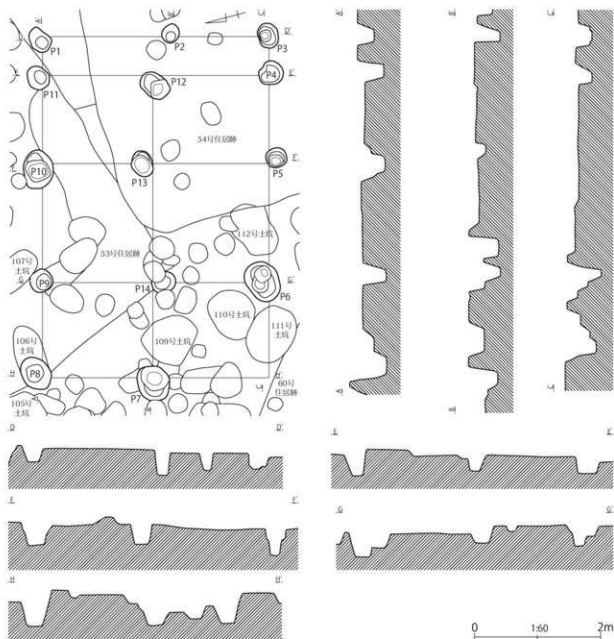
4号掘立柱建物跡・第6号掘立柱建物跡と建物の向きを一致させていることから、それらの建物と同時期中世以降と思われる。

第6号掘立柱建物跡（第247図）

C3地点の調査区東側の中央東寄りに位置する。第53・54号住居跡や第106号土坑と重複し、それらを切っている。

建物の形態は、東西方向が3間、南北方向は2間の東西方向に長い長方形を呈し、建物の内部に東柱か棟持柱を持つ総柱式建物で、東側に廂か縁を伴っている。規模は、東西方向が4.60m、南北方向が3.60mを測る。建物の長軸方位は、N-105°-Eを向いている。

柱通りは、東西・南北方向の柱穴列ともあまり良好とは言えず、やや蛇行ぎみに並んでいる。特に建物内部の棟持柱の柱穴の可能性が高いP13とP14は、建物側面の棟持柱と考えられるP7とP12を結んだ建物の主軸線上から、意図的にずらしたように配置されている。柱心間は、東西方向は1



第247図 第6号掘立柱建物跡

間隔が不揃いで、両端の1間がいずれも1.40m、真ん中の1間が1.80mである。南北方向は1間1.80mの等間隔である。1間×1間の平面形は、東西両側が1.40m×1.80mの長方形で、真ん中が1.80m×1.80mの正方形を呈している。東側の廂か縁は、幅が半間弱のほぼ60cmである。

柱穴は、長さ34cm～65cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは18cm～58cmある。建物の側柱穴と廂あるいは緑の部分の柱穴は、規模や形態に大差ないが、東柱のP13とP14は、他の側柱穴に比べてやや浅くなっている。

遺物は、図示できるようなものはないが、柱穴覆土中から古代の土師器の破片が少量出土しただけである。本建物跡の時期は、西側の第1号柵列跡と建物の向きが一致していることから、中世以降と思われる。

第7号掘立柱建物跡（第248図）

C3地点の調査区東側の北寄りに位置する。第50・51号住居跡や第102・114号土坑と重複し、それらを切っている。第9号掘立柱建物跡とも重複しているが、相互の新旧関係は不明である。

建物の形態は、南北方向が3間、東西方向が3間の東西方向に長い長方形を呈した側柱式建物である。規模は、東西方向が4.60m、南北方向が3.40mを測る。建物の長軸方位は、 $N-76^{\circ}-W$ を向いている。側柱穴は、建物の東側については明確ではない。

柱通りは、建物北側のP1～P4間と建物東側のP4～P7間の側柱穴列は、比較的良く直線上に並んでいるが、

建物南側のP7～P9間と建物西側のP9～P1間の側柱穴列は、やや蛇行ぎみに並んでいる。柱心間は、東西・南北両方向の柱穴列とも1間間隔が不揃いで、南北方向の建物西側の側柱穴列では、両端の1間がいずれも1.00m、真ん中の1間が1.40mの不揃いである。東西方向の側柱穴列では、西側の1間と真ん中の1間がいずれも1.40m、東側の1間が1.80mである。

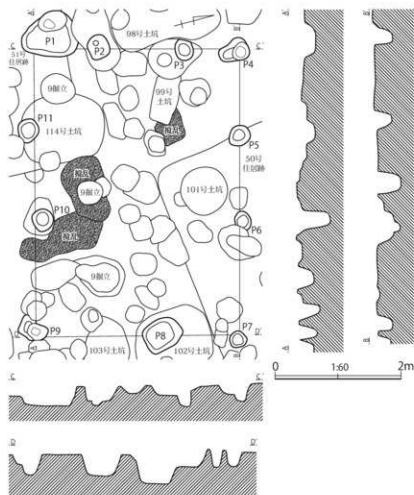
柱穴は、規模の大きなP1とP8以外は、いずれも径30cm前後の円形を呈している。確認面からの深さはまちまちで、25cm～55cmある。

遺物は、図示できるようなものはないが、古代の土師器や須恵器及び埴輪の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土しただけである。本建物跡の時期は、第1号欄列跡や第6号掘立柱建物跡と建物の向きが一致していることから、中世以降と思われる。

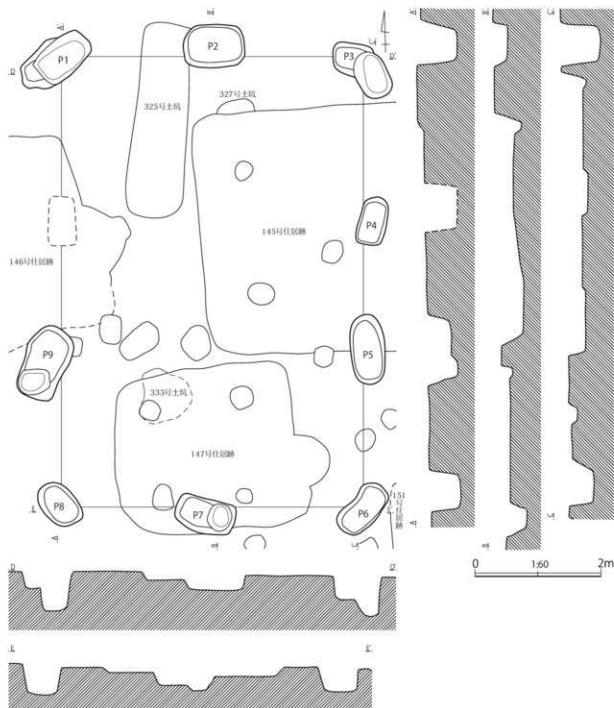
第8号掘立柱建物跡（第249図）

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。重複する第325号土坑に切られ、第145～147号住居跡を切っている。

建物の形態は、南北方向が3間、東西方向が2間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が7.20m、東西方向が4.80mを測る。建物の長軸方位は、 $N-2^{\circ}-W$ を向



第248図 第7号掘立柱建物跡



第249図 第8号掘立柱建物跡

いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、いずれも直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北方向ともおそらく1間2.40mの等間隔と推測され、1間×1間の平面形はほぼ正方形を呈すると思われる。

柱穴は、いずれも規模が大きく、長さ80cm～120cm、幅45cm～70cmの隅丸長方形に似た土坑状の形態を呈している。これらの柱穴の配置は、柱穴掘り方の長軸を建物の壁面方向に合わせているが、建物のコーナー部に位置するP1・P3・P6・P8は、その長軸方向を45°傾けて配置している。

確認面からの深さは、東西両側の側柱穴が45cm～65cmあり、南北両側の側柱穴の真真中に位置する棟持柱の柱穴と考えられるP2とP7は25cmと30cmで、他の側柱穴に比べて浅く掘られている。柱穴覆土の土層観察の結果では、自然堆積の様相を示す柱穴が多く、柱痕が見られないことから、本建物の柱は建物廃絶時に抜き取られた可能性が高いと思われる。

遺物は、白鳳時代（7世紀）末頃から奈良時代（8世紀）末頃までの土器の破片が、柱穴覆土中から少量出土している（第250図）。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代（8世紀）末頃と考えられる。



第250図 第8号掘立柱建物跡出土遺物

第117表 第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面上半に指頭圧痕を残す。H.P6内。
2	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明黄褐色。F.口縁部1/3。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.P5内。
3	坏	A.口縁部径(13.0)。器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一明褐色。F.口縁部1/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.P5内。
4	坏	A.口縁部径(12.8)。器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。F.口縁部1/3。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.P9内。

第9号掘立柱建物跡（第251図）

C3地点の調査区東側の中央付近に位置する。西側には、建物の向きが同じ第10号掘立柱建物跡が近接している。第51・57・60・96号住居跡と重複し、それらを切っている。

建物の形態は、南北方向が3間、東西方向が3間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が6.60m、東西方向が5.10mを測る。建物の長軸方位は、N-1°-Eを向いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、ほぼ直線上に並んでいる。柱間間は、南北方向は1間2.20mの等間隔であるが、東西方向は西側と真真中の1間がいずれも1.80m、東側の1間が1.50mの不揃いである。1間×1間の平面形は、長方形を呈している。

柱穴は、長さ32m～90cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは40cm～78cmある。これらの柱穴の多くの底面には、径20cm程度の円形を呈する柱痕と思われる小ピットが見られる。

遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代後半頃と考えられる。

第118表 第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	埴	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/6。H.P8内。
2	模倣坏	A.口縁部径(13.0)。器高4.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後雑なナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4強。H.P4内。

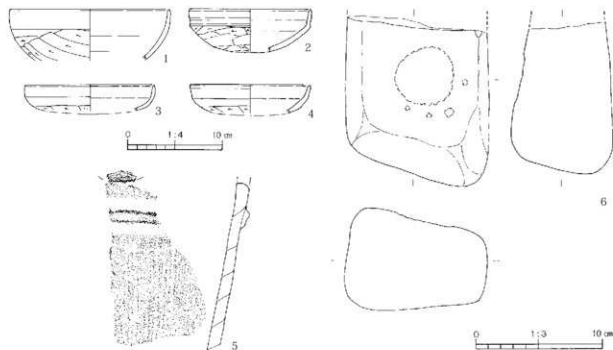


第251図 第9号掘立柱建物跡

第9号掘立柱建物跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

3	坪	A. 口縁部径(13.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/4弱。H. P 7内。
4	坪	A. 口縁部径(12.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/4弱。H. P 9内。



第252図 第9号掘立柱建物跡出土遺物

5	円筒埴輪	B.粘土組織み上げ。凸帯貼り付け。C.外面ハケ、内面ナデ。凸帯ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一帯淡褐色。F.破片。G.破片上端に凹孔あり。H.P9内。
6	甲石	A.残存長13.6、最大幅11.6、最大厚8.1、重さ2206g。C.各面とも良く擦れて磨滅している。D.閃緑岩。F.1/2。G.表面の中央部は、甲きによりアバタ状に窪んでいる。H.P8内。

第10号掘立柱建物跡（第253図）

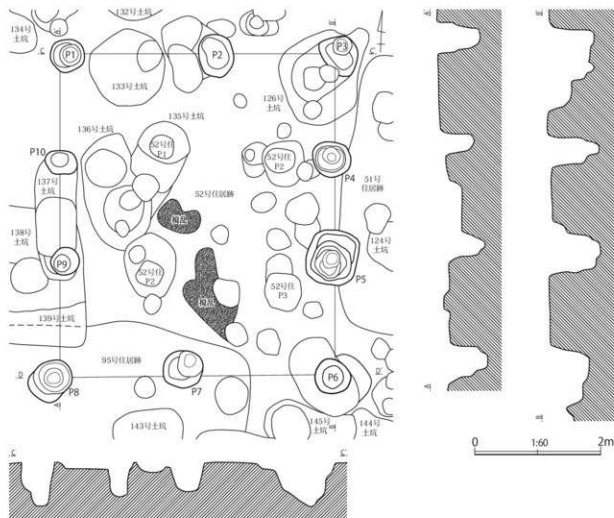
C3地点の調査区東側の中央西寄りに位置する。東側には、建物の向きが同じ第11号掘立柱建物跡が近接している。重複する第51・95号住居跡を切り、第126・127号土坑に切られている。

建物の形態は、東西方向が2間、南北方向が3間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、東西方向が4.40m、南北方向が5.10mを測る。建物の長軸方位は、N-3°-Wを向いている。

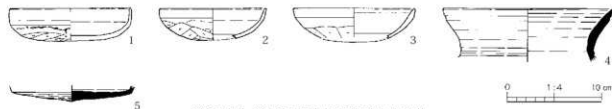
柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、いずれも直線上に並んでいる。柱心間は、東西方向が1間2.20mの等間隔、南北方向が1間1.70mの等間隔で、1間×1間の平面形は長方形を呈している。

柱穴は、東西両側の側柱穴は、長さ45cm～90cmの円形・楕円形・隅丸方形を呈し、確認面からの深さは58cm～80cmと比較的深い。これに対して、南北両側の側柱穴の真ん中に位置する棟持柱の柱穴と考えられるP2とP7は、他の側柱穴に比べて若干浅くなっている。これらの柱穴のいくつかの底面には、径30cm前後の円形を呈する柱痕と思われる小ピットが見られる。

遺物は、古墳時代前期～平安時代の土師器や須恵器の破片が、柱穴覆土中から混在して比較的多く出土している（第252図）。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や建物および柱穴の形態等から、平安時代と思われる。



第253図 第10号掘立柱建物跡



第254図 第10号掘立柱建物跡出土遺物

第119表 第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	杯	A.口縁部径(12.8)、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。H.P 2内。
2	杯	A.口縁部径11.4、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明淡褐色。F.1/2。G.体部外面に黒斑あり。H.P 7内。
3	杯	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.P 10内。

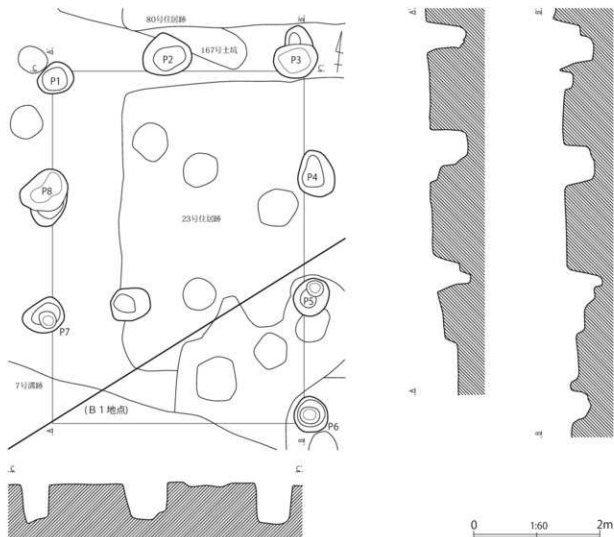
4	須恵器 甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.口縁部1/6。G.還元不良。H.P3内。
5	須恵器 杯	A.底部径(12.6)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭クズリ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.底部1/2。H.P3内。

第11号掘立柱建物跡 (第255図)

C3地点の調査区東側の南東端に位置する。重複する第7号溝跡や第167号土坑に切られ、B1地点の第23・25号住居跡(恋河内・的野2010)を切っている。

建物の形態は、南北方向が3間、東西方向が2間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が5.40m、東西方向が4.00mを測る。建物の長軸方位は、 $N-7^{\circ}-W$ を向いている。建物東側の側柱六列のP4とP5は、B1地点の調査時には第23号住居跡の主柱穴と考えたが、今回のC3地点の調査で掘立柱建物跡の柱穴であることが判明した。

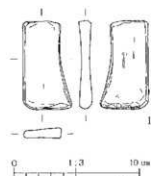
柱通りは、東西・南北方向の側柱六列とも、概ね直線上に並んでいる。柱心間は、東西方向が1間2.00mの等間隔、南北方向が1間1.80mの等間隔で、1間×1間の平面形は長方形を呈している。



第255図 第11号掘立柱建物跡

柱穴は、比較的規模が大きく、長さ54cm～80cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さはいずれも60cm程度ある。建物南側のP5・P6・P7の底面には、径25cm～30cmの円形を呈する柱痕と思われる小ピットが見られる。

遺物は、古墳時代前期～白鳳時代の土師器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。また、土器以外にP4の柱穴覆土中から、板状の砥石の破片が1点出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代（7世紀末）頃と思われる。



第256図 第11号掘立柱跡出土遺物

第120表 第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	石製砥石	A.長さ7.0、最大幅3.9、最大厚1.0、重さ38.4g。B.板状に剥離後、打ち欠きにより形状を整える。C.表裏面及び両側面とも良く磨かれている。D.流紋岩。F.1/2。G.上端切断後、切断面を平坦に削って再利用。H.P4内。
---	------	--

第12号掘立柱建物跡（第257図）

C3地点の調査区中央部の南端に位置する。重複する第77・130号住居跡や第205～207号土坑を切っている。建物跡の南端は、後世の耕作による削平を受けている。

建物の形態は、南北方向が3間、東西方向が2間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が6.90m、東西方向が4.40mを測る。建物の長軸方位は、N-2°-Eを向いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱穴列とも比較的良く、いずれも直線上に並んでいる。柱心間は、東西方向が1間2.20mの等間隔、南北方向が1間2.30mの等間隔で、1間×1間の平面形はほぼ正方形を呈している。

柱穴は、比較的規模が大きく、長さ66cm～80cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは38cm～68cmある。柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土を主体としている。土層観察の結果では、自然堆積の様相を示す柱穴が多く、柱痕が見られないことから、本建物の側柱は建物廃絶時に抜き取られた可能性が高いと思われる。

遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代以降と考えられる。

第12号掘立柱建物跡土層説明

第1層：黄褐色粘質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色粘質土層（ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

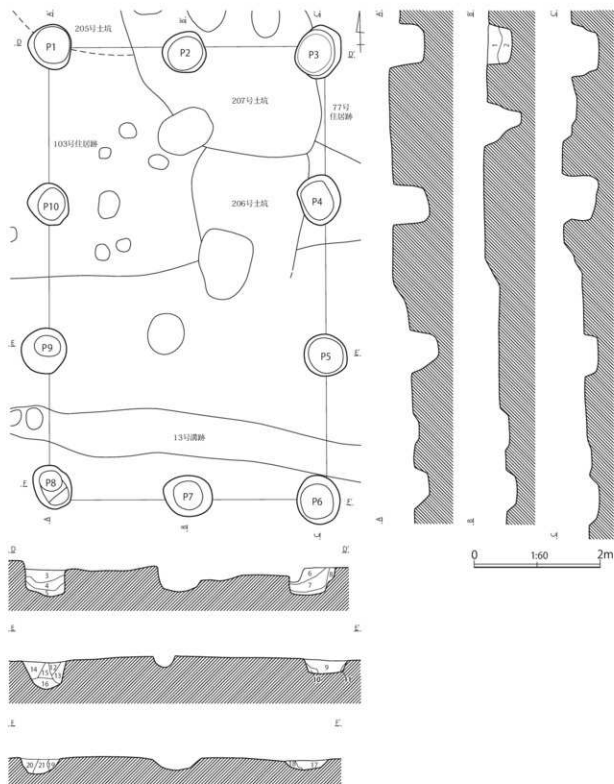
第3層：暗褐色粘質砂層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色粘質砂層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・径0.5cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色粘質砂層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・径3cmの炭化物・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第257図 第12号掘立柱建物跡

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～5cmのロームブロック・焼土粒子・径3cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を少量含む。）

第10層：褐色土層（径4～10cmのロームブロックを不規則に含む。）

第11層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

第12層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第13層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。しまりを有する。）

第15層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第16層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第17層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）

第18層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第19層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第20層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）

第21層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）

第13号掘立柱建物跡（第258図）

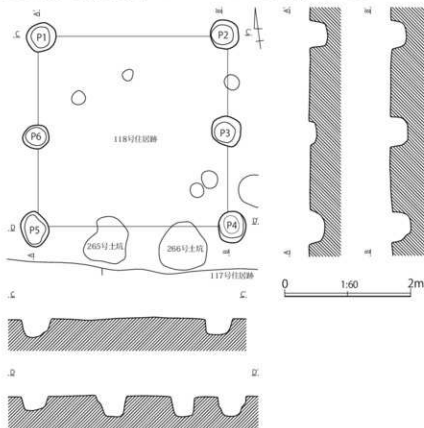
C3地点の調査区中央部北寄りに位置する。第118号住居跡と重複し、それを切っている。

建物の形態は、南北方向が2間、東西方向が1間の方形を呈する側柱式建物である。規模は、東西・南北両方向とも3.00mを測る。建物の南北方向は、N-11°-Eの方向を向いている。

柱通りは、南北方向は比較的良く、直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向は1間1.5mの等間隔である。東西方向は、1間3.00mあり、南北方向の側柱六列のような中間柱の柱穴は見られない。

柱穴は、長さ45cm～58cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは15cm～30cmある。

遺物は、古墳時代前期～奈良時代の土師器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代頃と思われる。



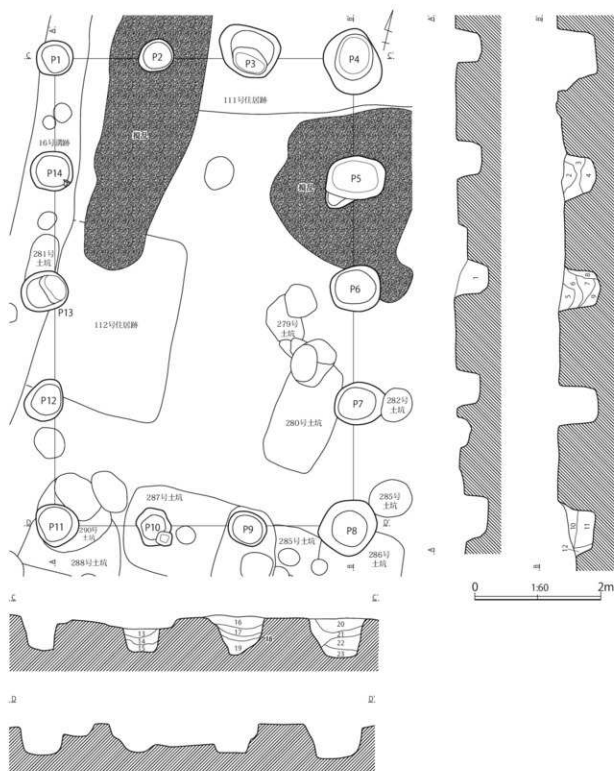
第258図 第13号掘立柱建物跡

第14号掘立柱建物跡（第259図）

C3地点の調査区中央部の西寄りに位置する。重複する第16号溝跡に切られ、第111・112号住居跡を切っている。

建物の形態は、南北方向が4間、東西方向が3間の長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が7.60m、東西方向が4.80mを測る。建物の長軸方位は、N-13°-Wを向いている。

柱通りは、東西・南北方向の側柱六列とも比較的良く、いずれも直線上に並んでいる。柱心間は、東西方向が1間1.60mの等間隔、南北方向が1間1.90mの等間隔で、1間×1間の平面形は長方形



第259図 第14号掘立柱建物跡

第14号掘立柱建物跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を雲状に含む。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを不規則に含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロックを雲状に少量、焼土粒子を微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。）

- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～1cmのロームブロックを微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量、径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第15層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第16層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第17層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第18層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第19層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第20層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第21層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第22層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1～5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第23層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

を呈している。

柱穴は、比較的規模が大きく、長さ58cm～98cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは40cm～68cmある。柱穴覆土は、主にロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土と褐色土を主体としている。土層観察の結果では、多くの柱穴が自然堆積の様相を示し、各柱穴に柱痕が見られないことから、本建物の側柱は建物廃絶時に抜き取られた可能性が高いと思われる。

遺物は、古墳時代前期～奈良時代後半の土師器の破片が、柱穴覆土中から比較的多く出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代後半頃と思われる。

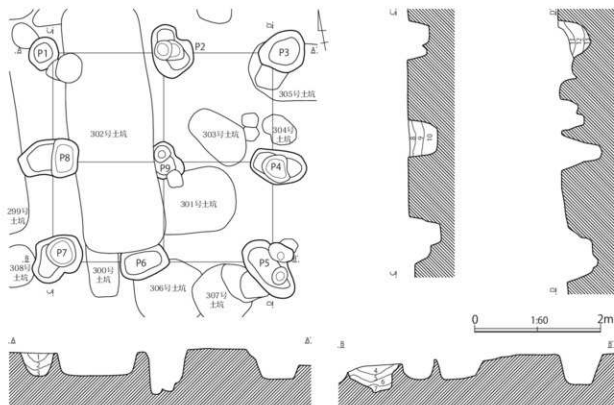
第15号掘立柱建物跡（第260図）

C3地点の調査区中央部の南西寄りに位置する。第299・301・302・305・306・308号土坑と重複し、それらによって切られている。

建物の形態は、東西・南北方向とも2間の方形を呈し、建物の真真中に東柱をもつ総柱式建物である。規模は、東西・南北方向とも3.40mを測る。建物の長軸方位は、N-13°-Wを向いている。柱通りは、東西方向の柱穴列は比較的良く直線上に並んでいるが、南北方向の柱穴列は西側の側柱穴列と真真中の柱穴列がやや蛇行ぎみである。柱心間は、東西・南北方向とも1間1.70mの等間隔で、1間×1間の平面形は正方形を呈している。

柱穴は、長さ50cm～110cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは35cm～65cmある。柱穴覆土は、主にロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子などを含む暗褐色土を主体としている。覆土の土層観察の結果では、多くの柱穴が自然堆積の様相を示し、各柱穴に柱痕が見られないことから、本建物の側柱は建物廃絶時に抜き取られたことが推測される。

遺物は、古墳時代前期～白鳳時代の土師器の破片が、柱穴覆土中から混在して少量出土している。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、白鳳時代頃と思われる。



第260図 第15号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・径5cmの灰褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第13層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

3. 井戸跡

第10号井戸跡（第263図、図版36）

C3地点の調査区東側の東端に位置する。標高59.8m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜し始める場所に立地している。同じ等高線付近の東側にはB1地点の第3号井戸跡(恋河内・の野2010)が近接し、西側には第11号井戸跡がある。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に若干長い楕円形を呈している。規模は、南北方向が1.50m、

東西方向が1.70mを測る。壁は、上半部が直線的にやや傾斜して深くなり、下半は直径1.20m前後の円形の筒状になって垂直ぎみに落ち込むと思われる。深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井筒の構造は不明である。

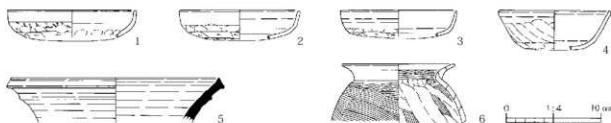
遺物は、図示できるものはないが、古墳時代前期から平安時代中期（10世紀）前半頃の土師器や須恵器の破片が、覆土上半から比較的多く出土している。土器以外では、大きさが13cm×10.5cm、厚さ5cm、重さ628.5gの本遺跡から出土した中では比較的大形の埴型鉄滓が1点出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物の様相から、平安時代中期（10世紀）前半以降と思われる。

第11号井戸跡（第263図、図版36）

C3地点の調査区東側の中央東寄りに位置し、標高59.8m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜し始める場所に立地している。同じ等高線付近の東側には第10号井戸跡があり、西側には第12号井戸跡と第13号井戸跡がある。第62号住居跡と重複し、それを切っている。

井戸掘り方の平面形は、南北方向に長い楕円形を呈している。規模は、南北方向が2.43m、東西方向が2.20mを測る。壁は、上半部が直線的に傾斜して深くなり、下半は1.00cm×130cm程度の楕円形の筒状になって垂直ぎみに落ち込むと思われる。深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

遺物は、古墳時代前期から奈良時代までの土器の破片が、覆土上半から混在して出土している。本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代後半頃と思われる。



第261図 第11号井戸跡出土遺物

第121表 第11号井戸跡出土遺物観察表

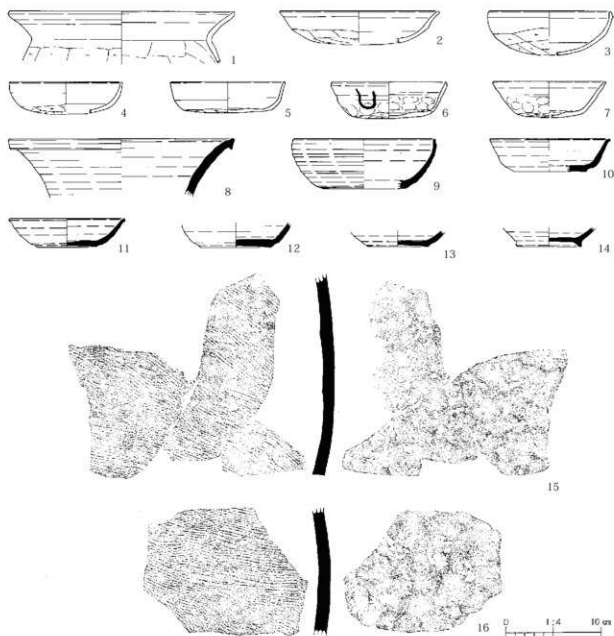
1	坏	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(12.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(12.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(12.0)。器高4.2。底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	須恵器	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一黒灰色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
6	甕	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後上半ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明淡茶褐色。F.上半1/4。H.覆土中。

第12号井戸跡（第263図、図版36）

C3地点の調査区東側の中央南寄りに位置し、標高59.7m～59.8m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜し始める場所に立地している。同じ等高線付近の東側には第11号井戸跡がある。重複する第13号井戸跡に切られ、第69・70号住居跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、円形を呈している。規模は、南北方向が4.20m、東西方向が4.50mを測り、本遺跡で検出された井戸跡の中では比較的大きい方である。壁は、上半部が緩やかに傾斜して深くなっている。下半の状態については、未調査のため不明である。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

遺物は、古墳時代前期～平安時代前期中頃の土師器や須恵器の破片が、覆土中から混在して多く出土している。本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代前期と思われる。



第262図 第12号井戸跡出土遺物

第122表 第12号井戸跡出土遺物観察表

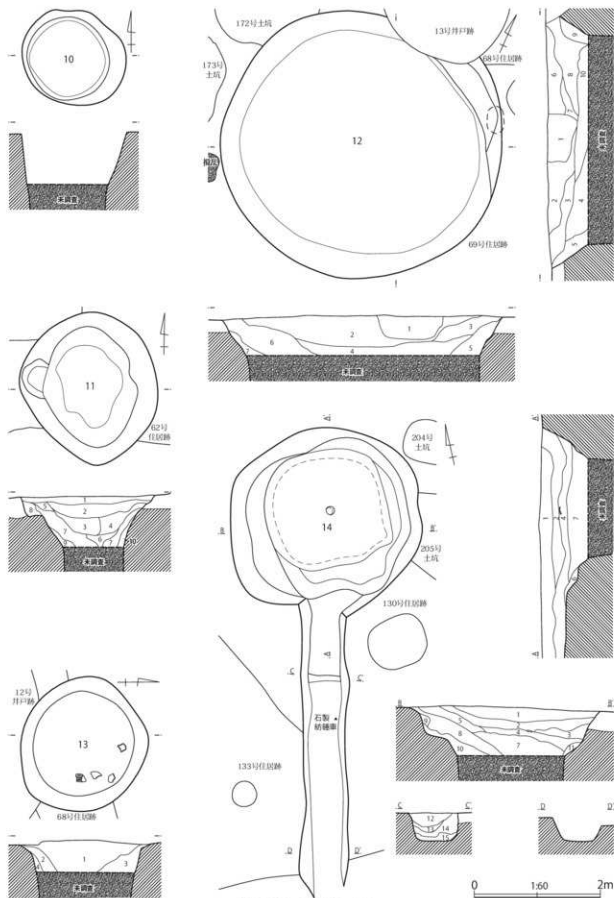
1	長 頸 甕	A.口縁部径(24.0)、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面籠ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-淡茶褐色、F.口縁部1/4弱、H.覆土中。
2	皿	A.口縁部径(17.0)、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-淡茶褐色、F.口縁部1/6、H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.0)、器高4.7、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-明橙褐色、F.口縁部1/4弱、H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(12.0)、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-淡茶褐色、F.口縁部1/4、H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(12.2)、器高3.3、底部径(9.4)、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ、底部後下半ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-明茶褐色、F.1/4、H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径12.4、器高3.9、底部径8.3、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ、底部後下半ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-明茶褐色、F.2/3、G.外面に「U」字状の墨書あり、体部内外面に指頭圧痕を残す、H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(12.0)、器高3.8、底部径(7.0)、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ、底部後下半ケズリ、内面ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外-淡茶褐色、F.1/4、G.体部外面に指頭圧痕を残す、H.覆土中。
8	須 恵 器	A.口縁部径(24.0)、B.粘土組織み上げ後叩き、C.口縁部内外面回転ナデ、D.白色粒、E.内外-暗灰色、内-暗茶褐色、F.口縁部1/6、H.覆土中。
9	須 恵 器	A.口縁部径(15.2)、器高5.3、底部径(6.6)、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面周回転籠ケズリ、D.白色粒、E.内外-暗灰色、F.体部1/2弱、H.覆土中。
10	須 恵 器	A.口縁部径(12.8)、器高3.5、底部径(7.6)、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.白色粒、E.体部内外-灰色、底部内外-黒灰色、F.口縁部1/4、H.覆土中。
11	須 恵 器	A.口縁部径(12.4)、器高3.0、底部径(6.2)、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.白色粒、E.体部内外-灰色、底部内外-黒灰色、F.1/3、H.覆土中。
12	須 恵 器	A.底部径7.4、B.ロクロ成形、C.体部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り後外周回転籠ケズリ、D.白色針状、黒色粒、E.内外-暗灰色、F.底部1/2、G.南比企産、H.覆土中。
13	須 恵 器	A.底部径6.4、B.ロクロ成形、C.体部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.黒色粒、白色粒、E.内外-灰色、F.底部のみ、H.覆土中。
14	須 恵 器	A.高台部径6.5、B.ロクロ成形、高台部貼り付け、C.体部・高台部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.白色粒、E.体部内外-淡灰色、高台部内外-黒色、F.高台部のみ、H.覆土中。
15	須 恵 器	B.粘土組織み上げ後叩き、C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕を残す、D.黒色粒、白色粒、E.内外-灰色、F.胴部破片、G.No16と同一個体、H.覆土中。
16	須 恵 器	B.粘土組織み上げ後叩き、C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕を残す、D.黒色粒、白色粒、E.内外-灰色、F.胴部破片、G.No15と同一個体、H.覆土中。

第13号井戸跡 (第263図、図版37)

C3地点の調査区東側の中央南寄りに位置し、標高59.8m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜し始める場所に立地している。同じ等高線付近の東側には第11号井戸跡がある。重複する第68号住居跡と12号井戸跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が2.00m、東西方向が2.22mを測る。壁は、上半部が直線的にやや傾斜して深くなっている。下半の状態については、未調査のため不明である。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

遺物は、古墳時代前期～平安時代前期の土器の破片が、覆土上半から混在して多く出土している。土器以外では、高台付坏の底部破片を再利用した土製紡錘車(No5)や、土鍾2個(No6・7)と鉄製の破片(No8)などが、覆土中から出土している。本井戸跡の時期は、平安時代前期中頃の第12号井戸跡に切られていることから、平安時代前期後半以降と思われる。



第263图 井戸跡 (1)

第11号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～0.8cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・黒褐色土を微量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富む。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・径0.5～4cmの炭化ブロック・白色粘土ブロックを不規則に含む。粘性に富む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を現状に含む。粘性に富む。）
 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子・白色粘土ブロックを少量、炭化ブロックを微量含む。粘性に富む。）
 第10層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・白色粘土ブロックを少量、炭化ブロックを微量含む。粘性に富む。）

第12号井戸跡土層説明

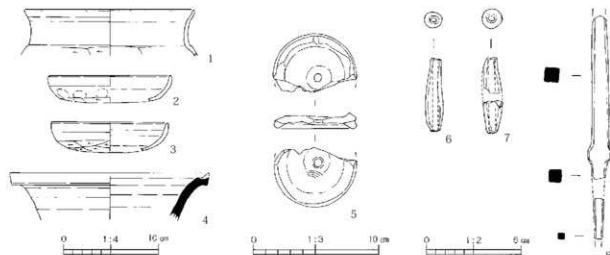
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、浅間山系A軽石を上部に含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを多量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロックを微量含む。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～8cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第10層：暗褐色土層（焼土ブロックを多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第13号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmの粘質土ロームを多量含む。）

第14号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・径5cmの灰白色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを少量、ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第8層：褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第10層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第11層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第12層：暗褐色粘質砂層（焼土粒子を少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第13層：暗褐色粘質砂層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第14層：暗褐色粘質砂層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第15層：暗褐色粘質砂層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第264図 第13号井戸跡出土遺物

第123表 第13号井戸跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面詫ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(12.4)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	須恵器	A.口縁部径(21.0)。B.粘土粗積み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰褐色、内一淡橙茶褐色。F.口縁部1/6。G.還元不良。H.覆土中。
5	土製紡錘車	A.直径6.7、高さ1.3、重さ26.8g。B.高台付坏の底部中央に穿孔を施して再利用。C.底部外面回転糸切り後高台回転ナデ、内面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡赤灰色、内一黒灰色。F.1/2。G.還元不良。H.覆土中。
6	土 鏝	A.長さ3.8、最大径1.0、重さ2.8g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色。F.完形。H.覆土中。
7	土 鏝	A.最大径1.1、重さ2.2g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色。F.3/4。H.覆土中。
8	鉄 鏝	A.残存さ8.6、幅0.8、重さ13.2g。B.鍛造。D.鉄製。F.両端欠損。F.棘間式。H.覆土中。

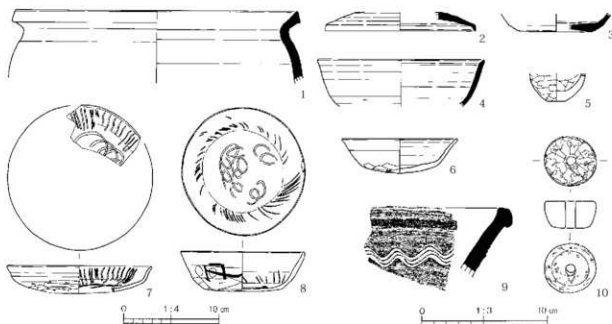
第14号井戸跡 (第263図、図版37)

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置し、標高59.7m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜し始める場所に立地している。同じ等高線付近の西側には第15号井戸跡がある。重複する第130号住居跡や第205号土坑を切っている。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に長いやや角ばった隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が3.00m、東西方向が3.08mを測る。壁は、上半が緩やかに傾斜して深くなり、下半は1.8m×1.8mの隅丸方形の形態になって垂直ぎみに落ち込むと思われる。深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

本井戸跡は、井戸の南側に幅70cm・深さ40cm前後を測る断面が台形を呈する箱堀状の第20号溝跡を伴っている。この溝は、南側緩斜面下に向かって直線的に延びており、その延長はC4地点東側調査区の第4号溝跡から南側に分岐する細い溝とほぼ一致しており、同一の溝であった可能性もある。そのため、本井戸跡は、井戸の湧水を集落南側の男堀川低地の水田の灌漑に利用する溜井の可能性が高いと思われる。

遺物は、覆土上半から平安時代前期（9世紀）後半頃を主体とする土師器や須恵器の破片が多く出土している。土器以外では、蛇紋岩製の石製紡錘車(No10)が1点出土している。本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代前期（9世紀）後半頃と思われる。



第265図 第14号井戸跡出土遺物

第124表 第14号井戸跡出土遺物観察表

1	須恵器鉢	A.口縁部径(30.2)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.内外面回転ナデ。D.雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄橙褐色。F.口縁部破片。G.還元不良。H.覆土中。
2	須恵器蓋	A.口縁部径(16.0)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄橙褐色。F.口縁部1/5。G.還元不良。H.覆土中。
3	須恵器坏	A.底部径(7.8)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。低部外面回転糸切り。D.雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一灰白色。F.底部2/5。H.覆土中。
4	須恵器高台付埴	A.口縁部径(17.8)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。体部外面下端回転段ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
5	小形土器	A.底部径1.7。B.手捏ね。C.内外面旋ナデ。D.角閃石、赤色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一明赤褐色。F.胴下半1/2。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径12.4。器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
7	暗文坏	A.口縁部径(15.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/6。G.口縁部内面に放射状暗文、体部内面に螺旋状暗文を施す。H.覆土中。
8	暗文坏	A.口縁部径13.2。器高4.2。底部径8.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ケズリ。底部外面ケズリ。D.角閃石、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。G.口縁部内面に斜行暗文、体部内面に螺旋状暗文を施す。体部外面に墨書あり。体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
9	須恵器甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。頸部外面に3本歯の櫛描波状文を施す。D.黒色粒、白色粒。E.内外一灰黄色。F.口縁部破片。G.還元不良。H.覆土中。
10	石製紡錘車	A.上面径4.0。下面径2.9。高さ2.1。重さ55.3g。C.上下面研磨、側面ケズリの後研磨。D.蛇紋岩。F.ほぼ完形。H.覆土中。

第15号井戸跡（第268図、図版37）

C3地点の調査区中央部の南側に位置し、標高59.7m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜

し始める場所に立地している。同じ等高線付近の東側には第14号井戸跡がある。重複する第136号住居跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に長い楕円形を呈している。規模は、東西方向が1.84m、南北方向が1.40mを測る。壁は、直線的にやや傾斜して深くなり、下半は徐々に狭まりながら落ち込むと思われる。井戸底面までの深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井戸掘り方には、井筒外側の裏込めと考えられるロームブロックを均一に含む灰褐色土（第5層）が見られることから、井筒内には筒状の構造物があったと思われる。

遺物は、覆土上半から奈良時代～平安時代の土器の破片が多く出土している。本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代末～平安時代初頭頃と思われる。



第266図 第15号井戸跡出土遺物

第125表 第15号井戸跡出土遺物観察表

1	要	A.口縁部径(12.8)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4弱。G.体部外面上半に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	---	---

第16号井戸跡（第268図、図版37）

C3地点の調査区西側の北寄りに位置する。標高60.2m付近の地形がやや平坦な場所に立地している。重複する第139号住居跡や第13号溝跡を切っている。調査したのは井戸掘り方の上半部分だけであるため、遺構の全容は不明である。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に若干長い楕円形を呈している。規模は、南北方向が1.35m、東西方向が1.20mを測る。壁は、上半部が内湾しながら緩やかに深くなり、下半は直径70cm前後の円形の筒状になって垂直ぎみに落ち込む、いわゆる漏斗状の形態になると思われる。深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

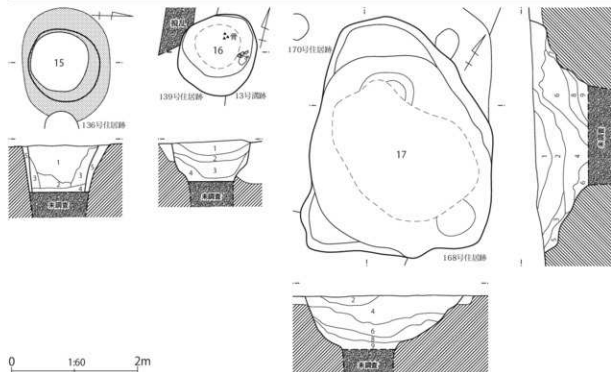
遺物は、覆土上半から古代の土師器や須恵器の破片が少量と、中世の常滑窯系大甕(No1)や半月状口縁の在産片口鉢(No2)の破片などが出土している。これらの遺物は、本井戸跡に直接伴う物ではなく、井戸廃棄後の覆土埋没過程中に周辺から混入したものと考えられる。また、覆土上層から、馬の歯（第七章第1節参照）が出土しており、雨乞いや井戸廃棄などの祭祀行為に関係したものかもしれない。本井戸跡の時期は、井戸跡の下半部が未調査のため、本井戸跡に伴う遺物が明確ではないが、遺構の重複関係や混入遺物の様相から、中世後期以降と考えられる。



第267図 第16号井戸跡出土遺物

第126表 第16号井戸跡出土遺物観察表

1	常滑窯 大	A.口縁部径(39.2)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。D.淡褐色色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部破片。G.口縁部内面に降灰による自然釉が薄く掛かる。常滑第5型式。H.覆土上半。
2	在 地 産 片 口 鉢	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部破片。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土上半。



第268図 井戸跡(2)

第15号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (径0.5～5 cmのロームブロック・灰白色粘質土を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：灰黄褐色土層 (暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。粘性はなく、しまりを有する。)
 第4層：灰黄褐色土層 (灰黄褐色粘質土を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
 第5層：灰褐色土層 (ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第16号井戸跡土層説明

土層説明なし。

第17号井戸跡土層説明

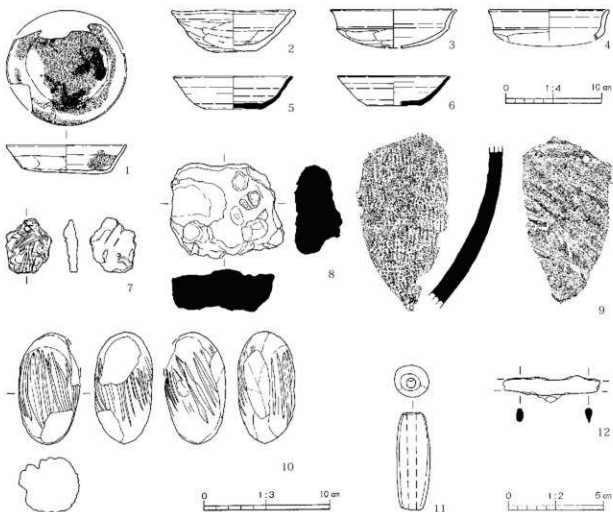
- 第1層：黒褐色粘質土層 (径0.5cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
 第2層：暗褐色粘質土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
 第3層：暗褐色粘質土層 (ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色粘質土層 (炭化物を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
 第5層：黄褐色粘質土層 (ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
 第6層：灰黄褐色粘質土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。)
 第7層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第8層：暗褐色粘質土層 (径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第9層：暗褐色粘質土層 (ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第17号井戸跡（第268図、図版37）

C3地点の調査区西側の南寄りに位置する。標高60.0m付近の地形が南側に向かって緩やかに傾斜する場所に立地している。同じ等高線付近の東側には第15号井戸跡がある。重複する第168・170号住居跡を切っている。

井戸掘り方の平面形は、北西～南東方向に長い楕円形のような形態を呈している。規模は、北西～南東方向が4.00m、北東～南西方向が3.00mを測る。壁は、上半部が内湾しながら緩やかに深くなり、下半は楕円形状になって垂直ぎみに落ち込む、いわゆる漏斗状の形態になると思われる。深さは確認できなかったが、確認面からの深さは1m以上はあると思われる。井筒の構造は不明である。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積のようである。

遺物は、覆土上半から古墳時代後期後葉～平安時代前期の土器の破片が多く出土している。この中のNo1の環は、内外面に煤が顕著に付着しており、火にかけられて使われたと思われるものである。土器以外では、土錘(No11)や焼成された小さな粘土塊(No7)、不明鉄製品(No12)、鉄滓(No8)、角閃石安山岩の自然石を利用した砥石(No10)などが出土している。本井戸跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、平安時代前期（9世紀）後半頃と思われる。



第269図 第17号井戸跡出土遺物

第127表 第17号井戸跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径12.7、器高3.1、底部径9.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.石英、角閃石、白色粒。E.外—淡橙褐色、内—淡黄褐色。F.2/3。G.内外面に煤が顕著に付着している。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径13.1、器高4.4、底部径4.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外—橙褐色。F.完形。H.覆土中。
3	模倣坏	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒、赤色粒。E.内外—橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
4	模倣坏	A.口縁部径(12.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外—橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
5	須恵器坏	A.口縁部径12.7、器高3.5、底部径4.7。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.黒色粒、白色粒。E.内外—灰白色。F.2/3。H.覆土中。
6	須恵器坏	A.口縁部径(12.0)、器高3.1、底部径4.8。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外—灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
7	粘土塊	A.長さ4.3、最大幅3.6、最大厚1.1、重さ14.3g。B.手捏ね。C.ナデ。D.褐色粒、白色粒。E.内外—橙褐色。F.完形。G.片面に植物の葉のような圧痕を残す。H.覆土中。
8	鉄滓	A.長さ7.5、最大幅8.5、最大厚3.8、重さ397.6g。F.完形。G.鉄分を含む。H.覆土中。
9	須恵器費	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面篋ナデ。D.白色粒。E.内外—灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
10	砥石	A.長さ8.8、最大幅4.8、最大厚4.4、重さ101.1g。B.自然石を利用。C.前面に刃物による擦痕あり。D.角閃石・山岩。F.ほぼ完形。H.覆土中。
11	土唾	A.長さ5.2、最大径1.8、重さ17.5g。B.手捏ね。C.ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外—褐色。F.完形。H.覆土中。
12	鉄製品	A.残存長5.1、最大幅1.4、最大厚0.3、重さ3.8g。B.鍛造。D.鉄製。F.両端部欠損。H.覆土中。

4. 土 坑

第128表 C3地点土坑一覧表

番号	平面形	規 模	深 さ	出 土 遺 物	時 期	備 考
57	円 形	70×70	14	なし	不明	
58	楕 円 形	82×76	15	土師器片(奈良・平安)少量	古代	4井戸に切られる。
59	円 形	66×65	12	土師器片(奈良・平安)少量	古代	
60	楕 円 形	148×121	27	土師器片(奈良・平安)少量	古代	
61	不 整 形	95×75	46			
62	楕 円 形	84×(45)	10			
63	楕 円 形	77×63	16			
64	円 形	75×(70)	31	土師器片(古墳後～白鳳)少量	平安以降	54住を切る。
65	楕 円 形	112×102	12	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		
66	楕 円 形	96×78	8	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		
67	不 整 形	340×274	32	土師器片(古墳前～白鳳)多量		SK68に切られる。
68	隅丸長方形	270×110	48	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		54住を切り、SK67に切られる。
69	円 形	66×(48)	34	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		
70	不 整 形	115×(70)	46	土師器片(奈良・平安)少量		
71	不整楕円形	70×60	68	土師器片(古墳前～中)少量		
72	不 整 円 形	133×122	45	土師器片(奈良・平安)少量		63住を切る。
73	楕 円 形	123×102	40	土師器・須恵器片(古墳後～奈良)少量		SK72と重複。
74	隅丸長方形	89×64	40	土師器片(奈良・平安)少量		SK75に切られる。
75	楕 円 形	78×64	35	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		SK74を切る。
76	不整楕円形	(275)×255	27	土師器・須恵器(古墳前～奈良末)・常滑片	中世以降	63住を切り、SK77に切られる。

77	楕円形	275×236	57	土師器(古墳前～平安)多量		54・64住、SK76を切る。
78	不整形	91×(90)	13			
79	不整形楕円形	74×(83)	41			
80	隅丸方形	82×74	21	土師器・須恵器片少量	不明	
81	隅丸方形	86×80	32			
82	隅丸長方形	258×83	35	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		
83	不明	66×(70)	16	土師器・須恵器片(古墳～平安)少量		
84	隅丸方形	85×80	30	土師器・須恵器片(古墳～平安)少量		
85	不整形楕円形	87×80	17	土師器片少量	平安前期	
86	楕円形	86×60	40	土師器片(古墳前～中)少量	古墳中期	
87	楕円形	110×70	46	土師器(古墳中)	古墳中期	
88	楕円形	92×65	50			
89	不整形楕円形	82×65	40	土師器(古墳中)	古墳中期	59住を切る。
90	隅丸長方形	230×206	17	土師器片(古墳前～奈良)多量、鏡形土製品破片	奈良	
91	隅丸長方形	150×90	21	土師器片(奈良・平安)少量	中世以前	4掘立に切られる。
92	(隅丸長方形)	108×(48)	8	土師器片(古墳中・後)少量		SK93に切られる。
93	隅丸長方形	188×70	20	土師器片(古墳中・後)少量		SK92を切る
94	楕円形	74×49	55	土師器片(古墳後)少量		SK93を切る。
95	隅丸長方形	65×39	35	土師器・須恵器・かわらけ片(古墳後～中世)少量	中世以降	
96	円形	60×59	15	土師器片(平安)少量		
97	隅丸長方形	100×78	12	土師器片(古墳後～白鳳)少量		
98	不整形楕円形	120×72	10	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		布留式甕の小破片出土。
99	隅丸長方形	(80)×40	11	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		
100	不整形楕円形	72×56	17	土師器・須恵器片(白鳳・奈良)少量		50住を切る。
101	円形	74×73	45	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量	平安中期以降	50住を切る。
102	隅丸長方形	125×100	28	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		SK104を切る。
103	楕円形	112×72	36	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量		SK103に切られる。
104	(隅丸長方形)	100×(76)	37			
105	(隅丸長方形)	68×52	33	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量		
106	楕円形	(75)×46	18	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		53住を切る。
107	楕円形	92×46	42	土師器片(古墳中～白鳳)少量		53住を切る。
108	楕円形	62×48	30	土師器片(古墳後～平安)少量		53住を切る。
109	不整形	78×92	25	土師器片(奈良後半)少量		
110	不整形楕円形	82×70	20			
111	隅丸長方形	92×70	49	土師器片(白鳳・奈良)少量		60住・SK110を切る。
112	(隅丸長方形)	(85)×63	42	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		
113	楕円形	60×52	35	土師器片(白鳳)少量		
114	隅丸長方形	134×110	12	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		9掘立を切る。
115	不整形	112×123	45			
116	不整形	132×118	35	土師器片(古墳前～後)少量		SK115を切る。

117	不整四角形	110×80	46	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量	平安前期	
118	円形	64×64	31	土師器片(古墳後～平安)少量		
119	不整楕円形	95×56	35	土師器片(古墳前・白鳳)少量		
120	不整形	(112)×108	45	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量	平安	SK121に切られる。
121	楕円形	77×56	47	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量	平安前期	SK120を切る。
122	不整円形	90×90	42	土師器片(古墳中～奈良)少量		51住・SK121を切る。
123	隅丸長方形	111×76	10	土師器・須恵器片(古墳前～後)少量		
124	(隅丸長方形)	105×77	8	土師器片(古墳前～後)少量		
125	隅丸方形	82×85	8	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		
126	不整楕円形	154×141	73			10掘立を切る。
127	円形	124×123	17	土師器・須恵器片(古墳前～後)少量		SK130に切られる。
128	円形	125×123	28	土師器・須恵器片(古墳前～後)少量		
129	不整長方形	52×45	25	土師器片(古墳前～後)少量		
130	不整形	210×120	33	土師器片(古墳前～後)少量		
131	楕円形	124×105	22	土師器片(古墳後～平安)少量	白鳳以降	
132	楕円形	122×(110)	40	土師器片(古墳中～奈良末)少量		
133	円形	117×118	60	土師器片(古墳前～白鳳)少量、砥石片		
134	不整形	129×75	37	土師器・須恵器片(古墳後～奈良)少量		
135	—	—	—			F2地点
136	楕円形	185×103	41	土師器・須恵器片(古墳後～奈良)少量		52住を切る。
137	隅丸長方形	94×65	33			10掘立を切る。
138	隅丸長方形	274×92	20	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量、刀子		SK139を切る。
139	隅丸長方形	296×(193)	32	土師器片(古墳前～奈良)少量		SK127を切る。
140	楕円形	175×116	24	土師器片(古墳前～奈良)少量		95住を切る。
141	不整楕円形	94×57	46	土師器片(古墳前～平安)少量		
142	隅丸長方形	(250)×90	34	土師器片(古墳前～平安)少量		84・85・94住を切る。
143	不整楕円形	112×67	54	土師器片(古墳前～後)少量		95・96住を切る。
144	不明	(103)×(98)	30	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		96住・SK145に切られる。
145	不整形	146×76	38	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量	白鳳以降	SK146に切られる。
146	隅丸長方形	208×92	36	土師器・須恵器・近世磁器片(古墳前～江戸)	18世紀後半以降	95・96住を切る。
147	楕円形	118×70	23	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		95・96住を切る。
148	(楕円形)	(74)×54	27			
149	欠番					
150	隅丸長方形	65×50	17			
151	隅丸長方形	170×80	27	美濃瀬戸窯ミニチュア環	江戸前期	
152	長楕円形	145×68	54	土師器片(古墳前～白鳳)少量	白鳳以前	96住に切られる。
153	円形	68×70	24	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量、鉄器片		96住を切る。
154	楕円形	92×72	25	土師器・埴輪片(古墳中～白鳳)少量		95・96・98住を切る。
155	(円形)	105×100	18	土師器・須恵器片(古墳～奈良)少量		98住を切る。
156	円形	82×78	43	土師器・須恵器片(古墳後)少量		98住に切られる。

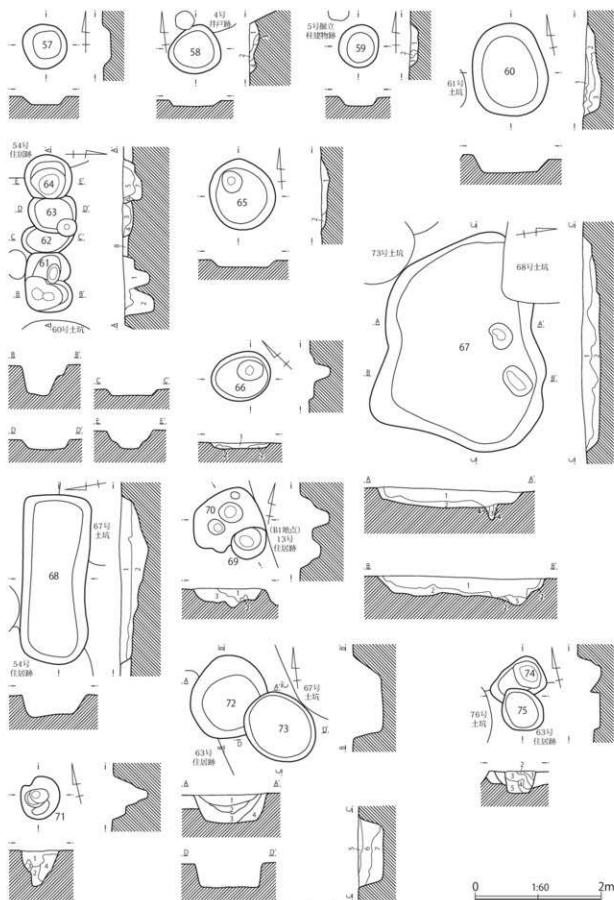
157	楕円形	73×52	36	土師器片(古墳前～後期)少量		
158	隅丸長方形	68×47	68	土師器片(古墳前)少量		
159	隅丸長方形	98×78	33	須恵器籬、土師器模倣坏	古墳後期初頭	
160	楕円形	63×43	32	土師器片(古墳後初頭)少量		
161	楕円形	80×60	16	土師器片(古墳前)少量		
162	不整形	200×90	23	土師器片(平安)少量		
163	円形	120×120	14	土師器片(古墳前～平安)少量		
164	楕円形	81×60	32			
165	隅丸長方形	102×91	8			
166	円形	66×64	20			
167	隅丸長方形	318×60	6			
168	楕円形	95×62	45	土師器・須恵器片(白臈)少量		
169	不整形	85×78	5	土師器片(古墳前)少量		
170	楕円形	150×125	17	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量、埴輪片		
171	隅丸長方形	320×190	23	土師器片(古墳前～後)少量	古墳後期	99住を切る。
172	隅丸長方形	193×161	22	土師器片(古墳前～白臈)多量	古墳前期	71住・12井戸に切られる。
173	楕円形	163×117	20	土師器片(古墳前～奈良)少量		70住を切る。
174	不整形	243×228	33	土師器・須恵器破片・粘土塊・貝殻穴泥岩	奈良後半	
175	不明	(118)×115	14	土師器・須恵器片(白臈)少量		76住に切られる。
176	欠番					
177	長楕円形	155×71	40	土師器片	平安前期	
178	楕円形	130×108	38	土師器	平安前期	76住を切る。
179	楕円形	87×61	35	土師器	奈良後半	
180	欠番					
181	隅丸長方形	95×66	12			
182	不整形	270×156	36			
183	楕円形	83×65	35	土師器片(白臈)少量		
184	楕円形	95×80	15	土師器・須恵器片(白臈～奈良)少量、鉄器		
185	不明	145×(60)	18			100住に切られる。
186	不明	115×100	46	土師器・須恵器(平安前)	平安前期	100住を切る。
187	不整形	140×(108)	25	土師器片(古墳前～後)		100住に切られる。
188	不整楕円形	114×92	43			97・99住を切る。
189	楕円形	110×85	25	土師器片(古墳前～奈良)		97・99・100住を切る。
190	楕円形	98×62	32	土師器片(古墳前～奈良)		97・99住を切る。
191	不整楕円形	225×165	28	土師器片(古墳前～奈良)	奈良	97・99住を切る。
192	楕円形	210×126	10	土師器・須恵器片(古墳前～平安)		97・99住を切る。
193	(楕円形)	(75)×63	16	土師器片(古墳前～平安)		97住を切る。
194	長楕円形	107×56	28	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)		97住を切る。
195	楕円形	146×126	30			97住を切る。
196	隅丸長方形	88×88	20			SK197に切られる。
197	不整形	98×88	27			SK196を切る。
198	不整形	112×60	35			100住を切る。
199	楕円形	60×45	27			100住を切る。
200	楕円形	90×53	46			100住を切る。
201	円形	86×85	90			100住に切られる。

202	隅丸長方形	(115)×105	8	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量		SK203に切られる。
203	隅丸長方形	244×154	30	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量		SK202を切る。
204	円形	69×70	23	土師器片(古墳前)少量		
205	不明	(220)×158	15			130住・12掘立・14井戸・SK207に切られる。
206	不明	(197)×184	29			130住を切り、SK207に切られる。
207	楕円形	421×267	35	土師器・須恵器片	奈良後半	77・130住・SK205・206を切る。
208	円形	100×97	23			
209	不整形	(97)×55	18	白玉		
210	楕円形	102×56	31	土師器片(平安)少量		
211	隅丸長方形	308×123	20	土師器片(古墳前～奈良)少量		85住を切る。
212	楕円形	(140)×91	47	土師器片(古墳前～後)少量		SK213に切られる。
213	不整楕円形	122×104	50	土師器片(白鳳)少量		SK212を切る。
214	楕円形	65×48	47	土師器片(奈良)少量		
215	楕円形	90×80	55	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)		113住を切る。
216	楕円形	89×68	47	土師器片(古墳前～平安)少量		105住を切る。
217	円形	54×50	28	土師器片(古墳中)少量	古墳中期	
218	不整円形	94×84	26	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量		
219	楕円形	93×74	33	土師器・須恵器片(白鳳～平安)少量		
220	隅丸長方形	108×68	40			
221	隅丸長方形	192×77	9	土師器片(古墳前～平安)少量		
222	楕円形	77×62	45	土師器片(古墳前)少量	古墳前期	
223	楕円形	100×78	51	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		
224	楕円形	70×53	27			101住を切る。
225	不明	52×(28)	34			101住に切られる。
226	楕円形	78×62	48	土師器・須恵器片(古墳後期)		
227	不整楕円形	112×80	20	土師器片(古墳前・後)少量		106住を切る。
228	不明	(47)×66	75			102住を切る。
229	不明	175×(110)	15			102住を切る。
230	楕円形	68×60	29			102住を切る。
231	不整隅丸長方形	68×44	46			107住を切る。
232	隅丸方形	93×80	62			107住を切る。
233	隅丸長方形	298×112	40			109住を切る。
234	楕円形	128×95	76			110住を切る。
235	楕円形	84×71	50			110住を切る。
236	隅丸長方形	156×78	54	土師器片(古墳前～後)少量		111住を切る。
237	不整楕円形	120×78	12			111住を切る。
238	隅丸長方形	140×81	63	土師器片(古墳前)少量		108住を切る。
239	楕円形	120×84	30	骨片・炭化材	中世	111住を切る。火葬墓
240	隅丸長方形	134×65	25	土師器・在地産片口鉢片、骨片?、炭化材	中世	火葬墓
241	楕円形	75×53	20			119住を切る。
242	不整形	90×103	45	土師器片少量(奈良)、鉄鏝、貝果穴泥岩	白鳳～奈良	119住を切る。
243	隅丸長方形	103×58	53	土師器片少量(白鳳)		88・119住を切る。
244	楕円形	73×52	24	土師器片少量(古墳前・中)		119住を切る。

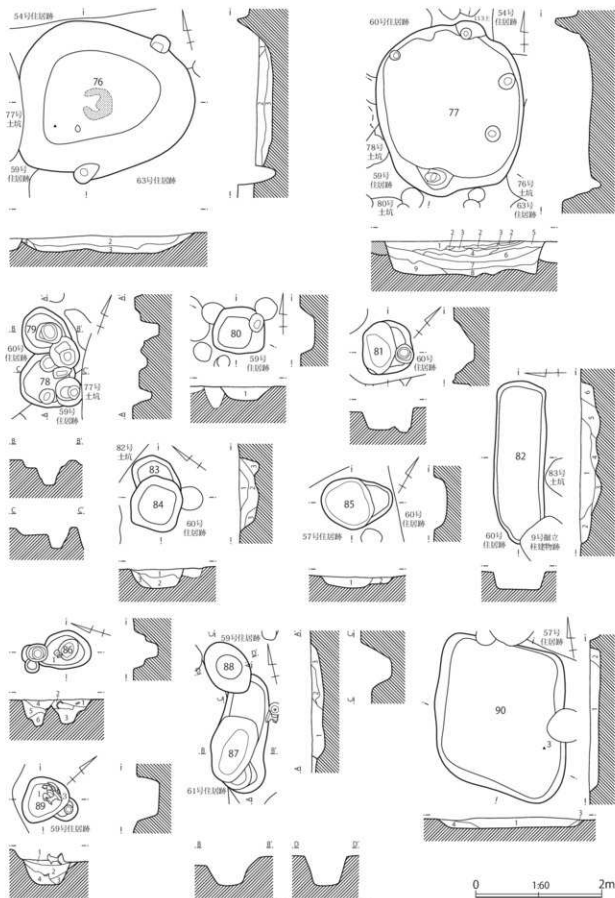
245	不 整 形	74×54	28	土師器片少量(白鳳・奈良)		119住を切る。
246	楕 円 形	92×78	32	土師器片少量(古墳前)		116住を切る。
247	隅 丸 方 形	74×66	56	土師器片少量(古墳前～平安)		116・122住を切る。
248	(隅丸長方形)	(110)×76	42	土師器片少量(古墳前～後)		116・122住を切る。
249	隅丸長方形	195×84	52	土師器・須恵器・在地産片口鉢・近世陶磁器・瓦片	江戸後期以降	88住を切る。
250	隅丸長方形	255×94	51	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)		116住・SK248を切る。
251	隅丸方形	145×150	22	土師器片(古墳後～白鳳)少量		124住を切る。
252	欠 番					
253	隅丸長方形	217×181	50	土師器片(古墳)		123・127住を切り、126住に切られる。
254	不整隅丸長方形	215×207	71	土師器・須恵器片(古墳)		123住を切り、125住に切られる。
255	楕 円 形	85×60	16	土師器・須恵器片少量	白鳳・奈良	125住を切る。
256	隅丸長方形	107×50	30	土師器・須恵器片少量	白鳳・奈良	125・126住に切られる。
257	(楕円形)	100×(125)	18	土師器片(古墳前～奈良)少量		
258	隅丸方形	64×60	68	土師器片(古墳前～白鳳)少量		
259	円 形	46×46	50	土師器・須恵器片(古墳後～平安)少量		
260	楕 円 形	114×93	30	土師器片(古墳後)少量		
261	不 整 方 形	66×66	52	土師器片(古墳前・後)少量		
262	楕 円 形	90×78	70	磨石		134住を切る。
263	不整楕円形	90×70	65	土師器片(古墳前・後)少量		103・118住を切る。
264	不 整 円 形	73×70	88	土師器片(古墳前)少量		
265	不 整 形	74×68	34	土師器片(古墳前～平安)少量		118住を切る。
266	不 整 形	78×77	34	土師器片(古墳前～白鳳)少量		118住を切る。
267	隅丸方形	(67)×70	38	土師器片(古墳後)少量		116住を切る。
268	楕 円 形	80×60	39	土師器片(古墳前・後)少量		116住を切る。
269	楕 円 形	65×55	45	土師器片(古墳後～白鳳)少量		
270	楕 円 形	63×54	60			128住を切る。
271	楕 円 形	63×58	45			
272	楕 円 形	95×76	13	土師器片(古墳後～平安)少量		
273	長楕円形	172×90	14	土師器片(古墳前～平安)少量		
274	楕 円 形	115×86	33	土師器片(古墳前～)平安少量		
275	不 整 形	136×87	35	土師器片(古墳前・白鳳)少量		137住を切る。
276	円 形	63×63	45			
277	隅丸長方形	68×55	54	土師器片(古墳前～平安)少量		SK278に切られる。
278	円 形	60×60	44	土師器片(古墳後)少量		SK277を切る。
279	不 整 形	(75)×56	31	土師器・須恵器片(古墳前・奈良)少量		
280	隅丸長方形	177×100	25	土師器・須恵器片(古墳前・後)少量		14掘立を切る。
281	隅丸長方形	81×46	18			
282	楕 円 形	57×48	64	土師器片(古墳後～平安)少量		14掘立を切る。
283	欠 番					
284	円 形	58×55	70	土師器片(古墳前～白鳳)少量		121住に切られる。
285	不 明	(78)×75	25	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量		SK286・287に切られる。
286	隅丸長方形	204×133	28	土師器・須恵器片(古墳中・奈良)少量		14掘立・SK285を切る。
287	隅丸長方形	244×137	38	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量		SK285を切る。

288	(楕円形)	160×(150)	20	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		SK289・SK290に切られる。
289	隅丸長方形	(126)×96	26	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		SK288を切る。
290	楕円形	85×55	32	土師器片(古墳前～平安)、常滑、在地産片口跡少量	中世以降	SK291に切られる。
291	楕円形	74×50	12	土師器・須恵器片(古墳前～後)少量	中世以降	SK290を切る。
292	楕円形	130×139	33	土師器・須恵器片(古墳前～白鳳)少量		SK289と重複。
293	楕円形	76×66	44	土師器片(古墳後)少量		
294	楕円形	54×45	37			SK295を切る。
295	不整楕円形	265×155	47			129住・SK294を切る。
296	隅丸長方形	85×78	63	土師器片(古墳前・中)少量		SK295に切られている。
297	(隅丸長方形)	(355)×115	12	土師器片少量(古墳後期)		128住に切られる。
298	隅丸長方形	410×213	33	土師器・須恵器片少量(古墳前～奈良)		129住を切る。
299	隅丸長方形	310×154	23	土師器・須恵器片少量(平安前)		
300	(隅丸長方形)	(80)×54	38	土師器片(奈良・平安)少量		SK302に切られる。
301	(隅丸長方形)	(115)×101	16	土師器・須恵器片(古墳後～白鳳)少量		SK302に切られる。
302	隅丸長方形	400×140	40	土師器・須恵器・近世磁器片少量	18世紀後半以降	129住・SK300・301を切る。
303	長楕円形	106×66	23	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		
304	不整形	43×43	26	異形土器	古墳後期?	
305	長楕円形	223×95	26	土師器片(古墳前・後)少量		15掘立を切る。
306	円形	(105)×106	40	土師器・須恵器片(平安)少量	平安	15掘立を切り、SK307に切られる。
307	円形	100×98	40	土師器片(古墳前～白鳳)少量	平安以降	15掘立・SK306を切る。
308	楕円形	71×60	28	土師器長胴甕(古墳後)	古墳後期	15掘立を切る。
309	隅丸長方形	146×(115)	24	土師器片(古墳中・後)少量		SK310に切られる。
310	楕円形	123×108	61	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		SK309を切る。
311	不明	(110)×119	40			
312	不整形	(133)×155	48	土師器片(古墳後)少量	古墳後期	13溝に切られる。
313	不整形	168×147	29	土師器・須恵器片(平安)少量	平安	SK314を切る。
314	不整円形	112×108	20	土師器・須恵器片(平安)少量	平安	SK323に切られる。
315	不整隅丸長方形	95×64	18			
316	長楕円形	140×50	24	土師器片(平安)少量	平安	
317	隅丸長方形	253×166	29			135住を切る。
318	隅丸長方形	155×67	30	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		
319	不整隅丸長方形	95×58	5			
320	楕円形	130×126	28	土師器	古墳後期	138・139住に切られる。
321	隅丸長方形	64×57	63			
322	不整楕円形	89×67	50	土師器片(古墳前～白鳳)少量		
323	欠番					
324	欠番					
325	隅丸長方形	314×94	16	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		8掘立を切る。
326	欠番					
327	不明	62×(21)	41			
328	欠番					

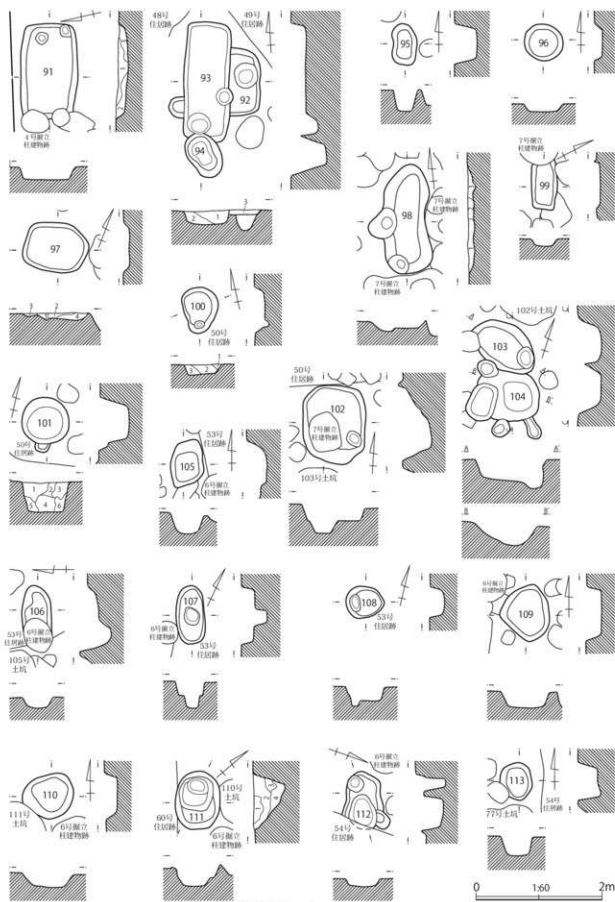
329	欠番					
330	欠番					
331	隅丸長方形	165×120	28	土師器片(古墳前～奈良)少量		141・146住を切る。
332	欠番					
333	不整形	90×87	50			147住に切られる。
334	欠番					
335	隅丸長方形	75×53	34	土師器片(奈良)少量		
336	不整隅丸長方形	183×145	71			131住を切り、132住に切られる。
337	隅丸長方形	78×48	38	土師器片(古墳後～平安)少量		
338	隅丸長方形	58×52	34	土師器片(奈良・平安)少量、土鏝		
339	欠番					
340	円形	194×206	不明			148・152住を切る。
341	不整形	145×110	40	土師器、耳環	平安前期	148・149住を切る。
342	隅丸長方形	72×55	52	土師器	平安中期以降	150住を切る。
343	楕円形	(108)×95	22	土師器片(古墳中・平安)少量		162住に切られる。
344	不整隅丸方形	90×80	31	土師器片(古墳前・奈良)少量		147・149・162住を切る。
345	隅丸長方形	84×60	15	土師器片(古墳前～白鳳)少量		160・161住を切る。
346	楕円形	(80)×89	18			
347	円形	91×88	32	土師器片(古墳前～平安)少量		168住を切る。
348	円形	90×91	35			168住を切る。
349	(隅丸長方形)	(274)×197	16	土師器	古墳後期初頭	168住を切る。
350	(円形)	93×(40)	22	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量	奈良後半以前	160住に切られる。
351	不整楕円形	65×59	34	土師器片(奈良末)少量		
352	楕円形	67×64	28	土師器片(白鳳)少量		
353	不整形	120×73	35			
354	隅丸方形	51×49	24	土師器片(古墳後)少量		
355	円形	62×70	66	土師器片(古墳後)少量		
356	不整形	75×60	50	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		
357	楕円形	57×64	33	土師器片(古墳前・白鳳)少量	白鳳	
358	不整楕円形	195×164	30			169住を切る。
359	不明	(155)×95	10	土師器・須恵器片(白鳳)少量		
360	不整楕円形	160×90	11	土師器片(白鳳)少量		18溝に切られる。
361	楕円形	118×97	43	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		
362	楕円形	65×52	68			156・157住を切る。
363	不整隅丸長方形	70×60	30	土師器・須恵器片(古墳前～奈良)少量		
364	不整隅丸長方形	95×70	25			165住を切る。
365	不整楕円形	88×70	21	土師器・須恵器(奈良末～平安初)少量	平安初頭	165住を切る。
366	(楕円形)	99×(83)	25	土師器(奈良・平安)少量	古代	
367	長楕円形	80×50	45	土師器(奈良末～平安初)少量	平安初頭	165住を切る。
368	(楕円形)	(120)×140	50	土師器(奈良末)少量	奈良末	165住を切る。
369	不整楕円形	100×93	36	土師器(奈良末)少量	奈良末	165住を切る。
370	楕円形	95×72	39	土師器・須恵器片(奈良・平安)少量		163住を切る。
371	不整隅丸長方形	173×60	25	土師器・須恵器片(古墳前～平安)少量		157・163住を切る。



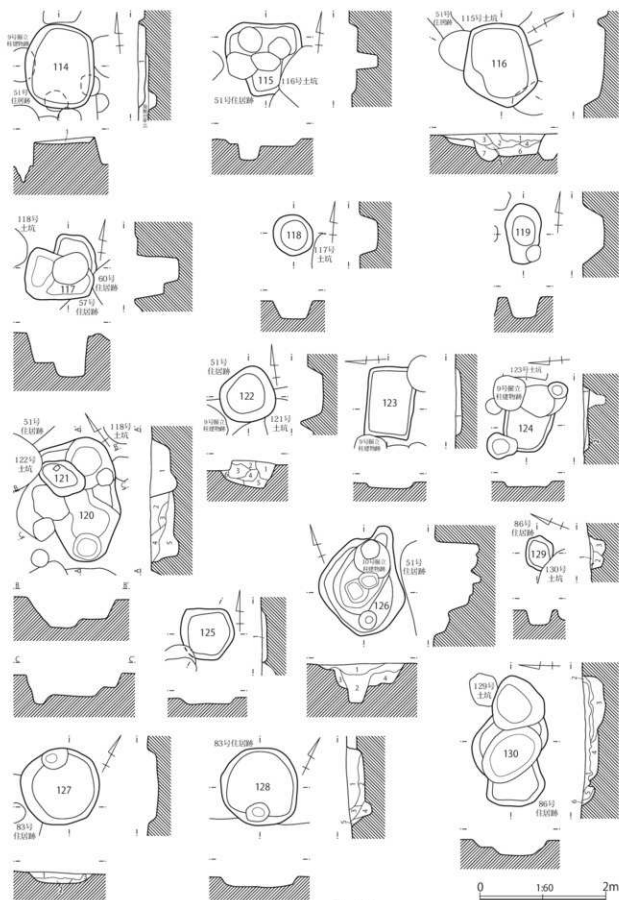
第270图 土坑(1)



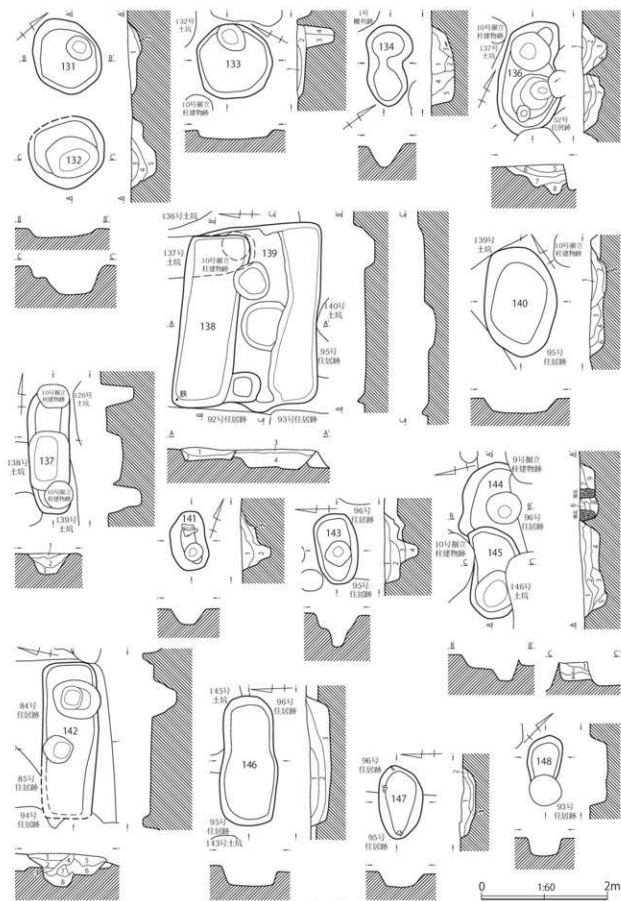
第271图 土坑(2)



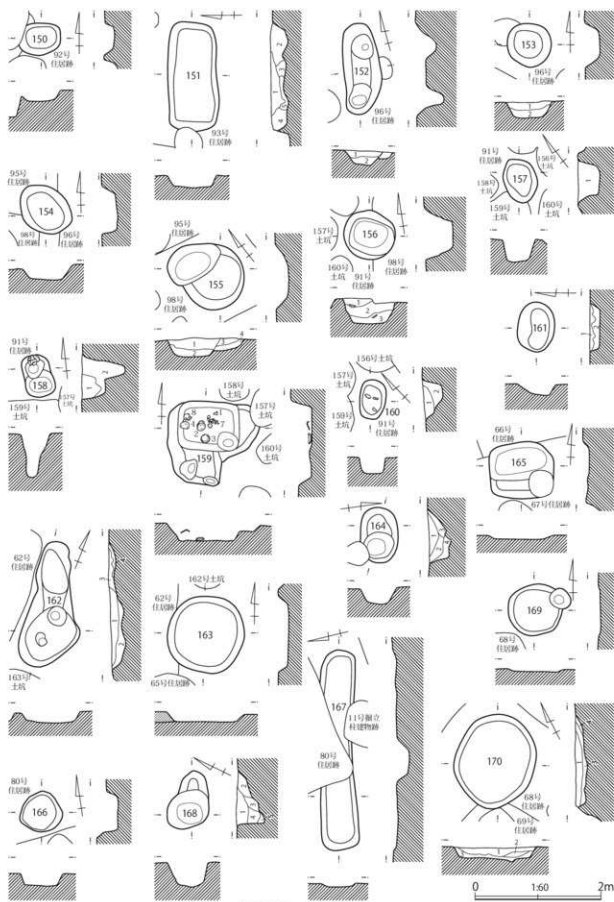
第272图 土坑(3)



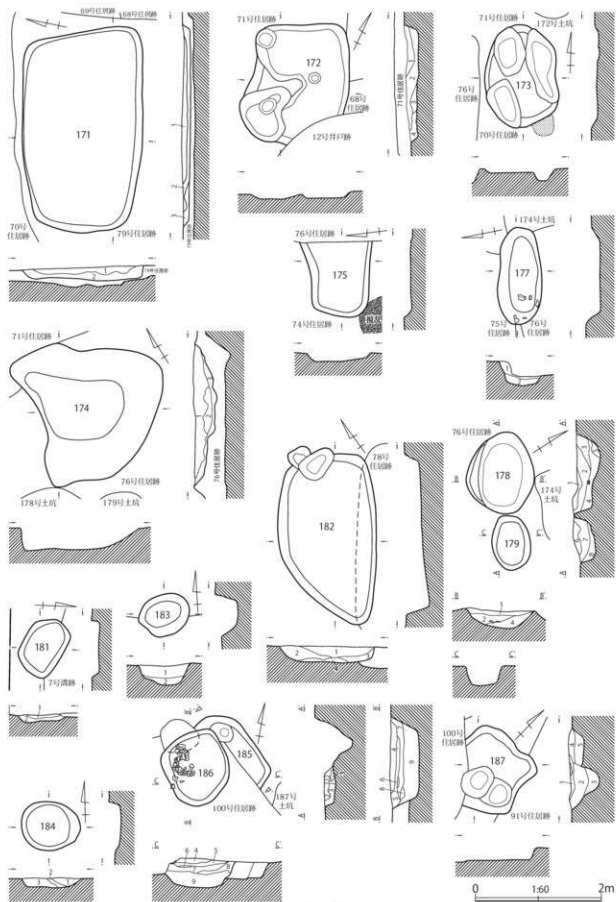
第273图 土坑(4)



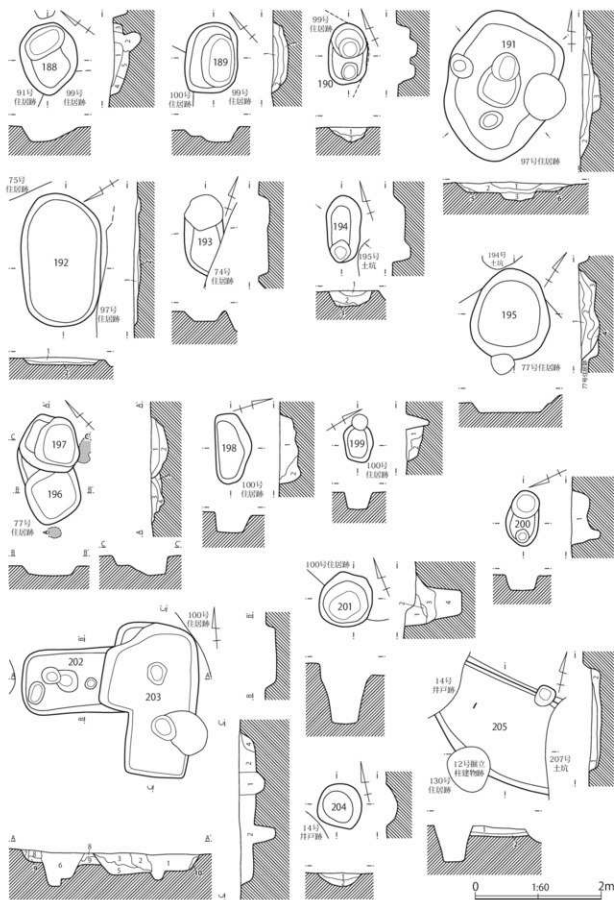
第274图 土坑(5)



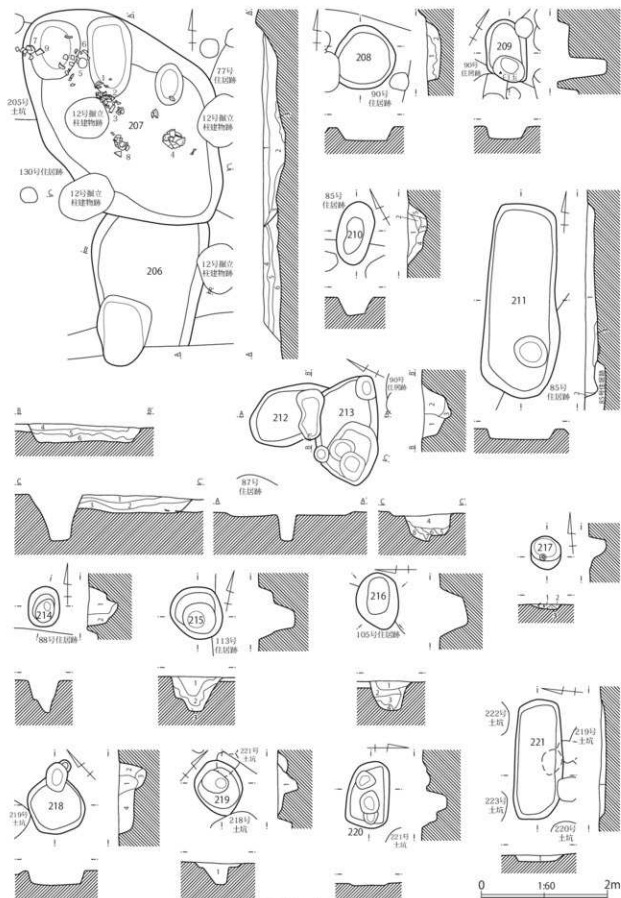
第275图 土坑(6)



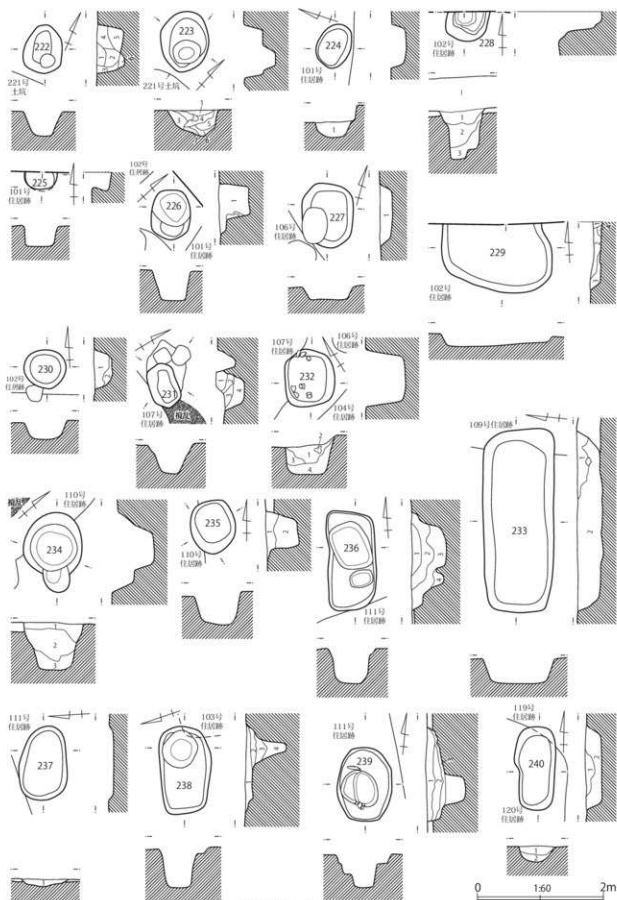
第276图 土坑(7)



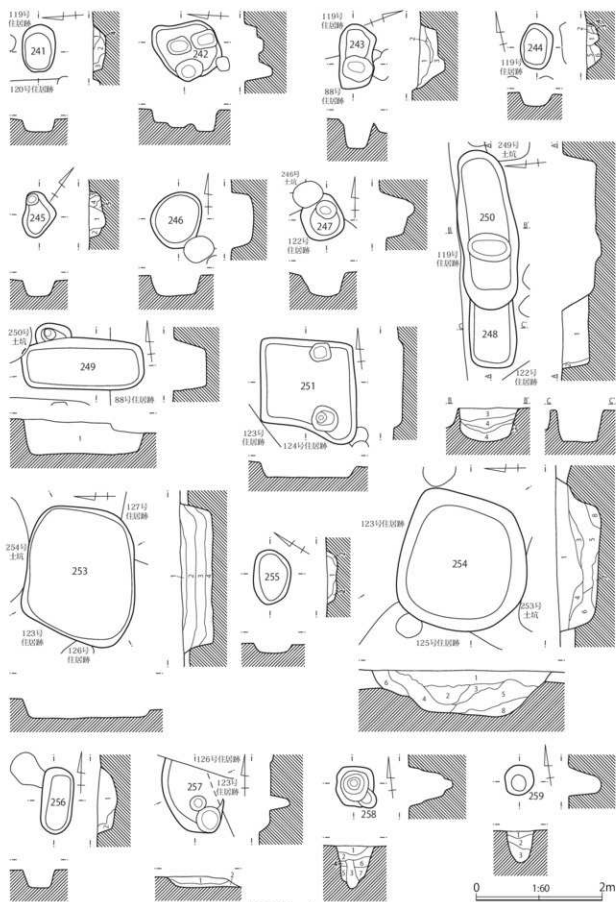
第277图 土坑(8)



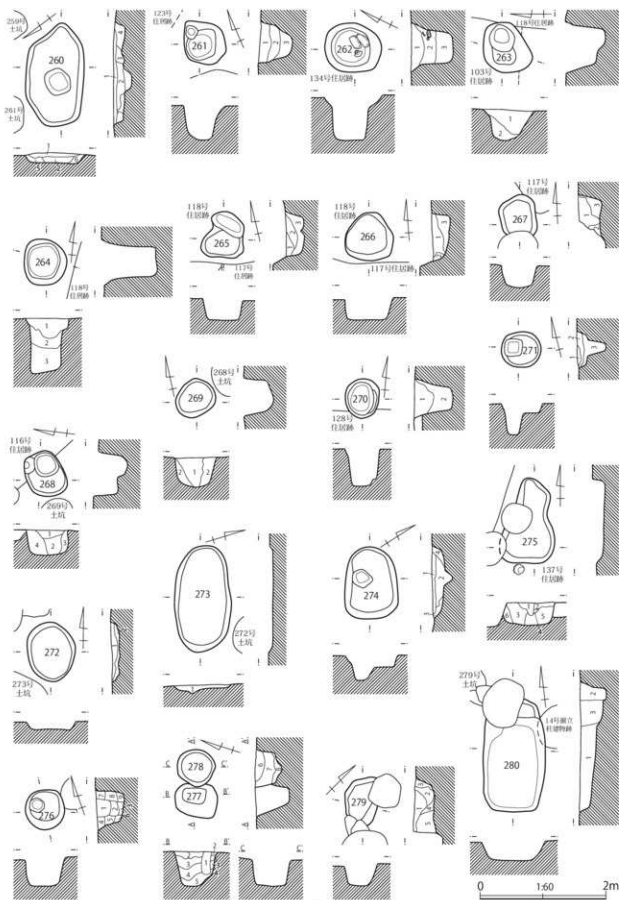
第278图 土坑(9)



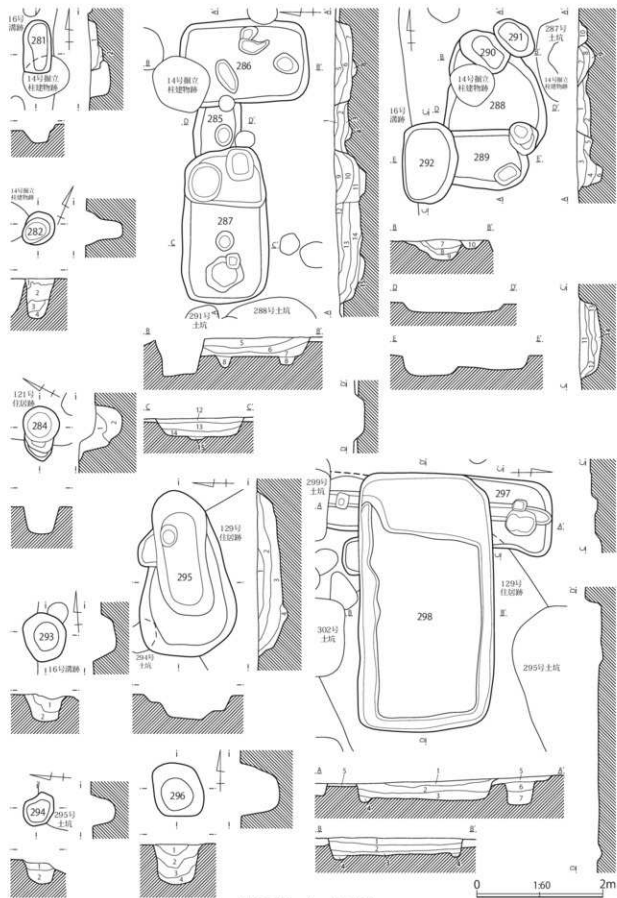
第279图 土坑(10)



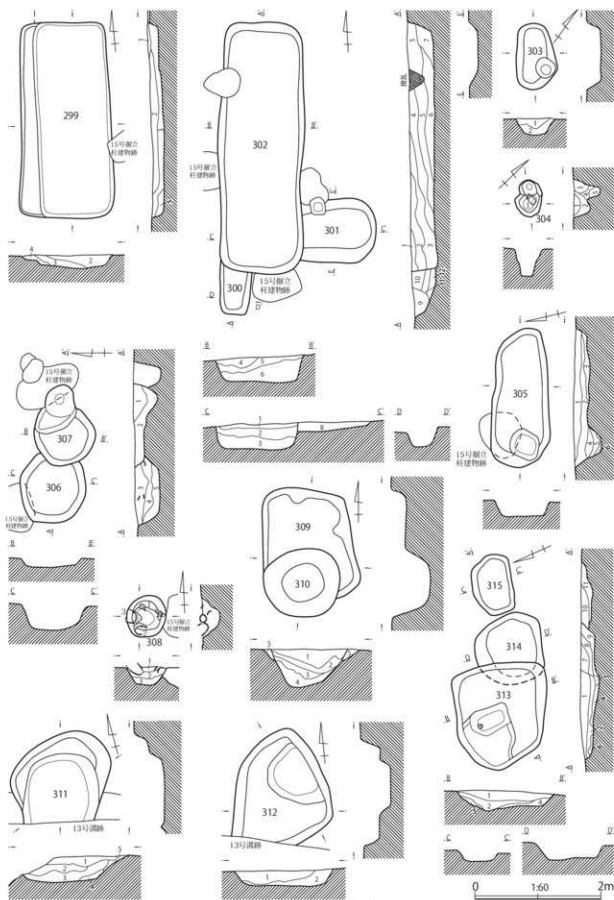
第280图 土坑 (11)



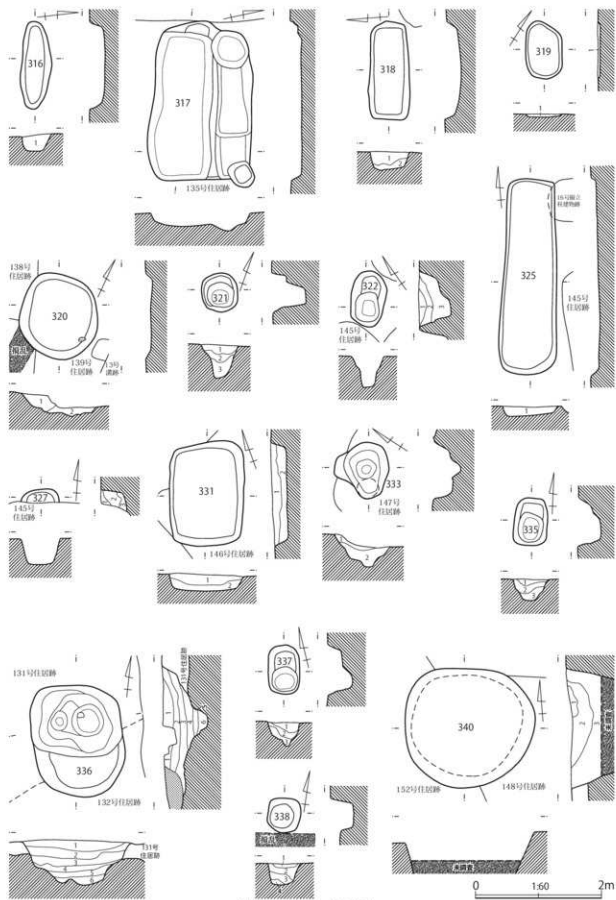
第281图 土坑(12)



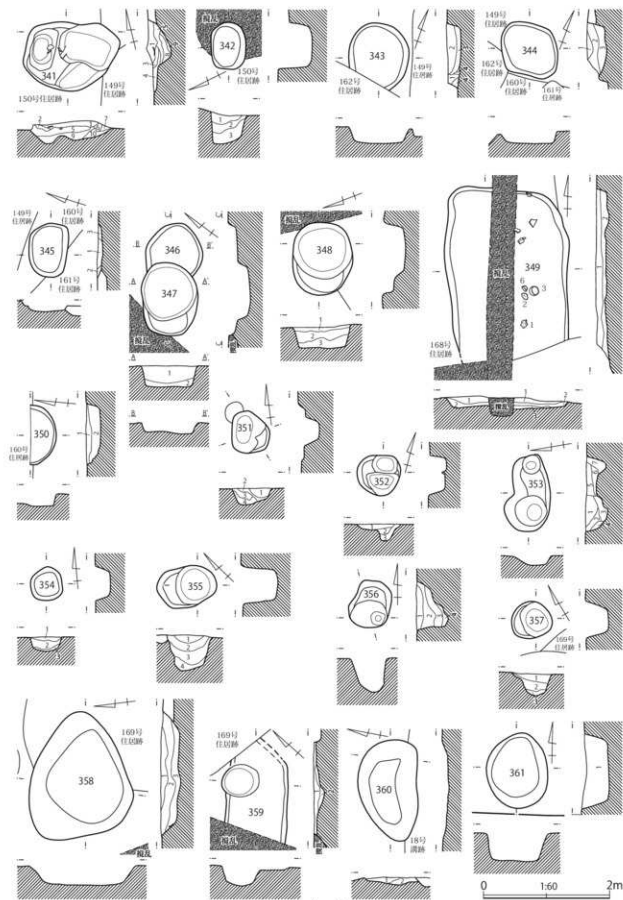
第282图 土坑(13)



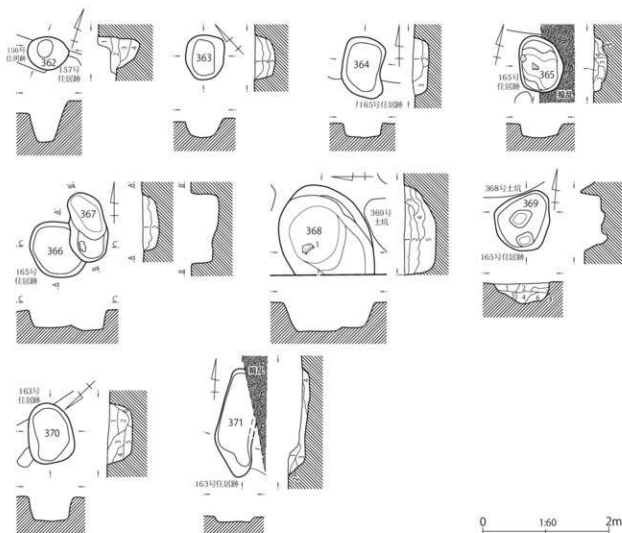
第283图 土坑 (14)



第284图 土坑 (15)



第285图 土坑 (16)



第286図 土坑(17)

第58号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層(径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。しまりを有する。)
 第2層：黄褐色土層(径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を斑状に含む。しまりを有する。)
 第3層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層(径0.5 cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)

第59号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を斑状に、ラミナを部分的に含む。)
 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。)

第60号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、10cmのロームブロックを微量含む。)
 第2層：暗褐色土層(径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径8 cmのロームブロックを微量含む。しまりを有する。)
 第3層：黄褐色土層(ロームブロックを主体に、暗褐色土を含む。しまりを有する。)

第61・62・63・64号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層(暗褐色土・ロームの混合土。)
 第2層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量含む。)
 第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量含む。)
 第4層：黄褐色土層(ロームを主体に、暗褐色土を微量含む。)
 第5層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、径0.5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第6層：褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第7層：褐色土層（ローム粒子を少量、径0.5～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第8層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。）

第65号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロックを微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。）

第66号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を少量含む。）

第67号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、浅間山系A軽石を微量含む。）

第2層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第4層：黄褐色土層（径0.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第5層：暗褐色土層（暗褐色土・径6～10cmのロームブロックの混合土。）

第68号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、浅間山系A軽石・径15cmのロームブロックを微量含む。）

第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、径0.5～1.5cmのロームブロックを微量含む。）

第70号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）

第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第71号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第72・73号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロックを斑状に少量含む。）

第4層：黄褐色土層（径0.5～15cmのロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、浅間山系A軽石を微量含む。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量、浅間山系A軽石を微量含む。）

第7層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを多量含む。）

第75号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第4層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームブロックの混合土。）

第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第76号土坑土層説明

第1層：灰黄褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第2層：灰黄褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第3層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土・径0.5～5cmのロームブロック・鉄分を多量含む。）

第4層：灰黄褐色土層（土層説明なし。）

第77号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混成土。径0.5～1.5cmの焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混成土。焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（黒褐色土を主体に、ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第80号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

第82号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1.5cmのロームブロックを少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～4cmのロームブロックを斑状に少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径6～7cmのロームブロックを右半に少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを斑状に含む。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを右半に少量含む。）

第83・84号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量、焼土粒子・炭化物を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを多量含む。）

第85号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第86号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を斑状に多量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。）
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を主体に、暗褐色土を含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを不規則に少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～6cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロックを微量含む。しまりを有する。）

第87・88号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1.5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～7cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）

第89号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富む。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）

第90号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、径0.5～0.8cmの炭化物を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を塊状に多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）

第91号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1.5cmのロームブロック・炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第92・93・94号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1.5cmのロームブロックを少量含む。）

第97号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。しまりを有する。）

第3層：黄褐色土層（ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。しまりを有する。）

第98号土坑土層説明

第1層：褐色土層（暗褐色土・ロームを主体に、径0.5～0.8cmのロームブロックを含む。）

第2層：褐色土層（暗褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第3層：褐色土層（暗褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）

第100号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第101号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第6層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第111号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2cmのロームブロックを少量含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第114号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・径1cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第116号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりはない。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。しまりはない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。しまりはない。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりはない。）

第5層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。しまりはない。）

第6層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりはない。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。しまりはない。）

第120・121号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を不規則に多量、径0.5～4cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第122号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ローム粒子を少量、径2cmのロームブロックを微量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～10cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第123号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを少量含む。）

第124号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを少量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。）

第125号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第126号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第127号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第128号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富む。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）

第129号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第130号土坑土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。）
- 第2層：褐色土層（灰黄褐色粘質土・ロームの混合土。）
- 第3層：褐色土層（灰黄褐色粘質土・ロームの斑状の混合土。炭化物を微量含む。）

- 第4層：灰黄褐色土層（ロームを主体に、灰黄褐色粘質土を斑状に含む。粘性に富む。）
 第5層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。）
 第6層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第131・132号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第133号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第134号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第136号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第137号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第138・139号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘質に富み、しまりを有する。）

第140号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第141号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第142号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
 第6層：暗褐色土層（径0.5～6cmのロームブロック・ローム粒子を塊状に含む。）
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量含む。）
 第8層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第143号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第144・145号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・径1cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第6～9層（土層説明なし。）

第146号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第147号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第151号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第4層：褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第5層：黄褐色土層（径0.5～20cmのロームブロックを含む。）

第152号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第153号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化物を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第155号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径10cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（径3cmのロームブロック・炭化物を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第156号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第157号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを含む。）

第158号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。粘性・しまりともない。）

第160号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。粘性・しまりともない。）

第161号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロックを斑状に微量含む。）
- 第2層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第162号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
- 第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
- 第4層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）

第164号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第168号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～0.8cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
- 第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）
- 第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性に富み、しまりを有する。）

第170号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第171号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（灰黄褐色粘質土を多量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第172号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色シルト質砂層（径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：暗褐色シルト質砂層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色シルト質砂層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色シルト質砂層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第174号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、径3cmのロームブロック・炭化物・灰白色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰褐色シルト質砂層（炭化物・炭化粒子を多量、焼土粒子を少量、黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：灰褐色シルト質砂層（炭化物を少量、径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・白色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第177号土坑土層説明

- 第1層：灰黄褐色シルト質砂層（焼土ブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰黄褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第178・179号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色シルト質砂層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、焼土粒子・径0.5cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロック・炭化物・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：灰褐色シルト質砂層（径1cmの炭化物・炭化粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：褐色シルト質砂層（黄褐色粘土粒子を多量、径1cmの焼土ブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色シルト質砂層（焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、焼土粒子・黄褐色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第8層：暗褐色シルト質砂層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第181号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色砂質土層（白色粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色砂質土層（ローム粒子を多量、白色粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第182号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第183号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。）
 第2層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）

第184号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を雲状に含む。）
 第2層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

第185・186号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を多量、ロームブロック・灰黄褐色粘質土を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を多量、ロームブロックを少量、灰黄褐色粘質土を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（炭化物を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（径0.5～8 cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第187号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1 cmのロームブロック・焼土粒子・灰黄褐色粘土を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～4 cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第188号土坑土層説明

第1層：褐色土層（暗褐色土・ロームを均一に含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第4層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を少量含む。）

第5層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第189号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1 cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径1 cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第190号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径3 cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3 cmのロームブロックを多量、径5 cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第191号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径5 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3 cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：黄褐色土層（径3 cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3 cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第192号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1 cmのロームブロックを少量、径5 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3 cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第194号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第195号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第196・197号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5～7cmのロームブロック・径3cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・径0.5cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：黄褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第198号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。しまりを有する。）
 第2層：明褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第199号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。しまりはない。）
 第2層：明黄褐色土層（径0.8～2cmの明黄褐色土ブロックを微量含む。しまりを有する。）

第200号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。しまりを有する。）

第201号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（暗褐色土ブロックを少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化物を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第202・203号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）
 第4層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）
 第6層：褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第7層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第8層：褐色土層（ロームブロックを少量含む。）
 第9層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、暗褐色土を少量含む。）
 第10層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を斑状に含む。）

第204号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第205号土坑土層説明

第1層：暗褐色シルト質砂層（径1cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子・炭化物・径3cmの灰白色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色シルト質砂層（径1～3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第206・207号土坑土層説明

第1層：黄褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、ローム粒子・径3cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黄褐色シルト質砂層（径1cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色シルト質砂層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黄褐色シルト質砂層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第208号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を不規則に多量含む。）

第2層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）

第210号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）

第4層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを下部に少量含む。）

第211号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第3層：暗褐色土層（黒褐色土・ロームの混合土。）

第212・213号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。）

第2層：黄褐色土層（暗褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第3層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を斑状に含む。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に多量、焼土粒子を少量含む。）

第5層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）

第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第8層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）

第214号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第215号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。）

第3層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第216号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームブロックの混合土。）

第217号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。しまりはない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。しまりはない。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。しまりはない。）

第218号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。しまりを有する。）

第219号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第221号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第222号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
- 第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第223号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に少量含む。）
- 第3層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
- 第5層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を右半に多量含む。）
- 第7層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）

第224号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含む。）

第226号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～4 cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）

第227号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～2 cmのロームブロック少量を含む。）

第228号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（表土。浅間山系A軽石を下部に含む。）
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石・焼土粒子・炭化物を少量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）

第229号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
 第4層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。）

第230号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）

第231号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

第232号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第233号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、黒褐色土ブロックを微量含む。）

第234号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径4cmのロームブロックを微量含む。）
 第3層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。）

第235号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を塊状に多量、浅間山系A軽石を少量含む。）

第236号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：黄褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第237号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第238号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第239号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（炭化粒子・骨片を多量、焼土粒子・径3～5cmの炭化物を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第240号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土ブロック・焼土粒子・径0.5cmの炭化物を微量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を多量含む。）

第241号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を斑状に多量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子を多量含む。しまりを有する。）

第243号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。）

第2層：灰黄褐色シルト質層（暗褐色土・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）

第244号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を下半に多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第245号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第248・250号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、径2～5cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。）

第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。しまりを有する。）

第249号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を多量、浅間山系A軽石を上半に少量、径2～5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。）

第253号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（白色粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第254号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。）

- 第4層：暗褐色土層 (径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層 (径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。)
 第7層：黄褐色土層 (暗褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)
 第8層：黄褐色土層 (暗褐色土を主体に、径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。しまりを有する。)

第255号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。)
 第2層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量含む。)

第256号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。)
 第2層：暗褐色土層 (径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。)

第257号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。)

第258号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：黒褐色土層 (ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第7層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第259号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：褐色土層 (ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第260号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒子・白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：褐色土層 (ローム粒子を少量、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第4層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第5層：暗褐色土層 (ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第6層：暗褐色土層 (径3cmのロームブロックを多量含む。粘性・しまりともない。)
 第7層：黄褐色土層 (ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第261号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：暗褐色土層 (ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：暗褐色土層 (径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)

第262号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第2層：黒褐色土層 (径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
 第3層：黒褐色土層 (ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。)

第263号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。)

第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。）

第264号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。）
 第2層：褐色土層（ロームを主体に、径0.5～5cmの暗褐色土ブロックを縞状に少量含む。）
 第3層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土ブロックを微量含む。）

第265号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。焼土粒子・炭化物を微量含む。）
 第2層：褐色土層（径0.5～5cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。）
 第3層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を斑状に含む。）

第266号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第2層：褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
 第3層：褐色土層（暗褐色土を含む。）

第267号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを上半に多量、ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第268号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第269号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.7cmのロームブロックを微量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、径2～4cmのロームブロックを微量含む。）

第270号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1.5～3cmのロームブロックを微量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。）

第271号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（白色粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第272号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第273号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第274号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第275号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）

- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）
- 第6層：暗褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。）

第276号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第277・278号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径5cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第6層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第279号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。）
- 第3層：黄褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第280号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）

第281号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）
- 第2層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）

第282号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。）
- 第2層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合土。）
- 第3層：暗褐色土層（径2cmのロームブロック含む。）
- 第4層：褐色土層（ロームを主体に、暗褐色土を不規則に含む。）

第284号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりはない。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりはない。）

第285・286・287号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第15層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第288・289・290・291・292号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）
- 第12層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体とする。しまりを有する。）
- 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
- 第14層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。）

第293号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。しまりを有する。）

第294号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第295号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、径3～5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第296号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径10cmのロームブロック・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1～3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第297・298号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第299号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第300・301・302号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（白色粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：黒褐色土層（白色粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第12層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第303号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第304号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：土層注記なし。

第4層：土層注記なし。

第5層：土層注記なし。

第305号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：褐色土層（ローム粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第306・307号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（径3cmの灰褐色粘土ブロック・焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第308号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第309・310号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物・灰白色粘質土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物粒子・灰白色粘質土粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第311号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.2～0.3cmのローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を不規則に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（暗褐色土・ロームの斑状の混合物。粘性に富み、しまりを有する。）

第312号土坑土層説明

第1層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：明褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第313・314・315号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第316号土坑土層説明

- 第1層：灰褐色粘質土層（焼土粒子を多量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第318号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第319号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第320号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。）

第321号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第322号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第325号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを塊状に多量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第327号土坑土層説明

- 第1層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第331号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第333号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第335号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第336号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（灰褐色粘質土粒子・径3～5cmの焼土ブロックを多量、径3cmの灰褐色粘質土ブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを少量、径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第337号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

第338号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を少量、径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第340号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黄褐色シルト質砂層（暗褐色土粒子を斑状に少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子・径5cmの礫を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第341号土坑土層説明

第1層：褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色粘質土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・径3cmの焼土ブロック・炭化物・径1cmの黄褐色粘質土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色粘質土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：黒褐色土層（炭化粒子を多量、焼土粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第9層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物粒子を少量、径3cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第342号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第343号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黄褐色土層（径5cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第344号土坑土層説明

第1層：暗褐色砂質土層（浅間山系B軽石・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・径3cmの褐色粘質土ブロック・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第345号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第346・347号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・径1cmの炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第348号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）

第349号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒子・白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・径1cmの焼土ブロックを少量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第350号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、浅間山系A軽石を微量含む。しまりはない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。しまりはない。）

第351号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・白色粒子を少量、浅間山系A軽石・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、浅間山系A軽石・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径7cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第352号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第353号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第354号土坑土層説明

第1層：褐色土層（焼土粒子・炭化物を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1～7cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量、暗褐色土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第355号土坑土層説明

第1層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第356号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、径3cmのロームブロック・ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第357号土坑土層説明

第1層：褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第358号土坑土層説明

第1層：褐色土層（径1cmのロームブロック・白色粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子・径0.5cmの焼土ブロック・炭化物・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・径0.5cmの焼土ブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第359号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（白色粒子を少量、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第360号土坑土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石・灰黄褐色粘質土・径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子・鉄分を含む。しまりを有する。）
 第2層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石・灰黄褐色粘質土・灰白色粘質土を含む。しまりを有する。）

第361号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～8cmのロームブロックを含む。）

第362号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、浅間山系A軽石・径0.5～2cmのロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（径2～5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。）

第363号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子・径0.5～1.5cmの炭化ブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黄褐色土層（暗褐色土・ロームの混合土。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第364号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・炭化物を含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第2層：黄褐色土層（暗褐色土・径0.5～10cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第3層：黄褐色土層（暗褐色土・径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりはない。）

第365号土坑土層説明

- 第1層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰黄褐色粘質土の混合土。ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：灰黄褐色土層（暗褐色土・径0.5～1cmの灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒子を多量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：灰黄褐色粘質土層（灰黄褐色粘質土ブロックを多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：灰黄褐色土層（暗褐色土・焼土粒子を多量、灰黄褐色粘質土ブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第5層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土ブロック・灰黄褐色土の混合土。粘性はなく、しまりを有する。）

第366・367号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。）

第368号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを斑状に多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に多量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を斑状に含む。粘性・しまりともない。）

第369号土坑土層説明

- 第1層：黄褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、径0.5～1cmの暗褐色土ブロックを塊状に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子・炭化粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック・ローム粒子を塊状に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を上部に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第370号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を塊状に含む。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを雲状に多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を塊状に含む。）
- 第6層：黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を主体に、暗褐色土を含む。）

第371号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を雲状に少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第129表 第85号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(20.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(11.6)。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。

第130表 第86号土坑出土遺物観察表

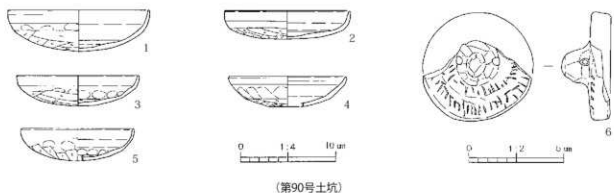
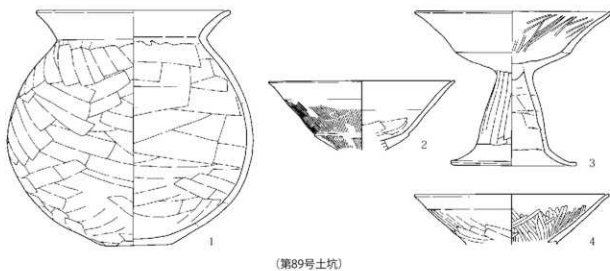
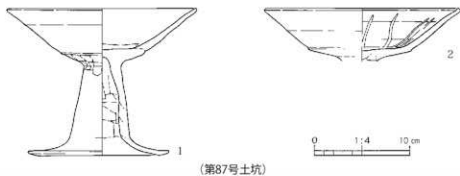
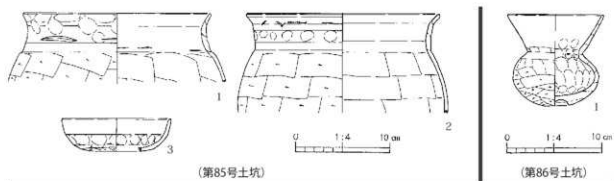
1	小形直口甕	A.口縁部径10.2。器高9.8。底部径2.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面指ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.完形。H.底部付近。
---	-------	---

第131表 第87号土坑出土遺物観察表

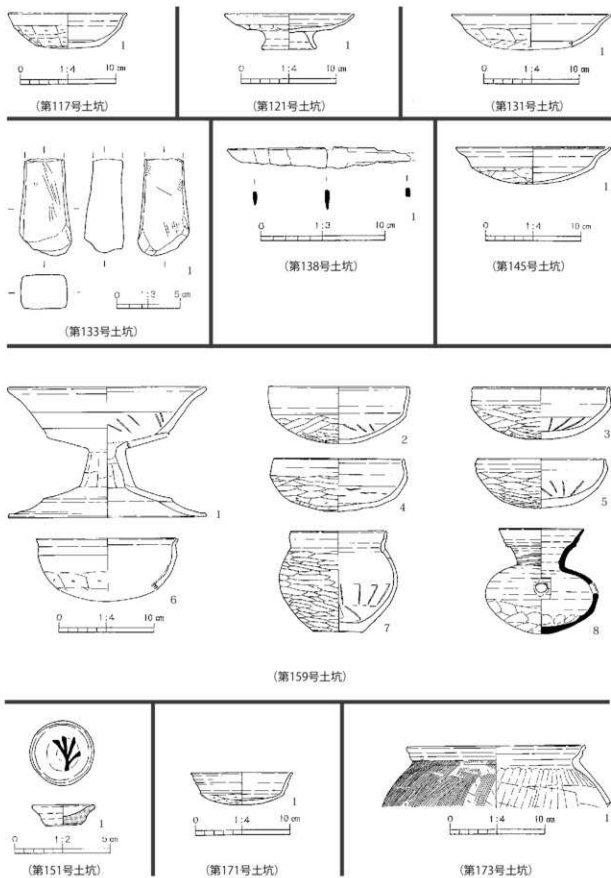
1	高 坏	A.口縁部径20.2。器高15.5。脚端部径15.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面篋ナデ。脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一明い赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
2	高 坏	A.口縁部径20.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後、内面放射状暗文を施す。坏部内外面ナデ。D.角閃石、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.坏部のみ。H.覆土中。

第132表 第89号土坑出土遺物観察表

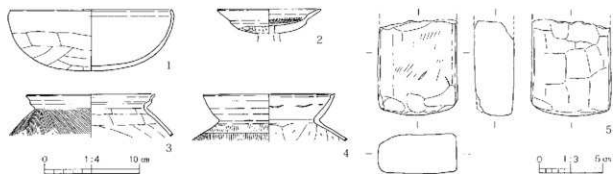
1	甕	A.口縁部径20.6。器高24.9。底部径6.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面篋ナデ。底部外面篋ナデ。D.雲母、白色粒。E.内外一淡赤褐色。F.2/3。H.No.5。
2	高 坏	A.口縁部径(19.7)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後上半ヨコナデ、内面ヨコナデ。坏部外面ハケ、内面篋ナデ。D.雲母、褐色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.坏部1/3。H.覆土中。
3	高 坏	A.口縁部径20.8。器高16.3。脚端部径13.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後、内面雑なミガキ。坏部内外面ナデ。脚柱部外面篋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.雲母、白色粒。E.外一橙褐色、内一淡赤褐色。F.ほぼ完形。H.No.1。
4	高 坏	A.口縁部径20.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面篋ナデ、内面ミガキ。D.礫、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.坏部2/3。H.No.2・4。



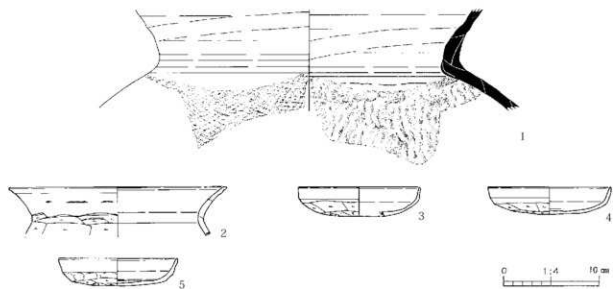
第287图 土坑出土遗物(1)



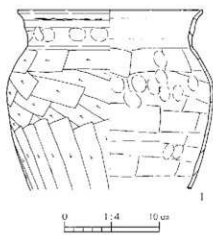
第288图 土坑出土遺物(2)



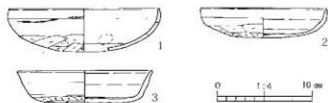
(第172号土坑)



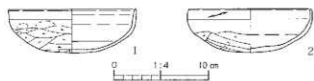
(第174号土坑)



(第178号土坑)

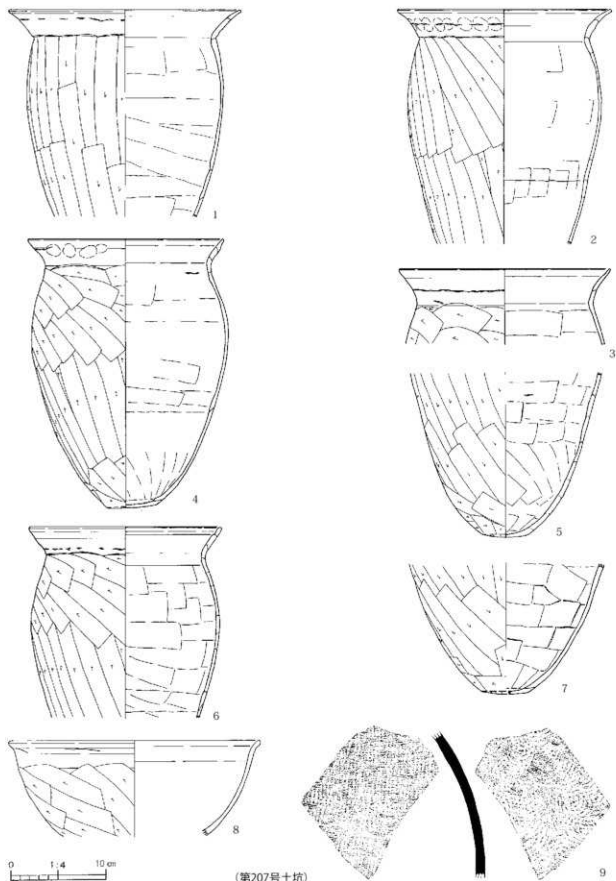


(第179号土坑)



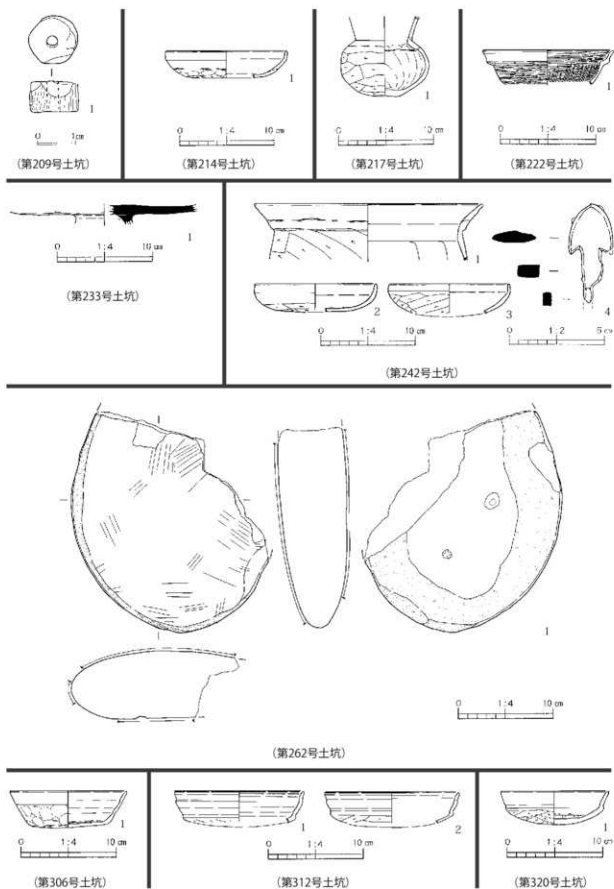
(第191号土坑)

第289图 土坑出土遺物(3)

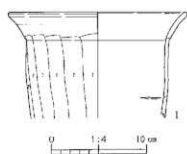


(第207号土坑)

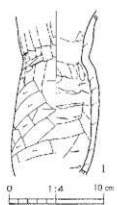
第290图 土坑出土遺物(4)



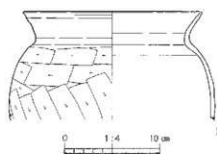
第291图 土坑出土遺物(5)



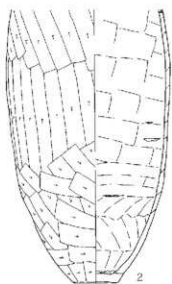
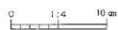
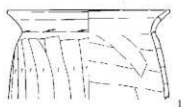
(第278号土坑)



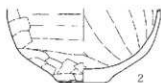
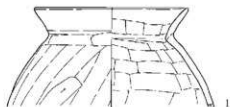
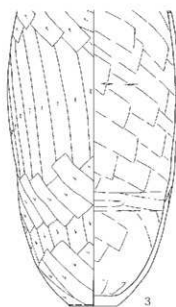
(第304号土坑)



(第368号土坑)

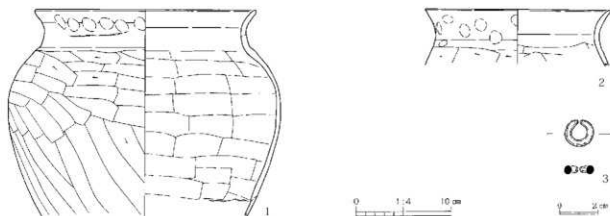


(第308号土坑)

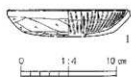


(第349号土坑)

第292图 土坑出土遺物(6)



(第341号土坑)



(第342号土坑)



(第365号土坑)

第293図 土坑出土遺物(7)

第133表 第90号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(15.0)、器高4.4。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.4)、器高3.0。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.0)、器高3.2。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(12.6)、器高3.2。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(12.4)、器高3.4。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
6	鏡形土製品	A.直径(5.8)、高さ2.6。B.手捏ね。握み部貼り付け。C.外面ナデ後、連続爪形篋描文を二重に施す。D.白色粒。E.外一暗褐色。F.1/3。G.握み部に穿孔を施す。H.覆土中。

第134表 第117号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(12.6)、器高3.8、底部径(6.8)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2強。H.覆土中。
---	---	---

第135表 第121号土坑出土遺物観察表

1	高台付皿	A.口縁部径(13.8)、器高3.8、高台部径5.8。B.粘土粗積み上げ。高台部貼り付け。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ高台部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.2/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	------	--

第136表 第131号土坑出土遺物観察表

1	皿	A.口縁部径(17.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	---	---

第137表 第133号土坑出土遺物観察表

1	柱状砥石	A.残存長7.8、最大幅4.1、最大厚3.1、重さ142.1g。D.凝灰岩。F.1/2。H.覆土中。
---	------	--

第138表 第138号土坑出土遺物観察表

1	刀 子	A.長さ14.8、身幅1.5、厚さ0.4、重さ23.1g。B.鍛造。D.鉄製。F.ほぼ完形。H.覆土中。
---	-----	--

第139表 第145号土坑出土遺物観察表

1	皿	A.口縁部径(16.4)、器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4強。H.覆土中。
---	---	--

第140表 第151号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系ミニチュア	A.口縁部径3.4、器高1.1。底部径1.8。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデの後、無色釉を施す。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡白褐色。F.完形。G.内面に緑色釉により草木文様を施す。飯事道具か?。H.覆土中。
---	------------	--

第141表 第159号土坑出土遺物観察表

1	有段高環	A.口縁部径21.0、推定高13.8、脚端部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面ナデ。脚端部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/2、脚部1/3。H.覆土中。
2	模倣環	A.口縁部径15.0、器高6.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後雑なミガキ。内面髷ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.完形。H.底面上。
3	模倣環	A.口縁部径14.6、器高5.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後雑なミガキ。内面髷ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.完形。H.底面上。
4	模倣環	A.口縁部径13.8、器高5.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後上半ミガキ。内面髷ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.2/3。H.覆土中。
5	模倣環	A.口縁部径13.6、器高5.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ。内面髷ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.完形。H.覆土中。
6	環	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.口縁部1/3。G.体部内面剥落。H.覆土中。
7	小形甕	A.口縁部径10.2、器高10.7、底部径5.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ミガキ。内面髷ナデの後上半ナデ。底部外面ナデの後外周ケズリ。D.白色粒。E.内外一黒褐色。F.4/5。H.底面上。
8	須恵器壺	A.口縁部径(9.0)、器高11.2。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。頸部外面カキメ、内面回転ナデ。胴部外面回転ナデの後下半ケズリ→底部ナデ、内面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.ほぼ完形。G.口縁部内面と胴部外面上半に降灰による自然釉がかかる。底部内面に指頭圧痕を残す。H.底面上。

第142表 第171号土坑出土遺物観察表

1	有段口縁環	A.口縁部径(10.8)、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一黒褐色。F.3/4。H.覆土中。
---	-------	--

第143表 第172号土坑出土遺物観察表

1	環	A.口縁部径(17.0)、器高6.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。G.内面斑点状剥落顕著。H.覆土中。
2	器台	A.口縁部径11.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後雑なミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.器受部のみ。H.覆土中。
3	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面髷ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
4	甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.口縁部1/2弱。G.布留式。H.覆土中。
5	砥石	A.残存長7.7、6.4、厚さ3.2、重さ252.9g。B.髷ケズリ。C.各面とも研磨。D.凝灰岩。F.1/2。G.表面に刃物による擦痕を残す。H.覆土中。

第144表 第173号土坑出土遺物観察表

1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ハケ、内面指ナデの後髷ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
---	----------	---

第145表 第174号土坑出土遺物観察表

1	須恵器大甕	A.頸部径(32.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.頸部内外面回転ナデ。胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕(青波文?)を残す。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰白色。F.頸部1/4。H.覆土中。
---	-------	--

2	長 胴 甕	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(13.0)。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径13.0。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径12.6。器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。

第146表 第178号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(19.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半1/2。G.口縁部外面と胴部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	---	--

第147表 第179号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径13.4。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径14.4。器高3.4。底部径11.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面平ケズリ。内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2。H.覆土中。

第148表 第191号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径13.6。器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.赤色粒。白色粒。E.外一淡褐色。内一茶褐色。F.1/2。G.体部外面に指頭圧痕を残す。外面に黒斑あり。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.片岩粒。赤色粒。白色粒。E.内外一明褐色。F.1/3。H.覆土中。

第149表 第207号土坑出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(24.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	長 胴 甕	A.口縁部径(22.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	長 胴 甕	A.口縁部径(22.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒。白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/3強。H.覆土中。
4	長 胴 甕	A.口縁部径20.8。器高28.5。底部径5.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ナデの後複雑なナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒。白色粒。E.外一淡褐色。内一明茶褐色。F.1/2。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
5	長 胴 甕	A.底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ。内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一明茶褐色。F.胴部下半1/3。H.覆土中。
6	長 胴 甕	A.口縁部径20.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
7	長 胴 甕	A.底部径(5.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ。内面ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.胴部下半1/4。H.覆土中。
8	大形鉢	A.口縁部径(26.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面丁寧なナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
9	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)の後櫛歯状工具によるヨコナデ。内面で道具痕(青海波文)を残す。D.長石。白色粒。E.内外一明褐色。肉一暗茶褐色。F.胴部破片。G.児玉窟窿の可能性が高い。H.覆土中。

第150表 第209号土坑出土遺物観察表

1	白 玉	A.直径1.3。高さ0.8。重さ2.17g。B.碧玉もしくは棒状の形態から判断。C.表面未調整。側面研磨。D.滑石。F.完形。G.片面穿孔。H.覆土中。
---	-----	--

第151表 第214号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.0)。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	---	--

第152表 第217号土坑出土遺物観察表

1	小形直口壺	A.残存高8.5、底部径2.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部3/4欠損。H.覆土中。
---	-------	--

第153表 第222号土坑出土遺物観察表

1	有段口縁鉢	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。体部内外面ミガキ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
---	-------	---

第154表 第233号土坑出土遺物観察表

1	須恵器 台付盤	B.ロクロ成形。台部貼り付け。C.底部外面回転盤ケズリ、内面回転ナデ。台部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一黒灰色。肉一暗灰色。F.底部1/4。H.覆土中。
---	------------	--

第155表 第242号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(24.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2弱。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。器高2.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(12.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	鉄 鏝	A.残存長5.2、最大幅2.3、厚さ0.6、重さ7.2g。B.鍛造。D.鉄製。F.基部欠損。H.覆土中。

第156表 第262号土坑出土遺物観察表

1	磨 石	A.残存長23.5、残存幅20.8、厚さ7.0、重さ4350g。B.自然石を利用。C.表裏面及び側面は良く磨かれている。特に表面は非常に平滑。D.安山岩。F.1/2強。G.裏面に敲打痕あり。H.覆土中。
---	-----	---

第157表 第278号土坑出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
---	-------	--

第158表 第304号土坑出土遺物観察表

1	異形土器	B.粘土組織み上げ。C.頸部内外面笠ナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、雲母、赤色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.4/5。H.覆土中。
---	------	---

第159表 第306号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(12.4)。器高3.9、底部径8.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.2/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	---	---

第160表 第308号土坑出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径17.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部5/6。H.覆土中。
2	長 胴 甕	A.残存高28.9、底部径4.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一明茶褐色。G.胴部外面に覆付着。黒斑あり。底部外面に木葉痕を残す。F.胴部のみ。H.覆土中。
3	長 胴 甕	A.残存高31.2、底部径5.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.外一暗褐色、内一茶褐色。G.胴部外面に煤付着。F.胴部のみ。H.覆土中。

第161表 第312号土坑出土遺物観察表

1	有段口縁坏	A.口縁部径(14.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗灰褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
2	有段口縁坏	A.口縁部径(13.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。

第162表 第320号土坑出土遺物観察表

1	模倣坏	A.口縁部径11.4、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.体部内面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
---	-----	--

第163表 第341号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(23.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一橙褐色。F.上半1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	長胴甕	A.口縁部径(19.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、雲母、黒色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	耳環	A.直径1.5、厚さ0.4、重さ1.75g。B.中実。C.銅地金貼り？。D.銅製。F.完形。G.H.覆土中。

第164表 第342号土坑出土遺物観察表

1	暗文環	A.口縁部径(13.0)、器高2.9、底部径9.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	-----	---

第165表 第349号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(16.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデの後ケズリ、内面笠ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	甕	A.底部径5.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一淡黄褐色。F.下半2/3。H.覆土中。
3	中形直口壺	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後上半笠ナデ、内面笠ナデ。D.石英、黒色粒、白色粒。E.外一淡い橙褐色、内一淡褐色。F.胴部2/3。H.覆土中。
4	模倣環	A.口縁部径(17.2)、器高7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後笠ナデ、内面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.1/3。H.覆土中。
5	複合口縁壺	A.口縁部径(17.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.雲母、白色粒。E.外一淡橙褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
6	環	A.口縁部径10.6、器高5.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後笠ナデ、内面笠ナデの後放射状暗文を施す。D.石英、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
7	小形土器	A.口縁部径(8.4)、器高4.8、脚端部径(5.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面笠ナデ。坏部外面ケズリ。胴部外面笠ナデ。脚端部外面ケズリの後笠ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色、内一黒褐色。F.1/3。H.覆土中。

第166表 第365号土坑出土遺物観察表

1	須恵器環	A.口縁部径(12.4)、器高3.9、底部径7.3。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.2/3。G.還元不良。H.覆土中。
---	------	--

第167表 第368号土坑出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。H.底面上。
---	---	--

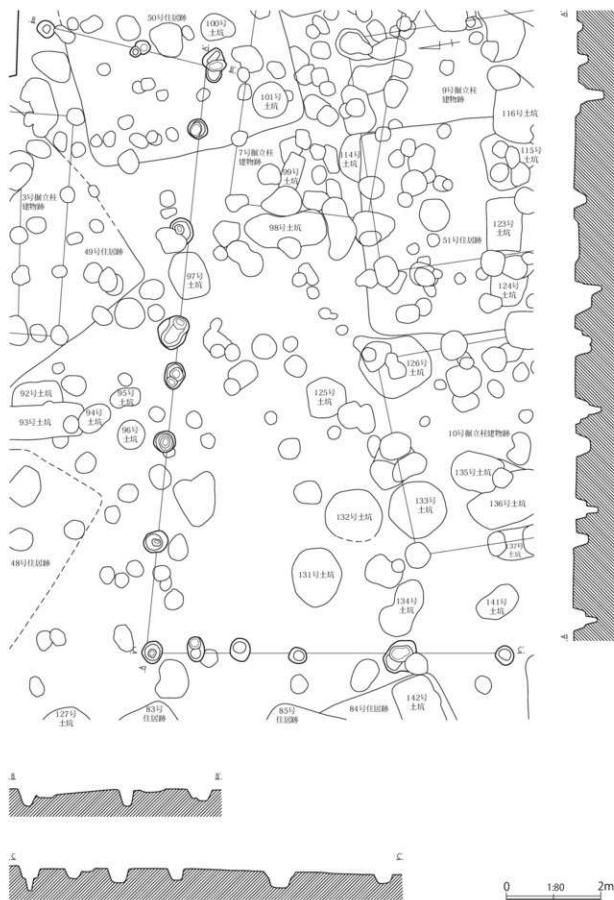
5. 柵列跡

第1号柵列跡(第294図)

C3地点の調査区東側の北寄りに位置する。重複する第50号住居跡を切っている。本柵列跡は、東西方向に長いクランク状の形態を呈しており、東側が南北方向に2間、中央が東西方向に6間、西側が南北方向に3～4間の間隔で、ピットが直線的に並んでいるが、それぞれのピットの間隔は不揃いで、南北方向と東西方向のピット列は直角をなしていない。

ピットの形態は、径30cm～50cmの円形を呈するものが多く、確認面からの深さは20cm～60cm程度ある。これらの中には、礎石か根固めの小礫を伴うピットも見られる。この柵列は、建物群内の一部に見られるもので、ピットの間隔や形態も不揃いであることから、おそらく、敷地内を二次的に区分するような区画的な柵ではなく、目隠しを目的とするような垣根的なものではないかと思われる。

遺物は、ピットの覆土中から古代の土器片が少量出土しただけである。本柵列跡の時期は、遺構に伴う明確な遺物がないため明確ではないが、周辺の中世の第2～7号掘立柱建物跡の向きと柵列の方向がほぼ一致していることから、それらの建物跡群と同時期中世以降と思われる。



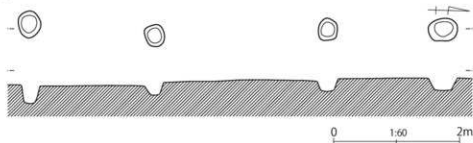
第294图 第1号柵列跡

第2号柵列跡（第295図）

C3地点の調査区中央部西端に位置する。西側には第13号溝跡が、東側には第16号溝跡が近接しており、それらの溝跡と並走してほぼ南北方向に向いて、4個のピットがほぼ直線上に間隔を置いて並んでいる。

ピットの形態は、南北両端のピットが長軸45cm前後の楕円形で、内側の2個のピットが径35cm程度の円形を呈している。確認面からの深さは、両端のピットが25cm～30cm、内側の2個のピットが20cm程度ある。

遺物は何も出土しなかった。本柵列跡の時期は、遺構に伴う明確な遺物がなため明確ではないが、西側の第13号溝跡や東側の第16号溝跡と並走していることから、それらの溝跡と同時期かそれ以降と思われる。

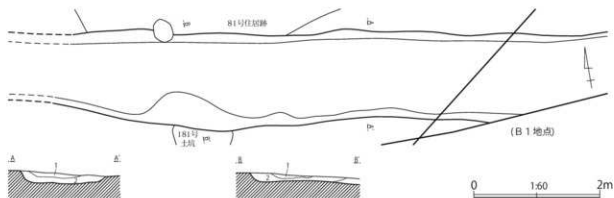


第295図 第2号柵列跡

6. 溝 跡

第7号溝跡（第296図）

C3地点の調査区東側の南端に位置する。溝跡の北側で第81号住居跡と第181号土坑と重複し、それらを切っている。また、東側に隣接するB1地点では、古墳時代～白鳳時代の第24号住居跡(恋河内・的野2010)を切っている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路を取っているようで、



第296図 第7号溝跡

第7号溝跡土層説明

第1層：黄褐色砂質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：灰黄褐色砂質土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

東側延長部分は、B1地点で調査区外に延び、西側は後世の耕作によって削平されているため明確ではないが、その延長に位置する中世後半～近世前半頃の第13号溝跡と関係していた可能性が高い。

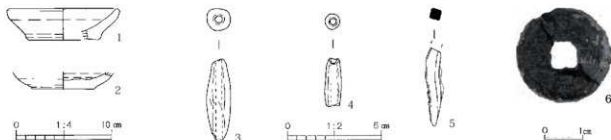
形態は、溝の上幅が150cm前後、下幅が120cm前後の比較的均一な幅で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の箱堀の形状である。確認面からの深さは、最高で18cmある。覆土は、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む灰黄褐色砂質土が主体で、土層の堆積は自然堆積を示している。

第13号溝跡 (第298図)

C3地点の調査区西側から中央部の南側にかけて位置する。重複する第16号井戸跡に切れ、第135・136・139号住居跡や第311・312号土坑を切っている。流路は、調査区西側ではほぼ南北方向に向いて直線的な流路をとり、南側で直角に近い角度で東に向かって流路を変えている。その東側延長は、調査区東側の南端に位置する第7号溝跡と考えられ、更にその延長はB1地点に延びている。

形態は、溝の上幅が150cm前後、下幅が30cm前後の比較的均一な幅で、壁は直線的に傾斜して立ち上がり、底面が狭く平坦なV字形の薬研堀の形状である。確認面からの深さは、最高で76cmある。覆土は、ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色土が主体で、土層の堆積は概ね自然堆積を示している。本溝跡の覆土最上層には、江戸時代中期後半の天明3年(1783年)に降下した浅間山系A軽石が観察されていることから、浅間山系A軽石の降下時に近い頃には、ほぼ埋没していたことが窺える。

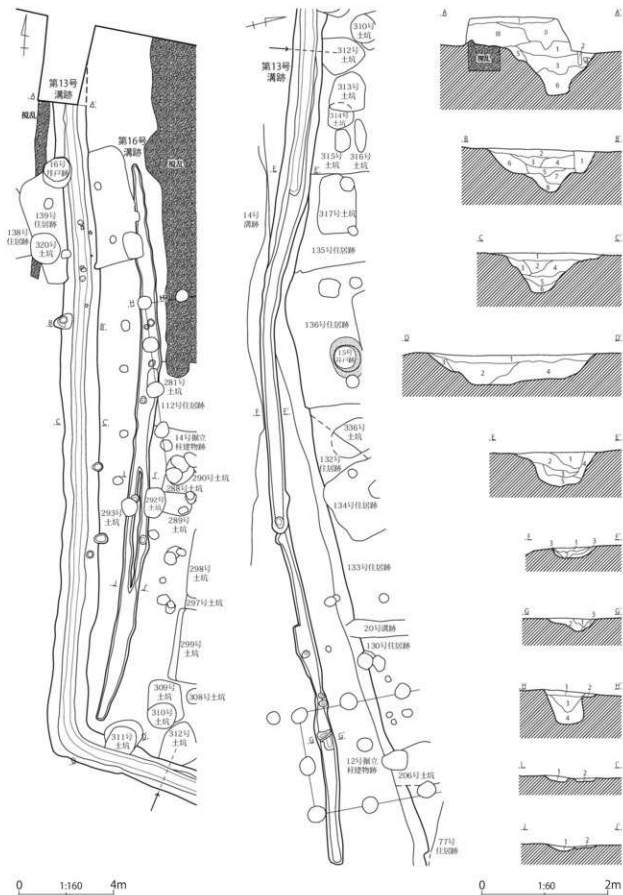
遺物は、古代の土師器や須恵器の破片及び土錘(No3・4)、中世の常滑窯の甕と在地産の片口鉢やかわらけ(No1・2)の破片及び、渡来銭の「皇末通宝」(No6)、近世の肥前系磁器の破片などが、覆土中から出土している。この他では、時期不明の大形の椀型鉄滓(11cm×11cm、厚さ4.5cm、重さ601g)や、長さ30cm前後の円形や楕円形に近い形態の角閃石安山岩が複数出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の観察及び出土遺物の様相から、中世後半～近世前半頃と考えられる。



第297図 第13号溝跡出土遺物

第168表 第13号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(9.0)、器高2.5、底部径(6.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
2	かわらけ	A.底部径(4.8)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
3	土錘	A.長さ4.3、最大径1.3、重さ5.9g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
4	土錘	A.長さ2.5、最大径0.8、重さ1.9g。B.手握ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
5	鉄釘	A.残存長4.1、幅0.55、重さ3.9g。B.鍛造。D.鉄製。F.1/3。H.覆土中。
6	銭貨	A.直径2.47、厚さ0.125、重さ2.1g。B.鋳造。D.銅製。F.完形。G.皇末通宝(初鋳1039年)。H.覆土中。



第298图 第13・16号溝跡

第13・16号溝跡土層説明

<A-A'>

第1層：暗褐色土層(表土。)

第2層：暗褐色土層(耕作土。ロームブロック・ローム粒子を含む。)

第3層：暗褐色土層(表土。ロームブロックを多量含む。)

第4層：暗褐色土層(浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)

第5層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を含む。)

第6層：暗褐色土層(ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。)

第7層：黄褐色土層(ハードロームブロック。)

第8層：暗褐色土層(暗褐色土・ロームの斑状の混合土。)

第9層：暗褐色土層(暗褐色土・ロームの混合土。)

<B-B'>

第1層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、浅間山系A軽石・径0.5cmのロームブロックを少量含む。)

第2層：暗褐色土層(浅間山系A軽石・0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)

第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。)

第4層：暗褐色土層(径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。しまりを有する。)

第5層：暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。しまりを有する。)

第6層：暗褐色土層(暗褐色土・ロームの斑状の混合土。)

第7層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第8層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。)

<C-C'>

第1層：暗褐色土層(浅間山系A軽石・径0.5～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。)

第2層：暗褐色土層(径0.5～1cmのロームブロックを水玉状に少量、ローム粒子を微量含む。しまりを有する。)

第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。しまりを有する。)

第4層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物を微量含む。しまりを有する。)

第5層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を斑状に少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第6層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

<D-D'>

第1層：暗褐色土層(浅間山系A軽石・ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、径0.5～4cmの灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量、灰黄褐色粘質土ブロック・焼土粒子を微量含む。しまりを有する。)

第4層：暗褐色土層(灰黄褐色粘質土ブロックを下部に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

<E-E'>

第1層：暗褐色土層(灰黄褐色土を主体に、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む。しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(焼土粒子を少量、径0.5～1.5cmのロームブロックを水玉状に微量含む。しまりを有する。)

第3層：暗褐色土層(灰黄褐色土を主体に、ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第4層：暗褐色土層(ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第5層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

<F-F'>

第1層：褐色土層(暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。)

第2層：暗褐色土層(径0.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。)

第3層：暗褐色土層(径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。)

<G-G'>

第1層：暗褐色土層(径0.5～1cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。)

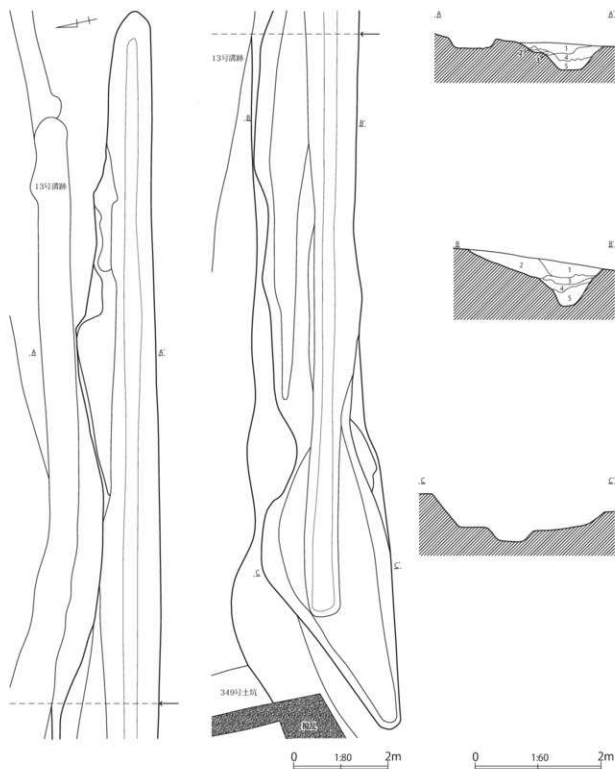
第2層：暗褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。)

第3層：褐色土層(暗褐色土・ロームの混合土。しまりを有する。)

<H-H'> 土層説明なし。

<I-I'> 土層説明なし。

<J-J'> 土層説明なし。



第299図 第14号溝跡

第14号溝跡土層説明

< A - A' >

第1層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第2層：黄褐色土層（ロームを主体に、浅間山系A軽石・ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第3層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石・ロームの斑状の混合土。しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を上部、ローム粒子を含む。しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径1～6cmのロームブロックを含む。粘性に富み、しまりはない。）

<B-B'>

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）

第3層：灰黄褐色土層（灰色粘質土・白色粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（灰黄褐色土を主体に、径0.5～3cmのロームブロック・ローム粒子を含む。粘性に富み、しまりを有する。）

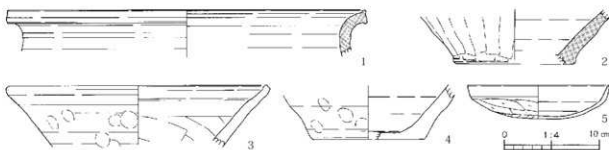
第5層：灰黄褐色土層（暗褐色土・灰色粘質土の混合土。粘性に富み、しまりを有する。）

第14号溝跡（第299図）

C3地点の調査区中央部の南寄りに位置する。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっている。溝の両端は途切れているが、その東側延長は第15号溝跡と同一の溝と考えられる。第15号溝跡の東側は、さらに調査区外に延びているが、南側に隣接するC4地点（本報告）やさらにその東側のB1地点（恋河内・的野2010）で検出されている第6号溝跡に繋がる同一の溝と考えられる。

形態は、溝の上幅が100cm前後、下幅が30cm前後の比較的均一な幅で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、底面がやや狭く平坦な菜研堀に似た形状である。確認面からの深さは、最高で75cmある。覆土は、ロームブロックやローム粒子を含む暗褐色土を主体にしている。覆土上半には、江戸時代中期後半の天明3年(1783年)に降下した浅間山系A軽石が観察されているが、溝の上半部分は幅広く形態が異なることから、近世後半以降の掘り返しによるものと考えられる。

遺物は、古代の土師器や須恵器及び埴輪の破片の他、中世の常滑窯の甕(6a型)と片口鉢(Ⅱ類)、在地産の片口鉢の破片、近世の焙烙や瀬戸美濃系陶器碗の破片が、覆土中から出土している。本溝跡の時期は、第15号溝跡と同じ中世後半～近世前半頃と考えられる。



第300図 第14号溝跡出土遺物

第169表 第14号溝跡出土遺物観察表

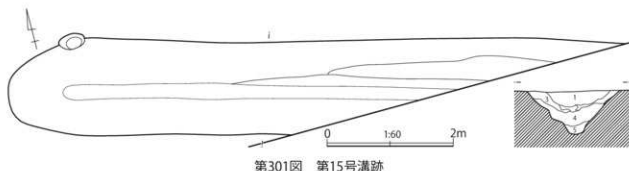
1	常滑窯甕	A.口縁部径(38.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部小破片。G.6a型式。H.覆土中。
2	常滑片口鉢	A.底部径(13.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.体部外面篋ナデ。内面回転ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰褐色。F.底部1/4。G.片口鉢Ⅱ類。内面は良く擦れている。底部外面砂付着。H.覆土中。
3	在地産片口鉢	A.口縁部径(38.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。体部外面回転ナデ。内面篋ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗灰褐色。F.口縁部1/6。G.還元不良。H.覆土中。
4	在地産片口鉢	A.底部径(12.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.体部外面ナデ。内面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部1/4。G.内面は良く擦れている。還元不良。H.覆土中。
5	埴	A.口縁部径15.0。器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2。H.覆土中。

第15号溝跡（第301図）

C3地点の調査区中央部の南端に位置する。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっている。溝の西端は途切れているが、その延長にあたる第14号溝跡と同一の溝と考えられる。溝の東側は調査区外に延びるが、南側に隣接するC4地点(本報告)やさらにその東側のB1地点(恋河内・的野2010)で検出されている第6号溝跡と同一の溝と考えられる。

形態は、溝の上幅が150cm前後、下幅が20cm前後の比較的均一な幅で、壁は直線的に傾斜して立ち上がり、底面が狭く平坦なV字形の菜研堀の形状である。確認面からの深さは、最高で66cmある。覆土は、上半が浅間山系A軽石を含む暗褐色土、下半がローム粒子やロームブロックを含む灰黄褐色土で、土層の堆積は自然堆積を示している。

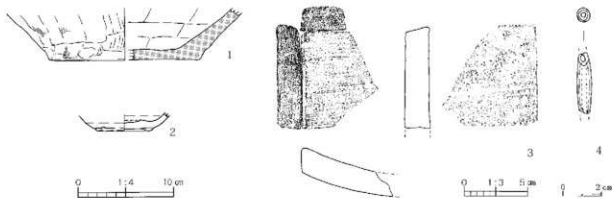
遺物は、古代の土師器や須恵器の破片と、中世の常滑窯の甕や山茶碗窯系の山皿(?)、在地産のかわけ及び細目叩きの平瓦の破片などが、覆土中から出土している。本溝跡は、東側のB1地点やC4地点では、覆土中に平安時代末の天仁元年(1108年)に降下した浅間山系B軽石が見られるものの、本地点では覆土上半に江戸時代中期後半の天明3年(1783年)に降下した浅間山系A軽石が観察されていることから、浅間山系A軽石の降下時には、まだ完全に埋まりきっていなかったことが窺える。そのため、本溝跡の時期は、中世後半～近世前半頃と考えられる。



第301図 第15号溝跡

第15号溝跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径0.5～1.5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、灰黄褐色粘質土・径0.5～3cmのロームブロックを雲状に少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、浅間山系A軽石を少量含む。）
 第4層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、ローム粒子・暗褐色土を含む。）
 第5層：灰黄褐色土層（灰黄褐色粘質土を主体に、径1cmのロームブロックを多量含む。粘性に富む。）



第302図 第15号溝跡出土遺物

第170表 第15号溝跡出土遺物観察表

1	常滑窯	A.底部径(16.0)。B.粘土積み上げ後叩き。C.胴部外面ナデ、内面置ナデ、底部外面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一淡緑白色。F.底部1/4。G.内面は後輩による自然釉かかる。H.覆土中。
2	山茶碗系 山皿?	A.高台部径5.8。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.内外一淡灰白色。F.底部1/2。H.覆土中。
3	平瓦	A.残存長8.5、残存径8.1、厚さ2.0。B.一枚作り。C.凸面系切り後縄目叩き。凹面系切り。D.白色粒。E.凹凸一暗灰色。F.破片。G.中世瓦。H.覆土中。
4	土鉢	A.残存長3.2、最大径0.8、重さ1.9g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.暗茶褐色。F.両端部欠損。H.覆土中。

第16号溝跡(第298図)

C3地点の調査区中央部の西端に位置する。重複する第139号住居跡と第14号掘立柱建物跡及び第292・293号土坑と第1号櫓柵跡を切っている。流路は、西側の第13号溝跡と並走し、若干弓状に湾曲しながら南北方向に向いている。溝の両端は途切れている。

形態は、溝の上幅が最大で42cm、下幅が35cm程度ある。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の箱堀の形態を呈している。確認面からの深さは6cmある。

遺物は、古代の土師器や須恵器の破片や、近世の陶磁器(丹波系播鉢・肥前系磁器・瀬戸美濃系陶器)とかわらけの破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や形態から、近世以降の可能性が高いと思われる。

第303図 第16号溝跡
出土遺物

第171表 第16号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(9.0)、器高2.1、底部径(6.2)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡白褐色、内一淡黄白色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
---	------	---

第17号溝跡(第304図)

C3地点の調査区西側の南端付近に位置する。流路は、南側の第18・19号溝跡と東西方向に向いて並走しているが、やや弓状に湾曲し、溝の東端は途切れている。

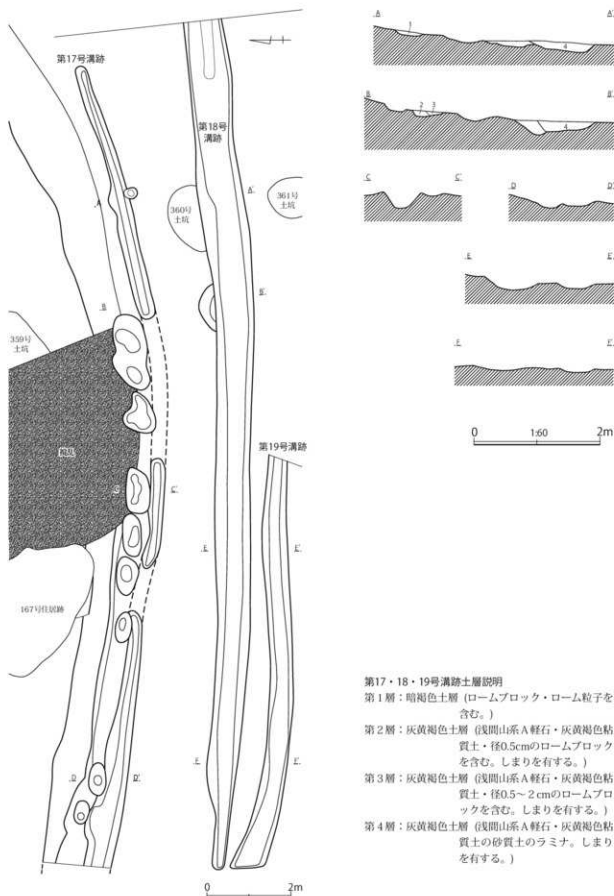
形態は、溝の上幅が最大で40cm、下幅が20cm程度ある。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の形態を呈している。確認面からの深さは10cmある。覆土は、浅間山系A軽石を含む灰黄褐色土を主体にしている。

遺物は、古代の土師器と須恵器の破片や、近世の焙烙や瀬戸美濃系陶器(天目茶碗)の破片などが出土している。この他には、時期不明の羽口の破片なども出土している。本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半以降と考えられる。

第18号溝跡(第304図)

C3地点の調査区西側の南端に位置する。重複する第360号土坑を切っている。流路は、南側の第19号溝跡と東西方向に向いてほぼ直線的に並走しているが、東側は未調査のため不明である。

形態は、溝の上幅が最大で105cm、下幅が40~88cm程度ある。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の形態を呈している。確認面からの深さは15cmある。覆土は、浅間山系A軽石を含む灰黄褐色土を主体にしている。



第304図 第17・18・19号溝跡

遺物は、古代の土師器と須恵器の破片や、中世の常滑窯の甕や在地産の片口鉢、18世紀以降の近世陶磁器の破片などが、覆土中から少量出土している。この他では、やや大形の椀型鉄滓(長さ9cm×8.5cm、厚さ5cm、重さ250g)が1個出土している。本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半以降と考えられる。

第19号溝跡(第304図)

C3地点の調査区西側の南端に位置する。流路は、北側の第18号溝跡と東西方向に向いて並走しているが、若干蛇行済みである。溝跡の東側は、未調査のため不明である。

形態は、溝の上幅が最大で70cm、下幅が20～60cm程度ある。断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の形態を呈している。確認面からの深さは10cmある。覆土は、浅間山系A軽石を含む灰黄褐色土を主体にしている。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系A軽石を含むことから、近世後半以降と考えられる。

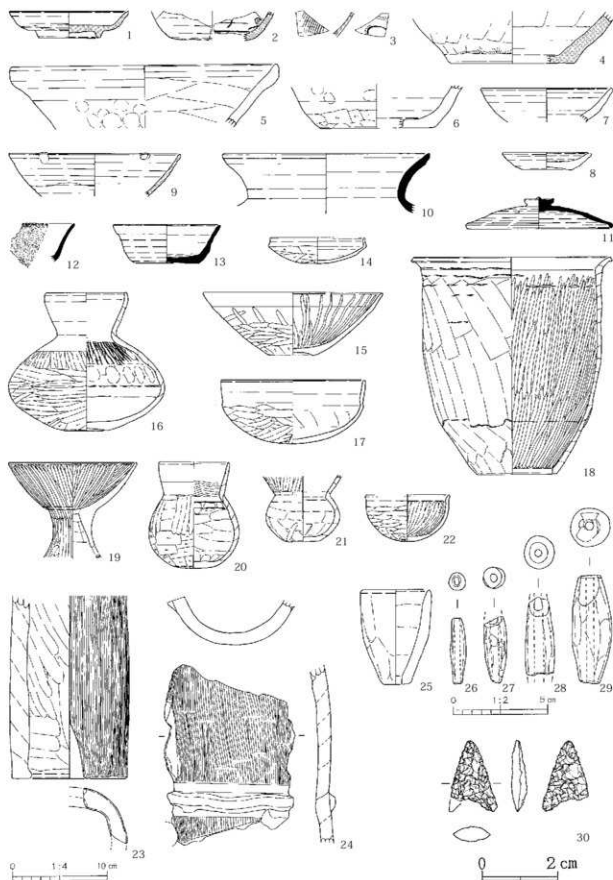
7. C3地点調査区内出土遺物

C3地点の調査区内から出土した遺物で、出土した遺構が分からないものや、調査区北端の農業用水管理設工の立ち合い時に出土したものの中から、図示できるものを第303図に示した。それらの遺物の時期は、縄文時代から江戸時代にわたる。

江戸時代のものは、No1とNo8がある。No1は、17世紀末～18世紀初頭頃の瀬戸美濃系の灰釉皿である。半分しかないと明確ではないが、おそらく底部内面に鉄軸による菊花文を施したものである。No8は、18世紀頃と思われる皿形のかわけである。中世のものは、No2～No7がある。No2とNo3は、12世紀後半頃の青磁碗の破片で、No2は龍泉窯系、No3は同安窯系である。No4は、常滑窯の甕で、時期の詳細は不明である。No5～No7は、在地産土器である。No5とNo6は、片口鉢の破片である。No5は、当地域の荒川編年(荒川1998)に対比すると、口縁部の形態から13世紀後半頃に位置づけられる。No7は、碗形のかわけである。時期はよく分からないが、15世紀前半頃であろうか。No9～No14は、白鳳時代～平安時代のものである。No9は、平安時代の灰釉陶器の椀で、口唇部にやや肥厚した小突起をもっている。No10～No13は、奈良時代から平安時代の須恵器で、No12の体部外面には「×」字状の細い線による焼成前の篋記号が見られる。No14は、白鳳時代初頭頃の内屈口縁杯の影響を受けた鬼高系模倣杯の一種である。No15～No24は、古墳時代前期から後期のもので、各時期の土師器や後期の形象埴輪の破片がある。埴輪の破片が多く見られるのは、本遺跡の特徴である。No25～No29は、土錘や小形の土製品で古代のものと思われる。No30は、縄文時代の黒曜石製の石鎌(凹基無茎鎌)である。調査区内では、縄文時代中期後半や後期中葉頃の土器の破片が、後世の遺構の覆土中に混じって、少量出土していることから、それらと関係するものかもしれない。

第172表 C3地点調査区出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 灰 軸 皿	A.口縁部径12.6、器高2.8、底部径6.6、B.ロクロ成形。高台部削り出し。C.口縁部内外面回転ナデ。高台部外面回転遊ケズリ。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一淡緑灰色。F.1/2。G.口縁部外面と内面に淡緑色釉を施す。H.表土。
---	----------------	--



第305图 C3地点調査区内出土遺物

2	龍泉窯系青磁碗	B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデの後、内面に草花文を施す。D.白色粒。E.内外一淡緑色、内一淡灰色。F.破片。G.体部内面に淡緑色釉を施す。H.表土。
3	同安窯系青磁碗	B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデの後、櫛歯状工具による文様を施す。D.白色粒。E.内外一淡緑色、内一灰色。F.破片。G.体部内面に淡緑色釉を施す。H.P102。
4	常滑窯	A.底部径(13.4)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.胴部外面撻ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.外一暗灰褐色、内一暗茶褐色。F.底部1/4。H.表土。
5	在地産片口鉢	A.口縁部径(28.6)。B.粘土組織み上げ後ロクロ成整形。C.口縁部内外面回転ナデ。体部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一黒褐色、内一淡茶褐色。F.口縁部1/6。G.体部外面に指頭圧痕を残す。体部内面は良く擦れている。H.表土。
6	在地産片口鉢	A.底部径(12.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ成整形。C.体部外面ナデの後下端ケズリ、内面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒。E.外一暗灰色、内一灰色。F.底部1/4。G.還元焼成。体部外面に指頭圧痕を残す。体部内面は良く擦れている。H.表土。
7	かわらけ	A.口縁部径(14.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4強。H.P16。
8	かわらけ	A.口縁部径(9.4)。器高1.8、底部径(5.4)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗灰褐色、内一淡灰褐色。F.1/3。H.表土。
9	灰軸陶器輪花碗	A.口縁部径(18.2)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデの後施軸。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部1/4。G.施軸は掛け塗り。H.表土。
10	須恵器	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.口縁部1/4弱。H.調査区内。
11	須恵器蓋	A.口縁部径(15.4)。器高3.4。B.ロクロ成形。摘み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ。摘み部外面回転ナデ。D.白色針状物質、白色粒。E.内外一暗灰色。F.1/3。G.南比企窯産。H.表土。
12	須恵器坏	B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.口縁部小破片。G.口縁部外面に焼成前の「×」字の記号あり。H.P101。
13	須恵器坏	A.口縁部径(7.0)。器高4.1、底部径7.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.長石、白色粒。E.内外一暗灰色。F.1/3。H.調査区内(農業用水工事立ち合い時出土)。
14	坏	A.口縁部径10.0。器高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.表土。
15	鉢	A.口縁部径(19.2)。器高6.6、底部径5.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後雑なミガキ、内面ナデの後放射状暗文風のミガキ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/3。H.表土。
16	中形直口壺	A.口縁部径(8.8)。器高14.6、底部径(4.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ミガキの後丁寧なナデ、内面ケズリの後ミガキ。底部外面ケズリの後ミガキ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.2/3。G.内面全体に黒色付着物。H.表土。
17	模倣坏	A.口縁部径15.4。器高6.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面撻ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.ほぼ完形。H.表土。
18	大形壺	A.口縁部径(21.2)。器高23.0、底部径8.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面撻ナデ、内面ナデの後ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.胴部外面に黒斑あり。H.調査区内(農業用水工事立ち合い時出土)。
19	高坏	A.口縁部径(13.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデの後上半ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/4。G.胴部穿孔(焼成前)は3カ所。H.表土。
20	小形直口壺	A.口縁部径(7.6)。器高11.2、底部径4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後上半ヨコナデ、内面ハケの後上半ヨコナデ。胴部外面ハケの後下半ケズリ上半ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/3。G.胴部外面に黒斑あり。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.表土。
21	小形直口壺	A.残存高17。底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ミガキ、内面ナデ。胴部及び底部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一明褐色。F.1/2。H.表土。
22	小形碗	A.口縁部径(9.0)。器高4.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/3。H.表土。
23	馬形埴輪	A.残存高19.4。足端部径(12.2)。B.粘土組織み上げ。C.外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.足部1/4。G.腹部に三角形風の切れ込みを施す。H.表土。
24	形象埴輪	A.残存高19.1。残存幅13.8。B.粘土組織み上げ。凸部貼り付け。C.外面ハケ、内面指ナデ。凸部ヨコナデ。D.長石、赤色粒、小石。E.外一明茶褐色、内一暗茶褐色。F.破片。G.破片側面に粘土貼り付けの痕跡と、左端断面にほぞ穴と思われる平坦面あり。破片左下に内孔あり。H.表土。
25	小形土製品	A.口縁部径(3.8)。器高5.0、底部径1.6。B.手捏ね。C.内外面丁寧ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.底部に穿孔(焼成前)あり。H.表土。
26	土 鉢	A.長さ3.5。最大径0.9。重さ1.7g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色。F.完形。H.表土。
27	土 鉢	A.残存長3.5。最大径1.2。重さ4.0g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一黒色。F.3/4。H.ピット内。
28	土 鉢	A.残存長4.1。最大径1.6。重さ9.6g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色。F.2/3。H.掘乱内。
29	土 鉢	A.長さ5.7。最大径2.1。重さ20.8g。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。F.完形。H.表土。
30	石 鏝	A.長さ1.88。残存幅1.20。厚さ0.40。重さ0.58g。B.押圧剥離による両面加工。D.黒曜石。F.片脚欠損。G.凹基無蓋。H.調査区内。

第V章 C4地点の調査

第1節 C4地点の概要

C4地点は、北側に前章で述べたC3地点が、南東側に都市再生機構(U R)の発掘調査経費負担箇所である都市計画道路建設部分のB1地点南側調査区(恋河内・的野2010)が隣接している。地形的には、久下前遺跡が立地する微高地の南側緩斜面の南端付近に位置し、ちょうど居住域の集落と生産域の男堀川沖積低地との境界付近にあたる。調査区は、東西方向に帯状に長い区域で、中央の工事用排土搬入路を境にして、西側調査区と東側調査区に分かれている(第304図)。調査区内の標高は、調査区の北側が59.0m、南側が58.6mを測る。

調査区内から検出された主な遺構は、土坑9基・溝跡2条・河川跡1条である。土坑は、すべて東側調査区の北側寄りから検出されている。形態は、平面形が隅丸長方形を呈するもの(第372・373号土坑)と、円形か楕円形を呈するもの(第374～380号土坑)の二者がある。時期は、前者が中世以降、後者は奈良時代頃と考えられる。遺物は、後者の奈良時代頃の土坑から、土師器を主体とする土器や石製紡錘車が出土している。

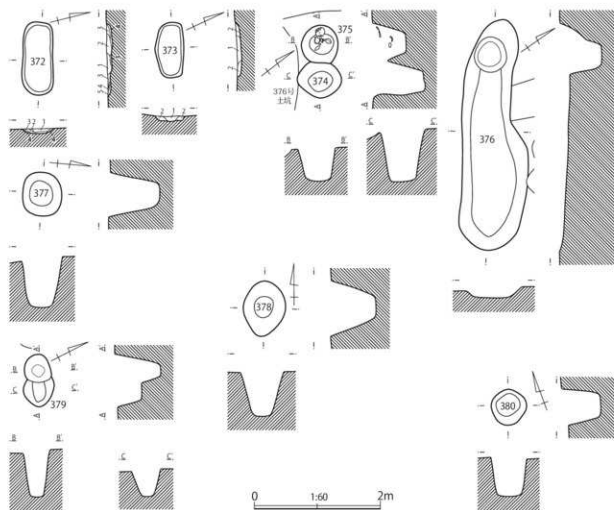
溝跡は、東側調査区の中央部から西側調査区の北側にかけて検出された第4号溝跡と、東側調査区の北東端で検出された第6号溝跡がある。第4号溝跡は、古代の白鳳時代(7世紀後半)～平安時代前期(9世紀)後半のもので、古墳時代の河川跡が埋没した後にできた自然流路を利用した水路である。遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が大量に出土しているが、これらの遺物に混じって輪の羽口や椀型鉄蹄の破片が出土していることは注目される。第6号溝跡は、隣接するC3地点やB1地点の南側調査区でその延長部分が検出されている。それによると、直線的な流路を取る区画溝で、時期は中世～近世前半頃と考えられる。

河川跡は、古墳時代前期～中期の時期と考えられるものである。幅が5.5m程度、深さが1mの規模で、西側調査区の北側から東側調査区の中央部にかけて検出されている。流路は、西側調査区内ではほぼ東西方向に向き、東側調査区では南東方向に向いて緩やかに湾曲しており、調査区の南東側に隣接するB1地点の南側調査区では、本河川跡の東側の延長部分が検出されている。この東側調査区の河川跡の流路が南東方向に向いて緩やかに湾曲した部分には、流木が多く溜まっている。遺物は、古墳時代前期を主体とする土器が、覆土中から大量に出土している。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 土 坑

土坑は、東側調査区の北側寄りから、9基が検出されている。これらの土坑は、平面の形態が隅丸長方形を呈するもの(第372・373号土坑)と、円形・楕円形を呈するもの(第374～380号土坑)がある。前者の第372・373号土坑は、第4号溝跡北側の平坦部に位置し、長軸方向を概ね東西方向に向けて、やや距離を置いて並列的に並んだ配置をとっている。後者の第374～380号土坑は、第4号溝跡の緩やかな北側壁の斜面部に、列状に並んだような配置をとっている。これらは、形態や配置に差異があることから、時期差が考えられる。前者は、覆土の状態から、第4号溝跡埋没後の中世以降と推測される。このうちの第372号土坑は、覆土中に焼土粒子や炭化粒子が顕著に見られることから、土坑



第307図 土坑

第372号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：黒褐色土層（炭化粒子・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第373号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

内で火を焚くことを目的に掘削されたことが推測される。後者は、覆土の状態や出土土器の様相から、第4号溝跡が機能していた奈良時代頃と考えられ、その位置から第4号溝跡と関係するものと推測される。いずれも平面形が円形や楕円形を呈し、掘り込みが50cm以上の深くしっかりした柱穴のような形態であることから、立柱を伴うような水辺に關係する施設があったのではないと思われる。

個々の土坑の詳細については、第173表のとおりである。

第173表 C4地点土坑一覽表

(単位はcm)

番号	平面形	規 模	深 さ	時 代	出 土 遺 物	備 考
372	隅丸長方形	115×50	10	中世以降?	土師器小片少量。	
373	隅丸長方形	90×45	7	中世以降?	土師器・須恵器小片少量。	
374	楕円形	61×59	82	奈良	土師器、石製紡錘車。	374土坑と扱っている。
375	円形	73×56	54	奈良	土師器破片。	375土坑と扱っている。
376	超楕円形	370×105	66	奈良	土師器片多量、土製品。	
377	円形	70×64	80	奈良	土師器片多量。	
378	楕円形	90×68	70	奈良末	土師器・須恵器片多量。	
379	楕円形	86×50	73	奈良	土師器・須恵器片多量、土製品。	
380	不整形	56×56	62	奈良	土師器片少量。	

第174表 第372号土坑出土遺物観察表

1	裏	A.底部径(5.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒色、内一明茶褐色。F.底部1/4。H.覆土中。
---	---	--

第175表 第374号土坑出土遺物観察表

1	胴張裏	A.口縁部径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3強。H.覆土中。
2	長胴裏	A.口縁部径(21.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一黒茶褐色。F.口縁部1/6。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	坯	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
4	坯	A.口縁部径(13.2)。器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.1/3。H.覆土中。
5	坯	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。

第176表 第375号土坑出土遺物観察表

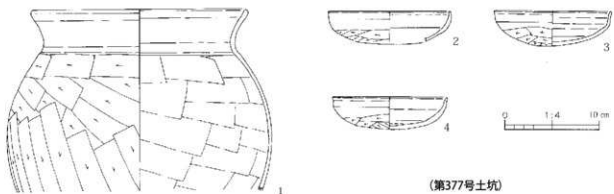
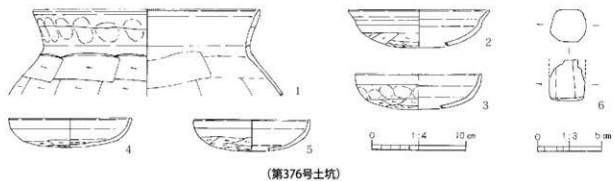
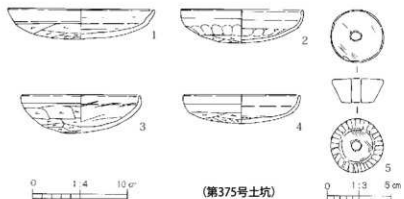
1	皿	A.口縁部径15.6。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.No1。
2	坯	A.口縁部径13.0。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.体部内外面に指頭圧痕を残す。H.No3。
3	坯	A.口縁部径12.6。器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.体部内外面に黒斑あり。H.No3。
4	坯	A.口縁部径12.4。器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.4/5。H.No4。
5	石製紡錘車	A.上面径4.2。下面径2.5。高さ2.0。重さ49.3g。C.上下面とも研磨。側面ケズリ。D.蛇紋岩。F.完形。H.覆土中。

第177表 第376号土坑出土遺物観察表

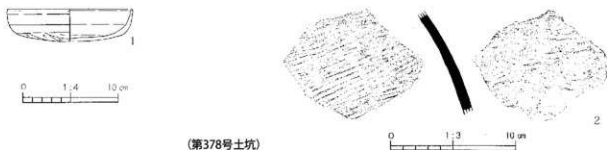
1	胴張裏	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明橙褐色、内一明褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
2	皿	A.口縁部径15.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
3	坯	A.口縁部径(13.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/3。G.体部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
4	坯	A.口縁部径(13.0)。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
5	坯	A.口縁部径(12.4)。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
6	土製品	A.残存高3.4。最大径2.9。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.白色粒。E.外一暗茶褐色。F.破片。H.覆土中。



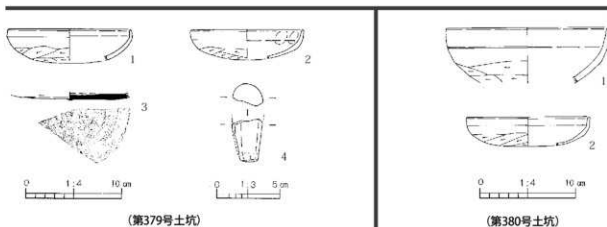
(第372号土坑)



第308图 C4地点土坑出土遺物(1)



(第378号土坑)



(第379号土坑)

(第380号土坑)

第309図 C4地点土坑出土遺物(2)

第178表 第377号土坑出土遺物観察表

1	胴張裏	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面麗ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4強。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径12.4。器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.ほぼ正形。G.体部外面に黒斑あり。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径12.2。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.ほぼ正形。H.覆土中。

第179表 第378号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.2)。器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
2	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面平行叩き目、内面当て道具痕を残す。D.白色粒。E.外一黒灰色、内一暗灰色。F.胴部破片。H.覆土中。

第180表 第379号土坑出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/5。G.口縁部内部に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	須恵器	B.コケロ成形。C.底部外面回転麗ケズリ、内面回転ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.底部1/4。H.覆土中。
4	土製品	A.残存高3.4。最大径2.5。B.手捏ね。C.外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色。F.破片。H.覆土中。

第181表 第380号土坑出土遺物観察表

1	鉢	A.口縁部径(17.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一明褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.体部外面に黒斑あり。H.覆土中。

2. 溝 跡

第4号溝跡(第310図、図版65)

西側調査区の北側から東側調査区の中央部にかけて検出されている。本溝跡の東側延長は、南東側に隣接するB1地点の南側調査区(恋河内・的野2010)で検出されており、本地点と同様に集落が立地する微高地の南側縁道をなぞるように、さらに東に向かって伸びている。本溝跡の西側延長については、西側のA1地点(恋河内・的野2010)・A2地点やE1地点(恋河内2012)・E2地点で検出されていないことから、それらの調査地点のさらに南側に流路を取っているものと思われる。また、さらに西側のD1地点(恋河内2012)でも、古代(白鳳時代～奈良時代)の複数の溝跡(第31・33・34・35号溝跡)が検出されているが、これらは溝の形態が異なることから、本溝跡と直接関係するものか不明である。

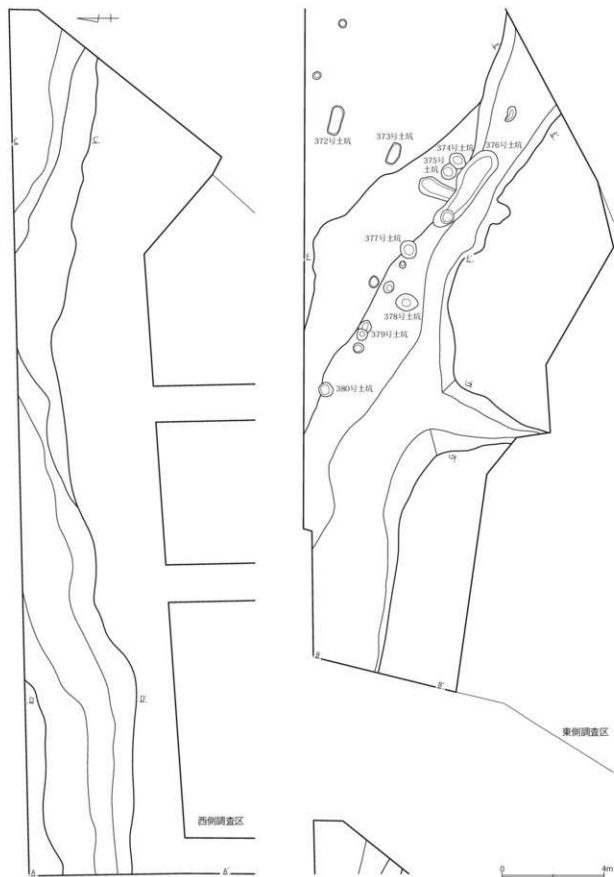
本溝跡は、調査区内ではほぼ東西方向に向いて、緩やかに蛇行した流路をとっており、下層の古墳時代前期～中期前半の河川跡の流路と概ね一致している。周囲の地形の状況や溝底面の高さの比較によると、西から東に向かって流れていたようである。

形態は、西側調査区では溝の上幅が4m前後、下幅が50cm～2mあり、東側調査区では上幅が3.80m～4.80m、下幅が75cm～2.45mある。壁は、かなり緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で50cmある。覆土は、細砂や鉄斑を含む暗灰色土や暗灰褐色土を主体にしており、下層に細砂や鉄斑が多く見られることから、ある程度の水が流れていたことが窺える。なお、東側に隣接するB1地点の南側調査区の本溝跡の延長部分では、濁流等によって溝底面が抉れた痕跡と推測される複数の土坑状の窪みが検出されている(恋河内・的野2010)。本溝跡は、不均一な形態で流路も蛇行していることから、人工的に掘削された溝ではなく、小規模な自然流路を利用した溝と考えられる。また、東側調査区の中央部で、本溝跡から南へ分岐するような細い溝が見られるが、これは前述したようにC3地点の第14号井戸跡から南に延びる溝の延長であった可能性もある。

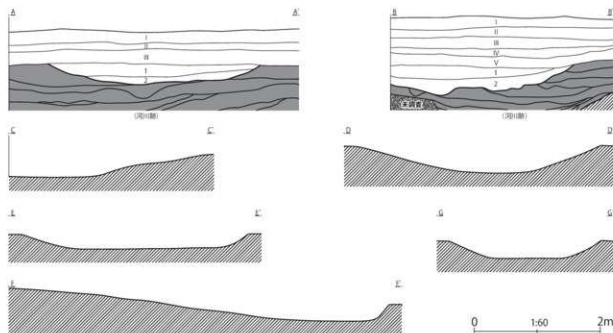
遺物は、覆土中から白鳳時代(7世紀後半)～平安時代前期(9世紀)後半を主体とする土師器や須恵器が多く出土している。これらは、器形の全容が分かるような完形のものはいくつか、大半は破片である。破片は、磨滅したものがあまり見られないことから、遠くから流れてきたものではなく、近くで溝内に廃棄されたものが多いと思われる。土器以外では、凹面に布目圧痕を残す器肉の薄い平瓦の小片(No106・107)、輪の羽口の破片(No109・110)、拳大の椀型鉄滓などが出土している。また、覆土中から性格不明の骨片が1点出土しているが、その性格は不明である(第VII章第1節)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)～平安時代前期(9世紀)後半の古代と考えられる。

第182表 第4号溝跡出土遺物観察表

1	副張 甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡橙褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
3	甕	A.底部径4.0。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面甕ナデ。底部外面木炭痕。D.白色粒、雲母、片石粒、礫。E.外一淡褐色、内一橙褐色。F.底部のみ。H.東側調査区。
4	甕	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、褐色粒、雲母、片石粒。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/8。H.東側調査区。



第310图 第4号沟迹



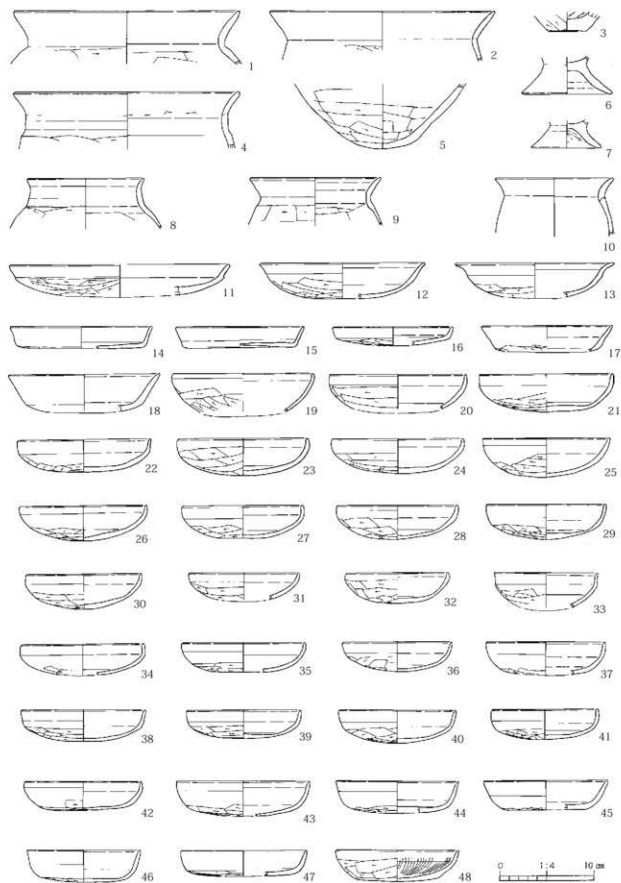
第311図 第4号溝跡土層断面

第4号溝跡土層説明

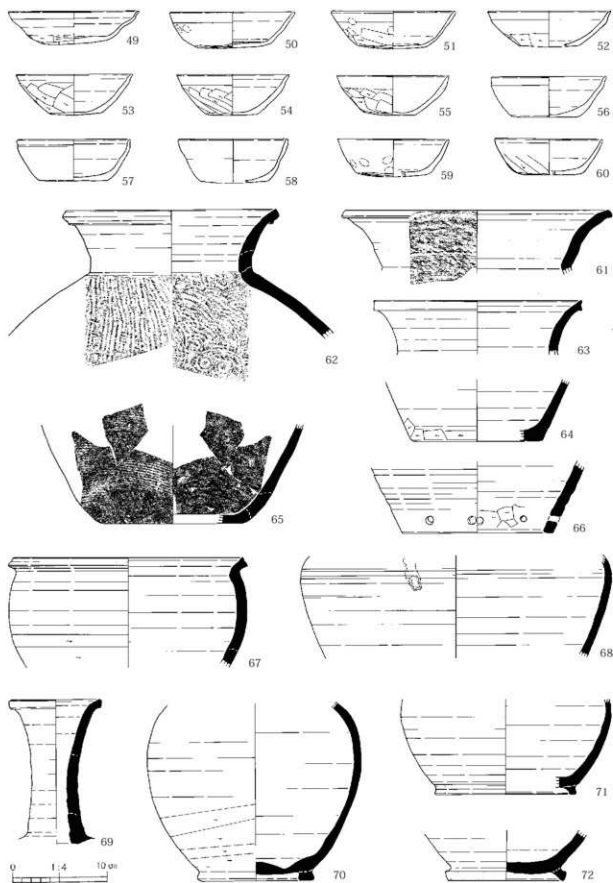
第1層：暗灰色土層（細砂・鉄斑を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（細砂・鉄斑を多量に、小石を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

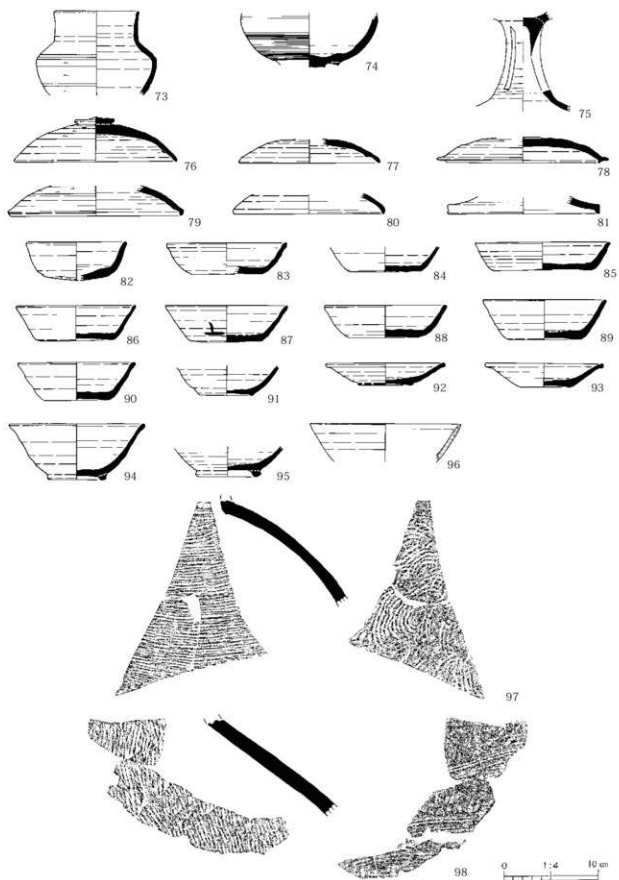
5	溝	A.底部径7.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面笥ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母、礫。E.内外一明赤褐色。F.底部4/5。H.東側調査区。
6	小形台付溝	A.台端部径(9.6)。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡橙褐色。F.台部2/5。H.東側調査区。
7	小形台付溝	A.台端部径7.4。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ヨコナデ、内面笥ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明褐色。F.台部3/4。H.西側調査区。
8	小形溝	A.口縁部径(12.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笥ナデ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.口縁部破片。H.東側調査区。
9	小形溝	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面笥ナデ。D.白色粒、雲母。E.外一明赤褐色、内一淡赤褐色。F.口縁部2/5。H.東側調査区。
10	小形溝	A.口縁部径(12.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.掘土中。
11	皿	A.口縁部径(23.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、雲母。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.口縁部破片。H.東側調査区。
12	皿	A.口縁部径(17.6)。器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石、石英。E.内外一橙褐色。F.2/5。H.東側調査区。
13	皿	A.口縁部径(16.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
14	皿	A.口縁部径(15.0)。器高2.3。底部径(13.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一明赤褐色。F.1/4。H.東側調査区。
15	皿	A.口縁部径13.6。器高2.3。底部径11.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.1/2。H.西側調査区。
16	皿	A.口縁部径(12.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
17	坪	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一明赤褐色。F.口縁部2/5。H.西側調査区。



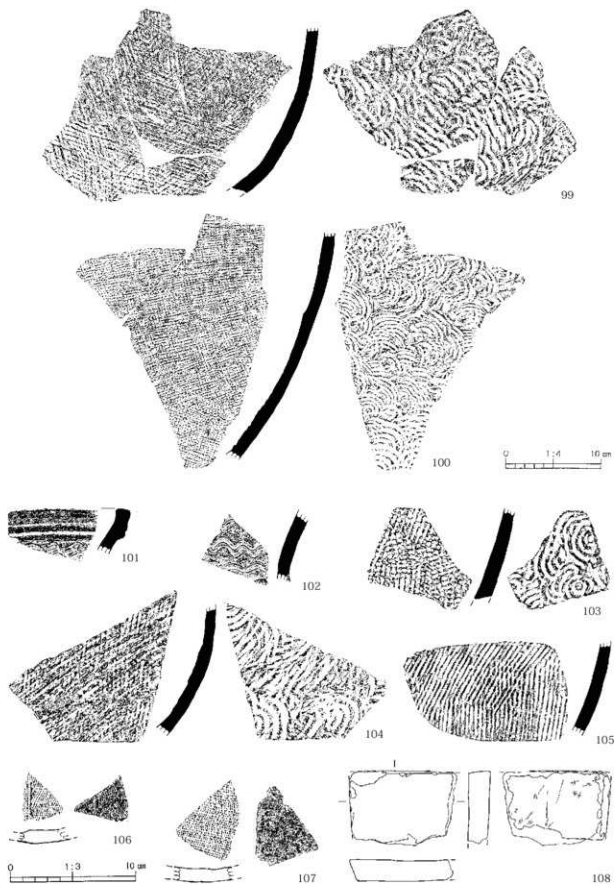
第312图 第4号溝跡出土遺物(1)



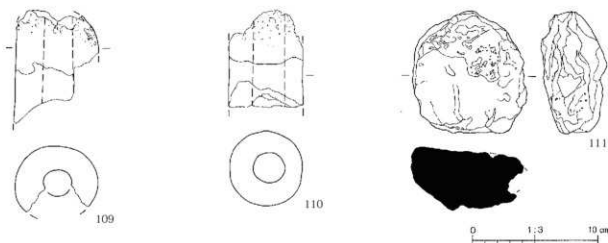
第313图 第4号溝跡出土遺物(2)



第314图 第4号溝跡出土遺物(3)



第315图 第4号沟迹出土遗物(4)



第316図 第4号溝跡出土遺物(5)

18	環	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ、底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.鏢、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/7。H.東側調査区。
19	環	A.口縁部径(14.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
20	環	A.口縁部径(14.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
21	環	A.口縁部径14.2、器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、チャート。E.内外一淡褐色。F.2/3。H.東側調査区。
22	環	A.口縁部径14.2、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、赤色粒。E.外一明赤褐色。内一橙褐色。F.ほぼ完形。H.西側調査区。
23	環	A.口縁部径14.0、器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、鏢。E.内外一橙褐色。F.3/5。H.東側調査区。
24	環	A.口縁部径14.2、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、雲母、角閃石。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.東側調査区。
25	環	A.口縁部径13.5、器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面不明瞭。E.内外一橙褐色。F.7/8。H.東側調査区。
26	環	A.口縁部径13.5、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、チャート。E.外一淡橙褐色、内一橙褐色。F.4/5。H.東側調査区。
27	環	A.口縁部径13.0、器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
28	環	A.口縁部(12.8)、器高3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一淡赤褐色。F.1/3。H.東側調査区。
29	環	A.口縁部径12.6、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、褐色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.4/5。H.西側調査区。
30	環	A.口縁部径12.2、器高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面不明瞭。D.白色粒、赤色粒、角閃石、雲母。E.外一淡黄橙褐色、内一橙褐色。F.5/6。H.東側調査区。
31	環	A.口縁部径(11.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.外一褐色、内一明赤褐色。F.口縁部1/2。H.東側調査区。
32	環	A.口縁部径10.9、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.西側調査区。
33	横微環	A.口縁部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、チャート。E.内外一橙褐色。F.1/5。H.西側調査区。
34	環	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。外面体部ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石。E.内外一橙褐色。F.1/4。H.東側調査区。
35	環	A.口縁部径(13.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、石英。E.内外一橙褐色。F.1/3。H.西側調査区。
36	環	A.口縁部径11.6、器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一橙褐色。F.3/4。H.東側調査区。

37	坏	A.口縁部径(12.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
38	坏	A.口縁部径(13.2)。器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面不明瞭。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.東側調査区。
39	坏	A.口縁部径(12.2)。器高3.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後部ケズリ。内面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外一淡褐色。F.1/2。H.東側調査区。
40	坏	A.口縁部径12.5。器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.1/4。H.東側調査区。
41	坏	A.口縁部径11.2。器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、石英。E.内外一明赤褐色。F.口縁部一部欠損。H.東側調査区。
42	坏	A.口縁部径12.3。器高3.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面不明瞭。D.白色粒、黒色粒、褐色粒。E.内外一淡褐色。F.4/5。H.東側調査区。
43	坏	A.口縁部(14.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面不明瞭。D.チャート。E.外一淡赤褐色、内一淡褐色。F.1/3。H.東側調査区。
44	坏	A.口縁部径(13.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一明赤褐色。F.口縁部1/3。H.西側調査区。
45	坏	A.口縁部径(13.2)。器高3.1。底部径(8.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面不明瞭。D.白色粒、赤色粒、雲母。E.内外一褐色。F.1/4。H.西側調査区。
46	坏	A.口縁部径12.0。器高3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒。E.内外一明赤褐色。F.3/4。H.西側調査区。
47	皿	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D.雲母、チャート。E.外一褐色、内一明褐色。F.2/5。H.覆土中。
48	暗文坏	A.口縁部径13.1。器高3.3。底部径8.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.1/2。H.西側調査区。
49	坏	A.口縁部径13.8。器高3.5。底部径7.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。外面体部ナデの後下半ケズリ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.3/5。H.東側調査区。
50	坏	A.口縁部径13.4。器高3.9。底部径7.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.黒色粒、白色粒。E.外一淡赤褐色、内一淡褐色。F.3/4。G.体部外面に指頭瓦痕を残す。H.東側調査区。
51	坏	A.口縁部径13.2。器高4.0。底部径7.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.外一淡褐色、内一褐色。F.3/4。G.体部外面に指頭瓦痕を残す。H.東側調査区。
52	坏	A.口縁部径(13.0)。底部径(6.3)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面不明瞭。底部外面ケズリ。D.白色粒、褐色粒、雲母。E.内外一褐色。F.1/4。H.東側調査区。
53	坏	A.口縁部径(12.2)。器高4.3。底部径5.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.内外一淡褐色。F.3/4。H.覆土中。
54	坏	A.口縁部径12.0。器高4.3。底部径5.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面不明瞭。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一明褐色。F.2/3。H.東側調査区。
55	坏	A.口縁部径11.9。器高4.2。底部径5.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、雲母。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
56	坏	A.口縁部径12.2。器高4.3。底部径7.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
57	坏	A.口縁部径(12.0)。器高4.4。底部径(7.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒、角閃石。E.外一明褐色、内一褐色。F.1/4。H.東側調査区。
58	坏	A.口縁部径11.5。底部径7.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、赤色粒、角閃石、黒色粒。E.内外一褐色。F.3/5。H.西側調査区。
59	坏	A.口縁部径(11.9)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、褐色粒。E.内外一淡褐色。F.3/5。G.体部外面に指頭瓦痕を残す。H.東側調査区。
60	坏	A.口縁部径(11.3)。器高3.8。底部径6.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ。内面不明瞭。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、角閃石。E.外一褐色、内一淡黄褐色。F.3/5。H.東側調査区。
61	須惠器費	A.口縁部径(28.6)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部外面叩き(平行叩き目)の後回転ナデ。内面回転ナデ。D.白色粒。E.外一淡赤褐色、内一灰色。F.口縁部1/8。G.還元不良。H.東側調査区。

62	須 惠 器	A.口縁部径(22.9)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
63	須 惠 器	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部1/8。H.西側調査区。
64	須 惠 器	A.底部径(14.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面回転ナデの後下端ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.底部1/4。H.東側調査区。
65	須 惠 器	A.底部径(14.8)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)の後下端ケズリ、内面当て道具痕を残す。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫。E.内外一灰色。F.底部1/6。H.東側調査区。
66	須 惠 器	A.底部径(16.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.内外面回転ナデ。底部内面澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一淡黄褐色。F.底部1/10。G.下端に穿孔あり。H.東側調査区。
67	須 惠 鉢	A.口縁部径(24.4)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.外面回転ナデの後胴部下半回転澁ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.口縁部1/4。H.西側調査区。
68	須 惠 鉢	B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.胴部1/6。外面胴部上位に自然軸がかかる。H.S西側調査区。
69	須 惠 長 頸 壺	A.口縁部径9.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.黒色粒。E.外一灰色、内一褐色。F.口縁部のみ。H.東側調査区。
70	須 惠 高 台 付 壺	A.高台部径12.6。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。高台貼り付け。C.胴部外面回転ナデの後下半回転澁ケズリ、内面回転ナデ。高台内外面回転ナデ。底部外面回転澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.胴部4/5。G.胴部外面及び底部内面に自然軸がかかる。H.西側調査区。
71	須 惠 高 台 付 壺	A.高台部径(15.0)。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。高台貼り付け。C.胴部内外面回転ナデ。D.白色粒、礫。E.外一褐色、内一灰色。F.胴部下半1/6。G.胴部外面に自然軸がかかる。H.覆土中。
72	須 惠 高 台 付 壺	A.高台部径15.0。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。高台貼り付け。C.内外面回転ナデ。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.底部2/3。H.覆土中。
73	須 惠 短 頸 壺	A.口縁部径9.0。B.ロクロ成形。C.外面回転ナデの後胴部下半回転澁ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.口縁部～胴部上半1/3。H.東側調査区。
74	須 惠 脚 付 壺	B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。脚部貼り付け。C.胴部外面上半回転ナデ、下半カキ目。内面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部1/6。H.東側調査区。
75	須 惠 高 坏	B.ロクロ成形。C.脚柱部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.脚柱部4/5。G.脚柱部に長方形の透孔3カ所。外面脚部の一部および内面裾部に自然軸がかかる。H.西側調査区。
76	須 惠 蓋	A.口縁部径(17.2)。器高4.7。B.ロクロ成形。横み部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転澁ケズリ。鋸部回転ナデ。D.白色粒、礫。E.外一灰色、内一灰色。F.1/3。H.東側調査区。
77	須 惠 蓋	A.口縁部径15.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.外一黄色、内一灰色。F.口縁部1/8。H.東側調査区。
78	須 惠 蓋	A.口縁部径(18.2)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒、角閃石、礫。E.内外一灰色。F.1/5。H.西側調査区。
79	須 惠 蓋	A.口縁部径18.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転澁ケズリ。D.白色粒。E.内外一黄色。F.口縁部破片。H.東側調査区。
80	須 惠 蓋	A.口縁部径(16.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一黄色。F.口縁部1/5。H.東側調査区。
81	須 惠 蓋	A.口縁部径(16.1)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.礫。E.内外一灰色。F.口縁部破片。H.東側調査区。
82	須 惠 坏	A.口縁部径(10.6)。器高4.0。底径(7.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外面一灰色。F.1/3。H.東側調査区。
83	須 惠 坏	A.口縁部径(12.8)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面澁ケズリ。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
84	須 惠 坏	A.底部径7.6。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒、海綿骨針、礫。E.内外一灰色。F.底部2/3。G.南北企堂窪。H.西側調査区。
85	須 惠 坏	A.口縁部径(14.2)。器高2.9。底部径(10.4)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転澁切り後ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一灰色。F.2/5。H.西側調査区。
86	須 惠 坏	A.口縁部径12.6。器高3.7。底部径8.1。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外面一灰色。F.1/2。H.覆土中。
87	須 惠 坏	A.口縁部径13.0。器高3.9。底部径7.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転澁ケズリ。D.白色粒、海綿骨針。E.内外一灰色。F.3/4。G.南北企堂窪。体部外面に墨書あり。H.西側調査区。
88	須 惠 坏	A.口縁部径(13.0)。器高3.4。底部径7.4。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後外周回転澁ケズリ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.1/2。H.覆土中。

89	須恵器 坏	A.口縁部径(13.0)、器高4.2、底部径7.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒、礫。E.内外一灰色。F.1/3。H.覆土中。
90	須恵器 坏	A.口縁部径12.4、器高4.0、底部径6.8。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.礫。E.内外一灰色。F.1/4。H.覆土中。
91	須恵器 坏	A.底部径5.8。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒、黒色粒、礫、角閃石。E.外一灰色、内一淡褐色。F.底部4/5。H.東側調査区。
92	須恵器 皿	A.口縁部径(12.7)、器高2.3、底部径5.9。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外一灰色。F.2/5。H.東側調査区。
93	須恵器 皿	A.口縁部径12.5、器高2.5、底部径5.2。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.礫、褐色粒。E.内外一灰色。F.7/8。H.東側調査区。
94	須恵器 高台付 埴	A.口縁部径(14.3)、器高5.9、高台部径6.2。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面不明瞭。高台部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.外一黄灰色、内一灰色。F.1/2。H.東側調査区。
95	須恵器 高台付 埴	A.高台部径6.9。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。高台部内外面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒、礫。E.内外面一灰色。F.体部～高台部4/5。H.西側調査区。
96	龍泉窯系 青磁 碗	A.口縁部径(16.0)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデの後施釉。D.白色粒、黒色粒。E.内外釉一灰オリーブ色、内一灰色。F.口縁部破片。H.西側調査区。
97	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
98	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
99	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(疑似格子目状の叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.片岩粒、白色粒、黒色粒、褐色粒。E.外一灰色、内一黄灰色。F.胴部破片。H.東側調査区。
100	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(格子目状の叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
101	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.口縁部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文。D.白色粒。E.内外一灰色。F.口縁部破片。H.覆土中。
102	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.頸部内外面回転ナデの後、外面に櫛描波状文。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.西側調査区。
103	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(疑似格子目状の叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一褐色。F.胴部破片。G.還元不良。H.西側調査区。
104	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(斜格子目状の叩き目)、内面当て道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外一灰色。F.胴部破片。H.西側調査区。
105	須恵器 甕	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面回転ナデの後施釉ナデ。D.白色粒。E.内外一灰白色。F.胴部破片。H.西側調査区。
106	平瓦	C.凹面布目圧痕を残す。凸面施ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.破片。G.古代瓦。H.覆土中。
107	平瓦	C.凹面布目圧痕を残す。凸面施ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.破片。G.古代瓦。H.西側調査区。
108	平瓦	A.残存長8.5、残存幅5.85、残存厚1.75。B.一枚作り。C.凹面施ナデ。凸面施ナデ。側面施切り。D.白色粒。F.破片。G.近世瓦。H.西側調査区。
109	羽口	A.残存長9.0、残存幅6.65、残存厚6.5、孔径2.25、重さ173.3g。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.白色粒、黒色粒、赤色粒、礫、雲母。E.外一灰褐色、内一明赤褐色。F.破片。H.覆土中。
110	羽口	A.残存長7.7、残存幅5.9、残存厚5.9、孔径2.5、重さ185.6g。B.手捏ね。C.内外面ナデ。D.白色粒、赤色粒。E.外一灰黄色、内一褐色。F.破片。H.覆土中。
111	椀形 滓	A.長さ9.6、幅8.9、厚さ5.2、重さ490.4g。F.破片。G.鉄分を含む。H.覆土中。

第6号溝跡(第317図、図版65)

C4地点の調査区東端に位置する。調査区内では、北西から南東方向に向かって直線的な流路を取っており、溝跡の東側延長部分は隣接するB1地点(恋河内・約野2010)で、北側延長部分はC3地点の第14・15号溝跡(本報告)と考えられる。

調査区内では溝跡の南側半分の一部しか検出されていないため、断面の形態は不明であるが、隣接するB1地点では溝の上幅が85cm～110cm、下幅が15cm～25cmの逆台形を呈しており、確認面からの深さは70cm程度あったようである。

覆土は、浅間山系B軽石・マンガン塊・ローム粒子などを含む暗茶灰色土を主体としており、恒常的に水が流れていたような形跡は認められないようである。ちなみに、北側のC3地点では、本溝跡は途中で途切れた箇所があり、区画を目的とした溝であったことが窺える。

遺物は、覆土中から古代の土師器の破片が数片出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態やB1地点で検出された部分の様相から、中世～近世前半頃と考えられる。

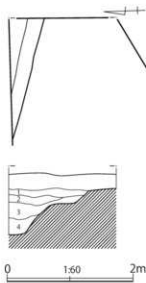
第6号溝跡土層説明

第1層：黒灰色土層（マンガン粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰色土層（浅間山系B軽石・マンガン塊・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶灰色土層（マンガン塊・ローム粒子を均一に、浅間山系B軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶灰色土層（マンガン塊を均一に、浅間山系B軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第317図 第6号溝跡

3. 河川跡

西側調査区の北側から東側調査区の中央部にかけて検出されている。調査区内では、ほぼ東西方向に向いて、緩やかに蛇行した流路をとっており、上層の第4号溝跡の流路と概ね一致している。周囲の地形の状況や溝底面の高さの比較によると、西から東に向かって流れていたようである。本溝跡の東側延長は、東側に隣接するB1地点(恋河内・的野2010)で検出されており、南東側に向かった流路を取っている。西側の延長は、西側約50mに位置するE1地点(恋河内2012)やさらにその西側のA2地点とD1地点(恋河内2012)で同時期の類似した河川跡が検出されており、それらと同一か関係する河川跡であった可能性が高いと思われる。

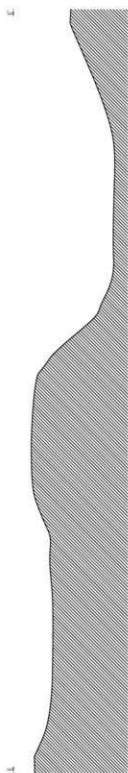
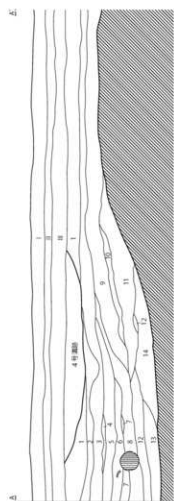
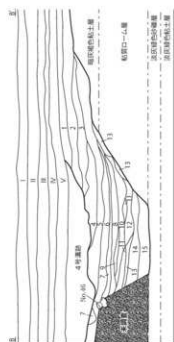
形態は、西側調査区では溝の上幅が5.60m以上、下幅が4m以上あり、東側調査区では上幅が5.50m、下幅が3.00m～3.70mある。壁は、傾斜して立ち上がっているが、北側壁に比べて南側壁は緩やかになっており、規模・形態とも東側のB1地点南側調査区で検出された河川跡(恋河内・的野2010)や、西側のA1地点やE1地点で検出された河川跡(恋河内2012)と類似している。確認面からの深さは、最高で1mある。底面は、比較的平坦で、ローム層下の淡灰緑色砂礫層に達している。覆土は、細砂と粘土を主体として、比較的整ったレンズ状の自然堆積を示しており、人為的に掘り返されたような様子は見られない。

東側調査区の河川跡では、底面上から多くの流木が溜まった状態で出土している。これらの流木は、その年代測定によって弥生時代後期頃に倒木したものであることが判明しており(本書第七章第5節参照)、河川跡の流路が東西方向から南東方向に弓状に曲がった部分の、水流の攻撃面に当たる河川の北東側壁面近くに、流れてきて溜まったものであることが窺える。

出土遺物は、古墳時代前期～中期後半までの土師器の破片が覆土中から大量に出土しているが、量的には前期のものが圧倒的に多い。これらの土師器は、層別的な出土傾向を認めることができ、覆土下層からは前期の土師器が多く出土し、上層に行くに従って中期以降の土師器が量を減じながら出土している。当地域の古墳時代前期の土師器様相を反映して、各器種とも多系統の土師器が出土しているが、特に注目されるものとして、布留式のものに近い甕(No77)や高坏(No59)及び山陰地方の鼓形器台の影響が



第318图 河川迹



0 160 2m

第319图 河川跡断面

河川跡土層説明

<西側調査区A-A'>

- 第1層：現耕作土（浅間山系A軽石を含む。）
 第2層：暗灰色土層（浅間山系A軽石を含む。）
 第3層：淡灰色土層（浅間山系A軽石・鉄斑を含む。）
 第4層：黒褐色土層（細砂を均一に、ロームブロック・淡灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：黒色土層（細砂を均一に、鉄斑・淡灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：灰褐色土層（細砂・ローム粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗灰色土層（細砂を均一に、鉄斑・暗灰色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：淡黄褐色土層（ローム粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：黒色土層（細砂を多量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第10層：暗灰色土層（細砂を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：暗灰色土層（細砂・炭化粒子を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：暗灰色土層（細砂・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：暗灰色土層（細砂・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：暗灰色土層（細砂を主体に、炭化粒子・小礫を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第15層：暗灰色土層（細砂・小礫を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

<東側調査区B-B'>

- 第1層：現耕作土。
 第2層：旧耕作土。
 第3層：黄灰色土層（田床層。）
 第4層：暗灰色土層（旧耕作土。白色粒子・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第5層：暗黄褐色土層（白色粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第6層：暗褐色土層（鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗灰色土層（細砂・鉄斑を均一に、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：黒褐色土層（細砂を均一に、鉄斑・マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：黒褐色土層（細砂・ローム粘土ブロック・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：黒灰色土層（細砂・炭化粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：黒灰色土層（細砂をブロック状に微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第13層：黒色土層（炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第14層：暗灰色土層（細砂を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第15層：暗灰色土層（細砂解。）
 第16層：黒灰色土層（鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第17層：黒色土層（細砂をブロック状に多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第18層：暗灰色土層（鉄斑・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第19層：暗灰色土層（細砂を主体に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第20層：暗灰色土層（炭化粒子・緑色砂・木片を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

推測される器台(No157)などが出土している。このうち前者の布留式甕は、その胎土材料の分析から、第103号住居跡や第130号住居跡出土の布留式甕と同様に、当地域の周辺で製作された可能性が高いことが指摘されており(本書第7章第4節参照)、おそらく他の外来系の土器もほとんどが在地で製作された可能性が高いと思われる。

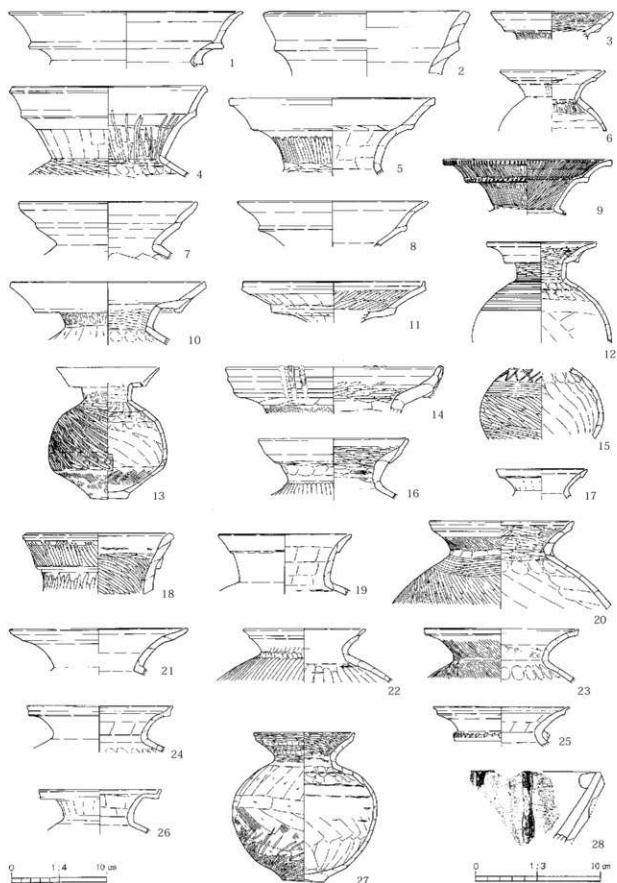
土器以外では、古墳時代前期～中期の石製紡錘車(No183)や大形の砥石(No176)、縄文時代の打製石斧(No177・180)・スクレイパー(No178・179)・磨石・敲石(No181)・台石(No182)などが出土している。また、木製品は見られなかったが、モモ・オニグルミ・ミズナラ・コナラ・エゴノキ・カヤ・トチノキ・サンショウ・カナムグラ・アズキ・オナモミなどの植物種子も覆土中から出土してい

る。この中のエゴノキについては、人為的に割られた可能性があるものが多く見られることから、魚毒として利用された可能性が指摘されていることは注目される(第VII章第3節参照)。

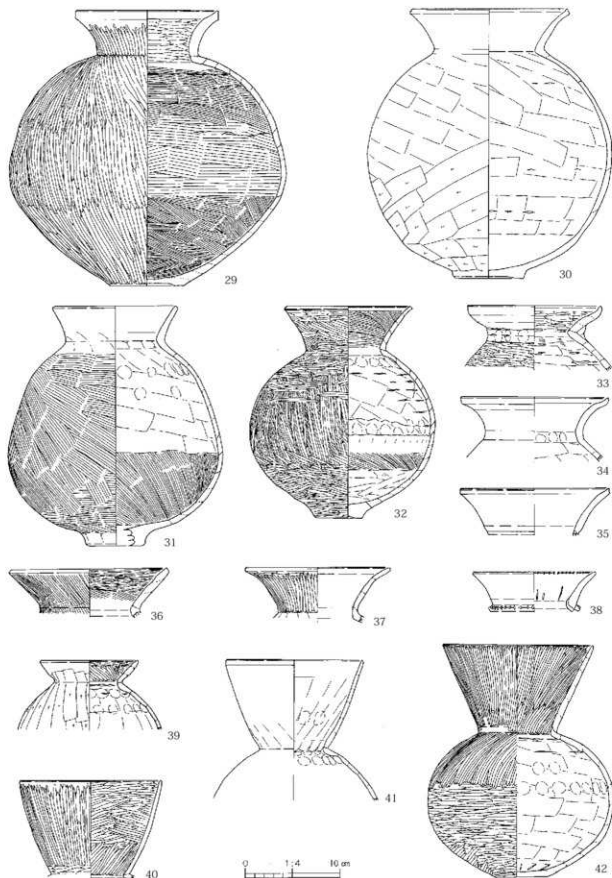
本河川跡の時期は、出土土器の層位的な出土傾向から、古墳時代前期から中期にかけて機能し、中期後半から後期初頭頃には概ね埋没したと考えられる。そして、その後の白鳳時代(7世紀後半)に、この河川跡の上面の浅い窪みの自然流路を利用して、第4号溝跡が形成されている。

第183表 河川跡出土遺物観察表

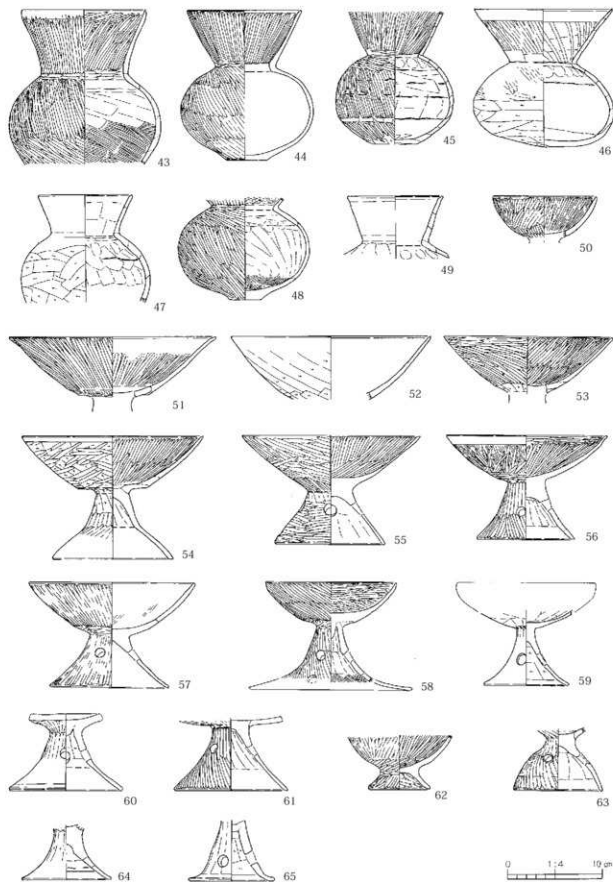
1	二重口緑壺	A.口縁部径(24.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.口縁部1/4強。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
2	二重口緑壺	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明黄褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
3	二重口緑壺	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。頸部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部2/3。H.東側調査区。
4	二重口緑壺	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面ナデの後ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/3。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
5	二重口緑壺	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
6	二重口緑壺	A.口縁部径(11.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。頸部内外面ハケの後ミガキ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.上半2/3。G.内面上半に絞り目顯著。H.東側調査区。
7	二重口緑壺	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.西側調査区。
8	二重口緑壺	A.口縁部径(20.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
9	二重口緑壺	A.口縁部径17.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。口唇部と段部に櫛歯状工具による列点文を施す。D.金雲母、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁のみ。H.東側調査区下層。
10	二重口緑壺	A.口縁部径(20.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ハケの後ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/2。H.東側調査区。
11	二重口緑壺	A.口縁部径(18.4)。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。口縁部外面ナデ、内面ミガキ。頸部外面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部3/4。H.西側調査区。
12	二重口緑壺	A.口縁部径11.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部ヨコナデの後内面ミガキ。頸部内外面ミガキ。胴部外面上半櫛歯状工具による横線文(2段)・下半ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一明褐色。F.上半1/2。G.パレス文様壺。外面(口唇部・頸部・胴部施文部外)と内面(口縁部・頸部)に赤彩を施す。H.東側調査区。
13	二重口緑壺	A.残存高12.4、底部径4.0。B.粘土組織み上げ。C.頸部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。G.胴部中に穿孔痕あり。H.東側調査区。
14	二重口緑壺	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後、3本1組の棒状字文を貼り付け。頸部外面ハケ、内面ナデの後ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/6。G.パレス文様壺。内面に黒色付着痕あり。H.東側調査区。
15	壺	A.胴部最大径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面施文部外ミガキ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.胴部中位1/2。G.パレス文様壺。文様は上から櫛歯状波文・虎歯状波文・櫛歯状工具による右回りの横線文で、最下段の列点文は見られない。胴部外面の施文部外に赤彩を施す。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
16	複合口緑壺	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ、内面ハケの後ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4強。H.東側調査区。
17	複合口緑壺	A.口縁部径(9.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/2弱。H.東側調査区。
18	複合口緑壺	A.口縁部径(16.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。頸部内外面ミガキ。D.白色粒。E.外一淡茶褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
19	複合口緑壺	A.口縁部径(14.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部・頸部内外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
20	壺	A.口縁部径(15.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ハケ、内面ミガキ。胴部外面ミガキの後櫛歯状工具(9本歯)による横線文(右回り)、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.上半1/2。G. H.西側調査区。



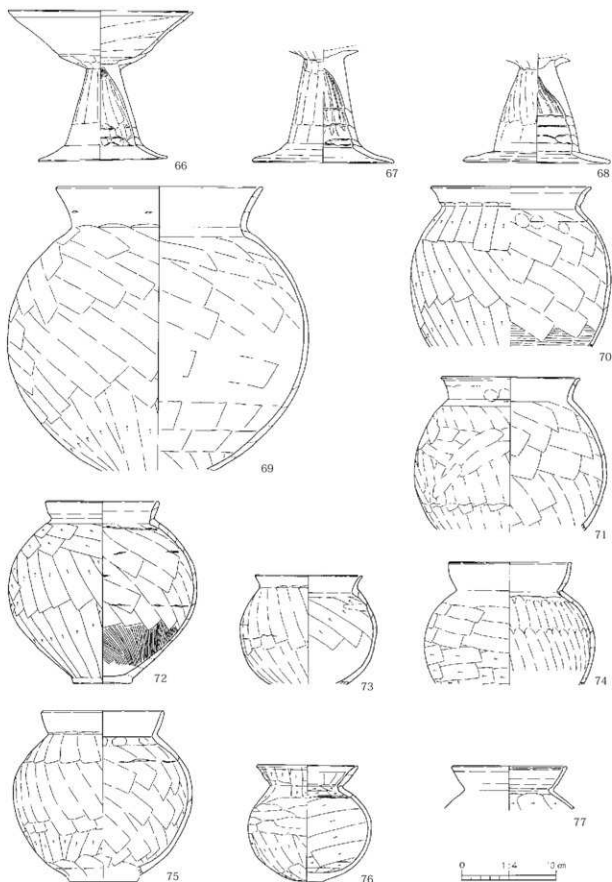
第320图 河川跡出土遺物(1)



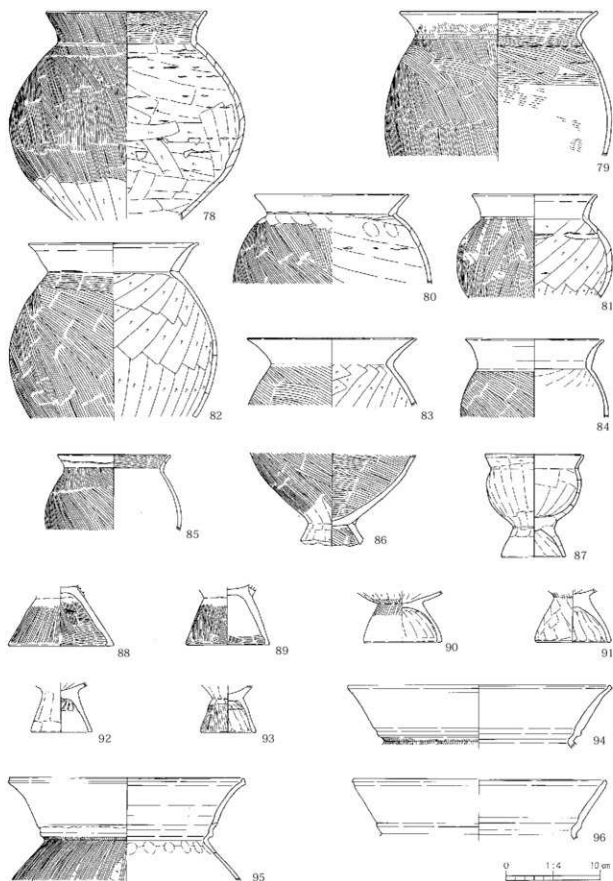
第321图 河川跡出土遺物(2)



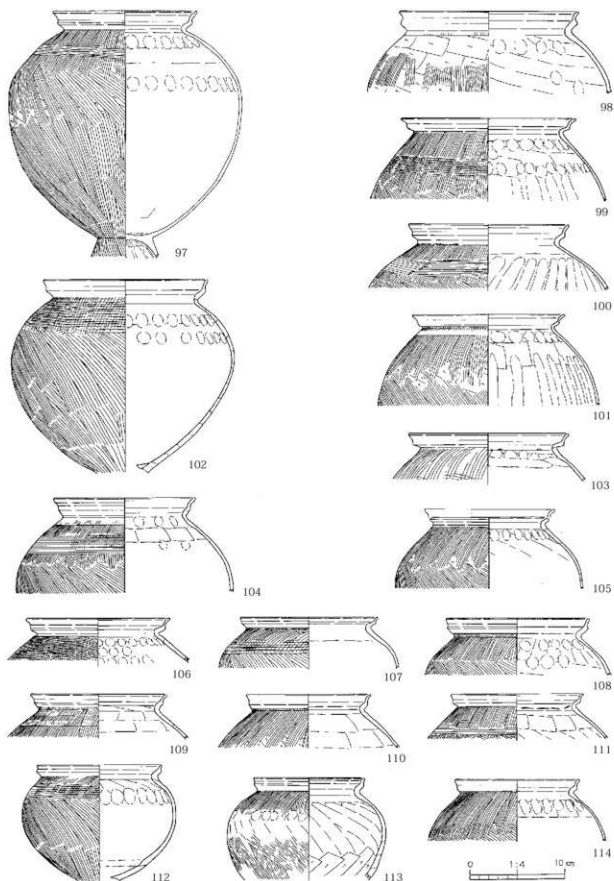
第322図 河川跡出土遺物(3)



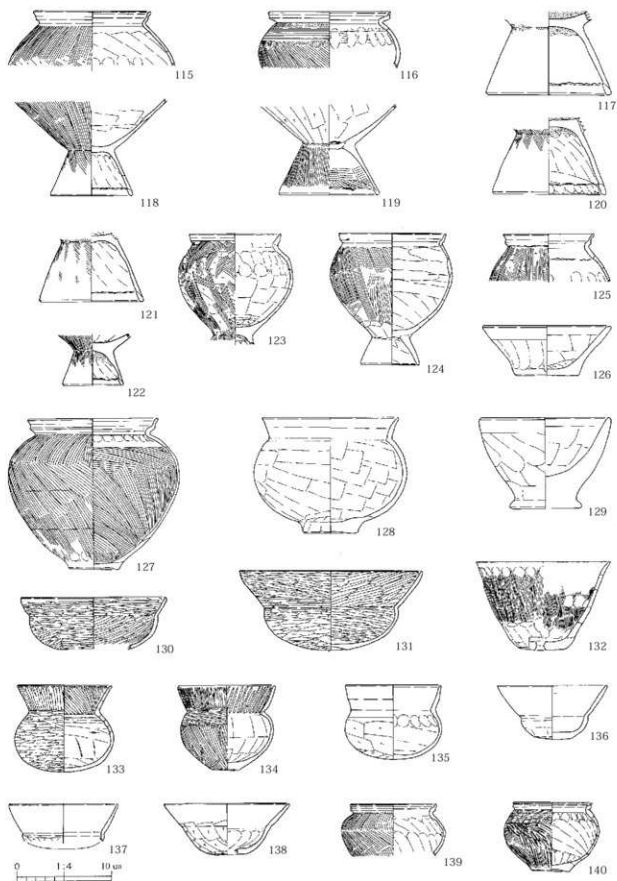
第323图 河川跡出土遺物(4)



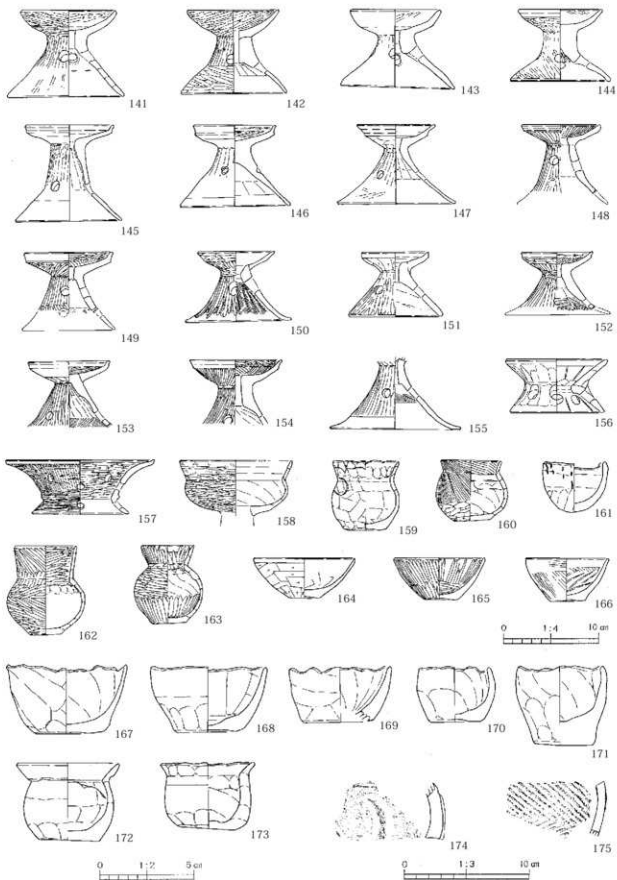
第324図 河川跡出土遺物(5)



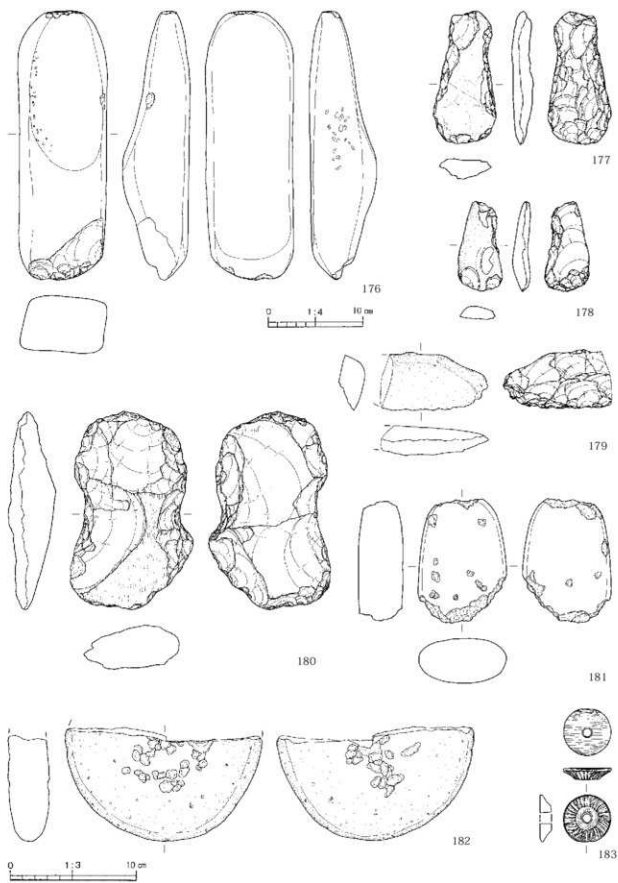
第325图 河川跡出土遺物(6)



第326图 河川跡出土遺物(7)



第327图 河川跡出土遺物(8)



第328図 河川跡出土遺物(9)

21	壺	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部1/4。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
22	壺	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一淡褐色。F.上半のみ。G.外面に黒色付着物あり。H.東側調査区。
23	壺	A.口縁部径(16.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.頸部のみ。G.器表面は荒れている。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.西側調査区。
24	壺	A.口縁部径15.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面不明。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部のみ。G.器表面は荒れている。H.西側調査区。
25	壺	A.口縁部径14.4。B.粘土組織み上げ。頸部凸帯貼り付け。C.口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデ。頸部凸帯上キザミ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部のみ。G.口縁部は歪んでいる。H.東側調査区。
26	壺	A.口縁部径13.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面笠ナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.口縁部のみ。H.東側調査区。
27	壺	A.口縁部径10.8、器高15.9、底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。胴部外面ハケの後、上半ケズリ・下半ミガキ。胴部内面上半ナデ・下半笠ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.3/4。H.東側調査区。
28	複合口縁壺	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面笠ナデ後、棒状浮文を貼り付け。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部破片。G.大甕式。在地産。内面に煤付着。H.東側調査区。
29	壺	A.口縁部径(10.2)。器高29.3、底部径7.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ハケ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/4、胴部1/2。H.西側調査区。
30	壺	A.口縁部径17.0、器高28.6、底部径7.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデの後下半ケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/3。H.西側調査区。
31	広口壺	A.口縁部径(13.2)。器高25.3、底部径(6.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ハケ、内面ハケの後上半笠ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一黒灰褐色。F.上半1/3、下半1/4。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
32	壺	A.口縁部径(13.6)。器高22.6、底部径5.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ミガキ、内面ハケ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面ハケの後笠ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/2欠損。G.胴部外面下半に煤付着。胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
33	壺	A.口縁部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ハケの後笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部3/4。H.東側調査区。
34	壺	A.口縁部径(15.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
35	壺	A.口縁部径15.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後重なミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一白褐色。F.口縁部1/2。G.口縁部外面は荒れている。H.東側調査区。
36	壺	A.口縁部径17.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2。H.東側調査区。
37	壺	A.口縁部径15.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリの後ミガキ、内面不明。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2。G.口縁部内面は荒れている。H.東側調査区。
38	壺	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。頸部凸帯貼り付け。C.口縁部に櫛歯状工具による連続刺突文を残す。口縁部外面ヨコナデ、内面笠ナデ後ヨコナデ。頸部凸帯ナデの後櫛歯状工具によるキザミ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.頸部1/4。G.H.東側調査区。
39	壺	A.口縁部径10.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。胴部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半のみ。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
40	大形直口壺	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。H.東側調査区。
41	大形直口壺	A.口縁部径14.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面ナデ、内面笠ナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.上半のみ。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
42	大形直口壺	A.口縁部径16.0、器高24.8、底部径5.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面笠ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/2、胴部3/4。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
43	中形直口壺	A.口縁部径13.2、残存高16.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。胴部外面ハケの後上半笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.上半1/3。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
44	中形直口壺	A.口縁部径12.2、器高16.0、底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。G.器表面は荒れている。底部外面に黒斑あり。H.東側調査区。

45	中形直口壺	A.残存高14.3、底部径(4.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後上半径ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一赤茶褐色、内一淡黄褐色。F.1/2。G.外面に赤彩を施す。H.東側調査区。
46	中形直口壺	A.口縁部径14.6、器高14.7。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。口縁部外面ミガキ、内面ナデの後ミガキ。胴部外面上半径ナデの後ミガキ・下半径ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡い茶褐色。F.ほぼ球形。G.胴部外面に黒斑あり。胴部内面に指痕を残す。H.東側調査区上層。
47	中形直口壺	A.口縁部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ナデナ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後上半径ナデ。D.片岩粒。白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.上半1/2。H.東側調査区。
48	中形直口壺	A.残存高10.9、底部径3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ミガキ、内面ハケ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.胴部のみ。H.東側調査区。
49	中形直口壺	A.口縁部径(10.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2。H.東側調査区。
50	高 坏	A.口縁部径(11.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.白色粒。E.外一暗褐色、内一暗茶褐色。F.口縁部1/2。H.東側調査区。
51	高 坏	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.口縁部内面上半器表面剥落顯著。H.東側調査区。
52	高 坏	A.口縁部径(21.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ケズリ、内面不明。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一灰褐色。F.口縁部1/4強。G.口縁部内面は荒れている。H.東側調査区。
53	高 坏	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ミガキ。坏部外面ケズリ。D.白色粒。E.外一淡黄褐色、内一黒色。F.口縁部1/3。H.東側調査区。
54	高 坏	A.口縁部径(19.2)。器高13.1、脚端部径12.8。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。口縁部外面ケズリの後複雑ミガキ、内面ミガキ。坏部外面ケズリ、内面ミガキ。脚柱部外面ケズリの後下半ミガキ、内面ナデ。脚端部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.坏部1/4、脚部1/2。G.脚部穿孔孔は見られない。H.東側調査区。
55	高 坏	A.口縁部径18.8、器高11.6、脚端部径11.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.1/2。G.脚部穿孔孔(焼成前)は4カ所。H.東側調査区。
56	高 坏	A.口縁部径17.0、器高11.1、脚端部径10.4。B.粘土組織み上げ。C.口唇部外面ヨコナデ。口縁部外面ハケの後ミガキ、内面ミガキ。坏部内外面ミガキ。脚柱部外面ミガキ、内面指ナデ。脚端部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.脚部3/4欠損。G.脚部穿孔孔(焼成前)は千鳥状に推定4カ所。H.東側調査区下層。
57	高 坏	A.口縁部径17.6、器高11.2、脚端部径(12.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。坏部内外面ミガキ。脚端部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.脚部3/4欠損。G.脚部穿孔孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区下層。
58	高 坏	A.口縁部径14.0、残存高10.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。坏部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデの後脚端部ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2。G.脚部欠損。G.脚部穿孔孔(焼成前)は縦2個1組で3カ所。H.西側調査区下層。
59	高 坏	A.残存高8.0、脚端部径9.0。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.坏部外一淡褐色、坏部内一黒褐色。脚部内外一淡褐色。F.坏部1/4、脚部成形。G.脚部穿孔孔(焼成前)は3カ所。布留式の地形高坏か? H.東側調査区。
60	高 坏	A.残存高8.2、脚端部径12.0。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。F.脚部1/2。G.脚部穿孔孔(焼成前)は4カ所。坏部の割れ口は全周より擦られて円形をなしており、器口に再利用された可能性が高い。H.東側調査区。
61	高 坏	A.残存高7.8、脚端部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚柱部外面ハケの後ミガキ、内面指ナデ。脚端部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.脚部1/4。G.脚部穿孔孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
62	高 坏	A.残存高5.8、脚端部径(6.6)。B.粘土組織み上げ。C.坏部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。H.東側調査区。
63	高 坏	A.脚端部径9.4。B.粘土組織み上げ。C.坏部外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚部3/4。G.脚部穿孔孔(焼成前)は3カ所。H.西側調査区。
64	高 坏	A.脚端部径(9.4)。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一明茶褐色。F.脚部のみ。G.器表面は荒れている。H.西側調査区。
65	高 坏	A.脚端部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.脚部のみ。G.脚部穿孔孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
66	高 坏	A.口縁部径19.6、器高16.1、脚端部径13.7。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。口縁部内外面ナデ。坏部外面ケズリの後ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.3/4。H.東側調査区。

67	高 坏	A.脚端部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.脚端部1/4。H.西側調査区。
68	高 坏	A.脚端部径(15.6)。B.粘土組織輪み。C.脚柱部外面ケズリの後丁寧ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.脚端部1/2。H.西側調査区。
69	糞	A.口縁部径(22.0)。残存高30.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半笠ナデ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.2/3。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
70	糞	A.口縁部径17.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後上半笠ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部3/4。H.東側調査区。
71	糞	A.口縁部径14.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面笠ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡明褐色。F.上半1/2。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
72	平底糞	A.口縁部径(12.0)。器高19.3。底部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後上半笠ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一暗茶褐色。F.1/3。G.外面は荒れている。H.東側調査区。
73	糞	A.口縁部径11.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面笠ナデ、内面ナデの後上半ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/2。G.外面煤付着顕著。H.東側調査区。
74	糞	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.上半1/3。H.東側調査区。
75	平底糞	A.口縁部径(13.0)。残存高17.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/4。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
76	平底糞	A.口縁部径(10.8)。器高12.4。底部径3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ケズリ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.完形。G.外面に黒斑あり。H.東側調査区。
77	糞	A.口縁部径(12.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面丁寧ナデ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一乳白色。F.口縁部1/2。G.布留式糞。在地産。H.東側調査区。
78	糞	A.口縁部径(17.0)。残存高22.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケ。胴部外面ハケの後下半ケズリ、内面ケズリの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一淡茶褐色。F.上半1/2。G.外面上半煤付着顕著。H.東側調査区。
79	糞	A.口縁部径(21.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ハケの後下半ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半1/4。G.外面に煤付着。H.西側調査区。
80	糞	A.口縁部径16.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一明褐色。F.口縁部3/4。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
81	糞	A.口縁部径13.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後丁寧ハケ、内面ケズリ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.上半1/2。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
82	糞	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.上半1/2。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
83	糞	A.口縁部径(18.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/2弱。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
84	糞	A.口縁部径14.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一赤褐色。F.口縁部1/2。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
85	糞	A.口縁部径12.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナデ、内面ハケ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一淡褐色。F.上半1/2。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
86	台付糞	A.台端部径6.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ナデの後ハケ、内面ハケ。D.片岩粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一黒褐色。F.下半1/4。G.台部の割れ口を磨いて、台端部として再使用している。H.東側調査区。
87	小形台付糞	A.口縁部径10.5。器高11.1。台端部径6.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面笠ナデ、内面ナデ。胴部内外面笠ナデ。台部内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
88	台付糞	A.台端部径11.0。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後ハケ、内面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一淡赤褐色。F.台部のみ。H.西側調査区。
89	台付糞	A.台端部径8.8。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.台部1/2。H.西側調査区。
90	台付糞	A.台端部径8.2。B.粘土組織み上げ。C.胴部下外面ハケの後ケズリ、内面笠ナデ。台部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.台部のみ。H.東側調査区。
91	台付糞	A.台端部径8.0。B.粘土組織み上げ。C.台部外面笠ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部のみ。H.東側調査区。

92	台付費	A.台端部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.台部のみ。H.東側調査区。
93	台付費	A.台端部径5.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部内外面ナデ。台部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.台部のみ。H.東側調査区。
94	山陰系口縁S字費	A.口縁部径(28.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.東側調査区。
95	山陰系口縁S字費	A.口縁部径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/4。G.外面に煤付着。頸部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
96	山陰系口縁S字費	A.口縁部径(27.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.外一淡褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/3。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
97	S字状口縁台付費	A.口縁部径(15.7)。残存高26.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ・肩部横線、内面ナデ。台部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.1/3。G.底部内外面に砂付着。内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
98	S字状口縁台付費	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後半ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/3。G.外面に煤付着顕著。内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
99	S字状口縁台付費	A.口縁部径18.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデの後上半径ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部3/4。G.内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
100	S字状口縁台付費	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.口縁部1/4。G.外面煤付着。H.東側調査区。
101	S字状口縁台付費	A.口縁部径16.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/2強。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
102	S字状口縁台付費	A.口縁部径17.4。残存高20.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一明褐色、内一暗褐色。F.台部欠損。G.内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
103	S字状口縁台付費	A.口縁部径(17.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後半ハケ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/3。G.内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
104	S字状口縁台付費	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.白色粒。E.外一暗白褐色、内一淡白褐色。F.口縁部1/4強。G.外面煤付着。H.東側調査区。
105	S字状口縁台付費	A.疑似口縁部径12.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡褐色。F.上半の口縁部上半欠損。G.口縁部中位の割れ口を磨いて、疑似口縁にしている。頸部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
106	S字状口縁台付費	A.口縁部径(15.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面擬ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一白褐色。F.口縁部1/3。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
107	S字状口縁台付費	A.口縁部径(14.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
108	S字状口縁台付費	A.口縁部径(15.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/4。G.外面に煤付着顕著。内面に指頭圧痕を残す。H.西側調査区。
109	S字状口縁台付費	A.口縁部径14.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一暗褐色、内一淡褐色。F.口縁部3/4。H.東側調査区。
110	S字状口縁台付費	A.口縁部径13.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面径ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部2/3。H.東側調査区。
111	S字状口縁台付費	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面径ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/4強。H.西側調査区。
112	S字状口縁台付費	A.口縁部径(13.2)。残存高12.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.胴部1/2。G.外面に煤付着顕著。胴部外面下半は二次焼成を受けて赤色化している。内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
113	S字状口縁台付費	A.口縁部径11.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ハケ、内面指ナデの後下半ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.上半2/3。G.外面に煤付着。外面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
114	S字状口縁台付費	A.口縁部径(13.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一暗褐色。F.口縁部1/2弱。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
115	S字状口縁台付費	A.口縁部径12.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ハケ、内面径ナデ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一淡褐色。F.口縁部3/4。G.内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。

116	S字状口縁台付費	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後肩横線、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一茶褐色。F.口縁部1/3。G.内面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。
117	S字状口縁台付費	A.台端部径13.2。B.粘土組織み上げ。C.台部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡白色。F.台部のみ。G.底部内外面に砂付着。H.西側調査区。
118	S字状口縁台付費	A.台端部径8.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ハケ、内面笠ナデ。台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.台部のみ。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
119	S字状口縁台付費	A.台端部径10.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。台部内外面ナデの後ハケ。D.白色粒。E.内外一黒灰褐色。F.台部3/4。H.東側調査区。
120	S字状口縁台付費	A.台端部径12.0。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外上半一淡褐色・下半暗褐色、内一暗褐色。F.台部1/2。G.底部内外面に砂付着。H.東側調査区。
121	S字状口縁台付費	A.台端部径11.0。B.粘土組織み上げ。C.台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一白色。F.台部のみ。H.東側調査区。
122	S字状口縁台付費	A.台端部径6.4。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ハケ、内面笠ナデ。台部外面ナデの後上半ハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.台部のみ。G.底部内外面に砂付着。H.東側調査区。
123	S字状口縁台付費	A.口縁部径9.8。残存高11.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後雑なハケ、内面笠ナデ。台部外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.台部欠損。G.台部内面に砂付着。胴部内面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。
124	S字状口縁台付費	A.口縁部径11.4。器高14.0。台端部径6.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後雑なハケ、内面指ナデの後上半指ナデ。台部外面ナデ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面中位に煤付着。H.東側調査区。
125	S字状口縁台付費	A.口縁部径(9.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後雑なハケ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半のみ。G.内面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。
126	鉢	A.口縁部径(13.6)。器高5.3。底径6.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面笠ナデ。底部外面ナデ、内面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.1/2。G.外面に黒灰あり。H.東側調査区。
127	S字状口縁鉢	A.口縁部径13.8。器高15.9。底径5.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ハケ、内面ハケの後上端ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒灰あり。外面に煤付着顕著。頸部内面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。
128	鉢	A.口縁部径(14.6)。器高12.3。底径5.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面笠ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2弱。G.外面に煤付着。H.東側調査区。
129	鉢	A.口縁部径(14.0)。器高9.7。底径(7.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一淡褐色。F.1/3。H.西側調査区。
130	浅鉢	A.口縁部径(15.4)。B.粘土組織み上げ。C.内外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.外一茶褐色、内一淡褐色。F.口縁部1/3。G.外面に黒灰あり。H.東側調査区。
131	浅鉢	A.口縁部径(19.4)。器高8.4。底径3.2。B.粘土組織み上げ。C.外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/2。G.外面に黒灰あり。H.東側調査区。
132	小形甌	A.口縁部径14.2。器高9.4。底径5.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後上半はけ、内面ハケ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.2/3。G.底部穿孔は焼成前。器表面は荒れている。内外面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。
133	小形直口壺	A.口縁部径(10.0)。器高9.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面指ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁3/4欠損。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
134	小形鉢	A.口縁部径10.4。器高9.1。底径1.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ナデの後ミガキ。胴部外面丁座ナミガキ、内面笠ナデ。底部外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.外面煤付着顕著。H.東側調査区。
135	小形直口壺	A.口縁部径(10.2)。器高8.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.1/3。H.東側調査区。
136	小形浅鉢	A.口縁部径11.6。器高5.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.2/3。H.東側調査区。
137	小形浅鉢	A.口縁部径(11.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
138	小形浅鉢	A.口縁部径13.4。器高5.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.1/2。G.器表面は荒れている。H.東側調査区。
139	S字状口縁小形鉢	A.口縁部径9.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.上半のみ。G.胴部外面に煤付着。H.東側調査区。
140	S字状口縁小形鉢	A.口縁部径8.4。器高7.3。底径4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後雑なハケ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に煤付着顕著。頸部内面に指頭丘痕を残す。H.東側調査区。

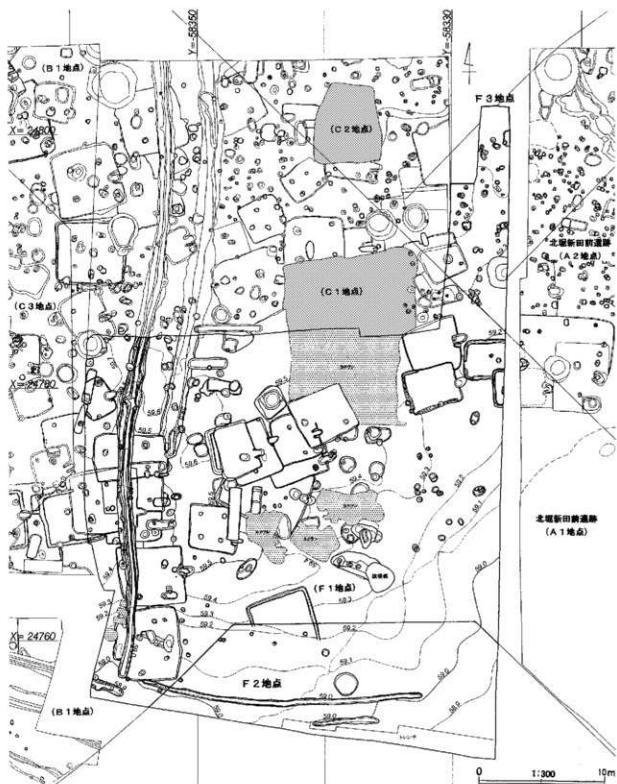
141	器 台	A.口縁部径10.2、器高9.3、脚端部径12.4。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.ほぼ完形。G.脚部穿孔(焼成前)は4カ所。器表面は荒れている。H.東側調査区。
142	器 台	A.口縁部径9.5、器高8.9、脚端部径(11.2)。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ミガキ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面笠ナデの後下半コナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.脚部3/4欠損。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
143	器 台	A.口縁部径9.8、器高8.5、脚端部径12.2。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面ミガキ?脚部外面ミガキ、内面不明。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.完形。G.脚部穿孔(焼成前)は4カ所。器表面は荒れている。H.東側調査区。
144	器 台	A.口縁部径9.0、器高7.7、脚端部径(10.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明黄茶褐色。F.3/4。G.脚部穿孔(焼成前)は4カ所。H.器受部は未穿孔。器表面は荒れている。H.東側調査区。
145	器 台	A.口縁部径9.4、器高10.3、脚端部径11.3。B.粘土組織み上げ。C.器受部内外面不明。脚柱部外面ミガキ、内面指ナデ。脚端部外面不明、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.ほぼ完形。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。器表面は荒れている。H.東側調査区。
146	器 台	A.口縁部径8.8、器高8.8、脚端部径11.7。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。器受部外面不明、内面ミガキ。脚部外面ケズリ、内面笠ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.完形。G.器受部及び脚部は未穿孔(途中1カ所)。H.東側調査区。
147	器 台	A.口縁部径(8.4)、器高8.4、脚端部径(12.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ナデ。脚部外面ミガキ、内面ケズリの後下半ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
148	器 台	A.口縁部径8.4、残存高7.3。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。器受部内外面ミガキ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.脚端部欠損。G.脚部穿孔(焼成前)は縦2個1組で3カ所。H.東側調査区。
149	器 台	A.口縁部径9.4、残存高6.2。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。器受部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.上半のみ。G.脚部穿孔(焼成前)は縦2個1組で3カ所。器受部内面斑点状剥落著。外面タール状の黒色付着物あり。H.東側調査区。
150	器 台	A.口縁部径8.2、器高7.5、脚端部径11.3。B.粘土組織み上げ。C.器受部外面ミガキ、内面ナデ。脚部外面ハケの後ミガキ、内面ハケ。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
151	器 台	A.口縁部径7.2、器高5.9、脚端部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部外面ケズリ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面笠ナデの後下コナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一淡白褐色。F.1/2。G.器受部内面に黒斑あり。脚部穿孔(焼成前)は3カ所。H.東側調査区。
152	器 台	A.口縁部径(7.6)、残存高6.1。B.粘土組織み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。器受部内外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ハケの後上半ナデ。D.白色粒。E.内外一明茶褐色。F.器受部1/3、脚部下半欠損。G.脚部穿孔(焼成前)は4カ所。H.東側調査区。
153	器 台	A.口縁部径8.6、残存高7.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部外面ナデ、内面ミガキ。脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデの後下半ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.器受部完形、脚部1/4。G.脚部穿孔(焼成前)は推定3カ所。H.東側調査区。
154	器 台	A.口縁部径(9.8)、残存高6.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2。G.脚部穿孔(焼成前)は推定3カ所。H.東側調査区。
155	器 台	A.脚端部径14.0。B.粘土組織み上げ。C.脚柱部外面ケズリの後ミガキ、内面ハケの後ヨコナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一白褐色。F.脚部のみ。G.脚部穿孔は3カ所。脚部内外面とも赤彩。東海地方からの搬入品の可能性が高い。H.東側調査区。
156	器 台	A.口縁部径(10.8)、器高5.7、脚端部径(10.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ、内面笠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.1/4。G.脚部穿孔(焼成前)は推定8カ所。H.東側調査区。
157	器 台	A.口縁部径(17.8)、器高5奈ミガキ8、脚端部径(10.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。脚部外面細かなミガキ、内面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一暗褐色。F.1/3。G.脚部穿孔(焼成前)。口縁部は千鳥状に推定8カ所、脚部は推定4カ所。内面調整の違いから図のように上下を考えたか、逆の可能性もある。H.東側調査区。
158	脚 付 埴	A.口縁部径12.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ハケの後雑なミガキ、内面ヨコナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.埴部のみ。H.東側調査区。
159	小 形 壺	A.口縁部径(7.0)、器高7.4、底部径4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面指押さえ。脚部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.2/3。G.脚部外面に黒斑あり。H.東側調査区。
160	小 形 鉢	A.口縁部径6.4、器高6.5、底部径3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ハケ。脚部外面上半ハケ・下半ケズリの後丁寧なナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色、内一淡茶褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。

161	小形土器	A.口縁部径3.4、器高2.7。B.手握ね。C.内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.底部外面に黒斑あり。H.東側調査区。
162	小形壺	A.口縁部径6.6、器高9.5、底部径3.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面ミガキ、内面ナデ。底部外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.胴部内面に指頭圧痕を残す。H.東側調査区。
163	小形壺	A.口縁部径5.6、器高8.4、底部径3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ココナデの後ミガキ。胴部外面ケズリの後ミガキ、内面指ナデ。底部外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
164	小形杯	A.口縁部径(10.8)、器高4.3、底部径3.0。B.粘土組織み上げ。C.外面ナデの後ケズリ、内面麗ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。H.東側調査区。
165	小形杯	A.口縁部径9.8、器高4.5、底部径3.7。B.粘土組織み上げ。C.内外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒、雲母粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒斑あり。H.東側調査区。
166	小形杯	A.口縁部径8.8、器高4.6、底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ココナデ。体部外面ハケの後ナデ、内面ハケの後麗ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡茶褐色、内一明赤茶褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
167	小形土器	A.口縁部径6.4、器高3.7、底部径3.6。B.手握ね。C.内外面ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒、角閃石。E.外一暗赤褐色、内一暗灰褐色。F.完形。G.器表面は被熱により荒れている。H.東側調査区。
168	小形土器	A.口縁部径5.0-6.2、器高3.5、底部径3.7。B.手握ね。C.外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.完形。G.器形は歪んでいる。H.東側調査区。
169	小形土器	A.口縁部径5.4、器高2.9、底部径(3.7)。B.手握ね。C.外面ナデ、内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒、角閃石。E.内外一淡褐色。F.底部欠損。H.東側調査区。
170	小形土器	A.口縁部径4.6、器高3.5、底部径3.7。B.手握ね。C.外面ナデ、内面麗ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.器形は歪んでいる。H.東側調査区。
171	小形土器	A.口縁部径4.6、器高4.2、底部径3.2。B.手握ね。C.外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒斑あり。H.東側調査区。
172	小形土器	A.口縁部径5.4、器高4.1、底部径3.2。B.粘土組織み上げ。C.外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.底部外面に黒斑あり。H.東側調査区。
173	小形土器	A.口縁部径5.0、器高3.6、底部径3.3。B.粘土組織み上げ。C.外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.ほぼ完形。H.東側調査区。
174	深鉢	B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面地文無節縄文施文後隣帯による文様貼り付け、内面ミガキ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色、内一淡灰褐色。F.口縁部破片。G.縄文中間加曾利E1式。H.東側調査区。
175	甕	B.粘土組織み上げ。C.胴部外面附加条縄文を羽状に施文、内面ナデ。D.白色粒(長石)。E.外一黒褐色、内一暗褐色。F.胴部破片。G.弥生後期二軒屋式。H.東側調査区。
176	大形砥石	A.長さ28.5、最大幅9.4、最大厚7.1。C.棒状礫を素材とし、4面を砥面として使用。砥面は顕著な使用により平滑。上下端部及び一部に敲打痕や剝離痕あり。D.砂岩。F.完形。H.調査区東側。
177	打製石斧	A.長さ10.5、最大幅4.9、最大厚1.8。C.剝礫を素材とし、周縁に直接打撃による両面加工を施す。D.頁岩。F.ほぼ完形。G.全体に磨滅が顕著。H.調査区東側。
178	スクレイパー	A.長さ7.1、最大幅3.4、最大厚1.4。C.小形剝礫を素材とし、打面及び一側縁に両面加工を施し刃部とする。D.ホルンフェルス。F.ほぼ完形。G.刃部に微細剝離痕あり。H.調査区東側。
179	スクレイパー	A.残存長4.6、残存幅8.5、残存厚2.3。C.剝礫を素材とし、主要剝離面の縁辺に片面加工を施し刃部とする。D.頁岩。F.片端部欠損。G.刃部に微細剝離痕あり。H.調査区西側。
180	打製石斧	A.長さ15.6、最大幅9.7、最大厚3.7。C.剝礫を素材とし、周縁に直接打撃による両面加工を施し、両側中央に挿入部を作出。D.砂岩。F.完形。G.分崩形。刃部及び基部に摩耗痕あり。H.調査区東側。
181	磨・敲石	A.長さ9.8、最大幅7.0、最大厚3.5。C.自然礫の表裏面に摩擦痕が認められる。上下端部に敲打痕が顕著。D.閃緑岩。F.完形。G.刃部に微細剝離痕あり。H.調査区東側。
182	台石	A.残存長9.0、最大幅15.6、残存厚3.3。C.扁平な自然礫の表裏面中央に、敲打痕及び摩擦痕が認められる表面に漏斗状の凹が1カ所。D.安山岩。F.破片。H.調査区東側。
183	石製紡錘車	A.上面径3.7、板面径1.8、厚さ0.9。C.側面は鑿状工具による放射状のケズリ。上下端部は研磨により平滑。D.粘板岩。F.完形。H.調査区東側。

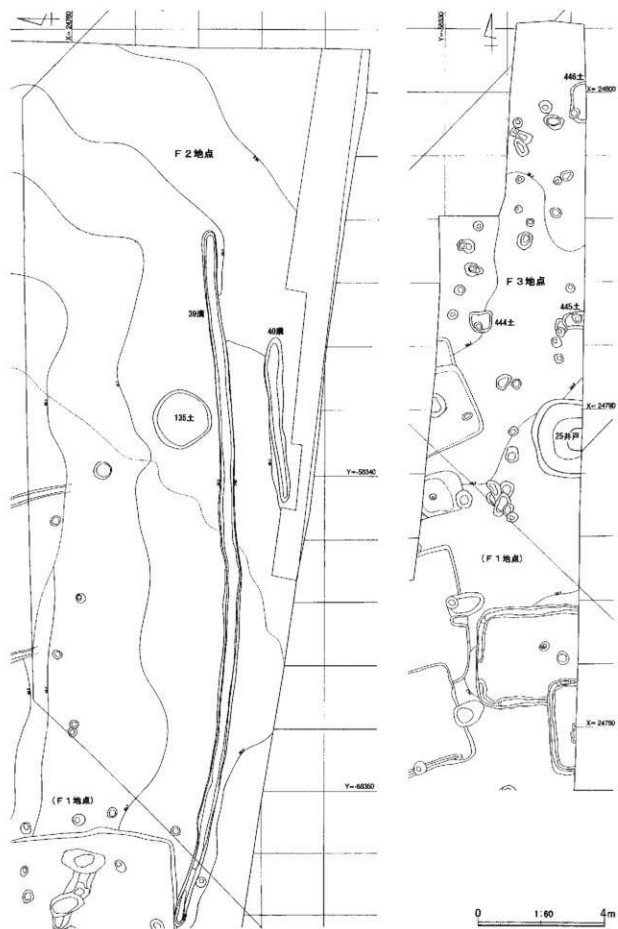
第VI章 F2・F3地点の調査

第1節 F2・F3地点の概要

F2地点とF3地点は、第IV章で述べたC3地点の東側に位置する。F2地点は、都市再生機構



第329図 久下前遺跡F地点全体図



第330図 F2・F3地点全体図

(UR)の発掘調査経費負担箇所である都市計画道路建設部分のF1地点(松本2013)の南側に隣接し、遺跡が立地する微高地の標高59mを測る南側緩斜面にあたる。F3地点は、F1地点の北側に隣接している。西側には第三章で述べたC2地点が隣接し、東側には北堀新田前遺跡のA2地点(松本他2015)が近接している。

調査区内で検出された遺構は、F2地点が土坑1基と溝跡2条、F3地点が竪穴式住居跡2軒・井戸跡1基・土坑3基及びピット多数である。このうち、F3地点の竪穴式住居跡については、隣接するC1地点の報告書(松本・的野2010)に記載されているため、そちらを参照されたい。

時期は、奈良・平安時代以降のものが主体で、古代が井戸跡1基と土坑3基、中世以降が土坑1基と溝跡2条である。

第2節 検出された遺構と遺物

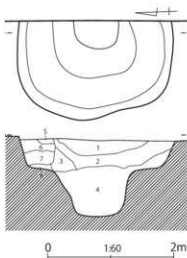
1. 井戸跡

第25号井戸跡(第331図、図版73)

F3地点の調査区南側の東端に位置する。標高59.3m付近の南側に向かって緩やかに傾斜する場所に立地している。同じ標高付近の西側には、本報告のC2地点の第9号井戸跡やC3地点の第10号井戸跡が近接している。調査区内で検出されたのは、井戸跡の西側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。

井戸掘り方の平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、やや角ばった円形かコーナ一部分の丸み強い方形もしくは長方形のような形態ではないと思われる。規模は、南北方向が2.53m、東西方向は1.58mまで測れる。壁は、上半部にテラス状の段を持ち、真ん中が径1.30m程度の隅丸方形か不整形円形のような形態で落ち込んでいるが、確認面からの深さが1.20mと浅いことから、井筒の中心は東側調査区外にあるのではないかと考えられ、調査区内で検出された部分は、井筒掘削のための足場的な掘り込みの可能性もあろう。

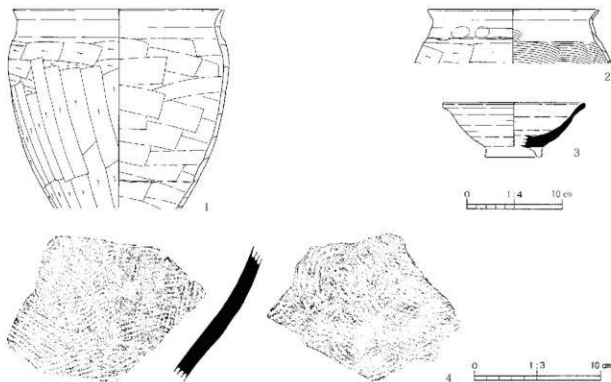
遺物は、古墳時代前期から平安時代までの土器の破片が少量出土している。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃と考えられる。



第331図 第25号井戸跡

第25号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（炭化粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：黒褐色土層（ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第4層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第332図 第25号井戸跡出土遺物

第184表 第25号井戸跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(22.2)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面籠ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗茶褐色、内一淡褐色。F.上半1/2。G.胴部外面煤付着。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(18.0)。B.粘土粗積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗灰褐色。F.口縁部1/4弱。G.口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.覆土中。
3	須恵器 高台付地	A.口縁部径(15.0)。B.ロウロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗灰色。F.体部1/2弱。G.還元焼成。高台部剥落。H.覆土中。
4	須恵器 大甕	B.粘土粗積み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D.長石粒。E.内外一暗灰色。F.胴部破片。G.還元焼成。H.覆土中。

2. 土 坑

第135号土坑 (第333図、図版72)

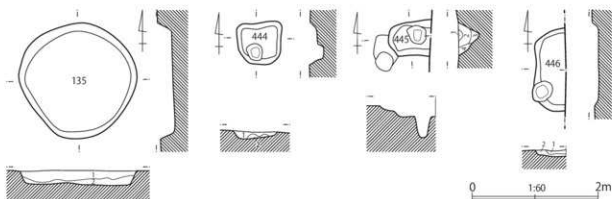
F2地点の調査区中央付近に位置する。南側には第39号溝跡が近接している。

平面形は、190cm×185cmの円形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、焼土粒子や炭化粒子を含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、図示できるものはないが、古墳時代前期～平安時代の土師器や須恵器の小破片が、覆土中から少量出土しただけである。本土坑の時期は、覆土の状態や出土土器の様相から、平安時代頃と思われる。

第444号土坑 (第333図、図版73)

F3地点の調査区中央部西側寄りに位置する。西側にはC1地点の第28・29号住居跡(松本・的野2010)やC2地点の第9号井戸跡が近接し、東側には第445号土坑がある。

平面形は、66cm×72cmの隅丸方形ぎみの形態を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは23cmある。底面は広く平坦で、南側に浅い小ピットを伴っている。覆土は、ロームブロックや焼土粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から中世末～近世初頭頃の瀬戸美濃窯系の日目茶碗の破片(第332図No 1)が出土しただけである。本土坑の時期は、出土遺物から、近世初頭頃と思われる。



第333図 土坑

第135号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第444号土坑土層説明

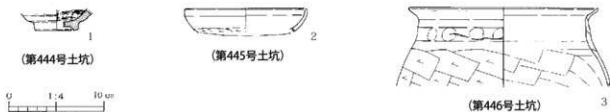
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第445号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第446号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



第334図 土坑出土遺物

第185表 F2・F3地点土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 天目茶碗	A.高台部径(4.6)。B.ロクロ成形、高台部削り出し。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。 D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.高台部1/2。G.体部内外面に鉄軸を施す。H.第444号土坑。
2	坏	A.口縁部径(13.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナ デ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明茶褐色、内一淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.第445号土坑。
3	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面直ナデ。D.赤色 粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4。G.胴部外面煤付着。口縁部外面に指頭圧痕を残す。H.第 446号土坑。

第445号土坑 (第333図、図版73)

F3地点の調査区中央部東端に位置する。南側には第25号井戸跡が、西側には第444号土坑がある。調査区内で検出されたのは、土坑の西側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、楕円形がコーナー部が丸みをもつ隅丸長方形のような形態を呈していたと思われる。規模は南北方向が60cm、東西方向は67cmまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。底面は広く平坦で、中央付近に小ピットを伴っている。覆土は、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、奈良時代(8世紀)後半頃の土師器の甕や坏の小破片が、覆土中から少量出土しただけである。本土坑の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、奈良時代(8世紀)後半以降の古代と思われる。

第446号土坑 (第333図、図版73)

F3地点の調査区北側の東端に位置する。調査区内で検出されたのは、土坑の西側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ隅丸長方形を呈していたと思われる。規模は南北方向が134cm、東西方向は51cmまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子や炭化粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、平安時代の土師器の甕や坏の小破片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、平安時代以降と思われる。

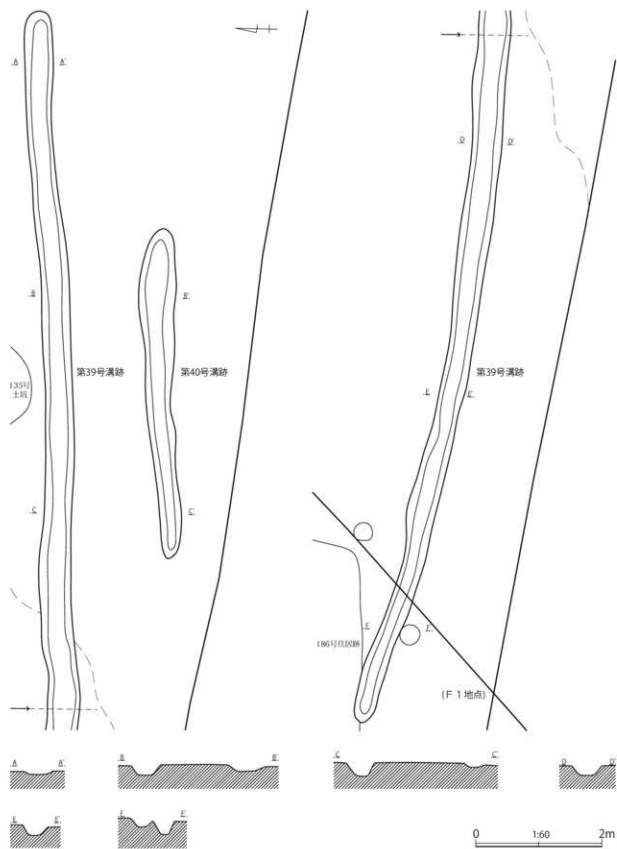
3. 溝 跡

第39号溝跡 (第335図、図版72)

F2地点の調査区南側に位置する。調査区内では、南側の第40号溝跡と幅1m程度の間隔をもって一部並走しながら、東西方向に向けて若干弓状に湾曲した流路を取っている。溝の西端はF1地点の第11号溝跡(松本・的野2010)の手前で途切れ、東端は調査区東側で途切れている。

形態は、全長が21.90mを測り、溝の上幅が50cm前後、下幅が25cm～30cmの比較的均一な幅である。溝の断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な逆台形の箱庭のような形態を呈している。確認面からの深さは、最高で23cmある。

遺物は、覆土中から古墳時代前期から奈良時代から平安時代の土器の小破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、明確なことはよく分からないが、F1地点で中世の遺構と考えられている第11号溝跡の手前で途切れていることから、第11号溝跡と同時期かそれ以降と考えられる。



第335图 第39·40号沟迹

第40号溝跡（第335図、図版72）

F2地点の調査区南側に位置する。調査区内では、北側の第39号溝跡と幅1m程度の間隔をもって並走しながら、東西方向に向いてほぼ直線的な流路を取っている。溝の両端は、削平されて途切れている。

形態は、全長が5.15mを測り、溝の上幅が33～60cm、下幅が15cm～35cmで、西側に向かって徐々に細くなっている。溝の断面は、壁が緩やかに傾斜して立ち上がり、底面が広く平坦な皿状の形態を呈している。確認面からの深さは、最高で8cmある。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、出土遺物がないためよく分からないが、その流路が北側の第39号溝跡と並走していることから、第39号溝跡と同時期かそれ以降と考えられる。



F地点全景（東より）

第七章 自然科学分析

第1節 久下前遺跡(C3・C4地点)から出土した哺乳類

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

埼玉県本庄市に所在する久下前遺跡のC3・C4地点の発掘調査で、遺構内から哺乳類の骨が出土した。ここでは、骨の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、7～9世紀の第4号溝跡(C4地点)、9世紀の第150号住居跡(C3地点)、15世紀以降の第16号井戸跡(C3地点)、中世の火葬墓の第239号土坑(C3地点)の4遺構から出土した哺乳類の骨である。

観察は肉眼で行い、同定は標本との比較により行った。サイズ計測はノギスで行った。

3. 結果と考察

同定結果を第186表に示す。

7世紀後半～9世紀の第4号溝跡では、哺乳類の部位不明破片4点が確認された。四肢骨の可能性はある。

9世紀の第150号住居跡では、ウマの臼歯1点が確認された。複数の破片に分かれているが、破断面が新鮮で歯1点に由来する量と判断されたので、1点とカウントした。詳細な歯種は不明である。

15世紀以降の第16号井戸跡では、ウマの左上顎臼歯1点が確認された。複数の破片に分かれているが、破断面が新鮮で歯1点に由来する量と判断されたので、1点とカウントした。歯種は、第3前臼歯、第4前臼歯、第1後臼歯、第2後臼歯のいずれかである。残存部分の計測値から、歯冠高は45mm以上であり、年齢は5才以下と推定される。

中世の火葬墓の第239号土坑では、ヒトが確認された。全て破片で、最大3cm程度であった。全て焼けており、多くが白色で、一部灰色や灰白色の部分があった。表面に長軸に対して縦横、斜行や亀甲状に亀裂が走る骨片が見られた。焼骨の色調は焼成温度により変化し、500度前後で黒色、600度から900度は灰色から白色、900度以上では白色や淡黄色になるとされる(Brothwell, 1981; Buikstra and Ubelaker, 1994; Krogman and Iscan, 1986)。色調がばらついているため、部分により受けた熱に温度の高低があったと考えられるが、最も高温に晒された部分では900度以上の熱を受けたと考えられる。また、白骨化した骨では生じにくい、焼かれた際の収縮に伴う亀裂が見られる点から、焼かれた時点では、肉などの軟質部が付着したままであったと考えられる。確認された部位は頭蓋骨破片17点(16.2g)、歯根破片(歯種不明)3点(0.3g)、左右不明肋骨破片6点(3.3g)、左右不明四肢骨破片12点(12.6g)である。その他に、部位不明破片が100点以上(73.5g)確認された。ヒト骨片の総重量は105.9gであった。白人成人男性の火葬骨は3kgとされており、試料採取時に回収しきれな

かった分があったとしても、105.9gはヒト一体分としては少ない。第239号土坑で遺体が焼かれた後、別の場所に骨が持ち出され、埋葬された可能性がある。頭蓋骨破片のうち2点に縫合部分が残っており、いずれも未癒合であった。頭蓋骨の縫合部分が未癒合である点から、年齢はおそらく老年(61才以上)までは至っていないと思われる。性別が判断できる部位は確認できなかった。

第186表 久下前遺跡C3・C4地点出土骨一覧

No.	地点	遺構	層位	時期	分類群	部位	左右	部分・状態	点数	重量(g)	備考	
1	C4	溝	SD-4	—	7~9c	哺乳類	四肢骨?	不明	破片	4	—	
2	C3	住居址	I-150	—	9c	ウマ	臼歯	不明	破片	1	—	
3	C3	井戸	SE-16	—	15c以降	ウマ	上顎臼歯 (P3P4M1M2 のいずれか)	左	1/5程度欠 く	1	—	歯冠高: 45mm以上
4	C3	火葬墓	SK-239	一括(中期)	中世	ヒト	頭蓋骨	—	破片	17	16.2	焼、白色で一部灰色、収縮による亀裂、縫合未癒合
							歯(歯種不明)	不明	歯根破片	3	0.3	焼、白色、収縮による亀裂
							肋骨	不明	破片	6	3.3	焼、白色で一部灰白色、収縮による亀裂
							四肢骨	不明	破片	12	12.6	焼、白色で一部灰白色、収縮による亀裂
						部位不明	不明	破片	>100	73.5	焼、白色で一部灰白色、収縮による亀裂	



写真1 久下前遺跡から出土した骨

参考文献

- 馬場悠男編(1998)『考古学と人類学』191p, 同成社
 Brothwell, D. R. (1981) 『Digging up Bones』208p. British Museum (Natural History).
 Buikstra, J. E. and Ubelaker, D. H. (1994) 『Standards for Data Collection from Human Skeletal Remains』206p. Arkansas Archaeological Survey.
 Krogman, W. M. and Iscan, M. Y. (1986) 『The Human Skeleton in Forensic Medicine』551p. C.C. Thomas.
 松井 章(2008)『動物考古学』312p, 京都大学学術出版会。

第2節 久下前遺跡（C3地点）出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

本庄市に所在する久下前遺跡のC3地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、中世の火葬墓の第239号土坑から出土した炭化材2袋で、ベルト一括で採取された試料と、中層で一括採取された試料である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のエノキ属と、タケ亜科のマダケが確認された。結果の一覧を第187表に示す。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) エノキ属 *Celtis* アサ科 写真2 1a-1c(第239号土坑 ベルト一括)、2a-2c(第239号土坑一括(中層))

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3～8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(2) マダケ *Phyllostachys reticulata* (Rupr.) K.Koch 程 イネ科 写真2 3a・4(第239号土坑一括(中層))

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は、一对の道管とそれと直行する原生木部間隙と師部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。タケ・ササの仲間で、日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

肉眼観察では、稈の節は2環状で、下側の輪が鋭く、上側は緩く膨出している。残存幅は1.5cmであるが、稈の湾曲が緩やかなため、元の直径は5cm以上と推測される。以上から、マダケと判断した。

4. 考察

火葬墓の第239号土坑のベルト一括で採取された炭化材はエノキ属、一括(中層)で採取された炭化

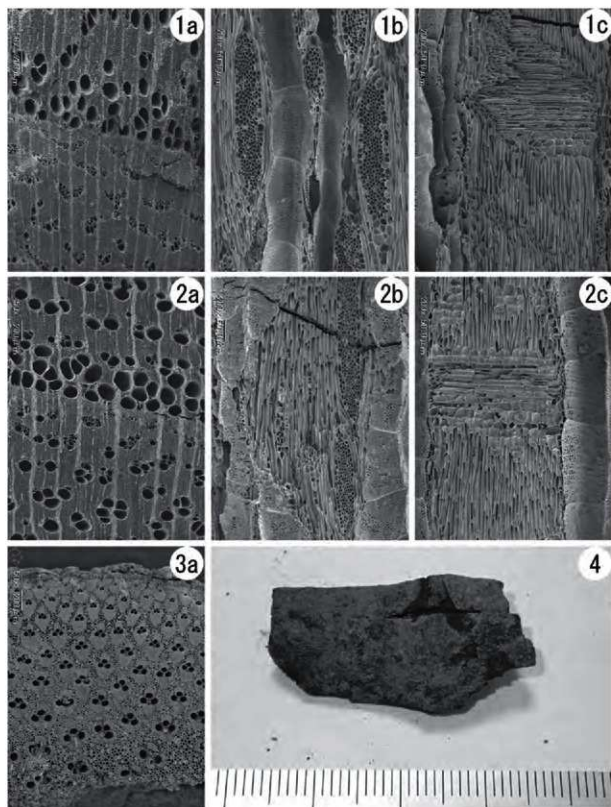


写真2 久下前遺跡C3地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. エノキ属 (SK239 ベルト一括)、2a-2c. エノキ属 (SK239 一括 (中層))、3a. マダケ (SK239 一括 (中層))、4. マダケの節 (SK239 一括 (中層))

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

材はエノキ属とマダケであった。エノキ属の試料の形状は、直径2.5cm以下の丸木、もしくは半径2cmのみかん割り状、5cm角以下の破片であった。火葬墓出土の炭化材であるため、燃料材と考えられる。また、タケ亜科は遺体を安置もしくは運搬するのに使用された可能性もある。埼玉県内では、大久保山VI遺跡や大久保山II遺跡、辻字宮地第2遺跡、本村遺跡、下田町遺跡などで中世の火葬跡から出土した炭化材の樹種同定が行われており、クワ属やエノキ属、クリ、クヌギ節を中心とした広葉樹と、タケ亜科が確認されている(伊東・山田編2012)。今回の分析結果も同様の傾向を示している。

第187表 樹種同定結果

遺構	備考	樹種	形状
SK239	ベルト一括	エノキ属	丸木(直径2.5cm)～破片(<5cm角)
	一括(中層)	エノキ属	丸木(直径0.8cm)、みかん割り状(半径2cm)～破片(<3cm角)
		マダケ	割材(幅1.5cm)

引用文献

平井信二(1996)『木の百科』 394p, 朝倉書店

伊東隆夫・山田昌久編(2012)『木の考古学—出土木製品用材データベース—』 449p, 海青社

第3節 久下前遺跡C 4地点出土の大型植物遺体

佐々木由香・バンドリ スダルシャン・安昭炫(パレオ・ラボ)

1. はじめに

久下前遺跡は本庄市北堀に所在し、男堀川と女堀川に挟まれた微高地に立地する、縄文時代～江戸時代の複合遺跡である。ここでは、C 4地点の古墳時代前期の河川跡より出土した大型植物遺体の同定を行い、周辺の植生や利用植物について検討した。

2. 試料と方法

試料は、出土遺物から古墳時代前期(4世紀代；五領式期)と考えられているC 4地点の河川跡から肉眼で確認、採取された試料である。

大型植物遺体の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせる場合は完形として数え、1個体に満たない場合は破片とした。計測可能な種実については、デジタルノギスを用いて小数点第2位まで計測を行った。マメ科の種子については、那須ほか(2015)に基づいて簡易楕円体体積を求めた。モモとオニグルミは形状の観察を行い、自然の割れ、動物食痕、打撃痕、一部焦痕、不明などに分類した。同定された試料は、本庄市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のカヤ種子の1分類群、広葉樹のモモ核・炭化核・未熟核、ミ

ズナラーナラガシワ未熟果・幼果・炭化幼果・殻斗・未熟殻斗、コナラ幼果・殻斗・未熟殻斗、オニグルミ核、トチノキ未熟種子、サンショウ種子、エゴノキ核の7分類群、草本植物ではカナムグラ核とアズキ炭化種子、オナモミ炭化総苞の3分類群の、計11分類群が得られた。種実以外には不明芽、虫えいが得られた(第188表)。

C4地点の河川跡からは、モモとエゴノキがやや多く、ミズナラーナラガシワとコナラ、オニグルミが少量、カヤとトチノキ、サンショウ、カナムグラ、アズキ、オナモミがわずかに得られた。オニグルミには打撃痕をもつ個体が1点、動物食痕をもつ個体が5点みられた。モモには炭化核が1点、一部焦げた痕をもつ個体が3点、齧歯類による動物食痕をもつ個体が3点含まれていた。また、エゴノキは一部が破損した個体が多かった。

以下に、同定した大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠する。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc.
種子 イチイ科

赤褐色で、上面観はほぼ円形、側面観は長卵形で両端がやや尖る。表面には、縦方向でやや振じれる不規則な浅い隆起がある。種皮は厚く硬い。長さ25.0mm、幅14.5mm、厚さ14.3mm。

(2) モモ *Amygdalus persica* L. 核バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。計測可能な完形個体10点の大きさは、高さ16.86~27.91(平均23.81±3.49)mm、幅12.99~21.98(平均18.40±2.72)mm、厚さ9.76~17.95(平均14.62±2.92)mm(第189表)。動物食痕の個体は、縫合線を中心にして円形の穴があく。高さ23.6mm、残存幅18.2mm、厚さ15.9mm。

(3) ミズナラーナラガシワ *Quercus crispula* Blume - *Q. aliena* Blume 未熟果・幼果・炭化幼果・殻斗・未熟殻斗 ブナ科

未熟果は暗褐色で、完形ならば長楕円体。中心よりも下方に最大幅があり、側面観は逆U字形

第188表 久下前遺跡(C4地点)の大型植物遺体表

分類群	種子	地点 C4地点	
		採取地 河川跡(東)	古墳時代前期
カヤ	核	1	
モモ	核	45	(3)
	核(自然)		(3)
	核(動物食痕)	3	
	炭化核		(1)
	核(一部焦痕)	3	
	未熟核	7	
	核(不明)		(2)
ミズナラーナラガシワ	未熟果	1	
	幼果	3	(1)
	炭化幼果	2	
	殻斗	2	(10)
	未熟殻斗	3	
コナラ	幼果	2	(1)
	殻斗	1	(4)
	未熟殻斗	4	(2)
オニグルミ	核	1	
	核(自然)	1	(2)
	核(動物食痕)	1	(4)
	核(打撃痕)		(1)
	核(不明)		(3)
トチノキ	未熟種子	1	
サンショウ	種子	1	
エゴノキ	核	58	(20)
カナムグラ	核	2	(1)
アズキ	炭化種子	1	
オナモミ	炭化総苞	1	
不明	芽	4	
虫えい		2	(1)

括弧内は破片数

第189表 モモ核の大きさ(単位:mm)

	長さ	幅	厚さ
核1	26.85	20.08	17.56
核2	26.43	20.77	16.37
核3	19.40	16.00	11.56
核4	26.21	19.08	15.81
核5	16.86	12.99	9.76
核6	23.71	19.78	15.41
核7	22.43	16.92	12.73
核8	23.49	16.51	11.71
核9	27.91	21.98	17.95
核10	24.82	19.90	17.29
最小	16.86	12.99	9.76
最大	27.91	21.98	17.95
平均	23.81	18.40	14.62
標準偏差	3.49	2.72	2.92

になる。上部はやや平ら。高さ7.6mm、幅6.2mm。幼果は殻斗の先端が果実に向かって内側を向き、殻斗内部に果実がある。高さ9.1mm、幅11.9mm。殻斗は広楕形。殻斗表面は広卵形の鱗片で覆われる。鱗片基部はふくらみがあり、壁は厚い。高さ6.4mm、幅17.8mm。ミズナラかなラガシワか、の同定には至らなかった。

(4) コナラ *Quercus serrata* Murray 幼果・殻斗・未熟殻斗 ブナ科

幼果は、深い椀型で、わずかに内湾する殻斗内に果実が残る。高さ8.5mm、幅9.3mm。殻斗は暗紫色で、他のコナラ節と比べて小さく浅い椀状、やや内側に向き、基部がやや尖る。鱗片の鱗片に覆われており、鱗片は同じコナラ節のミズナラやナラガシワよりも小さく、鱗片の先は徐々に細くなる。壁は薄い。木質。高さ5.8mm、幅11.4mm。未熟殻斗は、高さ4.3mm、残存幅8.4mm。

(5) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

黄褐色で、完形ならば側面視は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。内部は二室に分かれる。完形個体は高さ24.9mm、幅21.4mm、厚さ22.3mm、半割は高さ22.3mm、幅21.7mm、残存厚12.4mm、打撃痕をもつ個体は残存高26.1mm、残存幅26.4mm、残存厚11.3mm。

(6) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 未熟種子 ムクロジ科

黒褐色で楕円形。下半部は褐色で光沢がなく、上半部は黒褐色でやや光沢がある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。高さ7.1mm、幅8.8mm、厚さ7.4mm。

(7) サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

黒色で、上面視は卵形、側面視は倒卵形。基部側面に稜線があり、内側には短く斜め下を向く臍がある。網目状隆線は低く細かい。種皮は厚く硬い。長さ3.2mm、幅2.6mm、厚さ2.5mm。

(8) エゴノキ *Styrax japonicus* Sieb. et Zucc. 核 エゴノキ科

茶褐色～黄褐色で、上面視は円形、側面視は卵形。縦方向に4条の溝が走り、先端で収束する。黄淡色の大きな着点が下端に付く。側面に楕円形の穴があく破損した個体が多かった。計測可能な10点の大きさは、高さ5.97～12.24(平均10.46±1.95)mm、幅5.09～8.13(平均6.52±0.88)mm(第190表)。

(9) アズキ *Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et

H.Ohashi var. *angularis* 炭化種子 マメ科

上面視は方形に近い円形、側面視は方形に近い楕円形。小畑ほか(2007)に示されたアズキ亜属の特徴である厚膜の臍は残存していない。長さ7.0mm、幅3.9mm、厚さ4.2mm。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると、栽培種の大きさである。

(10) カナムグラ *Humulus scandens* (Lour.) Merr. 核 アサ科

明茶褐色で、上面視は両凸レンズ形、側面視は円形。一端に黄白色で心形の着点がある。壁は薄く、やや硬い。長

第190表 エゴノキ核の大きさ (単位:mm)

	長さ		幅
	長さ	幅	
核1	11.32		8.13
核2	11.85		7.26
核3	11.21		5.79
核4	9.31		5.64
核5	11.82		6.66
核6	5.97		6.19
核7	12.24		6.92
核8	10.75		6.64
核9	8.66		5.09
核10	11.48		6.84
最小	5.97		5.09
最大	12.24		8.13
平均	10.46		6.52
標準偏差	1.95		0.88

さ3.6mm、幅3.3mm、厚さ2.5mm。

(11) オナモミ *Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter 炭化総苞キク科

側面観は広卵形。本来は頂部に2本のやや大きめの刺があるが、欠損している。表面には、長さ1.0~2.0mmのまばらな刺がある。表面は硬く、光沢がある。長さ9.0mm、幅5.1mm。

4. 考察

C4地点で検出された、古墳時代前期(4世紀代)の河川跡の堆積物から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物としてモモとアズキが得られた。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集めた新津(1999)によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には核長は2.46~2.65cmと比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。さらに、奈良・平安時代の核長は2.36~2.66cmで、鎌倉期には大きさの変異幅が大きくなり、江戸時代後期になると大型になって、平均核長2.69cm、最大で3.8cm程度の核がみられるとしている。今回の久下前遺跡の古墳時代前期(4世紀代)のモモ核の平均は、高さ2.38±0.35cmで、山梨県で出土している弥生時代のモモ核と比較しても小さい。小清水(1962)は、核長の平均から栽培モモは2.9cm程度、ノモモは2.1cm程度、コダイモモは1.9cm程度と分類しており、栽培モモが大型で長く扁平であるのに対して、コダイモモは小型で球状を呈するとしている。C4地点のモモの大きさは栽培モモとノモモの間の大きさで、形状は長めのタイプと球状に近いタイプがみられた。モモは食用のほか、祭祀に伴って河川に堆積した可能性もある。ネズミ類による動物食痕をもつ個体や、表面が焦げた個体も含まれていた。

那須ほか(2015)は、現生のヤブツルアズキとアズキの種子を乾燥・炭化・未成熟の状態で計測し、簡易楕円体積を比較した結果、30mm³以下は野生型、60~70mm³以上は栽培型、栽培種と野生種のサイズが重なる中間の大きさのものは栽培種と野生種の中間型とみなしている。久下前遺跡の古墳時代前期(4世紀代)のアズキは60.0mm³で、栽培型ではあるが、小さめの大きさであった。

食用可能な野生植物としては、カヤとミズナラーナラガシワ、コナラ、サンショウ、オニグルミ、トチノキが得られた。オニグルミは石器などによる打撃痕をもつ個体が1点みられた。内部の子葉を食用するために割った痕跡と考えられる。

ミズナラーナラガシワとコナラ、トチノキは食用可能な堅果類であるが、幼果や殻斗など、食用にならない部位が複数含まれているため、河川周辺に生育していた木から自然の営力で落下して堆積した可能性がある。

エゴノキは、一部分が破損した個体が多かった。エゴノキの果皮はサポニンを含んでおり、果実を叩いて魚毒や石鹼として用いられた民俗事例がある(長沢2001)。今回出土したエゴノキも自然の営力による割れとは考えにくい不規則な割れをもつ個体が多く見られ、人為的に割られた可能性がある。

得られた分類群から当時の植生を推定すると、河川周辺には落葉広葉樹で高木のオニグルミやミズナラーナラガシワ、コナラ、小高木のエゴノキ、低木のサンショウなどが生育していたと推定される。乾いた明るい場所には、つる植物のカナムグラが生育していたと考えられる。いわゆる「ひっつき虫」であるオナモミは、人間に随伴して河川に堆積した可能性がある。



スケール 1-13, 15, 16, 19:5mm, 14, 17, 18:1mm

写真3 久下前遺跡C4地点の河川跡から出土した大型植物遺体

1. カヤ種子、2. モモ核、3. モモ核（動物食痕）、4. ミズナラーナラガシワ未熟果、5. ミズナラーナラガシワ幼果、6. ミズナラーナラガシワ殻斗、7. コナラ幼果、8. コナラ殻斗、9. オニグルミ核、10. オニグルミ核（半割）、11. オニグルミ核（動物食痕）、12. オニグルミ核（打撃痕）、13. トチノキ未熟種子、14. サンショウ種子、15. エゴノキ核、16. エゴノキ核、17. エゴノキ核、18. アズキ炭化種子、19. カナムグラ核、19. オナモミ炭化総包

A 2 地点の花粉分析では、今回の試料が出土した層に相当する時期の層からアカガシ亜属などの照葉樹も検出されているが(未報告)、同じ A 2 地点の大型植物遺体では見いだされていないため、河川跡の近くには落葉広葉樹を主体とした森林が広がっていたと考えられている(佐々木・バンダリ、未報告)。A 2 地点でも指摘されたが、C 4 地点においても、食用などに利用可能な樹木が多く、有用樹が選択されていた可能性がある。さらに、A 2 地点ではイネ炭化糊殻とアワ炭化種子が少量産出しており、付近に水田や畑が存在した可能性が指摘されたが、今回の C 4 地点では肉眼で確認、採取された大きめの試料のみを検討した影響もあり、微小な穀類は見出されなかった。今後、堆積物中に含まれる微小な種実もあわせて検討すれば、当時の利用植物や栽培状況、植生について、より具体的な検討が可能になると考えられる。

引用文献

- 小清水卓二(1962)「古代日本の住居から出土する桃核について」『近畿古文化論叢』 599-568, 福原考古学研究所編吉川弘文館。
 長沢 武(2001)『植物民俗』 335p, 法政大学出版局。
 那須浩郎・会田 進・佐々木由香・中沢道彦・山田武文・興石 甫(2015)「炭化種実資料からみた長野県諏訪地方における縄文時代中期のマメの利用」『資源環境と人類』 5 : 37-52, 明治大学黒曜石研究センター。
 新津 健(1999)「遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—」『山梨考古学論集』 IV 361-374, 山梨県考古学協会。
 小畑 弘己(2008)「マメ科種子同定法」『権東先史古代の穀物』 3 : 225-252, 小畑弘己編 熊本大学。
 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子(2007)「土器瓦痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培」『植生史研究』 15-1 97-114。
 米倉浩司・榎田 忠(2003)『BC Plants 和名-学名インデックス (YList)』, <http://ylist.info>

第 4 節 古墳時代前期の非在地系甕・壺の胎土材料

藤根 久・米田恭子 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定するのは容易ではない。焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材で構成されるが、粘土材料が比較的良質とも思える粘土層から採取されていたことが、粘土探掘坑の調査から推察される(藤根・今村 2001)。また、粘土自体に珪酸化石やプラント・オパール、放散虫化石が混在している場合があり、材料としての粘土層が堆積した際の堆積環境が推測できる。

一方、混和材としての砂粒物は、粘土層から粘土を採取する際に、粘土層の上下層や周辺に分布する砂層などから採取されたと予想される。東海地域の弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器では、3分の1程度の土器に、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている(藤根1998、車崎ほか1996)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層由来と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について微化石類およびテフラなどの鉱物を含めて検討する必要がある。

ここでは、久下前遺跡から出土した古墳時代前期の非在地系土器について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成等の特徴について調べて、胎土材料から見た搬入品の可能性について検討した。

2. 試料と方法

試料は、久下前遺跡C3地点の住居跡とC4地点の河川跡から出土した、古墳時代前期の非在地系の布留式の甕3点と大塚式の壺1点である(第336図、第191表)。

薄片作製は、(1)はじめに岩石カッターなどで土器片を整形し、恒温乾燥機により乾燥させた。次に、全体にエポキシ系樹脂を含浸させ、固化処理を行った。これをスライドガラスに接着し、接着面と反対の面に平面を作製した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作製した後、スライドガラスに接着した。(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて試料を切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作製した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各土器薄片は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれていた微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など)と大型粒子の特徴およびその他の混和物について、観察と記載を行った。

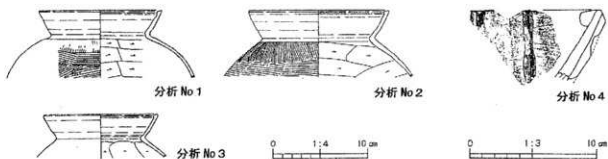
なお、ここで採用した微化石類各分類群などの特徴は、以下の通りである。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百 μ m程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉(1988)や安藤(1990)は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石(海水種、淡水種)を分類した。



第336図 胎土分析試料

第191表 胎土分析試料一覧表

分析No	器種	調査地点	遺構	型式	時期	切断面の特徴
1	甕	C3地点	103号住居	布留式(畿内)	古墳時代前期	にぶい・橙色(7.5YR 7/3) 縞状、赤色粒子含む
2	甕		130号住居	布留式(畿内)	古墳時代前期	灰白色(7.5YR 8/2)、赤色粒子含む
3	甕	C4地点	河川跡	布留式(畿内)	古墳時代前期	にぶい・黄橙色(10YR 7/2)、赤色粒子含む
4	壺		河川跡	大塚式(駿河湾域)	古墳時代前期	にぶい・黄橙色(10YR 6/3)、赤色粒子含む

[骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状からなる。海綿動物の多くは海産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

[植物珪酸体化石]

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50 μ m前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

[胞子化石]

胞子は、直径約10～30 μ m程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

[長石類]

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化するると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状に割れ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類やケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス(バブル・ウォール型)や小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物(テフラ)である。

[片理複合石英類]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩などと考えられる。

[砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

[複合石英類]

複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01mm未満の粒子を微細、0.01~0.05mmの粒子を小型、0.05~0.10mmの粒子を中型、0.10mm以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

[斑晶質・完晶質]

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。

[流紋岩質]

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、流理構造を示す岩石である。

[凝灰岩質]

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、結晶度が低く、直交ニコルで観察した際に全体的に暗い粒子である。

[不明粒子]

下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3. 結果および考察

以下に、土器胎土薄片の顕微鏡観察結果について述べる。

土器胎土中の粒子組成は、微化石類や鉱物および岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成、計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、第192表における不等号は、量比の概略を示し、第193表に記号で表記した。

3.1. 微化石類による粘土材料の分類

各土器薄片の全面を観察した結果、微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石)が検出された。微化石類の大きさは、放散虫化石が数100 μm 、珪藻化石が10~数100 μm 、骨針化石が10~100 μm 前後である(植物珪酸体化石が10~50 μm 前後)。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9~62.5 μm 、砂が62.5 μm ~2mmである(地学団体研究会・地学事典編集委員会、1981)。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は土器胎土の粘土材料中に含まれると考えられ、粘土材料中に含まれている植物珪酸体化石以外の微化石類の特徴は、粘土の

起源(粘土層の堆積環境)を知るのに有効な指標になると思われる。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれているものの、土器製作の場で灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を必ずしも指標しないと思われる。

土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 海成粘土、b) 水成粘土、の2種類に分類された(第193表)。なお、第193表において、●は非常に多い、○は多い、△は検出、空欄は未検出であることを示す。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。

a) 海成粘土 (2 試料: 分析No 1、No 3)

これらの土器胎土中には、放散虫化石や海水種珪藻化石が含まれていた(写真 5-1e,3h)。分析No 3の胎土中には、沼沢湿地付着生指標種の珪藻化石(*Eunotia praeurupta* var. *bidens*; 写真 5-3j)や淡水種珪藻化石の破片が含まれていた。なお、海綿動物の骨格の一部である骨針化石も多く含まれていた。なお、放散虫化石は、周辺地域では藤岡から児玉地域にかけて分布する新第三紀中期中新世の板鼻層(第337図の凡例lg,ls)や吉井層(第337図の凡例Yo)あるいは福島層(第337図の凡例Fu)などは海成層であり、これらの層に由来すると考えられる(日本の地質「関東地方」編集委員会編1988)。

b) 水成粘土 (2 試料: 分析No 2、No 4)

これらの土器胎土中には、海綿動物の骨格の一部である骨針化石が僅かに含まれていた。

3.2. 砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。そのため、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的

第192表 土器胎土中の粘土・砂粒の概略の特徴

分析No	器種	土器型式	粒度	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒物岩石・鉱物組成
1	甕	布留式	200 μm - 680 μm	2.78mm	放散虫化石、骨針化石 (36 個体/全面)、植物珪酸体化石	石英・長石類、複合石英類 (微細)、泥岩質、複合石英類 (大型)、カリ長石 (パーサイト)、角閃石類 (含大型)、雲母類、ガラス質、凝灰岩質、斜長石 (双晶)、ジルコン、斜方輝石、ザクロ石、片理複合石英類、チャート (含放散虫)
2	甕	布留式	250 μm - 400 μm	2.03mm	骨針化石 (1 個体/全面)、植物珪酸体化石多産、胎子化石	石英・長石類、ガラス質 (大型/パブル型) 複合石英類 (微細)、泥岩質、凝灰岩質、角閃石類 (含大型) 複合石英類 (小型)、複合石英類 (大型)、文象岩、片理複合石英類、カリ長石 (パーサイト)、斜長石 (双晶)、ジルコン
3	甕	布留式	150 μm - 550 μm	2.10mm	放散虫化石、骨針化石 (38 個体/全面)、珪藻化石 (海水種 <i>Cocconeodiscus</i> 属/ <i>Thalassiosira</i> 属、沼沢湿地付着生 <i>Eunotia praeurupta</i> var. <i>bidens</i> 、淡水種 <i>Eunotia bireofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属)、植物珪酸体化石多産、胎子化石	石英・長石類、ガラス質 (大型/パブル型) 複合石英類 (微細)、泥岩質、角閃石類 (含大型) カリ長石 (パーサイト)、複合石英類 (小型)、凝灰岩質、斜長石 (双晶)、ジルコン、複合石英類 (中型)、片理複合石英類、雲母類、凝灰岩質、チャート
4	甕	大塚式	180 μm - 500 μm	1.88mm	骨針化石 (4 個体/全面)、植物珪酸体化石多産	石英・長石類、複合石英類 (大型)、片理複合石英類 (石英片岩種)、凝灰岩質、複合石英類 (微細)、泥岩質、角閃石類 (含大型)、複合石英類 (中型)、斜長石 (双晶・束帯)、ガラス質 (大型/パブル型)、輝石類、チャート (含放散虫)

第193表 土器胎土中の粘土・砂粒の概略と分類

分析No	器種	粘土の特徴					砂粒の特徴								植物珪酸体化石	その他の特徴													
		海成	水成	海成	水成	水成	放散虫化石	骨針化石	胎子化石	分選	片岩質	凝灰岩質	火山岩質	凝灰岩質			流紋岩質	テフラ	石英	珪石 (パーサイト)	カリ長石	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類				
1	甕	海成	△				△																						ザクロ石・赤色粘土含む
2	甕	水成		△																									大型ガラス質、赤色粘土含む
3	甕	海成	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		大型ガラス質、赤色粘土含む
4	甕	水成						△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		雲母片岩、石英片岩類、赤色粘土含む

状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を推定する場合、深成岩類を構成する鉱物の粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には深成岩類を推定するのが困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った(第193表)。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類(A/a)、複合石英類(大型)が深成岩類(B/b)、複合石英類(微細)が堆積岩類(C/c)、珪晶質・完晶質が火山岩類(D/d)、凝灰岩質が凝灰岩類(E/e)、流紋岩質が流紋岩類(F/f)、ガラス質がテフラ(G/g)である。土器胎土中の砂粒組成は、第194表の組み合わせに従って大きく3群に分類された。以下に、胎土中の砂粒物の岩石組み合わせについて述べる。

第194表 岩石群の起源と組合せ

		第1出現群							
		A	B	C	D	E	F	G	
第2出現群	a	片岩類	片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
	b	深成岩類	Ab	Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	c	堆積岩類	Ac	Bc	Cb	Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd	De	Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De	Ee	Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef	Ff	Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg	Gg

a) 主に深成岩類と堆積岩類からなるBc群(2試料:分析No1、No3)

主に複合石英類(大型)あるいはカリ長石(パーサイト)などからなる深成岩類、複合石英類(微細)や、泥岩質あるいはチャートからなる堆積岩類を特徴的に含む。また、片理複合石英類からなる片岩類、ガラス質からなるテフラを伴う。なお、分析No3の土器胎土中のガラス質は、大型のバブル型火山ガラスからなる。

b) 主にテフラと堆積岩類Gc群(1試料:分析No2)

主にガラス質のテフラ、複合石英類(微細)や泥岩質あるいはチャートからなる堆積岩類を特徴的に含む。分析No2の土器胎土中には、片岩類や凝灰岩類あるいは流紋岩類を含む。

c) 主に片岩類と堆積岩類からなるAc群(1試料:分析No4)

主に片理複合石英類からなる片岩類、複合石英類(微細)や泥岩質あるいはチャートからなる堆積岩類を特徴的に含む。また、複合石英類(大型)からなる深成岩類も含む。特徴的な片岩類は、分析No1~3に含まれる粒子群とはやや異なり、石英片岩や雲母片岩と考えられる片岩類を特徴的に含む(写真5-4g,4h)。

3.3.土器材料の特徴

古墳時代前期の布留式の壺3点と大廊式の壺1点について、土器胎土薄片の偏光顕微鏡観察を行った。粘土材料は、微化石類によりa)海成粘土(2試料)、b)水成粘土(2試料)の2群に分類された。

また、砂粒組成は、主に深成岩類と堆積岩類からなるBc群(2試料)、と主にテフラと堆積岩類Gc群(1試料)、主に片岩類と堆積岩類からなるAc群(1試料)の3群に分類された。

古墳時代前期の布留式の甕では、分析No 1とNo 3の胎土中に放散虫化石が含まれ、分析No 3の甕胎土中には沼沢湿地付着生指標種群などの珪藻化石が含まれ沼沢地成粘土の要素も見られた。分析No 2は、胎土中に骨針化石が少量含まれる水成粘土であった。ただし、これらの布留式の甕の胎土は、粘土材料の種類や砂粒組成による分類は異なるものの、粘土中に骨針化石を含み、砂粒組成として堆積岩類や深成岩類、テフラに加えて片岩類を含んでいたため、材料的には類似した組成と考えられる。

一方、分析No 4の大廓式の壺では、石英片岩あるいは雲母片岩と考えられる砂粒を含むなど、片岩類が特徴的に目立つ。さらに、少量ではあるが骨針化石も含んでいる。なお、砂粒組成は、各分類群の出現頻度に違いはあるものの、分析No 1～3の布留式の甕の胎土と類似している。

久下前遺跡は第四紀後期更新世の段丘上に位置するが(第336図)、周辺には第四紀前期更新世の物見山層(第334図の凡例Mo)からなる丘陵、さらに南西域には中生代ジュラ紀の三波川帯の苦鉄質片岩や泥質片岩、石英片岩など(第336図の凡例Sb,Sm)からなる関東山地が位置する。一方、北側域には榛名火山や赤城火山が位置するものの、これら火山に由来する火山岩類が混入する頻度は低い地域と考えられる。

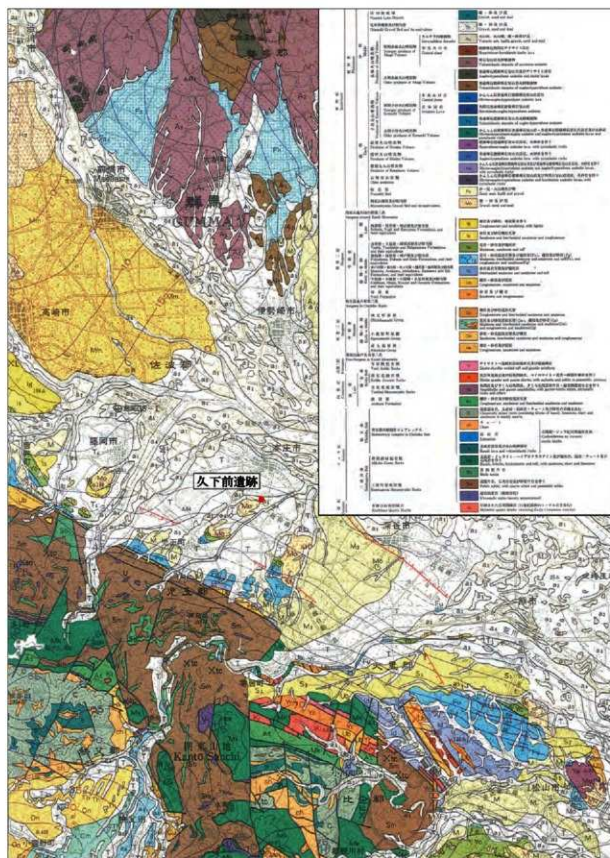
布留式の甕胎土は、いずれも堆積岩類や深成岩類のほか、片岩類も含んでおり、在地的要素のある材料と考えられる。一方、大廓式の壺胎土は、関東山地を構成する片岩類をより強く反映した砂粒組成を示しており、より強い在地的要素を示す。

なお、この大廓式の壺は、駿河湾地域からの搬入品の可能性が想定されるが、駿河湾周辺域は伊豆半島において主に安山岩からなる火山岩類、かつ富士火山や愛鷹火山など火山岩類が広く分布する地域である。また、富士川沿いには、第三紀後期中新世の閃緑岩や砂岩・礫岩・凝灰岩類が分布するが、片岩類は分布しない(第338図)。大廓式土器の搬出元における在地球器と比較する必要はあるが、分析No 4の壺の胎土は久下前遺跡周辺の在地球器の材料である可能性が高い。

なお、分析No 2やNo 3において、大型の火山ガラスが特徴的に多く含まれていた。土器胎土中の火山ガラスは、屈折率の測定によりテフラ同定が可能であり(菅野ほか2010)、テフラの特徴についても検討する価値がある。

参考・引用文献

- 地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)『増補改訂 地学事典』1612p. 平凡社
- 藤根 久(1998)「東海地域(伊勢-三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料」『土器・甕が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ』108-117, 東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会
- 藤根 久・今村美智子(2001)「土器の胎土材料と粘土探掘坑対象堆積物の特徴」『波志江中宿遺跡』: 262-277, 日本道路公団・伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 菅野稔洋・嶋田有里奈・福岡孝昭・藤根 久(2010)「土器中軽石の起源—千葉県長平台遺跡と鹿児島県牟礼川遺跡の場合—」『日本文化財科学会第27回大会研究発表要旨集』126-127.
- 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子(1996)「土器胎土の材料—粘土の起源を中心に—」『日本考古学協会第62回大会研究発表要旨』153-156, 日本考古学協会



第337図 久下前遺跡およびその周辺の地質（須藤ほか(2010) 20万分の1地質図「宇都宮」を編集

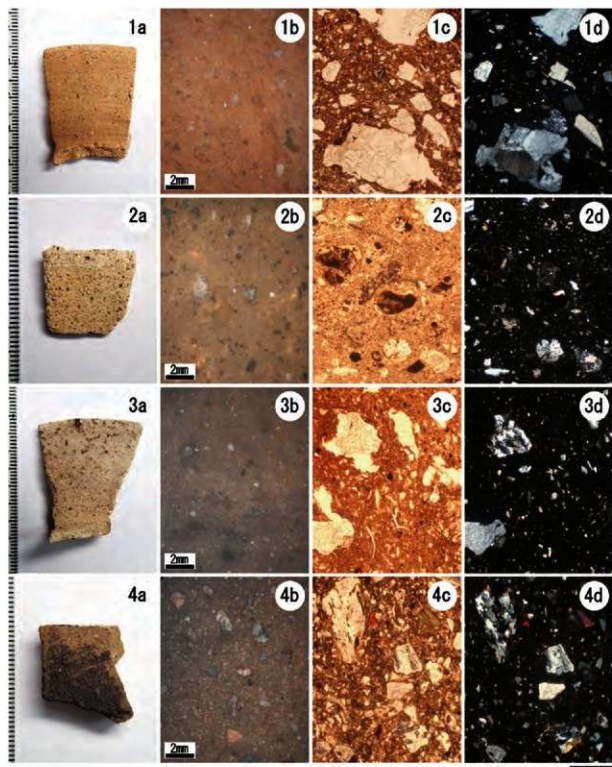


写真4 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真

(スケール: 1c, 1d, 2c, 2d, 3c, 3d, 4c, 4d: 500 μ m)

- 1a. 試料 (分析No. 1) 1b. 試料断面 (分析No. 1) 1c. 分析No. 1 (解放ニコル) 1d. 分析No. 1 (直交ニコル)
 2a. 試料 (分析No. 2) 2b. 試料断面 (分析No. 2) 2c. 分析No. 2 (解放ニコル) 2d. 分析No. 2 (直交ニコル)
 3a. 試料 (分析No. 3) 3b. 試料断面 (分析No. 3) 3c. 分析No. 3 (解放ニコル) 3d. 分析No. 3 (直交ニコル)
 4a. 試料 (分析No. 4) 4b. 試料断面 (分析No. 4) 4c. 分析No. 4 (解放ニコル) 4d. 分析No. 4 (直交ニコル)

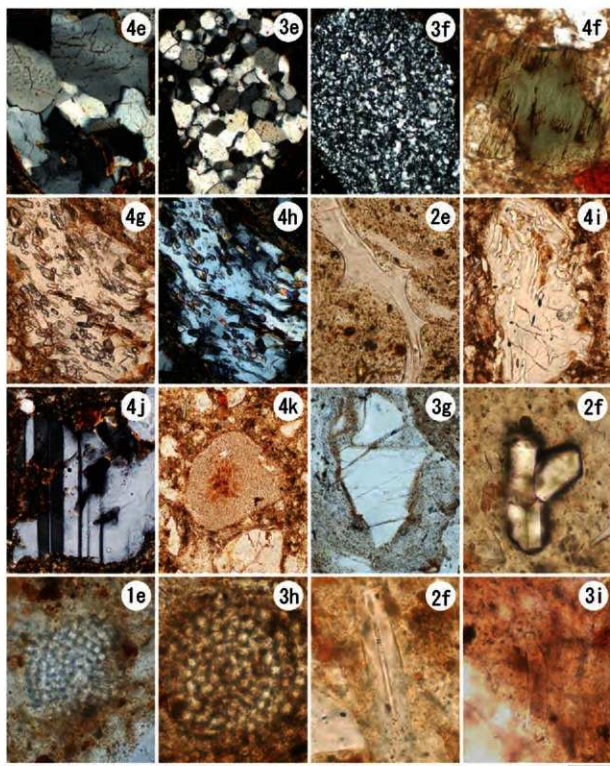


写真5 胎土の偏光顕微鏡写真

(スケール; 4e, 3e, 3f, 4g, 4h, 4i, 4k, 3g:100 μ m, 4f, 2e, 4j, 2g:50 μ m, 2f, 1e, 3h, 1f:20 μ m)

4e. 複合石英類 (大型) 3e. 複合石英類 (中型) 3f. 複合石英類 (微細) 4f. 角閃石類

4g. 片岩類 (解放ニコル) 4h. 片岩類 (直交ニコル) 2e. ガラス質 4i. ガラス質

4j. 斜長石 (双晶) 4k. 凝灰岩質 3g. 流紋岩質 2f. ジルコン 1e. 放散虫化石 3h. 放散虫化石

1f. 骨針化石 3i. 珪藻化石 (沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia praeurupta* var. *bidens*)

日本の地質「関東地方」編集委員会編(1988)「関東地方」『日本の地質』3 335p. 共立出版

須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男(1991)20万分の1地質図幅「宇都宮」.
通商産業省工業技術院地質調査所.

杉山雄一・水野 清秀・狩野謙一・村松 武・松田時彦・石塚 治・及川舞樹・高田 亮・荒井晃作・岡村行信・実松建造・高橋
正明・尾山洋一・駒澤正夫(2010)20万分の1地質図幅「静岡及び御前崎」(第2版). 独立行政法人産業技術研究所地質調査総合
センター.

第5節 C 4地点の河川跡から出土した木材のウィグルマッチング年代

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ

伊藤 茂・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtadize・藤根 久

1. はじめに

埼玉県本庄市に所在する久下前遺跡のC 4地点では、古墳時代前期の河川跡から大径木(直径26~44cm、年輪数43~151年)の流木が多数検出された(本文参照)。これらの木材はコナラ属コナラ節の樹木からなり、隣接地に生育していた樹木が流木として残ったものである。なお、同遺跡のG地点などにおいても同様に大径木(最大70cm)からなる流木が多量に検出されるなど、イベント的な自然現象に伴う倒木と考えられる。なお、他地域においても同じような時期の埋没林が見つかっており、日本列島の広範囲における同時的現象とも考えられる。

ここでは、久下前遺跡C 4地点で検出された流木について、ウィグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行った。なお、河川跡の堆積物およびそれより下位層堆積物については花粉分析を行い、植生変遷についても検討した(本章第6節参照)。

2. 試料と方法

ウィグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行ったのは、C 4地点の河川跡から検出された流木7点(写真6)である。各流木において測定対象とした年輪の詳細を第195表に示す。各試料は、調製した後、加速器質量分析計(NEC社製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C年代、暦年代を算出し、ウィグルマッチング法による暦年代を算出した。

3. 結果

第196表~第202表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した14C年代、ウィグルマッチング結果を示す。また、第339図に各流木のウィグルマッチング結果を、第340図にマルチプロット図(年代の古い順)を示す。なお、暦年較正では、年代値は下1桁を丸めていない値を用い、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正

を行うために記載した。

14C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。14C年代(yrBP)の算出には、14Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した14C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の14C年代がその14C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

以下に、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細を示す。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、および半減期の違い(14Cの半減期5730 \pm 40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

第195表 ウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	試料データ	測定年輪	前処理データ
PLD-20773	試料: 炭木 No.A (直径 39cm 強) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20774		採取位置: 41-45y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20775	試料: 炭木 No.B (直径 36cm 強) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 91-95y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20776		採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20777	試料: 炭木 No.D (直径 44cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 16-20y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20778		採取位置: 36-40y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20779	試料: 炭木 No.D (直径 44cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20780		採取位置: 51-55y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20781	試料: 炭木 No.D (直径 44cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 101-105y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20782		採取位置: 141-145y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-17219	試料: 炭木 No.G (直径 30cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外の年輪 (最外年輪に近い)	採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-17220		採取位置: 21-25y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-17221	試料: 炭木 No.G (直径 30cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外の年輪 (最外年輪に近い)	採取位置: 41-45y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-17222		採取位置: 61-65y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-17223	試料: 炭木 No.H (直径 28cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明	採取位置: 81-85y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20783		採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20784	試料: 炭木 No.I (直径 28cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明 (最外年輪に近い)	採取位置: 51-55y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20785		採取位置: 101-105y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20786	試料: 炭木 No.I (直径 28cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明 (最外年輪に近い)	採取位置: 1-5y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20787		採取位置: 21-25y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20788	試料: 炭木 No.I (直径 28cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明 (最外年輪に近い)	採取位置: 51-55y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20789		採取位置: 76-80y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20790	試料: 炭木 No.K (直径 26cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明 (最外年輪に近い)	採取位置: 11-15y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20791		採取位置: 51-55y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-20792	試料: 炭木 No.K (直径 26cm) 種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 年輪: 最外以外 部位不明 (最外年輪に近い)	採取位置: 101-104y	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N)

第196表 流木No.Aの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20773	-28.23 \pm 0.18	1798 \pm 19	1800 \pm 20	145-151 cal AD (2.9%) 170-194 cal AD (15.2%) 211-252 cal AD (46.9%) 305-311 cal AD (3.3%)	134-257 cal AD (85.9%) 297-320 cal AD (9.5%)
PLD-20774	-26.65 \pm 0.19	1870 \pm 19	1870 \pm 20	83-141 cal AD (55.2%) 157-167 cal AD (5.3%) 196-208 cal AD (7.7%)	80-215 cal AD (95.4%)
PLD-20775	-25.51 \pm 0.22	1858 \pm 19	1860 \pm 20	125-180 cal AD (46.1%) 186-214 cal AD (22.1%)	85-225 cal AD (95.4%)
最外試料年代				216-250 cal AD (68.2%)	170-198 cal AD (16.8%) 210-255 cal AD (78.6%)

第197表 流木No.Bの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20776	-25.98 \pm 0.21	1811 \pm 19	1810 \pm 20	143-156 cal AD (10.2%) 168-195 cal AD (24.1%) 209-240 cal AD (33.9%)	131-251 cal AD (95.4%)
PLD-20777	-26.02 \pm 0.21	1813 \pm 19	1815 \pm 20	142-156 cal AD (11.1%) 168-195 cal AD (25.0%) 209-239 cal AD (32.1%)	132-247 cal AD (95.4%)
PLD-20778	-28.13 \pm 0.17	1846 \pm 20	1845 \pm 20	130-180 cal AD (43.5%) 186-214 cal AD (24.7%)	90-101 cal AD (2.5%) 123-235 cal AD (92.9%)
最外試料年代				169-198 cal AD (31.5%) 220-243 cal AD (36.7%)	163-247 cal AD (95.4%)

第198表 流木No.Dの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20779	-26.15 \pm 0.19	1846 \pm 19	1845 \pm 20	131-179 cal AD (44.1%) 187-213 cal AD (24.1%)	90-100 cal AD (2.1%) 124-235 cal AD (93.3%)
PLD-20780	-28.39 \pm 0.18	1855 \pm 19	1855 \pm 20	127-179 cal AD (45.8%) 187-213 cal AD (22.4%)	86-229 cal AD (95.4%)
PLD-20781	-26.46 \pm 0.17	1945 \pm 19	1945 \pm 20	28-40 cal AD (17.3%) 48-77 cal AD (50.9%)	7-88 cal AD (89.9%) 103-122 cal AD (5.5%)
PLD-20782	-25.88 \pm 0.16	1934 \pm 20	1935 \pm 20	29-39 cal AD (8.6%) 50-86 cal AD (55.9%) 110-115 cal AD (3.7%)	23-125 cal AD (95.4%)
最外試料年代				169-182 cal AD (30.6%) 202-217 cal AD (37.6%)	159-224 cal AD (95.4%)

第199表 流木No.Gの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-17219	-29.53 \pm 0.13	1865 \pm 22	1865 \pm 20	87-106 cal AD (15.5%) 121-172 cal AD (39.9%) 193-211 cal AD (12.8%)	81-221 cal AD (95.4%)
PLD-17220	-26.72 \pm 0.17	1842 \pm 22	1840 \pm 20	133-214 cal AD (68.2%)	90-100 cal AD (2.0%) 124-238 cal AD (93.4%)
PLD-17221	-26.28 \pm 0.19	1842 \pm 22	1840 \pm 20	133-214 cal AD (68.2%)	90-100 cal AD (2.0%) 124-238 cal AD (93.4%)
PLD-17222	-28.31 \pm 0.18	1864 \pm 23	1865 \pm 25	87-105 cal AD (13.3%) 121-175 cal AD (40.7%) 192-212 cal AD (14.2%)	81-223 cal AD (95.4%)
PLD-17223	-25.78 \pm 0.21	1896 \pm 22	1895 \pm 20	82-126 cal AD (68.2%)	55-170 cal AD (93.5%) 194-209 cal AD (1.9%)
最外試料年代				181-208 cal AD (68.2%)	162-214 cal AD (95.4%)

第200表 流木No.Hの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20783	-26.66 \pm 0.26	1830 \pm 21	1830 \pm 20	139-197 cal AD (55.4%) 204-217 cal AD (12.8%)	129-238 cal AD (95.4%)
PLD-20784	-25.75 \pm 0.20	1866 \pm 18	1865 \pm 20	86-109 cal AD (17.9%) 118-170 cal AD (39.4%) 194-210 cal AD (10.9%)	82-217 cal AD (95.4%)
PLD-20785	-25.88 \pm 0.21	1952 \pm 19	1950 \pm 20	26-72 cal AD (68.2%)	2-86 cal AD (94.0%) 109-117 cal AD (1.4%)
最外試料年代				135-169 cal AD (68.2%)	130-186 cal AD (95.4%)

第201表 流木No.Iの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20786	-25.70 \pm 0.33	1795 \pm 21	1795 \pm 20	145-150 cal AD (2.3%) 170-194 cal AD (12.9%) 211-255 cal AD (43.7%) 301-317 cal AD (9.3%)	136-258 cal AD (79.4%) 284-322 cal AD (16.0%)
PLD-20787	-25.43 \pm 0.24	1885 \pm 19	1885 \pm 20	84-129 cal AD (68.2%)	68-174 cal AD (91.5%) 192-211 cal AD (3.9%)
PLD-20788	-25.33 \pm 0.24	1817 \pm 21	1815 \pm 20	141-157 cal AD (13.4%) 167-196 cal AD (26.8%) 209-236 cal AD (27.9%)	130-247 cal AD (95.4%)
PLD-20789	-25.22 \pm 0.18	1890 \pm 19	1890 \pm 20	85-127 cal AD (68.2%)	63-170 cal AD (93.3%) 194-209 cal AD (2.1%)
最外試料年代				180-204 cal AD (68.2%)	176-241 cal AD (95.4%)

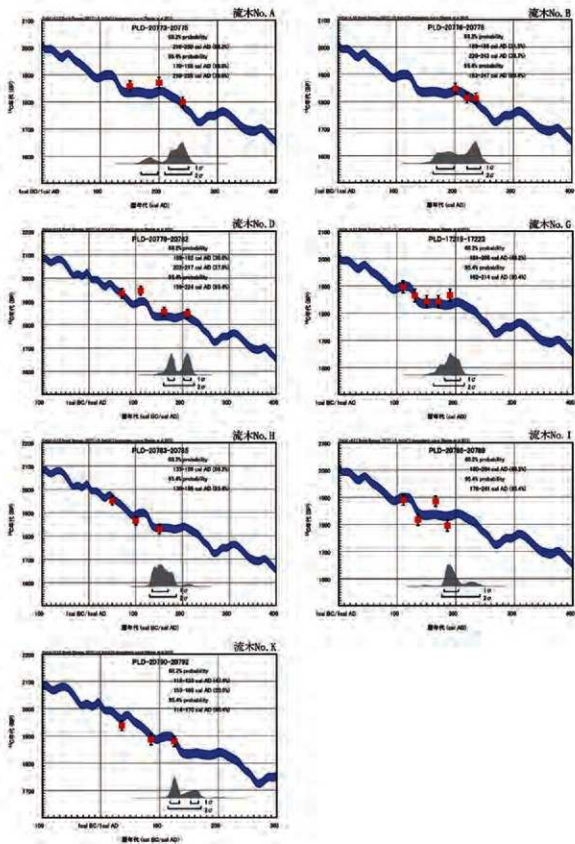
第202表 流木No.Kの放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-20790	-28.20 \pm 0.19	1880 \pm 19	1880 \pm 20	83-133 cal AD (68.2%)	72-179 cal AD (88.1%) 188-213 cal AD (7.3%)
PLD-20791	-26.37 \pm 0.24	1887 \pm 20	1885 \pm 20	83-129 cal AD (68.2%)	66-175 cal AD (91.7%) 192-211 cal AD (3.7%)
PLD-20792	-25.62 \pm 0.22	1938 \pm 18	1940 \pm 20	29-38 cal AD (10.3%) 50-82 cal AD (57.9%)	21-91 cal AD (84.2%) 98-124 cal AD (11.2%)
最外試料年代				118-133 cal AD (47.4%) 153-166 cal AD (20.8%)	114-170 cal AD (95.4%)

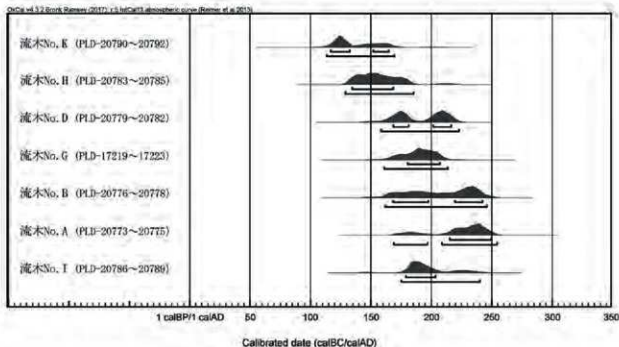
14C年代の暦年較正にはOxCal4.3(較正曲線データ: IntCal13)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は14C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報をを用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試



第339図 各流木のウィグルマッチング図



第340図 各流木のマルチプロット図

料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた試料の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数を考慮する必要がある。

4. 考察

C 4地点の流木7点についてウィグルマッチング法による放射性炭素年代測定を行った結果、流木の倒れた年代は、AD100-250年の間に集中して分布した(第339図、第340図)。河川跡の遺物は古墳時代前期に限定されるが、流木は古墳時代前期よりもやや古い弥生時代後期の年代値を示す。なお、東側調査区にある小枝状の流木の一部は、河川跡の壁面下に突き刺さった状態で検出されており、この河川跡の埋没時期よりも少し以前に堆積した可能性がある。

ただし、今回の暦年較正に使用した較正曲線データはIntCal13(以前の較正データはIntcal04)であるが、日本版較正曲線では、弥生時代後期から古墳時代(紀元後1世紀から3世紀)にかけて日本産樹木年輪試料の炭素14年代がIntCal04とは明らかに異なることが知られている(尾崎2009など)。今回示した流木の年代値は、今後、日本版較正曲線による暦年較正で、より新しい年代値に修正される可能性がある。

いずれにせよ、大径木からなる多量の流木の検出は、イベント的な自然現象に伴った倒木と考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43(2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村 俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- 尾崎 大真(2009)日本版校正曲線の作成と新たな課題. 新石器時代のはじまり 第4巻 「弥生農耕のはじまりとその年代」: 4-8, 雄山閣.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.



写真6 流木試料 (西側調査区: K、東側調査区: A・B・D・G・H・I)

第6節 久下前遺跡C4地点の花粉分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

埼玉県本庄市北堀に位置する久下前遺跡では、古墳時代前期(4世紀代)の土器などが出土する河川跡が検出されている。この遺跡周辺の古植生を検討する目的で、C4地点において花粉分析用の試料を採取した。以下では、試料について行った花粉分析結果を示し、遺跡周辺の古植生とその変遷について検討した。

2. 試料と分析方法

C4地点では、東側調査区東壁セクションの土層断面から9試料採取した(写真図版70上段)。東側調査区東壁セクションの土層断面は、上位から黒褐色粘土質砂(No.1)、やや土壌化した黒色粘土(No.2)、土器片を含む黒色粘土(No.3)、黒色凝灰質砂(No.4)、やや砂質な黒色粘土(No.5)、やや砂質な黒褐色粘土(No.6)、炭化材を含むやや粘土質なオリブ黒色中粒砂(No.7)、炭化材や植物片を含むやや粘土質な黒色中粒砂(No.8)、礫、および青灰色粘土(No.9)からなる(第341図)。このセクションではNo.1~No.8の層が河川跡内堆積物で、それ以下が河川跡底面を含む下位層であると考えられる。出土遺物や木材の放射性炭素年代測定により、河川跡内堆積物が古墳時代前期、これより下位層が弥生時代前期と考えられている。これらの試料から次の手順で花粉化石を抽出した。

試料(湿重量約2~3g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、分類群ごとの単体標本(PLC.2219~2225)を作製し、写真を写真7に示した。

3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉32、草本花粉22、形態分類のシダ植物胞子2の総計56である。花粉・胞子の一覧を第203表に示し、分布図を第341図に示した。分布図において樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉、胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科、マメ科、バラ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。なお、作製したプレパラート全面を検鏡しても樹木花粉総数が100個に満たない試料については、産出した種類を*で表示するとどめた。

検鏡した結果、樹木花粉の産出傾向に層位的な変化が見られたため、下位からⅠ~Ⅲ帯の花粉化石

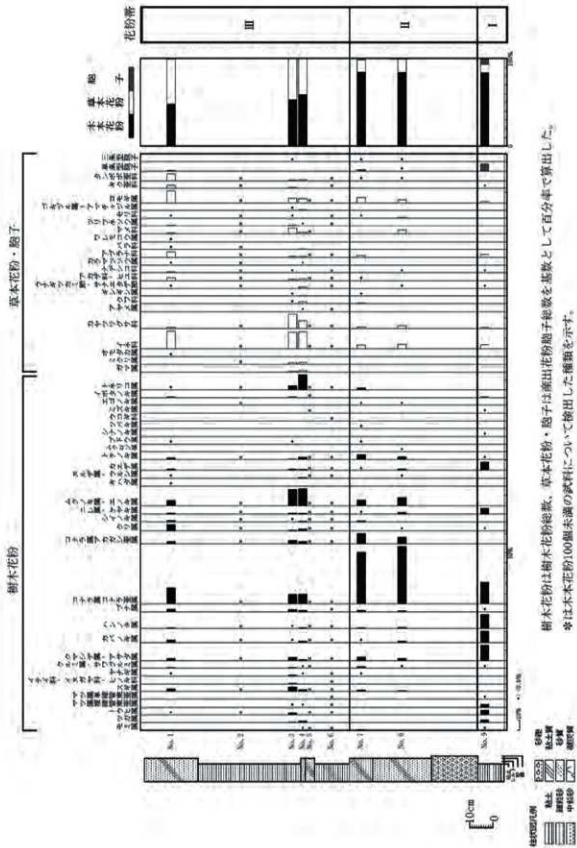
帯を区別した。以下に各花粉化石帯の特徴を述べる。

I帯：河川跡の底面より下位層であるNo. 9の層が該当する。この帯では落葉広葉樹が主体となって産出した。コナラ属コナラ亜属が21%と最も多く、クマシデ属-アサダ属やカバノキ属、ハンノキ属、ニレ属-ケヤキ属、カエデ属などが数%~十数%を示す。草本花粉の産出は非常に少なく、イネ科とカヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属がわずかに産出した。

II帯：河川跡底面に接するNo. 7, 8の層が該当する。I帯で多く産出していた落葉広葉樹の中で、コナラ属コナラ亜属の産出率が突出してくる。この帯ではコナラ属アカガシ亜属の産出が見られる。草本花粉の産出は依然として少ない。

第203表 産出花粉化石一覧表

学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
樹木										
Abies	モミ属	-	-	-	1	2	2	2	-	1
Tsuga	ツガ属	-	-	2	5	-	-	-	-	6
Picea	トウヒ属	1	1	6	-	2	1	-	-	10
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属海部亜属	-	-	1	1	-	-	-	-	6
Pinus subgen. Haploxyton	マツ属海部亜属	-	-	-	-	-	1	-	-	1
Cryptomeria	スギ属	12	1	18	7	7	14	4	2	-
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ノキ科	-	-	2	-	-	2	-	-	-
Salix	ヤナギ属	1	-	3	1	-	3	1	-	-
Juglans-Pterocarya	クルミ属-サワグルミ属	3	-	5	1	5	-	4	1	1
Carpinus-Ostrya	クマシデ属-アサダ属	9	1	12	4	5	2	8	5	34
Betula	カバノキ属	10	1	1	4	2	1	1	3	24
Alnus	ハンノキ属	3	1	1	2	2	2	2	3	31
Fagus	ブナ属	10	-	7	4	-	1	3	2	1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	65	22	35	33	26	30	117	132	48
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	9	3	13	7	3	10	24	15	-
Castanea	クワ属	25	6	3	6	5	2	-	1	1
Castanopsis	シロガシ属	5	5	1	2	3	1	2	-	-
Ulmus-Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	5	2	5	3	3	7	1	5	13
Aphananthe-Celtis	ムクノキ属-エノキ属	21	3	60	56	10	4	12	18	-
Phellodendron	キハダ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rhus-Toxicodendron	カエデ属-ウルシ属	1	-	-	2	2	2	-	1	-
Acer	カエデ属	7	-	5	3	4	1	1	-	18
Aesculus	トチノキ属	6	4	2	8	3	2	11	6	1
Sapindus	ムクロジ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Vitis	ブドウ属	1	-	1	-	-	-	1	-	-
Tilia	シナノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Cornelia	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Araliaceae	ウコギ科	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Cornus	ミズキ属	-	-	-	-	1	-	-	-	1
Styrax	エゴノキ属	-	1	-	-	-	-	1	1	-
Ligustrum	イボタノキ属	3	-	3	-	3	-	-	-	2
Fraxinus	トネリコ属	2	1	15	50	1	1	4	-	-
草本										
Typha	ガマ属	-	-	3	4	-	-	-	-	-
Spartanum	ミクリ属	-	1	5	6	-	-	-	-	-
Sagittaria	オモダカ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Gramineae	イネ科	73	26	62	56	41	25	8	10	9
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4	12	52	25	8	6	3	6	2
Urtic	アザミ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Moraceae	クワ科	-	-	1	7	-	-	2	-	-
Rumex	ギンギン属	-	-	1	-	-	-	1	-	-
Polygonum sect. Echinocaulon-Persicaria	ウナギツカミ属-サナエタテ属	1	5	-	5	-	1	-	1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	11	5	5	5	3	21	1	-	-
Caryophyllaceae	オサザコ科	4	1	-	1	-	-	-	1	1
Thalictrum	カラマツソウ属	2	1	-	1	-	-	-	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	22	3	3	2	3	4	4	-	7
Rosaceae	バラ科	1	1	-	2	-	-	-	-	-
Sanguisorba	ワレモコウ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	4	1	20	5	8	-	-	9	-
Impatiens	ツツリネソウ属	3	2	3	1	-	1	-	-	-
Apiaceae	セリ科	2	3	1	-	-	2	1	2	-
Actinostemma-Gynostemma	ゴキツル属-アマチャヅル属	-	-	1	2	-	-	-	-	-
Artemisia	ヨモギ属	48	10	17	14	159	41	12	7	3
Tubuliflorae	キク亜科	11	1	2	-	-	5	-	-	1
Labielliflorae	タンポポ科	28	4	2	3	-	1	1	1	-
シダ類										
Monolete type spore	単葉型孢子	3	-	-	-	-	-	3	1	16
Trilete type spore	三葉型孢子	-	-	1	-	-	-	1	1	-
Arboreal pollen	樹木花粉	200	52	201	200	89	91	200	200	200
Nonarboreal pollen	草本花粉	216	76	179	139	222	109	33	37	24
Spores	シダ類孢子	3	0	1	0	0	0	4	2	16
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	419	128	381	339	311	200	237	239	240
Unknown pollen	不明花粉	14	5	7	-	4	8	5	8	5



第341図 久下前遺跡 (C4地点) における花粉ダイアグラム

Ⅲ帯：河川跡の堆積物であるNo. 1～6が該当する。なお、No. 2とNo. 5、No. 6は、十分な量の花粉化石が得られていないため、花粉ダイアグラムには*でしか表示していない。しかし、これらの試料から産出した花粉化石群集はNo. 4以上のⅢ帯とほぼ同様の花粉組成を示すため、ここではⅢ帯とした。この帯ではコナラ属コナラ亜属の産出率が減少し、ムクノキ属・エノキ属が増加する。また、スギ属やトネリコ属がわずかに増加する。この帯においてもコナラ属アカガシ亜属やシノキ属などの照葉樹の産出が見られる。草本花粉では、イネ科やカヤツリグサ科の増加が見られ、抽水植物であるガマ属やミクリ属、オモダカ属や、好湿性のアヤメ属やツリフネソウ属などが産出する。

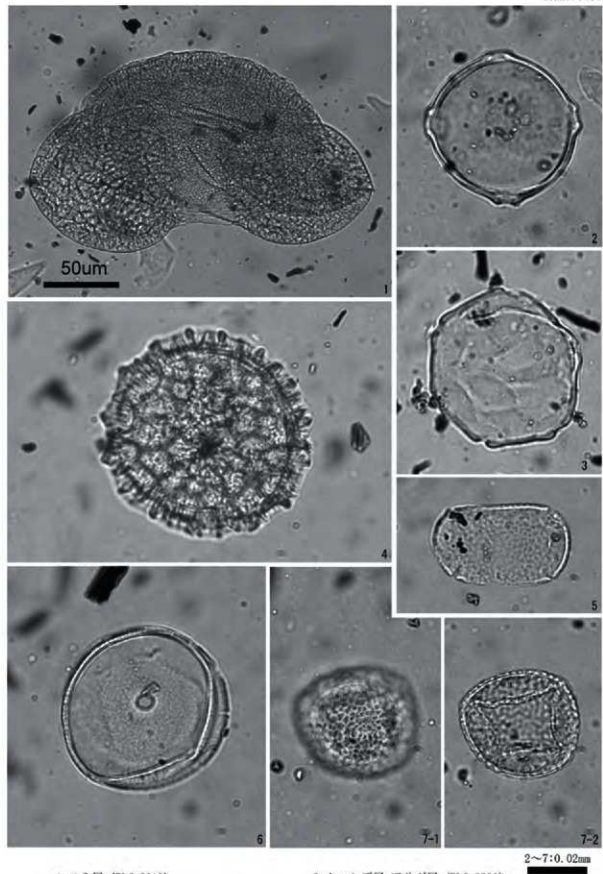
4. 考察

各帯の堆積年代は、出土遺物や木材の放射性炭素年代測定からⅠ帯が弥生時代前期、Ⅲ帯が古墳時代前期であると考えられる。Ⅱ帯については地点において年代が異なり、C 4地点の河川跡底面下から産出する木材は、放射性炭素年代測定によって弥生時代前期の年代値が得られた。一方で、A 2地点の相当層では古墳時代前期の土器片が出土している。よって、Ⅱ帯は弥生時代前期と古墳時代前期の堆積物が混ざっている可能性があり、Ⅱ帯の堆積年代を限定することは困難である。以上の時代観と花粉化石帯を基に、以下では遺跡周辺の古植生とその変遷について検討した。

弥生時代前期のⅠ帯ではコナラ属コナラ亜属をはじめ、クマシデ属・アサダ属、カバノキ属、ニレ属・ケヤキ属、カエデ属などの落葉広葉樹が多く産出しているため、遺跡周辺の丘陵部などにはこれらの分類群からなる落葉広葉樹林が広がっていたと思われる。

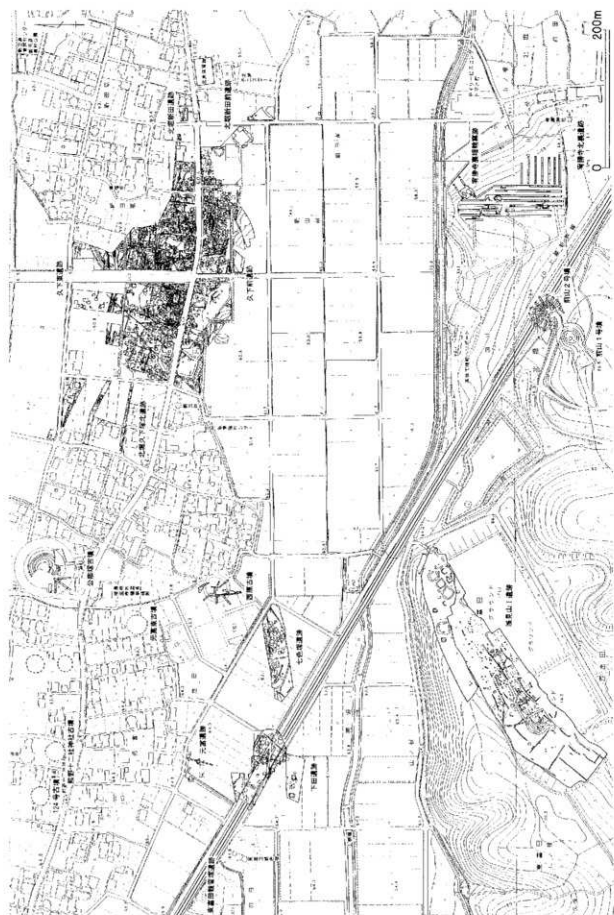
Ⅱ帯では、コナラ属コナラ亜属が増加しているため、遺跡周辺に広がっていた落葉広葉樹の中では、コナラ属コナラ亜属が広範囲に分布を広げていたと思われる。このようなコナラ属コナラ亜属主体の落葉広葉樹林の中にはコナラ属アカガシ亜属やシノキ属などの照葉樹がわずかに生育していたと思われる。また、草本花粉ではイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属などがわずかながらに産出しており、河川周辺に生育していたと思われる。ただし、上記したように弥生時代前期と古墳時代前期の堆積物が混ざっている可能性があるため、花粉組成の解釈には注意が必要である。

古墳時代前期のⅢ帯ではコナラ属コナラ亜属がやや減少し、ムクノキ属・エノキ属の増加が認められるため、コナラ属コナラ亜属がやや分布を狭め、丘陵地の沢や河川周辺を中心としてムクノキ属・エノキ属が分布を広げていたと思われる。また、スギ属のわずかな増加や、コナラ属アカガシ亜属やシノキ属などの照葉樹がわずかに産出することから、コナラ属コナラ亜属を主体とした落葉広葉樹林に温帯性針葉樹のスギ林や照葉樹が混じる森林が形成されていたと思われる。さらに、湿地林要素のトネリコ属が増加し、草本花粉では、ガマ属やミクリ属、オモダカ属などの抽水植物や、湿地的環境を好む種が含まれるアヤメ属やツリフネソウ属などの好湿性の分類群が産出する。このことから、この時期には河川の影響が弱まり、滞水していた場所が増え、遺跡周辺には湿地的環境が広がってきたことが推測される。一方で、プラント・オパール分析と種実同定ではⅢ帯相当層においてイネの産出が見られるため、こうした湿地的環境の一部では水田稲作が行われていた可能性が考えられる。イネを花粉形態で区別するのは難しいが、Ⅲ帯においてわずかにイネ科花粉が増加しており、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属を伴う。よって、花粉分析の結果も古墳時代前期に水田稲作が行われていた可能性を示唆している。



- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. モミ属 (PLC. 2219) | 2. クマシダ属-アサダ属 (PLC. 2220) |
| 3. サワグルミ属-クルミ属 (PLC. 2221) | 4. サナエタデ節-ウナギツカミ節 (PLC. 2222) |
| 5. ツリフネソウ属 (PLC. 2223) | 6. イネ科 (PLC. 2224) |
| 7. ガマ属 (PLC. 2225) | |

写真7 久下前遺跡C4地点No.4から産出した花粉化石



第342図 周辺の既発掘調査遺跡

第Ⅷ章 女堀川流域の古墳時代前期遺跡の様相 —まとめにかえて—

第1節 女堀川流域の自然環境

本遺跡が位置する児玉地方の女堀川流域は、南側の上武山地から湧き出る金鑽川や旧赤根川(現女堀川)などの複数の小河川を集めて北東方向に流れる女堀川によって形成された帯状に広がる低地帯である(第343図)。この最上流の上武山地内の神川町二ノ宮の金鑽神社付近から、最下流の小山川との合流地点までの直線距離は約14.6kmあり、流域低地の幅は中流域で最大約1.5kmある。

この女堀川流域は、概ね上・中・下の3流域に分けて考えることができ、中流域東側の児玉町高関で本遺跡と大久保山残丘の間を東に流れる男堀川を分岐し、流末は鶴森と牧西の境あたりで小山川(旧身馴川)と合流している。現在は、河川改修などによって河川が一本化されているが、自然地形や遺跡の立地場所などから見て、古代においても現在の河川と同じ方向に流れるいくつもの小規模な河川があったことは容易に想像できる。しかしながら、この女堀川流域は、神流川扇状地の東側に位置していることから、その地質的特性によって雨水等の多くは浸透して地下水となり、本庄台地北側の深谷断層の崖下で湧水となって表出している。そのため、地表面の少ない表流水を集めた低地内の小河川の水量は恒常的に不足がみで、現在の低地帯全域に及ぶような広大な水田地帯の形成には、当地域の西を流れる群馬県との県境である神流川から女堀川の低地帯に引水する九郷用水の掘削が必要不可欠であった(註1)。

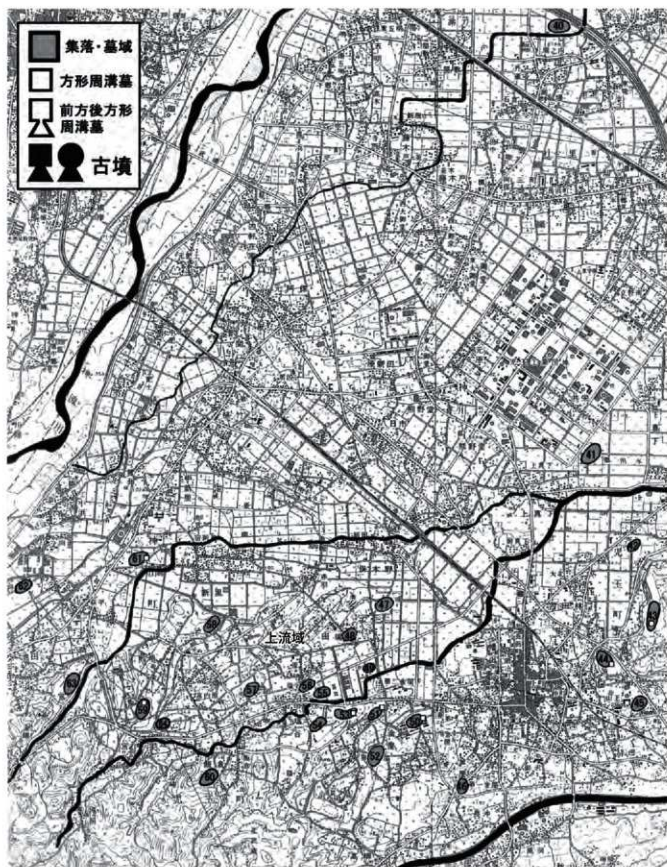
女堀川低地帯周辺の地形は、北西側には低地とあまり比高差のない本庄台地が広がり、南東側には上流域の児玉丘陵から小山川に沿って生野山・鷲山・大久保山の残丘が列状に並んでいる。この本庄台地・女堀川低地帯・児玉丘陵と残丘列によって構成される女堀川流域は、後に古代児玉郡の中心的な生産基盤として発展する地域で、北は本庄台地によって古代賀美郡(現上里町)と、南東側は残丘列に沿う小山川によって志戸川流域の古代那賀郡(現美里町)や古代榛沢郡(現深谷市榛沢)と概ね画されていることから、古くから伝統的に一つの領域的世界として捉えられていたことが窺える。古代の遺跡は、この本庄台地の縁辺部、低地内の微高地、南側の児玉丘陵や南西側の残丘列上及びそれらの丘陵や残丘下に広がる狭小な台地上を主体に立地している。

第2節 弥生時代後期遺跡の様相

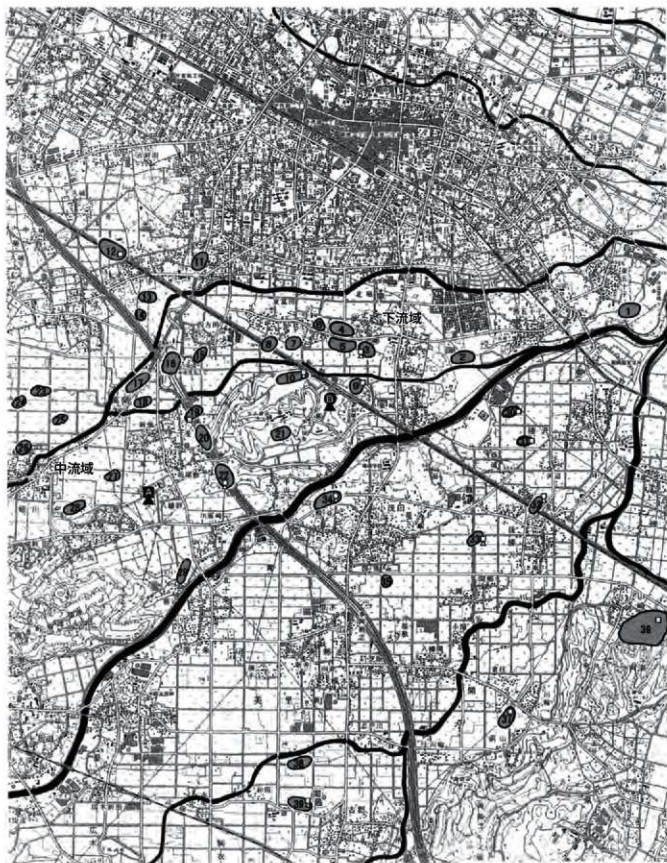
児玉地方の弥生時代の遺跡については、かつて概観的に述べたことがあるが(恋河内1992・1993)、その後のほ場整備事業や土地区画整理事業などの大規模開発に伴う発掘調査の増加にもかかわらず、調査例がほとんど増加していないということは、当地方における該期遺跡の少なさを物語っているものと思われる。逆に、古墳時代前期の資料の増加により、当時は弥生時代後期末頃としていた資料も、現在では古墳時代前期の範疇で考えるのが妥当と思われる資料も増えてきたが、当地方の弥生時代の具体的な様相の検討については、ほとんど進展がないのが実情である。

児玉地方の弥生時代後期の遺跡には、北関東西部の群馬県地方に分布する樽式土器、埼玉県中部の比企・入間地方を中心に分布する吉ヶ谷式土器、北関東東部の栃木県地方に分布する二軒屋式土器を出土する遺跡があることは良く知られている(柿沼1978、坂本1984)。

樽式土器を主体とする遺跡は、下原北遺跡(柿沼1987)・塩谷平氏ノ宮遺跡(恋河内2006)・真鏡寺



第343図 女堀川流域の



古墳時代前期の遺跡

第204表 女堀川流域周辺の古墳時代前期遺跡

No	遺跡名	備	考	No	遺跡名	備	考
1	五十子遺跡	太田2002。		32	伊勢塚遺跡	埼玉県埋蔵文化財調査事業団が2016年に調査。	
2	西五十子古墳群	太田2007。		33	石藤日遺跡	佐藤2003。	
3	北郷新田前遺跡	松本2015。		34	村後遺跡	細田他1984。	
4	久下東遺跡	松本・大熊2009、恋河内・的野2010・2014、松本2013・2015。		35	日の森遺跡	菅谷他1978。	
5	久下前遺跡	恋河内・的野2010、松本・的野2010。		36	千光寺古墳群	増田1975。	
6	北郷久下塚北遺跡	恋河内・的野2010、2014。		37	石神遺跡	美里町1986。	
7	七色塚遺跡	増田1987、恋河内・松本2008、恋河内・的野2014。		38	志渡川遺跡	長滝・中沢2005。	
8	下田遺跡	柿沼・小久保1979、増田1987。		39	南志渡川遺跡	長滝・中沢2005。	
9	宍勝寺北裏遺跡	太田2003。		40	中郷遺跡	田中・末木1997。	
10	浅見山I遺跡	松本・大熊2009、荒川・尾2004。		41	塚島遺跡	鈴木他1991。	
11	社員路遺跡	長谷川他1987。		42	南街遺跡	恋河内1996。	
12	諏訪遺跡	柿沼・小久保1979。		43	生野山遺跡	菅谷・駒宮1973、埼玉県1982。	
13	塔頭遺跡	岩瀬1998。		44	山王山遺跡	浅間2014。	
14	今井糸重遺跡	岩田1998。		45	児玉清水遺跡	鈴木他2007。	
15	四方田遺跡	増田1989、太田2005。		46	長沖久保遺跡	恋河内1984、大谷1999、大塚2014。	
16	後張遺跡	増田・立石1982・1983、恋河内2005、高林2010・2011。		47	十二天遺跡	坂本・鈴木1981、大谷2012。	
17	川越田遺跡	富田・赤熊1985、恋河内1993、有山2008、大谷・福田2011、福田2013。		48	田端中原遺跡	鈴木他2010。	
18	東牧西分遺跡	恋河内1995。		49	田端南堂遺跡	大熊他2010。	
19	熊玉東遺跡	増田・駒宮1979、恋河内1995。		50	金屋池籠遺跡	小沢1969。	
20	雷電下遺跡	増田・駒宮1979。		51	枇杷橋遺跡	菅谷・駒宮1973。	
21	大久保山遺跡	小沢1996。		52	念仏塚遺跡	児玉町が1986年に調査。	
22	塚本山古墳群	増田・小久保1977。		53	塩谷下大塚遺跡	恋河内1990、徳山他2000。	
23	藤塚遺跡	徳山他1995、徳山1996。		54	塩谷平氏ノ宮遺跡	恋河内2006。	
24	郷向遺跡	徳山他1995。		55	ミカド遺跡	坂本・鈴木1981。	
25	柿島遺跡	徳山他1995。		56	ミカド西遺跡	坂本・鈴木1981。	
26	左口遺跡	徳山他1994。		57	真跡寺後遺跡	恋河内1991。	
27	浅見塚北遺跡	恋河内1997。		58	新羽根倉遺跡	神川町1989。	
28	日延遺跡	恋河内1999。		59	前組羽根倉遺跡	柿沼他1986。	
29	宮ヶ谷戸遺跡	池田・長滝・中沢2012。		60	神明前遺跡	有山・高橋2011。	
30	大寄日遺跡	佐藤他1979。		61	青柳古墳群(南塚原支群)	大谷2012。	
31	沖田直遺跡	木戸1998。		62	海老ヶ久保遺跡	田村・金子1997。	
				63	池田遺跡	金子1991。	
				64	宮内上ノ原	松澤2005。	
				A	籠山古墳	増田・坂本他1986、恋河内2001。	
				B	前山1号墳		

後遺跡(恋河内1991)・前組羽根倉遺跡(柿沼他1986)など後期前半から末頃までの集落がある。これらの集落は、現在は上流域の赤根川と女堀川が接続されて一本化されているが、当時は女堀川上流域右岸の金屋地内の丘陵奥部から流れ出ていた旧女堀川より北側の児玉丘陵上に概ね分布している。

吉ヶ谷式土器を主体とする遺跡は、塩谷下大塚遺跡(恋河内1990)・長沖久保遺跡(大谷1999)・生野山遺跡(埼玉県1982)・大久保山遺跡(小沢1996)など後期後半以降の集落で、上流域の旧女堀川以南の児玉丘陵上や、中流域の生野山及び大久保山の残丘上に立地している(註2)。

二軒屋式土器を出土した遺跡は、下流域北側の深谷層崖上の薬師堂遺跡(本庄市1976)、大久保山残丘上の塚本山遺跡(増田・小久保1977)・宍勝寺北裏遺跡(金子他1980)・浅見山I遺跡(松本・大熊2009)、大久保山残丘下の低台地上の山根遺跡(増田1990、柿沼2015)、低地内の微高地上の

久下東遺跡(松本2013)・久下前遺跡(本報告)などがあるが、少量の小破片を出土した遺跡が大半で、明確な住居跡は検出されていない(註3)。本庄市では北側の深谷断層崖下の妻沼低地(註4)内の調査が進んでいないため明確なことは解らないが、現在までの二軒屋式土器の分布は、下流域北側の本庄台地上から大久保山残丘上及びその周辺の狭い範囲に限られており、二軒屋式土器を主体とするような集団が定住していた可能性は極めて低いと考えられる。

当地域の樽式土器と吉ヶ谷式土器を主体とする集落では、少量ながらそれぞれの土器が伴出したり、両者の文様などの型式要素が交じった折衷土器と言われるような土器が見られることから、両者は排他的で閉鎖的な集団ではなく、相互に交流があったことが窺える(註5)。それ以外の遠隔地の土器の影響を受けたいわゆる外来もしくは外来系土器は、胎土分析の検討は行っていないものの、二軒屋式土器以外はあまり見られないようである。

これらの弥生時代後期の集落は、樽式を主体とする真鏡寺後遺跡以外は、比較的単一時期の数軒の住居からなる小規模な集落と推測されるものが多く、いずれも上流域の兄玉丘陵上や中・下流域の残丘上などの丘陵部に立地する特徴が見られる(柿沼1978、恋河内1992)。前述のように、女堀川流域の低地帯では、そのほぼ全域に於いて土地改良事業のほ場整備に伴う広範囲に及ぶ発掘調査が実施されてきたが、該期集落の女堀川低地内への進出や、灌漑水路等を掘削して積極的に低地内を開発していたような形跡は全く認められない。そのため、これらの該期集落は、集落が立地する丘陵部や残丘内の解析谷の湧水を利用した生産性の低い小規模な谷田や、集落周辺の丘陵上での畑作などを生産基盤にしていたと考えられる(註6)。

つまり、この時期の女堀川流域の低地帯は、部分的で小規模な開墾が行われていた可能性はあるが、その多くは原野が広がるような景観を想像することができるのではないかとと思われる。このことは、当地域の弥生時代後期の集落にとって、女堀川流域の低地帯は水田経営の適地ではなかったということであり、おそらく低地開発に伴う灌漑等の技術的な問題や、集落数の少なさから窺える労働力不足などの問題があったのではないかとと思われる。

第3節 古墳時代前期遺跡の様相

古墳時代前期になると、女堀川流域ではそれ以前の弥生時代後期の遺跡の様相とは異なって、遺跡数が急激に増加する現象が見られる(第343図)。特に中・下流域の低地部に顕著で、低地内への本格的な集落の進出が認められる。これらの該期集落の具体的な進出状況や動態については、地域編年に基づいた時間軸による個々の集落の検討と集落相互の対比が必要であるが、大規模に調査される程度集落の実態が判明している遺跡や、部分的な調査で集落の実態が未だ不鮮明な遺跡など、資料としての条件が整っているわけではないため、とりあえずここでは現在までの調査資料による素描的な記述に留めておくことにしたい。

女堀川流域の古墳時代前期の集落については、低地部の中・下流域と丘陵部の上流域では様相がかなり異なることから、両者を分けて概観する。

1. 女堀川中・下流域の様相

a. 低地内への集落の進出

現在までの調査の成果によれば、中・下流域の低地内で比較的早い段階に出現した集落は、下流域

域に位置する久下前遺跡(恋河内・的野2010、松本2013、本報告)、中流域と下流域の接点付近に位置する後張遺跡(増田・立石1982・1983、恋河内2005、高林2010・2011)や川越田遺跡(富田・赤熊1985、恋河内1993、大谷・福田2011、福田2013)、中流域に位置する日延遺跡(恋河内1999)や浅見境北遺跡(恋河内1997)などと思われる。その時期は、東海西部地方の土器編年に照らし合わせると、概ね廻間Ⅱ式(赤塚1990・1997)の中頃～後半と考えられる。

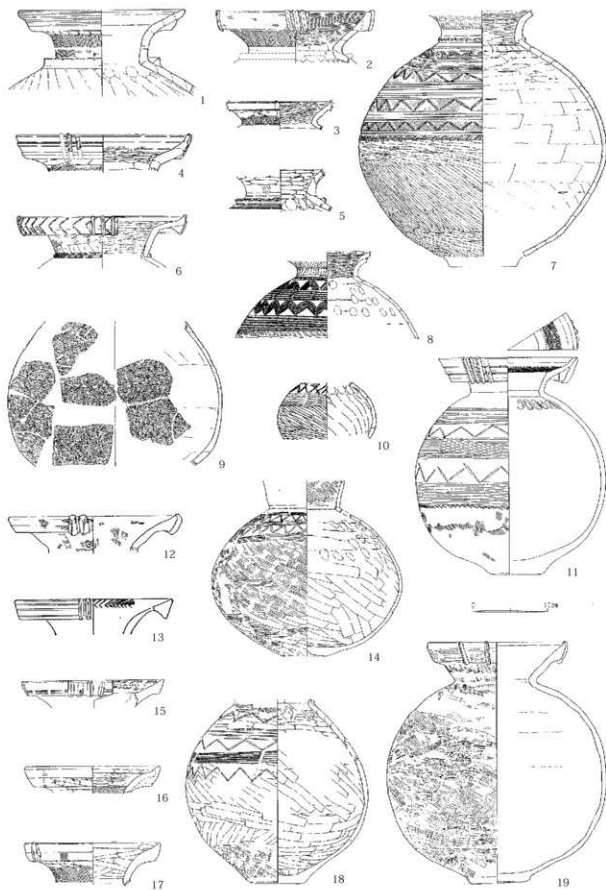
これらの集落は、その進出当初は比較的少規模な集落であったと推測され、その多くは女堀川右岸の大久保山や生野山の残丘に近い自然堤防や微高地上に立地している。これは、低地内に進出するにあたって、集落が立地する自然堤防や微高地と南側の残丘との間の狭い帯状の低地が、当初の水田経営の適地として選択されたことを示唆していると思われる(註7)。おそらく、当初は河川等の氾濫の影響が少なく、残丘からの自然の湧水を利用した比較的容易な灌排水系統の水田による比較的安定した耕地の確保を目指したのではないだろうか。

この残丘下の湧水による自然流路については、生野山残丘ではその北側に接する低台地上の域の内遺跡(恋河内1997)で古墳時代中期前半にはほぼ埋没した自然流路が、大久保山残丘ではその西側に接する低台地上の雷電下遺跡D地点で自然流路が検出されており、後者の雷電下遺跡D地点では古墳時代前期に自然流路の中央部にやや小規模な断面逆台形の箱状の溝を掘削して流路の集水機能を高め、何度か掘り返しを行って維持管理していたことが確認されている(恋河内1999)。大久保山残丘下の湧水は、残丘北側の裾を流れる小河川を形成したか、あるいは小河川(古男堀川)に合流し、それから残丘と集落の間の低地帯の水田を灌漑して、本遺跡のA1(恋河内・的野2010)・A2(未報告)・B1(恋河内・的野2010)・C4(本書第V章第2節)・E1(恋河内2012)・G地点(未報告)で検出された集落の南側に沿って東西方向に流路をとるやや小規模な河道に排水していたと思われる(註8)。

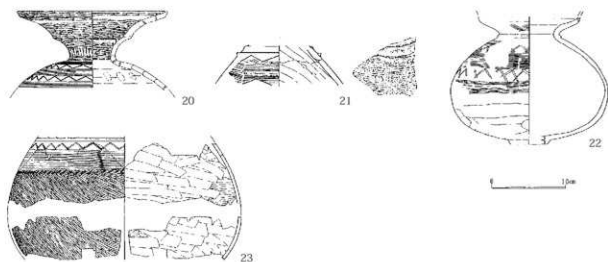
b. 拠点集落の形成

その後、これらの集落の多くは継続して営まれるが、中でも男堀川流域の低地帯に向いて立地する川越田・後張遺跡や久下前遺跡(北側に隣接する久下東遺跡の一部を含む)は、集落規模を拡大させて地域的な拠点集落として発展する。そして、前期後半には周辺の低地内に多くの小規模集落が拡散分布するようになることから、本格的に低地内の小河川から灌漑水路を掘削して、積極的に水田耕地の拡大が進められたことが窺える。それを裏付けるものとして、後張遺跡の北西側500mに位置する今井条里遺跡(岩田1998)では、低地内の小河川(古女堀川)からの取水が想定される幹線水路と、それから分岐する小規模水路による灌漑が考えられる連続した小区画水田の痕跡が多数検出されている(註9)。この拠点集落は、周辺に展開する小規模集落との間に「拠点と地点」、「中心と周辺」という構造的な関係を形成しながら、流域社会の経営を拡大させていったものと推測される。

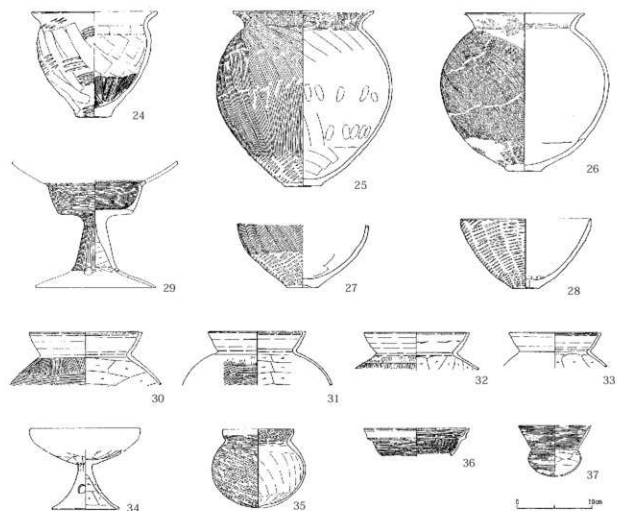
この流域経営の拡大進行は、中・下流域右岸の残丘北側の低地内の一部(男堀川低地等)に地域経営の基盤を築いてから、中流域の女堀川右岸から左岸に広がっていった様子が窺える。しかしながら、低地北側の本庄台地縁辺部への集落の進出は、川越田・後張遺跡などの拠点集落の周辺では、社員路遺跡(長谷川他1987)などやや早くから集落が形成されるが、中流域ではあまり積極的な進出は見られないようで、該期の遺跡数は女堀川右岸の低地内や残丘周辺に比べて極端に少ない。この高標とした低台地の本庄台地の積極的な開発が窺えるような集落の本格的な進出は、古墳時代中期以降になってからと言えよう。



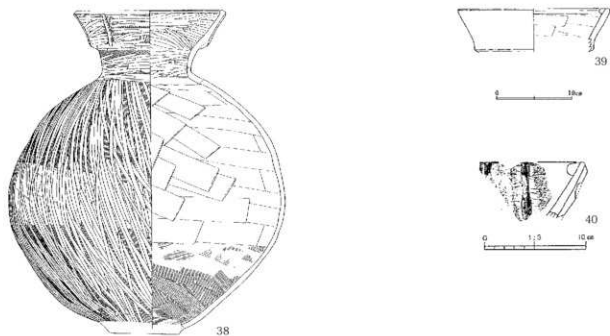
第344図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（ハレス文様系壺）



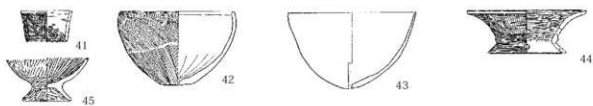
第345図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（ハレスウ様系壺）



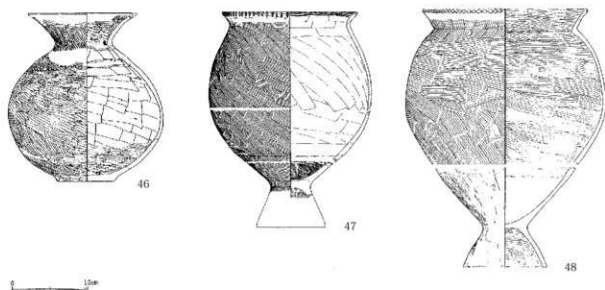
第346図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（畿内系）



第347図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（大廓式系大形壺）



第348図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（北陸・山陰系）



第349図 女堀川流域の特徴的な外来系土器（南関東系）

<第344図>

1・2久下前A1河川跡(恋河内・的野2010)、3久下前C360住(本書)、4久下前C4河川跡(本書)、5久下前C381住(本書)、6久下前A1河川跡(恋河内・的野2010)、7・8久下前A1河川跡(恋河内・的野2010)、9久下前D1河川跡(恋河内2012)、10久下前C4河川跡(本書)、11後張C195住(恋河内2005)、12川越田6住(富田・赤熊1985)、13川越田グリット(富田・赤熊1985)、14川越田D51住(大谷・福田2011)、15川越田D51住(大谷・福田2011)、16・17川越田D47住(大谷・福田2011) 18川越田D51住(大谷・福田2011)、19諏訪19周溝墓(柿沼・小久保1979)

<第345図>

20日延B8B住(恋河内1999)、21生野山78号墓(山川1984)、22田端中原7住(鈴木他2010)、23塩谷下大塚D2A周溝墓(徳山他2000)

<第346図>

24前組羽根倉1住(柿沼他1986)、25~27川越田24住(富田・赤熊1985)、28川越田7溝(富田・赤熊1985)、29日延B8B住(恋河内1999)、30久下前C3130住(本書)、31久下前C3103住(本書)、32久下前C3SK172(本書)、33久下前C4河川跡(本書)、34久下前C4河川跡(本書)、35久下前A1河川跡(恋河内・的野2010)、36久下前C3SK222(本書)、37後張C河道跡(恋河内2005)

<第347図>

38後張C河道跡(恋河内2005)、39久下前A1河川跡(恋河内・的野2010)、40久下前C4河川跡(本書)

<第348図>

41日延B8B住(恋河内1999)、42・43川越田7溝(富田・赤熊1985)、44・45久下前C4河川跡(本書)

<第349図>

46十二天D6住(大谷2012)、47日延B8B住(恋河内1999)、48塩谷下大塚C5周溝墓(恋河内1990)

c. 低地内集落の外來系土器

この低地内に進出した初期の集落は、群馬県の様相と同じように、その出土土器の大半を外來系のもものが占めている。特に拠点集落では、当地域の低地内の一般的な集落で主体的な東海西部系に加えて、畿内系、北陸系、東海東部～南関東系など、量は少ないながら多方面の影響を受けた外來系土器が出土している。これらの外來系土器には、いろいろな器種が見られるが、量的には圧倒的に甕が多いようであり、代表的なものとしては、東海西部系は「S字状口縁台付甕(上野型)」や「く字状口縁台付甕」、畿内系は「第V様式系甕」の変容甕や「布留式甕」、東海東部～南関東系は「単純口縁台付甕」などがある。また、前期後半には在來系とは異なる系譜の多様な平底甕も、台付甕とともに甕の中で一定量を占めるようになる。

当地域の外來系土器は、その故地から運んできた搬入品はあまり見られず、大半が当地域周辺で作られた在地産で(註10)、S字状口縁台付甕や第V様式系甕のように、既に在地化してかなり変容しているものも多く見られる。しかしながら、これらの中には、在地産ではあるが器形や製作技法が故地のものと瓜二つと思われるものもある。例えば、久下前遺跡出土の布留式甕(第346図No30~33)は、いずれも胎土材料の分析から在地産の可能性が高いと言われているが(本書第Ⅶ章第4節参照)、形態が同じであることはもちろんのこと、技法も故地のものと同じ内面塗ケズリ技法により器肉も非常に薄くしっかり作られており、土器の色まで故地のものに似せている。また、久下前遺跡出土の有段口縁鉢(第348No36)(註11)や後張遺跡C地点出土の小形丸底壺(第346図No37)なども、在地化した同様の土器(小型浅鉢や小型直口壺)と違って、精選されたきめ細かな胎土とともに器肉が極めて薄く均一に仕上げられ、器面の調整が布留式の小形精製土器群に特徴的な「横方向の細筋沈線状のヘラミガキ」(田中2005)に酷似したミガキによって仕上げられている。これらの土器は、地元の人が簡単に模倣できるようなレベルのものではなく、かなり高度な土器製作技法上の熟練と経験を必要とするものである。これは畿内系の土器だけではなく、久下前遺跡や後張遺跡C地点出土の東海西部系のパレス壺(第344図No8・11)なども同様で、故地で製作していた人々が当地に移動して同じ土器を製

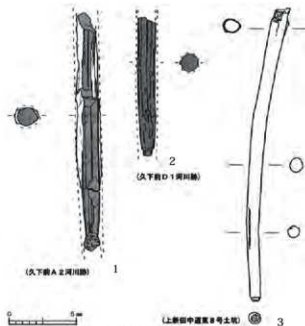
作したことが窺える資料である。また、「稲粃の海上輸送用コンテナ」（北條2017）とも評されている駿河地方の大塚式系の大型壺（第347図No38～40）が、数は少ないが当地域の拠点集落から出土していることも注目されよう。久下前遺跡出土No39とNo40の壺は、口縁部破片のため時期は良く分からないが、後張遺跡C地点出土No38の大型壺は、頸部が短く胴部との境が明確な「く」の字状を呈していることから、大塚式後半の大塚Ⅲ式以降の時期と考えられる。ただし、これらの大塚式系の大形壺は、胎土を見た感じでは搬入品の感じはせず、最もその可能性が感じられたNo40の壺口縁の破片も、胎土材料の分析の結果からは、在地産の可能性が高いと言われている（本書第Ⅶ章第4節参照）。

d. 拠点集落の漆生産

拠点集落は、地域間の交易に関わる人的交流や物流の中心であったため、稲粃（稲穂）の集積はもちろんのこと、農作物以外の交換物資の生産も一部で行われていたことが予想される。現在のところ、そのような物資を生産した工跡跡は、当流域の集落では検出されていないが、生産品の存在を推測させるものの一つとして、久下前遺跡のA2地点（未報告）とD1地点（恋河内2012）で検出された河道跡から出土した樹液が固まったものと推測される2点の棒状の塊が注目される（第350図No1・2）。これは、藤根久氏の御教示によると、細い竹筒（タケ程）に入れていた漆が固まった可能性が高いと言われており、実際にA2地点出土のものには（第350図No1）、棒状塊の周囲にタケ類の組織が付着して残存している。

同様の棒状塊は、群馬県玉村町の新田中道東遺跡の古墳時代前期の土坑からも出土している（第350図No3）。この新田中道東遺跡出土の棒状塊は、赤外分光分析やより材質の確実性が高い熱分解-GC/MS分析などの科学分析によって、漆（生漆）であることが明らかにされており、久下前遺跡の棒状塊と同じく、その形状からタケ程に保管されていたことが推測されている（註12）。また、タケ程による漆樹液の採取実験も行われており、タケ程が生漆の採取や運搬に使われた道具であった可能性が指摘され、タケ程に漆を入れて保管した場合、その口を「きちんと密封すればタケ程内で数か月保管できる」とも言われている（小島2012）。

久下前遺跡出土の棒状塊の場合、精密な科学的分析を行っていないため、厳密には漆と断定はできないかもしれないが、その可能性は高いと考えられる（註13）。また、いずれも古墳時代前期を主体とする土器片が多量に出土した河道跡の覆土中からの出土であるため、その使用状況がはっきりせず、あるいは他から持ち込まれた可能性もある。しかしながら、同様の採取・保管容器に入った状態のものが、異なった地点で出土していることは、実際にはもっと多数存在していたことが窺える。そのため、本集落の近くで生漆の採取や生産、及び集落内で漆製品の製作などが行われていた可能性は十分あると思われる。



第350図 漆の可能性がある棒状塊

e. 低地内遺跡の墓域と前方後方形周溝墓

下流域の遺跡では、古墳時代前期になって方形周溝墓も複数の遺跡で検出されている。しかしながら、下流域におけるこの墓域と集落との対応関係は、現状ではまだよく分からないものが多い。この中で、拠点集落の久下前遺跡については、その墓域の一つは集落の東側に隣接する北堀新田前遺跡(松本2015)と考えられるが、集落の拡大が集落群の形成に伴ってか、集落を見下ろす南側の大久保山残丘上にも、浅見山1遺跡や宥勝寺北裏遺跡(太田2003)などの方形周溝墓群による墓域が、分散して形成されているようである(第342図)。中・下流域のもう一つの拠点集落と考えられる川越田・後張遺跡の集落の墓域については、未だにそれと思われる遺跡は確認されておらず、久下前遺跡のような分散型の墓域形態が、それとは違った一箇所集中型の墓域形態なのか注目されるところであるが、その墓域に前方後方形周溝墓を伴う可能性は十分予想されよう。

当地域の方形周溝墓は、群集して墓域を形成しているものが大半であるが(註14)、女堀川や志戸川の下流域の低地部の遺跡では、周溝墓群の中に前方後方形の周溝墓を1～2基伴う遺跡が複数見られることが、地域的特色として注目されている(君島2010)。前方後方形周溝墓は、現在のところ女堀川流域では、塚本山遺跡33号墓と14号墓、北堀新田前遺跡2号墓と3号墓、その可能性が高いと言われている浅見山1遺跡12号墓の計5基が検出されている。また、隣接する志戸川流域では、南志渡川遺跡4号墓(長滝・中沢2005)、石時B遺跡8号墓(佐藤2003)、村後遺跡1号墓(細田他1984)、伊勢塚遺跡2号墓と4号墓(県事業団が2016年調査:未報告)の計5基が検出されており、児玉地方では可能性があるものも含めて、今のところ全部でこの10基が知られている。

前方後方形周溝墓の形態は、赤塚次郎氏の分類によるB1型～B3型(赤塚1992)のいずれの形態も見られる(註15)。形態の全容が分かるものは少ないが、規模はいずれも全長が20m前後と推測され、当地方の前方後方形周溝墓の間では、規模による大きな格差は見られないようである。また、後方部の形態は、明確に長方形を呈する石時B遺跡8号墓以外は、塚本山遺跡33号墓、南志渡川遺跡4号墓、北堀新田前遺跡2号墓など、方形を基調とするものが多いようで、当地方の最初の古墳である前方後方墳の鷺山古墳(増田・坂本他1986)の後方部が同じ方形である点で、その関係が注目されよう。鷺山古墳は、墳丘長が約60m、後方部幅が約37mを測り、当地方の前方後方形周溝墓の墳丘長の約2.5～3倍、後方部の面積は概ね4倍あり、在地の前方後方形周溝墓とは隔絶した規模を誇っている(第351・352図)。

当地方における前方後方形周溝墓の時間的な関係については、墳形の関係性を見るか、出土土器の型式差を見るかによって、その時間的位置づけに若干相違が認められるが、女堀川流域では塚本山遺跡33号墓、志戸川流域では南志渡川遺跡4号墓が最も古く位置付けられる点では一致していると言える(君島2010、小坂2014、東松山市2017)。この両者の新古関係については、塚本山遺跡33号墓の出土土器が在系土器、南志渡川遺跡4号墓の出土土器が外系土器を主体にしていることから、両者の出土土器を直接比較して検討することができないためその判断は難しく、多くの共伴器種による型式間のクロスチェックが必要であるため容易ではない。しかしながら、前方部の長さや端部の区画は異なるものの、いずれも後方部が若干台形のみで、後方部の中軸線からずれた前方部の設置のあり方など、左右対称的に両者の平面形態が類似している点は興味深い。

女堀川流域の塚本山遺跡33号墓については、中・下流域の低地内に進出し定着した拠点集落から

は見えない大久保山残丘上の西側に立地し、出土した供献土器(註16)も少量の在来系土器である点で、これらの外来系土器を主体とする拠点集落と対応する墓域とは考え難い。おそらく志戸川流域の志渡川遺跡(長滝・中沢2005)と南志渡川遺跡のように、低地内の拠点集落の近くに塚本山遺跡33号墓と同時期かそれよりも若干古い、外来系の供献土器を主体とする前方後方形周溝墓が存在する可能性が考えられよう。

この当地方の前方後方形周溝墓から出土した土器は、最も古く位置付けられる塚本山遺跡33号墓と南志渡川遺跡4号墓では、どの器種の土器も集落から出土する日常生活や祭祀などで使用されていたものと同じ系列の土器が供献されている。それに対してその後の前方後方形周溝墓では、葬送儀礼専用の儀器化された土器として、焼成前に底部が穿孔あるいは切り取りされた壺が多く供献されるようになる。特に二重口緑壺では、葬送儀礼用のものは口縁部の横方向や縦方向の拡張による誇張が顕著になり、鷺山古墳出土の口縁部に2個1組の円孔を持ち、口縁部が誇張化された二重口緑壺へ連なる様相が窺える。また、北堀新田前遺跡2号墓と鷺山古墳では、本来は儀器化されることがあまりない器種の小型高環や埴が、焼成前に穿孔され儀器として供献されていることも興味深い。

この鷺山古墳の二重口緑壺について、松本完氏は北堀新田前遺跡2号墓の二重口緑壺(第351図北堀新田前2号墓最上段の壺)との類似性から、両墳墓の二重口緑壺には「大きな時間的懸隔を想定することはできない」と言われ、厳密には北堀新田前遺跡2号墓の壺より鷺山古墳の壺の方が新しい様相が見られることから、2号墓に続く3号墓と鷺山古墳が同時期に造られたと考えられている。また、この二重口緑壺の系譜については、駿河地方との関係を示唆されており注目されよう(松本2015)。

当地方の前方後方形周溝墓と前方後方墳の関係については、坂本和俊氏によって早くから注目されていたが(坂本1986)、前方後方形周溝墓が前方後方墳に発展・集約されていくのか、あるいは群馬県地方のように高塚古墳と同時に存在する「小地域内における一定階層の墳墓」(深沢2012)なのかは、当地域の政治的社会的形成過程を考えるうえで重要である。そのためには、当然ながら両者の厳密な時間的関係を、まず整理し明確にしなければならないが、小地域史的世界の検討においては単なる編年表による配列だけではなく、その前後関係の根柢となる考古学的な説明が必要である。

2. 女堀川上流域の様相

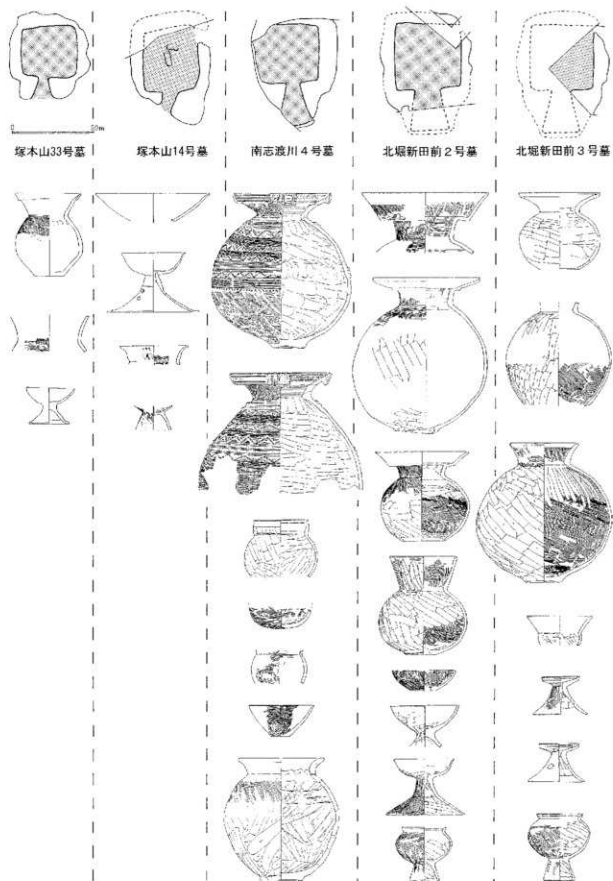
a. 丘陵上の集落と墓域

上流域の古墳時代前期の集落は、南側の上武山地から北東方向に幾筋も半島状に伸びる児玉丘陵上を主体に分布している(第343図)。この上流域の丘陵部は、前述したように当地域の弥生時代後期の集落が好んで立地した場所であり、まさに弥生時代からの「伝統地域」(若狭2000)と言える。

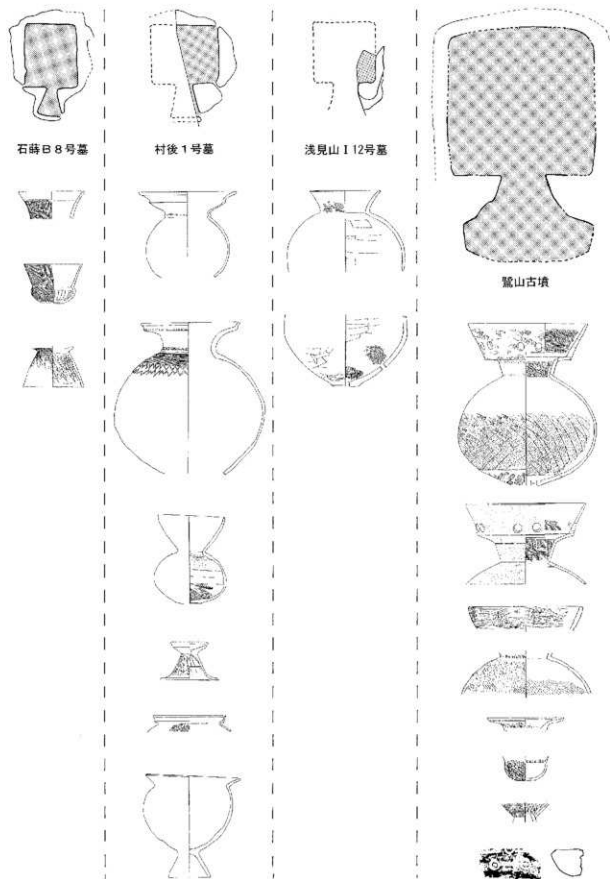
この丘陵上の集落は、概ね小規模と考えられる集落が主体で、長期継続して営まれるような集落は見られない。また、鈴木徳雄氏も言われるように(鈴木2000)、樽式土器を主体とする真鏡寺後遺跡や前組羽根倉遺跡、吉ヶ谷式土器を主体とする長沖久保遺跡、また地域は異なるが中流域の生野山残丘上の生野山遺跡、下流域の大久保山残丘上の大久保山遺跡など、弥生時代後期終末から継続して営まれた様相が窺える集落も多く見られ、弥生時代後期からの集落や谷田などの生活・生産の基盤を継承した集落経営が行われていたようである。

これらの丘陵部の遺跡では、集落に接して方形周溝墓が検出されている遺跡が多く認められる。

特に金屋池脇遺跡(小沢1969)、枇杷橋遺跡(菅谷・駒宮1973)、塩谷下大塚遺跡、十二天遺跡(坂



第351図 児玉地方の前方後方形の周溝墓・古墳と出土土器（1）



第352図 児玉地方の前方後方形の周溝墓・古墳と出土土器（2）

本・鈴木1981)(註17)などが立地するそれぞれの支丘では、丘陵先端部側に方形周溝墓(群)による墓域、同じ丘陵の奥側に集落が設営される共通性が見られる(恋河内1990、鈴木2000)。また、上流域では、丘陵上や低地内においても、現在までのところ、墓域を構成する周溝墓(群)の中に、下流域に見られるような明確な前方後方周溝墓が検出されていないことは、群馬県地方の「伝統地域」と同じ様相(深沢2012)を示しているのかもしれない。

このように、上流域の古墳時代前期の丘陵上の集落は、「それぞれの集落と耕地・墓域あるいはその他の用途地がひとつの単位性を帯びており、一定の小区内でそれぞれ自己完結的な単位的なまとまりをもっていた」(鈴木2000)と言われるような様相が窺える。

b. 上流域の低地内の集落

上流域では、この丘陵上の集落到やや遅れて、丘陵下のやや狭い低地内の微高地や自然堤防上に、新たにミカド遺跡(坂本・鈴木1981)、ミカド西遺跡(坂本・鈴木1981)、田端南堂遺跡(大熊2010)と、丘陵西側の神流川に沿う段丘上に海老ヶ久保遺跡(田村・金子1997)が出現することも注目される。この上流域の低地内に形成された集落は、いずれも数軒の住居によって構成される小規模集落と考えられるもので、集落の経営期間も比較的短期間で、下流域の低地内遺跡のような前期の内に集落規模を拡大させて中期以降も継続する地域の核となる拠点集落と考えられるような集落は見られない。

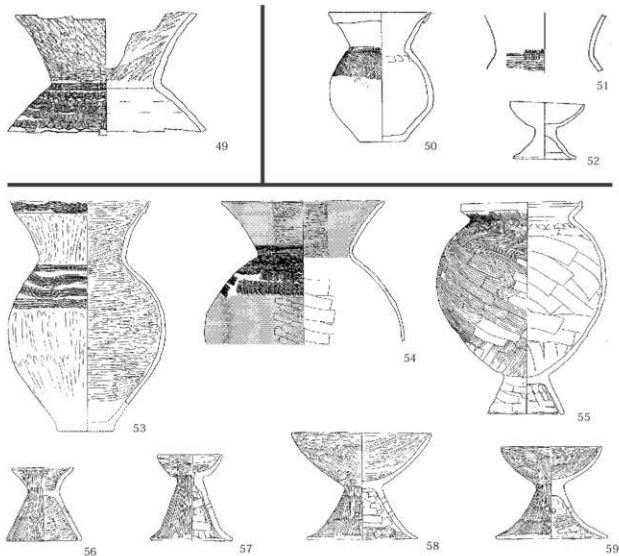
この低地内の集落では、集落の近くに方形周溝墓の墓域が形成されていない点で、前述の丘陵上の集落とも様相が異なっている。集落の経営期間が短期間で、墓域として方形周溝墓を造営するには至らなかったのか、あるいは丘陵上の集落の墓域を共有していたのか、どちらにしてもこの低地内に形成された集落は、低地内での定着性が低く、上流域における低地開発の礎にはならなかったようであり、拠点集落を中心とした下流域の低地内集落の展開とはかなり異なった様相が窺える。

また、上流域の古墳時代前期の集落では、丘陵上の前組羽根倉遺跡や塩谷平氏ノ宮遺跡、低地内の田端南堂遺跡、段丘上の海老ヶ久保遺跡など比較的多くの集落で、断面の形態が扁平な長方形や台形を呈する土製紡錘車が出土している。海老ヶ久保遺跡10号墳S B02出土の土製紡錘車に刺突文が施されているように、この形態の土製紡錘車は、弥生時代後期の樽式土器分布圏で見られる土製紡錘車の系譜を引くものと考えられ、それらの伝統的な紡績・製糸の技術も継承していたことが窺える。ちなみに、中流域や下流域の低地内の該期集落では、土製・石製を問わず紡錘車がほとんど出土していないのは対照的であり、丘陵上の畑作を主体とする上流域の集落と、低地内の水田耕作を主体とする中・下流域の集落との、生業の一部の相違が窺え注目されよう。

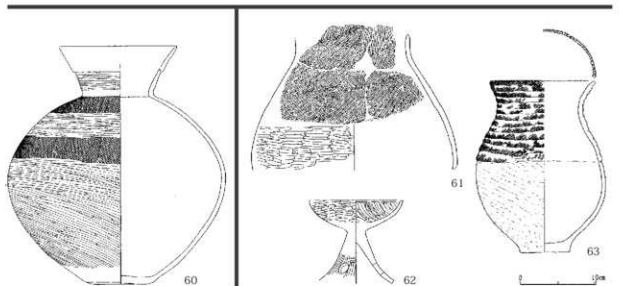
c. 上流域遺跡の土器様相

児玉地方の古墳時代前期の土器様相は、弥生時代後期の樽式土器や吉ヶ谷式土器の系譜を引くいわゆる在地系土器が根強く残る地域として知られているが、そのような土器様相が顕著に見られるのは、当地方を代表する女堀川や志戸川流域における上流域の児玉丘陵や松久丘陵の丘陵地帯に立地する遺跡である(若狭1990・2000、柿沼2015)。女堀川上流域の遺跡では、前述したように弥生時代後期終末から継続的に営まれた様相が窺える集落が多いことから、樽式系や吉ヶ谷式系の在地系土器が根強く残ることが考えられ、外來系土器を徐々に受容していく様相が窺える。

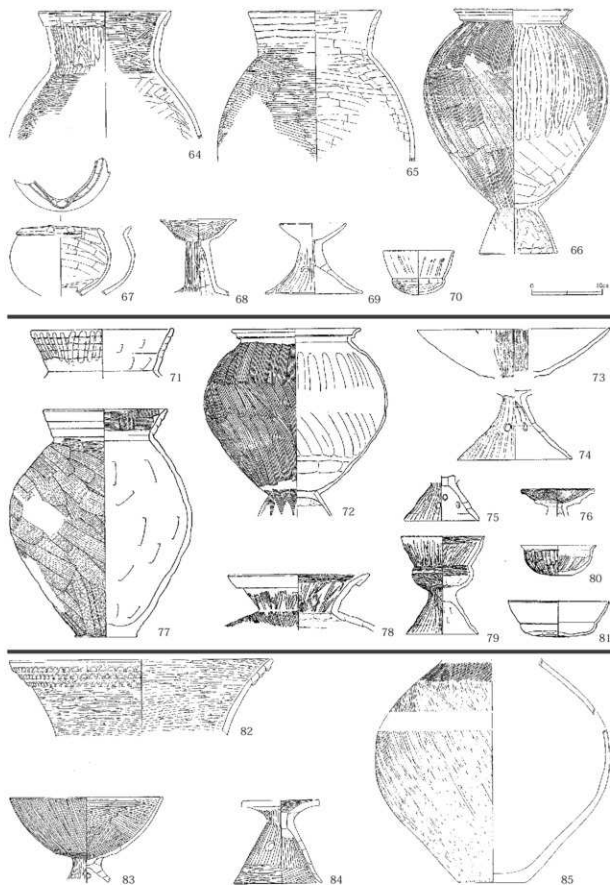
当地域の在地系土器は、壺や甕の器種においては樽式系の方が文様の櫛描文を早く喪失し無文化する傾向があり、その型式的特徴が不明確になるため、輪積み痕や横位施文の縄文が比較的長く残る吉



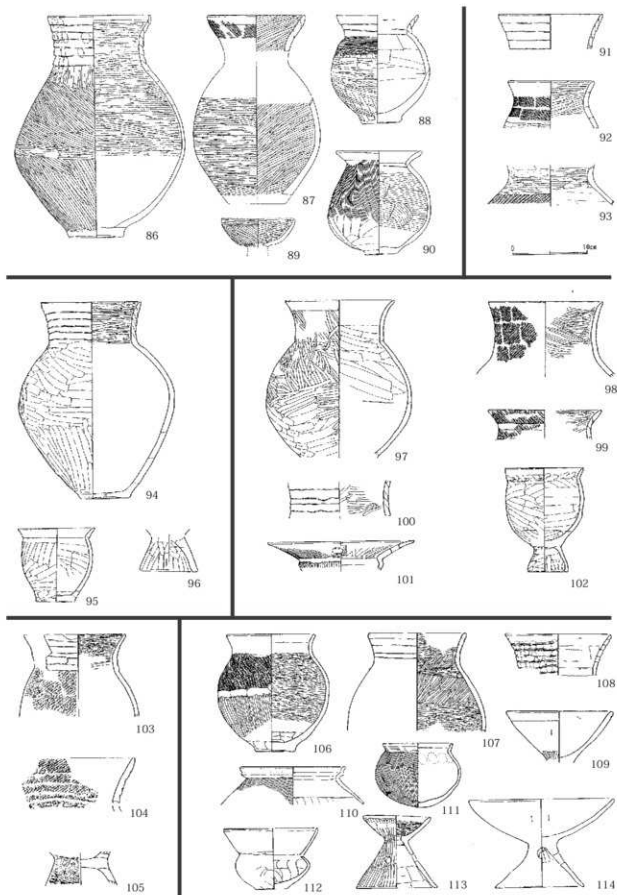
第353図 女堀川流域の樽式系土器と伴出土器



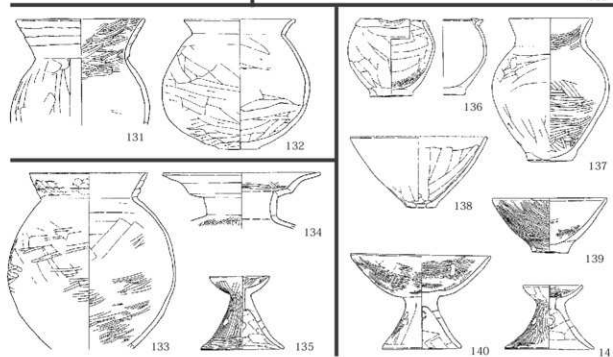
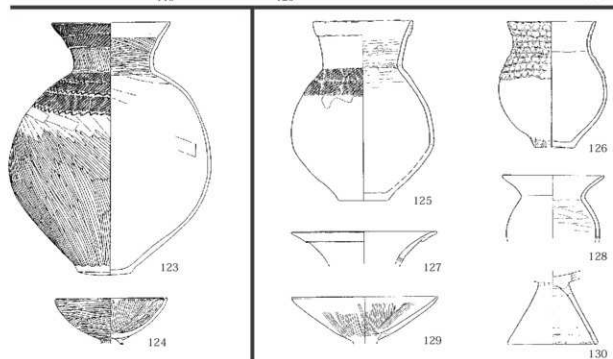
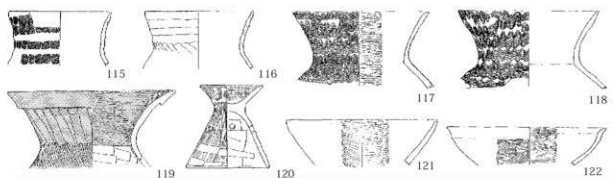
第354図 女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と伴出土器（1）



第355図 女堀川流域の吉ヶ谷式土器と伴出土器（2）



第356図 女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と伴出土器（3）



第357図 女堀川流域の吉ヶ谷式系土器と伴出土器（4）

<第353図>

49 飯玉東1住(増田・駒宮1979)、50～52 塚本山33号周溝墓(増田・小久保1977)、53～59 前組羽根倉2住(柿沼他1986)

<第354図>

60 後張C河道跡(恋河内2005)、61～63 大久保山9住(小沢1996)

<第355図>

64～70 川越田D51住(大谷・福田2011)、71～81 雷電下25住(増田・駒宮1979)、82～85 塩谷下大塚C5号周溝墓(恋河内1990)

<第356図>

86～90 真鏡寺後F49住(恋河内1991)、91～93 真鏡寺後F50住(恋河内1991)、94～96 塩谷平氏ノ宮6住(恋河内2006)、97～102 塩谷平氏ノ宮7住(恋河内2006)、103～105 宮内上ノ原B22住(松澤2005)、106～114 海老ヶ久保2住(田村・金子1997)

<第357図>

115～122 前組羽根倉3住(柿沼他1986)、123・124 長沖久保3住(恋河内1984・1990)、125～130 長沖久保4住(大塚2014)、131・132 田端中原2住(鈴木他2010)、133～135 田端中原4住(鈴木他2010)、136～141 田端中原7住(鈴木他2010)

ヶ谷式系が在地系土器の主流になるような見方をされがちである。しかしながら、それは当地域の在地系土器の様相においては一面的な見方と思われる。口脣部に明確な平坦面を持たない薄い幅狭複合口縁の無文の壺や、輪積み痕のない雫な甕磨き手法を残す無文の平底甕などは、樽式と吉ヶ谷式の土器製作技法上の類縁性から、どちらの系譜を引くのか判断しがたいものも多く見られる。また、樽式の系譜を引くと思われる片口鉢や浅鉢(片口付)などの小形器種の残存についても注意すべきであろう。当地域の在地系土器は、その量を減じ変容しながら前前後後段階まで残存しているが、今後他の器種も射程に入れた再検討を行い、やや複雑さが窺えるその様相を紐解いていかなければならない。

上流域で比較的古い段階の外來系土器は、樽式系土器を主体とする前組羽根倉遺跡第1号住居跡から出土した畿内第V様式系の叩き甕(第346図No24)や、吉ヶ谷式系土器が見られる塩谷下大塚遺跡のD地点第2A号方形周溝墓から出土した東海西部系のパレス壺(第345図No23)、同じくC地点第5号方形周溝墓から出土した東海西部系の高環、東海西部系の系譜を引くと思われる器台(第355図No83・84)などが考えられる。これらの外來系土器の時期は、下流域の低地内に該期集落が出現する時期とあまり大差ないと思われるが、下流域の遺跡に比べて量的には少量である。

また、上流域の遺跡では残存する在地系土器の影響によるのか平底系の甕が多く見られるが、外來系の台付甕も存在している。この上流域の遺跡で見られる台付甕は、単純口縁系の台付甕が多いようで、中・下流域の低地内の遺跡と違って、S字状口縁台付甕は少ないようである。

3. おわりに

以上のように、児玉地方における女堀川流域の古墳時代前期の遺跡について、低地を主体とする中・下流域と丘陵部を主体とする上流域の様相の違いを述べてきた。両者は、集落の形成発展の過程や生産基盤及び土器様相もかなり異なることを指摘したが、これは若狭徹氏が群馬県地方の様相の違いで区分された「新開地域」と「伝統地域」の関係に類似している(若狭2000)。群馬県地方では、弥生時代後期にはほとんど見向きもされなかった低地部の「新開地域」における古墳時代前期の集落の急激な増加について、それらの遺跡が外來系土器を主体とすることから、東海西部地方からの外來集団の入植が想定されている(田口1981、若狭1990・2000、深沢2012)。それに対する反論(友廣2015)もあるが、当流域の様相との類似性からも魅力的な説ではある。

女堀川流域の中・下流域と上流域の集落は、同一の水系で近距離にあり、上流域の集落では中・下流域と同様の外來系土器が量的には少ないながら見られ、中・下流域の低地内の川越田遺跡や後張

遺跡でも吉ヶ谷式系の在地系土器(第354図No60、第355図No65)がごく少量出土していることから、相互に関係性をもっていたことが窺える。その関係は、おそらく支配・被支配のような強権的なものではなく、当初はそれぞれ独自性が見られることから、相互に自律的で緩やかな関係であったと思われる。そして、下流域の低地部の外來系土器を主体にもつ集団は、その様相が類似した利根川を挟んで近接する利根川低地部の群馬県佐波地方との関係性が窺え、上流域の丘陵部の在地系土器を根強くもつ集団は、山沿いに隣接する「比企一大里一児玉一甘楽」の丘陵地帯のネットワーク(若狭2000)を保持し、後者は渡來系の文化を拒絶せずに徐々に受容していったと思われる。

注

- (注1) 九郷用水の掘削時期については、低地内の条里形地割りの施工とともに古代国家が掘削したとする古代掘削説(鈴木1984)、平安末～鎌倉初期に当地を本拠地とした児玉党が掘削したとする中世初期掘削説(長谷川勇1981、本庄市1986)、戦国時代に当地を支配した後北条氏が掘削したとする戦国時代掘削説(長谷川典明1981)がある。
- (注2) 大久保山遺跡は、吉ヶ谷式系の變(第353図No63)や外來系土器の埴形高杯(第353図No62)を出土した第9号住居跡がよく知られている。この住居跡は、出土土器の特徴や住居跡の形態から古墳時代前期の範疇で考えていても、もう一軒の吉ヶ谷式土器の破片を出土した第70号住居跡は、図示された大型壺・甕・高杯などの破片資料の中には、明確に古墳時代前期とすべき特徴を持つものが見られないことから、第9号住居跡よりも古い弥生時代後期後葉頃の時期とも考えられる。
- (注3) 栗師堂遺跡の二軒屋式土器は、「工事の折に土器製の住居址等と共に発見されたものであるが、出土状態等の詳細については判らない(本庄市1976)と言われている。塚山遺跡の二軒屋式土器が出土した遺構は、報告書(増田・小久保1977)では住居跡とされているが、典型的な二軒屋式の住居とは異なり、平面形が楕円形で軒や穴なども全く見られないものである。そのため、定住を目的とした住居とは考えられず、構造物であれば土坑あるいはキャンピング地のテントのような一時的・仮設的な簡単な施設であったと思われる。
- (注4) 北西側に連続する上里町町では烏川低地と呼んでいる。
- (注5) 樽式土器と吉ヶ谷式土器は、その形式的特徴の一つである櫛櫛文と鬮文という文様による表象は異なるものの、特定器種の形態の類似や「磨き手法」(青木・飯島・若狭1987)の特に内面磨きなどの製作技法の共通性など、土器様の類似性も一部認められる(石岡1982、志河内1990)。また、樽式土器と吉ヶ谷式土器を使用する集団の住居の形態や構造の類似性も、両者の関係性を考えるうえで注目される。
- (注6) 若狭雄氏が群馬県内の弥生時代後期遺跡の分布状況の様相を、利根川北東側の榛名山東麓地域の遺跡が厚く分布する「伝統地域」と、利根川西側の赤城山南麓から南側の低地地域の遺跡が希薄な「閑散地域」として分けたと(若狭2000)、女堀川流域はまさにその範囲のような様相を呈している。
- (注7) 本遺跡C4地点の古墳時代前期四河川層覆土の花粉分析の結果では、古墳時代前期に本遺跡周辺の湿地的環境(おそらく本遺跡南側の残丘との間の狭い現男堀川流域の帯状の低地)の一部で、水田耕作が行われていた可能性が指摘されている(本書第Ⅷ章第6節参照)。
- (注8) は場整備前の男堀川は、は場整備前までは条里形地割りの施工範囲内ではその坪線に沿った流路をとっていたことから、条里形地割りの施工後に整備された流路形態であることが分かる。
- (注9) 同様の古墳時代前期の灌漑水路は、小山川(旧身堀川)を挟んで南東側に隣接する志戸川流域の日の森遺跡(菅谷他1978)でも検出されており、当地方の代表的流域の低地内では、灌漑水路を掘削して水田開発が積極的に行われていたようである。
- (注10) 5点ではあるが、久下東遺跡B1地点出土のS字状口縁台付甕もしくはS字状口縁小形鉢の胎土材料の分析も行われており、すべて「在産あるいは近隣地域の材料を利用して製作された土器」と考えられている(藤根・米田2009)。
- (注11) 留留式の小形精製土器3種の中で、典型的な有段口縁鉢は当地域ではあまり出土していない。ちなみに、当地域では群馬県地方の低地部の集落で散見される第326図No139・140のようなS字状口縁小形鉢が、低地部の集落でも器種として安定的に存在している。
- (注12) 上新田中道東遺跡と久下前遺跡D1地点出土の棒状埴は、下端がゴタン状に小さく突出した形態であることから、タケの節にあたるタケ桿の底の部分であったことが分かる。久下前遺跡A2地点の棒状埴の下端側は、その形態からタケの節をくり抜いた部分であることが分り、その元の形状が上新田中道東遺跡出土の棒状埴のように細長い形態であったことが窺える。おそらく、古墳時代前期の当地方では、漆の採取や保管に関してこのような細長い形態のものが適していたと考えられていたのではないかと推測される。
- (注13) 久下前遺跡のA2地点とD1地点から出土した2点の棒状埴の赤外分光分析の結果では、いずれも上新田中道東遺跡の棒状埴と類似した赤外吸収スペクトルの波長が得られている。
- (注14) 前期後葉～未開になると、女堀川流域では中流域の山王山遺跡(浅間2014)や生野山遺跡(菅谷・駒宮1973、埼玉東1982)、上流域の板橋遺跡(菅谷・駒宮1073)や金魚池遺跡(小沢1969)など、方形周溝墓が群を成して1基単独的な様相を示す遺跡が見られるようになり注目されている(坂本1986)。
- (注15) 前方面の形態的特徴がある程度分かるものでは、B1型が伊勢塚遺跡2号墓、B2型が塚山遺跡33号墓、B3型が女堀川遺跡4号墓、石碓B遺跡8号墓、村後遺跡1号墓である。
- (注16) 第351図には載せていないが、塚山遺跡33号墓からはこの他にS字状口縁台付甕の口縁破片が出土している。これはその口縁部形態からS字甕のD型に該当するもので、他の在産系土器よりも新しい時期の混入品と考えられる。
- (注17) 鈴木徳雄氏は、十二天遺跡A地点の二重口縁蓋(大熊他2010)が出土した第38号土坑について、方形周溝墓の周溝の一部であった可能性を示唆されている(鈴木2000)。

〈参考文献〉

- 赤塚 次郎 (1990) 『棚間式土器』『棚間遺跡』 愛知埋蔵文化財センター調査報告書第16集
 (1992) 『東海系のトレース』『古代文化』第44号第6号
 (1997) 『棚間Ⅰ・Ⅱ式再論』『西上免遺跡』 愛知埋蔵文化財センター調査報告書第73集
- 青木 和明・飯島 克己・若狭 徹 (1987) 『箱溝式と樽式土器』『弥生文化の研究』第4巻 雄山閣
- 淺間 陽 (2014) 『山王山遺跡—A1・A2地点の調査—』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第40集
- 荒川 正夫 (1998) 『大久保山Ⅵ』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告書6
 荒川 正夫・昆 民生 (2004) 『大久保山Ⅹ』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告書11
- 有山 啓世 (2008) 『川越田遺跡Ⅲ』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 有山 啓世・高橋 清文 (2011) 『飯倉南遺跡群』 本庄市遺跡調査会報告書第39集
- 池田 匡彦・長滝 歳康・中沢 良一 (2012) 『宮ヶ谷戸遺跡・砂田遺跡』 美里町遺跡発掘調査報告書第21集
- 石岡 憲雄 (1982) 『吉ヶ谷と岩鼻式について』『埼玉県立歴史資料館紀要』第4号
- 岩瀬 謙 (1998) 『地神ノ塔頭』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書第193集
- 岩田 明弘 (1998) 『今井条里遺跡』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書第192集
- 大熊季広他 (2010) 『田端南遺跡』 本庄市遺跡調査会報告書第28集
- 太田 博之 (2002) 『東五十子・川原町』 東五十子遺跡調査会
 (2003) 『有勝寺裏塚輪郭跡・有勝寺北裏』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第26集
 (2005) 『四方田(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)調査(Ⅰ)・久下東(Ⅱ)調査(Ⅰ)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第31集
 (2007) 『西五十子古墳群』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第5集
- 大谷 徹 (1999) 『長沖古墳群』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書224集
 (2012) 『向ヶ下二天ノ青柳古墳群南塚原支群ノ包塚原Ⅱ』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書389集
- 大塚 徹・福田 聖 (2011) 『川越田遺跡Ⅱ』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書375集
- 大谷 昌彦 (2014) 『長沖古墳群Ⅳ』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第42集
- 小沢 国平 (1969) 『児玉町金屋池脇遺跡』『埼玉考古』第7号 埼玉考古学会
- 小澤 正人 (1996) 『大久保山Ⅳ』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告書4
- 金子 彰男 (1991) 『地田遺跡 第1地点』 神川町遺跡調査会発掘調査報告書第2集
- 金子正之他 (1980) 『有勝寺北裏遺跡』 有勝寺北裏遺跡調査会
- 神 川 町 (1989) 『神川町誌』
- 柿沼 幹夫 (1978) 『遺跡の立地と環境』『東谷・前山2号墳・古川端』 埼玉遺跡発掘調査報告書第16集
 (1987) 『埼玉県北西部地方の棚間土器』『埼玉考古』第23号 埼玉考古学会
 (2015) 『吉ヶ谷式・吉ヶ谷系土器の移動』 『第23回特別展 ゆくものくるもの—北関東の後期弥生文化—』 かつひの里博物館
- 柿沼幹夫他 (1986) 『前組羽根遺跡発掘調査報告』 前組遺跡発掘調査団
- 柿沼 幹夫・小久保 徹 (1979) 『下田・諏訪』 埼玉遺跡発掘調査報告書第21集
- 木戸 春夫 (1998) 『沖田Ⅰノ沖田Ⅱノ沖田Ⅲ』 埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書231集
- 君島 勝秀 (2010) 『企画展「稲荷山」出現以前の古墳』 埼玉県立きたま史跡の博物館
- 志河内昭彦 (1984) 『児玉町長沖古墳群の第7次調査』『第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉県考古学会ほか
 (1990) 『塩谷下大塚遺跡』 児玉町文化財調査報告書第11集
 (1990) 『根田遺跡』 児玉町文化財調査報告書第12集
 (1991) 『高輪寺後遺跡Ⅲ—C・F・D地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第14集
 (1992) 『児玉地方における弥生時代の概観』『児玉郡市における埋蔵文化財の成果と概要—平成3年度後期弥生文化財担当者会議資料—』 埼玉県教育局文化財保護課 児玉郡市文化財担当者会
 (1993) 『川越田遺跡Ⅱ(B・C地点の調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第5集
 (1995) 『東玉Ⅱ・高洲田・樋越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴崎・毛無Ⅰ屋敷・石橋』 児玉町文化財調査報告書第5集
 (1996) 『辻堂・南街道・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第20集
 (1997) 『城の内・日延・東田・浅見北遺跡』 児玉町文化財調査報告書第23集
 (1999) 『日延Ⅱ・児玉条里遺跡』 児玉町文化財調査報告書第31集
 (1999) 『雷電下Ⅲ・南ノ前遺跡』 児玉町文化財調査報告書第32集
 (2001) 『鷺山古墳の第2次墳形確認調査』『児玉郡市文化財担当者会報』第1号
 (2005) 『後張遺跡Ⅲ—C地点の調査—』 児玉町遺跡調査会報告書第20集
 (2006) 『金屋下別所遺跡B地点・塩谷平氏ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡E地点』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第1集
 (2012) 『久下前遺跡Ⅳ(D1・E1地点)・久下東遺跡Ⅴ(F1地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第28集
 (2012) 『塚島遺跡Ⅳ(C地点の調査)』 本庄市遺跡調査会報告書第33集
 (2016) 『久下東遺跡Ⅳ(C2・D2・D3・E2・E3・E4地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第49集
- 志河内昭彦・松本 完 (2008) 『七色塚遺跡Ⅱ(B1地点)・北塚新田前遺跡(A1地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 志河内昭彦・野 善行 (2010) 『北塚久下塚北遺跡Ⅱ(B地点)・久下東遺跡Ⅳ(C1・D1・E1地点)・久下前遺跡Ⅱ(A1・B1地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第19集
 (2014) 『七色塚遺跡Ⅲ(B2地点)・北塚久下塚北遺跡Ⅲ(C・D地点)・久下東遺跡Ⅶ(A2・B2・B3・F2地点)・有勝寺北裏遺跡Ⅳ(C地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第37集
- 小坂 延仁 (2014) 『埼玉県の様子』『東生』第3号 東日本古墳確立期土器検討会
- 小島 敦子 (2012) 『上新田中道東遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第528集

- 堀 玉 隼 (1982) 『新編埼玉県史』資料編2
- 坂本 和俊 (1984) 「III 埼玉県『古墳時代土器の研究』古墳時代土器研究会
(1986) 「児玉郡周辺における古墳文化の形成過程」『前組羽根遺跡発掘調査報告』前組遺跡発掘調査団
(2017) 「集落遺跡が語る東松山の3～4世紀の社会」『三角縁神獣鏡と3～4世紀の東松山』東松山市教育委員会編
六一書房
- 坂本 和俊・鈴木 徳雄 (1981) 『金屋遺跡群』児玉町文化財調査報告書第2集
- 佐々木藤雄 (2010) 『北堀新田遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 佐藤 志雄 (2003) 『石時B遺跡』岡部町史資料調査報告書第1集
- 佐藤志雄他 (1979) 『大宮B遺跡・西浦北遺跡』岡部町教育委員会
- 菅谷 浩之 (1984) 『北武蔵における古式古墳の成立』児玉町史料調査報告書古代第一集
- 菅谷浩之他 (1978) 『日の森遺跡発掘調査概報』埼玉県児玉郡美里村教育委員会
- 菅谷 浩之・駒宮 史朗 (1973) 「生野山古墳群発掘調査概報」『第6回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会 埼玉遺跡調査会 埼玉県教育委員会
(1973) 『枇杷橋遺跡発掘調査報告書』埼玉県遺跡調査会報告第20集
- 鈴木 徳雄 (1984) 「古代児玉郡の土地利用と村落の変遷」『阿知越遺跡II』児玉町文化財調査報告書第4集
(2000) 「児玉丘陵における集落域と墓域」『塩谷下大塚遺跡 一D地点の調査一』児玉町遺跡調査会報告書第10集
- 鈴木徳雄他 (1991) 『辻ノ内・中下田・塚島・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第15集
(2007) 『児玉清水遺跡 一A地点の調査一』本庄市遺跡調査会報告書第18集
(2010) 『田原中原遺跡』本庄市遺跡調査会報告書第29集
- 高林 真人 (2010) 『後張遺跡IV 一D地点の調査一』本庄市遺跡調査会報告書第35集
(2011) 『後張遺跡V 一E地点の調査一』本庄市遺跡調査会報告書第40集
- 田口 一郎 (1981) 『元島名將軍塚古墳』高崎市文化財調査報告書第22集
(2000) 『北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着』『S字甕を考える』東海考古学フォーラム三重大会事務局
- 田中 広明・末木 啓介 (1997) 『中塚』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集
- 田中 元浩 (2005) 「畿内圏における古墳時代初期土器群の成立と展開」『日本考古学』第20号 日本考古学協会
- 田村 誠・金子 彰男 (1997) 『青柳古墳群 城戸野・海老ヶ久保・十二ヶ谷戸・二ノ宮古墳』神戶町教育委員会文化財調査報告書第16集
- 徳山 寿樹 (1994) 『藤塚遺跡 一B 2地点の調査一』児玉町文化財調査報告書第22集
- 徳山寿樹他 (1994) 『平塚・左口・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第16集
(1995) 『塚向・藤塚A・柳島・内手B・C・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第18集
(1996) 『東照沼・藤塚B 1・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第21集
(1996) 『藤塚遺跡 一B 2地点の調査一』児玉町文化財調査報告書第22集
(2000) 『塩谷下大塚遺跡 一D地点の調査一』児玉町遺跡調査会報告書第10集
- 富田 和夫・赤鹿 浩一 (1985) 『立野南・八幡太人神・熊野太人神・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集
- 友廣 哲也 (2015) 『土器変容にみる弥生・古墳移行期の真相』同成社
- 長滝 歳康・中沢 良一 (2005) 『南志渡川遺跡・志渡川古墳・志渡川遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第16集
- 長谷川 勇 (1981) 「金鑽神社と九郎用水と児玉党」『あゆみ』第19号 深谷商業高等学校地歴研究部
- 長谷川勇他 (1987) 『社具路遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告書第5集3分冊
- 長谷川典明 (1981) 『神流川流域用水の研究 一丸瀬用水・阿保領用水を中心にして一』
東松山市教育委員会 (2017) 『三角縁神獣鏡と3～4世紀の東松山』六一書房
- 深沢 敦仁 (2012) 「北関東」『シンポジウム東日本における前期古墳の立地・景観・ネットワーク発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 福田 聖 (1997) 「古墳時代前期の土器」『中塚』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集
(2013) 『川越遺跡III』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第400集
- 藤根 久・米田 恭子 (2009) 『久下東遺跡(Ⅱ次) B1地点出土資料の自然科学分析 1. S字状口縁古付甕の胎土分析』『久下東遺跡III(C1地点)・北堀新田遺跡(A1地点)・有勢寺北遺跡III(A1・B1地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 北條 芳隆 (2017) 「関東地方への前方後円(方)墳の波及を考える 一東松山市高坂8号墳を素材として一」『三角縁神獣鏡と3～4世紀の東松山』東松山市教育委員会編 六一書房
- 細田 勝他 (1984) 『向田・権現塚・村後』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第38集
- 本庄市教育委員会 (2016) 『本庄市の遺跡と出土文化財』本庄市郷土叢書第5集
- 本 庄 市 (1976) 『本庄市史』資料編
(1986) 『本庄市史』通史編I
- 松本 完 (2013) 『久下前遺跡V(F1地点)・久下東遺跡VI(G1地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第32集
(2015) 『北堀新田前遺跡II(A・A3地点)・北堀新田遺跡IV(A2・B地点)・久下東遺跡VII(G3地点)』本庄市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 松本 完・大熊 季広 (2009) 『浅見山I遺跡(Ⅲ次)・久下東遺跡(Ⅱ次)A1・B1地点・北堀久下北遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 松本 完・町田奈緒子 (2002) 『久下保山遺跡浅見山I地区(第2次)・北堀前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書』本庄市遺跡調査会報告書第6集

- 松本 完・的野 善行 (2010) 『久下前遺跡Ⅲ(C1地点)・北堀新田遺跡(A1地点)・宍勝寺北裏遺跡Ⅲ(A1・B1地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 増田 一裕 (1987) 『東富田遺跡群発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第10集
 (1989) 『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第14集
 (1990) 『山根遺跡発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第18集
- 増田 逸朗 (1975) 『千光寺』 埼玉県遺跡調査会報告書第27集
- 増田 逸朗・小久保 徹 (1977) 『塚本山古墳群』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第10集
- 増田 逸朗・駒宮 史朗 (1979) 『飯玉東・雷滝下』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集
- 増田 逸朗・坂本和俊他 (1986) 『埼玉県古式古墳調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 増田 逸朗・立石 盛嗣 (1982) 『後張Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第15集
 (1983) 『後張Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第26集
- 松澤 浩一 (2005) 『宮内上ノ原遺跡 - B地点の調査-』 児玉町遺跡調査会報告書第18集
- 美 里 町 (1986) 『美里町史』 通史編
- 山川 守男 (1984) 「北武蔵児玉地方の古墳時代前期の様相」『第5回三県シンポジウム 古墳出現期の地域性』 北武蔵古代文化研究会 群馬県考古学談話会 千曲川水系古代文化研究所
- 山川 守男・福田 聖・石坂 俊郎 (1998) 「北武蔵における土器群の画期と交流」『庄内式土器研究』XVIII 庄内式土器研究会
- 若狭 徹 (1990) 「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学季報』Vol. 1 群馬土器観会
 (1998) 『第2回特別展図録 人が動く・土器も動く -古墳が成立する頃の土器の交流-』かみつけの里博物館
 (2000) 「S字口縁壺波及期の様式変革と集団動態 -群馬県地域の場合-」『S字壺を考える』 東海考古学フォーラム三重大会事務局

写真図版



本庄市マスコット

はにぼん



久下前遺跡 C 2・C 3 地点遠景



久下前遺跡 C 2・C 3 地点全景 (東から)



久下前遺跡C 2地点全景（真上から）



C 2地点全景（東から）



C 2 地点全景 (南から)



第43号住居跡



第44号住居跡



第46号住居跡



第46号住居跡カマド・貯蔵穴



第46号住居跡カマド



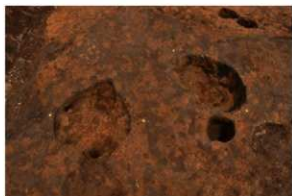
第46号住居跡遺物出土状態



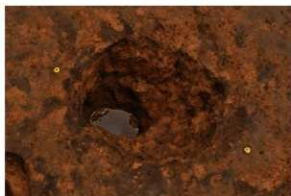
第40号土坑



第41号土坑



第42・43号土坑



第44号土坑



第45号土坑



第47号土坑



第48号土坑



第49号土坑



第50号土坑



第51号土坑



第52号土坑



第53号土坑



第54号土坑



第55·56号土坑



久下前遺跡C 3地点全景（真上から）



C 3地点調査区東側（真上から）



C 3 地点調査区中央付近 (真上から)



C 3 地点調査区西側 (真上から)



第48号住居跡



第48号住居跡カマド



第49号住居跡



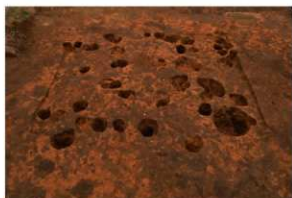
第49号住居跡カマド



第49号住居跡遺物出土状態 (1)



第49号住居跡遺物出土状態 (2)



第50号住居跡



第50号住居跡炉跡



第51号住居跡炉跡



第51号住居跡遺物出土状態



第53号住居跡



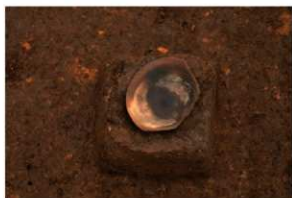
第53号住居跡カマド



第54号住居跡



第54号住居跡カマド



第54号住居跡遺物出土状態



第54号住居跡石製紡錘車出土状態



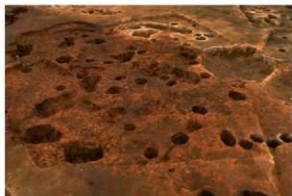
第57号住居跡



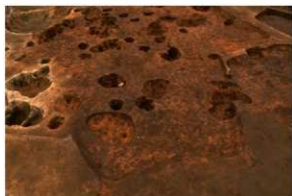
第57号住居跡遺物出土状態



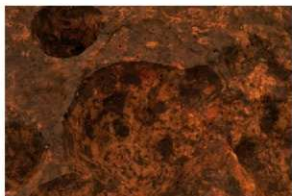
第58号住居跡



第58・59号住居跡(1)



第58・59号住居跡(2)



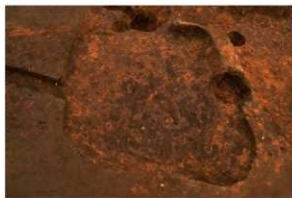
第59号住居跡炉跡



第60号住居跡



第60号住居跡遺物出土状態



第61号住居跡



第62号住居跡



第62号住居跡カマド



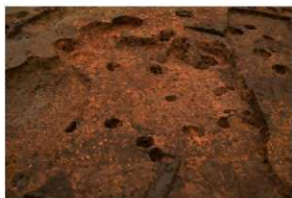
第62号住居跡貯蔵穴



第62号住居跡遺物出土状態 (1)



第62号住居跡遺物出土状態 (2)



第63号住居跡



第63号住居跡カマド



第64号住居跡カマド



第65号住居跡



第65号住居跡カマド



第65号住居跡遺物出土状態



第66号住居跡



第66号住居跡遺物出土状態



第67号住居跡



第67号住居跡カマド



第68号住居跡



第68号住居跡遺物出土狀態(1)



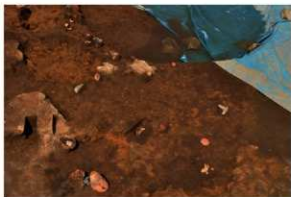
第68号住居跡遺物出土狀態(2)



第68号住居跡遺物出土狀態(3)



第69号住居跡



第70号住居跡



第70号住居跡遺物出土狀態



第71号住居跡



第72号住居跡



第74号住居跡



第75号住居跡



第75号住居跡カマド



第76号住居跡



第76号住居跡カマド



第76号住居跡遺物出土状態



第76号住居跡床下土坑



第77号住居跡



第77号住居跡炉跡



第78号住居跡



第78号住居跡カマド



第78号住居跡カマド袖補強壁



第80号住居跡



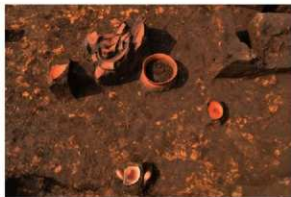
第81号住居跡



第81号住居跡遺物出土状態



第82号住居跡



第82号住居跡遺物出土状態



第83号住居跡



第83号住居跡遺物出土状態



第84号住居跡



第85号住居跡



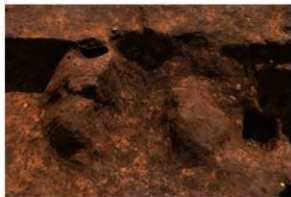
第85号住居跡炉跡



第85号住居跡遺物出土状態



第86号住居跡



第86号住居跡カマド



第87号住居跡



第88号住居跡



第89号住居跡



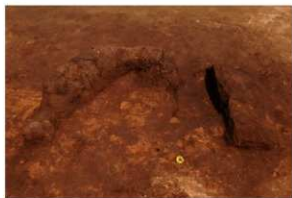
第90号住居跡



第90号住居跡カマド



第91号住居跡



第91号住居跡カマド



第92号住居跡



第92号住居跡カマド



第92号住居跡貯蔵穴遺物出土状態



第93号住居跡



第93号住居跡カマド



第94号住居跡



第94号住居跡カマド



第94号住居跡遺物出土状態 (1)



第94号住居跡遺物出土状態 (2)



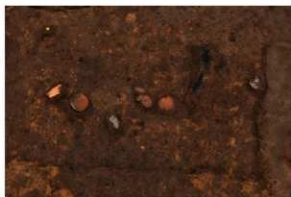
第95号住居跡



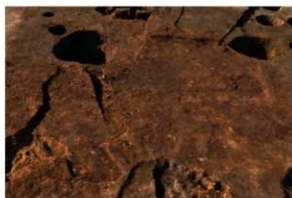
第96号住居跡



第96号住居跡カマド



第96号住居跡遺物出土状態



第99号住居跡



第100号住居跡



第100号住居跡カマド



第100号住居跡貯蔵穴



第100号住居跡遺物出土状態



第100号住居跡編物石出土状態



第101号住居跡



第102号住居跡



第103号住居跡



第103号住居跡炉跡



第104号住居跡



第105号住居跡



第106号住居跡



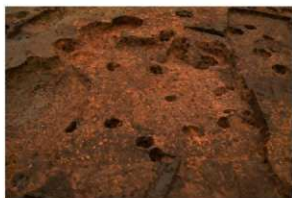
第106号住居跡遺物出土状態



第107・108号住居跡



第107号住居跡カマド



第109号住居跡



第109号住居跡カマド



第109号住居跡遺物出土状態(1)



第109号住居跡遺物出土状態(2)



第110号住居跡



第110号住居跡カマド



第111号住居跡



第112号住居跡



第113号住居跡



第113号住居跡カマド



第114号住居跡



第115号住居跡



第118号住居跡



第118号住居跡カマド



第119号住居跡



第119号住居跡カマド



第120号住居跡



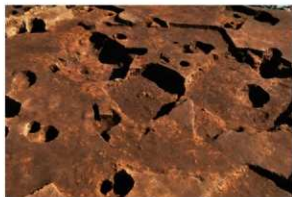
第120号住居跡カマド



第121号住居跡



第121号住居跡カマド



第123号住居跡



第123号住居跡遺物出土状態



第124号住居跡カマド



第125・126号住居跡



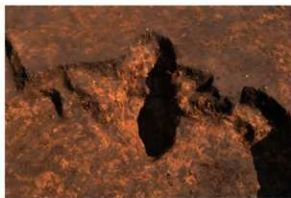
第125号住居跡カマド



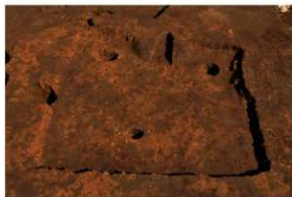
第126号住居跡カマド



第127号住居跡



第127号住居跡カマド



第128号住居跡



第128号住居跡カマド



第129号住居跡



第129号住居跡カマド



第130号住居跡



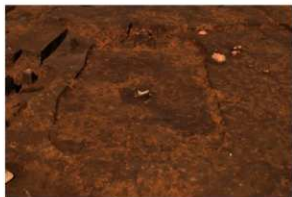
第132号住居跡カマド



第133号住居跡



第133号住居跡遺物出土状態



第134号住居跡



第134号住居跡遺物出土状態



第136号住居跡



第136号住居跡カマド



第136号住居跡遺物出土状態 (1)



第136号住居跡遺物出土状態 (2)



第137号住居跡



第137号住居跡カマド



第137号住居跡遺物出土状態



第137号住居跡床下土坑



第138号住居跡



第138号住居跡カマド



第139号住居跡



第139号住居跡カマド



第140号住居跡



第140号住居跡遺物出土状態



第141号住居跡



第141号住居跡遺物出土状態



第142号住居跡



第143号住居跡



第144号住居跡



第144号住居跡カマド



第145号住居跡



第145号住居跡カマド



第145号住居跡遺物出土状態（1）



第145号住居跡遺物出土状態（2）



第146号住居跡



第146号住居跡カマド



第147号住居跡



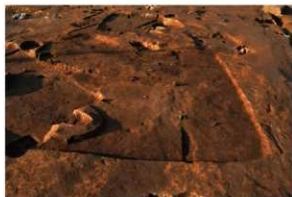
第147号住居跡カマド



第148号住居跡



第149号住居跡



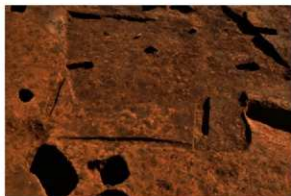
第149号住居跡遺物出土状態（1）



第149号住居跡遺物出土状態（2）



第150号住居跡



第151号住居跡



第152号住居跡



第152号住居跡カマド



第153号住居跡



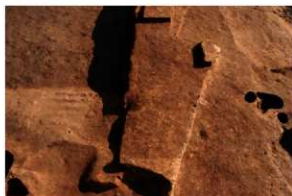
第153号住居跡カマド



第153号住居跡遺物出土状況(1)



第153号住居跡遺物出土状況(2)



第154号住居跡



第155号住居跡



第156号住居跡



第157号住居跡



第157号住居跡カマド



第158号住居跡



第159号住居跡



第159号住居跡カマド



第159号住居跡床下土坑 1



第159号住居跡床下土坑 1 土層断面図



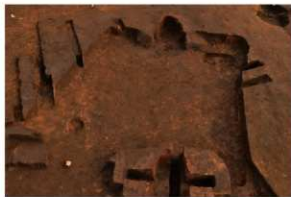
第159号住居跡床下土坑 2



第159号住居跡床下土坑 2 土層断面図



第160号住居跡



第161号住居跡



第161号住居跡カマド



第161号住居跡遺物出土状態



第162号住居跡



第162号住居跡カマド



第163号住居跡



第163号住居跡カマド



第163号住居跡遺物出土状態



第163号住居跡床下土坑1



第164号住居跡



第165号住居跡



第165号住居跡カマド



第165号住居跡遺物出土状態



第166号住居跡



第166号住居跡遺物出土状態



第167号住居跡



第168号住居跡



第169号住居跡



第169号住居跡カマド



第170号住居跡



第170号住居跡カマド



第2・3号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡



第11号掘立柱建物跡



第12号掘立柱建物跡



第13号掘立柱建物跡



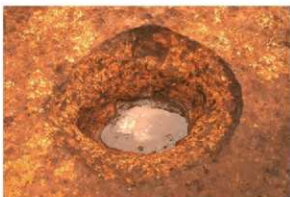
第14号掘立柱建物跡



第15号掘立柱建物跡



第10号井戸跡



第11号井戸跡



第12号井戸跡



第13号井尸迹



第13号井尸迹上层遗物出土状态



第14号井尸迹



第15号井尸迹



第16号井尸迹



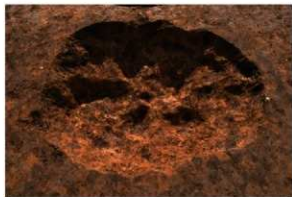
第17号井尸迹



第58号土坑



第59号土坑



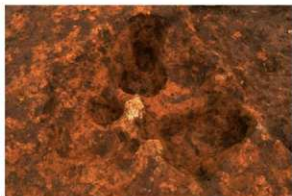
第60号土坑



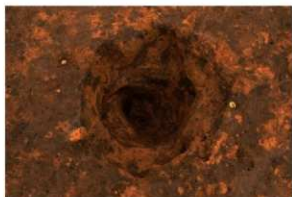
第65号土坑



第68号土坑



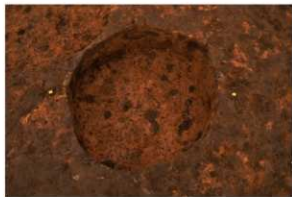
第69·70号土坑



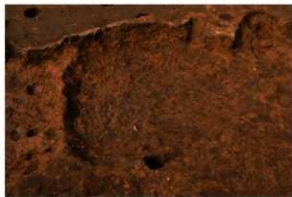
第71号土坑



第72~75号土坑



第73号土坑



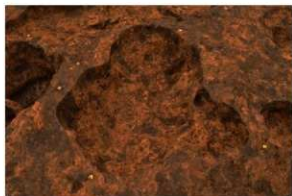
第76号土坑



第77号土坑



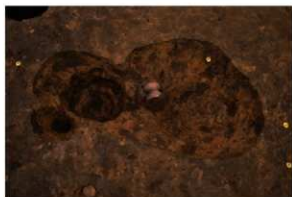
第82号土坑



第83号土坑



第85号土坑



第86号土坑



第87·88号土坑



第89号土坑



第91号土坑



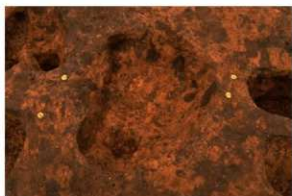
第92·93号土坑



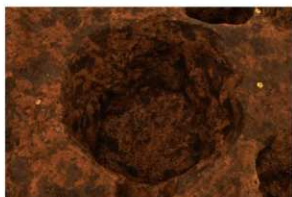
第97号土坑



第98号土坑



第100号土坑



第101号土坑



第102号土坑



第103号土坑



第111号土坑



第114号土坑



第116号土坑



第120·121号土坑



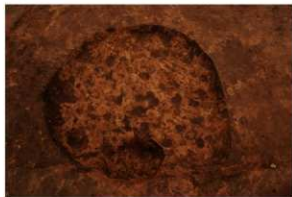
第125号土坑



126号土坑



第127号土坑



第128号土坑



第129号土坑



第131号土坑



第132号土坑



第133号土坑



第134号土坑



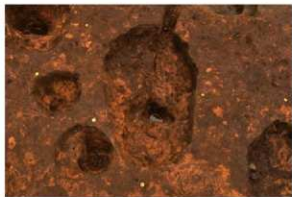
第138·139号土坑



第140号土坑



第141号土坑



第143号土坑



第144号土坑



第145号土坑



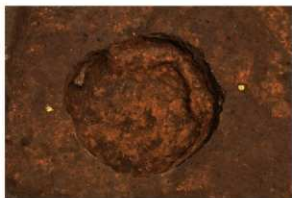
第147号土坑



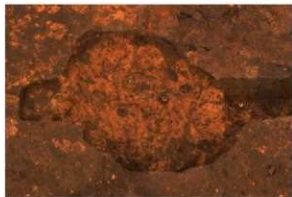
第151号土坑



第152号土坑



第153号土坑



第154号土坑



第155号土坑



第156号土坑



第157号土坑



第158号土坑



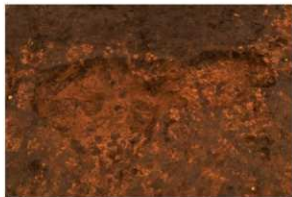
第159号土坑



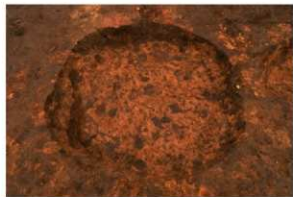
第160号土坑



第161号土坑



第162号土坑



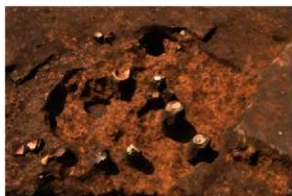
第163号土坑



第170号土坑



第171号土坑



第172号土坑



第173号土坑



第175号土坑



第177号土坑



第178·179号土坑



第183号土坑



第184号土坑



第185号土坑



第186号土坑



第188号土坑



第189号土坑



第190号土坑



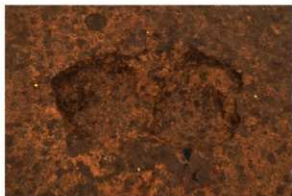
第191号土坑



第192号土坑



第193号土坑



第196号土坑



第198号土坑



第199号土坑



第200号土坑



第201号土坑



第202·203号土坑



第204号土坑



第205号土坑



第206号土坑



第207号土坑



第209号土坑



第210号土坑



第211号土坑



第213号土坑



第214号土坑



第215号土坑



第216号土坑



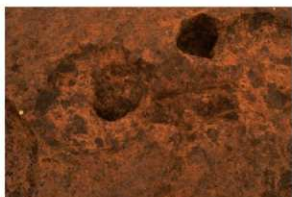
第217号土坑



第218号土坑



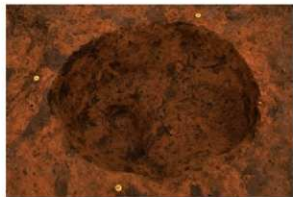
第219号土坑



第221号土坑



第222号土坑



第223号土坑



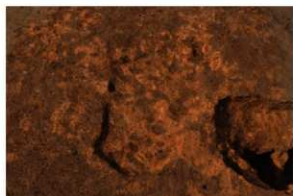
第227号土坑



第233号土坑



第236号土坑



第237号土坑



第239号土坑



第240号土坑



第241号土坑



第242号土坑



第244号土坑



第245号土坑



第246号土坑



第247号土坑



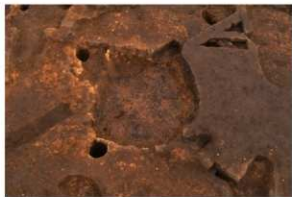
第248号土坑



第250号土坑



第252号土坑



第254号土坑



第255号土坑



第256号土坑



第257号土坑



第258号土坑



第259号土坑



第260号土坑



第261号土坑



第262号土坑



第262号土坑遗物出土状态



第267号土坑



第268号土坑



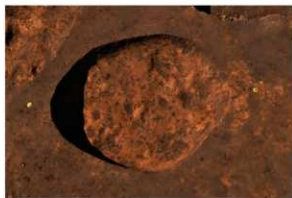
第269号土坑



第270号土坑



第271号土坑



第272号土坑



第273号土坑



第274号土坑



第276号土坑



第278号土坑



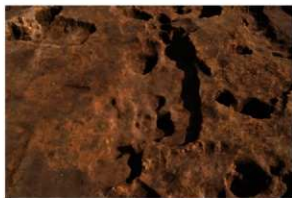
第279号土坑



第281号土坑



第282号土坑



第285·287号土坑



第286号土坑



第288~290号土坑



第292号土坑



第293号土坑



第294号土坑



第295号土坑



第296号土坑



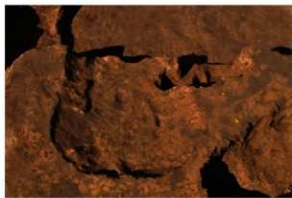
第297号土坑



第298号土坑



第299号土坑



第301号土坑



第302号土坑



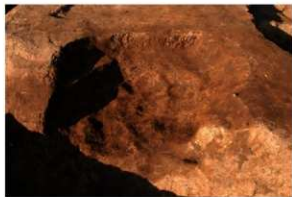
第303号土坑



第304号土坑



第309·310号土坑



311号土坑



第313~316号土坑



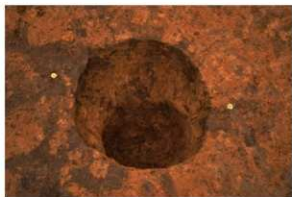
第317号土坑



第318号土坑



第320号土坑



第321号土坑



第322号土坑



第325~327号土坑



第331号土坑



第333号土坑



第335号土坑



第337号土坑



第338号土坑



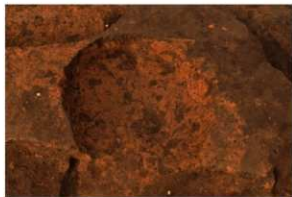
第340号土坑



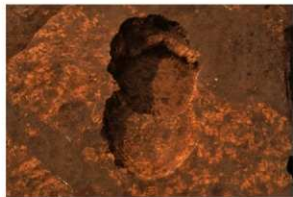
第341号土坑



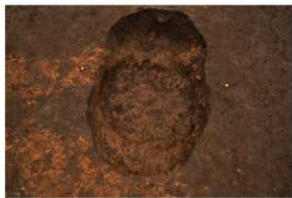
第342号土坑



第343号土坑



第346·347号土坑



第348号土坑



第349号土坑



第350号土坑



第351号土坑



第352号土坑



第353号土坑



第354号土坑



第355号土坑



第356号土坑



第357号土坑



第358号土坑



第361号土坑



第362号土坑



第363号土坑



第364号土坑



第365号土坑



第366号土坑



第367号土坑



第368号土坑



第369号土坑



第370号土坑



第371号土坑



久下前遺跡C 4 地点遠景（南から）



久下前遺跡C 4 地点遠景（北から）



C 4 地点東側調査区土坑群（南から）



C 4 地点東側調査区土坑群（西から）



第372号土坑



第373号土坑



第374号土坑



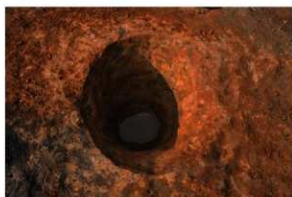
第375号土坑



第376号土坑



第377号土坑



第378号土坑



第380号土坑



第4号溝跡全景（北東から）



第4号溝跡（西側調査区）



第4号溝跡（東側調査区）



第4号溝跡遺物出土状態（東側調査区）



第6号溝跡（東側調査区）



河川跡全景（北東から）



河川跡全景（真上から）



河川跡西側調査区全景（真上から）



河川跡西側調査区全景（西から）



河川跡西側調査区土層断面



河川跡西側調査区遺物出土状態 (1)



河川跡西側調査区遺物出土状態 (2)



河川跡西側調査区流木(K)出土状態 (1)



河川跡西側調査区流木(K)出土状態 (2)



河川跡東側調査区全景（真上から）



河川跡東側調査区流木（A～J）出土状態



河川跡東側調査区土層断面（東端）



河川跡東側調査区土層断面（西端）



河川跡東側調査区遺物出土状態 (1)



河川跡東側調査区遺物出土状態 (2)



河川跡東側調査区遺物出土状態 (3)



河川跡東側調査区遺物出土状態 (4)



河川跡東側調査区遺物出土状態 (5)



河川跡東側調査区遺物出土状態 (6)



河川跡西側調査区水没状況



河川跡東側調査区水没状況



F 2 地点調査区全景 (西から)



第135号土坑



第39号溝跡 (東から)



第39号溝跡 (西から)



F 2 地点調査風景



F 3 地点調査区全景（北から）



第25号井戸跡



第444号土坑



第445号土坑



第446号土坑



C 2 地点住居跡・井戸跡・土坑・表土一括出土遺物

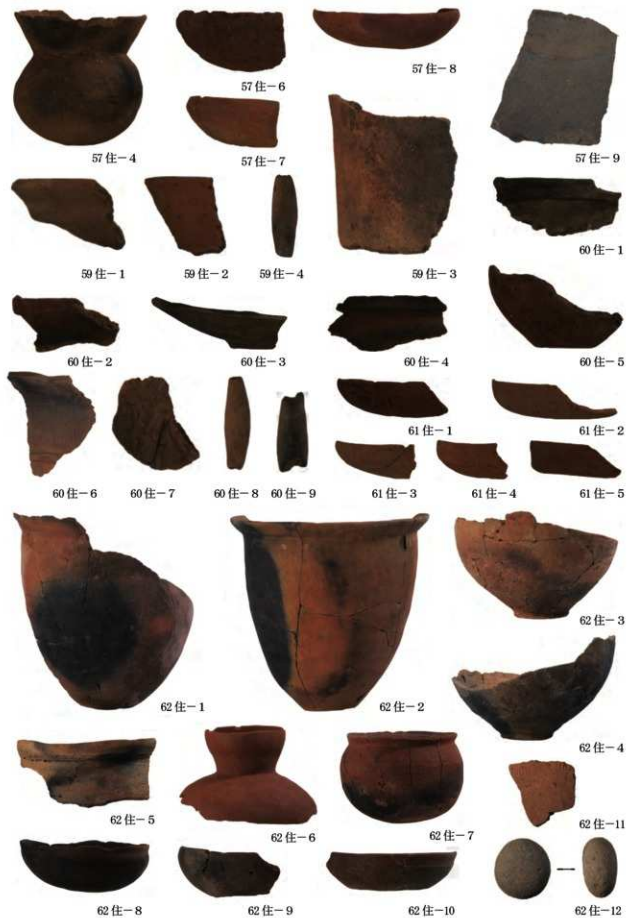


C 2 地点表土一括 · C 3 地点住居跡出土遺物





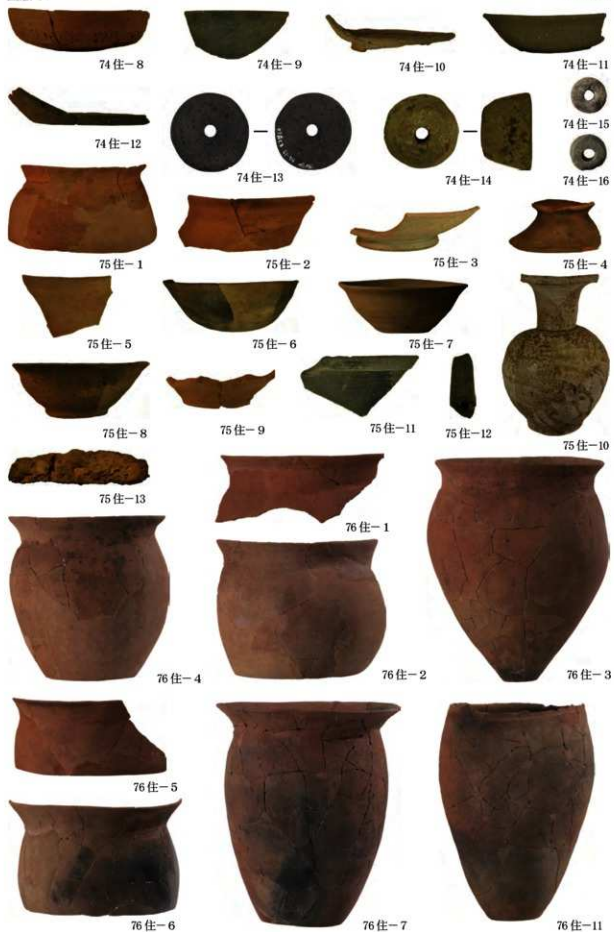
C 3 地点住居跡出土遺物







C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



77住-1



77住-2



77住-3



77住-4



77住-5



78住-1



78住-2



78住-3



78住-4



78住-5



78住-6



78住-7



78住-8



78住-9





83住-1



83住-2



83住-3



83住-5



83住-4



83住-8



83住-9



83住-10



83住-13



83住-14



83住-15



83住-17



C 3 地点住居跡出土遺物



85 住-1



85 住-2



85 住-3



85 住-4



85 住-5



85 住-6



85 住-7



85 住-8



85 住-9



85 住-10



85 住-11



85 住-12



85 住-13



85 住-14



85 住-15



85 住-16



85 住-17



85 住-18



85 住-19



85 住-20



85 住-21



85 住-22



85 住-24



85 住-23



C 3 地点住居跡出土遺物





C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



100 住-2



100 住-5



100 住-8



100 住-6



100 住-7



100 住-9



100 住-10



100 住-11



100 住-13



100 住-14



100 住-15



100 住-16



100 住-17



100 住-18



100 住-19



100 住-23



100 住-20



100 住-21



100 住-27



100 住-22



100 住-24



100 住-25



100 住-26



100 住-28



100 住-29



100 住-30



100 住-31



100 住-32



100 住-33



100 住-35





C 3 地点住居跡出土遺物





C 3 地点住居跡出土遺物



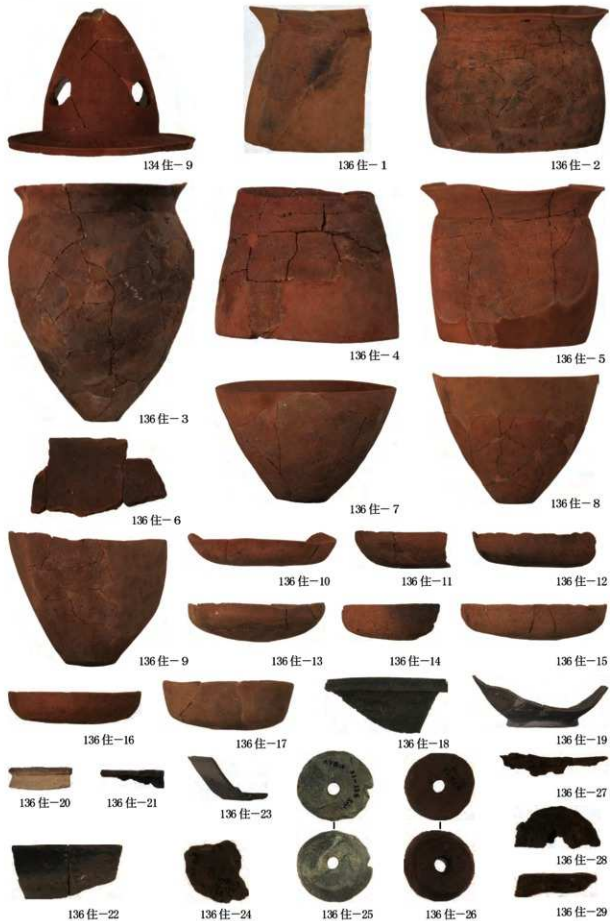




C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物



C 3 地点住居跡出土遺物

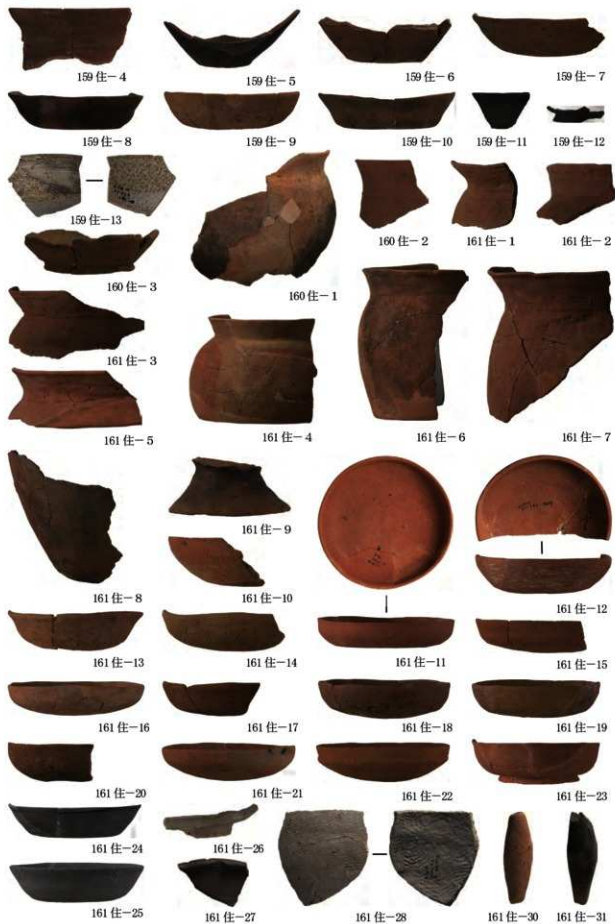


C 3 地点住居跡出土遺物









C 3 地点住居跡出土遺物





C 3 地点住居跡出土遺物



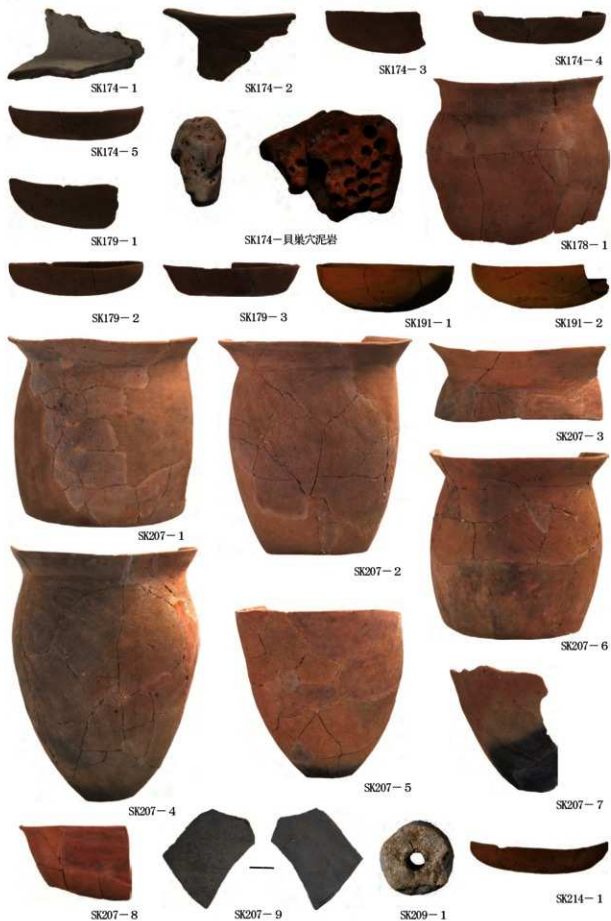




C 3 地点井戸跡・土坑出土遺物



C 3 地点土坑出土遺物



C 3 地点土坑出土遺物



C 3 地点土坑出土遺物





調査区内-16



調査区内-17



調査区内-18



調査区内-19



調査区内-20



調査区内-21



調査区内-22



調査区内-25



調査区内-23



調査区内-24



調査区内-26



調査区内-27



調査区内-28

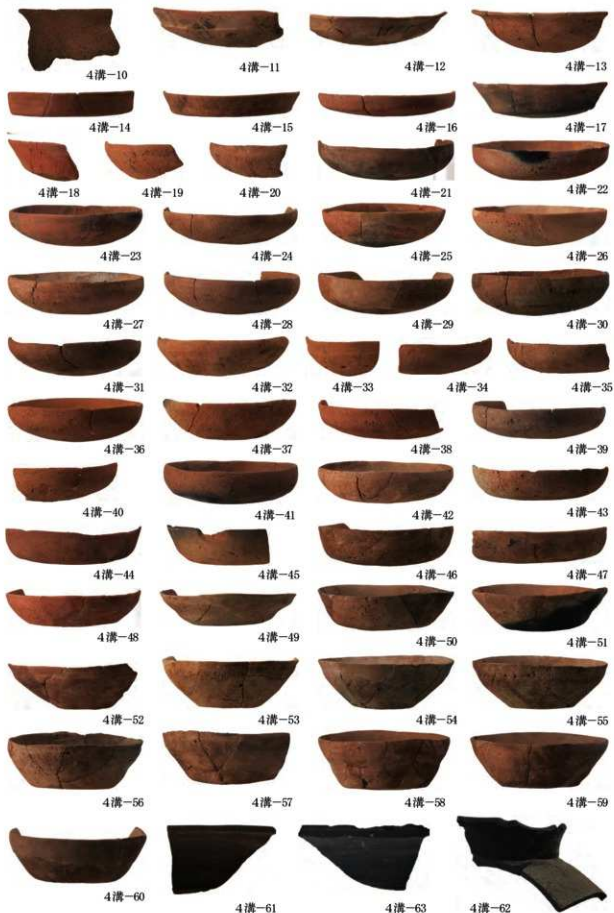


調査区内-30



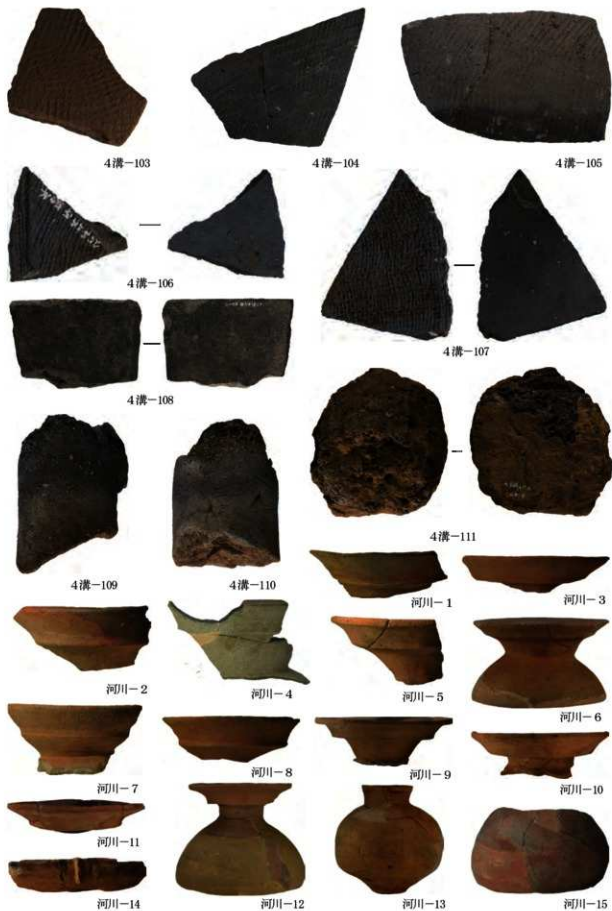
調査区内-29





C 4 地点溝出土遺物





C 4 地点溝・河川出土遺物



C 4 地点河川出土遺物



河川-39



河川-40



河川-41



河川-42



河川-43



河川-44



河川-45



河川-46



河川-47



河川-48



河川-49



河川-52



河川-50



河川-54



河川-55



C 4 地点河川出土遺物



河川-72



河川-73



河川-74



河川-75



河川-76



河川-77



河川-78



河川-79



河川-80



河川-81



河川-83



河川-84



河川-85



河川-86



河川-87



C 4 地点河川出土遺物



河川-112



河川-113



河川-116



河川-117



河川-119



河川-118



河川-120



河川-121



河川-122



河川-123



河川-124



河川-125



河川-127



河川-128



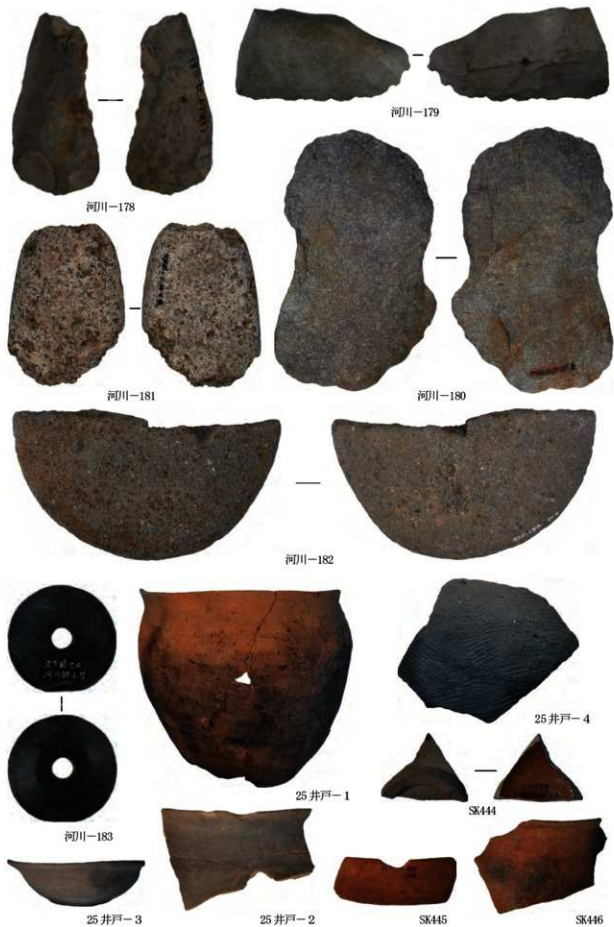
河川-129



C 4 地点河川出土遺物



C 4 地点河川出土遺物



C 4 地点河川、F 3 地点井戸・土坑出土遺物

報告書抄録

フリガナ	クゲマエイセキⅥ(C2・C3・C4・F2・F3チテン)							
書名	久下前遺跡Ⅵ(C2・C3・C4・F2・F3地点)							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第53集	
編著者	恋河内昭彦ほか							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2018年(平成30年)2月28日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (°'〃)	東経 (°'〃)	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡					
久下前C2地点	本庄市北堀1954	112119	53-064	36°13'18"	139°11'03"	20090603 ～ 20090618	154㎡	造成
久下前C3地点	本庄市北堀1951、 1952	112119	53-064	36°13'19"	139°11'01"	20090520 ～ 20091207	3776㎡	造成
久下前C4地点	本庄市北堀1969、 1970	112119	53-064	36°13'16"	139°11'00"	200906103 ～ 20091022	841㎡	造成
久下前F2地点	本庄市北堀1954	112119	53-064	36°13'17"	139°11'03"	20091208 ～ 20091217	61㎡	造成
久下前F3地点	本庄市北堀1784	112119	53-064	36°13'18"	139°11'04"	20091218 ～ 20090201	215㎡	造成
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久下前C2地点	集落	古墳後期	竪穴住居1		土師器、埴輪片			
	集落	白 鳳	竪穴住居1		土師器			
	集落	平 安	竪穴住居3、土坑9		土師器、須恵器、台石			
		中世以降	井戸1、土坑1		常滑窯系甕、かわらけ			
		不 明	土坑6					
久下前C3地点		縄 文			土器(勝坂式、加曾利EⅢ式、加曾利B式、大洞C1式段階)、石器(石鏃)			
		弥 生			土器(樽式、二軒屋式)			
	集落	古墳前期	竪穴住居29、土坑2		土師器、土鏃、土製品、鉄製品(板状)、石製品(管玉、白玉)			
	集落	古墳中期	竪穴住居10、土坑1		土師器、土製品、鉄製品(曲刃鏃、釘)、石製品(模造品、紡錘車、勾玉)			
	集落	古墳後期	竪穴住居28、土坑7		土師器、須恵器、埴輪、鉄製品(鏃、刀子)、銅製品(耳環)、石製品(砥石、勾玉、管玉、白玉、磨石)			
	集落	白 鳳	竪穴住居21、掘立柱建物2、土坑4		土師器、須恵器、土製品(紡錘車、土鏃)、石製品(砥石、白玉、磨石)			
	集落	奈 良	竪穴住居19、掘立柱建物5、井戸1、土坑11		土師器、須恵器、鉄製品(鏃、刀子)、銅製品(巡方、丸柄)、土製品(紡錘車、土鏃、羽口)、石製品(砥石、紡錘車、白玉)、			

	集落	平安	竪穴住居 12、掘立柱建物 1、井戸 5、土坑 21	土師器、須恵器、灰釉陶器、平瓦、土製品（紡錘車、土鍾）、石製品（砥石、紡錘車）、鉄製品（刀子、釘）、八稜鏡（破片）	
	屋敷	中世以降	掘立柱建物 6、柵列 2、井戸 1、火葬墓 2、土坑 6、溝 4	青磁碗（同安窰、龍泉窰）、国産陶器（常滑窰製品）、在地産土器（片口鉢、かわらけ）、瓦（平瓦）、銅製品（銭貨）	
		近世以降	土坑 1、溝 4	瀬戸美濃窰製品（飯事道具）、かわらけ、鉄製品（火打金）	
		不明	竪穴住居 2、土坑 238	国産陶器	
久下前C 4地点		縄文		土器（加曾利 E 1 式）、石器（打製石斧、削器、磨石・砥石）	
		弥生		土器（二軒屋式）	
		古墳前～中期	河川 1	土師器、石製紡錘車、大形砥石	
		奈良～平安	土坑 7、溝 1	土師器、須恵器、石製紡錘車、平瓦、羽口、椀型鉄滓	
久下前F 2地点	集落	平安	土坑 1	龍泉窰系青磁碗、平瓦	
		中世以降	溝 2		
久下前F 3地点	集落	平安	井戸 1、土坑 2	土師器	
		近世	土坑 1	瀬戸美濃窰製品（天目茶碗）	

本庄市埋蔵文化財調査報告書第53集

久下前遺跡 VI

(C2・C3・C4・F2・F3地点)

一本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10一

平成30年 2月 28日 印刷

平成30年 2月 28日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／山進社印刷株式会社

埼玉県本庄市本庄3丁目3番36号